

# 坂本遺跡

中村宿毛道路埋蔵文化財発掘調査報告書XIV

2008.3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県教育委員会



# 坂本遺跡

中村宿毛道路埋蔵文化財発掘調査報告書XIV

2008.3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター  
高知県教育委員会



## はじめに

四万十川と中筋川、川の流れは上流から下流へが通用しない川です。中筋川は本流の四万十川から大水の度に逆流現象が起き、堰止められ、平野を濁流の海と化します。四万十川は清流として親しまれる川、中筋川は泡沫<sup>うたかた</sup>が淀み敬遠される川、対照的です。

川的美観としては顧みられることのない中筋川ですが、肥沃な土壌が堆積し、高知県西部の最大の穀倉地帯となり、人々に多くの糧を齎してきました。

中筋川は「歴史の川」と言え、流域には多くの遺跡、中世の景観を残した地域です。

中筋川沿いに中村宿毛高規格道路建設が計画され、それに伴い発掘調査を二十年余りの長きにわたり行なってきました。具同中山遺跡群、船戸遺跡等々の規模内容共に県下有数の遺跡の調査を行ない、最後の調査が坂本遺跡となりました。坂本遺跡は中村宿毛高規格道路関連の最後を締めくくるにふさわしい遺跡でした。発見された中世寺院跡は小京都中村のかつての盛衰を語るにふさわしい遺跡です。

二十年余りにわたる調査は、多くの方々の協力なしでは成し遂げることのできない発掘調査でした。感謝。それに報いるためにも、今までの膨大な成果が泡沫とならず、活用されることを願って止みません。

## 例 言

1. 本書は平成17年度に実施した中村宿毛高規格道路建設に伴う高知県四万十市坂本に所在する坂本遺跡の発掘調査報告書である。
2. 高知県教育委員会から委託を受け、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが発掘調査及び報告書作成を行った。
3. 本書の編集は、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが行なった。  
編集実務は前田光雄((財)高知県文化財団埋蔵文化財センター)が行った。報告書作成、出土遺物等について、吉成承三(同)、筒井三菜(同)、川村慎也(四万十市教育委員会)から教示、協力を得た。本文執筆は「第Ⅳ章」を筒井三菜に執筆して頂いた。「第Ⅲ章樹種同定」を(財)大阪市文化財協会に委託した。その他は前田が執筆した。
4. 発掘調査は平成17年4月から平成18年3月迄行なった。発掘調査は坂本憲昭((財)高知県文化財団埋蔵文化財センター)が担当し、前田が補佐した。整理作業、報告書作成は平成18年4月から平成20年3月迄行い、前田が担当した。
5. 発掘調査および整理作業参加者は以下の通りである。また、国土交通省四国地方整備局中村工事事務所、四万十市、四万十市教育委員会、坂本地区住民等に発掘調査、整理作業では協力を頂いた。他にも多くの方々、諸機関からの協力、御教授を賜ったがここでは逐一、芳名をあげないが感謝したい。

### 発掘調査

森本勝一、有友実、宗崎重孝、野町和人、松田康平、布陽子、中山昭子、岡崎桂子、沖和子、岡上瑞恵、尾崎幸美、前田啓子、安光七重、浜田スズヨ、岡山則文、吉本道夫、細木靖生、麻田三子、加用静香、長崎竹美、滝本めぐみ、澤田竜祐

### 整理作業

〈遺物洗浄・注記・接合・補填〉門田美知子、吉本由佳  
〈遺物拓本〉門田美知子  
〈遺物実測・トレース〉山中美代子、土居初子、吉本由佳、東村知子  
〈遺構図・トレース〉山中美代子、東村知子、片岡和美  
〈遺物写真〉山中美代子、東村知子  
〈地検帳小字復元図〉岩崎佐枝

6. 本書に添付したCDは本報告書のPDF、また遺物観察表、遺構一覧表、写真等を収録している。
7. 遺跡の略記号は「05-3NSA」とした。資料、遺物、写真等は(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが一括保管をしている。

# 本文目次

はじめに/例言/本文目次

## 第Ⅰ章 遺跡の概要と調査経緯

第1節	坂本遺跡の概略	1
	遺跡の内容/中世寺院跡について/寺院跡の時代的背景/報告書の構成	
第2節	調査に至る経緯	3
第3節	調査経過	4
第4節	調査方法	5
	調査区の設定/グリッド設定/整理作業	
第5節	歴史・地理的景観	7
	中筋川流域の景観/一条教房の下向と幡多荘/一条家と香山寺/ 坂本村周辺の村々と長宗我部地検帳/坂本村検地	
第6節	周辺の遺跡	15
	中筋川流域の遺跡/中村宿毛高規格道路・河川改修工事に伴う発掘調査/香山寺を 取り巻く遺跡群	

## 第Ⅱ章 調査成果

第1節	概要	23
	調査区について/遺構・遺物について	
第2節	1A区	24
	1A土坑/1A柱穴/1A区遺物包含層出土遺物/1A区小結	
第3節	1B区	38
	1B柱穴/1B区遺物包含層出土遺物/1B区小結	
第4節	2A区	49
	2A区建物跡/2A石列跡/2A瓦溜り/2A柱穴/2A区遺物包含層出土遺物/2A区小結	
第5節	2B区	83
	2B大溝/2B土坑/2B柱穴/2B区遺物包含層出土遺物/2B区小結	
第6節	3A区	96
	3A区概要/瓦窯跡/石段状遺構/3A建物跡/3A塀跡/3A土坑/3A土器廃棄帯/ 3A区遺物包含層出土遺物/3A区小結	
第7節	3B区	159
	3B礎石建物跡/3B瓦溜り/3B土坑/3B柱穴/3B区遺物包含層出土遺物/3B区小結	

第8節	3C区	188
	基壇状遺構/3C柱穴/3C区遺物包含層出土遺物/3C区小結	
第9節	4区	212
	建物跡/4・5区通路状石列/4C杭列/柱穴/4区遺物包含層出土遺物/4区小結	
第10節	5区	233
	5A建物跡/5C石列/柱穴/5区遺物包含層出土遺物/5区小結	
第11節	大溝	245
	大溝SD1/大溝SD2/2B区SD1出土遺物/3C区SD1出土遺物/4C区SD1出土遺物/ 5C区SD1出土遺物/3・4B区SD2出土遺物/大溝小結	
<b>第Ⅲ章 樹種同定</b>		
第1節	高知県坂本遺跡出土木製遺物の樹種について	281
第2節	高知県坂本遺跡出土木製品の樹種同定	287
<b>第Ⅳ章 坂本遺跡の遺物と中筋川流域の中世集落</b>		
第1節	坂本遺跡出土の遺物について	291
	土師質土器/国内産陶器/貿易陶磁器/瓦質土器	
第2節	中筋川流域の中世集落と坂本遺跡	295
	中筋川流域の中世集落の概要と歴史的背景/坂本遺跡の様相	
報告書抄録		302
 写真図版		 303



## 第 I 章 遺跡の概要と調査経緯

### 第 1 節 坂本遺跡の概略

#### (1) 遺跡の内容

坂本遺跡は高知県西部の四万十市坂本に所在する。四万十川の下流域で支流の中筋川と合流する地点に位置する。主に14世紀から16世紀を中心とする遺構遺物が検出している。

検出した遺構は瓦窯3基、石段状遺構、基壇状遺構、大溝等である。出土遺物は14世紀から16世紀の輸入陶磁器類が多く、青磁、白磁、青花類である。この地域には輸入陶磁器が多く、周辺の遺跡からも同様の遺物群が出土している。坂本遺跡ではその中でも奢侈品も含まれており、一般集落遺跡とは趣を違えている。陶磁器類以外には土器類も多く、瓦器類では風炉等の茶道具類が含まれていた。



第1図 高知県位置図

出土遺物、検出遺構からして坂本遺跡は寺院関連遺跡であることが判明した。今回調査を行なった地点の小字が「中ノ坊」といまだに地元では言い伝えられており、また別の小谷も「坊の谷」と呼ばれていることからして、寺院関連遺跡であることの蓋然性が高い。

#### (2) 中世寺院跡について

坂本遺跡は河川際の谷部に位置し、背後には香山寺が控えている。香山寺はこの一帯の霊山と言われ、かつて七堂伽藍を誇ったとされるものの、ほとんどその内容位置付けはされてこなかった。

香山寺はかつて幡多郡で最も有力寺院である足摺岬の金剛福寺の末寺ではないかとされてきた。金剛福寺文書の中にも香山寺についての記事は散見でき、金剛福寺の「中興の祖」と崇められた南仏上人は坂本村の出身で金剛福寺の院主職を辞した後は香山寺で入寂したとされる。その後、南仏堂が香山寺の麓、坂本村に建立され、おそらく香山寺の里坊としての役割を担っていた可能性がある。

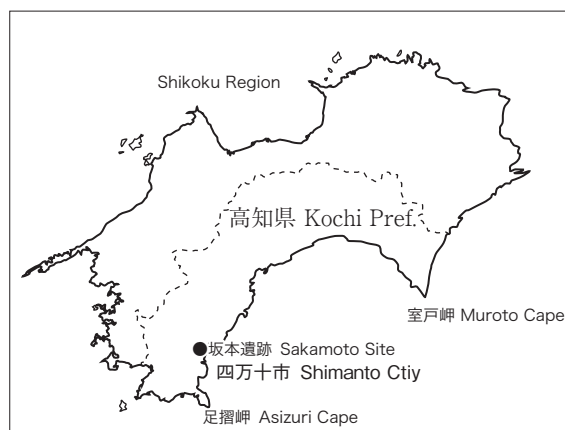
今回の調査で基壇状遺構、石列区画建物跡を検出しており、寺院関連の建物跡と考えられる。

それらの建物跡は南仏堂そのものか、または別の寺院跡、またはお堂かどうかは判然としていない。

### (3) 寺院跡の時代的背景

今回の調査で出土した遺物は大きく分けて、13世紀後半から14世紀、15世紀、15世紀後半から16世紀に分かれる。

13世紀は建長2年(1250)に幡多荘が九条家から一条家に譲られた時期である。正嘉2年(1258)には香山寺の寺領が4町となり、南仏上人が弘安年間金剛福寺の院主職を勤めている。15世紀後半は、応仁2年(1468)に一条教房が幡多荘に下向し、金剛福寺、香山寺を庇護する時期に当たる。一条家



第2図 四万十市位置図

はその後土佐一条家として土着化し、長宗我部との渡川合戦(天正3年1575)で滅びるまでの約100年間は幡多及びその周辺域に勢力を拡大していく時期に相当する。

坂本遺跡の最も栄えた時期は15世紀代であり、一条教房の幡多下向の前段階から一条家の治世の時期に相当する。一条家の後は長宗我部に庇護を受けた形跡はなく、長宗我部地検帳の段階(天正17年1589)の頃には、香山寺も衰亡の道を辿りつつある。

坂本村は足摺領(金剛福寺)に全て含まれており、長宗我部地検帳段階でも狭い村内には34軒ものヤシキが記述されており、通常の村落集落とは違った景観を呈していたようである。それはおそらく香山寺、今回見つかった寺院跡にあったものと考えられる。

### (4) 報告書の構成

本報告書は大きく分けて3部構成となっている。第I章では本遺跡は寺院関連遺跡であるところから、「第5節歴史・地理的景観」の中で時代背景を述べている。また「第6節周辺の遺跡」では調査原因である中村宿毛高規格道路関連の調査を取り上げ、周辺域の遺跡を概観できるように報告した。

第II章は本遺跡の成果を取り上げた。寺院の門跡の可能性のある大型柱痕が出土した2A区は「第4節2A区」、瓦窯、石段は3A区で「第6節3A区」、基壇状遺構は3C区で「第8節3C区」、4区の通路状遺構は「第9節4区」でそれぞれ取り上げた。また大溝については各調査区にまたがるものの、「第11節大溝」でまとめて報告した。図版類は遺構図、その後に遺物実測図、遺物観察表は各調査区ごとに最後にまとめている。

考察としては、第IV章で遺構、遺物についてまとめると共に、遺跡の位置付けを行った。

## 第2節 調査に至る経緯

高知県宿毛市と四万十市（旧中村市）を結ぶ中村宿毛高規格道路の計画路線が決まり、それに伴い埋蔵文化財の発掘調査が開始したのは、平成2年の四万十市森沢の船戸遺跡の試掘調査であった。路線は中筋平野の南側山嶺際を走り、多くの遺跡が連なる。宿毛市ではサンナミ、神ヶ谷窯跡、四万十市では具同中山遺跡群の巨大な複合遺跡を初め、また中世山城の久木ノ城跡、江ノ古城跡、ハナノシロ城跡、間城跡が調査対象となった。中村宿毛高規格道路は中筋川から本流の四万十川を跨ぎ四万十市不破までが路線区間となり、不破では近世の不破遺跡の調査が行なわれた。

坂本遺跡は中世の遺物分布地として既に遺跡台帳に搭載されている周知の遺跡で、国土交通省四国地方整備局中村工事事務所と高知県教育委員会は平成16年、最後の坂本地区の試掘調査を実施する協議を行なった。

平成16年に高知県教育委員会の委託を受け、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが坂本遺跡の試掘調査を実施した。中村宿毛高規格道路の本線及び工事用ヤードを調査対象として実施した結果、中世の陶磁器類、瓦等の遺物、また柱穴等の遺構を検出した。試掘調査の結果を踏まえて、高知県教育委員会は国土交通省四国地方整備局中村工事事務所と本格調査が必要であるとの協議を行ない、平成17年度に本格調査発掘を行なうことになった。



第3図 坂本遺跡位置図

### 第3節 調査経過

平成17年(2005)4月から下準備をし、平成17年5月10日(火)から現地に坂本憲昭専門調査員が入る。調査対象区の草刈り、樹木伐採、仮設事務所の設営を行なう。坂本地区工事進入道路部分の調査区1A区の設定及び表土掘削を5月31日(火)から開始。6月15日(水)からは2A区の表土も掘削を開始する。2A区からは柱痕等を検出する。

8月4日(木)、2A区の第1回目の航空写真撮影を行なう。2A区では狭い調査区ながら、大型の柱痕等を検出し、寺院跡関連と考えられ、8月21日(日)に一般住民を対象に現地説明会を行なう。朝から雨模様にもかかわらず、新聞等を見た見学者が50名程来跡する。8月10日(水)から2A区の上段3区の調査に着手、また4区にもトレンチを入れ、遺跡の状況把握を行なう。

9月1日(木)、2B区の調査開始。3A区で石段の検出。9月6日(火)、台風14号接近。9月8日(木)1区の調査終了。11月7日(月)、3A区で窯跡らしき遺構を検出する。中から瓦片多量に出土する。

11月26日(土)、3区で基壇状遺構、石段状遺構、瓦窯3基を確認し、2回目の現地説明会を行なう。100名程の見学者が参加する。11月30日(水)、四万十市教育長、教育委員長来跡。

12月3日(土)、2回目の航空測量。12月12日(月)、雪が現場に舞い始める。4区より更に奥の谷部にも遺跡は広がりそうな気配のため、調査区を広げ5区とする。翌日も雪。12月20日(火)、高知大学教育学部市村高男教授来跡。12月28日(水)、正月休みとなる。

平成18年1月4日(水)、正月明け、作業再び開始。住民より遺跡保存の要望が出始める。3区の下層で大溝を検出する。隣接して更にもう1条大溝を検出する。1月25日(水)、四万十市文化財保護審議会委員が来跡。1月26日(木)、4区でミニチュア舟形木製品が出土する。

2月1日(水)、四万十市澤田市長、教育委員会久保課長、川村主事が視察。四万十市と国土交通省四国地方整備局中村工事事務所と坂本遺跡について今後の保存問題等について協議する。2月11日(土)、3回目の航空測量。2月12日(日)、3回目の現地説明会、約60名の見学者が来跡。2月14日(火)、石段状遺構は調査区脇の坂本地区の共有地に地元の協力、賛同により移築保存を行なう。窯3基については、協議の上、現地保存。大溝2条については埋め戻しを行ない、工事によって遺構が破壊されないようにして埋め戻しを行なった。但し、大溝は工事による恒久構造物の下となっている。

2月28日(火)、仮設事務所撤去。残務整理。3月24日(金)、全ての現場での作業終了。

平成18年4月1日から本格的な整理作業を高知県南国市篠原の高知県埋蔵文化財センターで開始する。平成20年3月31日まで整理作業、報告書作成、残務業務を行なう。

## 第 4 節 調査方法

### (1) 調査区の設定 (第4図)

調査区は1区から5区まで設定した。1区は進入道路部分で、谷部の開口部の東側部に相当する。西側を1A区、東側を1B区とした。共にトレンチ状に細長い調査区である。2A区は谷部開口部前庭に当たり、平場に相当する。2B区は1区と同様に進入道路部分で、突き当たりの西側山際までである。3区から5区は谷部になり、奥に向かい段々のテラスになる。各調査区は便宜上現況の地割、石垣で調査区を区切った。2A区より順繰りに段が高くなる。

当初、試掘調査の成果を踏まえ、調査対象区は4区までとしていたものの、4区の調査が進展していく中で、谷部奥に向かって更に遺跡は広がることが判明し、調査対象区を拡張した。更に奥の部分にも平場が存在し、試掘を試みたものの、深さ5m余り迄深層調査を行なったが、遺物包含層は確認できなかった。

3区は調査面積が広く、調査の際、遺物包含層の確認を行なった南北トレンチで便宜上調査区を縦割りした。東側から3A区、3B区、3C区とした。4、5区についても同様に3区の縦割りの延長線上で区分を行なった。本報告書でも調査区の小区分を使って報告をする。

調査面積は以下の通りである。調査総面積は5,323㎡である。

1A区279㎡、1B区201㎡、2A区507㎡、2B区405㎡、3区2,553㎡、4区998㎡、5区380㎡

### (2) グリッド設定 (第4図)

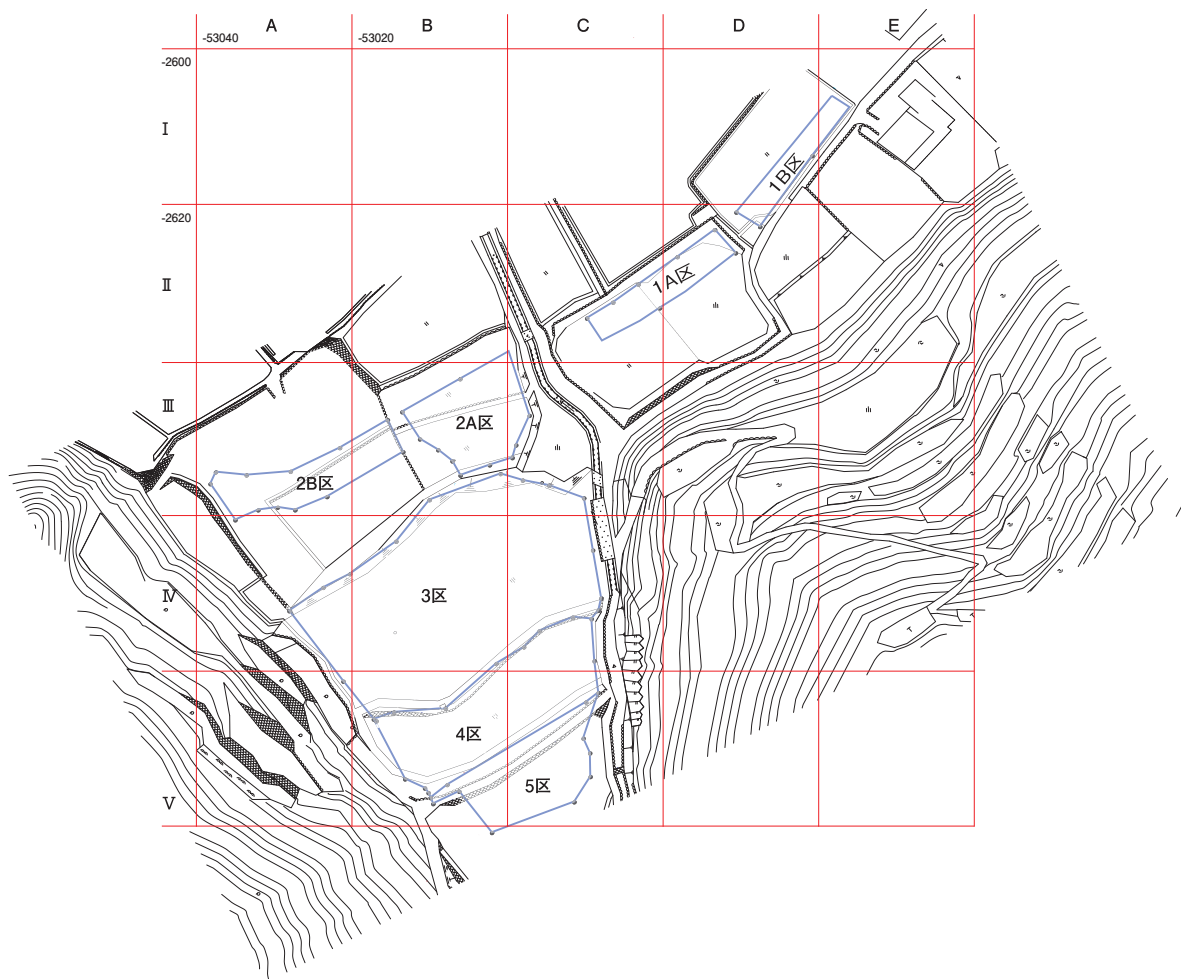
グリッドは現地では設けておらず、整理作業で従来のグリッドを設けていないのは極めて不便なため、図面上でグリッドを設定した。20×20mの大グリッドを設け、南北X軸縦方向列にⅠ、Ⅱ、Ⅲと呼称し、東西Y軸横方向列にA、B、Cとした。更に大グリッドを4×4mの小グリッド25区画に分け、北西隅から1、2、3と西から東へと列と呼称し、2列目は6～10迄小グリッドを設定した。報告書ではグリッド名の呼称はAⅠ1グリッドと言う具合にした。

グリッドは世界測地系公共座標、平面直角座標Ⅳ系番号に則っている。AⅠ1グリッドはX=-2600、Y=-53040で、北緯32°58'30.95348"、東経132°55'57.17502"、真北方向角+0°18'31.89"である。

### (3) 整理作業

現地での作業を終えた後、平成18年(2006)4月から平成20年(2008)3月迄の2ケ年に亘り、報告書作成に向けて整理作業を行なった。

平成18年度は遺物整理作業の基礎作業を行なった。遺物洗浄、注記、接合等である。遺物コンテナ箱約300箱で、遺物の種類別内訳は瓦約80箱、木製品約15箱、金属製品約5箱、土器類約200箱である。洗浄は7月で終え、その後注記作業、接合作業を行なった。遺物接合は主に土器類が多量に出土しており、それらの接合を行なった。



第4図 グリッド設定図

注記は遺跡略記号「05-3NSA」を冠し、次に調査区名、出土地点名（遺構名）・遺物包含層名、遺物取り上げ番号を記した。遺構名は土坑「SK」、溝「SD」、柱穴「P」、石列「Sレツ」、窯「カマ」、遺構覆土「マ」等の略記号を使用した。

基礎作業と並行して報告書掲載用の遺物抽出も併せて行なった。遺物実測を行なった点数は約2,350点で、土器類が最も多い。実測の終了したものから、遺物観察表の作成に取りかかり、デジタルデータ化した。その後、トレース、墨入れを行なった。遺物についてはデジタルカメラによる写真撮影を行なった。

遺構については航測図面、及び現地で手取りでの遺構測量図の2種類あり、航測図面は数回の校正を行ない、図化及びデジタル化した。現地での手取り図面は光波測量機器により座標値をデジタル化してあり、現地でそれをプリントアウトしたものに修正を加え、手書き図面とした。航測図面及び手書き図面を報告書掲載用に再トレースを行なった。

遺構、遺物実測のトレース後は仮図版作成を行ない、報告書全体のアウトラインを決め、本文執筆を行なった。平成19年10月から翌年1月まで本文執筆に取りかかり、執筆終了後、報告書レイアウトを行ない、完成原稿とした。

## 第5節 歴史・地理的景観

### (1) 中筋川流域の景観

四万十市（旧中村市）を含む高知県西部は幡多と呼ばれ、高知中央部の土佐とは風土・文化等が相違すると言われる。四万十市は平成10年4月10日に中村市と西土佐町とが平成の合併を行ない、四万十市となっている。四万十市は渡川（四万十川）の中流から下流域の広域を含む。

中村宿毛高規格道路は宿毛市平田から四万十市間の中筋川に沿うように建設されている。中筋川は中筋地溝帯と呼ばれる平野部を緩やかに流れている。南側と北側の山嶺から多くの小河川が中筋川に集まり、本遺跡の坂本で本流の渡川と更に合流する。

渡川と中筋川は景観を違えており、渡川は広い河原を形成しているものの、中筋川は中流から下流域は比高差が少なく、緩やかな流れだが、ひとたび大雨が降ると景色が一変する。本流の渡川が氾濫するたびに、支流の中筋川には逆流現象が起り、中筋川一帯は濁流となり、田畑は冠水することが度々であった。中筋川は治水との戦いで、今では中筋川の河口は本流の河口近くにまで付け替えられ、また蛇行していた流路の付け替え、築堤が行なわれている。

しかしながら、上流から運ばれてきた土壌により肥沃な平野を形成し、洪水に見舞われながらも幡多郡では最大の穀倉地帯となっている。中筋川流域は古代から幡多郡の農業生産の中心地となり、歴史的景観を育んできた。

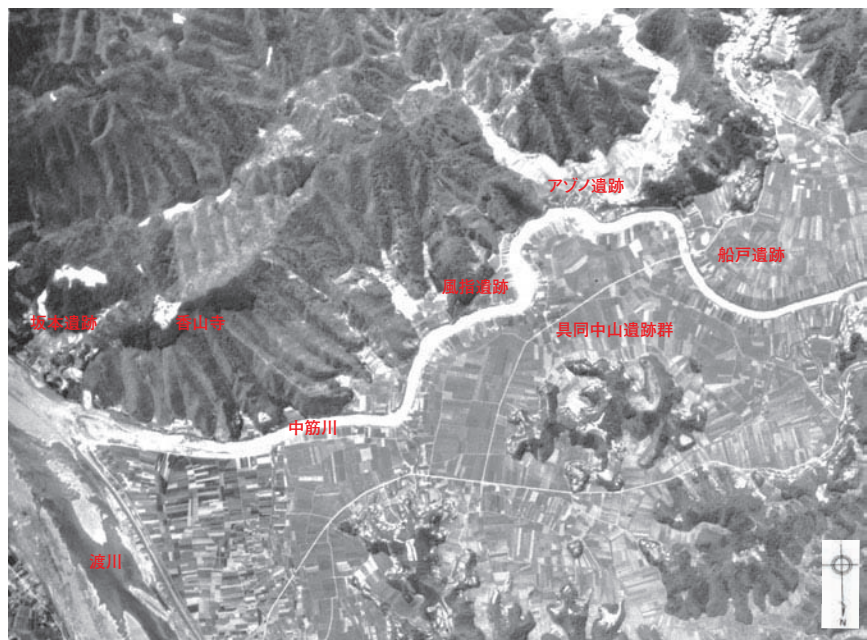
古くは縄文時代から古墳時代、奈良平安時代、一条氏の中世を経て現代へと地域史の宝庫となっ



中筋平野



冠水した中筋平野



米国航空撮影

ている。中村宿毛高規格道路建設に先立ち平成4年から平成17年までの長きに亘り、遺跡調査が行われてきた。中村宿毛高規格道路はちょうど「歴史の川」である中筋川を沿うように走っている。

## (2) 一条教房の下向と幡多荘

旧中村地域は小京都と呼ばれ、幡多地域の中でも独自の文化を育てて来た。その背景には中世の時期に応仁の乱を避けて下向してきた摂関家一条家の治世に寄るところが大きい。中世幡多荘は九条家から分家の一条家に譲られ(建長2年1250)、前関白一条教房(1423～1480)が応仁2年(1468)に家領の回復もあり下向してくる。

幡多荘に下向してきた一条家は戦国大名化し、渡川合戦(天正3年1575)で長宗我部に敗れるまで、幡多全域、近隣に勢力を拡大した。

坂本遺跡の存続時期は13世紀後半、14世紀から15世紀、15世紀後半、16世紀の時期に大きく分かかれ、最盛期は14世紀から15世紀である。後半期はちょうど、一条家が土着化し土佐一条家と変貌を遂げる時期と軌を一にしている。

一条家の家領幡多荘は九条家から譲り受けるものの、戦国期には在地土豪に侵入され、応仁の乱を切っ掛けに一条教房は幡多荘の再興の為に下向してくる。通説では教房は応仁の乱を避けて京から逃げ延びるように下向したとされるものの、最近では明貿易南海航路の利権と知行回復のためとも言われている。また明貿易南海航路の掌握以外にも木材の搬出のためと考えられている。一条家は幡多荘から離れた高岡郡中土佐町の久礼別府も押さえ、木材資源の掌握と考えられており、同様に幡多の地でもいくつかの「久礼」の地名(入田久礼場、三原久礼の川、久礼広)を拾い出すことができ、また「木ノ津」(船所職?)の川湊名、「舟戸」地名を多く拾いだすことができ、渡川河口の下田は明貿易の寄港地であると同時に木材積出港でもあったと言われる。遺跡出土遺物からみると、渡川を中心とする幡多は輸入陶磁器が多く、特に中筋川沿いの具同中山遺跡群周辺域は突出しており、一条家の明貿易に因むものと考えられる。



一条神社大祭

## (3) 一条家と香山寺

### ①香山寺と金剛福寺

宗教面から一条家と幡多の関わりを見ていくと、一条家および本家の九条家の時代より土佐清水市の現在の四国霊場38番札所金剛福寺を篤く庇護していた。一条家の下向以降は土佐でも最大の300町の寺領を有する寺となる。度々火災に遭いながらも、その都度再興され、暦応5年(1342)に観音菩薩立像を前関白太政大臣藤原朝臣(一条経通)が寄進したことが最近判明している。金剛福寺は嵯峨



香山寺と坂本遺跡



天皇の勅により弘仁年間(810年)に空海の開基によるとされている。金剛福寺は幡多地域に多くの寺領を有しており、本遺跡の所在する坂本村も含まれている。

坂本遺跡の上にある香山寺と金剛福寺は深い関係にあり、金剛福寺文書には香山寺についての記述が幾つか認められる。香山寺は金剛福寺の末寺と考えられ、金剛福寺文書には嘉禎3年(1237)「法橋、田三町寄進」したと見え、香山寺の記述に関して最も古いものとなっている。香山寺は「観世音利生之道場御庄中無双之霊地也所学者一乗円宗之教迹薰修惟舊所祈者天長地久之御願懇祈」となっており、また金剛福寺と同様に一条家の帰依を受けていた。

おそらく、一条家は金剛福寺を通じて、荘園の経営に関与さしめたと考えられ、香山寺も幡多荘本郷に深く関わったと考えられる。



香山寺



金剛福寺

## ②南仏堂

正慶4年(1335)に香山寺寺領の内四町が南仏堂の作分となっており、香山寺寺領の経営は南仏堂が実質行なっていたと考えられる。南仏堂とは坂本村出身の南仏上人を祀ったお堂のことで、南仏上人は金剛福寺の院主職を弘安年間に勤め、中興の祖として崇められた僧で、正応元年(1288)迄院主職を勤めた後、香山寺に帰り入寂したとされる。

今回調査を行なった坂本遺跡は香山寺の麓に位置し、南仏堂か現在の遺跡の小字は「中ノ坊」となっており、香山寺の一部の可能性が考えられる。

南仏堂と香山寺の関係は、南仏堂は香山寺の里坊で、標高221メートルの香山寺は山岳寺院の関係にあったと考えられる。

渡川合戦後の長宗我部地検帳では南仏堂の記述は見当たらず、山頂の香山寺も「高山寺 一所四間四方ノ堂 本尊観音」とかつては七堂伽藍を誇ったとされるものの、地検帳段階では衰亡の道を辿りつつあった。

江戸時代の『南路志』には南仏堂について「本尊南仏上人 弘安正応年間足摺山住持忠義和尚也」との記述が見られ、元禄2年(1669)に退転している。現在は南仏堂本尊「南仏上人座像」は県文化財に指定され、幡多郷土資料館に保管



皇子神社と南仏堂(?)



南仏上人座像

表1 坂本遺跡関連年号

世紀	坂本遺跡消長	年	元号	人物、事物	事項	補足	参考文献
9世紀 平安時代		810	弘仁	足摺岬金剛福寺	嵯峨天皇の勅で空海が創建	本尊千手観音、蹠陀山補陀落院	
13世紀前半 鎌倉時代	⋮	1237	嘉禎3	香山寺	法橋、田3町寄進	空海の開山の伝え。本尊十一面観音、南見山高寿院補陀洛山、一条家の帰依を受けていた。	金剛福寺文書
	⋮	1250	建長2	幡多荘	九条道家から一条家に譲る		
13世紀後半	⋮	1258	正嘉2	香山寺	寺領4町	足摺金剛福寺の末寺か	金剛福寺文書
	⋮	1267	文永4	金剛福寺	再建	一条家の庇護	
	⋮	1280頃	弘安年間	南仏上人	金剛福寺の院主職。中興の祖として活躍。1288年まで院主職を勤める。	坂本村出身。最後は香山寺に帰り、入寂。	
	⋮	1280頃	弘安、正応	南仏堂	「本尊南仏上人 弘安正応年間足摺山住持忠義和尚也」		南路志
	⋮	1289	正応2	香山寺	寺領5町4段		金剛福寺文書
	⋮	1291	正応4	大方の観音さん	大方飯積寺十一面観音	香山寺と兄弟寺で喧嘩別れして、大方に移ったとの伝承	
14世紀前半	⋮	1322	元亨2	藤原国次	人物不詳。香山寺参道に線刻、元亨二年正月十一日		
室町時代、南北朝	⋮	1335	正慶4	香山寺、南仏堂	香山寺寺領の4町を南仏堂が作分		金剛福寺文書
15世紀前半	⋮	1423	応永29	一条教房	生存年間1423～1480年		
15世紀後半 戦国時代	⋮	1468	応仁2	一条教房	幡多荘に下向		
	⋮	1484	文明16	一条房家	足摺金剛福寺に移る	一条家の全盛期には足摺金剛福寺領は300町となる。	
16世紀前半	⋮						
16世紀後半 安土桃山時代	⋮	1575	天正3	渡川の戦い	一条兼定と長宗我部元親、一条家没落		
	⋮	1589	天正17	長宗我部檢地	長宗我部地檢帳	坂本村は足摺金剛福寺領、坂本遺跡の寺名は不明。所在地は「□ノ坊」か(□は欠字)。	
17世紀後半 江戸時代	⋮	1669	元禄2	南仏堂	退転。「香山寺八丁麓二一ノ王子ト並勸請 元禄二年退転」		南路志
	⋮	1634	寛永11	香山寺	「忠義公御造立之節御再興之棟札有」		南路志
18世紀後半	⋮	1707	宝永4	香山寺	退転。		南路志
	⋮						

展示されている。

退転後も南仏堂は小さなお堂として、地元で祀られていたらしく、戦後間もない頃は坂本遺跡側の皇子山の端にあったと考えられ、小さなお堂跡の礎石跡、瓦が今でも散在している。今は坂本遺跡の向かい側、香山寺参道入口脇の皇子神社境内に、寄せ集められた五輪塔と共に、小さなお堂が祀られており、地元での聞き取りでも由来ははっきりしないものの、南仏堂と考えられる。

一条家の庇護を受けた金剛福寺と香山寺・南仏堂は不可分の関係にあった。坂本遺跡の遡源は南仏上人の時代から始まるものの、単なる霊場、信仰の場から一条家の下向を契機として、金剛福寺の観音信仰を総本山とする配下の元、交通の要衝を占め、現世的な寺領経営、幡多本郷の荘園経営の一翼を担う姿に変貌を遂げたと考えられる。単なる惣寺ではなく、中世地方の郷の中心的な有力寺院のあり方の例と捉えることができようか。

### ③補陀落渡海と観音信仰

金剛福寺は蹉跎山補陀落院と号し、本尊は千手観音である。金剛福寺は中世に栄えた補陀落信仰のメッカであることはよく知られている。香山寺は南見山高寿院補陀落山と号し、本尊は十一面観音である。金剛福寺と同様に香山寺は観音信仰である「補陀落」山と号し、幡多地域は金剛福寺を頂点とする観音信仰が広まっており、中村近辺では香山寺、古津賀の観音寺、大方町（現黒潮町）田野浦の飯積寺が3観音さんと呼ばれた。また石見寺も昔日は補陀落派に属したと言われ、更に標高1,065mの高峰篠山の観世音寺等幾つもの観音が知られている。これらの観音は当初、補陀落信仰で眺望の利く海岸沿いにあったものが、中世の段階になり、水運の要衝、交通の結節点にまで広まったと考えられる。

坂本遺跡では長さ30cmの小さな木製舟が出土しており、祭祀に使われたと考えられる。渡川（四万十川）中流域では今も藁船で御霊送りを行なっている民俗例もあり、また下田港の対岸初崎の港柱神社では航海安全を祈願し、ミニチュア舟を奉納するなどの民俗事例が認められている。それ以外に観音信仰に基づく補陀落渡海の舟、弘誓の船を形取った可能性も考えられる。

## (4) 坂本村周辺の村々と長宗我部地検帳

### ①周辺の山城、神社、寺院

土佐一条は長宗我部との渡川合戦（天正3年1575）で敗北する。長宗我部は天正17年（1589）に坂本村の検地を行ない、周辺の村々にも同様に検地を行なっている。地検帳で見られる小字が今でも残存し、当時の変貌期の様子を見てみる。坂本遺跡の背後の山岳寺院香山寺の麓を大きく分けて南側に山路村、東側に坂本村、西側に森沢村が3つの村が取り巻いている。

各村の中世の山城、神社、寺院を見ていくと、山路村では今城（山路城跡）、サラガミネ城跡、曾我の宮（曾我神社）、王子神社、白王宮（白皇神社）、アナサカ寺、普門院、本仏寺（観音寺）、西光寺、如意庵寺、坂本村では皇子山城跡、王子神社、南仏堂、蓮華寺、森沢村では城山（森沢城跡、森沢北城跡）、天王（八坂神社）、仁井田神社、シヨウリアン、正田寺、徳定寺、前住寺、能仁寺、養西寺、ゼンケンアンが長宗我部地検帳等で知ることができる。

山城では山路城跡が飛び抜けて規模が大きく、次いで森沢城跡となっている。この2つの山城は地検帳にも記されており、他のものは後世の踏査で判明したものである。各々の村の城主は山路が山路氏、森沢は森沢氏と考えられ、坂本村の皇子山城跡の城主は不明である。

山路村では長宗我部検地以前は大部分が山路氏の支配下にあったものの、その後、光富氏等に給されている。寺領は、足摺領(金剛福寺)が若干認められるが、山路氏から寄進されたものと考えられ、地検帳にその旨が記されている。それ以外に寺領としては、地元の本仏寺、高山寺(香山寺)、遠隔地の大平寺(太平寺)の寺名が見える。山路村ではそれ以外に舟戸屋敷、カワラヤシキ(瓦屋敷)、大工ヤシキ、鍛冶ヤシキの名前が見える。

森沢村では検地以前は森沢氏、浦田氏の支配下から、他のものに移る。寺領としては、足摺領は山路村より若干多い。地元の寺以外に、石見寺領が目立っている。

寺院は現在でもその名残を知ることができるものは山路村の本仏寺と森沢村の能仁寺の2寺のみとなっている。本仏寺、能仁寺ともに谷間に造られており、本遺跡と比較的立地条件が似通っているようである。森沢村にはお寺が多く、小村毎に惣寺が建てられていたようである。

坂本村に隣接する山路村、森沢村の中世の景観は山城、神社、寺院の三つのセットで成り立っていた。更に三村共に「舟戸ヤシキ」が数軒あり、水運、渡し関連のヤシキと考えられる。舟戸ヤシキについては、中筋川流域の村々には水運に絡んで舟戸ヤシキが設けられていたようで、地検帳でいくつもの「舟戸ヤシキ」を拾い出すことができ、「舟戸ヤシキ」を加えた四つのセットで村々が成り立っていたようである。

共に言えるのは山城を持った有力者を中心とした村落共同体で、森沢村は純然たる農村共同体でやや舟戸関連が強く出ているようである。山路村は農村共同体に鍛冶屋敷等を持つことから自主独立的な様相を持つようである。

## ②坂本村と足摺領

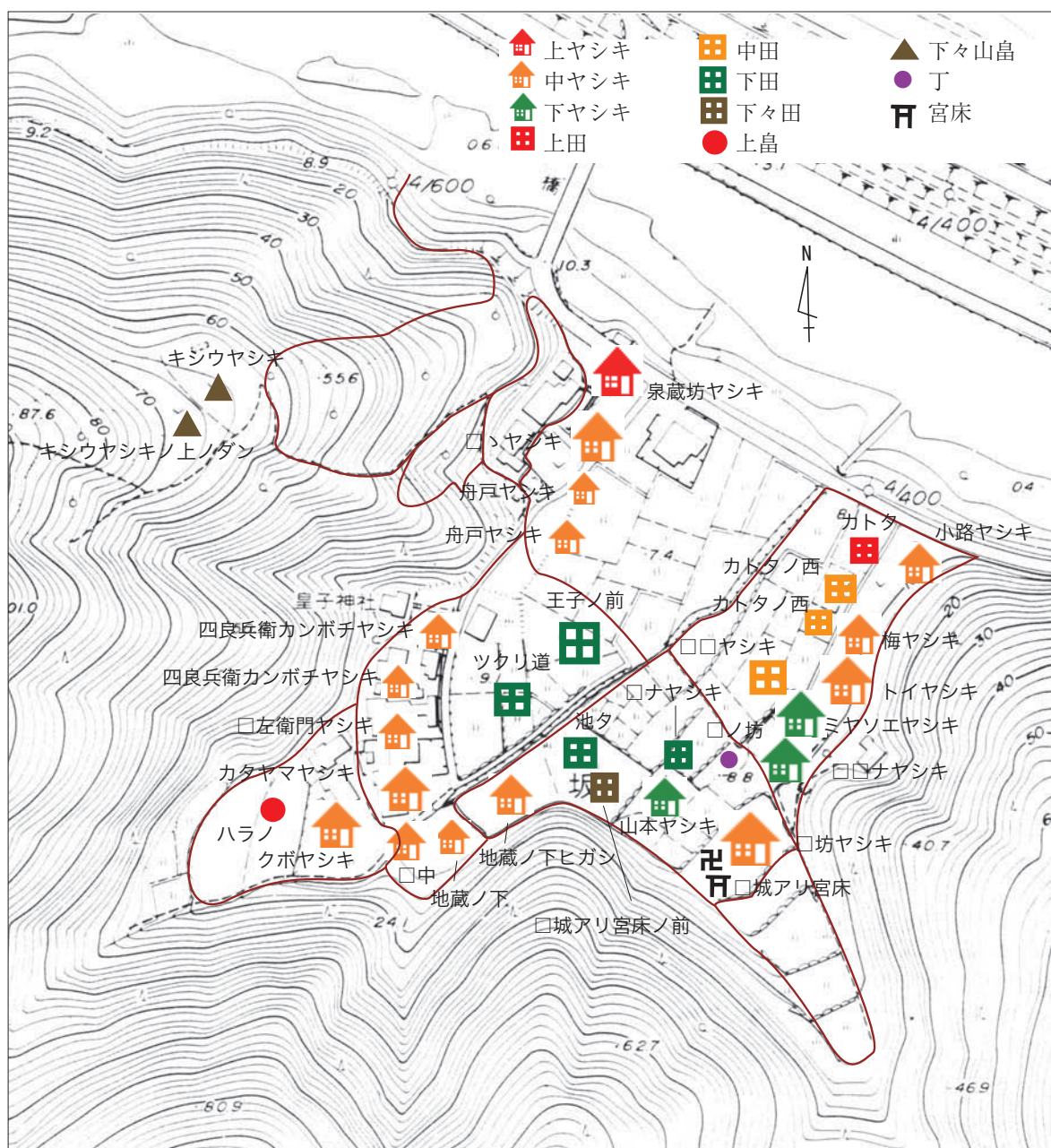
坂本村が山路村、森沢村と相違する点は、狭い地区に34軒もの「ヤシキ」があったことである。また「ヤシキ」の中には「□ワラケヤシキ」とあり、「かわらけ」屋敷と考えられ、土器作り職人、または土器等の焼き物を取り扱う屋敷が存在していたと考えられる。そればかりではなく、他の村と大きな相違点は、坂本村全てが「足摺領」となっていた点である。山路村、森沢村にも「足摺領」は散見できるものの、極僅かであり、それらについては寄進系寺領と考えられる。坂本村が金剛福寺領に全て含まれることは取りも直さず坂本村全体が金剛福寺の直轄寺領となっていたことを意味するものであろう。坂本村は周辺域の農村景観とは趣を違えた存在であったこと、山城の有力者を中心とした紐帯で成り立っている一般的な村落共同体と違った要因は、今回の調査で判明した寺院跡にあったと考えられる。

地検帳では「□ノ坊」(□は欠字)と言う小字が残っており、またすぐ近くに「□坊ヤシキ五旦懸テ」に堂床寺中とありこれが今回の調査で見つかった遺跡の可能性はある。しかし具体的な名前は書かれていない。



山寺籠屋敷」、「泉蔵坊ヤシキ」となり、「泉蔵坊ヤシキ」は「玉蔵坊□」（□は居か）となっており、坂本村では唯一の「上ヤシキ」である。「□ノ坊」は「貳代 出貳代 丁」となっており、「丁」の意味が判然としないものの、「丁字路」に通じるものか。

ヤシキ数は下々ヤシキ1軒、下ヤシキ6軒、中ヤシキ26軒、上ヤシキ1軒で、総ヤシキ数は34軒であり、極めて多い。その割には田は9枚、畠は15枚と少なく、検地面積1町7反余の内、屋敷が1町2反余を占め、残り僅か5反に満たない分が田畠である。田畠が少ないにも関わらず、屋敷数が多く、また全てが足摺領（金剛福寺）となっているのが坂本村の特徴である。



第5図 坂本村検地復元図

## 第6節 周辺の遺跡

昭和から平成にかけて、中筋川を中心として行政的に遺跡の調査が行なわれ始め、河川改修工事関連、中村宿毛高規格道路関連の調査が継続的に行なわれた。調査の大部分は具同中山遺跡群であった。具同中山遺跡群は幡多郡ばかりではなく、規模からして高知県下でも有数の遺跡となっている。ここでは主に河川改修工事関連、中村宿毛高規格道路関連での調査遺跡、坂本遺跡周辺の遺跡を取り上げる。

### (1) 中筋川流域の遺跡

中筋川は隣村の三原村に源を発し、宿毛市平田から中筋平野を蛇行して本遺跡の坂本で本流の渡川に合流する。流域沿いには極めて遺跡は多く、旧石器時代を除く他の時代の全てが出揃っている。

縄文時代は点在するように分布し、最も多いのは下流域の船戸遺跡で後期後半の遺物群が纏まって出土している。晩期は具同中山遺跡群で若干出土例が認められる。

弥生時代になると西ノ谷遺跡で下城式が出土し、注目を浴びている。後期では低位丘陵部に集落は営まれる事例があり、久木ノ城跡で竪穴住居跡を検出している。具同中山遺跡群の中の小字「石丸」で銅矛が出土しているが、青銅器は極めて少ないのが特徴である。

古墳時代は宿毛市平田地区で曾我山古墳、高岡山古墳群の前中期古墳があり、後期古墳は中筋川流域では見つかっていない。しかしながら具同中山遺跡群では5世紀から6世紀にかけて、川辺の祭祀跡が多数見つかっている。また、竪穴住居跡も中筋川流域の微高地に検出され始めている。しかし、川辺の祭祀跡からして、集落の検出数は少なすぎると言わざるを得ない。

古代でもやはり具同中山遺跡群が中心となっており、遺構数は少ないものの、巡方等の遺物が出土し、中筋川の対岸の風指・アゾノ遺跡でも古代の遺構遺物を検出しており、一帯が幡多郡の中心的役割を担っていた。中世集落については後述する。



中筋川流域の既刊報告書

### (2) 中村宿毛高規格道路・河川改修工事に伴う発掘調査(表2)

#### ①中筋川河川改修工事に伴う発掘調査

具同中山遺跡群は以前から古墳時代の遺物が採集できることで知られていた。中筋川の治水のために河原の切り下げ工事による埋蔵文化財調査が昭和61年(1986)に神ノ木・ボケ地区の具同中山遺跡群、対岸の森沢風指地区の風指遺跡・アゾノ遺跡の発掘調査が昭和63年(1988)に行なわれた。具同中山遺跡群では古墳時代祭祀跡、風指・アゾノ遺跡では古代、中世の集落跡を検出している。風指遺跡では古代の遺物が多く、緑釉陶器、須恵器、土師器等が出土しており、9世紀から10世紀

の時期に含まれる。アヅノ遺跡では11世紀から12世紀の時期、及び輸入陶磁器、瓦器類が出土しており、存続期間は長く、13世紀から15世紀後半頃の遺物も出土している。

具同中山遺跡群は引き続き平成元年から平成3年（1989～1991）に河川改修工事に伴う調査を行ない、古墳時代祭祀跡及び古代、中世の集落跡を検出している。古代では巡方、中世では輸入陶磁器類、瓦器、土器類等極めて遺物量は多い。遺構は掘立柱建物跡29棟を検出しており、13世紀、15世紀から16世紀に含まれるものである。それ以外に集石墓を25基検出している。14世紀から15世紀のものである。16世紀代にも集落は若干営まれていたようである。

## ②中村宿毛高規格道路に伴う発掘調査

平成3年以降から中村宿毛高規格道路関係の調査が本格的になる。また高規格道路に伴い脇道の県道中村下ノ加江線の建設関連調査が平成8年（1996）から始まっている。両道路に伴う対象遺跡は12ヶ所であったが、具同中山遺跡群がその大部分である。具同中山遺跡群は全ての時代を網羅していると言える。

他の遺跡を時代別に見ていくと、縄文時代は船戸遺跡、弥生時代は西ノ谷遺跡、船戸遺跡、浅村遺跡、サンナミ遺跡、久木ノ城跡、古墳時代は船戸遺跡、古代は船戸遺跡、神ヶ谷窯跡、中世は船戸遺跡、中世山城跡は江ノ古城跡、ハナノシロ城跡、久木ノ城跡、間城跡、近世は不破遺跡と時期区分できる。船戸遺跡は各時代に亘り、具同中山遺跡群と隣接しており、また遺跡内容も近似しているところから、具同中山遺跡群と一連のものと考えられる。久木ノ城跡は山城跡と遺跡台帳には搭載されているものの、実際の調査では山城関係の遺構遺物は検出できていない。

## (3) 香山寺を取り巻く遺跡群

香山寺を取り巻く遺跡としては、具同中山遺跡群、具重遺跡、風指・アヅノ遺跡、そして本遺跡の坂本遺跡である。山城跡は南から山路城跡、サラガミネ城跡、皇子山城跡、森沢城跡を上げることができる。ここでは主に具同中山遺跡群を取り上げる。

具同中山遺跡群は縄文晩期から弥生時代、古墳時代を経て、中近世まで断続的ではあるものの、長期にそれも広範囲に展開する複合遺跡である。遺跡の面積は推定で6ha（60万㎡）余りもあり、全貌は把握しきれない。今までの調査では、強いて言えば、古墳時代川辺の祭祀、中世の集落跡が特徴的と言えるかもしれない。幡多郡では具同中山遺跡群に比肩する遺跡は他にない。遺跡内容は祭祀と集落跡で、祭祀は各時代を通じて中筋川の鎮



第6図 坂本遺跡周辺遺跡地図



護の為と考えられる。集落は中世が最も多いものの、他の時代の遺構は少ない。しかしながら遺物量は極めて多く、一般的な集落以外にも幡多郡の中核的役割を担った官衙的な様相を持つものである。

### ①具同中山遺跡群の集落跡

#### 縄文時代・弥生時代・古墳時代の集落

縄文晩期から若干の遺構と遺物が出土しており、また弥生時代についても前期の土器も纏まって出土している。しかしながら土坑類以外に住居跡は検出していない。今まで古墳時代の検出した掘立柱建物跡は3棟（具同中山遺跡群Ⅲ-2・2001、Ⅲ-3・2002）、竪穴住居跡が1軒（具同中山遺跡群Ⅲ-3・2002）と祭祀の規模に比べ貧弱である。祭祀跡は数多く検出しているものの、集落についてはほとんど不明のままである。古墳時代の集落は祭祀跡から離れた近傍の村々にあった可能性がある。一帯の村落共同体のまつりごとが具同中山の中筋川の川辺で執り行われたと考えられる。



具同地域（香山寺より）



具同中山遺跡群

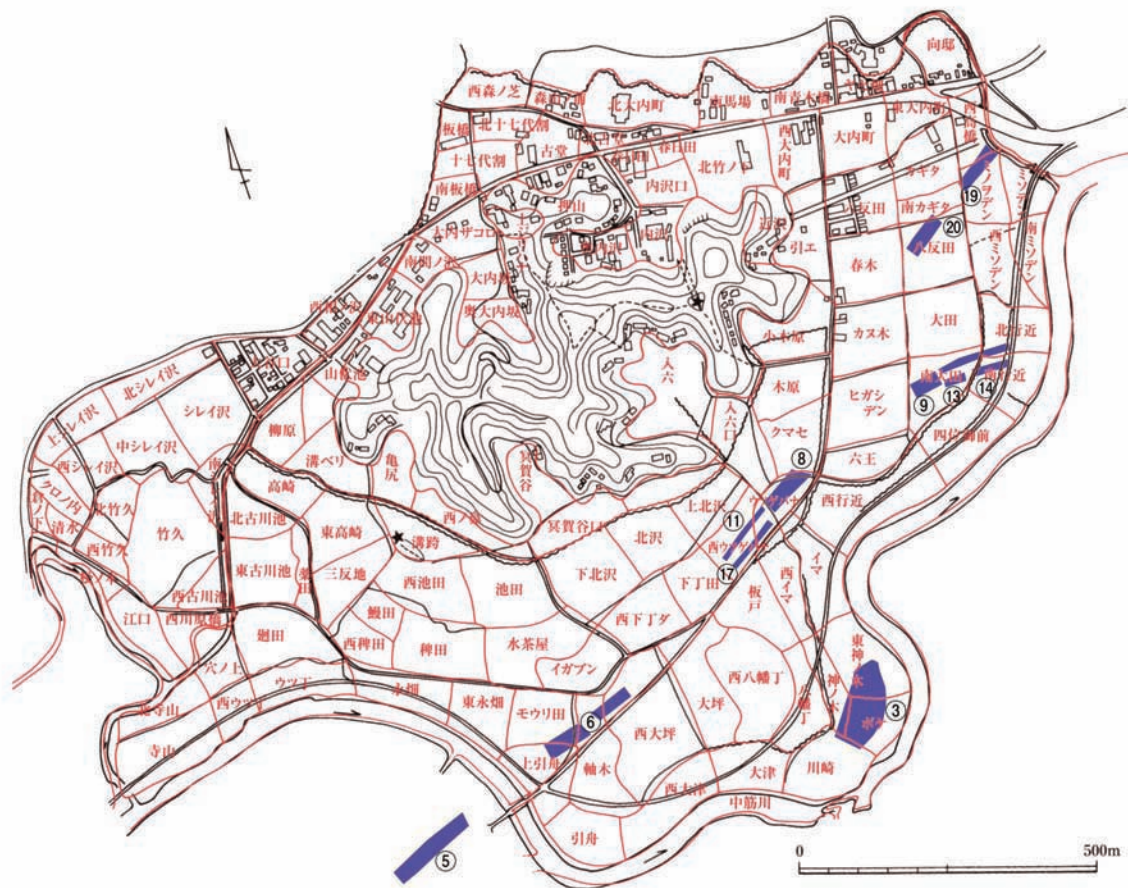
#### 奈良平安時代の集落

幡多郡を語るときに良く引き合いに出されるのが、『国造本紀』に都佐国造（土佐）より波多国造（幡多）が先におかれたとされている。しかしながら波多国造が崇神天皇、都佐国造は成務天皇の時に国造になったとされるものの、『国造本紀』は平安時代初頭頃に成立したと今では考えられており、『国造本紀』の国造は6・7世紀の国造に限らず、大宝令（701年）後の郡領への優先任用権に伴い、再編された地方名族の公的称号と考えられている。波多国造が6・7世紀の国造であるかどうか、都佐国造より先におかれたかは根拠とはなり得ない。また古代官道南海道が伊予から幡多郡を大きく迂回したとの説もあるものの、それも再考を要する。

古代の幡多は『和名類聚抄』（承平年間931年 - 938年）によれば、枚田（宿毛市平田）、鯨野（土佐清水）、大方（大方町）、宇和、山田の5郷に分かれる。宇和郷は渡川左岸の村々で、山田郷は渡川より以西の中筋川流域の村々で、具同一帯も含まれると考えられる。

河川改修工事に伴う調査で巡方と火葬墓を検出している（1992）。幡多地域で巡方、丸靱等の出土した遺跡は皆無で、船戸遺跡では官衙的様相の強い遺跡から出土する環状鈕の須恵器蓋が出土している。具同中山遺跡群の中の小字には中世地検帳に「神ノ木」、「四位御前」、「六王」等の地名が残り、古代に於ても具同中山遺跡群は幡多郡の中核と考えられ、官衙関連の遺跡である可能性が極めて強い。先に上げた風指・アゾノ遺跡も含め、おそらく一帯は郡衙関連の遺跡と言えよう。

宿毛平田の曾我山古墳を波多国造とし、その地名からして後代の平安末期応保年間（1161～



第7図 具同中山遺跡群調査地点及び小字(※筒井2000年、一部改変。丸数字は表2に対応)

1163) の郡王宗我部氏を繋がりのあるものとする見解もあるものの、「曾我」の地名は山田郷にも散見でき、また山田郷内の横瀬には「大領」地名が残っているものの、しかし一概に時代的懸隔のある地名から律令期及びそれ以前を付会するのは困難であろう。幡多郡の流れを大まかに見ると、古墳時代前中期は伊予宇和からの影響が強く、宿毛平田に入った後、渡川左岸の古津賀(古津賀古墳)に波多の中樞は移動しており、律令期から中世には具同一带を中心とする中筋川に変遷したと現時点での考古学的蓄積から言えよう。

### 中世の集落

具同中山遺跡群ではほぼ全域で中世の遺構遺物を検出している。主体となる時期は13世紀、15世紀から16世紀でそれ以外の時期も認められるものの、大きく見て2つのピークがある。掘立柱建物跡は数多く検出しており、特に具同中山遺跡群Ⅳ(2001)で報告されているものは、具同中山遺跡群でも東寄りに位置し、小河川池田川際で梁間4間(9.3m)×桁行6間(13.8m)の大型の掘立柱建物跡である。柱穴径最大のもので115cmを測り、32基の柱穴で掘立柱建物跡は構成されている。柱痕は残っていないものの、底には礎盤の残るものが多い。時期は13世紀から14世紀と考えられ、性格は屋敷跡と考えられているが判然としないようである。周辺域の小字、規模からして荘倉関連の建物の可能性が高い。他の掘立柱建物跡は14世紀から15世紀のものも認められるが、具同中山遺跡群は集落としては16世紀から衰退していく。

船戸遺跡からも掘立柱建物跡は検出しており、中でも掘立柱建物跡SB10の柱穴内から重さ20kgの石の錨が出土しており、船戸地名からしても森沢村の津の可能性はある。地検帳では中筋川の村々には舟戸地名を拾い出すことができ、村落毎に舟戸が存在したと考えられる。具同中山遺跡群では神ノ木・ボケ地区に接して、「大津」、「西大津」、「引舟」の小字が中筋川沿いに並んで残っており、村落毎の船着き場・舟戸とは違っていた可能性がある。硯も多く、識字階級の存在を裏付けるものであり、一般的な集落とは趣を違えている。

## ②具同中山遺跡群の祭祀跡

弥生時代末から小規模な川辺の祭祀が営まれるものの、本格的になるのは5世紀か6世紀にかけてである。弥生時代の川辺の祭祀は古墳時代のものとは違い、岸辺に土器群が投げ込まれたような状態で出土している。また、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて、配石を伴う祭祀が集中的、継続的に営まれる地点があり（具同中山遺跡群Ⅳ・2001）、祭祀形態にも幾つかのバリエーションが認められている。青銅器については、具同中山遺跡群の一部である石丸から銅矛が出土し、また坂本遺跡より下流の山路城跡からも銅矛が出土していると伝えられている。高岡郡では多くの青銅器が知られているものの、幡多郡ではこの2振りが唯一の弥生時代の青銅器である。今のところ青銅器祭祀は極めて希少と言わざるを得ない。おそらく、青銅器の搬入経路から逸れた地域であったと考えられる。

その後、古墳時代になると中筋川流域では大規模な川辺の祭祀が営まれ始める。中筋川は幡多郡の穀倉地帯であり、古墳時代から幡多郡の中心地となっている。祭祀跡からは須恵器が多量に搬入され、畿内の影響を強く受けるようになる。また布留式も搬入される（具同中山遺跡群Ⅲ-2・2001）。しかしながら、古墳そのものは営まれることはなかった。

歴史時代になると、平安時代の祭祀跡を1ヶ所検出している（具同中山遺跡群Ⅲ-2・2001）。また近隣で銅製丸軛が出土し、祭祀に伴うものものではないかと報告されている。

中世については、祭祀遺物として、船戸遺跡から呪符、人形、刀形木製品が出土している。具同中山遺跡群では泥塔、闕伽六器と考えられる銅碗が出土している。泥塔は陀羅尼経を納めたと考えられ、小さな塔で梵字が線刻されている。中世の段階のこうした遺物は加持祈祷の遺物と考えられ、弥生時代から古代の村落の祭祀とは違った形態のものである。墓地は河川改修工事での調査(1992)で14世紀前半期の集石墓らしきものを25基検出している。同じく鎬蓮弁文青磁碗4点が打ち壊された状態で出土した土坑墓を検出している。火葬後、土坑に埋納したと考えられ、13世紀中から後半の時期が考えられる。

表2 中筋川の遺跡報告書

No.	報告書名	所収遺跡名	発行年度	埋文報告書シリーズNo.	発行所	調査年	所在地	調査面積(m <sup>2</sup> )	遺跡の時期	調査成果	特記事項	調査員	論 巧
1	後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ	古津賀遺跡具同中山遺跡群	1988		高知県教育委員会	1986～1987	四万十市古津賀 四万十市具同	1100 5000	古墳時代	祭祀跡		出原恵三 松田直則 廣田佳久	
2	後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ	風指遺跡アゾノ遺跡	1989	県第27集	高知県教育委員会	1988	四万十市森沢字風指 四万十市森沢字アゾノ	1500 3850	古代、中世	集落跡	古代官衙関連か	出原恵三 松田直則	地震跡
3	後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 第1分冊 第2分冊	具同中山遺跡群	1992	埋文第1集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1989～1990 1991	四万十市具同	9100 2600	縄文晩期、弥生～古墳、古代、中世	集落、祭祀	弥生～古墳祭祀跡9ヶ所、古代火葬墓、古代官衙関連、中世集落、中世墓地	前田光雄 松田直則 廣田佳久 藤方正治 江戸秀樹	弥生～古墳祭祀跡、古代～中世集落
4	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ 第1分冊 第2分冊	第1分冊西ノ谷遺跡 第2分冊江ノ古城跡ハナノシロ城跡	1993	埋文第13集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1991	四万十市江ノ村	1100 1400 3500	弥生前期中世 中世	集落山城 山城	弥生前期下条式	出原恵三 松田直則 竹村三菜 曾我貴行	弥生前期土器論 中世江ノ村の復元
5	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ	船戸遺跡	1996	埋文第27集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1992～1993	四万十市森沢	6000	縄文、弥生～古墳、古代、中世	集落、祭祀	縄文後期、古代須恵器、中世陶磁器、呪符、石製錨等	出原恵三 松田直則 曾我貴行 坂本憲昭 筒井三菜 武吉眞裕	篠窯陶磁器
6	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ	具同中山遺跡群Ⅰ	1997	埋文第28集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1993～1664	四万十市具同	4000	縄文、弥生～古墳、古代、中世	祭祀、集落	縄文晩期土器、中世木製品、獣骨	松田直則 伊藤強 山崎正明 筒井三菜 武吉眞裕	鎌倉時代獣骨
7	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ	浅村遺跡	1999	埋文第42集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1997	四万十市森沢	780	弥生時代後期	祭祀跡		久家隆芳	焼土跡
8	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅴ	具同中山遺跡群Ⅱ-1	2000	埋文第46集	高知県埋蔵文化財センター	1994	四万十市具同	2028	縄文時代、弥生時代～古墳時代	祭祀跡		松田直則 伊藤強 山崎正明 筒井三菜 久家隆芳	弥生中期土器論、土師器高杯
9	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ	具同中山遺跡群Ⅲ-1	2000	埋文第48集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1995	四万十市具同	1500	弥生時代～古墳時代	祭祀跡		筒井三菜	古地形の復元
10	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅶ	間城跡	2000	埋文第49集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1996	四万十市江ノ村間	5500	中世	山城		筒井三菜	中筋川流域における小村の景観復元。特に地検帳を使った森沢村の復元が重要。
11	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ	具同中山遺跡群Ⅱ-2	2000	埋文第53集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1999	四万十市具同	2230	弥生時代～古墳時代	祭祀跡		畠中宏一 廣田佳久	弥生～古墳時代の土器論
12	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅸ	神ヶ谷窯跡サンナミ遺跡	2000	埋文第54集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1997	宿毛市平田	176 624	奈良時代 弥生時代	古代窯跡 土坑		久家隆芳	神ヶ谷窯跡出土須恵器、弥生前期末～中期の土器論
13	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅹ	具同中山遺跡群Ⅲ-2	2001	埋文第65集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	1999～2000	四万十市具同	1805	弥生時代～古代	祭祀跡、古墳時代掘立柱建物跡	布留式、青銅製丸鞆	田中涼子 小島恵子 廣田佳久	古墳時代の搬入土器
14	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅺ	具同中山遺跡群Ⅲ-3	2002	埋文第70集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	2000	四万十市具同	1676	弥生時代～古代	古墳時代祭祀跡、集落跡	古墳時代の住居跡は具同では初めて。	山本純代 田坂京子 廣田佳久	臼玉、製塩土器、土錘

第 I 章 遺跡の概要と調査経緯

No.	報告書名	所収遺跡名	発行年度	埋文報告書シリーズNo.	発行所	調査年	所在地	調査面積(m <sup>2</sup> )	遺跡の時期	調査成果	特記事項	調査員	論 巧
15	中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書XⅡ	久木ノ城跡 古津賀遺跡 神ヶ谷2号 竈跡 具同中山遺跡群Ⅱ-2	2003	埋文第81集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	2000～2001 2001 2001 2001	四万十市上ノ土居 四万十市古津賀宿毛市平田 四万十市具同	2368 163 181 1926	弥生時代 古墳時代 古代 弥生～古墳時代	高地性集落 祭祀跡 竈跡1基 弥生祭祀		下村裕 岩本繁樹 松村信博 岩本繁樹 下村裕	
16	中村宿毛道路埋蔵文化財発掘調査報告書XⅢ	不破遺跡	2004	埋文第90集	高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センター	2002	四万十市不破	2646	近代	畝状遺構		廣田佳久 中山真司 下村裕	畝状遺構及び畝間について
17	県道中村下ノ加江線緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書	具同中山遺跡群Ⅱ-2	2000	埋文第56集	高知県埋蔵文化財センター	1998	四万十市具同	345	弥生時代～古墳時代	祭祀跡		久家隆芳	古墳時代祭祀小礫
18	県道中村下ノ加江線建設工事に伴う発掘調査概要報告書	具同中山遺跡群Ⅳ	1998		高知県埋蔵文化財センター	1996～1997	四万十市具同	2180	弥生時代、古墳時代、古代、中世	古墳時代祭祀跡、中世集落	古墳時代配石祭祀	山崎正明 武吉眞裕	宋銭、歴史、地理等について中世の久礼
19	県道中村下ノ加江線緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書	具同中山遺跡群Ⅳ	2001	埋文第59集	高知県埋蔵文化財センター	1996～1997	四万十市具同	2180	弥生時代、古墳時代、古代、中世	古墳時代祭祀跡、中世集落	古墳時代配石祭祀	池澤俊幸 浜田恵子 筒井三菜	古墳祭祀論、弥生から古墳の土器論、古代土器論、中世集落論
20	県道中村下ノ加江線緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書	具同中山遺跡群Ⅴ	2001	埋文第58集	高知県埋蔵文化財センター	1998～1999	四万十市具同	2838	弥生時代、古墳時代	祭祀跡		小野由香	土器分類、祭祀跡出土礫、四万十川流域の祭祀(縄文～古墳、青銅器祭祀窪川台地との比較)



## 第Ⅱ章 調査成果

### 第1節 概 要

#### (1) 調査区について

調査区は大きく分けて、谷前庭部と谷部に分かれる。調査区名は着手した順に付名しており、前庭部は東側から、1B区、1A区、2A区、2B区となっている。2A区以外は進入道路部分となっており、トレンチ状の調査区である。谷部は3区、4区、5区と奥に向かって調査名を付している。但し谷部は各々の調査区が広いため、便宜的に東からA、B、Cと小分割を行ない、3A区、3B区、3C区とした。4区、5区に付いても同様である。但し、報告書では4区、5区についてはひとまとめで報告してある。

#### (2) 遺構・遺物について

遺跡の内容は大きく2つに分かれる。1つは一般的な集落跡、2つ目は寺院関連である。調査区別に見ると1A区、1B区、2B区は寺院関連の遺構は検出しておらず、2A区、3区から5区は寺院関連の遺構を検出した。寺院関連遺構は2A区の大型の柱痕の並び、石列、3A区では石段状遺構、塀跡、石列区画建物跡、瓦窯3基、3C区では基壇状遺構、4区で石列区画建物跡、4区と5区に跨り通路状遺構が主なものである。これらの遺構は寺院を構成する構築物で互いに紐帯のあるものと考えられる。また3区北側部は一段高くなっており、盛土を行ない斜面地には大礫を明確には積み上げることがないものの、土留となっている。瓦窯は本遺跡内から瓦溜りも検出していることから、本遺跡内の建物に供給した瓦窯と考えられる。

その他、調査区全体を縦走する大溝を2条検出した。自然流路ではなく、壁に石積みを検出しており、人工的な大溝である。大溝については時期的に13C迄遡るもので、本遺跡の初源期の遺構である。一般的な集落内に掘削されたものではなく、やはり寺院に関連する大溝と考えられる。

遺構の時期は14C後半から15C前半が最盛期で大部分がこの時期に含まれる。その他、前後の13C、15C後半から16Cに含まれる。3区の盛土の状況からすると短期間の内に数度の地業が行なわれ、遺構の時期は錯綜する。

出土遺物は輸入陶磁器、国産陶磁器、瓦、土器類に大きく分かれる。遺構内からの遺物は少なく、包含層からの出土が多い。遺物の最も多いのは3区で盛土層からの出土である。寺院関連の遺構が検出されなかった1A区、1B区でも包含層中から青磁酒海壺、滑石製温石等の出土例が認められ、寺院関連以外のエリアからも寺院関連遺物が出土している。逆に寺院関連の3区、4区、5区からも鍋、羽釜類の煮沸具も多く出土している。遺物の時期は最も古いもので11C代の白磁で13C代の捏ね鉢、14Cから15Cの輸入陶磁器類が出土した。

## 第2節 1A区

### 概要

進入道路部分に相当し、トレンチ状の調査区である。1B区の西隣り、大グリッドC・D-IIに相当する。調査面積は279㎡である。1.8mの深さまで遺物包含層である。層序は1から4層まで表土層、盛土層である（第10図）。遺構確認面は2面で、遺構数は少なかった。1面は6層、2面は14層が遺構検出面となっている。北壁では石列らしき礫が纏まって出土しているが、壁際のため、詳細は不明である。

出土遺物は陶磁器類、土器類で、奢侈品の青磁酒海壺が出土している。出土遺物の時期は15Cから16Cが大半である。

#### (1) 1A土坑 (第9図)

##### SK1

1面で検出した。半楕円形で長径42cm、短径28cm程である。土錘1が1点出土している。

##### SK2

1面で検出した。楕円形で長径110cm、短径98cm程、深さは63cmである。土器小皿2が1点出土している。

##### SK3

2面で検出した。楕円形で長径72cm、短径64cmである。遺物は出土していない。

##### SK4

1面で検出した。半楕円形で長径70cm、短径32cm程である。土器小皿3が1点出土している。

##### SK6

2面で検出した。半楕円形で長径90cm、短径50cm程である。土器小皿4、強い轆轤目が外面に残り底部内面の凹む坏5が出土している。

#### (2) 1A柱穴 (第9図)

1面では6基と少ない。またSK1も土坑としたものの、柱穴程の大きさである。遺物はP1から15Cから16C中葉の青磁皿6が1点だけ出土している。

2面は10基と少ない。東側にやや纏まりがある程度である。P4、10、11が並ぶものの、他は不明である。P4、8からはそれぞれ土錘7から9が出土している。

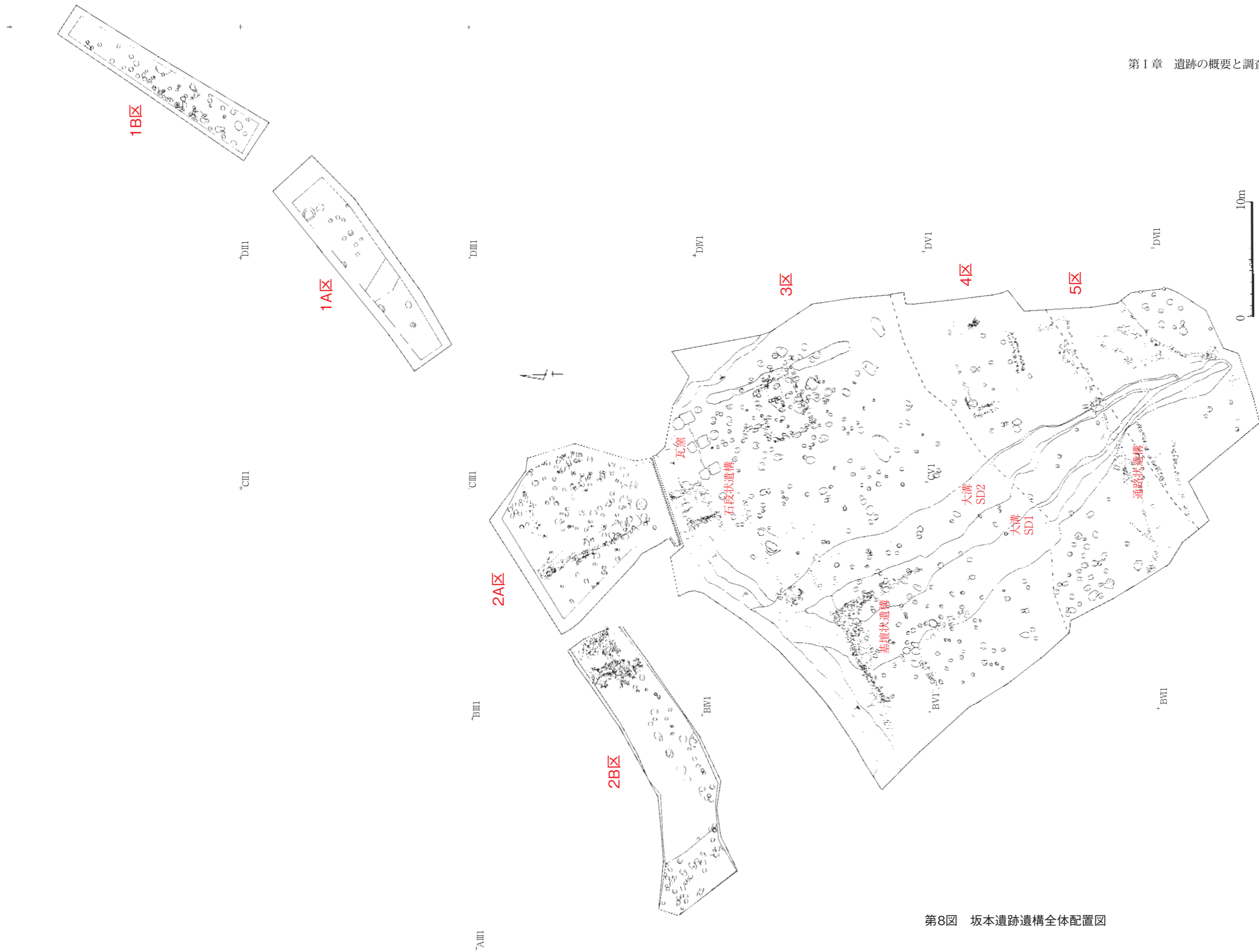
#### (3) 1A区遺物包含層出土遺物 (第11～14図10～88)

##### ①陶磁器類 (第11、12図10～28)

##### 白磁・青磁

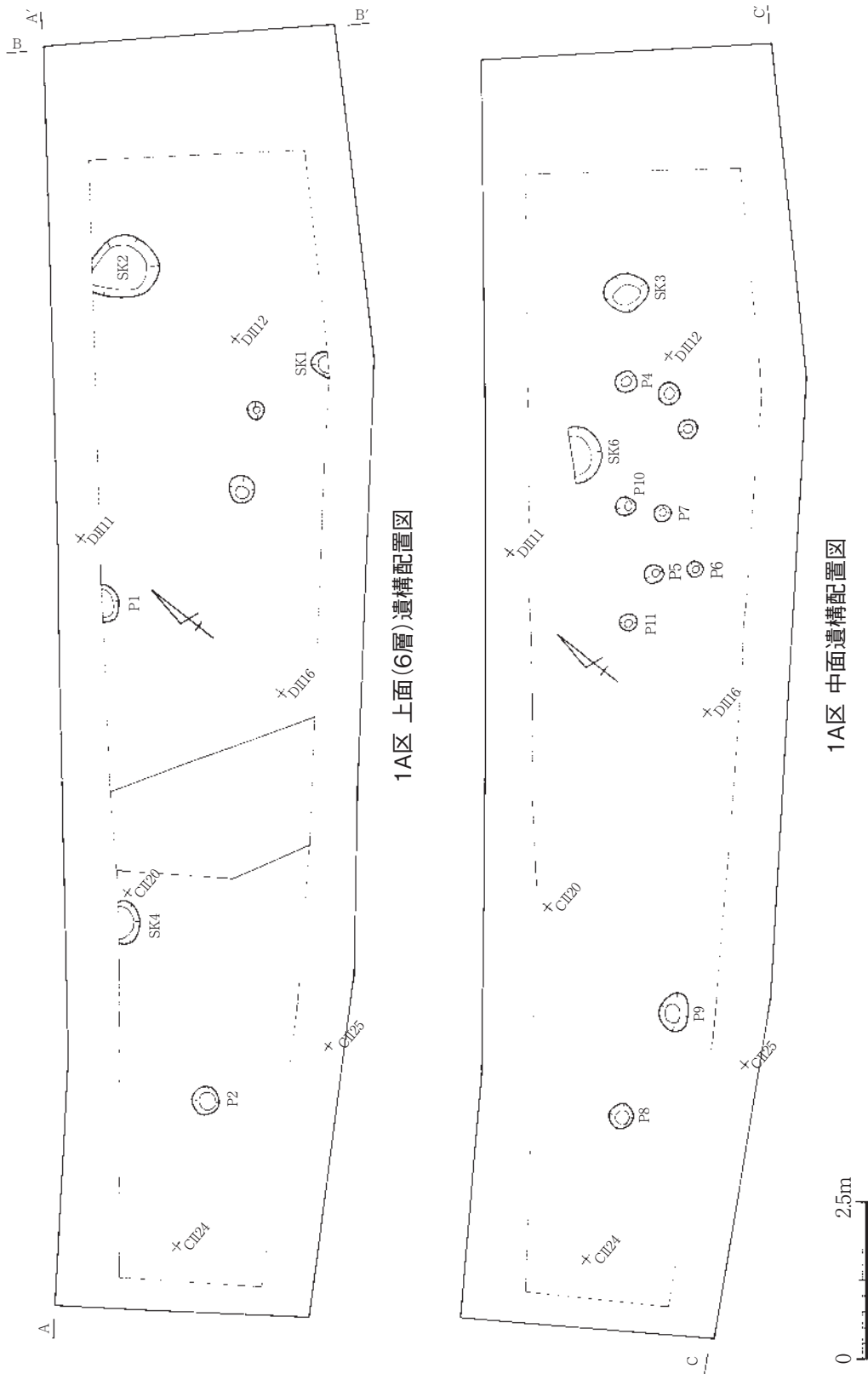
12C前半の白磁碗10、15C後半から16C前半の青磁稜花皿12、13から17は青磁碗で14は幅広の蓮



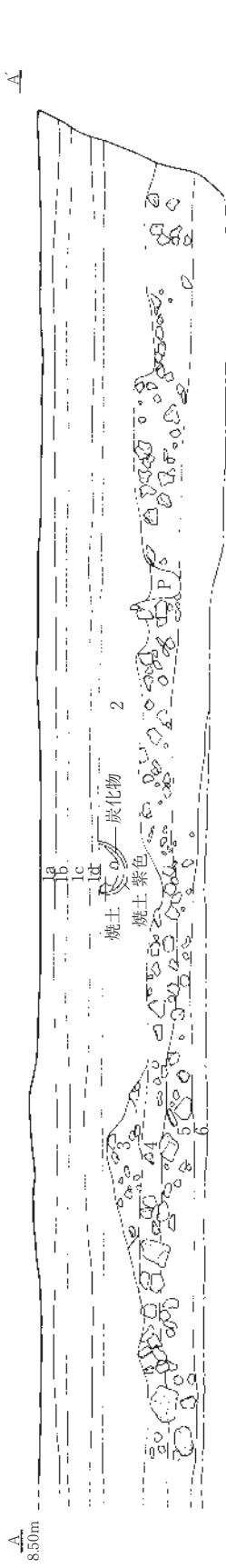


第8図 坂本遺跡遺構全体配置図





第9図 1A区遺構配置図



1A区北壁セクション

1A区北壁セクション

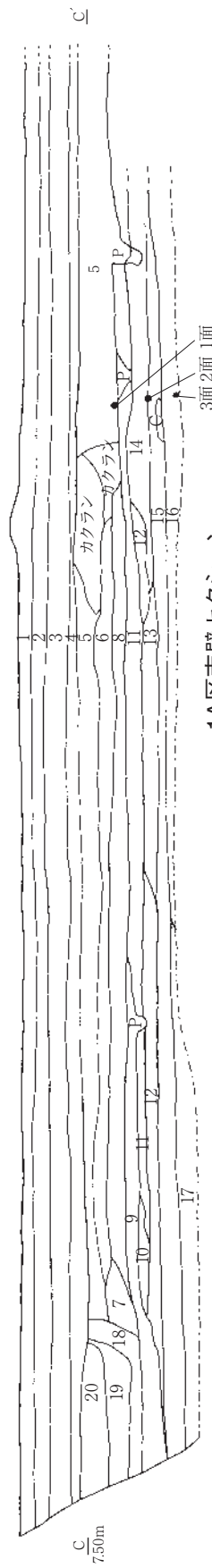
- 1a 旧表土
- 1b 旧表土
- 1c 旧表土
- 1d 旧表土
- 2 褐色粘性土
- 3 黄橙レキ土
- 4 褐灰色粘質土
- 5 暗灰色粘土(炭化物多く混じる)
- 6 橙色レキ土



1A区東壁セクション

1A区東壁セクション

- 1 表土
- 2 パン
- 3 旧表土
- 4 黄橙レキ混土(埋め土)
- 5 褐色粘質土
- 6 褐灰色土
- 7 灰黄褐色粘性土
- 8 灰褐粘質土(ジャリ入る)
- 9 灰黄褐色土
- 10 暗灰色粘質土(ジャリ入る)
- 11 暗灰褐粘土
- 12 黄色土(小石多く入る)
- 13 レキ多い
- 14 灰色橙色レキ混入土
- 15 灰色粘土(土器炭化物入る)



1A区南壁セクション

1A区南壁セクション

- 1 表土
- 2 旧表土
- 3 黄褐色礫混土
- 4 旧表土
- 5 褐色粘質土
- 6 褐灰色粘質土
- 7 灰褐色粘質土
- 8 灰褐色粘質土
- 9 灰褐色粘質土
- 10 灰色粘質土 褐色混じる(15cm大礫混じる)
- 11 黄褐色礫混土 灰褐色混じる
- 12 黄褐色礫混土 黒灰色粘土混じる
- 13 暗灰色粘土
- 14 暗灰色粘土
- 15 暗灰色粘土(炭化物混じる)
- 16 灰色粘土 浅黄色礫混じる
- 17 灰色粘土

第10図 1A区土層図

弁文である。14C後半から15C後半のものである。18は14Cの青磁酒海壺で頸部は短く、肩部が張る。口唇部のみ釉剥ぎ、内外面厚い釉がかかる。外面には唐草文様を施す。

#### 瀬戸

19から22は瀬戸で、花瓶19、天目茶碗20、折縁小皿21、折縁深皿22が出土している。14Cから15Cのものがほとんどである。

#### 近世陶磁器

23から28は近世の陶磁器と考えられ、染付碗24から26の京焼風のものも出土している。

### ②土器(第12、13図29～58)

#### 小皿

29から38でその中で底部破片は35から38である。29は体部の短いもの、30から32は体部が開くもので、30は体部外面に轆轤目を残す。33、34は箱形のものである。底部切り離しは全て回転糸切りである。口径は6cm前後で底径は5cm台のものが最も多い。

#### 坏

39から54で、器高が低く、轆轤目を顕著に残し、器肉が薄く、底部は内面が凹み、外面は回転糸切りで簀子状圧痕を持つものが多い。口縁部を直立気味に摘み上げるものも多い。口径は12cm前後が最も多い。底径は6cm台が最も多く、大きなものは8.9cmを測るものもある。最も小さなものは53の5.2cmである。色調は黄白色と赤褐色の2種類を基本としており、40、44から48は黄白色のものである。50、51は器肉が厚い。52から54は体部に轆轤目を残さないものである。

#### その他

55は15C中葉の羽釜で河内型、56は15Cの紀伊型の甕、57は15C後半以降の播磨型の鍋と考えられる。58は把手か。

### ③瓦質土器(第13図59～65、71)

59は釜で口縁下に断面三角の低い鏝が付く、60は甕で内外面刷毛整形を施す。61は鍋で14C中葉以降の土佐型である。62は東播磨の片口鉢である。63は風炉で透かし窓、丸味のある突帯2条の間に円貼付を持つ。64、65は播鉢で64は15C、65は在地産の14C中葉のものと考えられる。

### ④炆器(第13図66～70、72)

66から70は播鉢である。66から68は備前産で14Cから15C前半の製品と考えられる。口縁を拡張するもので、胎土に白色鉍物粒(長石)を含むものである。69は在地産と考えられる。72は片口鉢で口縁は肥厚せず素口縁である。

### ⑤土製品(第14図73～80)

73から79は土錘で筒状のものである。73が最も小型で重さ2.6g、重いもので79の9.3gである。5g台のものが最も多い。80は鞆羽口で両端は欠損する。径9.0cm、孔径3.0cmの比較的大きなものである。

⑥金属製品(第14図81、82)

81は煙管の吸口で近現代のものか。82は鉄製の和釘である。断面は四角形を呈する。

⑦瓦(第14図83～86)

全て平瓦で83は凹面に布目痕が残る。また離れ砂を施すものがほとんどである。

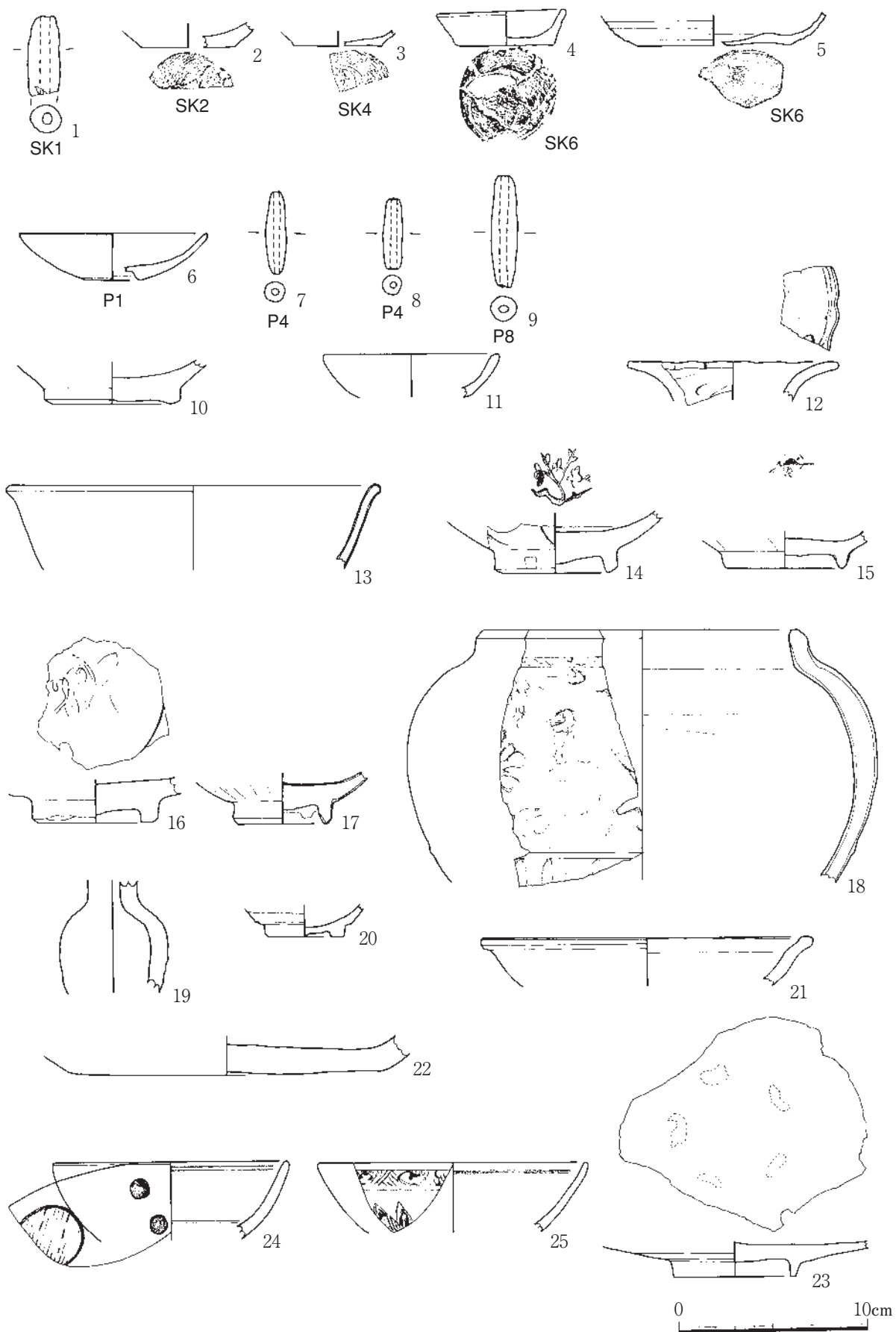
⑧石製品(第14図87、88)

87は石鍋の再用品の温石である。長さ10.2cm、幅7.2cmのである。下端が裾広がり、断面形は内湾気味である。全面を研磨し、下部に沈線の横線、上部に径0.9cmの円孔を穿つ。88は石鍋で口縁下に鏝を削り出し、内外面削り調整を施す。外面に煤が付着する。15C前半の製品か。

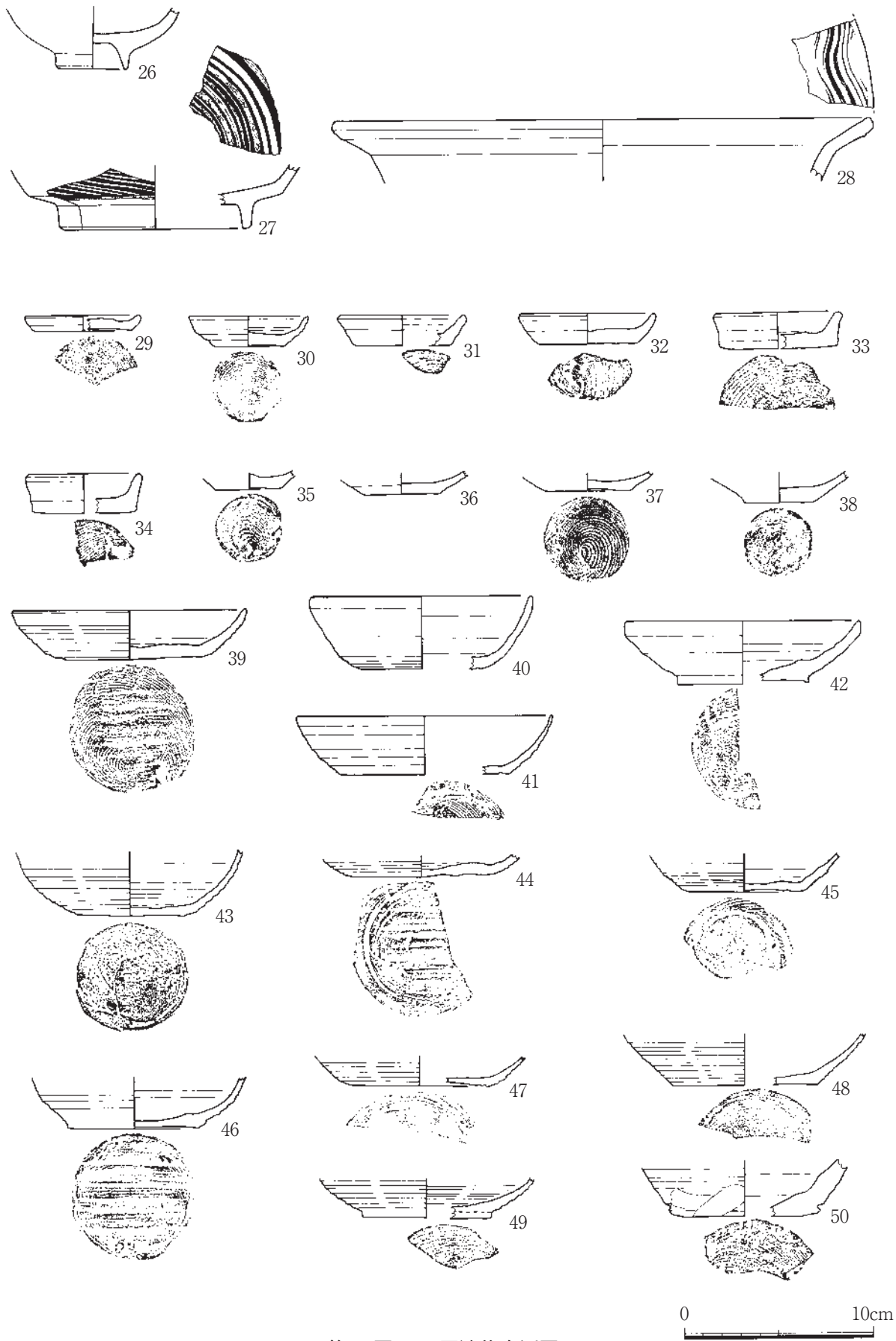
(4) 1A区小結

1A区では遺物包含層が多いものの、検出した遺構は少ない。トレンチ状の調査区のため、柱穴等の配置も判然としない。調査区の北面壁で石積らしきものが出土していたらしいが、それより外側(調査区外)は道となっていた可能性がある。本調査区はそれより内側に相当し、住居空間の可能性のあるエリアと考えられる。地検帳(天正17年1589)では「ヤシキ」跡部分に相当すると考えられ、それ以前も屋敷跡の可能性が考えられる。

出土遺物は12C前半の白磁碗10、14C～15C前半の備前播鉢(66～68)、瀬戸産製品、15C後半から16C前半の青磁稜花皿12等が出土しており、年代幅がある。主体は15Cでその前後の時期に跨る。土器は小皿、皿状の坏が出土しており、小皿は体部の開くもの、箱形のものに大きく分かれる。坏は轆轤目を顕著に残し、器肉が薄く、底部内面の凹む特徴的なものが出土している。このタイプのものは3区の大溝SD1に出土例が多く、坏としては本遺跡内では古い段階のものに含まれる。煮沸具としては、鍋釜類で在地産の鍋61、河内の羽釜55、紀伊の甕56、播磨の鍋57が出土しており、在地産以外は15Cに含まれるもので、日常雑器の類が多い。日常雑器以外に14Cの青磁酒海壺18は高知県下では初例である。

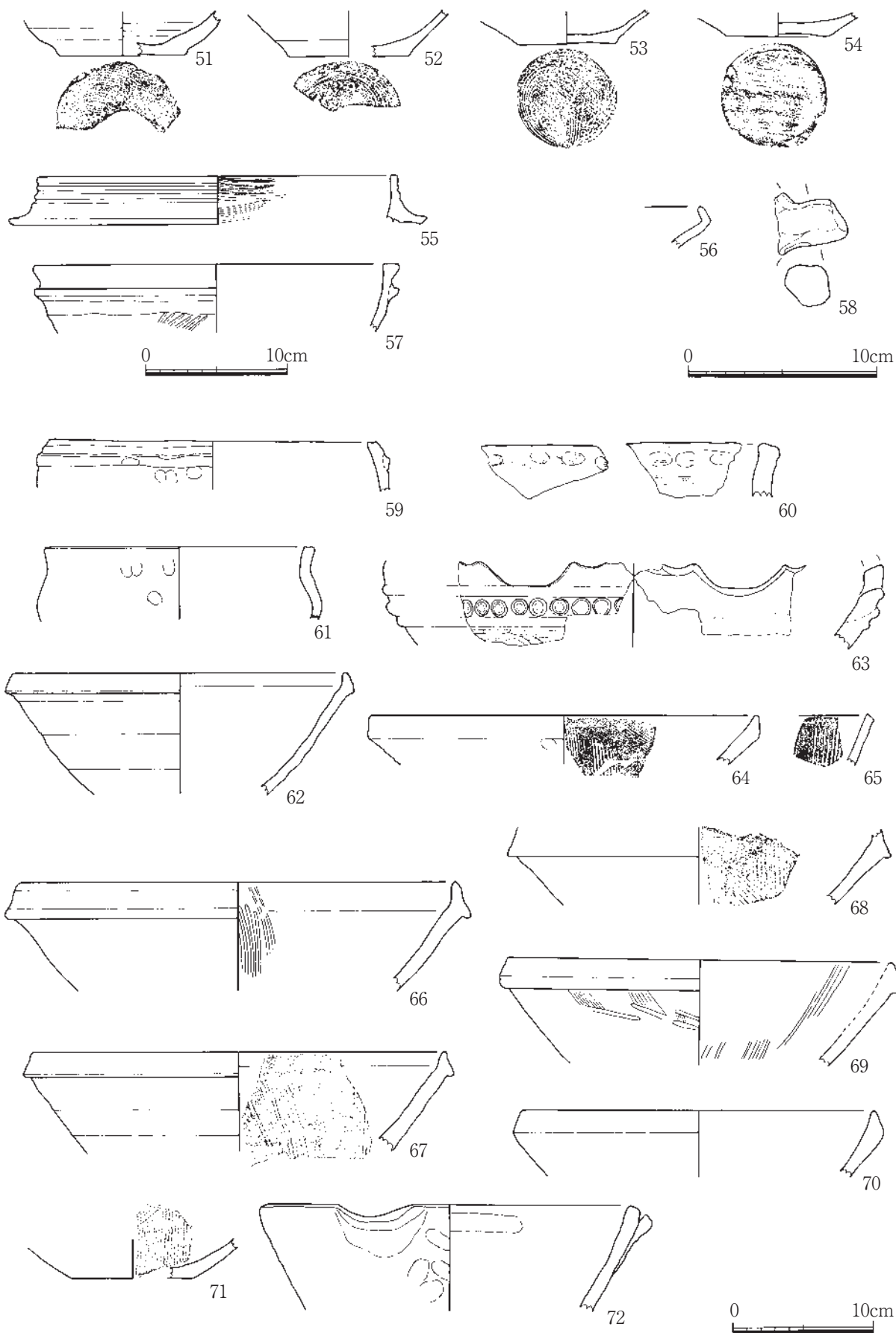


第11図 1A区遺物実測図1

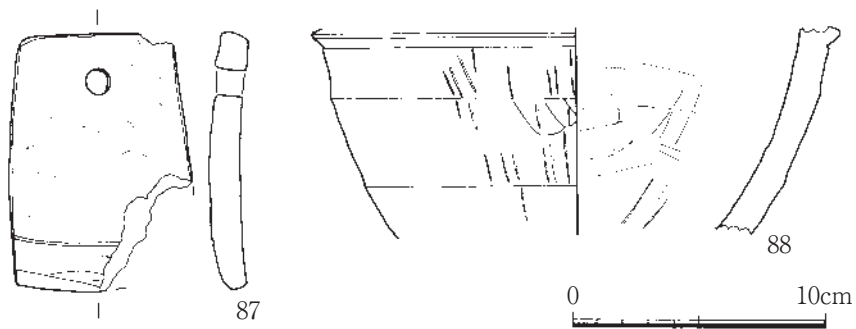
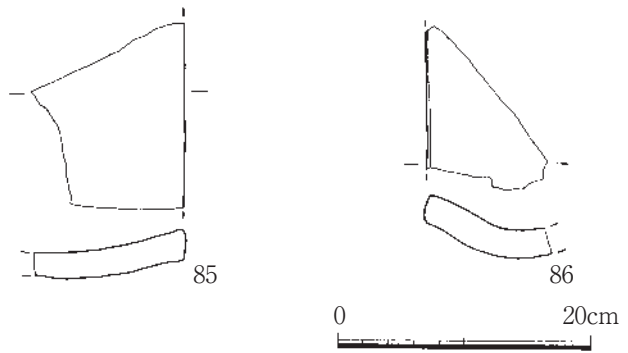
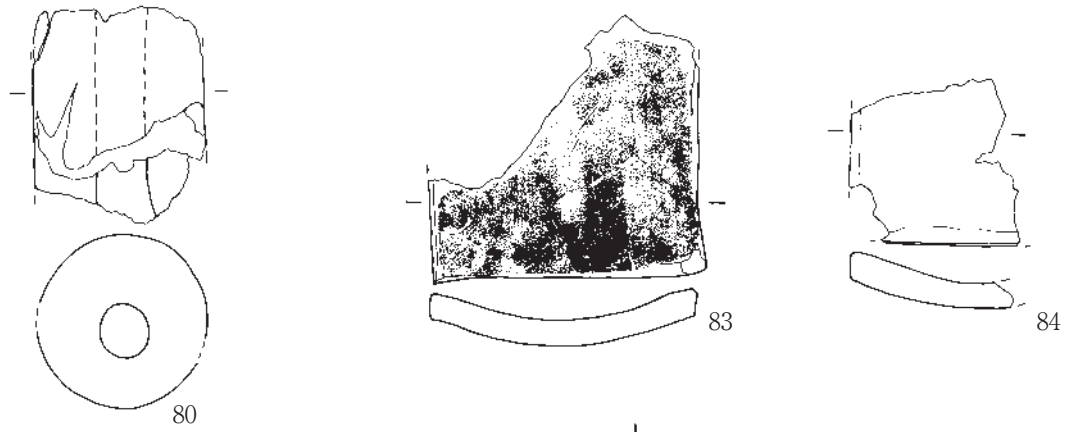
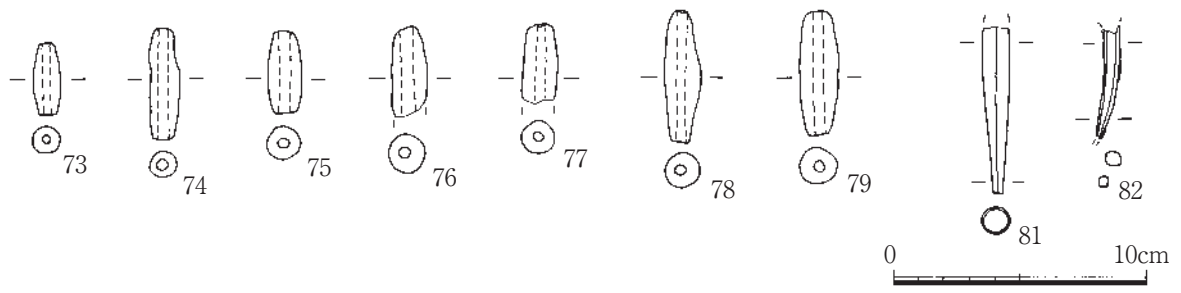


第12図 1A区遺物実測図2





第13図 1A区遺物実測図3



第14图 1A区遺物実測図4

表3 1A区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1	土製品	土鍾	1A	SK1	長(4.2)	径1.7	重(9.4)	筒状	精良		
2	土器	小皿・底部	1A	SK2			(5.0)	底部糸切り、体部開く	精良		
3	土器	小皿・底部	1A	SK4			(4.7)	底部糸切り、器肉薄い	精良		
4	土器	小皿	1A	SK6	6.7	1.9	5.2	底部糸切り、体部短くやや外傾する	精良		
5	土器	坏・底部	1A	SK6			(8.0)	底部糸切り、低位部内面凹む、体部外面強い轆轤目、器肉薄い	精良		
6	陶磁器	青磁皿	1A	P1	(10.0)	2.5	(2.8)	碁笥底、畳付け無釉、無文	白色、精良	15C～16C中	
7	土製品	土鍾	1A	P4	長4.4	径1.1	重4.0	筒状	精良		
8	土製品	土鍾	1A	P4	長3.8	径1.1	重3.9	筒状	精良		
9	土製品	土鍾	1A	P8	長5.9	径1.4	重10.2	筒状、大型	精良		
10	陶磁器	白磁碗・底部	1A	黒褐色粘土層			(7.2)	底部削り出し、底裏無釉	灰白色、精良	12C前半	白磁Ⅳ類、伝世品？
11	陶磁器	青磁皿？・口縁	1A	褐色粘土層	(9.2)			体部やや丸味をもって立ち上がる、無文	灰白色、精良		
12	陶磁器	青磁椀花皿・口縁	1A	褐灰色土層	(11.2)			体部外反、内外面文様	灰色、精良	15C後半～16C前半	
13	陶磁器	青磁碗・口縁	1A	灰褐色土層	(19.2)			口唇丸味、僅かに外反、無文	灰白色、精良		
14	陶磁器	青磁碗・底部	1A	TR1・褐粘礫土層			6.5	幅広蓮弁文、見込み内文様梅？底裏溶着	灰白色、精良	14C後半	
15	陶磁器	青磁碗・底部	1A	灰褐色土層			(6.2)	底裏無釉、蓮弁文？、見込み内文様	灰白色、精良		
16	陶磁器	青磁碗・底部	1A	褐灰色土層下層			6.6	底裏無釉、高台平、見込み内文様あり	灰色、精良	14C後半	
17	陶磁器	青磁碗・底部	1A	褐色粘土層			4.8	底裏、畳付け無釉、外面線描き蓮弁文	灰色、精良	15C後半	
18	陶磁器	青磁酒海壺	1A	褐灰色土層	(16.8)			頸部短く、肩部張る、口唇部のみ釉剥ぎ、内外面厚い釉がかかる。外面唐草文様。	灰白色、精良	14C	
19	陶磁器	花瓶・肩部	1A	灰黄褐色土層	最大径(5.7)			小型、首の部分径小さく伸びる、緑色の透明釉	乳白色	14C末	瀬戸
20	陶磁器	天目茶碗・底部	1A	TR1・褐灰色土層下層			4.2	外面下半露胎、削り出し高台、褐色の釉、被熱	乳白色、精良	15C中	瀬戸
21	陶磁器	折縁小皿	1A	南壁	(17.2)			口縁折縁、口唇内面に肥厚、緑色の透明釉	灰白色	14C後半	瀬戸
22	陶磁器	折縁深皿・底部	1A	褐灰色土層			(16.6)	底裏ヘラ削り、内面淡緑色の釉、目跡	乳白色、精良		瀬戸
23	陶磁器	皿？・底部	1A	TR1・褐色粘土層			6.4	輪高台、畳付け無釉、見込み内砂目跡、クリーム色の透明釉、貫入が入る	乳白色、精良	17C前半	肥前
24	陶磁器	染付碗・口縁	1A	2層	(12.4)			外面絵付け、内面界線	白色、精良	18C中	肥前
25	陶磁器	染付碗・口縁	1A	褐色粘土層	(14.1)			体部やや丸味をもって立ち上がる、外面絵付け	白色、精良	近世	
26	陶磁器	碗・底部	1A	2層			3.6	畳付け部分のみ無釉、他は緑色がかった透明釉	灰白色、精良	近世	京焼風
27	陶磁器	碗・底部	1A	TR1			(9.6)	腰部屈曲、ハケ掛け	灰色、精良		
28	陶磁器	鉢・口縁	1A	2層	(28.2)			口縁屈曲、外面小さな突起が巡る、内面ハケ掛け、釉緑、白	褐色、精良		
29	土器	小皿	1A	灰色粘土層	(5.9)	0.8	(5.2)	底部糸切り、体部極めて短く直線的に立ち上がる	精良		
30	土器	小皿	1A	褐灰色土層	(6.3)	1.6	3.7	少し摩耗、底部糸切り、体部短く僅かに丸味を持つ	精良		
31	土器	小皿	1A	灰色粘土層	(6.6)	(1.6)	(5.2)	底部糸切り、体部僅かに開く	精良		
32	土器	小皿	1A	灰色粘土層	(7.1)	1.6	(5.4)	底部糸切り、体部短く開く	精良		
33	土器	小皿	1A	灰色粘土層下層	(6.5)	1.9	(6.3)	底部糸切り、体部短く直線気味に立ち上がる	精良		
34	土器	小皿	1A	灰色粘土層	(5.8)	2.1	(5.5)	底部糸切り、体部短く直線的に立ち上がる	精良		
35	土器	小皿・底部	1A	褐灰色土層			(3.6)	底径小、回転糸切り	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
36	土器	小皿・底部	1A	褐色粘土層			4.0	摩耗、回転糸切り、簧子状圧痕？ 体部短く開く	精良		
37	土器	小皿・底部	1A	褐色粘土層下			4.5	底部糸切り、体部開く	精良		
38	土器	小皿・底部	1A	褐色粘土層			3.6	底径小、回転糸切り、体部開く	精良		
39	土器	坏	1A	灰色粘土層	(12.2)	2.6	6.6	底部糸切り、簧子状圧痕、体部開く、 外面強い轆轤目、内外面黄灰色	精良		
40	土器	坏	1A	灰色粘土層	(11.5)	(3.8)	(6.4)	やや摩耗、底部糸切り、体部僅かに 内湾気味に開く、内外面黄白色	精良		
41	土器	坏	1A	灰色粘土層	(13.4)	3.1	(8.9)	底部糸切り、体部内湾気味、体部 外面強い轆轤目、器肉薄い、堅致、 内外面赤褐色、部分的に灰被り	精良		
42	土器	坏	1A	灰色粘礫土層	(12.2)	3.3	(6.8)	底部糸切り、整形粗い、体部開き 上半部内湾気味、内外面轆轤目	精良		
43	土器	坏・底部	1A	灰色粘土層			5.6	底部糸切り、体部やや丸味を持ち 開く、外面強い轆轤目、器肉薄い	精良		
44	土器	坏・底部	1A	TR2			8.0	底部糸切り、簧子状圧痕、体部外 面強い轆轤目	精良		
45	土器	坏・底部	1A	灰色粘土層			6.0	底部摩耗、回転糸切り、体部開く、 外面強い轆轤目、器肉薄い、内外 面黄白色	精良		
46	土器	坏・底部	1A	表採			6.9	底部糸切り、簧子状圧痕、体部内 湾気味、外面強い轆轤目、内外面 黄白色	精良		
47	土器	坏・底部	1A	灰色粘土層			(7.0)	底部糸切り、体部開く、外面強い 轆轤目、器肉薄い、内外面黄灰色	精良		
48	土器	坏・底部	1A	灰色粘土層			(7.7)	底部糸切り、体部開く、外面強い 轆轤目、器肉薄い、内外面黄灰色	精良		
49	土器	坏・底部	1A	褐灰色土層			(6.8)	底部糸切り、体部器肉薄い、外面 鉋状の強い整形痕	精良		
50	土器	坏・底部	1A	灰色粘土層			(7.6)	底部糸切り、外傾気味に立ち上 がる、体部外面轆轤目、器肉厚い	精良		
51	土器	坏・底部	1A	灰黄褐色粘土層			(6.8)	やや摩耗、底部糸切り、体部下半 丸味、内面轆轤目	精良		
52	土器	坏・底部	1A	TR4・石下・暗灰色 粘土層			(6.4)	底部糸切り、体部外傾気味に立ち 上がる	精良		
53	土器	坏・底部	1A	黒褐色粘土層			5.2	底部糸切り、体部器肉やや薄い、 内外面赤褐色	精良		
54	土器	坏・底部	1A	褐灰色土層下			5.4	やや摩耗、底部糸切り、簧子状圧 痕	精良		
55	土器	羽釜・口 縁	1A	褐灰色土層	(24.6)			大きな鏝が付く、口唇平坦、内面 刷毛目	白色鈹物粒少 量	15C中葉	河内型、 森島F類
56	土器	甕・口縁	1A	灰色粘土層				口縁屈曲、内外面ヨコナデ、褐色	砂粒少量	15C	紀伊
57	土器	鍋・口縁	1A	灰色粘礫土層	(25.6)			口唇平坦、口縁下丸味のある低い 鏝、体部外面タタキ	微砂粒多量	15C後半 ～	播磨型
58	土器	把手？	1A	TR1				付け根で落剥、3.5cmほどの突起 状	精良		
59	瓦質土 器	釜・口縁	1A	灰色粘土層	(23.0)			口唇端部僅かに摘み出す、口縁下 に断面三角の低い鏝が付く、灰褐 色	砂粒少量		
60	瓦質土 器	甕・口縁	1A	褐灰色粘土層				口縁僅かに外反、口唇平坦、内外 面刷毛整形	砂粒少量		
61	瓦質土 器	鍋・口縁	1A	灰色粘土層	(19.0)			口縁外反、素口縁、灰褐色	砂粒微量	14C中～	土佐型鍋
62	瓦質土 器	片口鉢・ 口縁	1A	灰色粘土層	(23.2)			口縁僅かに肥厚し外傾、内外面灰 色	微砂粒多量		東播磨
63	瓦質土 器	風炉・胴 部	1A	6層				透かし窓、丸味のある突帯2条の 間に円貼付、内外面黒灰色	灰色、精良		
64	瓦質土 器	播鉢・口 縁	1A	2層	(27.0)			口縁肥厚、内面播り目多条	白色鈹物粒少 量	15C	
65	瓦質土 器	播鉢・口 縁	1A	褐灰色粘土層				器肉薄い、口縁肥厚せず、内面播 り目多条	微砂粒微量	14C中	在地
66	炆器	播鉢・口 縁	1A	灰色粘礫土層	(30.7)			口縁上下に拡張	砂粒多量		備前
67	炆器	播鉢・口 縁	1A	2層	(29.0)			口縁上下に拡張、内面播り目多条	砂粒少量	14C末～ 15C前半	備前
68	炆器	播鉢・口 縁	1A	灰色粘土層下層				口縁上下に僅かに拡張	砂粒多量		備前

第Ⅱ章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
69	炆器	擂鉢・口縁	1A	灰色粘土層	(27.0)			口縁僅かに肥厚し外傾、外面刷毛整形、内面多条の擂り目、外面黒灰色、内面灰色	白色微砂粒多量		在地産？
70	炆器	擂鉢？・口縁	1A	TR2・褐色粘土層	(24.8)			色調赤褐色、表面落剥、3次被熱か、口縁肥厚僅かに肥厚	砂粒少量		
71	瓦質土器	擂鉢・底部	1A	灰褐色土層			(8.8)	内面多条の擂り目、外面ヘラ削り整形	微白色鉱物粒少量		
72	炆器	片口鉢・口縁	1A	TR2	(27.8)			色調黄褐色、表面落剥、2次被熱か、口縁肥厚せず素口縁	砂粒少量		
73	土製品	土錘	1A	褐灰色土層	長2.9	径1.1	重2.6	筒状、小型	精良		
74	土製品	土錘	1A	褐灰色粘土層	長4.4	径1.2	重4.5	筒状	精良		
75	土製品	土錘	1A	褐色土層	長3.3	径1.3	重5.4	筒状	精良		
76	土製品	土錘	1A	褐灰色土層	長(3.6)	径1.4	重(5.8)	筒状	精良		
77	土製品	土錘	1A	黒褐色粘土層	長(3.1)	径1.4	重(5.0)	筒状	精良		
78	土製品	土錘	1A	灰色粘土層	長5.2	径1.4	重8.0	筒状	精良		
79	土製品	土錘	1A	黒褐色粘土層	長4.9	径1.5	重9.3	筒状	精良		
80	土製品	鞆羽口	1A	灰色粘礫土層		径9.0	孔径3.0	筒状、赤化	砂粒多量		
81	金属製品	煙管・吸い口	1A	西側・壁	長(6.5)	径1.1		吸口部、彫金等は施さず	銅？	近現代	
82	金属製品	鉄釘	1A	セクション1	長4.5	厚0.7		和釘、断面四角、頭部分細まる	鉄		
83	瓦	平瓦	1A	灰褐色土層		幅21.3	厚2.2	凹面布目、凸面離れ砂	精良		
84	瓦	平瓦	1A	灰色粘礫土層			厚2.4	両面離れ砂、ナデ整形	微砂粒少量		
85	瓦	平瓦	1A	褐灰色土層			厚2.4	篋ナデ、凹凸面離れ砂	微砂粒少量		
86	瓦	平瓦	1A	褐灰色粘土層			厚2.3	両面離れ砂、篋ナデ、歪む	微砂粒少量		
87	石製品	温石	1A	灰色粘土層下層	長10.2	幅(7.2)	厚1.3	下端が裾広がり、断面形は内湾気味。全面を研磨、下部に沈線の横線、上部に径0.9cmの円孔を穿つ、石鍋の転用品か	滑石		
88	石製品	石鍋・口縁	1A	灰色粘土層				口縁下に鏝の削り出し、内外面削り調整、外面煤付着	滑石製	15C前半	

## 第3節 1B区

### 概要

進入道路部分に相当し、調査対象地の東端、1A区の東隣りに位置し、トレンチ状に細長い調査区である。大グリッドDI・II、EIに相当する。調査面積は201㎡である。遺物包含層は深く表土から1.3mを測り、近世から中世迄遺物包含層が5枚に分かれていた(第15図)。遺構は2面検出している。中世の遺構は柱穴を数基検出しているものの、幅の狭い調査区のために配列は明確に掴めなかった。

遺物は3層からは17C後半から18Cの陶磁器類、4層から15C後半から16C前半の青磁類、5層から14Cの緑釉皿等、6、7層が13C中葉の捏ね鉢等が出土しており、各層の時期は13C後半から16C前半に跨るものである。その後、近世まで遺物の出土は認められるものの、遺物量も少なく、遺構も極めて少ない状態であった。

#### (1) 1B柱穴(第15図、第16図89～102)

1面目(第15図)は4層で検出した。調査区の中央部に纏まっている。「L」字状になっており、南北列のものはほぼ同一規模で建物跡になる可能性がある。P1から14で、P1～3、6、8から土器皿等が出土しているものの、時期の分かる陶磁器類は出土していない。

P1からは89、90の土器小皿が出土している。共に体部の開くものである。底部は回転糸切りである。P2からは91の坏の口縁部破片で口縁は直立気味である。P3からは筒状の土錘が1点出土している。P6からは坏の底部と考えられる93が出土している。底径は小さく3.5cmである。体部は開く。P8からは94、95の坏及び土錘が出土している。94は皿状で体部が短く開き、底部は回転糸切りである。

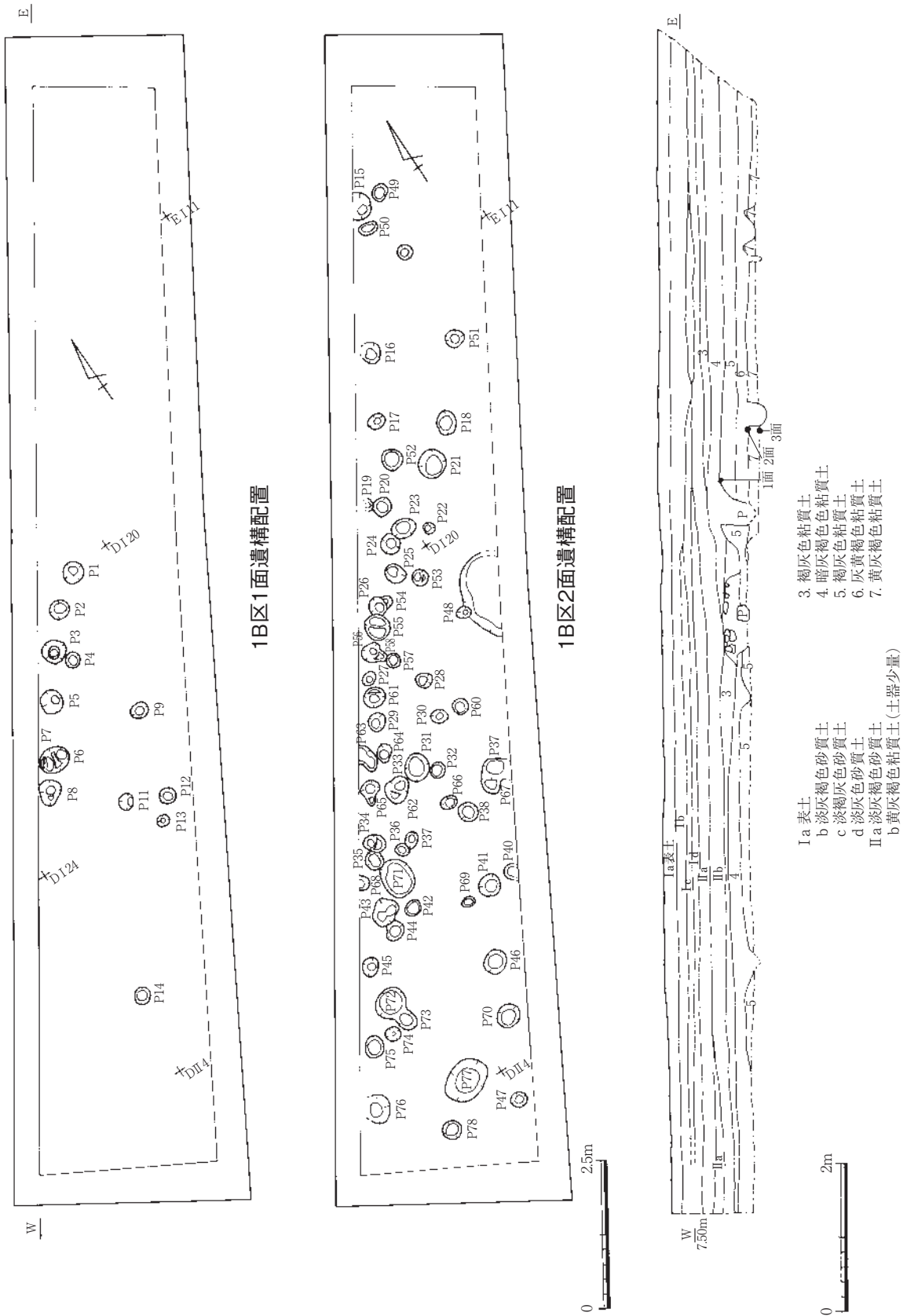
2面目(第15図)は7層で検出した。北壁側にやや片寄る傾向があるものの、調査区全域からほぼ満遍なく検出している。P71、72、76はやや大型の柱穴で並びもあり、建物跡の可能性が高い。しかしながら調査区外へと続き全貌は不明である。

P17からは96の青磁稜花皿、97の炆器甕が出土している。96は15C中から後半のものと考えられる。P50からは土器坏の底部98が1点出土している。内外面に強い轆轤目を残し、内面底は凹み、底部切り離しは回転糸切りである。P63からは99の土器坏底部が出土している。全体に摩耗しているが内面底は凹み、色調は黄白色を呈する。P72からは100の断面方形の鉄釘、P75からは101の筒状の土錘が出土している。P77からは102の土器坏底部が出土している。摩耗して整形は不明である。体部は開く。

#### (2) 1B区遺物包含層出土遺物(第16～18図103～201)

##### ①陶磁器類(第16、17図103～125)

##### 白磁



第15図 1B区遺構配置図

103は白磁端反り皿で口縁端部が反る。15Cから16Cのものと考えられる。3層中からの出土で、混入品か。

#### 青花

104から106は青花で、104が皿底部、105、106は坏で105は玉取り獅子で15C後半のものか。104は3層、他は4層出土である。

#### 青磁

107から115は青磁で107は皿で碁笥底、底裏露胎となっており、15C後半から16C前半、108は稜花皿で15C中から後半のものと考えられる。109は坏で口縁部が屈曲する。15C中から後半か。110から115は碗で、110、111は共に線描き蓮弁文で15C後半から16C前半と考えられる。113は無文。114、115は底部破片で114の見込み内は字款「金」か。青磁は主に4層出土である。

#### 瀬戸・その他

116は天目茶碗、117、118は緑釉皿、小皿で14Cと考えられ、5層出土である。119は鉢の底部で絵唐津である。

#### 近世陶磁器

120から125は近世のものと考えられる。120から122は肥前産で17C後半から18Cのものである。125は褐釉の徳利か。近世の陶磁器は主に3層出土である。

### ②土器(第17図126～155)

#### 小皿

126から135で、内133から135は底部破片である。口径は6から7cm台で器高は2cm未満である。底径にはばらつきがあり、5cm台が最も多く、小さなものは3cm台の2種類に大きく分かれる。底部切り離しは回転糸切りである。127には簀子状圧痕が残る。体部は開くものが多く、131と132のみ箱形のものである。126はやや轆轤目が残る。出土層位は箱形の131、132が下層の7層から出土している。また底径の大きなものは下層7層に小さなものは上層4層に纏まる傾向がある。

#### 坏

136から154で、その中で底部破片は143から154である。136から140は体部の開くもので、136、137は4層出土、139、140は轆轤目を強く残すもので7層からの出土である。141、142は箱形のもので5、6層の出土である。底部破片は143が腰部に丸味を持つもの以外は開く。143から145は上層4層から出土している。149から151は体部に轆轤目を顕著に残すもので、色調も黄白色を呈し、149は6層、150は7層出土である。152から154は器肉の厚いもので、器形は箱形になるものと考えられ、底径も7cm台で6・7層出土のものである。

#### 埴塼

155は小型の埴塼で口径5.0cm、器高2.6cmのものである。器肉は厚く、浅い。口縁は丸味を持ち、丸底である。器壁は硬く、底部内面が褐色に変化している。

### ③瓦質土器(第18図156)



156は鉢の口縁部破片である。口径35.4cmを測り、体部はごく僅かにくびれ、素口縁で内面横ナデである。

④ 炆器 (第18図157～160)

157から159は捏ね鉢で13C中の東播磨のものか。160は擂鉢で、口縁は肥厚し、立ち上がる。内外面の色調は灰色である。15Cの備前産か。157から159は5から7層出土、160は4層出土である。

⑤ 土製品 (第18図161～188)

161から188は筒状の土錘で、161は3層から、162から179は4層から、180、181は5層、182から186は6層、187、188が7層から出土している。4層からの出土が多く、上層からの出土のものにやや小型のものが多い傾向がある。

⑥ 銭貨 (第18図189)

189は「永樂通寶」で字体は明瞭である。4層からの出土である。

⑦ 金属製品 (第18図190～198)

鏡

190、191は同一個体の可能性がある。190は銅製で突帯が巡り、裏面研磨する。時期は不明である。共に4層出土である。

不明製品

192は銅製で両端部欠損し、緩やかにカーブする。厚みがあり、文様等はない。4層出土である。

楔

193は鉄製で楔の可能性がある。先端部は刃のように尖る。6層からの出土である。

釘

194から197の4点は断面方形の鉄製の和釘である。194、195は4層、196、197は6層からの出土である。

鉄鍋

198は口縁下に鏝が付く大型品である。口径は復元できなかった。7層からの出土である。

⑧ 石製品 (第18図199～201)

石鍋

199は口径18.8の滑石製石鍋である。口唇は平坦、口唇下に鏝が付く、外面の整形面取りで、外面の色調は黒色を呈する。15Cの製品か。4層出土である。

砥石

200、201は共に砥石で、200は扁平な粘板岩、201は軽石である。201には溝がある。共に4層出土である。

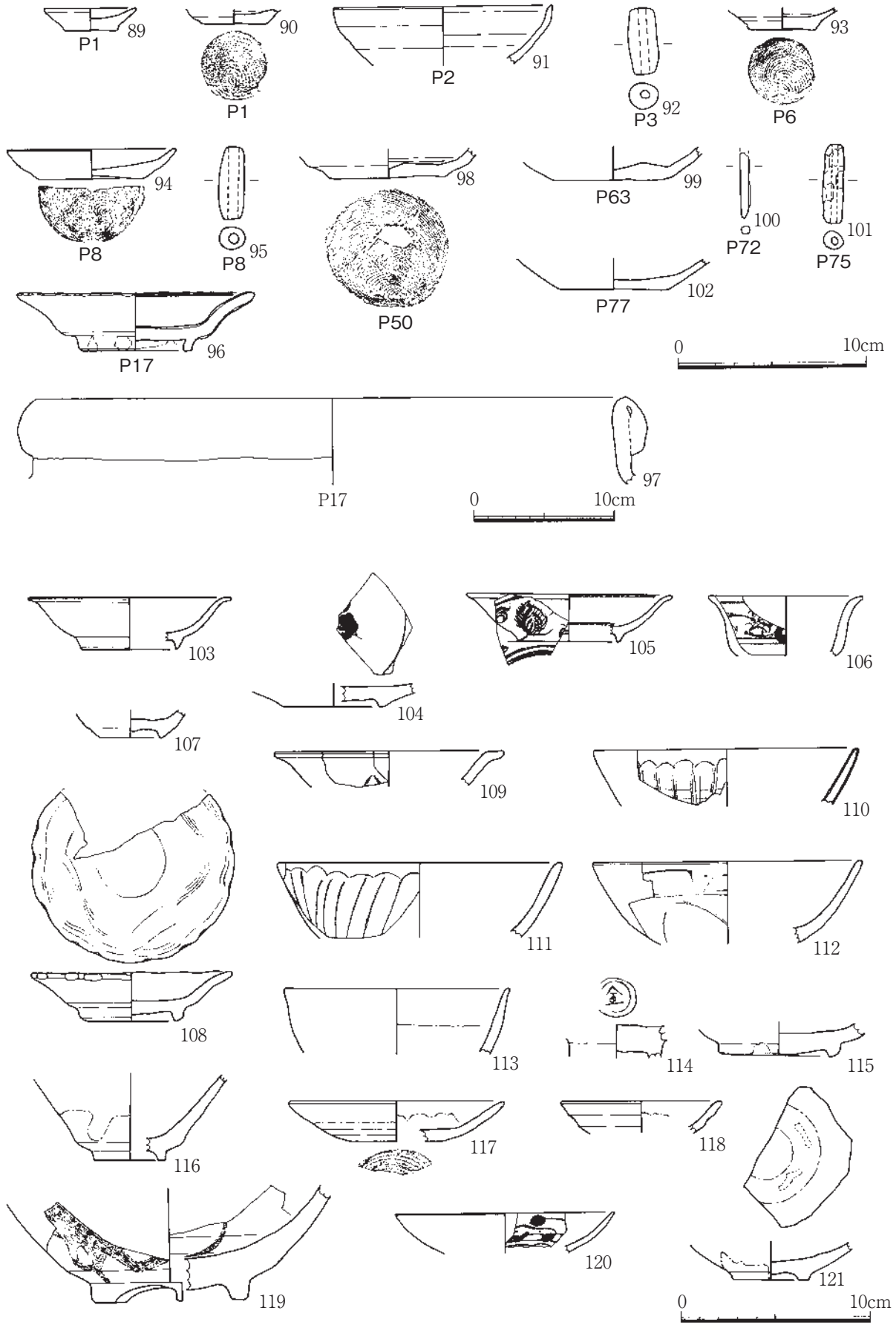
### (3) 1B区小結

今回の調査で東端の調査区に該当する。調査区はトレンチ状で、遺構確認面は2面確認しており、1面目の遺構数は極めて少ない。2面目は柱穴を多く確認しているものの、配列は判然としない。

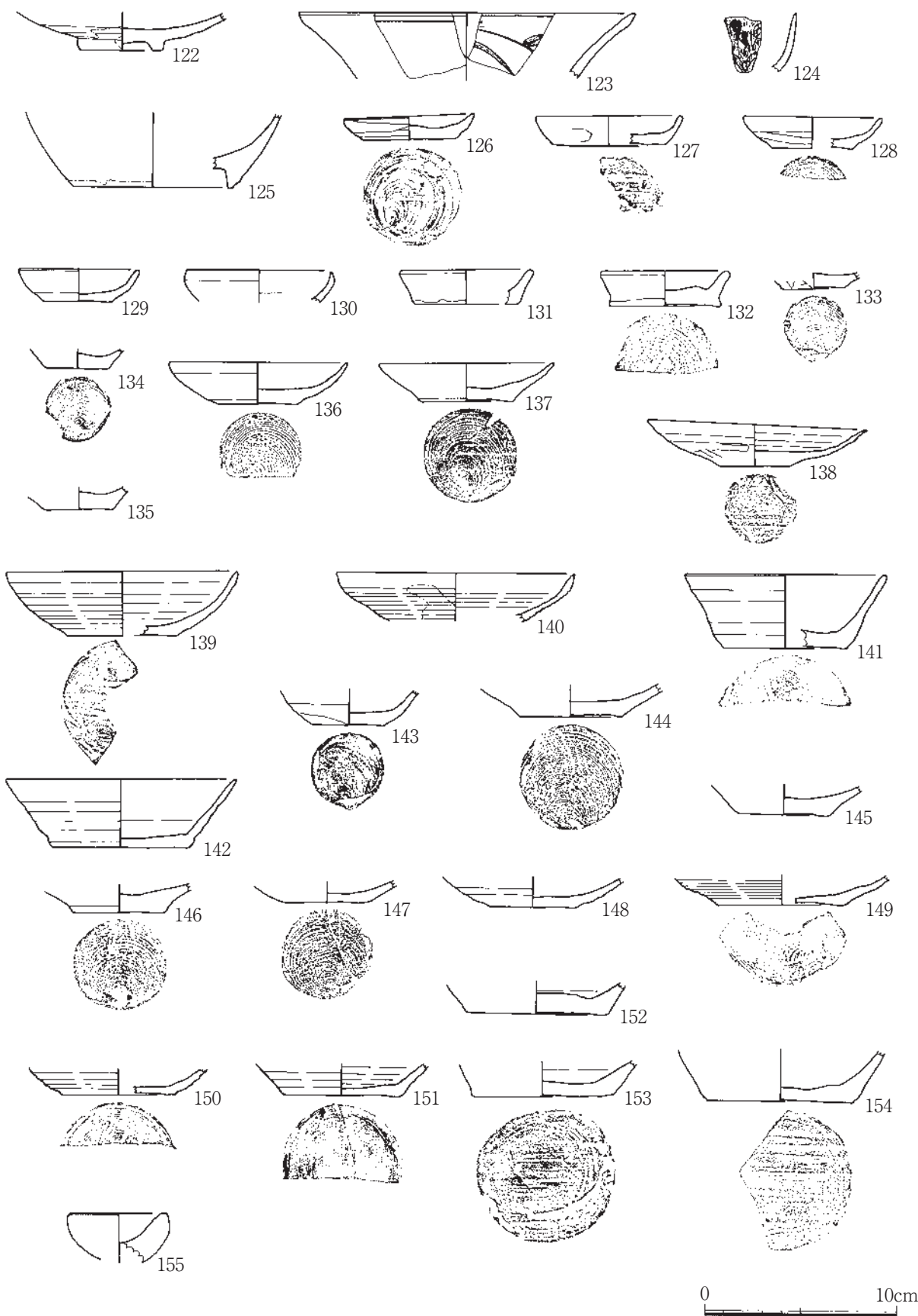
遺物の出土を層位別に見ていくと、3層からは近世の陶磁器類が主体となって出土し、4層からは15C中から後半の青磁類が主に出土している。5層からは14Cの瀬戸製品が、6、7層からは13C中葉の捏ね鉢類が出土しており、13Cから18Cの遺物群が各層位に分かれて出土する。

土器類は小皿、皿に近い形態の坏がそれぞれ出土しており、層位での傾向は、小皿は底径の小さなものが4層、大きなものが7層から出土する傾向にあり、箱形の131、132が下層の7層から出土している。坏は149から151の体部に轆轤目を顕著に残し、色調も黄白色を呈するものと、箱形で底径も7cm台の大きなものが6・7層から出土する傾向がある。

本調査区では煮沸具は出土しておらず、調理具の捏ね鉢が下層でやや纏まっている。それ以外に土錘が多い。本調査区では寺院跡関連のものは出土していない。地検帳(天正17年1589)では「ヤシキ」跡部分に相当すると考えられ、それ以前も屋敷跡の可能性が考えられる。

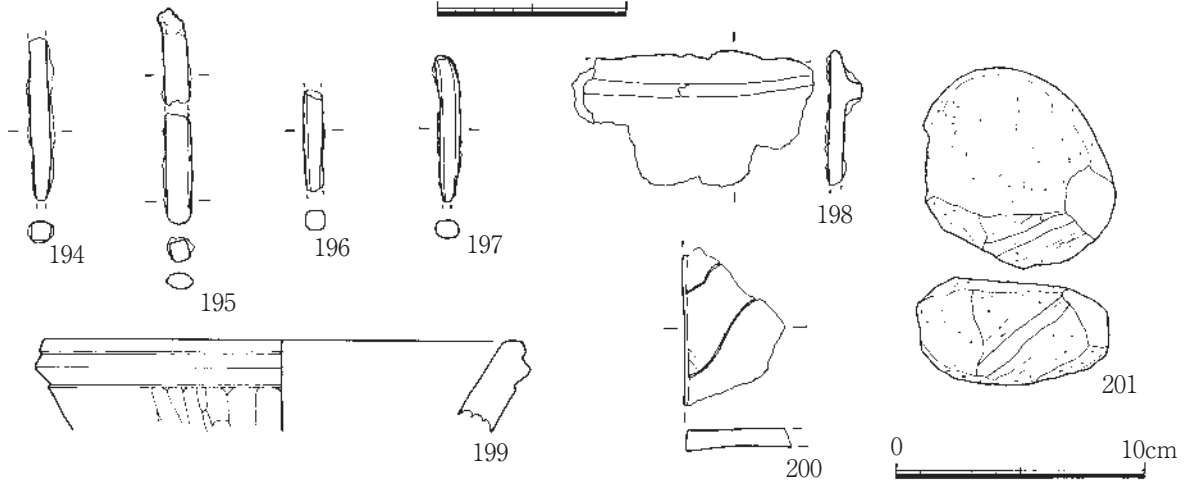
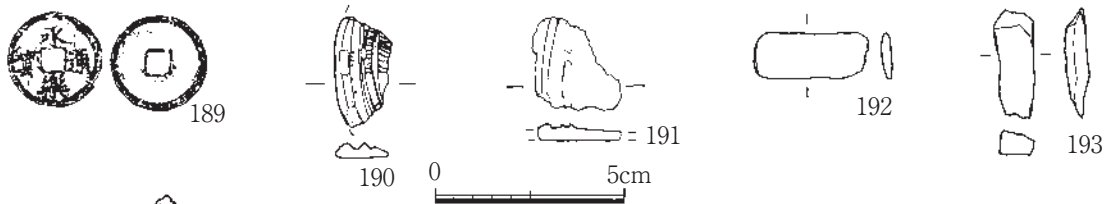
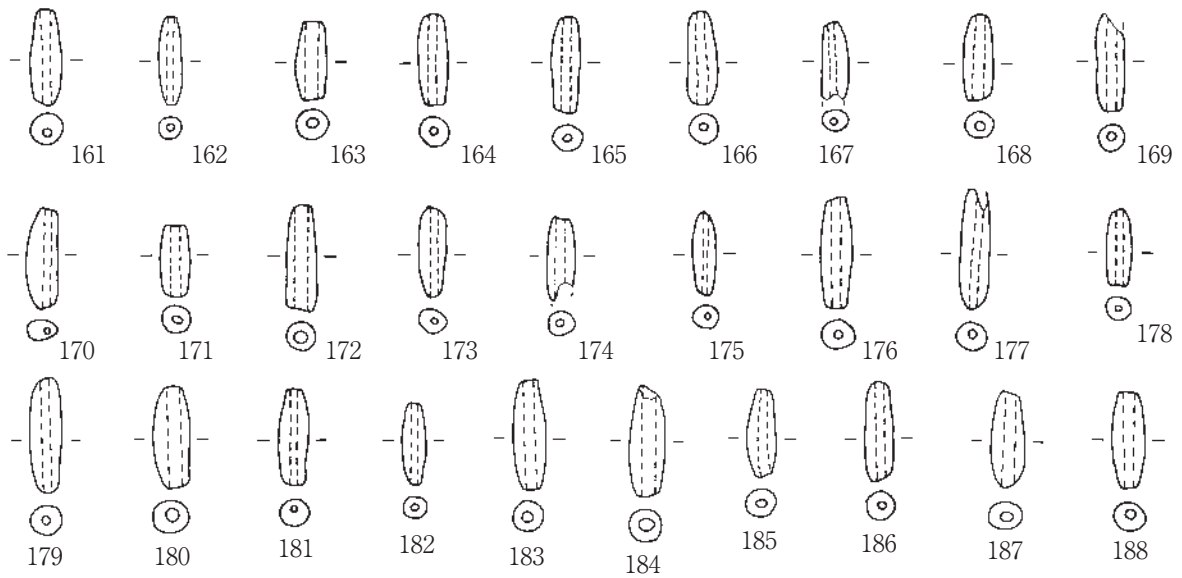
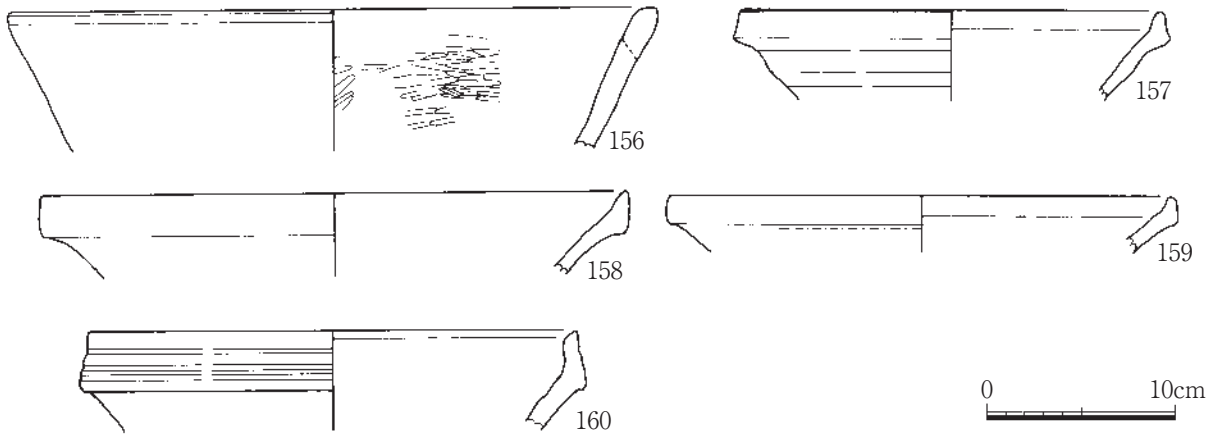


第16図 1B区遺物実測図1



0 10cm

第17図 1B区遺物実測図2



第18図 1B区遺物実測図3

表4 1B区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
89	土器	小皿	1B	P1	(4.9)	1.2	2.9	摩耗、底径小、底部糸切り、体部開く	精良		
90	土器	小皿・底部	1B	P1			3.6	やや摩耗、底径小、底部糸切り、体部開く	精良		
91	土器	坏・口縁	1B	P2	(11.6)			体部開く、口縁僅かに内湾気味	精良		
92	土製品	土錘	1B	P3	長3.5	径1.5	重8.6	筒状	精良		
93	土器	坏・底部	1B	P6			3.5	皿状、底径小、底部糸切り、体部開く	精良		
94	土器	坏	1B	P8	(8.9)	1.6	(5.5)	皿状、底部糸切り、体部短く僅かに内湾気味	精良		
95	土製品	土錘	1B	P8	長3.9	径1.4	重5.4	筒状	精良		
96	陶磁器	青磁稜花皿	1B	P17・6層	12.6	3.1	6.0	口縁開く、口唇稜花、底裏露胎	灰色、精良	15C中～後半	
97	炆器	甕?・口縁	1B	P17・6層	(41.8)			口縁折り返し肥厚、艶のある鉄釉?	大粒砂粒少量		
98	土器	坏・底部	1B	P50・m102			6.2	底部糸切り、体部開く、内外面強い轆轤目	精良		
99	土器	坏・底部	1B	P63			6.2	摩耗、底部糸切り?、箕子状圧痕、体部開く、内外面黄白色	精良		
100	金属製品	鉄釘	1B	P72	長(3.5)	径0.5	重(1.5)	両端部欠損、径やや細い、断面方形	鉄		
101	土製品	土錘	1B	P75	長4.2	径1.1	重4.2	筒状、指頭圧痕	精良		
102	土器	坏・底部	1B	P77			5.7	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
103	陶磁器	白磁端反り皿	1B	3層	(10.8)	2.7	(5.0)	口縁端部反る	精良	15～16C	小野E群
104	陶磁器	青花皿・底部	1B	3層			(5.6)	畳付け無釉	白色、精良		
105	陶磁器	青花坏	1B	4層	(11.0)	2.5	(5.4)	口縁端部反る、体部外面絵付け、玉取り獅子	白色、精良	15C後半	
106	陶磁器	青花坏	1B	4層	(8.2)			腰部屈曲、口縁端部反る、外面梅月文	白色、精良		
107	陶磁器	青磁皿・底部	1B	4層下			(3.2)	基箭底、底裏露胎	灰白色、精良	15C後半～16C前半	
108	陶磁器	青磁稜花皿	1B	4層・m101	10.6	2.6	4.6	口縁開く、口唇稜花、底裏露胎	灰色、精良	15C中～後半	
109	陶磁器	青磁坏・口縁	1B	4層	(12.2)			口縁屈曲、蓮弁文?	灰白色、精良	15C中～後半	
110	陶磁器	青磁碗・口縁	1B	4層	(14.0)			線描き蓮弁文	灰白色、精良	15C後半～16C前半	
111	陶磁器	青磁碗・口縁	1B	4層	(15.0)			線描き蓮弁文、青褐色を呈する	赤褐色、精良	15C後半～16C前半	
112	陶磁器	青磁碗・口縁	1B	4層	(14.4)			透明感のある青色、外面文様	灰白色、精良		
113	陶磁器	青磁碗・口縁	1B	4層下	(12.0)			無文、内面下半白色、他は淡青色	白色、精良		
114	陶磁器	青磁碗・底部	1B	3層・m103				削り出し高台、見込み内字款「金」?	乳白色、精良		
115	陶磁器	青磁碗・底部	1B	m103			6.4	見込み内釉剥ぎ、外面底裏露胎	灰色、精良	15C前半	
116	陶磁器	天目茶碗・底部	1B	m102			(3.6)	付け高台、内面厚い天目釉、外面下半露胎	灰白色、精良	中2期	瀬戸天目
117	陶磁器	緑釉皿	1B	5層・m101	(11.3)	2.2	(5.1)	口縁部内外に緑釉	乳白色、精良	14C	
118	陶磁器	小皿・口縁	1B	5層・m102	(11.2)			体部開く、外面轆轤目、口縁内面施釉	白色、精良	14C	瀬戸
119	陶磁器	鉢・底部	1B	3層			(8.2)	切り高台、刷毛化粧、外面下半褐色露胎	微白色鈹物粒少量		絵唐津
120	陶磁器	染付碗・口縁	1B	3層	(11.6)			内面絵付け	白色、精良	近世	肥前
121	陶磁器	銅緑釉皿・底部	1B	3層			4.0	見込み蛇の目、目跡、内面銅緑釉、削り出し高台、露胎		17C後半～18C	肥前内野山窯
122	陶磁器	銅緑釉皿・底部	1B	4層・m102			4.4	見込み蛇の目、目跡、内面銅緑釉、削り出し高台、露胎		17C後半～18C	肥前内野山窯
123	陶磁器	染付碗?・口縁	1B	3層	(17.6)			内面草花文?	灰白色、精良	近世	

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
124	陶磁器	染付碗?・口縁	1B	3層				腰部に丸味	白色、精良	近世	
125	陶磁器	褐袖徳利?・底部	1B	3層			(8.2)	基部底、畳付け露胎	灰白色、精良	近世	
126	土器	小皿	1B	6層・m103	6.6	1.2	5.0	底部糸切り、体部短く立ち上がる、体部内面強い轆轤目、焼き堅致	精良		
127	土器	小皿	1B	7層	(7.5)	1.6	(5.9)	底部箕子状圧痕、口縁内湾	精良		
128	土器	小皿	1B	4層	(7.2)	1.7	(4.2)	底部糸切り、体部短く僅かに内湾気味、焼き堅致	精良		
129	土器	小皿	1B	3層下	6.2	1.7	3.7	摩耗、体部短く内湾気味、内外面黄白色	精良		
130	土器	小皿	1B	4層	(7.4)			焼き堅致、須恵質、口縁短く内湾して立ち上がる	灰色、精良		
131	土器	小皿	1B	7層	(6.7)	1.8	(5.4)	底部糸切り、体部短く僅かに外傾	微砂粒少量		
132	土器	小皿	1B	7層	(6.4)	1.9	(5.7)	底部糸切り、体部短く僅かに外傾	精良		
133	土器	小皿・底部	1B	1TR			3.2	底部糸切り、体部開く	精良		
134	土器	小皿・底部	1B	6層			3.2	底径小、底部糸切り、体部開く	精良		
135	土器	小皿・底部	1B	4層			3.6	摩耗、回転糸切り?、底径小、体部開く、内外黄白色	精良		
136	土器	坏	1B	4層・m101	(9.2)	2.2	4.2	底部糸切り、内面やや強い轆轤ナデ	精良		
137	土器	坏	1B	4層・m102	(9.0)	2.0	4.8	底部糸切り、体部外傾気味	精良		
138	土器	坏	1B	6層	(11.4)	2.2	3.6	底径小、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内面強い轆轤目	精良		
139	土器	坏	1B	7層	(11.9)	3.5	(5.7)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、外面強い轆轤目	精良		
140	土器	坏・口縁	1B	7層	(12.2)			体部開く、内外面強い轆轤目、焼き堅致	精良		
141	土器	坏	1B	5層	(10.4)	3.9	(6.4)	底部糸切り、体部僅かに開く、内面底強い轆轤目	精良		
142	土器	坏	1B	6層・m101	(12)	3.6	7.1	底部摩耗、体部やや開く、体部外面強い轆轤目	精良		
143	土器	坏・底部	1B	4層			3.6	底径やや小、回転糸切り、体部やや内湾気味	精良		
144	土器	坏・底部	1B	4層・m101			5.3	底部糸切り、体部開く、タール状物質?付着	精良		
145	土器	坏・底部	1B	4層上			5.0	摩耗、回転糸切り?、体部開く	精良		
146	土器	坏・底部	1B	5層			4.9	底部糸切り、体部開く	精良		
147	土器	坏・底部	1B	1TR			(4.6)	内外面やや摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
148	土器	坏・底部	1B	1TR			(4.5)	内外面摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
149	土器	坏・底部	1B	6層			(6.6)	底部糸切り、体部開く、内外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
150	土器	坏・底部	1B	7層			(5.8)	底径小、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、外面強い轆轤目	精良		
151	土器	坏・底部	1B	m103			6.1	底部糸切り、体部開く、内外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
152	土器	坏・底部	1B	6層・m103			7.4	底部摩耗、体部やや開く、体部内面轆轤目	精良		
153	土器	坏・底部	1B	7層・m103			7.3	底部糸切り?、箕子状圧痕、体部僅かに外傾	精良		
154	土器	坏・底部	1B	7層・m101			7.6	底部糸切り、箕子状圧痕、体部僅かに外傾、内面轆轤目、内外面赤褐色	精良		
155	土器	坩堝	1B	4層	(5.0)	(2.6)		器肉厚く、浅い、口縁丸味、丸底、高温で硬化、底部内面褐色に変化	砂粒少量、粗い		
156	瓦質土器	鉢・口縁	1B	m101	(35.4)			体部ごく僅かにくびれる。素口縁、内面横ナデ	微砂粒多量、金雲母少量		
157	炆器	捏ね鉢・口縁	1B	5層	(30.6)			口縁拡張、立ち上がる	微砂粒少量	13C中～後半	東播磨
158	炆器	捏ね鉢・口縁	1B	6層	(26.5)			口縁拡張、立ち上がる	微砂粒少量	13C中～後半	東播磨
159	炆器	捏ね鉢・口縁	1B	7層・m101	(22)			口縁拡張、立ち上がる、口縁自然釉	微砂粒少量	13C中	東播磨

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
160	炆器	播鉢・口縁	1B	4層	(25.7)			口縁肥厚し、立ち上がる、内外面灰色	砂粒少量	15C	備前
161	土製品	土鍾	1B	3層	長 (3.8)	径1.3	重 (5.3)	筒状	精良		
162	土製品	土鍾	1B	4層暗灰褐色粘質土	長3.5	径0.9	重2.4	筒状、小型	砂粒微量		
163	土製品	土鍾	1B	4層	長3.2	径1.2	重 (3.6)	筒状	精良		
164	土製品	土鍾	1B	4層	長3.6	径1.2	重4.8	筒状	精良		
165	土製品	土鍾	1B	4層	長3.8	径1.2	重4.8	筒状	精良		
166	土製品	土鍾	1B	4層	長3.7	径1.2	重5.1	筒状	精良		
167	土製品	土鍾	1B	4層	長 (3.1)	径1.1	重 (2.5)	筒状、小型、曲る、穴はまっすぐ	赤色鉱物粒少量、精良		
168	土製品	土鍾	1B	4層	長3.4	径1.2	重3.2	筒状	赤色鉱物粒少量、精良		
169	土製品	土鍾	1B	4層	長 (3.9)	径1.1	重 (3.7)	筒状	精良		
170	土製品	土鍾	1B	4層	長4.0	径1.3	重4.2	筒状、小型、曲る、穴はまっすぐ	精良		
171	土製品	土鍾	1B	4層	長2.8	径1.2	重3.8	筒状	精良		
172	土製品	土鍾	1B	4層	長 (4.3)	径1.2	重 (4.9)	筒状	精良		
173	土製品	土鍾	1B	4層	長 (3.6)	径1.1	重 (3.2)	筒状、小型	精良		
174	土製品	土鍾	1B	4層	長 (3.4)	径1.1	重 (2.9)	筒状	精良		
175	土製品	土鍾	1B	4層上	長 (3.4)	径1.0	重 (2.7)	筒状、小型、孔径小さい	精良		
176	土製品	土鍾	1B	4層上	長4.5	径1.2	重6.5	筒状	精良		
177	土製品	土鍾	1B	4層上	長 (4.8)	径1.2	重 (5.7)	筒状	精良		
178	土製品	土鍾	1B	4層上	長 (3.1)	径1.0	重 (2.7)	筒状、小型	精良		
179	土製品	土鍾	1B	4層	長4.6	径1.3	重6.8	筒状	砂粒微量		
180	土製品	土鍾	1B	5層	長4.0	径1.4	重6.3	筒状	砂粒微量		
181	土製品	土鍾	1B	5層	長3.9	径1.2	重4.5	筒状	精良		
182	土製品	土鍾	1B	6層	長3.2	径0.9	重2.1	筒状、小型	砂粒微量		
183	土製品	土鍾	1B	6層	長4.3	径1.3	重 (7.0)	筒状	砂粒微量		
184	土製品	土鍾	1B	6層	長4.4	径1.4	重 (6.2)	筒状	精良		
185	土製品	土鍾	1B	6層	長3.5	径1.2	重3.3	筒状、小型	砂粒微量		
186	土製品	土鍾	1B	6層	長4.0	径1.2	重4.8	筒状	精良		
187	土製品	土鍾	1B	7層	長 (3.8)	径1.3	重 (4.6)	筒状	砂粒微量		
188	土製品	土鍾	1B	7層	長3.9	径1.3	重5.2	筒状	精良		
189	銭貨	古銭	1B	4層・301	径 (26) mm	厚1.2 mm	孔径 (5.4) mm	永樂通寶、字体明瞭	銅		
190	金属製品	鏡	1B	4層・1001			厚 (0.5)	突帯が巡る、裏面研磨	銅製	中世以降か	
191	金属製品	鏡	1B	4層・1002			厚 (0.5)	鏽のため不明、突帯が巡る、	銅製	中世以降か	
192	金属製品	不明銅製品	1B	4層暗灰褐色粘質土	長 (4.5)	幅1.8	厚0.5	両端部欠損、緩やかにカーブする、厚みあり、文様等はなし	銅		
193	金属製品	楔?	1B	6層下・1001	長 (4.2)	幅1.6	厚0.9	先端部刃のように尖る	鉄		
194	金属製品	鉄釘	1B	4層・1001	長 (6.5)	径1.1	重 (6.4)	鏽著しい、両端部欠損、断面方形	鉄		
195	金属製品	鉄釘	1B	4層・1002	長8.1	径1.0	重9.9	鏽著しい、頭部曲る、断面方形	鉄		
196	金属製品	鉄釘	1B	6層	長 (4.1)	径0.8	重 (5.1)	両端部欠損、断面方形	鉄		
197	金属製品	鉄釘	1B	6層	長 (5.7)	径0.9	重 (7.7)	頭部膨らむ、先端部すぼまる、断面方形	鉄		
198	金属製品	鉄鍋	1B	7層・1001			厚 (1.3)	大型、口縁下に鏽が付く、	鉄		
199	石製品	石鍋・口縁	1B	4層・m101	(18.8)			口唇平坦、口唇下鏽、外面整形面取り、外面黒色	滑石	15C	
200	石製品	砥石	1B	4層	長 (6.1)	幅 (4.4)	厚 (0.8)	扁平、表裏面擦痕	粘板岩		
201	石製品	有溝砥石	1B	4層	長7.8	幅7.3	厚4.0	幅6mm、深さ2mmの溝、一面のみ使用	軽石		



## 第4節 2A区

### 概要

2A区は3区の下段に位置する。調査面積は507㎡である。調査面積は狭いものの、大型の柱跡と柱痕を検出している。棟が東西方向に並ぶ柱痕の残った柱穴列を検出しており、中に径30cmを超える柱痕もあり、大型の建物跡であった可能性が強い。また、調査区北側と西側には石列が鈎状に配されており、通路の可能性が強い。3A区には石段状遺構が2A区と接して構築されており、本調査区は寺院跡の門、入り口部に相当する可能性がある。

出土遺物は15世紀前半の陶磁器類、日常雑器類、瓦、銭貨類である。中心となる時期は15世紀前半であるが、他に14世紀及び16、17世紀の15世紀を中心とした前後の時期のものが出土している。寺院門跡以外の時期にも居住空間として利用された時期もあったものと考えられる。

### (1) 2A区建物跡

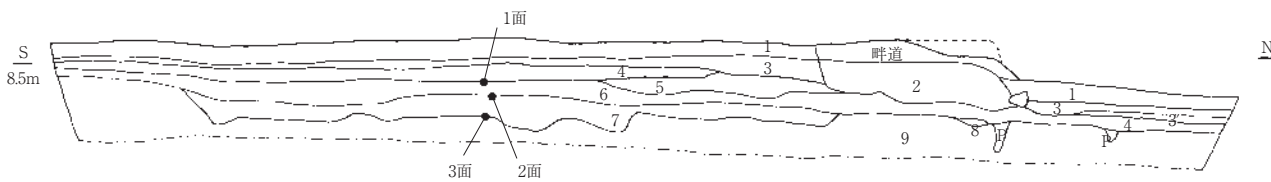
3棟検出した。建物跡1は柱痕の残るもので、明確に並びを検出できたが、建物跡2、3については余り判然としない。しかしながら等間隔でほぼ並びが認められたことから建物跡として報告する。3棟は共に軸方向が一緒で重なり合うことから、各々が独立したものではなく、全体で一つの建物跡の可能性、または短期間の内の構築のため軸が同一方向になった可能性が考えられる。

#### ①2A区建物跡1(第20図、第23図202～212、第32図W1～W5)

調査区のやや南西寄りB・CⅢグリッドに位置する。上層部で検出をしている。径20cmから30cmの柱痕を6本検出した。最大で34cmのものが出土している。東西棟で軸はN-62°-Eである。2間×1間で長さ6.4m、幅2.2mである。棟の2間は幅が違っており、東側が長く4mを測る。2A石列1を跨ぎ、跨ぐ部分の柱間は狭い。柱痕3、4は接近して並んでおり、柱の付け替えがあった可能性がある。柱穴の掘方は柱痕3が径62cm、深さ78cm、柱痕5が径48cm、深さ54cm、柱痕6が径37cm、深さ42cm、柱痕2が径36cm、深さ30cmで大きい。

出土遺物は柱痕2からは202から204の土器坏2点、土錘が出土している。203は体部に強い轆轤目を残し、内面底は凹む。柱痕3・4からは205から209が出土し、205から208は土器坏で底径が大きなものが多い。205は内面底の凹むものである。206は外面に208は内面に強い轆轤目を残す。208は体部が開かないで箱形に近いものである。柱痕5からは210の土器坏が出土している。形態的には208に似る。柱痕6からは211の土器坏が出土している。器高が4cmとやや高く、口縁が僅かに内湾気味で、内面には轆轤目を残す。

W1からW5の柱痕は、W1が柱痕2、W2が柱痕3、W3が柱痕4、W4が柱痕5、W5が柱痕6からの出土である。また調査ミスの為、出土地点が不明となっているW15からW17も本建物跡の柱痕の可能性もある。最も大きなものはW2の残存長98cm、径34cmである。樹皮を除去し、先端部を加工する。材質はW1からW3はニヨウマツである(第三章参照)。



2区西側セクション

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 表土           | 5. 黄橙色礫混土(礫塊小)  |
| 2. 黄橙色土 盛土      | 6. 黒灰色粘土        |
| 3. 表土下土         | 7. 黒灰色粘土(砂利混じる) |
| 4. 暗灰色粘土(黄色)    | 8. 黒灰色粘土        |
| 4. 暗灰色粘土に黄色土混じる | 9. 緑黄橙色粘土       |



第19図 2A区遺構配置図

建物跡1の柱痕からは時期の判然とするものは出土していないため、時期決定は困難であるものの、周辺の遺構等の兼ね合いから15C代相当と考えられる。建物跡1の機能は門跡の可能性はある。

②2A区建物跡2(第20図、第23図213、214、289、290)

建物跡2は調査区のほぼ中央で東側部は調査区外へと広がる可能性がある。調査区内では東西棟で3間×2間で東西(6.4)m×南北5.1mである。柱間は東西約2m、南北2.5mである。

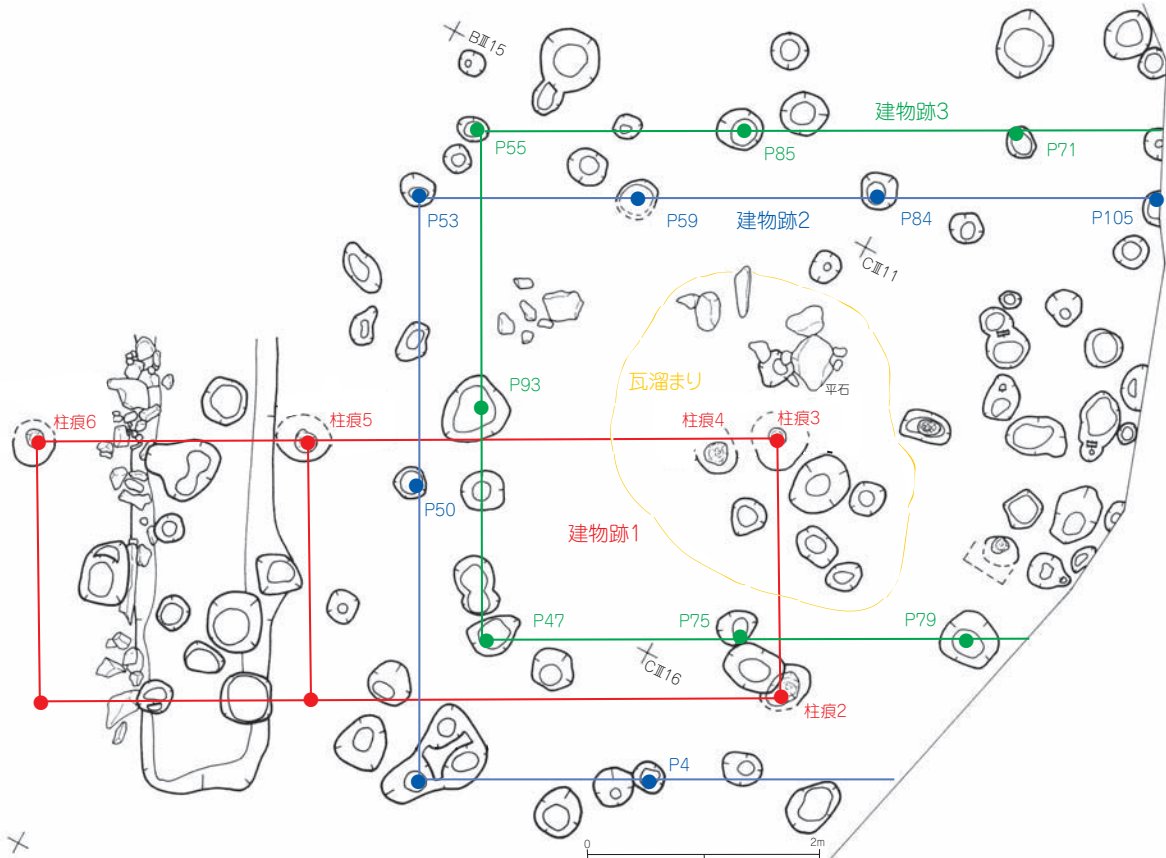
遺物は柱穴P4から213の土器坏が出土している。体部は開き内面に轆轤目を残す。P32から289の土器坏底部、290の羽釜が出土している。289は内面に轆轤目を残し、色調は黄白色である。290は胴部に斜方向の並行タタキを施す。15C前半の播磨か。P53からも214の坏が出土している。

建物跡2の時期は建物跡3と重なるため若干の时期的なズレがあるものの、建物跡3と軸を同じくすることから、15C代と考えられる。それも柱穴からは時期の分かるものは290の羽釜から15C前半の所産の可能性が強い。

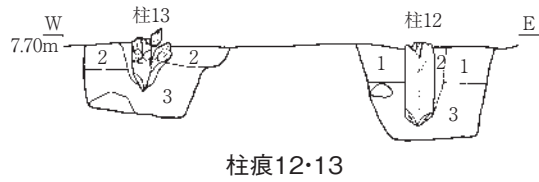
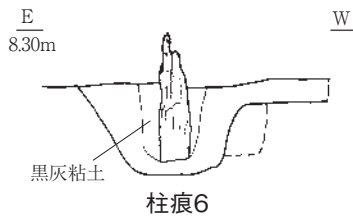
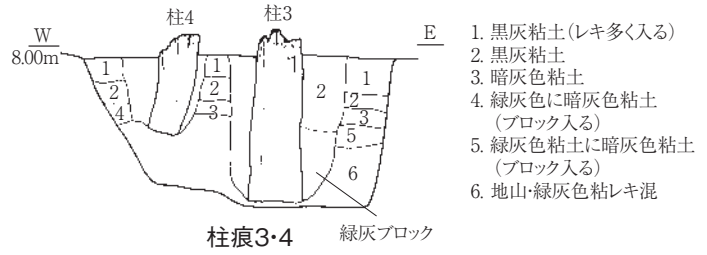
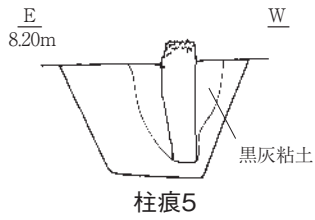
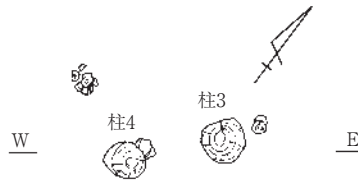
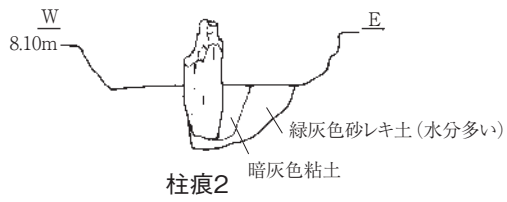
③2A区建物跡3(第20図、第23図215～218)

建物跡3は建物跡2と重なり、やや北東にずれる。調査区外へと更に広がり、調査区内では東西棟で2間×2間で東西(4.8)m×南北(4.4)mである。柱間は東西約2.2m、南北約2.2mである。

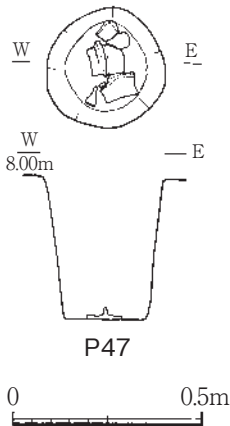
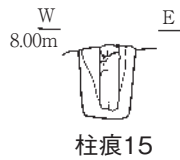
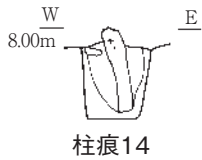
遺物は柱穴P47からは217の河内の羽釜が出土している。口縁に大きな鐳が付き、内面はハケ、



第20図 2A区建物跡



1. 緑灰色粘土に黒灰色粘土が入る
2. 黒灰色粘土
3. 緑灰色粘レキ土



第21図 2A区柱痕・柱穴遺構図

外面下半にヘラ削りを施す。14C後半から15Cのものか。215、216の土器小皿2点が出土している。216は体部が大きく開く。柱穴P79から218の箱形の皿が出土している。

建物跡3の時期はP47出土の羽釜の時期からして14Cから15Cの所産と考えられる。

## (2) 2A石列跡 (第22図、第23～25、32図219～267、W7)

石列は3条検出している。「L」字状を呈する。西側の南北列を石列1、北側の東西列を石列2とした。調査区中央部のものを石列3とした。

### ① 2A石列1・側溝 (第22図、第23、24図219～248、第32図W7)

西側部BⅢ9・14・19グリッドで南北にN-25°-Wの軸方向で縦走する。石列の東側には溝が伴う。石列は南側では判然としなくなる。北側部では調査区外へと延びる。調査区内での長さは約10mである。側溝は幅約0.6mから1.2m、深さ0.3mである。石列より西側は中小礫が多く、更に調査区外へと礫は広がる。2A石列2と交差する部分では縦長の大きな石を使用する。側溝からは菌朶類と考えられる植物の茎が底面に敷いたように出土しており、菌朶による地業を行なった可能性がある。

遺物は石列内より219から229が出土している。219、220は青磁碗で219は14Cから15Cの雷文帯である。

221は土器坏で内面底が凹む。222、223は羽釜で15C中葉のものか。222は河内、223は播磨と考えられる。224は備前の播鉢で15C前半のものか。225は土錘、226は唐草文の軒平瓦である。227は筭の可能性のある銅製品である。基部は唐草か藤の彫金を施し、中央部縦に溝を彫る。先端部は先細りし、裏面には文様はない。228は銭貨で「皇宋通宝」か。229は流紋岩製の砥石である。

側溝内からは230から248が出土している。230は白磁皿で15C中葉のものである。231は土器小皿で摩耗しており整形は不明である。体部は開く。232も小皿と考えられる。233から240は底部破片で器種は坏と考えられる。底部切り離しは238、240が回転糸切りかどうかは判然せず、篋切りの可能性がある。体部は開くものも多く、轆轤目を顕著に残すものは少なく、器肉がやや厚いものが多い。底径は238が最も大きく7.2cm、他のものは5cm台を中心とする。241は釜で口縁に丸味のある小さな鏝が付き、外面に斜タタキを施す。15C前半の播磨のものか。242は炆器鉢の底部である。243から246は播鉢で243、244は口縁を拡張する。14Cから15C前半の備前産か。他は底部破片である。247、248は瓦で247は丸瓦で凹面が平行コビキか、248は幅6cmで細長く、両側縁に面取りを施し、やや捻れ、凹面に布目が残る。道具瓦か。

側溝からは木製品W7が出土している。扁平な部材と考えられ、一端部は欠損し、裏面の整形やや粗い。幅は一部やや狭まる。

2A石列1・側溝は出土遺物からして、15C前半から中葉頃のものと考えられる。

### ② 2A石列2 (第22図、第24、25図249～267)

北側部BⅢ10グリッドで東西にN-70°-Eの軸で横走する。石列2には側溝は伴わない。調査区内では7.5mを測る。2A石列1と交わる手前の一帯は礫が少なく、その空間では柱穴P12、P13の2

本を検出している。その部分はおそらく通用口の可能性があり、2本の柱穴は扉か小門の可能性もある。

出土遺物は249から267が出土している。石列2に明確に伴う遺物は267の石臼で石列のやや東寄り  
で石列の礫に混じり出土している。他の遺物は混入の可能性のある遺物である。

249は15C後半の青花皿である。250は土器小皿、251から255は坏である。251は器肉が薄く、内  
外面共にやや強い轆轤目が残る。252から255は坏底部破片で底部切り離しは回転糸切りである。  
252、253は底径が4cm強で小皿の可能性もある。254、255は底径が5cm台のものである。共に体部  
が開く。256は羽釜で口縁部に鐳を貼付し、口唇は平坦である。胴部に斜方向の並行タタキを施し、  
外面に煤が付着する。15Cの播磨のものか。257から265は土錘で、257は2.6gと小型のものである。  
265の8.2g以外はやや小型のものが多い。266は銭貨で「元祐通寶」である。孔が潰れ、裏面は擦り  
減る。267は砂岩製の粉挽き臼である。目は4条で被熱する。

2A石列2は明確に時期の分かる遺物が伴っておらず、判然としないものの、2A石列1と同時期で  
15C前半から中葉頃と考えられる。

### ③2A石列3(第22図)

調査区の中央部BⅢ15グリッドで東西にN-65°-E軸である。柱痕3・4から0.6m程北側に位置し、  
長さ約3mである。構成礫は少なく、20点弱である。礎石の可能性のある平石が西側部と東側部で  
出土している。東側の平石は回りに小礫を配しており、すぐ脇で柱穴P70を検出している。石列3  
に伴う遺物は不明であるが、周辺域から瓦溜り及び古銭が纏まって出土している。またP70からは  
土器坏が出土しているものの時期の分かるものは出土していない。

石列3の時期は伴う遺物が不明のため、判然としないものの、他の遺構群と同時期の15C代か。  
15Cでも検出状況からするとやや新しい時期に相当する可能性がある。機能は判然としないものの、  
建物跡1にも接しており、また軸方向が近いこともあり、建物跡1に付帯する石列の可能性もある。

### (3) 2A瓦溜り(第19図、第25図268～278)

2A区では瓦が30点程出土しているが、特に柱痕3・4周辺で径約3mの範囲に纏まって出土してい  
る。同様に銭貨も比較的纏まって出土している。

268から270は土器で3点共に坏底部破片である。268は箱形のもの、269、270は体部が開くもので、  
269は内外面に、270は内面に轆轤目を残す。270は底径が大きく10cmを測る。

271から273は丸瓦である。271は凸面に縄目叩き痕、凹面に斜状コビキ、布目、ループ紐吊り痕  
が残り、色調が銀化する。272は凸面が縄目叩き後ナデ、凹面は布目、紐吊り痕が残る。273は凸面  
がナデ、凹面は布目と平行コビキである。274から278は平瓦である。各々離れ砂、縄目叩き、布  
目のものである。

本調査区で寺院関連の瓦葺建物が存在していた可能性が強い。時期はおそらく15C代と考えられ  
る。



第22図 2A区石列遺構図

#### (4) 2A柱穴(第19図、第26図279～288、291～307、第32、33図W8～W14)

柱穴は100基近く多くを検出した。2条の石列に囲まれたような形で特に南東部に多く、特に柱痕3、4を取り囲むように中小の柱穴を検出している。また石列1より西側部でも若干纏まり、石列2の北側部でも10基余りを検出している。幾つか並びがありそうだが、抽出はできなかった。遺物の出土した柱穴は建物跡の柱穴を除き21基である。ここでは遺物の出土した柱穴のみを取り上げる。

P1はCⅢ16グリッドに位置し、遺物は279の土器坏底部が出土している。底径が3.6cmと小さく、体部は丸味を持ち轆轤目が残る。柱痕W8が出土しており、端部は平坦である。P3からは部材W9が出土している。曲げ物の可能性がある。僅かに湾曲し、一端部斜めに削ぐ。P7はBⅢ20及びCⅢ16グリッドに跨り、280の15C中葉から後半の青磁稜花皿が出土している。また281の平瓦、W10の柱痕も出土している。先端部を加工する。P8はBⅢ20グリッドに位置し、282の青花皿が出土している。玉取り獅子で15C後半以降のものと考えられる。

P13はBⅢ20グリッドで石列1の側溝を切るように穿たれている。遺物は283の15C後半から16Cの青磁細蓮弁文碗、284の土器坏が出土している。底径は4.4cmでやや小型である。調査ミスにより、不明となっているが、柱痕W11、W12は柱穴P12、13から出土したものか。P20はBⅢ19グリッドに位置し、285の土器小皿か坏と考えられるものが1点出土している。底径3.7cmで体部は開く。P26はBⅢ14グリッドの南西隅で検出している。286の土錘が1点出土している。P27はP26の隣で検出し、287のガラス製品が出土している。芯にネジ状に巻き取り成形した径5.1mmの小さなものである。色調は濃青色である。

P31はBⅢ9・13グリッドに跨り検出した。288の土器坏底部が1点のみである。底径6.3cmで体部は開く。P33はBⅢ20グリッドに位置し、291、292の土器坏底部の2点が出土している。292は底径8.4cmを測る大型で、色調は灰白色を呈する。P38はBⅢ19グリッドに位置し、293の16C前半の青磁細蓮弁文碗が出土している。

P49はBⅢ20グリッドに位置し、294の土器小皿、295の坏が出土している。294は箱形に近い小皿である。P63はCⅢ11グリッドに位置し、柱痕3と隣接する。296の土器坏底部の細片が出土している。色調は黄白色を呈する。P66はCⅢ11グリッドに位置し、297、298の土器坏底部の2点が出土している。共に体部は開き、298は底径10cmの大型のものである。

P70はBⅢ15グリッドに位置し、299、300の土器坏底部2点が出土している。300は強い轆轤目を残し、黄白色を呈する。P73はBⅢ14グリッドに位置し、301の瓦質の羽釜が出土している。15Cの河内のものか。P76はCⅢ11グリッドに位置し、302の土器小皿が出土している。体部は開くものである。P77は同じくCⅢ11グリッドに位置し、303の15C前半の青磁蓮弁文碗、304の内面に強い轆轤目を残す土器坏の底部が出土している。

P80はCⅢ6グリッドに位置し、305の土器坏底部が出土している。体部はやや直立気味である。P92は北東隅のBⅢ5グリッドに位置し、306の土器坏と考えられる底部が出土している。P91からは部材W13及び不明木製品W14が出土している。W13は中央部には小孔を穿っている。W14の両端には截断痕が残る。P94は調査区の中央部のBⅢ15グリッドに位置し、307の土器坏と考えられる底部が出土している。



柱穴は包含層を下げていく段階で2回ほどに分かれて検出している。P38の青磁細蓮弁文碗293のみが16C前半に相当するだけで、他は15C代を中心とする遺物群が最も多く、明確に柱穴の時期区分は不可能であった。日常雑器類の羽釜も出土しており、寺院跡関連以外の柱穴も多数含まれていると考えられる。

(5) 2A区遺物包含層出土遺物(第26～31図308～493、第33、34図W15～25)

①陶磁器類(第26、27図308～339)

白磁

308から314が白磁で、314以外は皿である。皿308から310は15C代、311から313は16Cのものと考えられる。314は八角坏で15C後半のものと考えられる。

青花

315から327は青花で、皿は315から324、碗325から327である。皿315から318は15C後半、319から324は16Cのものと考えられる。317、318は玉取り獅子、319から321は碁笥底のものである。

碗325は雷文、326は牡丹唐草文、327は芭蕉葉文で共に16C前半と考えられる。336も青花皿と考えられる。

青磁

328から330は皿で328、329は15C中葉の稜花皿である。331は片彫りの細蓮弁文、332は蓮弁文碗で共に15C後半から16Cのものである。334は盤でやはり15C後半のものと考えられる。

天目茶碗

335は中国産と考えられ、天目釉が厚く掛り、被熱する。

近世陶磁器

336から339は染付で、336、337は皿、338、339は小坏である。

②土器(第27～29図340～434)

小皿

340から361は小皿で、その中で349から361は底部破片である。底部破片については底部のみの形態から坏との区別が困難であった。底径の大きさと体部の開き具合で区別したもの、明確なものではない。340から342は体部が開くもの、343から345は体部がやや開くもの、346、347は体部が直立気味のもの、348は小皿にしたもの、やや大型のものである。底径、口径に比して器高が低いことから小皿の分類に含めた。外面体部に轆轤目を残す。底部破片は底径が2cm台のものが350、3cm台のものは349、351から355、4cm台のものは356から360、最も大きなものは361の5cmである。底部切り離しは回転糸切りである。

坏

坏は362から426で、370から426は底部破片である。底部の切り離しは回転糸切りである。坏は轆轤目を強く残すものと、残さないもの、体部が大きく開くもの、やや開くもの、丸味のあるもの、直立気味で箱形のものに大きく分かれる。底部破片では分からないものの、362から367のように

器高が2cm弱の皿状の坏と368、369の深めの坏がある。367の底径は小さく4.4cmで体部、口縁は開く。368、369は轆轤目を残すもので、369は口縁端が立ち上がり気味である。

底部破片の370から386は轆轤目を残すもので、370から379は体部が大きく開くものである。底径は最小の4.4cmが370、最大が8.8cmと倍の大きさの379で、底径の大きさは各々のものが出土している。内面底が凹むものも含まれる。380から386は体部が立ち上がるもので、380は底径5.2cmと「ハ」字状に開くものである。383から386は底部と体部の境目が内面に明確に沈線状になったものである。底径は6cm台、7cm台で386は8.9cmと大型品である。

387から426は轆轤目を残さないものである。体部の開くものは387から409で、底径は4cm台が最も多く12点、5cm台が10点である。4cm台のものについては小皿の底部が含まれている可能性が残されている。410から418は体部がやや立ち気味のものである。410は底径が3.6cmと小さく体部は「ハ」字状に開く。他のものは5cm台のものが最も多い。419から421は体部下半に丸味を持つものである。422から426は体部が立ち上がるもので、特に425、426は箱形のものである。底径は大きく8～9cm台のものである。

#### 釜

427から433は釜で、427から429は口唇に丸味を持ち、低い鏝も丸味を持つ。430から433は口唇が内傾するもので、低い鏝は断面三角形を呈する。427以外は体部には斜のタタキを施す。432、433の胎土は金雲母を含む。15Cの播磨のものか。

#### 甕

434の器種は判然としない。口縁が強く屈曲し、口唇は内側に巻き込むように肥厚させる。内外面ナデ整形である。微砂粒を多量に含む。

### ③瓦質土器(第30図435～439)

#### 火鉢

435は菊花文印を施した火鉢の胴部破片である。外面の色調は灰色、内面は黄褐色である

#### 風炉

436、437は風炉の口縁部で共に口唇は平坦で、口縁は短く直立し、珠文を貼付する。肩部に段を有し、内面はヘラ削りを施す。口径は各々復元値24.4cm、26.6cmではあるが同一個体の可能性がある。438は透かし窓のある肩部破片である。横位の粘土突帯2条を巡らせる。439は肩部部分に線刻を施したもので、肩部は丸味を持つ。

### ④炆器(第29図440～450)

#### 小皿

440は須恵器質の小皿で、単に土器の焼成が良いものの可能性がある。底部は回転糸切り、内外面灰色で堅致である。

#### 鉢

441は底部破片で、底径34cmを測り、底裏ハケ調整を施し、内面には自然釉が掛り、外面底端と

内面底端に砂跡が見られる。器種は鉢と考えられる。

#### 播鉢

442から450は播鉢で、口縁部を上下に拡張するものは442、443で14C後半から15C前半、口縁が直立気味の444、445は15C前半、446、447は口縁を拡張せずに口縁に丸味を持ち立ち上がり16C前半のものである。448、449は底部で448は底径が小さい。450は多条の播り目のもので近世のものか。450以外は備前産と考えられる。

### ⑤土製品(第31図451～475)

#### 土錘

451から474は土錘である。重量別に見ていくと2g台が451の1点のみ、3g台は452から455の4点、4g台は456から458の3点、5g台は459から463の5点、6g台は464から466の3点、7g台は467、468の2点、8g台は469から473の5点である。最も重い土錘は474の13.6gである。474を除き全て細長い筒状の形態のものである。474は他のものと出土層を違えている。

#### 土玉

475は玉状の土製品で径3.8cmを測り、胎土は精良である。用途は不明である。

### ⑥銭貨(第31図476～483)

古銭は8枚出土している。黒灰色粘土層からの出土がほとんどでそれも瓦溜り周辺が多かった。476は「天禧通寶」、477は「皇宋通寶」、478は「嘉祐通寶」、479は「熙寧元寶」、480と481は「洪武通寶」で、480の背字は「一錢」である。482は「永樂通寶」である。字体の明瞭なものが多く出土している。483は不明である。

### ⑦金属製品(第31図484～487)

#### 銅製品

484はキャップ状の銅製飾り金具と考えられる。径2.4cmで中央に小円孔が開く。485は不明銅製品で、形状は「U」字状で、両端部は折損している。

#### 釘

486、487は釘と考えられる。486は扁平で、頭部が幅広く、全体がやや曲る。共に鉄製である。

### ⑧瓦(第31図488～492)

488、489は丸瓦である。488の凸面は縄目叩き痕とナデ、凹面は布目である。銀化している。489の凸面は縄目叩き痕、削り、ナデを施す。凹面は斜状コビキ、布目、ループ紐吊り痕を残す。490、491は平瓦である。490の凸面はナデ、凹面は斜状コビキである。491は両面にナデを施す。歪みひび割れる。492は三角形状で、凸面は縄目叩き、凹面は平行コビキである。道具瓦か。

### ⑨石製品(第31図493)

## 砥石

493は長方形の一面に僅かに擦痕が残る。砂岩製である。

## ⑩木製品(第33、34図W15～W24)

### 柱痕

W15からW19は出土地不明の柱痕である。調査ミスにより出土地が不明となってしまった。W15からW17は大型の柱痕で建物跡1に伴う可能性が強い。共に樹皮を除去し、先端部を加工する。特にW15は全体を加工し、残存長83cm、径22cmの大型のものである。その他、W21～24も出土しており、木杭である。

### 部材

W20は曲げ物と考えられる。僅かに湾曲し、一端部斜めに削ぐ。

## ⑪漆器(第34図W25)

W25は椀で上半分は欠損する。高台が付き、底径6.2cmを測る。文様はなく黒漆仕上げである。樹種はニレ属である。

## (6) 2A区小結

本調査区は寺院跡の本体である3区の前庭になる。谷部に向かい寺院跡は展開しており、2A区はその導入部に相当する。検出した遺構は建物跡が3ヶ所で、その内建物跡2、建物跡3は柱穴の並びから復元したものであるが、建物跡1については明確な大きな柱痕を持つ柱穴で構成されており、本調査区の内容性格を特徴付けるものとなっている。また石列1、2は本調査区内の施設を区画する石列と考えられ、石列1には側溝も伴っていた。また調査区中央部では瓦が比較的纏まって出土し、狭い調査区ながらも銭貨も纏まって出土している。これらの構築物は互いに関連性のあるものと考えられ、瓦を葺いた建物跡が想定される。3区の寺院跡本体の前庭部に相当することから、建物跡1は寺院跡の門跡の可能性が考えられる。

それ以外に柱穴は多数構築されており、何時期かに亘り建物が構築されていたと考えられる。建物跡1以外には大きな柱穴、柱痕は検出できておらず、寺院跡関連以外の建物跡と考えられる。

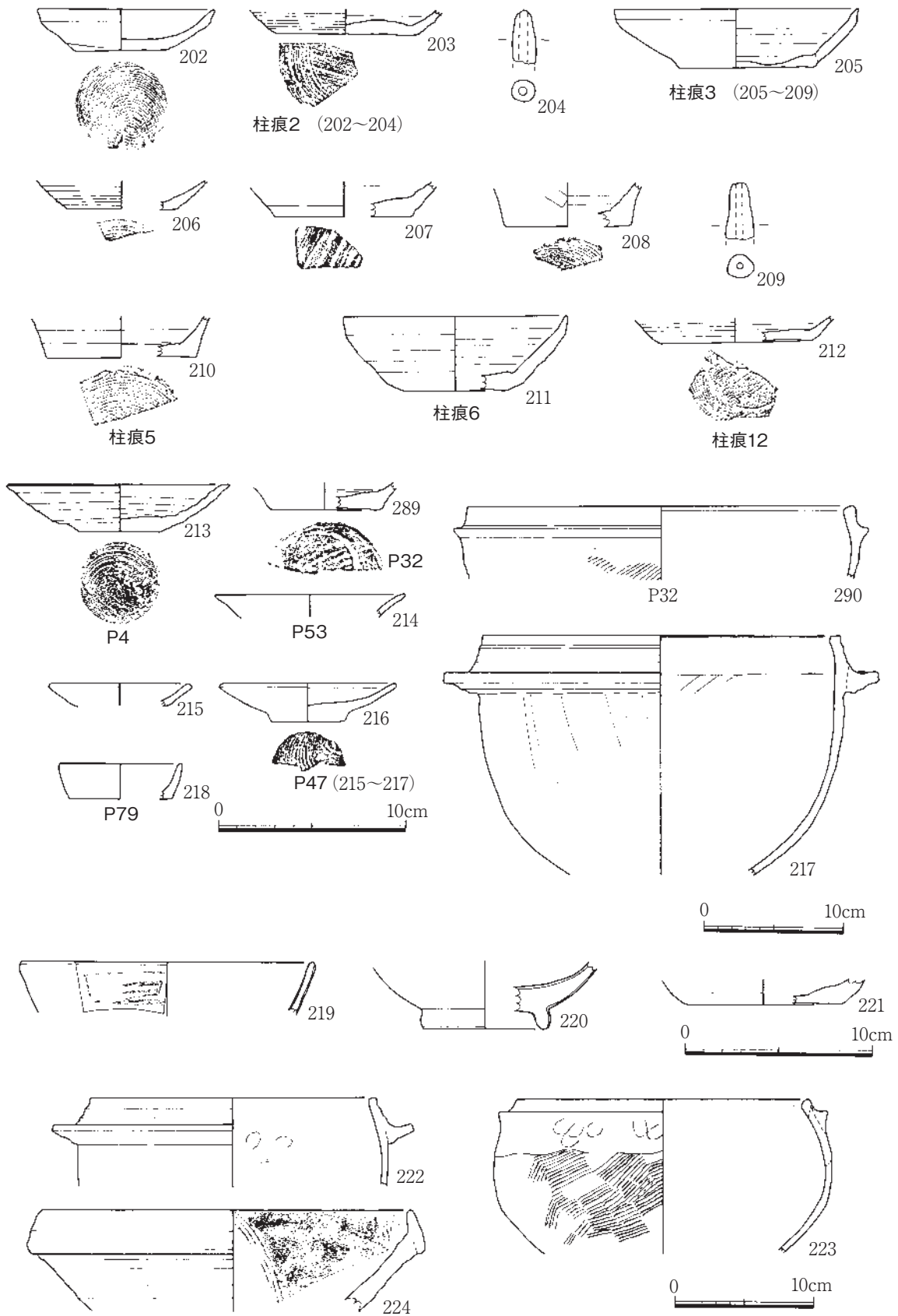
長宗我部地帳帳段階ではこの周辺には「□ノ坊」(□は欠字)の小字が残り、「寺中」・「堂床」、また「宮床」があったことが記されている以外に「ヤシキ」名も見えていることから、「ヤシキ」地に変遷していった可能性が考えられる。

出土遺物は14C後半から16C前半の遺物が出土している。15Cを中心として前後の時期に跨っている。輸入陶磁器類は白磁皿が15C中葉から後半、青花皿は15C後半から16C前半、青磁稜花皿は15C中葉、青磁蓮弁文碗は15C代のものである。輸入陶磁器については、器種により時期的な増減が多少認められる。

煮沸具は15Cの河内の羽釜、15C前半の播磨の釜が出土しており、釜はやや纏まって出土している。調理具は備前の播鉢が出土しており、14C後半から16C前半の各時期に亘るものが出土している。供膳具は土器小皿、坏が多量に出土した。各々に形態的にバリエーションが認められ、体部が大きく開くもの、やや開くもの、直立気味で箱形を呈するものが小皿、坏共に認められる。坏には轆轤目を強く残し口縁が直立気味で、内面底が凹むものが数点認められる。このタイプは時期的に古いと考えられるものの、他に共伴する遺物は出土していない。その他、漁具の重り土錘が纏まって出土している。

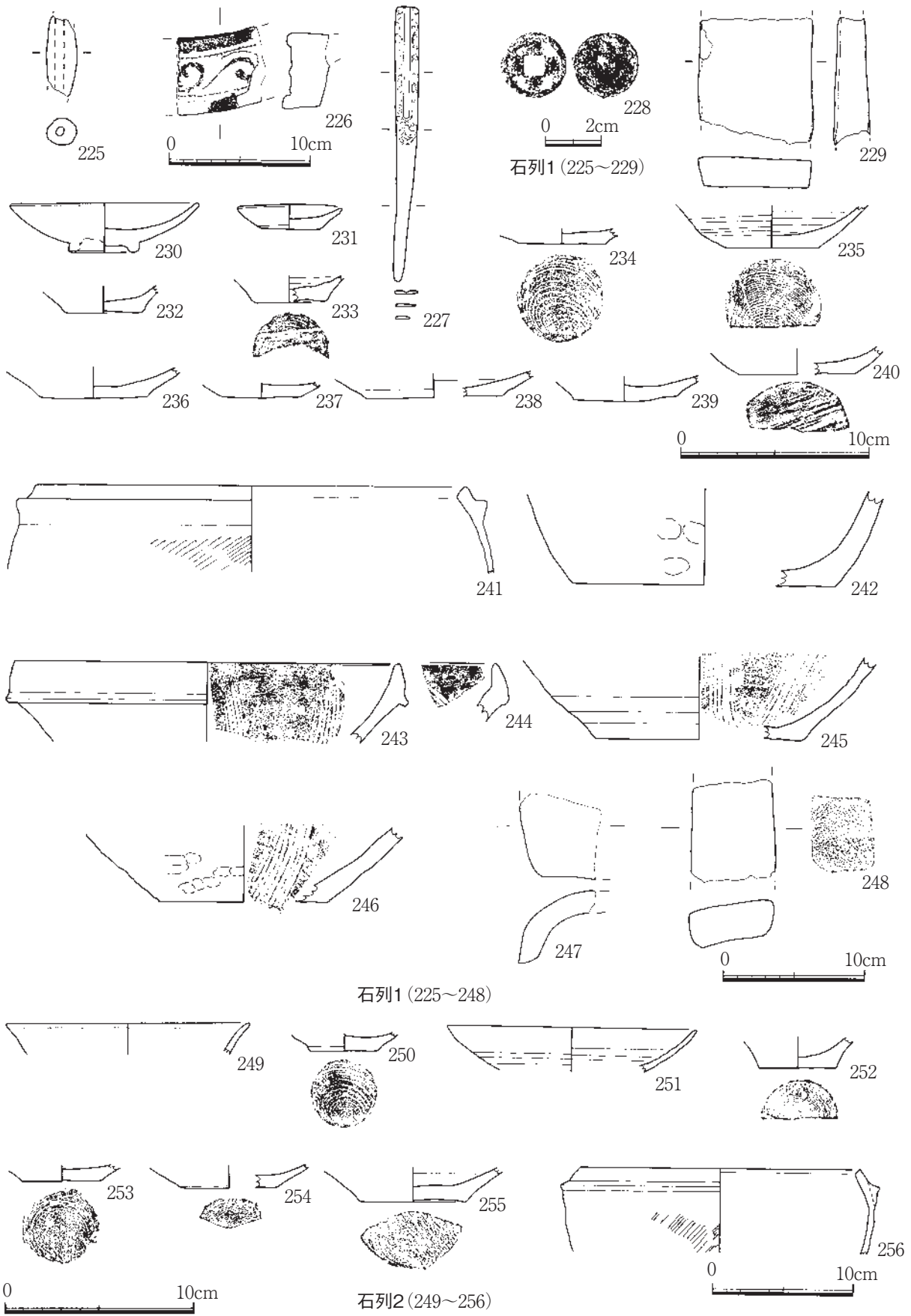
日常什器以外に寺院跡関連が想定されるものは瓦、風炉である。風炉は15C前半の時期と考えられ、寺院跡関連の遺構は大部分15C前半の可能性が高い。

他に日常什器類も多量に出土していることから、居住空間として利用された時期も考えられ、15C前後の時期が考えられる。しかしながら余り時間幅のあるものではなく、短期間の内に変遷したものであろう。

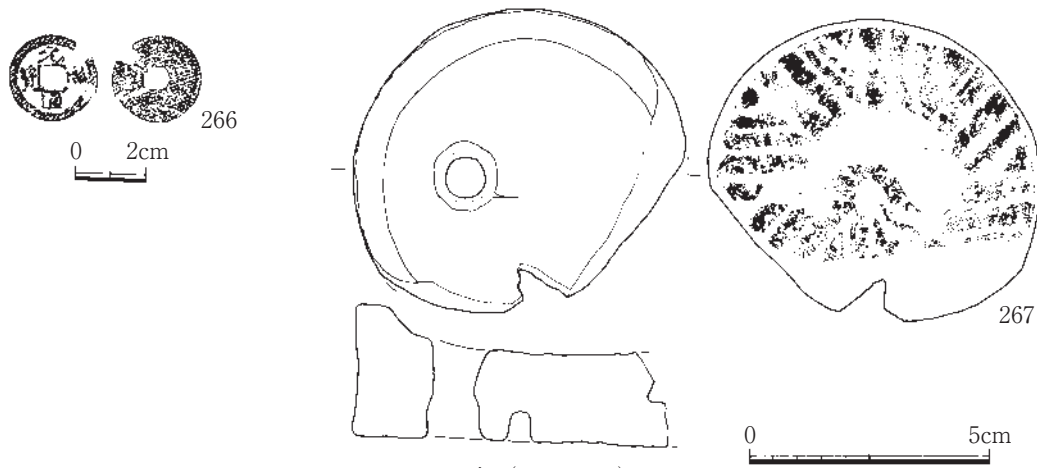
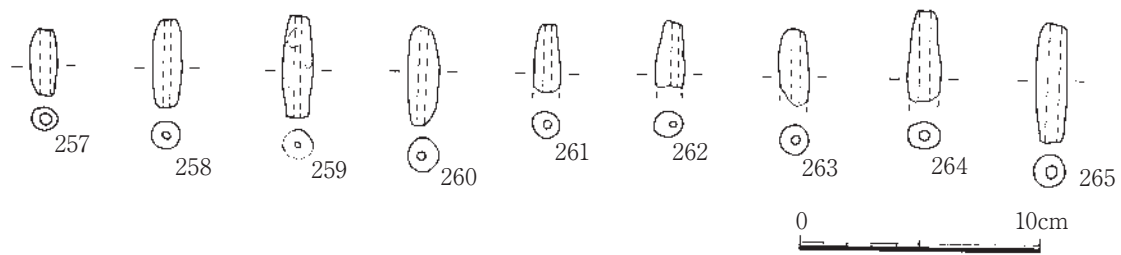


石列1 (219~224)

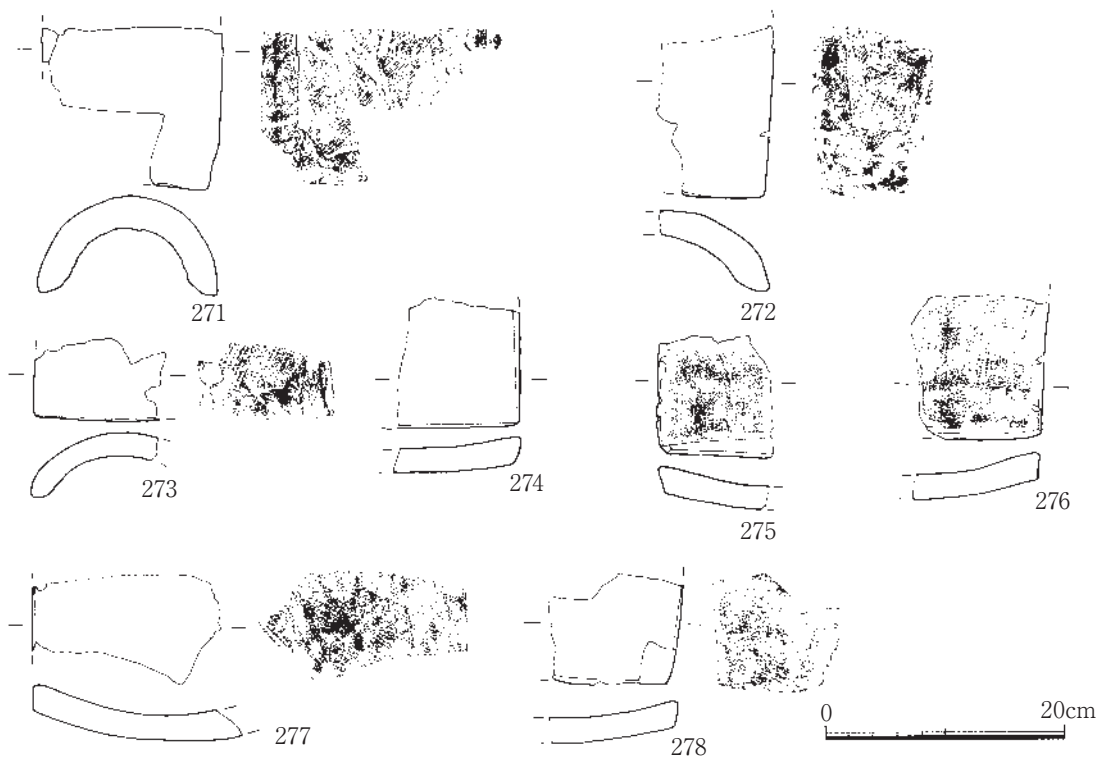
第23图 2A区遺物実測図1



第24図 2A区遺物実測図2



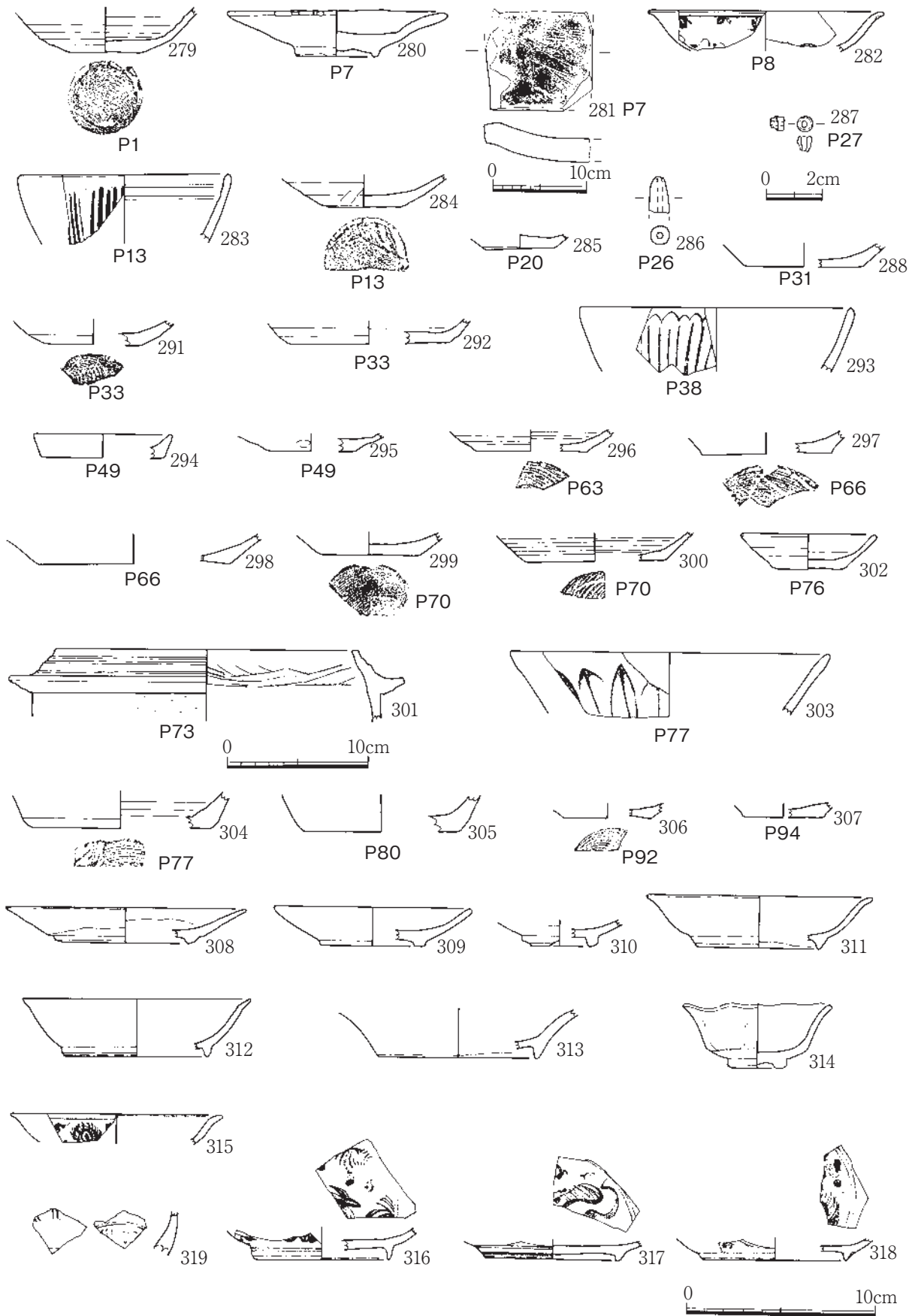
石列2 (257~267)



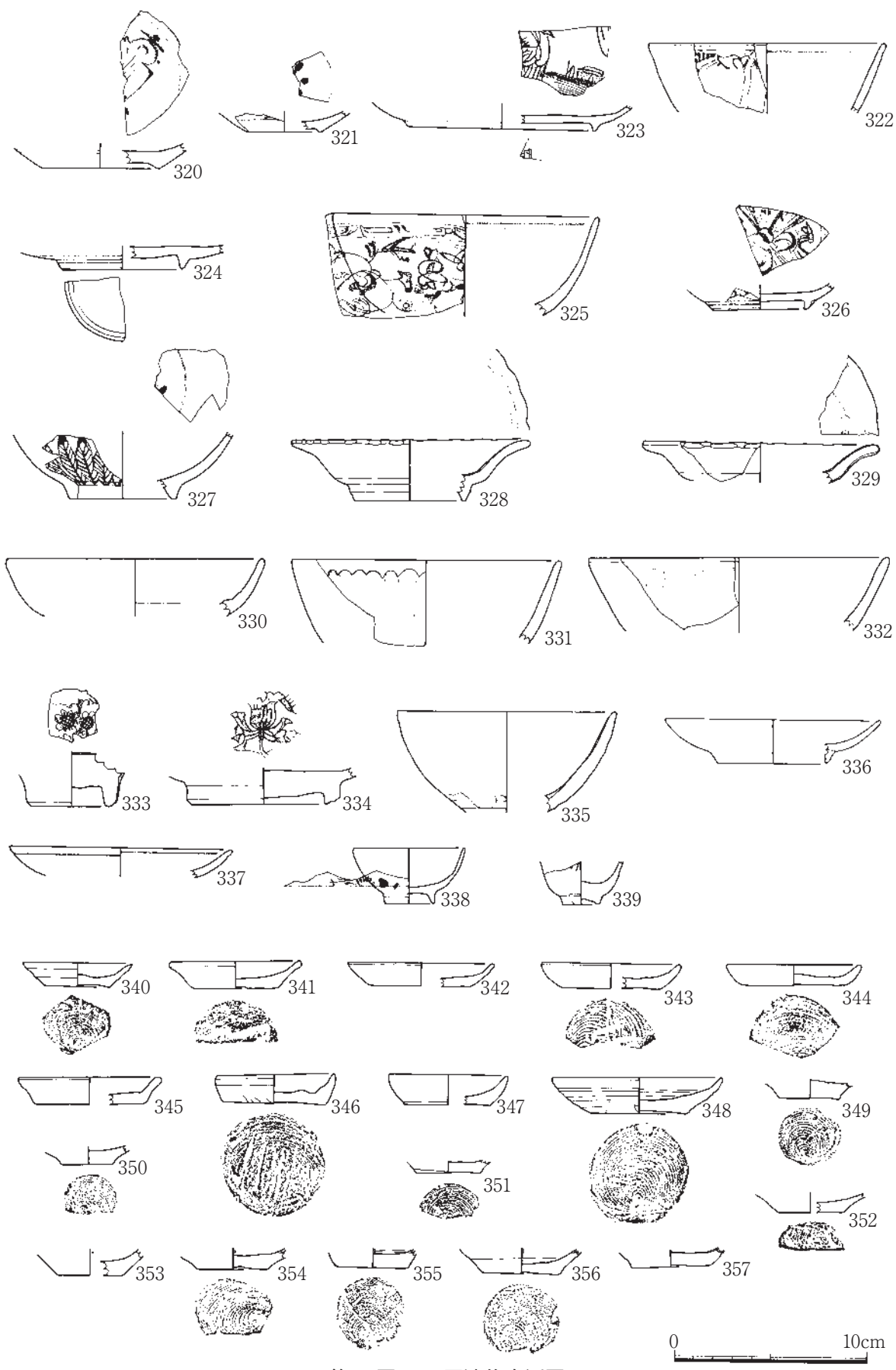
瓦溜り (268~278)

第25図 2A区遺物実測図3

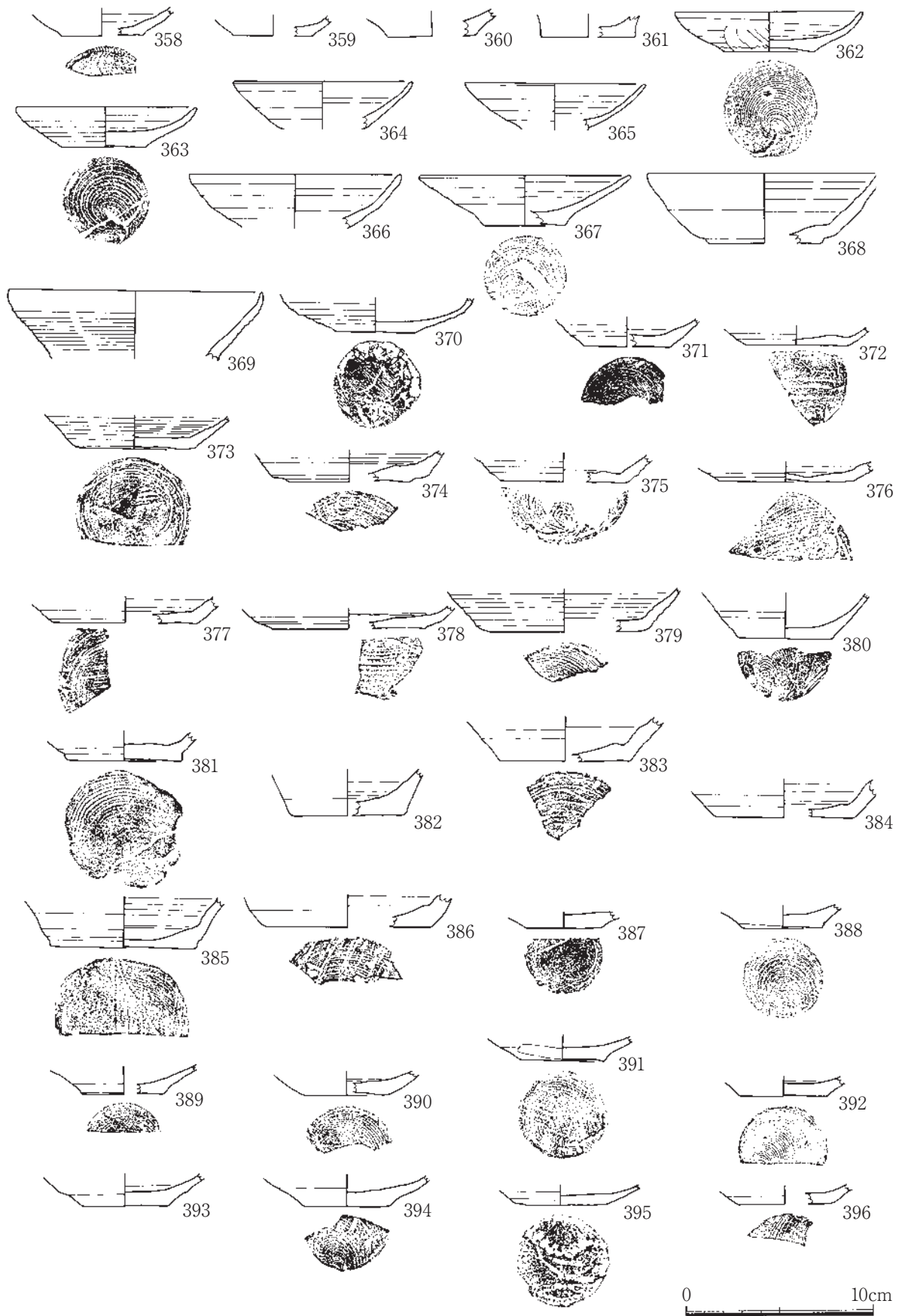




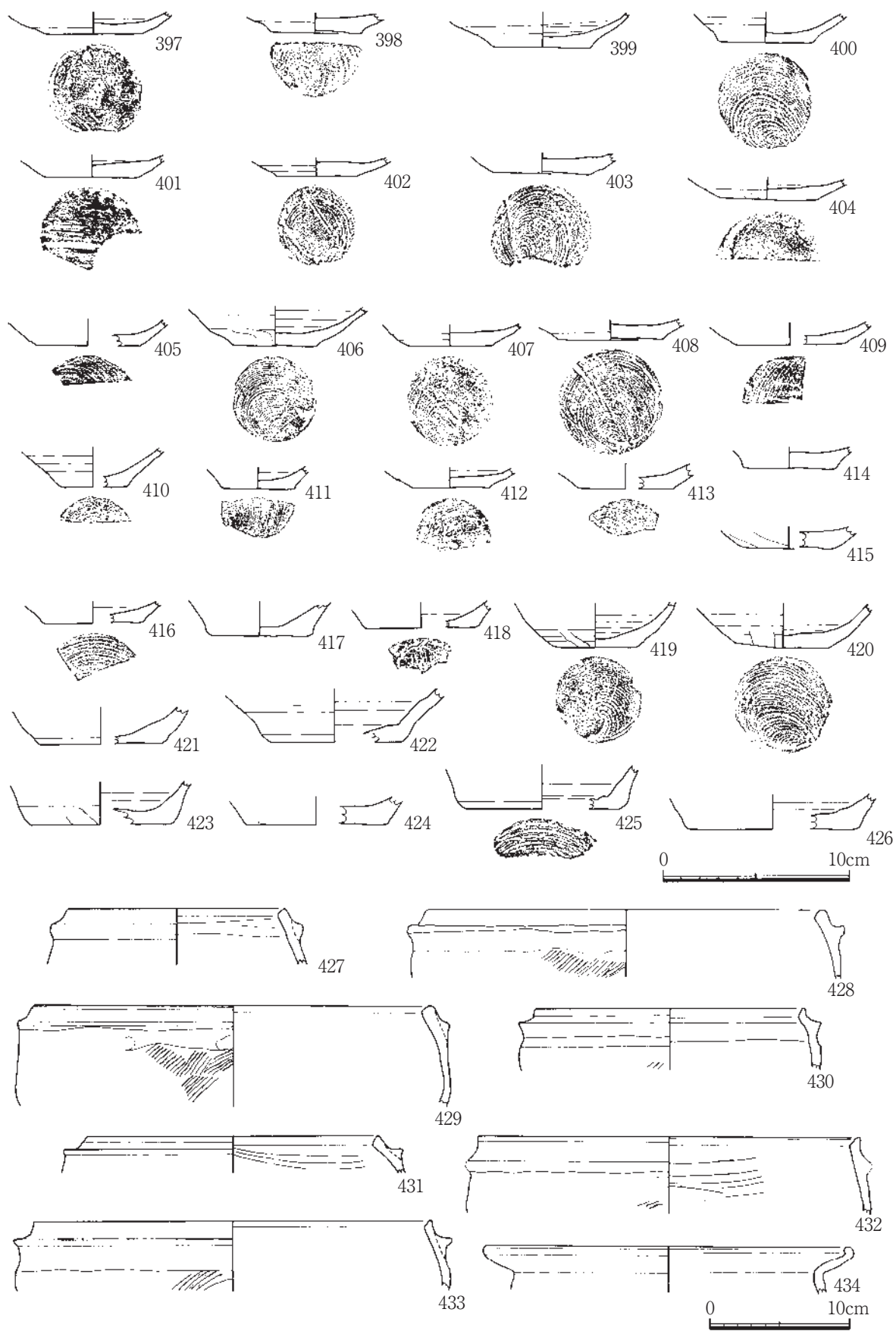
第26図 2A区遺物実測図4



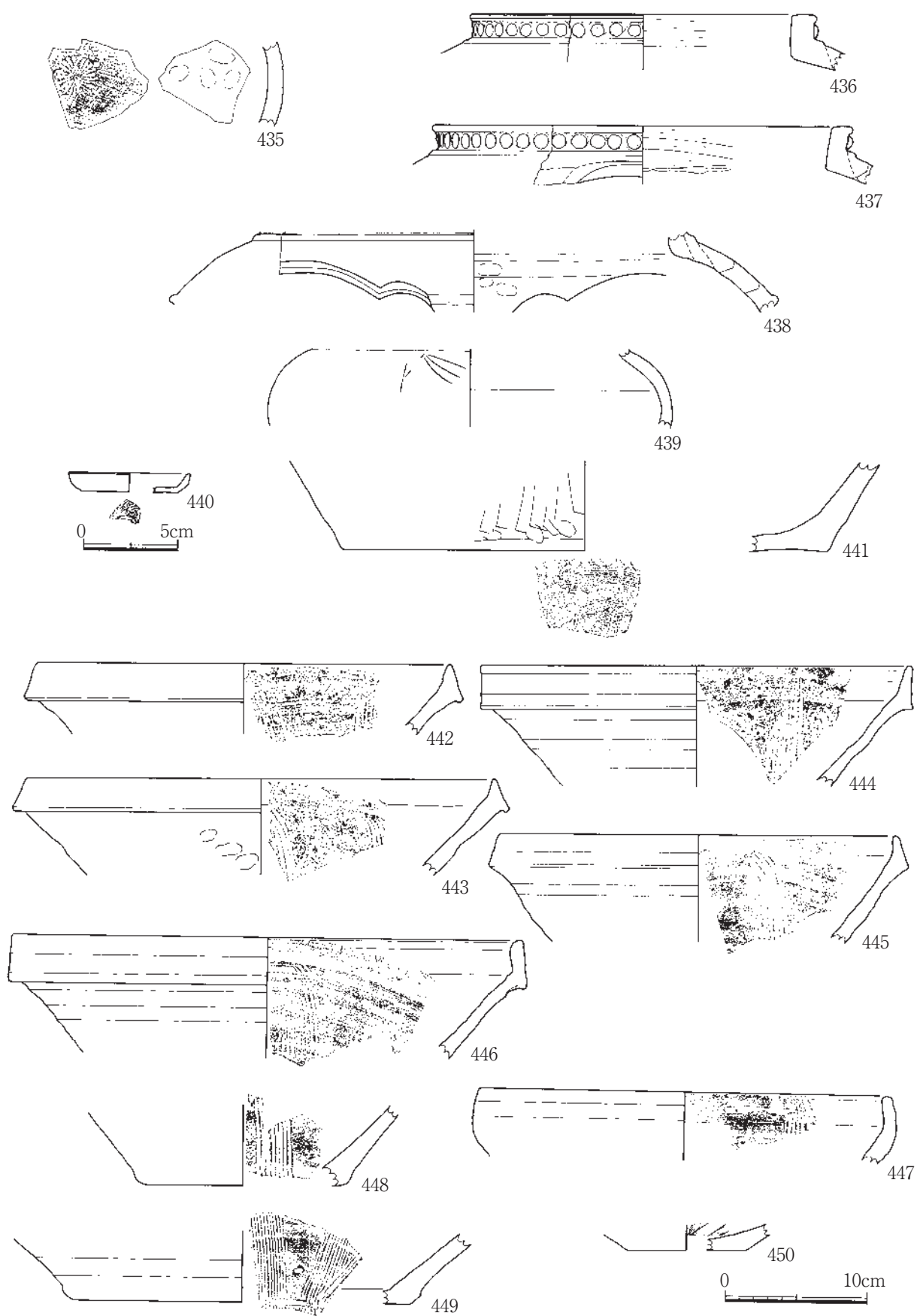
第27图 2A区遺物実測図5



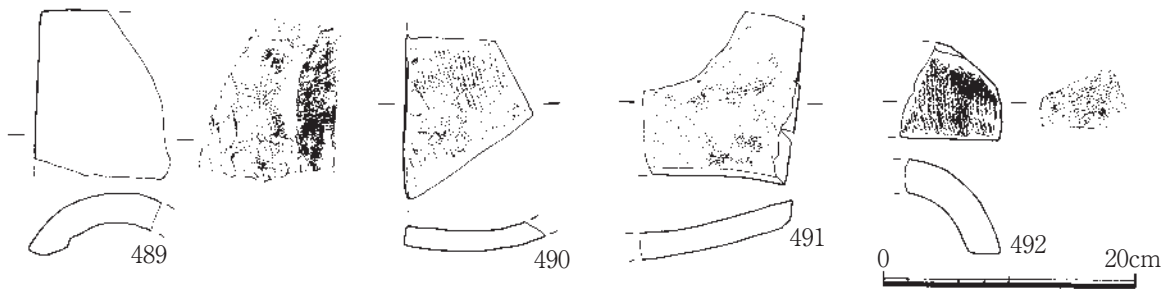
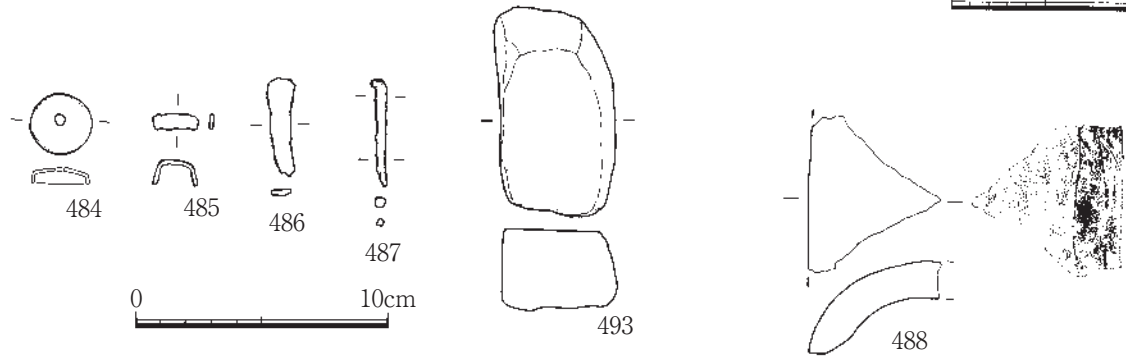
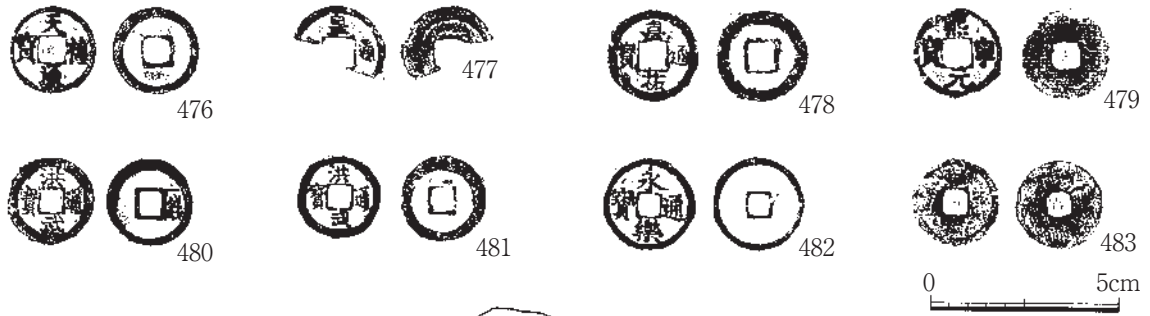
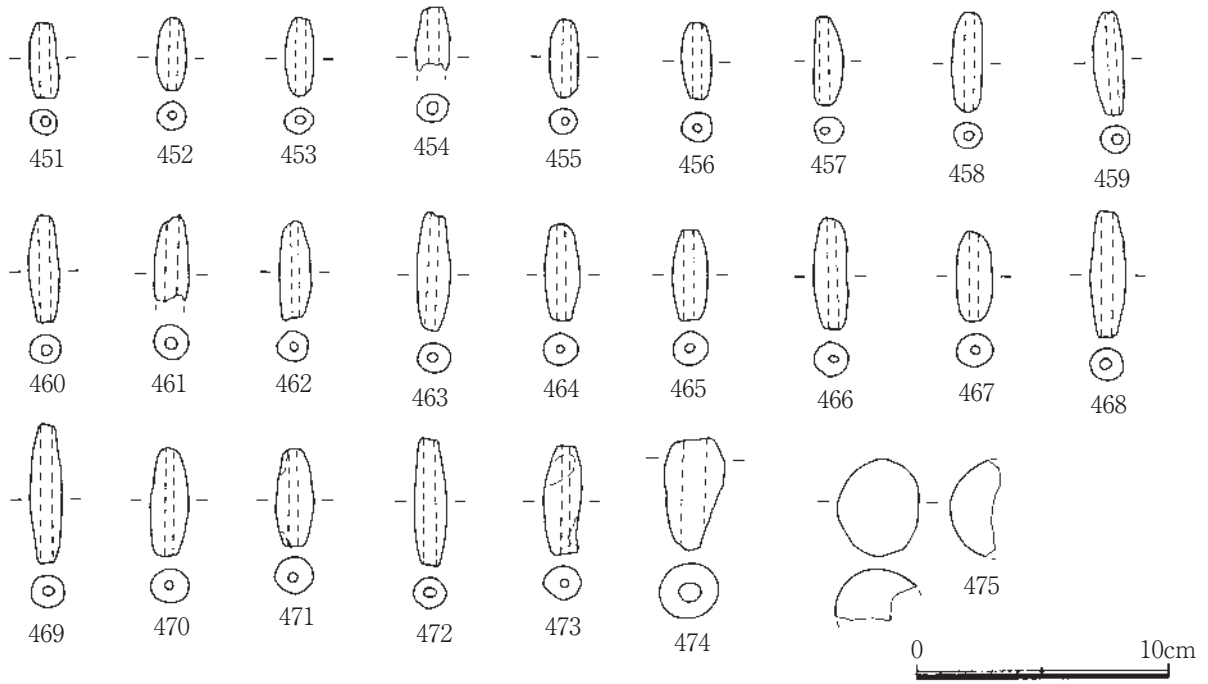
第28図 2A区遺物実測図6



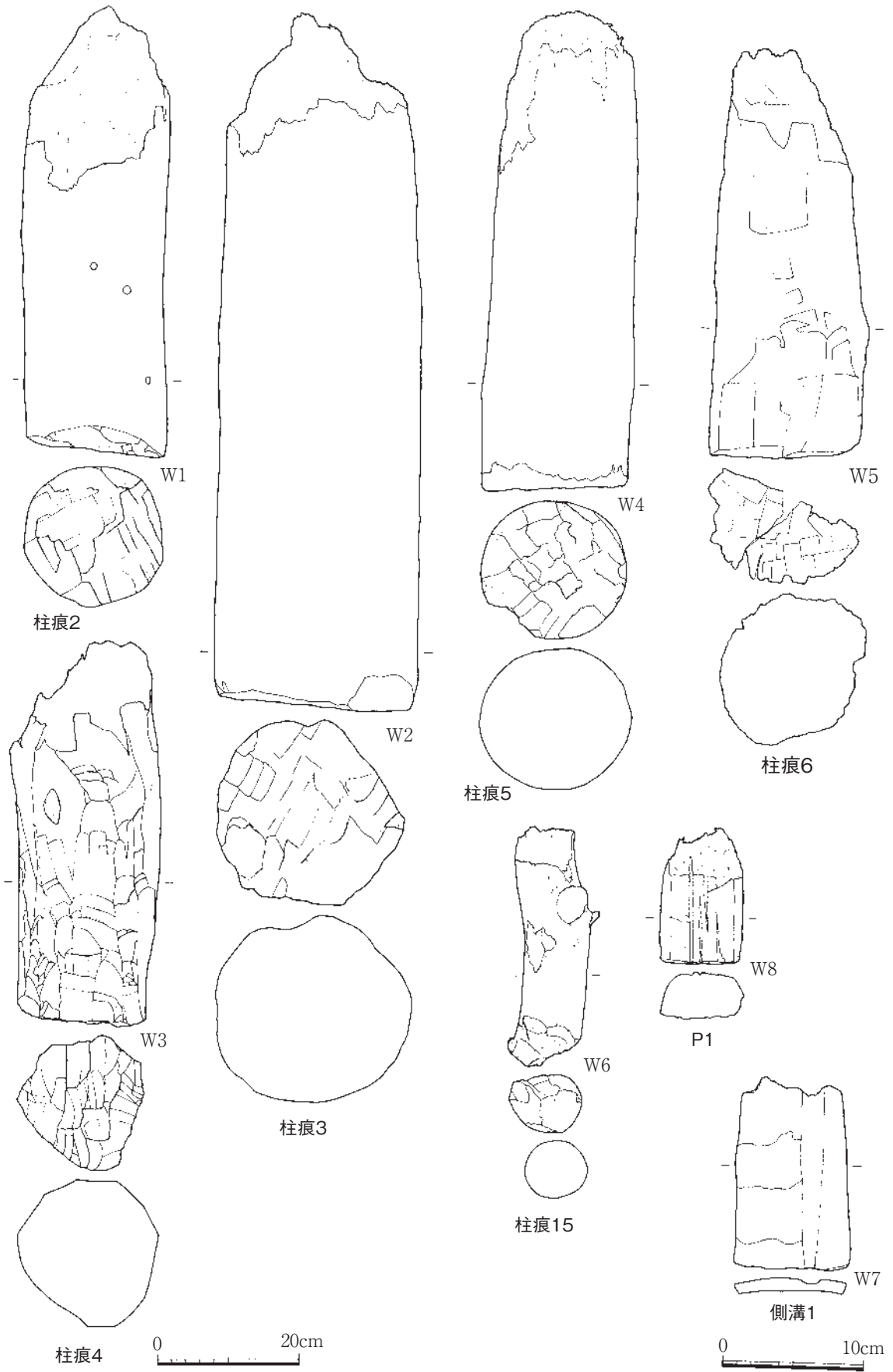
第29图 2A区遺物実測図7



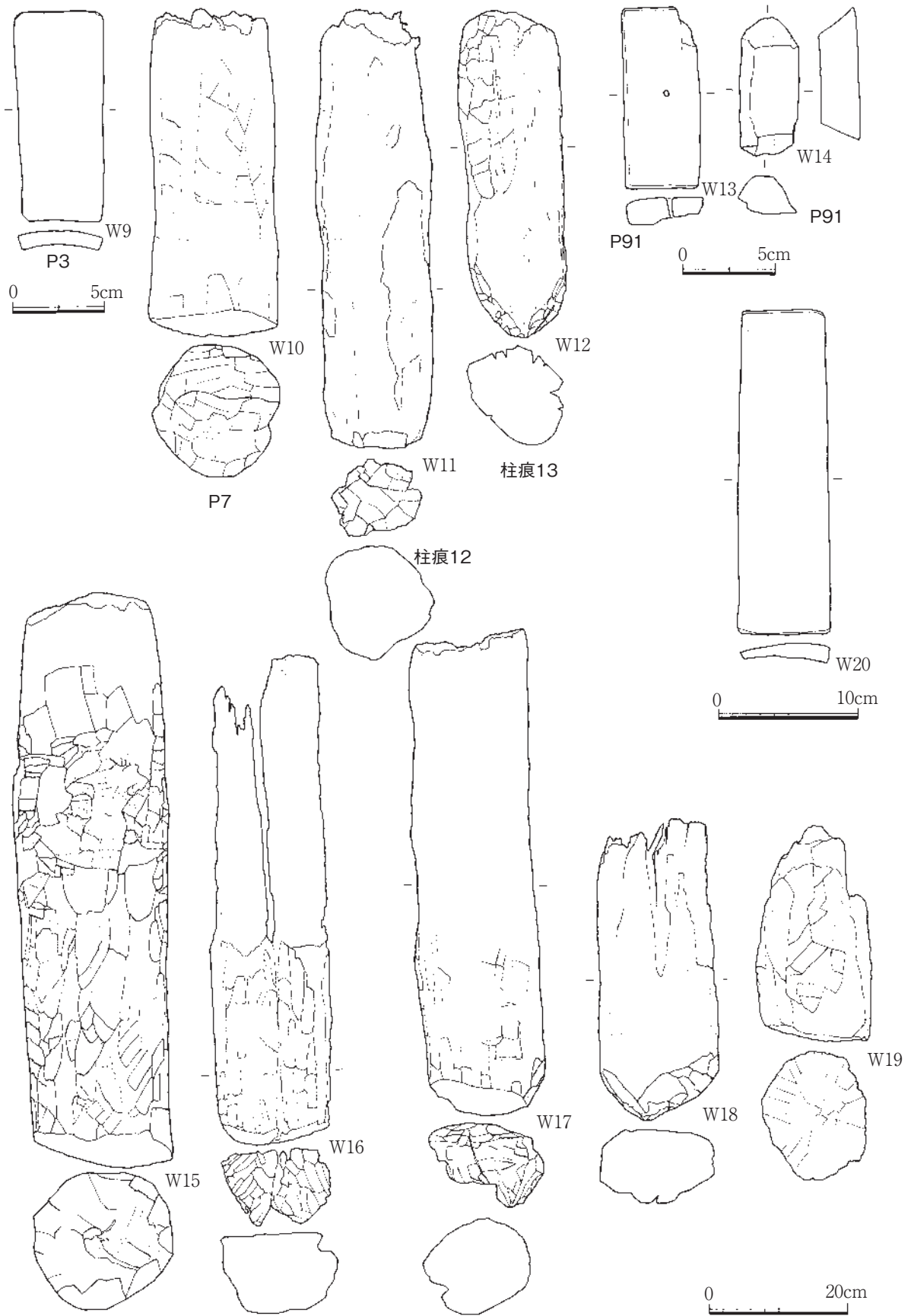
第30図 2A区遺物実測図8



第31图 2A区遺物実測図9

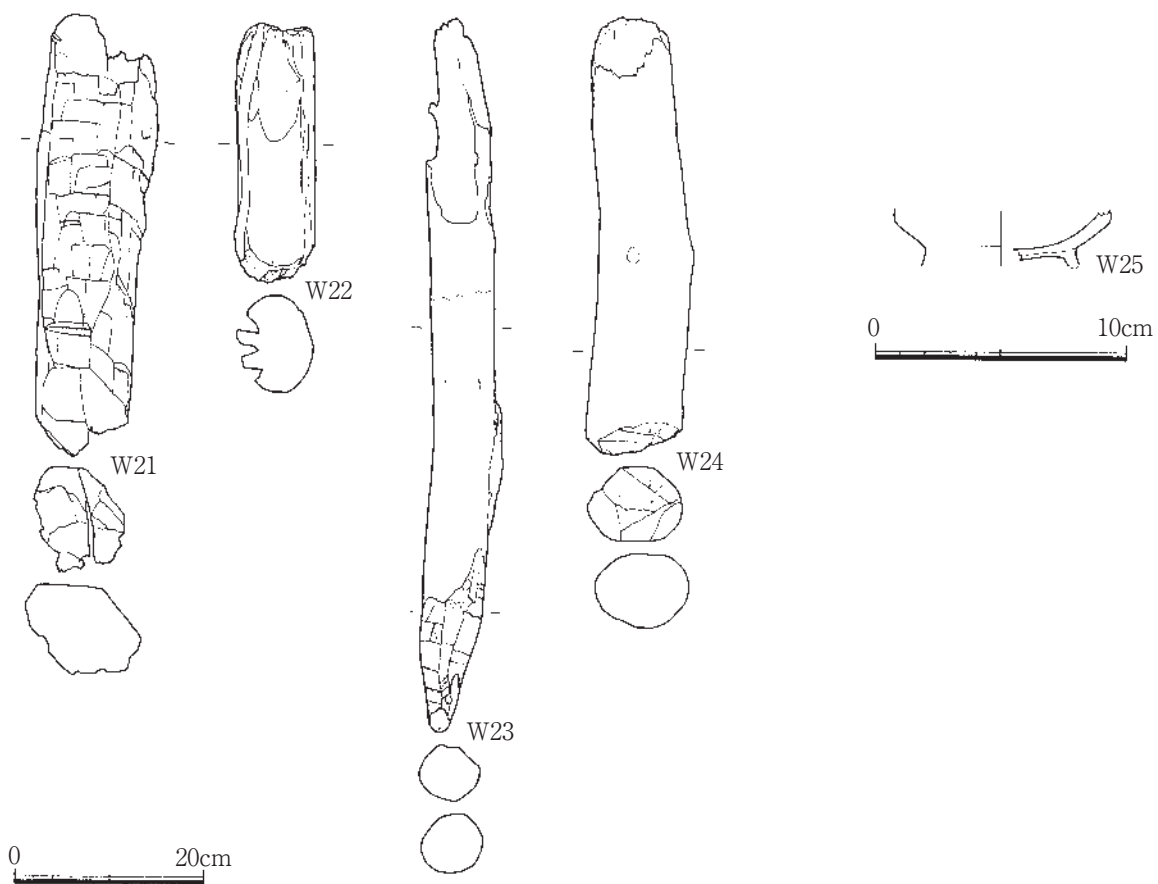


第32図 2A区遺物実測図10



第33图 2A区遺物実測図11





第34図 2A区遺物実測図12

表5 2A区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
202	土器	坏	2A	柱痕2・埋土	(9.4)	2.2	4.9	底部糸切り、体部緩やかに開く、口縁轆轤目	精良		
203	土器	坏・底部	2A	柱痕2・灰色粘土層			(7.7)	底部糸切り後へう削り、体部開く、内外面に強い轆轤目痕			
204	土製品	土錘	2A	柱痕2・埋土		径1.3	重(3.0)	筒状、やや小型	精良		
205	土器	坏	2A	柱痕3・4TR・暗灰粘礫層・m101	13.0	3.2	7.4	摩耗、底部糸切り、簧子状圧痕、やや体部開く	精良		
206	土器	坏・底部	2A	柱痕3・4TR・黒灰粘土層			(6.0)	底部糸切り、体部開く、外面強い轆轤目痕	精良		
207	土器	坏・底部	2A	柱痕3、4・TR・黒灰粘土層			(7.4)	底部筥切り? 体部やや開く	精良		
208	土器	坏・底部	2A	柱痕3・黒灰粘土層			(6.7)	底部糸切り、体部直立気味、内面強い轆轤目痕	精良		
209	土製品	土錘	2A	柱痕3、4・TR・黒灰粘土層		径(1.5)	重(4.6)	筒状	精良		
210	土器	坏・底部	2A	柱痕5・TR・黒灰粘土層			(8.0)	底部糸切り、体部直立気味、内外面赤褐色	精良		
211	土器	坏	2A	柱痕6掘方・m102、柱痕15	(12.0)	4.0	(7.2)	やや摩耗、やや歪む、底部糸切り、口縁僅かに内湾気味、内面体部轆轤目	精良		
212	土器	坏・底部	2A	柱痕15・TR・黒灰粘土層			(8.2)	底部糸切り、体部外傾気味に立ち上がる、外面轆轤目痕	精良		
213	土器	坏	2A	P4・m102	12.0	2.6	4.4	やや摩耗、底部糸切り、体部開く、内面轆轤目	精良		
214	土器	坏・口縁	2A	P53、黒灰粘土層	(10.2)			口縁やや外反	精良		
215	土器	小皿・底部	2A	P47、黒灰粘土層	(7.4)			口縁緩やかに立ち上がる、内外面灰色	精良		
216	土器	小皿	2A	P47、黒灰粘土層	(9.2)	2.1	(4.0)	底部糸切り、体部開く	精良		
217	土器	羽釜	2A	P47、黒灰色粘土層	(25.6)			口縁に大きな鏝が付く、内面ハケ、外面下半へう削り	砂粒多量	14C後半	河内
218	土器	小皿	2A	P79	(6.4)	1.9	(5.4)	口縁直立気味	微砂粒微量		
219	陶磁器	青磁碗・口縁	2A	石列1延長・黒灰色粘土層・m103	(15.6)			直線的に立ち上がる、外面雷文帯	白色、精良	14C～15C	C2
220	陶磁器	青磁碗・底部	2A	石列1・下層・m101			(6.6)	底裏無釉、無文	灰白色、精良		
221	土器	坏・底部	2A	石列1・黒灰粘土層			(8.6)	底部糸切り後ナデカ	精良		
222	土器	羽釜	2A	石列1・下層	(20.6)			口縁下大きな鏝、内面刷毛、外面煤付着	微白色鋳物粒少量	15C中	河内
223	土器	羽釜	2A	石列1・黒灰色粘土層・m102、黒灰色粘土層・m103、P17、黒灰色粘土層	(20.8)			口縁下低い鏝、体部刷毛、体部下丸味、数点が接合、外面煤付着	微白色鋳物粒少量	15C中～後半	播磨
224	灰器	播鉢・口縁	2A	石列1・中層・m103	(26.4)			口縁拡張、内面赤褐色	砂粒多量	15C前半	備前
225	土製品	土錘	2A	石列1・中層		径1.6	重(7.7)	筒状、やや長いもの	砂粒少量		
226	瓦	軒丸瓦	2A	石列1・m101			幅5.5	唐草、凹面布目	砂粒微量		
227	金属製品	筭?	2A	石列1・延長・黒灰粘土層	長14.5	幅1.2	厚0.2	基部唐草か藤の彫金、溝、先端部は先細り、裏面は文様なし	銅		
228	銭貨	古銭	2A	石列1延長・黒灰色粘土層・m302	径23.5mm	厚1.2mm	孔径7.0mm	歪む、被熱? 皇宋通宝? 裏面擦り減る	銅		
229	石製品	砥石	2A	石列1・上層	長(6.7)	幅5.9	厚1.6	表裏面に擦痕	流紋岩		
230	陶磁器	白磁皿	2A	石列1・側溝・m101	(9.8)	2.6	3.7	体部僅かに丸みを持ち開く、底裏露胎、釉白濁、貫入	白色、陶器質、精良	15C中	D類
231	土器	小皿	2A	石列1・側溝・m101	5.4	1.3	5.2	小皿、摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
232	土器	小皿・底部	2A	石列1・側溝・上層			4.2	摩耗、底部糸切り?	精良		
233	土器	坏・底部	2A	石列1・側溝・上層			(4.0)	底部糸切りか?、底径やや小	精良		
234	土器	坏・底部	2A	石列1・側溝・上層			4.6	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
235	土器	坏・底部	2A	石列1・側溝・上層			5.0	やや摩耗、底部糸切り、体部やや丸味を持って開く	精良		
236	土器	坏・底部	2A	石列1・側溝・中～上層			5.6	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
237	土器	坏・底部	2A	石列1・側溝・中層			4.2	摩耗、底部糸切り、内外面明褐色	精良		
238	土器	坏・底部	2A	石列1・側溝・中層			(7.2)	底部筥切りか?、体部開く、内外面明褐色	精良		

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
239	土器	坏・底部	2A	石列1・側溝・下層・m105			5.5	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
240	土器	坏・底部	2A	石列1・側溝西・下層			(6.0)	底部篋切り？、体部開く	精良		
241	土器	釜・口縁	2A	石列1・側溝・中層・m101	(30.2)			口縁に丸味の鏝が付く、口唇丸味を持つ。外面斜タタキ。色調やや赤みを持つ、煤付着	白色微鈹物粒多量	15C前半	播磨
242	炆器	鉢・底部	2A	石列1・側溝・中層・m102			(18.6)	平底、体部外傾気味に立ち上がる	白色鈹物粒多量		
243	炆器	播鉢・口縁	2A	石列1・側溝・上層	(27.2)			口縁上下に拡張、粗い播り目	白色鈹物粒少量	14C～15C前半	備前IVB期
244	炆器	播鉢・口縁	2A	石列1・側溝・中層・m102				口縁上下に拡張、粗い播り目	白色鈹物粒多量		
245	炆器	播鉢・口縁	2A	石列1・側溝・下層・m102			(14.4)	粗い播り目	白色鈹物粒多量		
246	炆器	播鉢・口縁	2A	石列1・側溝・中層・m102			(12.1)	砂底、粗い播り目	砂粒多量		
247	瓦	丸瓦	2A	石列1・側溝・下層・m106			厚2.2	摩耗、凹面平行コビキ？	精良		
248	瓦	道具瓦？	2A	石列1・側溝・上層		幅6.0	厚2.7	細長く、両側縁面取り、やや捻れ、凹面布目	微砂粒少量		
249	陶磁器	青花皿・口縁	2A	石列2、南	(12.8)			口縁反る、口縁内外面界線	灰白色、精良	15C後半～	小野B群
250	土器	小皿・底部	2A	石列2・TR・黒灰粘土層			3.6	底部糸切り、底径小、体部開く	精良		
251	土器	坏・口縁	2A	石列2・北	(13.2)			体部やや丸味を持ち立ち上がる、器肉薄い、内外面共にやや強い轆轤目痕	精良		
252	土器	坏・底部	2A	石列2・北・黒灰粘土層			4.1	底部糸切り、底径小、体部丸味を持つ	精良		
253	土器	坏・底部	2A	石列2・TR・黒灰粘土層			4.2	底部糸切り後ナデ、底径小、体部開く	精良		
254	土器	坏・底部	2A	石列2・北			(5.2)	底部糸切り、底径小、体部開く、内外面赤褐色、堅致	精良		
255	土器	坏・底部	2A	石列2・北			5.6	底部糸切り、体部外傾気味に立ち上がる	精良		
256	土器	羽釜・口縁	2A	石列2、TR、黒灰粘土層	(19.8)			口縁部に鏝を貼付、口唇平坦、胴部、胴部斜方向の並行タタキ、外面スス付着	白色微鈹物微量	15C	播磨型？
257	土製品	土錘	2A	石列2・北・黒灰粘土層	長2.8	径1.2	重2.6	筒状、小型	精良		
258	土製品	土錘	2A	石列2・北	長3.7	径1.2	重5.6	筒状	精良		
259	土製品	土錘	2A	石列2・南・黒灰粘土層	長4.3	径1.3	重(5.3)	筒状、部分的に落剥	精良		
260	土製品	土錘	2A	石列2・北	長4.2	径1.3	重(6.5)	筒状	精良		
261	土製品	土錘	2A	石列2・北・黒灰粘土層		径1.2		筒状、小型	精良		
262	土製品	土錘	2A	石列2・北・黒灰粘土層		径1.2		筒状、小型	精良		
263	土製品	土錘	2A	石列2・北・黒灰粘土層		径1.3		筒状、やや小型	精良		
264	土製品	土錘	2A	石列2・北・黒灰粘土層		径1.4		筒状、やや小型	精良		
265	土製品	土錘	2A	石列2・北・黒灰粘土層	長5.0	径1.3	重8.2	筒状	精良		
266	錢貨	古銭	2A	石列2・北・m301	径24.6mm	厚1.2mm	孔径6.1mm	元祐通寶、孔潰れる、裏面擦り減る	銅		
267	石製品	石臼	2A、3B	石列2・黒灰粘土層、3B区包含層1・M901	径28.0	厚11.1		粉挽き臼、目4条、被熱	砂岩		
268	土器	坏・底部	2A	瓦集中・黒灰色粘土層			(5.0)	摩耗、底部糸切り、体部開く、内面轆轤目	精良		
269	土器	坏・底部	2A	瓦集中・黒灰色粘土層			(7.8)	やや摩耗、底部糸切り、体部僅かに外傾気味、外面轆轤目	精良		
270	土器	坏・底部	2A	瓦集中・黒灰色粘土層			(10.0)	やや摩耗、底部糸切り、体部開く、内面轆轤目	精良		
271	瓦	丸瓦	2A	瓦集中2・黒灰粘土層		幅15.4	厚2.7	凸面縄目叩き痕、削り、ナデ、銀化、凹面斜状コビキ、布目、ループ紐吊り痕			
272	瓦	丸瓦	2A	瓦集中1・黒灰色粘土層			厚2.5	凸面縄目叩き後ナデ、凹面布目、紐吊り痕、凹面先端部ナデ	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
273	瓦	丸瓦	2A	瓦集中1・黒灰色粘土層			厚2.0	凸面ナデ、凹面布目、平行コビキ	精良		
274	瓦	平瓦	2A	瓦集中1・黒灰色粘土層			厚2.1	表面やや落剥、凸面縄叩き、凹面ナデ、離れ砂	精良		
275	瓦	平瓦	2A	瓦集中・黒灰色粘土層			厚2.0	凸面離れ砂、ナデ、凹面布目、先端部角面取り	精良		
276	瓦	平瓦	2A	瓦集中2・黒灰色粘土層			厚2.3	凸面離れ砂、ナデ、凹面布目、先端部角面取り	精良		
277	瓦	平瓦	2A	瓦集中4・黒灰色粘土層			厚2.4	凸面縄目叩き、ナデ、凹面離れ砂	精良		
278	瓦	平瓦	2A	瓦集中4・黒灰色粘土層			厚2.3	凸面やや落剥、凸面縄目叩き？、凹面ナデ	精良		
279	土器	坏・底部	2A	P1			3.6	底径やや小、糸切り、体部下半丸み	精良		
280	陶磁器	青磁稜花皿	2A	P7	(11.6)	2.4	4.4	稜花、体部開く、底裏露胎	精良	15C中～後半	
281	瓦	平瓦	2A	P7・m101			厚2.4	両面離れ砂、ナデ、端部斜の面取り	砂粒少量		
282	陶磁器	青花皿・口縁	2A	P8	(12.5)			口唇反る、内外面玉取り獅子、外面草花文？	乳白色、精良	15C後半～	
283	陶磁器	青磁細蓮弁文碗・口縁	2A	P13	(11.0)			褐灰白色、細い線描き蓮弁文、蓮弁文の先端に小さな刺突、被熱	黄白色、陶器質	15C後半～16C	
284	土器	坏・底部	2A	P13			4.4	底部落剥回転糸切り？、体部開く、スス付着	精良		
285	土器	小皿？・底部	2A	P20			(3.7)	内外面摩耗、底部糸切りか、内外面灰色	精良		
286	土製品	土錘	2A	P26			重(1.8)	筒状	精良		
287	ガラス製品	不明製品	2A	P27	径5.1mm		孔径1.4mm	一端部大きく、細い方は破損、芯にネジ状に巻き取り成形、濃青色	ガラス		
288	土器	坏・底部	2A	P31、黒灰粘土層			(6.3)	外面摩耗、内面轆轤ナデ、内面赤褐色、外面灰色	精良		
289	土器	坏・底部	2A	P32、			(6.0)	全体に摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、内面轆轤目、内外面黄白色	精良		
290	土器	羽釜・口縁	2A	P32	(27.8)			口縁部に鏝が付く、口唇平坦、胴部斜方向の並行タタキ	砂粒微量	15C前半	播磨型
291	土器	坏・底部	2A	P33			(5.4)	やや摩耗、底部糸切り	精良		
292	土器	坏・底部	2A	P33			(8.4)	摩耗、糸切りか、内外面灰白色	精良		
293	陶磁器	青磁細蓮弁文碗・口縁	2A	P38	(14.2)			体部直立気味、外面細蓮弁文	乳白色、精良	16C前半	
294	土器	小皿	2A	P49	(7.2)	1.3	(6.5)	体部短く直立する、底部糸切り	赤色微鈹物粒多量		
295	土器	坏・底部	2A	P49			(4.6)	底部糸切り、体部開く	精良		
296	土器	坏・底部	2A	P63、黒灰粘土層			(5.8)	底部糸切り、体部開く、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
297	土器	坏・底部	2A	P66、黒灰粘土層			(6.9)	底部糸切り	微金雲母微量		
298	土器	坏・底部	2A	P66、黒灰粘土層			(10.0)	摩耗、体部開く	微金雲母微量		
299	土器	坏・底部	2A	P70			(5.4)	内外面摩耗、底部糸切りか	精良		
300	土器	坏・底部	2A	P70			(7.6)	底部糸切り、体部外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
301	瓦質土器	羽釜・口縁	2A	P73、黒灰粘土層	(21.4)			大きな鏝貼付、口縁内傾気味、轆轤目、胴部横削り、内面上部刷毛目、胴部スス付着	白色微鈹物粒多量	15C	河内型、森島E
302	土器	小皿	2A	P76、黒灰粘土層	(6.9)	1.9	(3.8)	内外面摩耗、底部糸切りか、内外面灰褐色	精良		
303	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	2A	P77	(16.8)			口縁開き気味、外面蓮弁文	精良	15C前半	
304	土器	坏・底部	2A	P77			(9.3)	底部糸切り、内面強い轆轤目痕	精良		
305	土器	坏・底部	2A	P80			(8.4)	内外面摩耗、底部糸切りか、体部やや直立気味	微砂粒微量		
306	土器	坏・底部	2A	P92			(4.6)	底部糸切り	精良		
307	土器	坏・底部	2A	P94			(4.4)	外面落剥、内面摩耗	精良		
308	陶磁器	白磁皿	2A	黒灰粘土層	(12.6)	1.9	(7.4)	体部直線的に外傾、削り出し高台、口縁部のみ施釉	白色、精良	15C中	白磁D類
309	陶磁器	白磁皿	2A	黒灰粘土層	(10.4)	2.1	(5.5)	体部直線的に外傾、口縁部僅かに内湾、見込み内目跡、切り高台	乳白色、陶器質	15C後半	小野D群

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
310	陶磁器	白磁皿・底部	2A	黒灰粘土層			(4.0)	アーチ状高台、体部下露胎	乳白色、精良	15C中葉	小野D群
311	陶磁器	白磁皿	2A	黒灰粘土層	(12.0)	2.8	(6.4)	丸味をもって立ち上がり、口縁は外反する。壘付け以外は施釉	白色、精良	16C	白磁皿E類
312	陶磁器	白磁皿	2A	黒灰粘土層	(12.0)	3.1	(7.6)	体部は外反、壘付け以外は施釉	白色、精良	16C	白磁E類
313	陶磁器	白磁皿・底部	2A	黒灰粘土層			(8.4)	丸味をもって立ち上がり、口縁は外反する。壘付け以外は施釉	白色、精良	16C	白磁皿E-2類
314	陶磁器	白磁八角坏	2A	表土下	(7.9)	3.4	(3.1)	八角、口縁は反る、削り出し高台は露胎	白色、精良	15C後半	
315	陶磁器	青花皿・口縁	2A	黒灰色粘土層	(11.2)			口縁反る、草花絵付け	白色、精良	15C後半	
316	陶磁器	青花皿・底部	2A	黒灰粘土層			(7.0)	内外面玉取り獅子	白色、精良	15C後半	染付皿B群
317	陶磁器	青花皿・底部	2A	黒灰粘土層			(7.2)	内外面玉取り獅子	白色、精良	15C後半	染付皿B群
318	陶磁器	青花皿・底部	2A	表土下			(7.5)	高台断面三角形、壘付け釉剥ぎ、玉取り獅子	白色、精良	15C後半～16C前半	
319	陶磁器	青花皿・胴部	2A	暗灰色粘礫層				内外面絵付け、碁笥底	灰白色、精良	16C	染付皿C群
320	陶磁器	青花皿・底部	2A	黒灰粘土層			(6.0)	内面染付、碁笥底	白色、精良	16C	染付皿C群
321	陶磁器	青花皿・底部	2A	表土下			(3.8)	内外面絵付け、碁笥底	白色、精良	16C前半	染付皿C群
322	陶磁器	青花皿・口縁	2A	黒灰粘土層	(13.2)			口縁絵付け、内面界線	白色、精良	16C	E群
323	陶磁器	青花皿・底部	2A	黒灰粘土層			(9.6)	底部糸切り、体部開く	精良	16C前半	染付皿E群
324	陶磁器	青花皿・底部	2A	黒灰粘土層			(6.2)	壘付け無釉、界線数条	白色、精良		
325	陶磁器	青花碗・口縁	2A	黒灰色粘土層・m1	(13.6)			体部下丸み、素口縁、内面界線2条、外面上半雷文、牡丹唐草文	灰色、精良	16C前半	
326	陶磁器	青花碗・底部	2A	上段・暗灰粘礫粘土層			(4.9)	見込み内牡丹唐草文、壘付け無釉、底裏以外絵付け	白色、精良	15C後半～16C前半	C群碗
327	陶磁器	青花碗・底部	2A	黒灰粘土層			(5.6)	体部外面絵付け、芭蕉葉文	白色、精良	16C前半	C群
328	陶磁器	青磁稜花皿	2A	黒灰粘土層	(12.4)	3.2	(5.8)	二次焼成を受ける	灰色、精良	15C中	
329	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	2A	東側部・黒灰色粘土層	(12.0)			口縁反る、稜花	灰白色、精良	15C中	
330	陶磁器	青磁皿？・口縁	2A	黒灰粘土層	(13.2)			丸味をもって短く立ち上がる	灰黒色、精良		
331	陶磁器	青磁細蓮弁文碗・口縁	2A	黒灰粘土層	(14.0)			片削り蓮弁文	灰色、精良	15C後半～	
332	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	2A	黒灰粘土層	(15.6)			蓮弁文判然としない	灰色、精良	15C後半～	
333	陶磁器	青磁碗・底部	2A	黒灰粘土層			(4.0)	見込みに花卉の陽刻、底部外面無釉	灰色、精良		
334	陶磁器	青磁盤・底部	2A	黒灰色粘土層・m101			8.0	底裏無釉、見込み文様	灰白色、精良	15C後半	
335	陶磁器	天目茶碗・口縁	2A	黒灰色粘土層	(11.4)			釉黒色、厚くかかる、被熱	灰色、精良	15C	中国産
336	陶磁器	染付皿	2A	黒灰粘土層	(11.2)	2.3	(5.7)	口縁内外界線	白色、精良	近世	
337	陶磁器	染付碗・口縁	2A	黒灰粘土層	(11.6)			口縁開く、内外面界線	白色、精良	近世	
338	陶磁器	染付小坏	2A	黒灰粘土層	5.7	2.9	2.6	草花文？	白色、精良	近世	
339	陶磁器	染付小坏・底部	2A	黒灰粘土層			1.9	底裏へ込む、高台露胎、体部外面絵付け	乳白色、精良	17C？	肥前？
340	土器	小皿	2A	黒灰粘土層	(5.6)	1.2	3.5	底部糸切り、体部開く	精良		
341	土器	小皿	2A	黒灰粘土層	(6.7)	1.5	(4.4)	小型、底部糸切り、簧子状圧痕、体部短く外反気味に立ち上がる。	精良		
342	土器	小皿	2A	黒灰粘土層	(7.6)	1.2	(5.2)	小型、底部切り離し不明。体部短く丸味をもって立ち上がる。	精良		
343	土器	小皿	2A	黒灰粘土層	(7.2)	1.3	(5.2)	小型、底部糸切り、簧子状圧痕、体部短く丸味をもって立ち上がる。	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
344	土器	小皿	2A	黒灰粘土層	(7.0)	1.1	(5.4)	底部糸切り、体部短く丸味をもって立ち上がる	精良		
345	土器	小皿	2A	黒灰粘土層	(7.4)	1.4	(5.7)	底部糸切り、体部短く外反して立ち上がる、内外面赤褐色	精良		
346	土器	小皿	2A	黒灰色土層粘土層・m101	6.1	1.6	5.4	口縁短く立ち上がる	精良		
347	土器	小皿	2A	黒灰粘土層	(6.1)	1.6	(4.5)	底部糸切り、体部短く丸味をもって立ち上がる	精良		
348	土器	小皿	2A	黒灰粘土層	(8.7)	1.9	5.1	底部糸切り、体部短く丸味をもって立ち上がる、体部外面轆轤目	精良		
349	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			3.1	底径小、回転糸切り	精良		
350	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			2.6	底径小、回転糸切り、内面回転ナデ	精良		
351	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			3.4	底径小、回転糸切り	精良		
352	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			(3.4)	底部糸切り、体部開く	精良		
353	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			(3.4)	底部糸切り、体部開く	精良		
354	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			3.6	底部糸切り、体部開く	精良		
355	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			3.7	底部糸切り、体部開く、内面回転ナデ	精良		
356	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			4.1	底部糸切り、体部開く、内面回転ナデ	精良		
357	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			4.1	摩耗のため整形不明。体部開く	精良		
358	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			(4.3)	底部糸切り、内外面回転ナデ、体部開く	精良		
359	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			(4.4)	底部糸切り、体部丸味をもって立ち上がる	精良		
360	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			(4.8)	底部糸切り、体部開く	精良		
361	土器	小皿・底部	2A	黒灰粘土層			(5.0)	底部糸切り、体部開く	赤色微鉱物粒少量		
362	土器	坏	2A	黒灰色粘土層・m106	10.1	2.1	5.0	底部糸切り、体部短く僅かに内湾気味	精良		
363	土器	坏	2A	上段・黒灰粘土層	(9.7)	2.2	4.6	底部糸切り、体部開く	精良		
364	土器	坏・口縁	2A	黒灰粘土層	(9.6)			体部外傾気味に立ち上がる	精良		
365	土器	坏・口縁	2A	黒灰粘土層	(9.7)			体部やや丸味を持ち立ち上がる、器肉薄い	精良		
366	土器	坏・口縁	2A	黒灰粘土層	(11.4)			体部やや丸味を持ち立ち上がる	精良		
367	土器	坏	2A	黒灰粘土層	(11.4)	2.7	4.4	底部糸切り、体部外傾気味に立ち上がる	精良		
368	土器	坏	2A	黒灰粘土層	(12.5)	3.8	(6.3)	底部糸切り？体部外傾気味に立ち上がる、体部外面轆轤ナデ、内面強い轆轤痕	精良		
369	土器	坏・口縁	2A	黒灰粘土層	(13.6)			体部外傾、口縁内湾、体部外面強い轆轤目痕、焼成堅致、外面灰褐色、内面赤褐色	精良		
370	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			4.4	底部糸切り、体部外傾、体部外面轆轤目痕	精良		
371	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(4.6)	底部糸切り、体部開く、轆轤ナデ	精良		
372	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(5.5)	底部糸切り、箕子状圧痕、外面強い轆轤目痕、体部やや外傾気味に立ち上がる、器肉薄い	精良		
373	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			5.8	底径大、糸切り、箕子状圧痕、体部やや外傾、内外面強い轆轤目痕	精良		
374	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(6.5)	底部糸切り、内面強い轆轤目痕	精良		
375	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(6.8)	底部糸切り、体部外面強い回転ナデ、内外面黄白色	精良		
376	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(7.2)	やや摩耗、底径大、底部糸切り、体部開く、内外面轆轤目痕	精良		
377	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(7.6)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや外傾、内外面強い轆轤目痕	精良		
378	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(8.2)	やや摩耗、底部箕子状圧痕、体部外傾、内外面轆轤目痕	精良、微砂粒微量		
379	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(8.8)	底部糸切り、体部傾、体部外面強い轆轤目痕、内外面黄白色	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
380	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(5.2)	底部糸切り、体部やや外傾して立ち上がる、体部外面轆轤目痕	精良		
381	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			6.2	摩耗、底部円盤、糸切り、体部開く、内面轆轤目	精良		
382	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(6.3)	やや摩耗、底部糸切り?、内面強い轆轤目痕、体部やや外傾気味に立ち上がる	微砂粒微量		
383	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(7.0)	やや摩耗、底部回転笠切り?体部開く、内外面轆轤ナデ	微砂粒微量		
384	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(7.5)	摩耗、底部糸切り、体部やや丸味をもって立ち上がる、内面強い轆轤目痕	微砂粒微量		
385	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			7.9	底径大、底部円盤、糸切り、体部やや外傾、内面強い轆轤目痕	精良		
386	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(8.9)	底部糸切り、箕子状圧痕、内面強い轆轤目痕、体部やや外傾気味に立ち上がる	精良		
387	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(4.2)	底部糸切り、体部開く	精良		
388	土器	坏・底部	2A	TR・暗灰粘礫混土層下層			(4.3)	底部糸切り、体部開く	精良		
389	土器	坏・底部	2A	上段・暗灰粘礫土層			(4.4)	底部糸切り、底径小、体部開く、内外面赤褐色、堅致	精良		
390	土器	坏・底部	2A	表土下			(4.5)	底部糸切り、体部開く	精良		
391	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			4.6	底部糸切り、体部開く	精良		
392	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			4.7	底部糸切り、体部開く	精良		
393	土器	坏・底部	2A	m103			4.7	やや摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
394	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(4.8)	底部糸切り、体部開く	精良		
395	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			4.9	底部落剥、糸切り?、体部開く	精良		
396	土器	坏・底部	2A	上段・黒灰粘土層			(5.0)	底部糸切り、底径小、体部開く、内外面赤褐色、堅致	精良		
397	土器	坏・底部	2A	包含層			(5.0)	底部糸切り後ナデ、体部開く、砂粒付着	精良		
398	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(5.0)	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
399	土器	坏・底部	2A	表土			5.1	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
400	土器	坏・底部	2A	上段・黒灰粘土層			5.1	底部糸切り、体部開く	精良		
401	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			5.2	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く	精良		
402	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			4.3	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
403	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			5.3	底部糸切り、体部開く	精良		
404	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(5.3)	摩耗、底部箕子状圧痕、体部開く	精良		
405	土器	坏・底部	2A	TR・暗灰粘礫混土層下層			(5.5)	底部糸切り、体部やや丸味を持ち開く	精良		
406	土器	坏・底部	2A	南西部			4.5	底部糸切り、体部開く	精良		
407	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			4.6	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
408	土器	坏・底部	2A	東部			5.7	底部糸切り、体部開く	精良		
409	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(6.0)	底部糸切り、体部開く	精良		
410	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(3.6)	底部糸切り、体部外傾して立ち上がる	精良		
411	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(4.0)	底部糸切り、体部開く	精良		
412	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(4.0)	底部糸切り、体部開く	精良		
413	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			5.0	底部糸切り、体部開く	精良		
414	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			5.0	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
415	土器	坏・底部	2A	上段・暗灰粘礫土層			(5.2)	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
416	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(5.4)	底部糸切り、体部開く	精良		
417	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(5.4)	摩耗のため整形不明。体部外反	精良		
418	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(6.0)	底部糸切り、体部外傾気味に立ち上がる	精良		
419	土器	坏・底部	2A	黒灰色粘土層・m107			4.6	やや摩耗、底部糸切り、体部丸味	精良		
420	土器	坏・底部	2A	黒灰色粘土層・m101			5.1	やや摩耗、底部糸切り、体部やや丸味	精良		
421	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(6.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや丸味をもって立ち上がる	やや砂質、微金雲母微量		
422	土器	坏・底部	2A	東部			(7.2)	摩耗、底部糸切り、体部反る	精良		
423	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(7.6)	摩耗、底部糸切り?、体部直線的に立ち上がる	精良		
424	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(7.6)	摩耗、底部糸切り?、体部開く	微砂粒少量		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
425	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(8.2)	底部糸切り、内面強い轆轤目痕、体部やや外傾気味に立ち上がる	精良		
426	土器	坏・底部	2A	黒灰粘土層			(9.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや外傾して立ち上がる	やや砂質、微金雲母微量		
427	土器	釜・口縁	2A	黒灰色粘土層	(15.6)			口縁下低い鏝	微白色鋇物粒少量	15C	
428	土器	釜・口縁	2A	黒灰粘土層	(27.6)			口縁に丸味の鏝が付く、口唇丸味を持つ。外面斜タタキ。色調やや赤みを持つ	白色微鋇物粒多量	15C	
429	土器	釜・口縁	2A	黒灰粘土層	(28.0)			口縁に丸味の鏝が付く、口唇丸味を持つ。外面斜タタキ。色調やや赤みを持つ	白色微鋇物粒多量	15C	
430	土器	釜・口縁	2A	黒灰粘土層	(19.0)			口縁に鏝が付く、口縁短く立ち、口唇斜にそぎ落としたようになる。外面斜タタキ。色調やや赤みを持つ。煤付着	白色微鋇物粒少量	15C	
431	土器	釜・口縁	2A	表土	(20.8)			口縁に丸味のある鏝が付く、口唇内傾する。内外面ナデ	白色微鋇物粒多量	15C	
432	土器	釜・口縁	2A	黒灰粘土層	(27.0)			口縁に丸味のある鏝が付く、口唇内傾する。外面体部落剥のため調整判然とせず、内面ヨコハケ。	微金雲母、角閃石微量	15C	
433	土器	釜・口縁	2A	黒灰粘土層	(28.0)			口縁に鏝が付く、内傾気味に立ち上がり、口唇内傾する。外面斜タタキ	砂質、微金雲母微量	15C	
434	土器	甕・口縁	2A	黒灰粘土層	(26.1)			頸部で「く」の字状に屈曲し、口唇は中に巻き込む、内外面ナデ、色調褐色	微砂粒多量		
435	瓦質土器	火鉢・胴部	2A	黒灰粘土層				菊花文印	砂粒少量	14C後半	
436	瓦質土器	風炉・口縁	2A	黒灰色粘土層・m102	(24.4)			口縁珠文、肩部段、内面へら削り	精良	15C前半	風炉Ⅰ類
437	瓦質土器	風炉・口縁	2A	黒灰色粘土層・m101	(26.6)			口縁珠文、肩部段、内面へら削り	精良	15C前半	風炉Ⅰ類
438	瓦質土器	風炉	2A	黒灰色粘土層・m103	胴径 (41.5)			透かし状、横位の粘土突帯2条	微白色鋇物粒		
439	瓦質土器	風炉?・肩部	2A	黒灰粘土層				線刻	微白色鋇物粒多量		
440	炆器?	小皿	2A		(6.2)	1.0	(5.0)	底部糸切り、内外面灰色、須恵質	精良		
441	炆器	鉢?・底部	2A	黒灰粘土層			(34.0)	底裏ハケ調整、内面自然釉、砂目	微白色鋇物粒多量		
442	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰粘土層	(29.0)			口縁上下に拡張、粗い播り目、内外面灰色	白色鋇物粒多量	14C後半~15C前半	備前ⅣB-1期
443	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰粘土層	(32.8)			口縁上下に拡張、粗い播り目	白色鋇物粒少量	14C後半~15C前半	備前ⅣB-1期
444	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰色粘土層・m101	(29.8)			口縁拡張、内外面赤褐色	砂粒少量	15C前半	備前ⅣB-2期
445	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰色粘土層	(27.8)			口縁拡張、内外面灰色	砂粒少量	15C前半	備前ⅣB-2期
446	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰粘土層	(35.8)			口縁上下に拡張、粗い播り目、片口	白色鋇物粒少量	16C	備前ⅤA期
447	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰粘土層	(29.0)			口縁拡張しない、粗い播り目	精良	16C	備前ⅤA期
448	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰粘土層			(14.7)	粗い播り目	白色鋇物粒多量		
449	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰粘土層			(23.8)	やや細播り目	砂粒少量		
450	炆器	播鉢・口縁	2A	黒灰粘土層			(8.4)	細かい播り目	砂質		
451	土製品	土錘	2A		長3.0	径1.1	重2.9	筒状	精良、微砂粒		
452	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.0	径1.2	重3.1	筒状、やや小型	精良		
453	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.1	径1.2	重3.2	筒状、やや小型	精良		
454	土製品	土錘	2A	西部		径1.3	重(3.4)	筒状、小型	精良		
455	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.0	径1.1	重3.6	筒状、やや小型	精良		
456	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.0	径1.3	重4.0	筒状、小型	微砂粒微量		
457	土製品	土錘	2A		長3.5	径1.2	重4.2	筒状	精良		
458	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.9	径1.2	重4.9	筒状、やや小型	精良		
459	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長4.0	径1.2	重5.1	筒状、やや小型	精良		
460	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長4.2	径1.3	重5.1	筒状	精良		



第Ⅱ章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
461	土製品	土錘	2A	上段・灰粘土層		径1.4	重(5.2)	筒状	砂粒少量		
462	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長(3.9)	径1.3	重(5.3)	筒状	精良		
463	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長4.7	径1.3	重5.8	筒状	精良		
464	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.8	径1.4	重6.4	筒状	精良		
465	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.6	径1.4	重6.6	筒状	精良		
466	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長4.4	径1.4	重6.6	筒状	精良		
467	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.6	径1.5	重7.1	筒状	精良		
468	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長5.0	径1.5	重7.4	筒状	精良		
469	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長5.9	径1.3	重8.0	筒状、やや長いもの	精良		
470	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長4.3	径1.6	重8.1	筒状	精良		
471	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長3.9	径1.5	重8.4	筒状	精良		
472	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長5.0	径1.3	重8.4	筒状、やや長いもの	精良		
473	土製品	土錘	2A	黒灰粘土層	長4.3	径(1.5)	重(8.3)	筒状、表面落剥	精良		
474	土製品	土錘	2A	上段・灰粘土層		径2.4	重(13.6)	筒状、大型、黄灰色	砂粒微量		
475	土製品?	土玉?	2A	黒灰色粘土層・m104			径(3.8)	玉状を呈する	精良		
476	銭貨	古銭	2A	黒灰色粘土層・m301	径23.3 mm	厚1.0 mm	孔径6.7 mm	天禧通寶、字体やや潰れる、裏面やや擦り減る	銅		
477	銭貨	古銭	2A	m301	径(24.6) mm	厚1.3 mm	孔径7.1 mm	新しい破損、皇宋通宝	銅		
478	銭貨	古銭	2A	m301	径24.6 mm	厚1.2 mm	孔径7.2 mm	嘉祐通寶	銅		
479	銭貨	古銭	2A	黒灰色粘土層・m301	径24.1 mm	厚1.1 mm	孔径7.4 mm	熙寧元寶、字体潰れる、裏面擦り減る	銅		
480	銭貨	古銭	2A	黒灰色粘土層・m301	径23.5 mm	厚2.0 mm	孔径6.2 mm	洪武通寶、字体明瞭、背字「一銭」	銅		
481	銭貨	古銭	2A	黒灰色粘土層・m301	径23.0 mm	厚1.6 mm	孔径6.0 mm	洪武通寶、字体明瞭	銅		
482	銭貨	古銭	2A	黒灰色粘土層・m302	径25.0 mm	厚1.4 mm	孔径5.5 mm	永樂通寶、字体明瞭	銅		
483	銭貨	古銭	2A	廃土	径23.4 mm	厚1.3 mm	孔径6.3 mm	銭文不明、裏面摩耗	銅		
484	金属製品	飾り金具	2A	黒灰色粘土層・m301	長2.4	幅2.4	厚0.1	キャップ状、中央に円孔	銅製か		
485	金属製品	不明銅製品	2A	黒灰粘土層	長0.9	幅0.6	厚0.15	「U」字状、両端部は折損か	銅		
486	金属製品	鉄釘?	2A	黒灰色粘土層	長(3.9)	厚1.1		扁平、頭部幅広、全体がやや曲る	鉄		
487	金属製品	鉄釘	2A	m1001	長4.3	厚0.5		和釘、断面四角、頭部折り曲げる	鉄		
488	瓦	丸瓦	2A	黒灰粘土層			厚3.0	凸面縄目叩き痕、ナデ、銀化、凹面布目			
489	瓦	丸瓦	2A	黒灰粘土層			厚2.3	凸面縄目叩き痕、削り、ナデ、凹面斜状コビキ、布目、ループ紐吊り痕			
490	瓦	平瓦	2A	黒灰粘土層			厚1.7	凸面ナデ、凹面斜状コビキ			
491	瓦	平瓦	2A	黒灰粘土層			厚2.2	両面ナデ、歪みひび割れ			
492	瓦	道具瓦?	2A	-		幅(8.3)	厚2.7	三角形状、凸面縄目叩き、凹面平行コビキ	精良		
493	石製品	砥石	2A	黒灰粘土層	長8.0	幅4.5	厚3.1	長方形の一面に僅かに擦痕	砂岩		

## 2A区木製品

決定遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	法量 (cm)			特 徴	材 質	備 考
W01	木製品	柱痕	2A	柱痕2、建物跡1	長(64)	径20		先端部加工、平坦	ニヨウマツ	保存処理No.09
W02	木製品	柱痕	2A	柱痕3、建物跡1	長(98)	径34		先端部加工、平坦	ニヨウマツ	保存処理No.10
W03	木製品	柱痕	2A	柱痕4、建物跡1	長(54)	径20.5		下端部及び先端部加工痕、先端部平坦	ニヨウマツ	保存処理No.06
W04	木製品	柱痕	2A	柱痕5、建物跡1	長(62)	径21		先端部加工		
W05	木製品	柱痕	2A	柱痕6、建物跡1	長(57)	径22		先端部加工		
W06	木製品	柱痕	2A	柱痕15	長(34)	径10		先端部のみ加工		
W07	木製品	部材	2A	石列1側溝1・下層	長(13.2)	幅8.0	厚0.9	一端部欠損、裏面整形やや粗い、幅一部やや狭まる		
W08	木製品	柱痕	2A	P1	長(19.1)	幅(11.6)	厚(6.3)	端部平坦		
W09	木製品	部材	2A	P3	長11.2	幅4.8	厚0.8	曲げ物か、僅かに湾曲、一端部斜めに削ぐ		
W10	木製品	柱痕	2A	P7・西側部	長(47)	径19		先端部加工		
W11	木製品	柱痕	2A	柱痕12?	長(63)	径16		全体を部分的に加工、先端部加工		
W12	木製品	柱痕	2A	柱痕13?	長(47)	径15		先端部加工、やや尖る		
W13	木製品	部材	2A	P91	長(9.5)	幅(4.1)	厚1.5	中央部に小孔		
W14	木製品	不明木製品	2A	P91	長7.3	幅3.2	厚2.0	両端截断痕		
W15	木製品	柱痕	2A	建物跡1?	長(83)	径22		全体を加工、先端部平坦	ニヨウマツ	保存処理No.07
W16	木製品	柱痕	2A	建物跡1?	長(70)	径17		先端部のみ加工		
W17	木製品	柱痕	2A	建物跡1?	長(69)	径17		先端部加工、平坦		
W18	木製品	柱痕	2A		長(43)	径18		先端部加工		
W19	木製品	柱痕	2A	柱痕10?	長(31)	径17		先端部加工、平坦		
W20	木製品	部材	2A	黒灰色粘土層	長23.2	幅6.5	厚1.2	曲げ物か、僅かに湾曲、一端部斜めに削ぐ		
W21	木製品	柱痕	2A		長(47)	径12		側面加工		
W22	木製品	柱痕	2A		長(27)	径10		先端部加工		
W23	木製品	柱痕	2A		長(76)	径7		先端部のみ加工、尖らす		
W24	木製品	柱痕	2A		長(46)	径10.0		先端部のみ加工		
W25	木製品	漆椀	2A	1001・黒灰色粘土層	底径6.2			上半分は欠損、高台、黒漆	ニレ属	保存処理No.02

## 第5節 2B区

### 概要

2B区は坂本地区進入道路予定地に相当し、3区との間に民有地を挟み、細長い調査区となっている。大グリッドA・BⅢに位置する。調査面積は405㎡である。表土と耕作土を除去すると包含層、遺構確認面となり、浅い面で遺構を検出している。遺構数は少ないものの、調査区全体から満遍なく柱穴を検出しており、西端の山際近くで比較的纏まりが認められた。しかしながら建物跡等の配列は認められていない。中央部北側の半分近くは後世に削平され、遺構は検出していない。

調査区の東側部の上層で石列を確認し、掘り下げて行く段階で大溝であることが判明した。上段の3区の調査が進展した段階で、本調査区の大溝は3区SD1、2と同一の大溝で、2B区まで繋がっていることが判明した。

出土遺物は特に際立ったものは認められず、陶磁器類、土器類等の量は他の調査区に比べて少ない。時期は15世紀から16世紀にかけてのものがほとんどである。本調査区の機能は寺院の本体から外れた居住空間の可能性が強い。

#### (1) 2B大溝 (第35図1900～1917)

3区のSD1、2が合流し、2B区で続きを検出した。調査区で長さ約5m、幅1.8m、深さは確認面から約1.2mである。両岸は大礫を並べ置く、東側方向から底面に向かって崩落したように大礫が流れ込む。底面近くは砂礫層主体となる。

出土遺物は1900から1917で、14C後半と考えられる1907の瓦質土器鉢、15世紀後半の甕1908が出土している。また混入品と考えられる11C後半の白磁碗1900が出土している(別途SD1を参照)。

#### (2) 2B土坑 (第35図、第36図494、495)

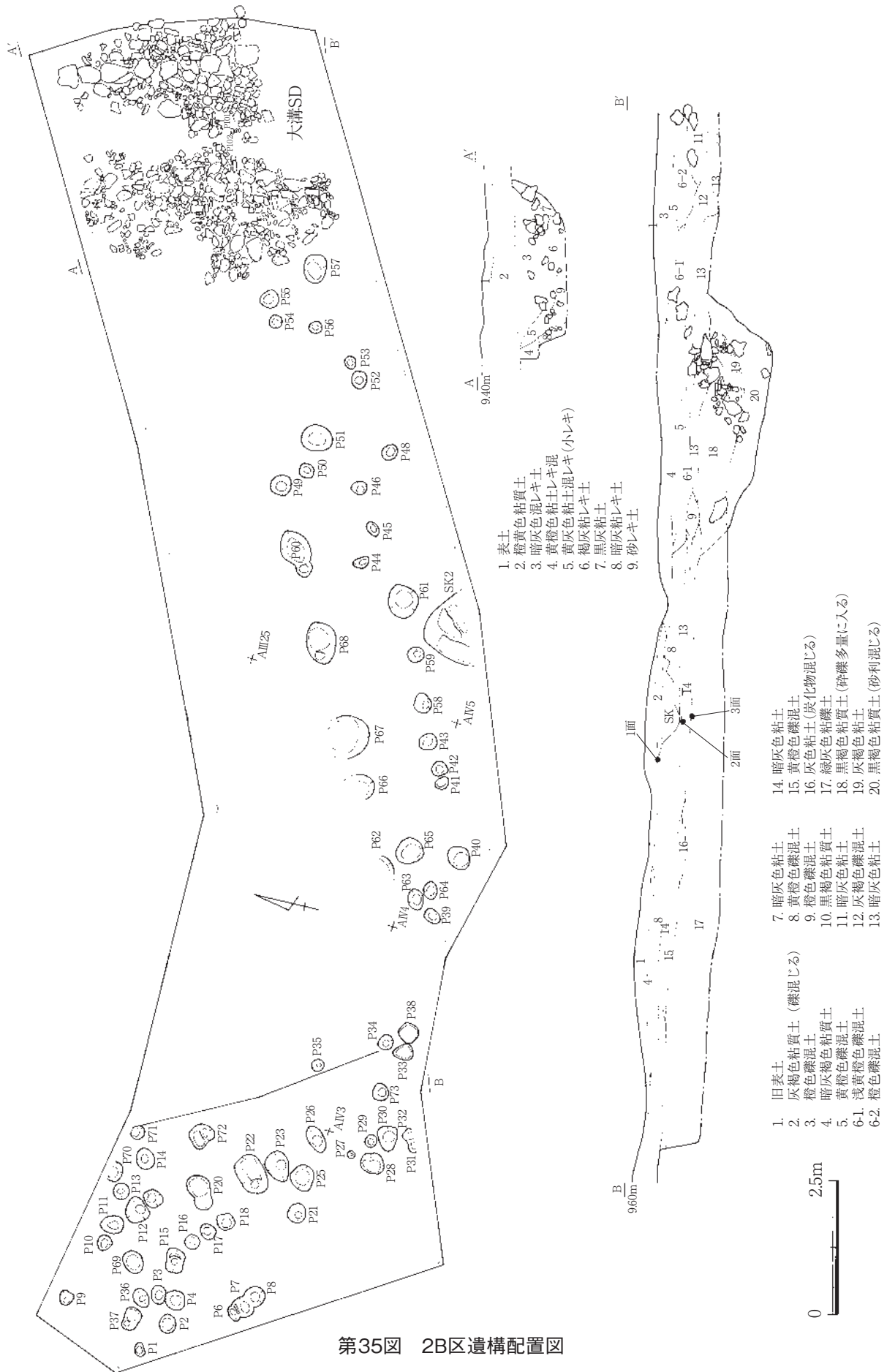
2BSK2を調査区中央南壁際で検出した。長さ82cmで楕円形か。

494の土器坏、炆器壺と考えられる495が出土している。494の底部は回転糸切りで簀子状圧痕が残る。体部がやや開き、口縁端は内湾気味である。495は付け高台で内外面の色調は灰色で被熱する。

#### (3) 2B柱穴 (第35図、第36図496～507、第39図W26、W27)

70基検出した。明確な並びを持つものはなく、西側部ではやや南北に縦に多く並ぶ傾向があり、中央部では東西に横に並ぶ傾向がある。中央部の北側のAⅢ25グリッド周辺は構成の削平で遺構は検出していない。

P8からはW26の柱痕が出土している。先端部を加工し、径は17cmである。P21から497の無文の青磁碗底部が出土しており、15C前半と考えられる。また体部が大きく開く土器坏の498も出土している。P23からは499の青磁碗が出土している。無文で口縁が僅かに反り、釉は透明感がある。15Cと考えられる。P26からは杭W27が出土している。P37からは500の土器坏の底部が1点出土し



第35図 2B区遺構配置図

ている。体部はやや外傾気味に立ち上がり、内外面に弱い轆轤目を残す。P48から501の東播磨の捏ね鉢が出土している。14Cと考えられる。P55から15C後半の502の瓦質甕が出土している。P61からは503の土鍾が1点出土している。P63からは504の土器坏底部で体部がやや外傾気味に立ち上がるものが出土している。P67からは505の土器坏、506の鍋が出土している。505は体部が開く、506の鍋は口縁が受け口状で頸部が屈曲する。口唇は内傾し平坦で、内外面に粗い縦刷毛を施し、内外面は黄白色を呈する。13Cのものか。P68からは507の土器坏底部が1点出土している。体部は大きく開くタイプの可能性がある。

#### (4) 2B区遺物包含層出土遺物(第36～38図508～574)

##### ①陶磁器類(第36図508～518)

###### 白磁

508は白磁の皿の可能性のあるものである。見込み内に浮き彫り状の文様を施す。

###### 青花

509は皿で15Cのもの、510は碗で口唇及び口縁内外に界線を巡らせ、全体がやや青みがかかる色調である。16C末のものである。

###### 青磁

511は皿で15C代のものと考えられる。

512から516は碗である。512の見込み内は劃花文、龍泉窯Ⅰ2で12Cから13Cと考えられる。513は無文碗で口唇が反り、底裏は露胎となり、釉が厚く貫入が入る。15C前半か。515の外面は不明瞭な蓮弁文である。15C前半か。

518は盤で口縁は折縁状に屈曲し、口唇を摘みあげる。14Cか。

##### ②土器(第36、37図519～543)

###### 小皿

519から524は小皿で、524以外は体部の開くものである。519、520は極めて似た形態をしており、口径7cm、底径5cm程度である。521、522は体部外面に僅かに轆轤目を残す。524は体部が立ち上がり箱形のタイプの可能性がある。内面底部と体部の境が弱い溝状になる。

###### 坏

525から542は坏で色々なタイプに分かれる。525から528は皿状のもので、525は口縁がやや外反する。526は内湾気味のもの、528は口縁が僅かに直立気味で内面に轆轤目を残す。527、529の体部はやや開き、内面底部と体部の境が溝状になり、轆轤目を残す。

530から542は底部破片で、530から533は体部がやや開き轆轤目を残すものである。534から537は体部が開くものである。538から540は余り体部の開かないものである。540は箱形のものか。541、542は529と同様の形態のもので轆轤目を強く残し、内面底部と体部の境が溝状になる。

###### 鍋

543は受け口状口縁で頸部が屈曲し、口唇は内傾して平坦である。内外面に粗い刷毛整形で外面

に煤が付着する。内面は黄白色を呈する。口径は26.8cmを測る。

### ③瓦質土器(第37図544～547)

#### 捏ね鉢

544は口縁がやや肥厚、口唇のみが黒灰色を呈し、東播磨と考えられる。

#### 鍋

545は口縁が僅かに外反し、口唇は平坦で体部はやや曲る。内外面共に灰色を呈する。14Cの在地産か。

#### 火鉢

546は浅鉢状の火鉢か。口縁は僅かに肥厚し内傾気味で、口縁下に2条突帯の間に花菱スタンプ文を施す。内外面共に黄褐色を呈する。15C前半のものである。

#### 風炉

547は口縁に縦格子の文様を施し、口唇は平坦で肩部が張る。外面は赤褐色、内面が灰色を呈する。15C前半のものか。

### ④炆器(第37、38図548～555)

#### 捏ね鉢

548、549は共に口縁が肥厚し、東播磨のものである。548が13C中葉から後半のものである。

#### 播鉢

550から552は共に備前の播鉢である。550が13C前半、551が14C前半、552が14C後半のものである。共に口縁が肥厚しないものである。

#### 壺

553は口縁部を折り返し丸く肥厚し、肩部が張る。肩部分に自然釉が掛かる。14Cから15Cの備前のものである。554は口唇を折り返し玉縁で、肩部が張る。黒灰色を呈し、外面に自然釉が掛かる。産地は不明である。

#### 甕

555は甕と考えられる。平底で底部切り離しは糸切りか。内外面は刷毛整形である。備前産か。

### ⑤土製品(第38図556～566)

#### 土錘

556から566の11点は細長い筒状の土錘である。重さは2、4、7g台に分かれる。556から560は小型のもの、やや大きなものが561から563、大きなものが564から566である。

### ⑥金属製品(第38図567、568)

#### 引手金具

567は頂部に渦巻き状の文様を施し、両端は鋏になり尖る。銅製か。

筒状製品

568は銅製で筒状を呈する。用途不明である。

⑦瓦 (第38図569～571)

569は軒丸瓦で瓦当部分の文様は不明である。570は丸瓦で摩耗して整形は不明である。571は平瓦で両面共に離れ砂か。

⑧石製品 (第39図572～574)

石鍋

572は口縁下に細い鑿が付き、口唇部は平坦である。滑石製である。15Cのものか。

石臼

573は粉挽き臼である。目は6条、裏面は擦り減り、被熱する。

叩石

574は花崗岩製で表裏面に部分的に叩き痕跡がある。

## (5) 2B区小結

遺構は大溝の一部と柱穴が主なものである。柱穴は大部分が小さなもので、大型のものは確認していない。それも配列が不鮮明な柱穴群であった。長宗我部地検帳段階ではこの部分も屋敷跡の可能性があり、「山本ヤシキ」、「□ナヤシキ」(□は欠字)のどちらかに相当する可能性があり、地検帳段階では寺院跡との関連性は認められず、また実際の調査成果でも寺院関連の遺構遺物は検出できていない。

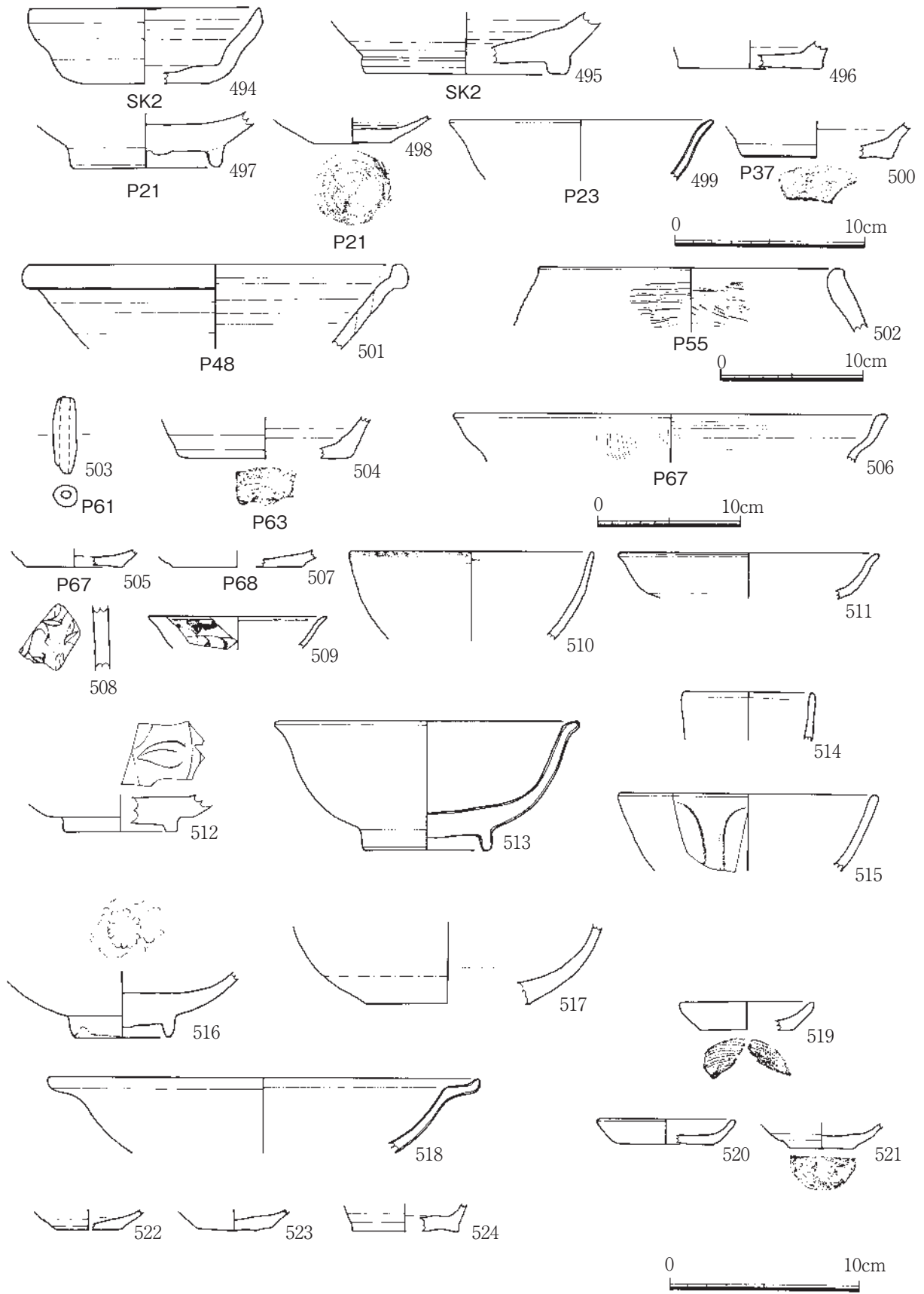
大溝は3区のSD1、2の続きと考えられ、SD1、2が合流した後、本区では1条の大溝となっている。大溝の両脇は大石で護岸を施しており、土層の下層は砂粒混じりとなっており、人工的な流路である。この大溝からは1900の白磁碗が出土しており、11C後半の年代が考えられる。11C代は本遺跡では最も古い段階の遺物である。大溝自体は13C頃と考えられ、大溝に伴うものではなく、混入品と考えられるものの、本遺跡の遡源を考える上で大事な遺物となっている。

白磁碗以外に517の白磁皿も11C末と考えられ、512の青磁も12Cから13Cと古いものが混じっている。P67からは在地産の13Cの鍋が出土しており、中心となる15C以外にも13Cの遺構が若干含まれているようである。13Cについては東播磨産の捏ね鉢548、備前の播鉢等が若干出土しており、当然大溝が13Cと考えられることから、周辺域に13Cの遺構等の存在が考えられよう。引き続き14C代は備前産の播鉢551、552も出土している。P48からは東播磨の捏ね鉢501が出土している。13C、14C共に什器類で占められている。

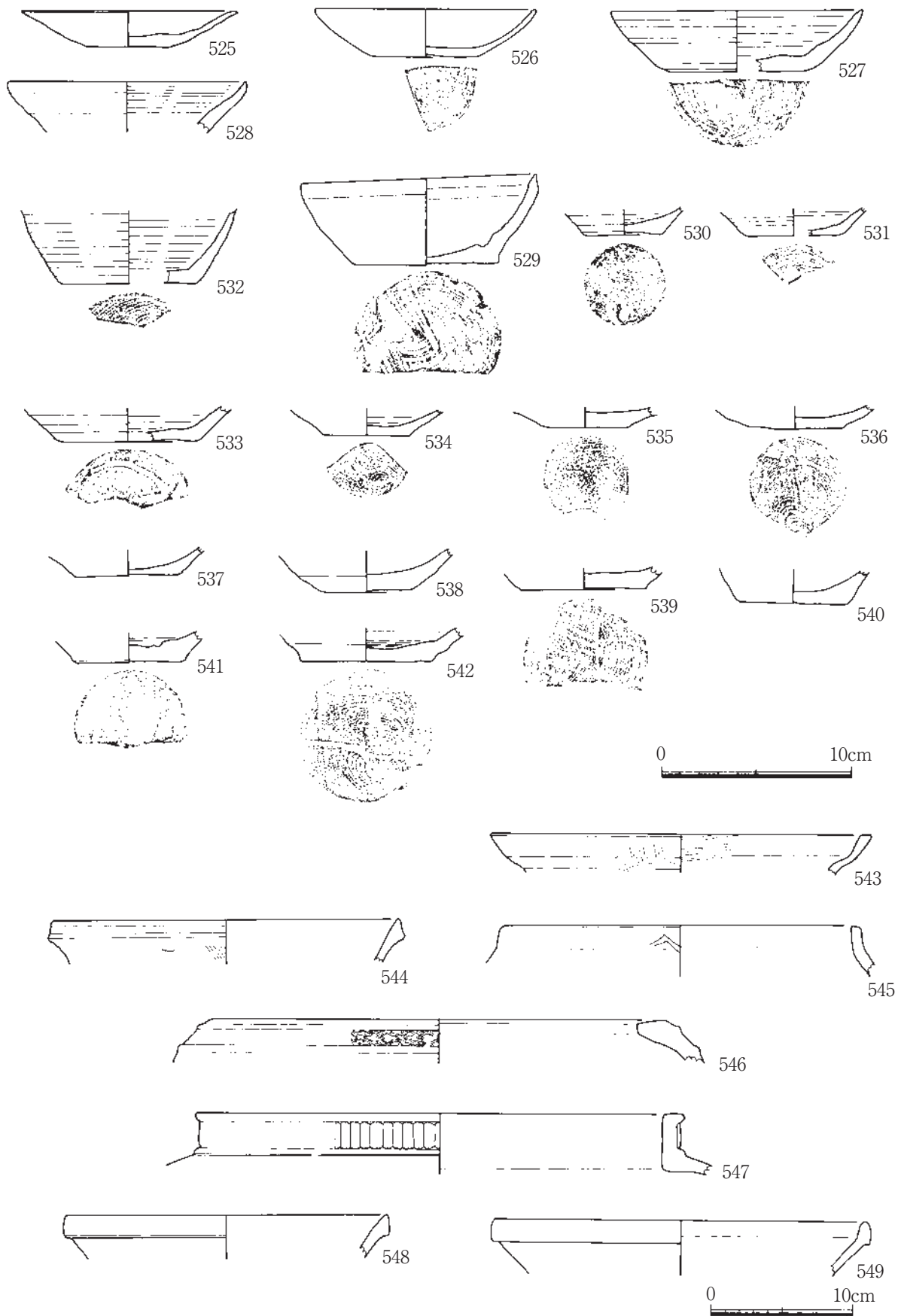
主体となる15C代の遺物は前半と後半に分かれ、輸入陶磁器は前半が青磁碗類、後半には青花が出土するようになる。15C代の什器類は少なく、それ以外のものとして火鉢、風炉が僅少出土している。

土器坏と小皿は幾つかのタイプが出土しており、形態的には坏は皿形態に近いものと、体部が開くもの、箱状を呈するもの大きく3タイプに分かれる。皿状のものは轆轤目を残し、口縁が直立気味のもの、底部が凹むものが多い。しかしながら色調が黄白色を呈するものは出土していない。

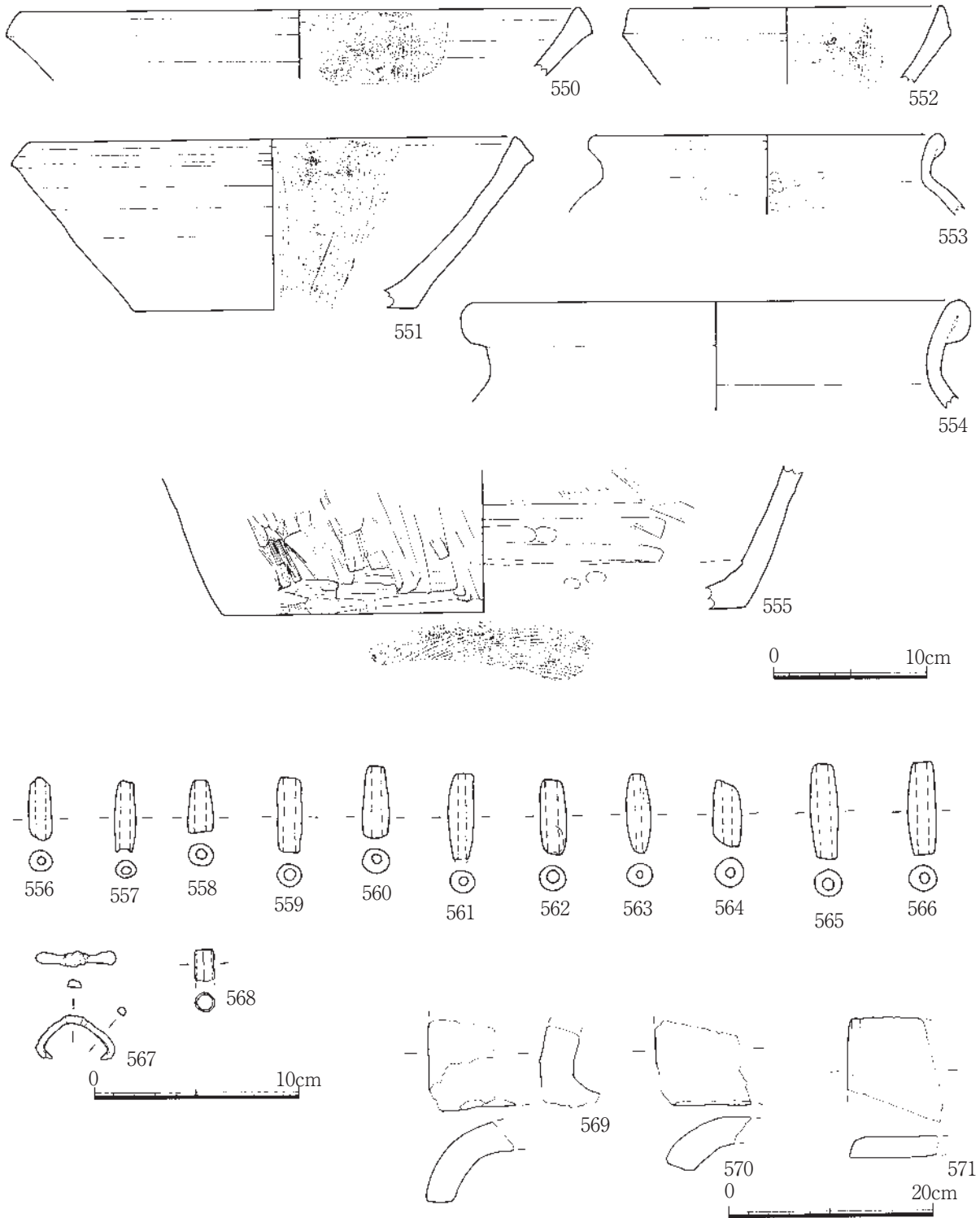




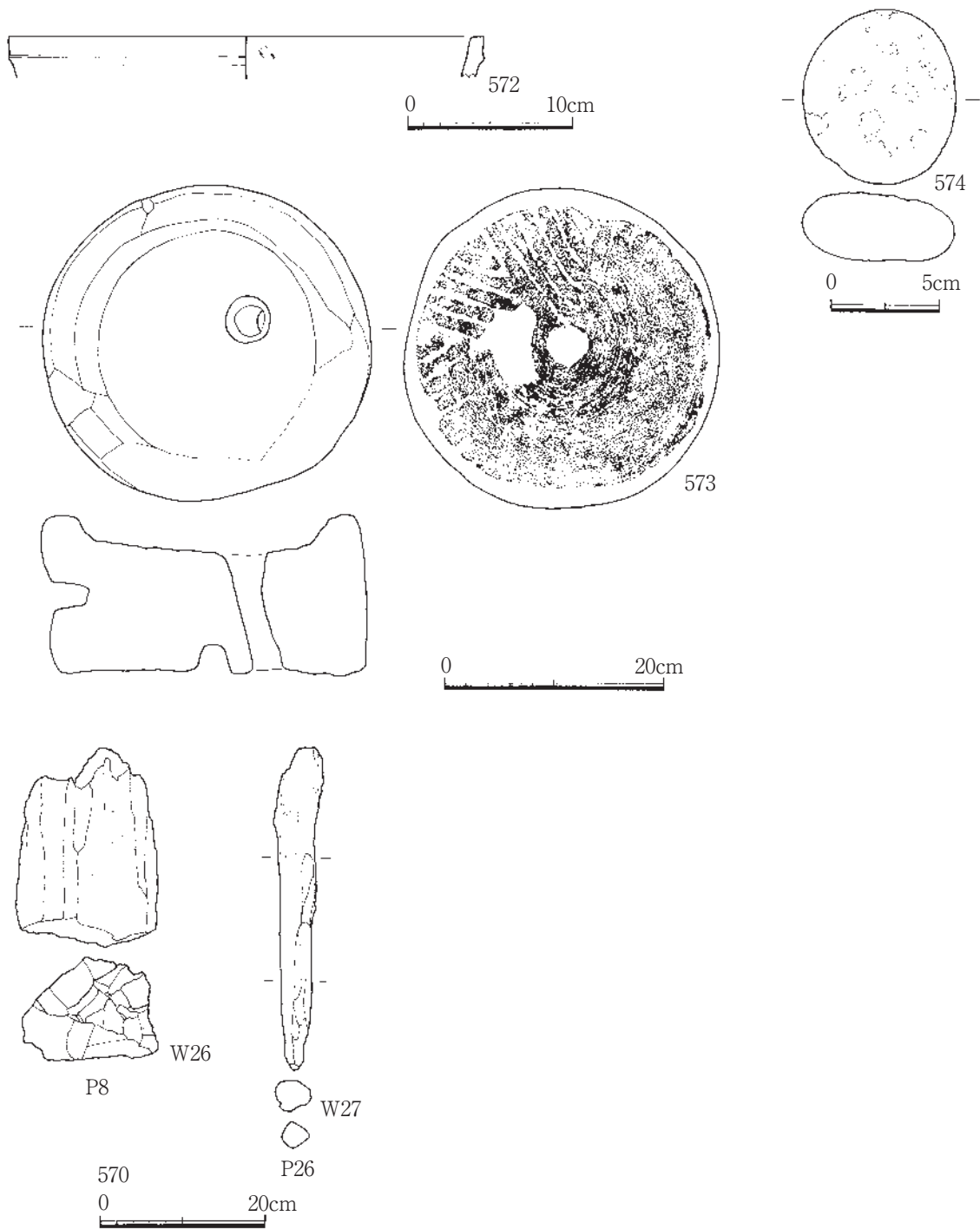
第36図 2B区遺物実測図1



第37图 2B区遺物実測図2



第38図 2B区遺物実測図3



第39図 2B区遺物実測図4

表6 2B区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
494	土器	坏	2B	SK2・黒灰色粘土層	(12.0)	3.9	8.4	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや開き口縁端内湾	精良		
495	炆器	壺?・底部	2B	SK2・黒灰色粘土層			(10.6)	付け高台、内外面灰色、被熱	精良		
496	土器	坏・底部	2B	西側部、仮P4			(7.6)	摩耗、体部外傾気味に立ち上がる	精良		
497	陶磁器	青磁碗・底部	2B	P21・m101			(7.5)	底裏露胎、無文	灰白色、精良	15C前半	D類
498	土器	坏・底部	2B	P21・m101			3.9	やや摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
499	陶磁器	青磁碗・口縁	2B	西側部・P23	(13.8)			無文、口縁僅かに反る、釉透明感	灰白色、精良	15C	D2類
500	土器	坏・底部	2B	P37・黒灰色粘土層			(8.0)	底部糸切り、体部外傾気味に立ち上がる、内外面弱い轆轤目	精良		
501	瓦質土器	捏ね鉢?・口縁	2B	P48・黒灰色粘土層	(25.0)			口唇玉縁状に肥厚、内外面灰色、口唇のみ黒灰色	砂粒少量	14C	東播磨
502	瓦質土器	甕・口縁	2B	P55・黒灰色粘土層	(21.6)			口縁内傾し、口唇反る、外面叩き、内面刷毛、黒灰色	灰白色、砂粒少量	15C後半	1908同一?
503	土製品	土錘	2B	P61・黒灰色粘土層	長4.0	径1.3	重4.8	筒状	精良		
504	土器	坏・底部	2B	P63・黒灰色粘土層			(9.1)	底部糸切り、体部外傾気味に立ち上がる	精良		
505	土器	坏・底部	2B	P67・黒灰色粘土層			(5.2)	摩耗、体部開く	精良		
506	土器	鍋・口縁	2B	P67・黒灰色粘土層	(30.5)			口縁受け口状、頸部屈曲、口唇内傾平坦、内外面粗い縦刷毛、内外面黄白色	微白色鈹物粒少量	13C	在地
507	土器	坏・底部	2B	P68・黒灰色粘土層			(7.0)	摩耗、底部糸切り?	精良		
508	陶磁器	白磁皿・底部	2B	東側部・2層				見込み内文様	灰白色、精良	14C	
509	陶磁器	青花皿・口縁	2B	黒灰色粘土層	(9.4)			口縁反る、外面絵付け	白色、精良	15C後半	染付皿D群
510	陶磁器	青花碗・口縁	2B	2層	(12.7)			口唇および、口縁内外に界線、全体がやや青みがかかる	白色、精良	16C末	
511	陶磁器	青磁皿・口縁	2B	西側部・TR1	(13.5)			体部僅かに内湾気味、口縁僅かに外反	灰白色、精良	15C	
512	陶磁器	青磁碗・底部	2B	黒灰色粘土層			(6.0)	底裏露胎、見込み内劃花文	灰白色、精良	12C~13C	龍泉窯I2
513	陶磁器	青磁碗	2B	m104	(15.6)	6.8	6.6	無文、口唇反る、底裏露胎、釉薬厚い、貫入	灰白色、精良	15C前葉~中葉	
514	陶磁器	青磁香炉・口縁	2B		(6.8)			無文、体部直線的に立ち上がる	灰白色、精良		
515	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	2B	2層	(13.4)			外面不明瞭な蓮弁文	灰白色、精良	15C前半?	
516	陶磁器	青磁碗・底部	2B				4.9	底裏露胎、見込み内文様、釉に気泡が多数、青白色	灰白色、精良	15C前半	D類
517	陶磁器	白磁皿・底部	2B	2層				腰部丸み、下半露胎	灰白色、精良	11C末~12C	
518	陶磁器	青磁盤・口縁	2B	第1遺構面	(22.4)			口縁折縁状に屈曲、口唇摘みあげる、貫入が入る	白色、精良	14C	
519	土器	小皿	2B	黒灰色粘土層	(7.0)	1.5	(5.1)	底部糸切り、体部短く内湾気味	精良		
520	土器	小皿	2B	2層	(7.1)	1.4	(5.2)	摩耗、体部短く立ち上がる	精良		
521	土器	小皿・底部	2B	2層			(3.4)	底部糸切り、体部開く	精良		
522	土器	小皿・底部	2B	第1遺構面			(3.6)	底部糸切り、体部大きく開く	精良		
523	土器	小皿・底部	2B	2層			(3.9)	摩耗、体部開く	精良		
524	土器	小皿・底部	2B	第1遺構面			(5.6)	摩耗、体部短く立ち上がる	精良		
525	土器	坏	2B	黒灰色粘土層	(11.4)	1.9	4.4	摩耗、体部開く、口縁端外反	精良		
526	土器	坏	2B	西側部	(11.6)	2.6	(5.6)	底部糸切り、体部やや内湾気味に開く、器肉やや薄い、堅致	精良		
527	土器	坏	2B	黒灰色粘土層・m101	(13.2)	3.2	7.3	底部糸切り、体部開き、口縁僅かに立ち上がる、内面轆轤目	精良		
528	土器	坏・口縁	2B	第1遺構面	(12.4)			摩耗、僅かに内湾気味、内面轆轤目	精良		
529	土器	坏	2B	2層	12.3	4.6	7.6	底部糸切り、箕子状圧痕、口縁部やや内湾気味、内面轆轤目	精良		
530	土器	坏・底部	2B	第1遺構面			(4.2)	摩耗、底部糸切り、体部開く、内外面黄白色	精良		
531	土器	坏・底部	2B	黒灰色粘土層			(5.2)	底部糸切り、体部開く、内外面轆轤目、灰白色	精良		
532	土器	坏・底部	2B	黒灰色粘土層			(7.4)	底部糸切り、体部外傾気味に立ち上がる、内外面轆轤目	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
533	土器	坏・底部	2B	第1遺構面			(7.5)	摩耗、底部糸切り、体部開く、内面轆轤目、内外面黄白色	精良		
534	土器	坏・底部	2B	黒灰色粘土層			(4.6)	底部糸切り、体部開く	精良		
535	土器	坏・底部	2B	表土			4.6	やや摩耗、底部糸切り	精良		
536	土器	坏・底部	2B	黒灰色粘土層			5.0	底部糸切り、体部開く	精良		
537	土器	坏・底部	2B	黒灰色粘土層			5.6	摩耗、底部糸切り？、体部開く	精良		
538	土器	坏・底部	2B	2層			4.8	摩耗、底部糸切り？、体部開く、自然鉄分付着	精良		
539	土器	坏・底部	2B	黒灰色粘土層			6.5	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、器肉厚い	精良		
540	土器	坏・底部	2B	西側部			(5.8)	摩耗、体部開く	精良		
541	土器	坏・底部	2B	西側部・2層・m102			5.7	底部糸切り、体部開く、内面強い轆轤目	精良		
542	土器	坏・底部	2B	黒灰色粘土層			7.1	底部糸切り、体部開く、器肉厚い	精良		
543	土器	鍋・口縁	2B	2層	(26.8)			受け口状口縁、頸部屈曲、口唇内傾平坦、内外面粗い刷毛、外面煤付着、内面黄白色、瓦質土器か？	微白色鉱物粒少量	13C？	搬入品か？
544	瓦質土器	捏ね鉢？・口縁	2B	黒灰色粘土層	(24.4)			口縁やや肥厚、口唇のみ黒灰色	微白色鉱物粒少量		東播磨
545	瓦質土器	鍋・口縁	2B	黒灰色粘土層	(24.4)			口縁僅かに外反、口唇平坦、体部やや曲る、内外面灰色	精良	14C～15C？	土佐型
546	瓦質土器	火鉢・口縁	2B	黒灰色粘土層	(32.3)			浅鉢か、口縁僅かに肥厚し内傾気味、口縁下2条突帯の間に花菱スタンプ文、内外面黄褐色	微白色鉱物粒微量	15C前半	
547	瓦質土器	風炉・口縁	2B	東側部・2層	(34.4)			口縁縦格子の文様、口唇平坦、肩部張る、外面赤褐色、内面灰色	微砂粒多量	15C前半？	
548	炆器	捏ね鉢・口縁	2B	1層下	(22.6)			口縁肥厚、内外面黒灰色、口縁黒色	白色鉱物粒少量	13C中～後半	東播磨
549	炆器	捏ね鉢・口縁	2B	2層	(26.2)			口縁肥厚、内外面灰色	微砂粒少量	13C	東播磨
550	炆器	播鉢・口縁	2B	西側部・黄橙礫混入土層	(36.4)			口縁肥厚せず、素口縁、内面多条播り目、内外面黒灰色	砂粒少量	13C前半	備前ⅢB期
551	炆器	播鉢	2B	西側部、m103	(31.7)	11.0	(18.7)	口唇平坦、内面多条の播り目	微砂粒多量	14C前半	備前
552	炆器	播鉢・口縁	2B	黒灰色粘土層	(20.5)			口縁僅かに肥厚、内外面赤褐色	砂粒少量	14C後半～15C前半	備前ⅣA期
553	炆器	壺・口縁	2B	表土下	(45.2)			口縁折り返し丸く肥厚、肩部張る、肩部分に自然釉	白色鉱物粒少量	14C～15C	備前ⅣA期
554	炆器	壺・口縁	2B	西側部	(31.6)			口唇折り返し玉縁、肩部張る、外面自然釉、黒灰色	白色鉱物粒多量		産地不明
555	炆器	甕・底部	2B	表土下			(34.4)	平底、糸切り？、内外面刷毛整形	白色鉱物粒少量		備前
556	土製品	土錘	2B	黒灰色粘土層		径1.1	重(2.4)	筒状	精良		
557	土製品	土錘	2B	表土	長(3.5)	径1.1	重(2.7)	筒状、やや小型	精良		
558	土製品	土錘	2B	西側部		径(1.3)	重(2.7)	筒状	精良		
559	土製品	土錘	2B	東側部・2層	長3.7	径1.2	重4.3	筒状	精良		
560	土製品	土錘	2B	中央・2層		径1.3	重(3.8)	筒状	精良		
561	土製品	土錘	2B	中央・2層	長4.3	径1.3	重4.7	筒状	精良		
562	土製品	土錘	2B	中央・2層	長3.7	径1.3	重4.8	筒状	精良		
563	土製品	土錘	2B	2層	長3.9	径1.2	重4.8	筒状	精良		
564	土製品	土錘	2B	東側部・2層		径1.4	重(5.3)	筒状	精良		
565	土製品	土錘	2B	中央・2層	長4.7	径1.4	重7.3	筒状	精良		
566	土製品	土錘	2B	中央・2層	長4.5	径1.4	重7.5	筒状	精良		
567	金属製品	引手金具	2B	2層	長3.9	厚0.4	重6.0	渦巻き状の文様、両端は鉾になり尖る	銅製か		
568	金属製品	不明筒状製品	2B	黒灰色粘土層・m1001				筒状、表面は粗い	銅		
569	瓦	軒丸瓦	2B	—			厚3.0	瓦当部分文様不明	精良		
570	瓦	丸瓦	2B	第1遺構面			厚2.9	摩耗	精良		
571	瓦	平瓦	2B	第1遺構面			厚2.1	両面離れ砂？	精良		
572	石製品	石鍋・口縁	2B	2層	(27.0)			口縁細い罅、口唇平坦	滑石製	15C	
573	石製品	石臼	2B	2B区東端、3B区包含層・m901				粉挽き臼、目6条、裏面擦り減る、被熱	花崗岩		
574	石製品	叩石	2B	2層	長7.9	幅6.9	厚3.0、重260	表裏面部分的に叩き痕跡	花崗岩		

## 2B区木製品

決定遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	法量 (cm)			特 徴	材 質	備 考
W26	木製品	柱痕	2B	p8・西側部	長 (24)	径 17		先端部加工		
W27	木製品	杭	2B	p26・西側部	長 (39)	径 5		先端部加工、尖る		

## 第6節 3A区

### 3区概要

3区は本遺跡で最も調査面積が広く、且つ遺構遺物も多く検出した。調査の際に便宜的に東より3A区、3B区、3C区と大きく調査区を縦割りした。調査面積は合計で2,553㎡である。

盛土により2区よりも一段高くなっており、盛土は何回も行われ、地形の改変が行なわれている。北側部は盛土の土留め用に傾斜地に大礫が多数に投げ込まれており、大部分が乱雑で、部分的に並べ置いた箇所も認められるものの、所謂石積とはなっていない(第44図)。南側谷部方面は削平が行われており、遺構の重複はほとんど認められなかった。中央より北側部分では遺構検出面は5から6面程と多く、時期的に幅がある。

検出した主な遺構は瓦窯、石段状遺構、基壇状遺構、大溝SD1、2である。SD1、2については別途取り上げる(第Ⅱ章第11節参照)。

各々に小調査区により特徴が違っており、また調査区が広いために便宜的に小区画を行なった調査区単位で記述する。





第40図 3区上面全体遺構配置図



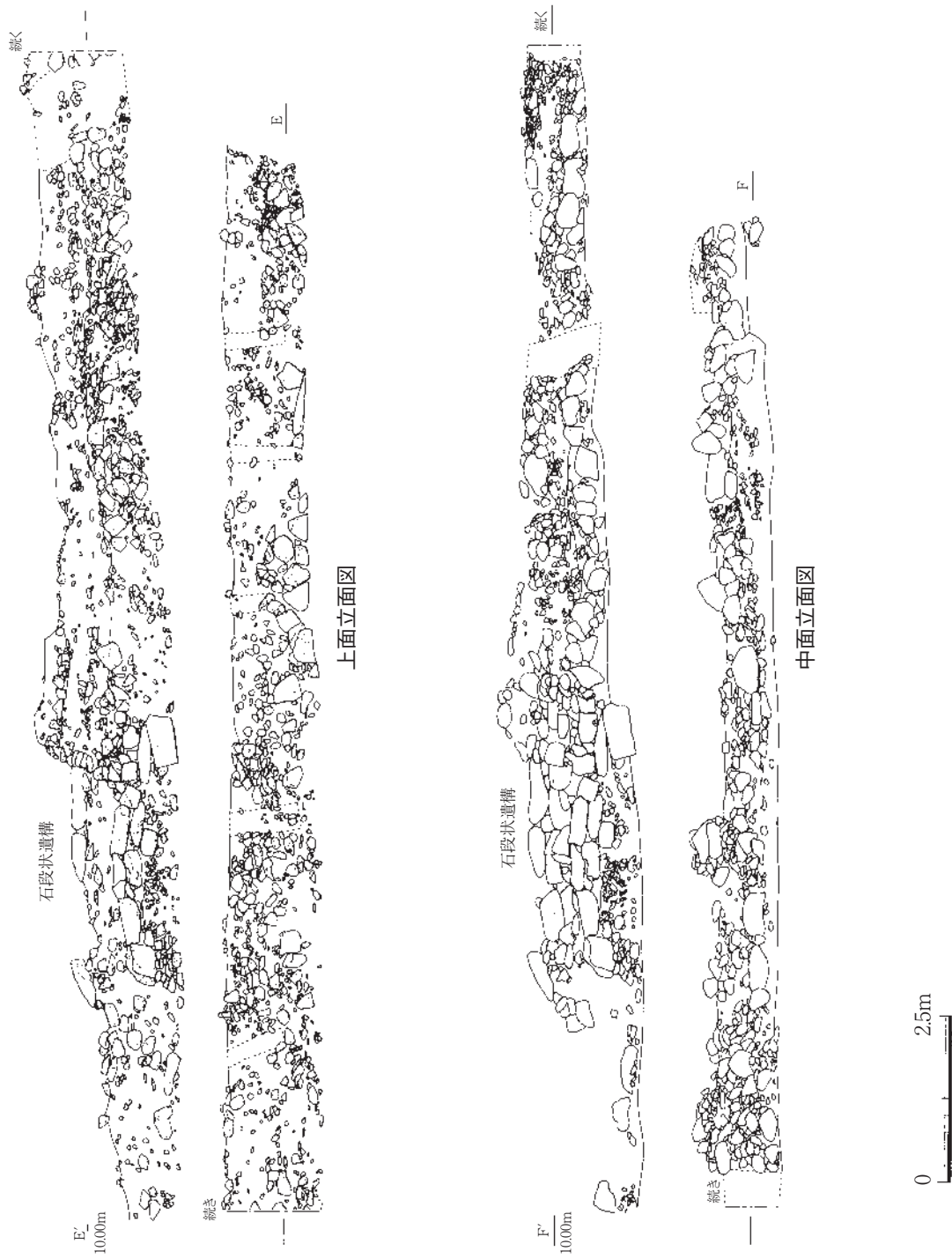
第41図 3区中面全体遺構配置図



第42図 3区下面全体遺構配置図



第43図 3区土層図



第44図 3区斜面礫出土状況立面図

### 3A区概要

遺構確認面は3枚に分かれる。北側部は盛土を行い2A区と段差になっている。奥の南側は削平を受け、遺構確認面は1枚だけである。

3A区の南側先端部から斜面を利用して、瓦窯跡3基、その西側部では石段状遺構を1基検出している。石段状遺構は本遺跡の当初から構築されたたてようで、石段状遺構の基礎部分を最下層で検出している。その後も長らく存続していたようで、瓦窯跡は操業期間が短く、石段状遺構の基礎部分よりは新しい時期に相当する。しかしながら瓦窯跡の操業後にも石段状遺構は存続していたらしく、石段状遺構の袖部分を改変、新たに構築している。

瓦窯跡は3基がほぼ等間隔、同規模で構築されているところからして、同時期に操業していた可能性が極めて強い。

3A区の平坦部分では中礫を並べ区画した建物跡(第62図)があったと考えられる。またその区画建物跡に接するように東側では南北に幅50cm足らずの帯状の集石が認められ、寺院跡の境内区画と考えられる。

3A区の東北部端も傾斜地となっており、東側部の山側に接した部分は自然の落ち込みとなっていたと考えられ、土器類が多量に投棄されており、土器廃棄帯として報告する。

その他、土坑類が数基検出しており、長楕円形のものからは炭化物が多量に混入しており、土器焼成土坑(SK1)の可能性のあるものを検出している。

#### (1) 瓦窯跡(第47～49図、第50～58図575～677)

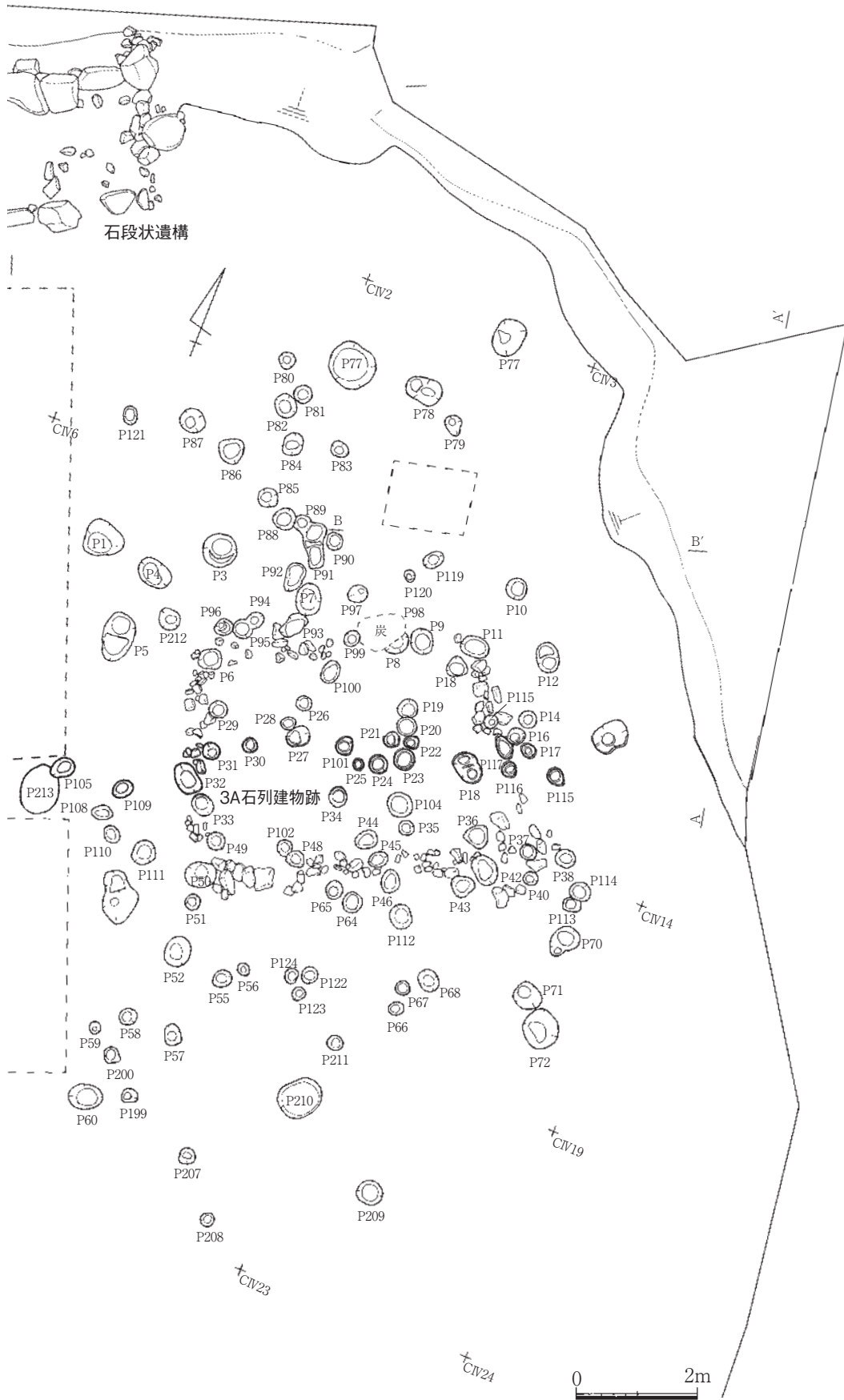
瓦窯跡は3A区の北東部側、CⅢ・Ⅳグリッドに位置し、3基が並んだ状態で確認した。2A区との境に位置し、焚口部は傾斜地に構築されている。東側を1号瓦窯跡、中央を2号瓦窯跡、西側を3号瓦窯跡と遺構名を付した。表土除去後の包含層上部で検出した。焼成部は調査区端でも平坦で、2m程の間隔で方形の焼土跡3ヶ所を最初に確認した。

規模は3基共ほぼ同じである。天井部は焼成、焚口共に崩落していた。焼成部は一辺約1.0mでやや縦長である。深さは確認面から約60cmで、焚口部に向かってやや傾斜する。窯壁は粘土で築き、床面にはロストルが3本丸太状に敷設されている。焚口と焼成部の境には分焰柱3本が残るものもあった。3号瓦窯跡は遺存が良く、分焰柱が残っており、焚口部には平瓦を斜めに立てかけるように設置されていた。焚口部は3号瓦窯跡では長さ約1m、幅80cm程である。煙導部は確認できていない。

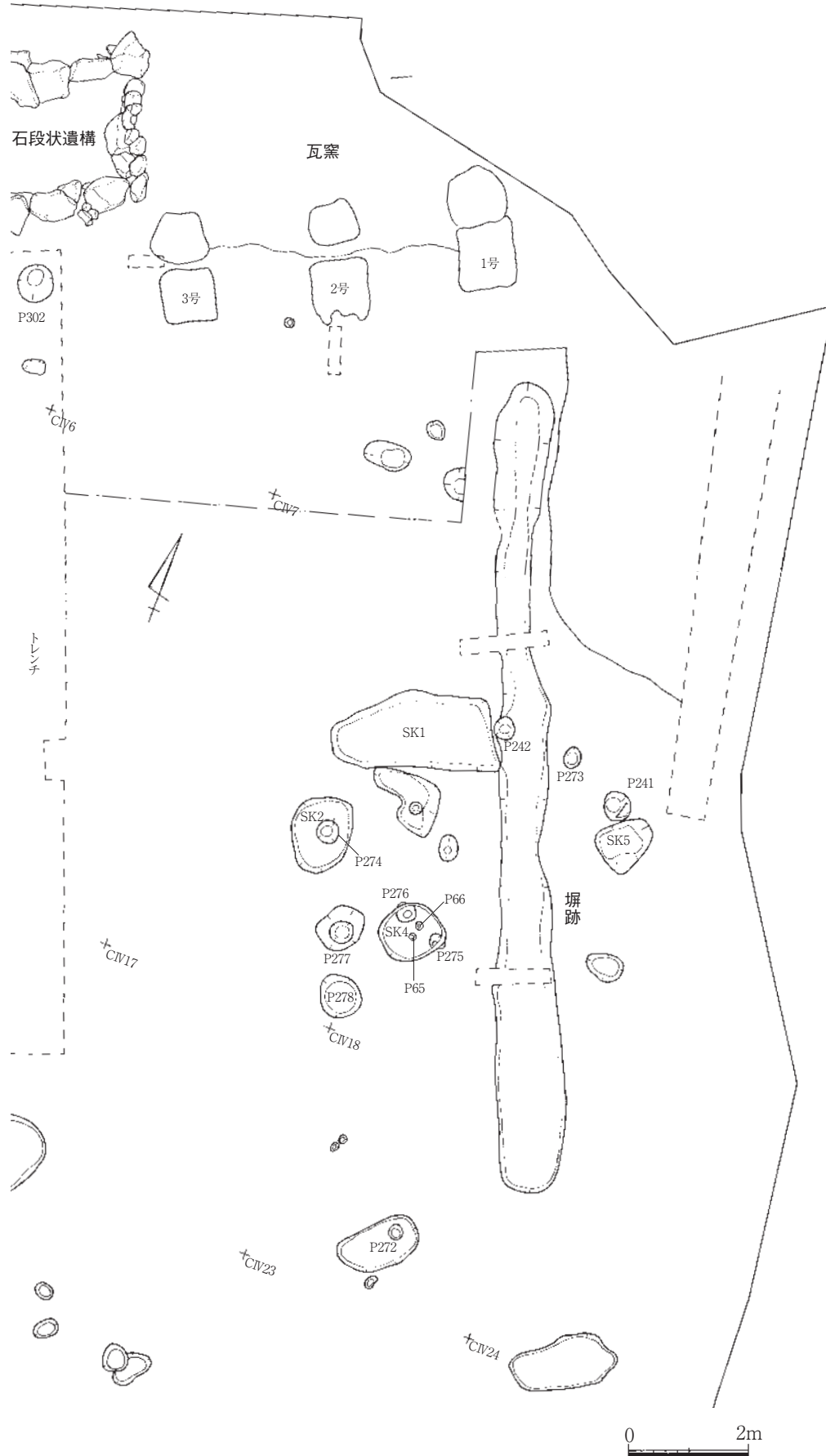
焼成部の中には瓦が残存するものがある。傾斜地が灰原に相当すると考えられるものの、特に瓦が集中して出土することはなかった。窯体から出土した瓦は破損品で占められ、また溶着したもの、歪んだものが多い。3号瓦窯跡からの出土遺物は少ない。瓦以外にも土器等が出土しているが、混入品と考えられる。

瓦窯跡は3基共同時期に操業し、共に廃絶したと考えられ、時期は15世紀代と考えられる。

#### ①1号瓦窯出土遺物(第50～53図575～616)



第45図 3A区上面遺構配置図



第46図 3A区中面遺構配置図



### 軒丸瓦

575から586は瓦当の文様は三つ巴で回りに珠文を配するもので、576は瓦当部分が離れ砂である。丸瓦部分は凹面に布目、ループ紐吊り痕が残るものが多い。

### 丸瓦

587から597は凸面が縄目叩き痕、ナデ、凹面が布目、ループ紐吊り痕を残すものが多い。また斜行コビキのものも多く認められる。釘穴を持つものも認められる。

### 軒平瓦

軒平瓦は598の1点のみである。中心飾り不明であるが、両脇に唐草文を配する。

### 平瓦

599から611は離れ砂、布目の残るものである。

### 道具瓦

612は凸面が縄目叩き痕、ナデ、凹面が布目、紐吊り痕である。小さく、また屈曲する。

### 土器

613から616は坏の底部破片である。613から615は体部の開くものである。613の内面には轆轤目を残す。616は体部が余り開かないで立ち上がり、内面には轆轤目を残し、底径は7.6cmである。

## ②2号瓦窯出土遺物(第54～57図617～669)

### 軒丸瓦

617から628は瓦当文様が三つ巴、珠文のものである。中には離れ砂のものもある。617の丸瓦部凹面が紐吊り痕、離れ砂で、釘穴を持つ。626から628は瓦当部分が欠損する。

### 丸瓦

629から637は凸面が縄目叩き痕、ナデ、凹面が布目、ループ紐吊り痕を残すものが多い。また斜行コビキのものも多く認められる。

### 軒平瓦

638から640は中心飾りは不明で、両脇に唐草文を配する。

### 平瓦

641から657は離れ砂、布目の残るものである。歪むものが多く、641から647は顕著である。647は溶着する。

### 道具瓦

658は三角形の丸瓦、降り棟脇に使用したものか？

### 陶磁器

659は青磁碗で口唇に丸味を持ち、内面に陰刻文、14C後半から15C前半か。灰原出土で本瓦窯に明確に伴うものではない。

### 土器

660から662は小皿で体部が開く。

663から668は坏で663、664は皿状のものである。665、666は体部が開くもの、667、668は体部

が余り開かないものである。668は轆轤目を顕著に残す。

#### 炆器

669は擂鉢で口唇が平坦で14C前半の備前産のものである。

### ③3号瓦窯出土遺物(第58図670～677)

#### 丸瓦

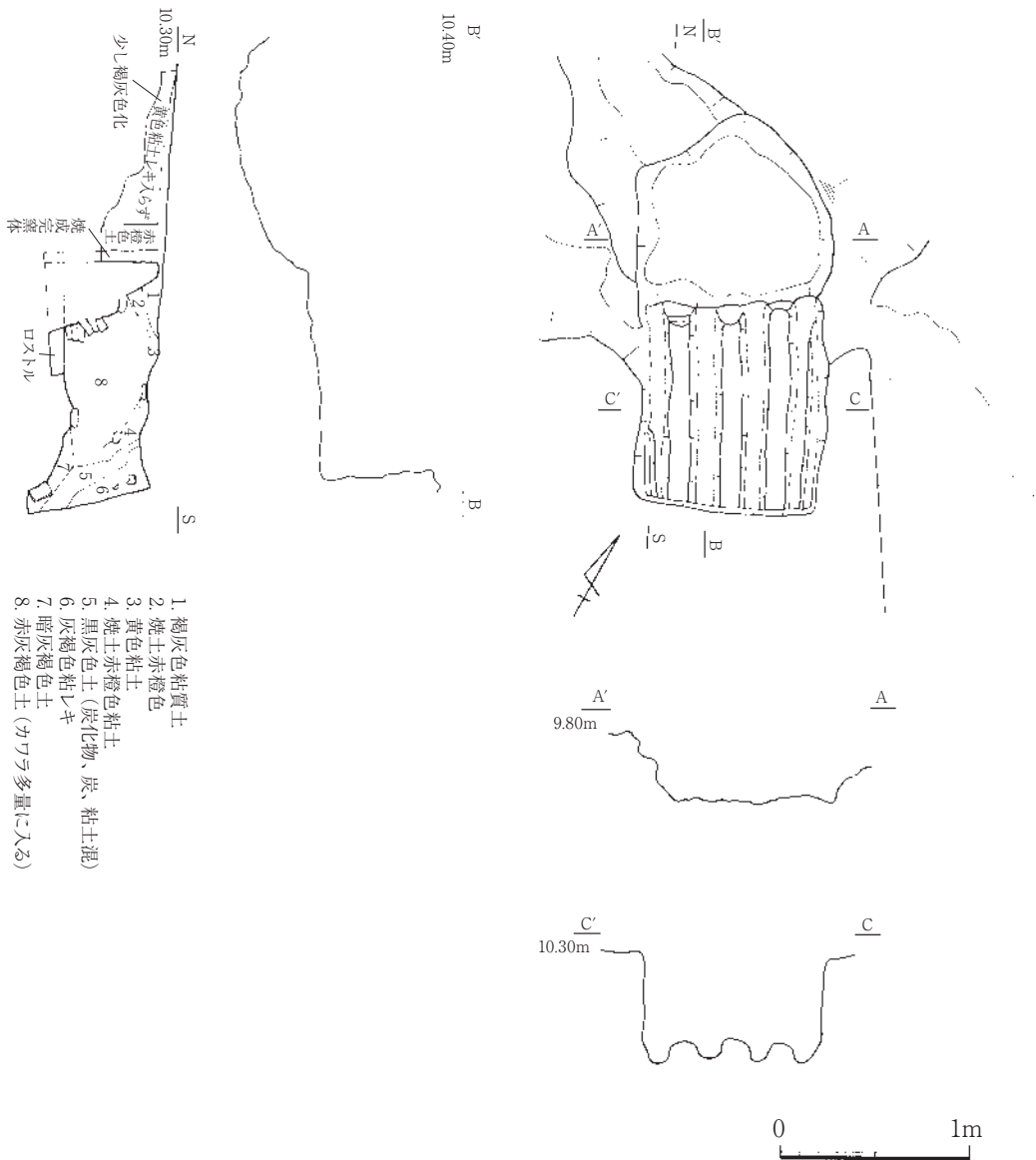
670は凸面が縄叩き後ナデ、凹面が布目、紐吊り痕、離れ砂である。

#### 平瓦

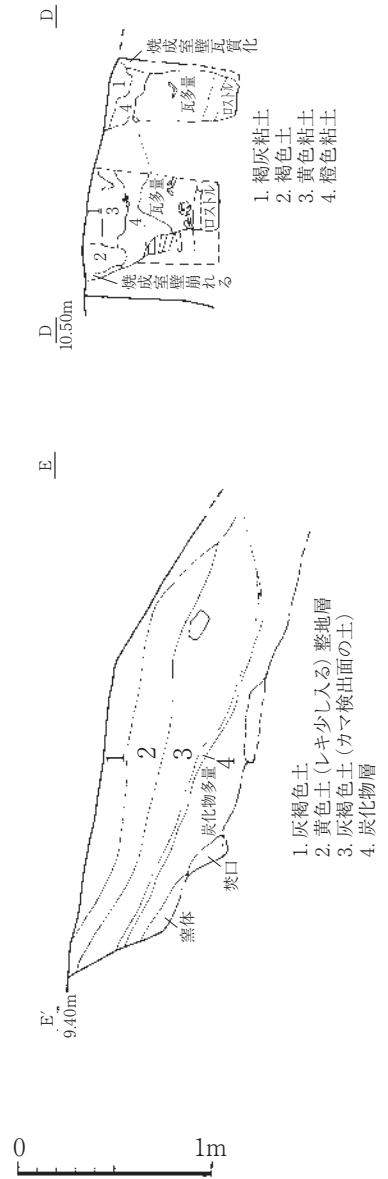
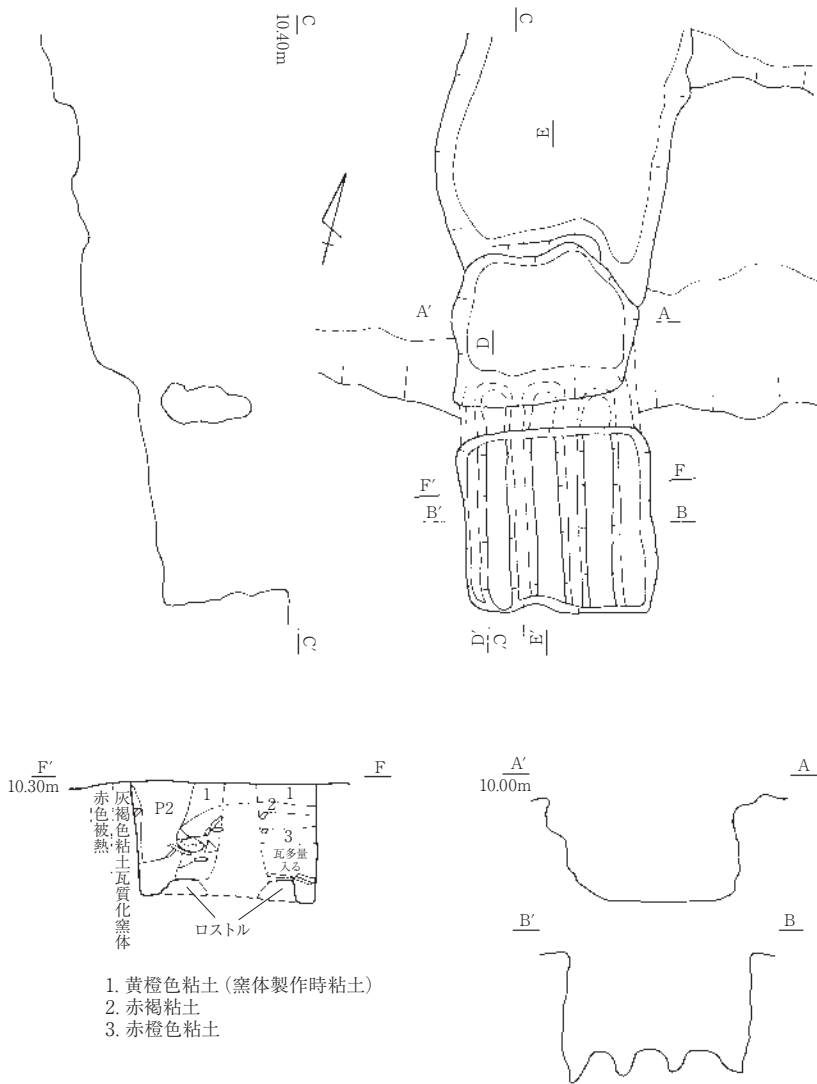
671から675は離れ砂、布目の残るものである。

#### 土器

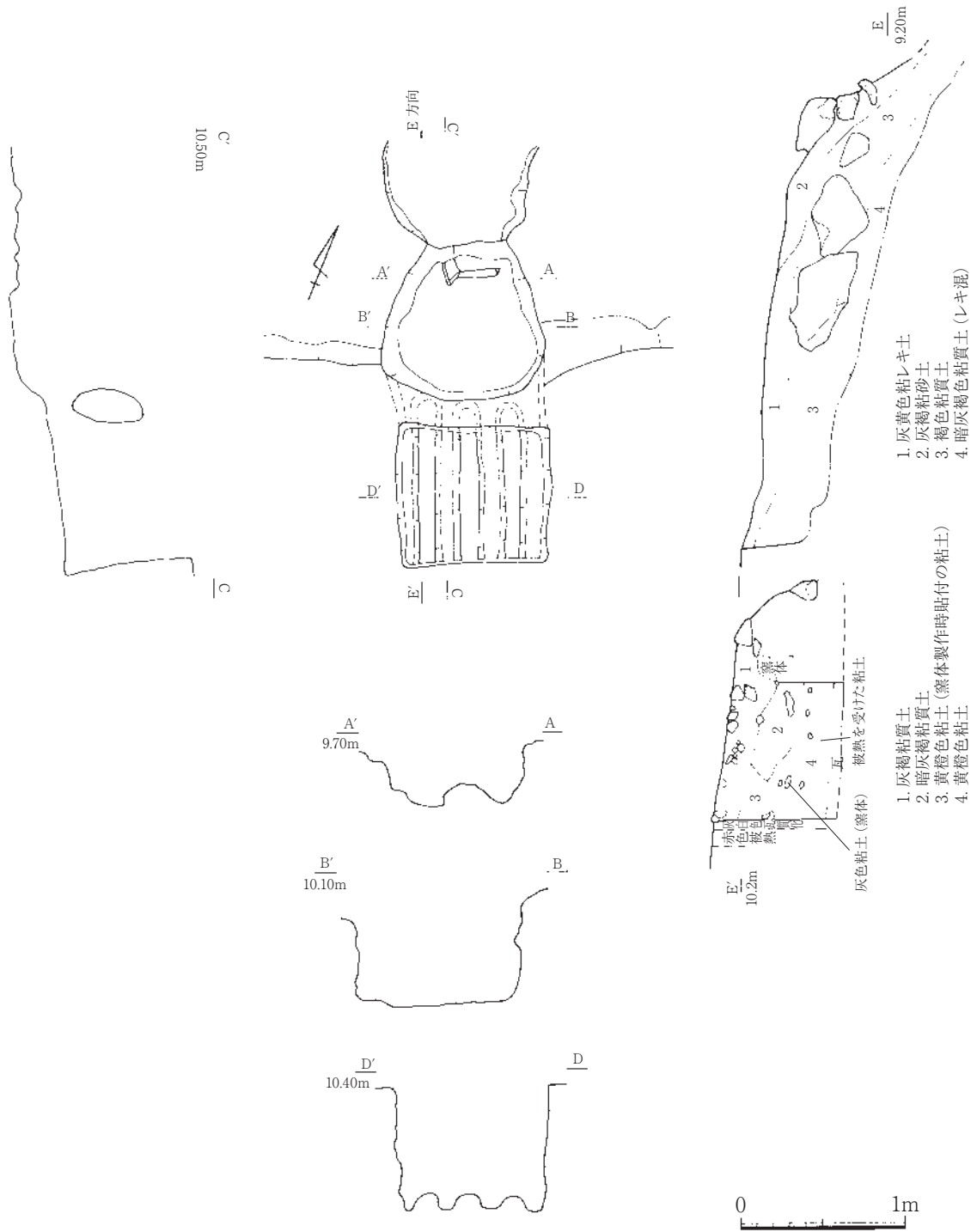
676、677は坏底部で共に灰原からの出土であるため、本瓦窯に明確に伴うものではない。共に体部が開くもので、676の底部には簀子状圧痕が残る。



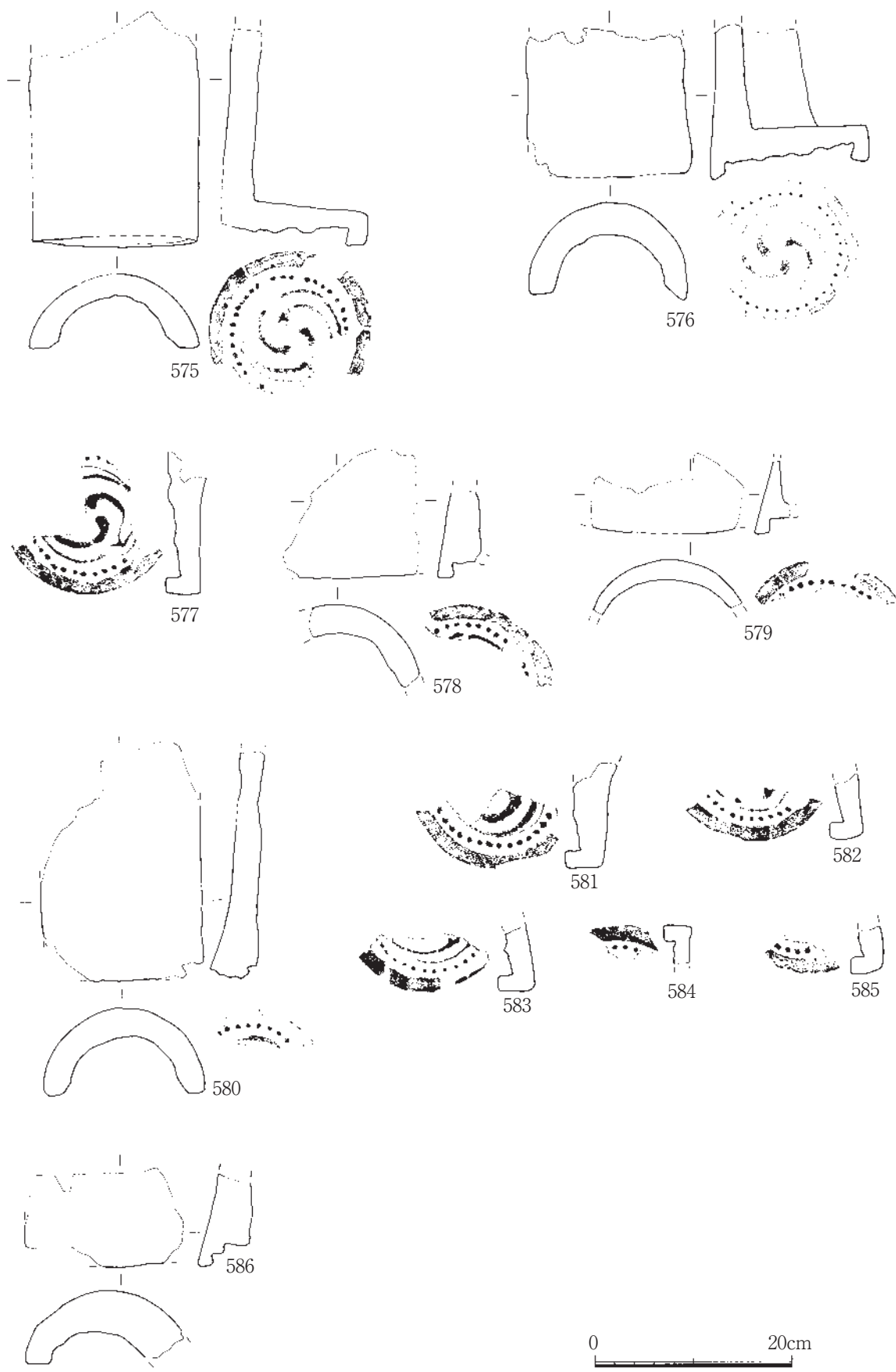
第47図 1号瓦窯



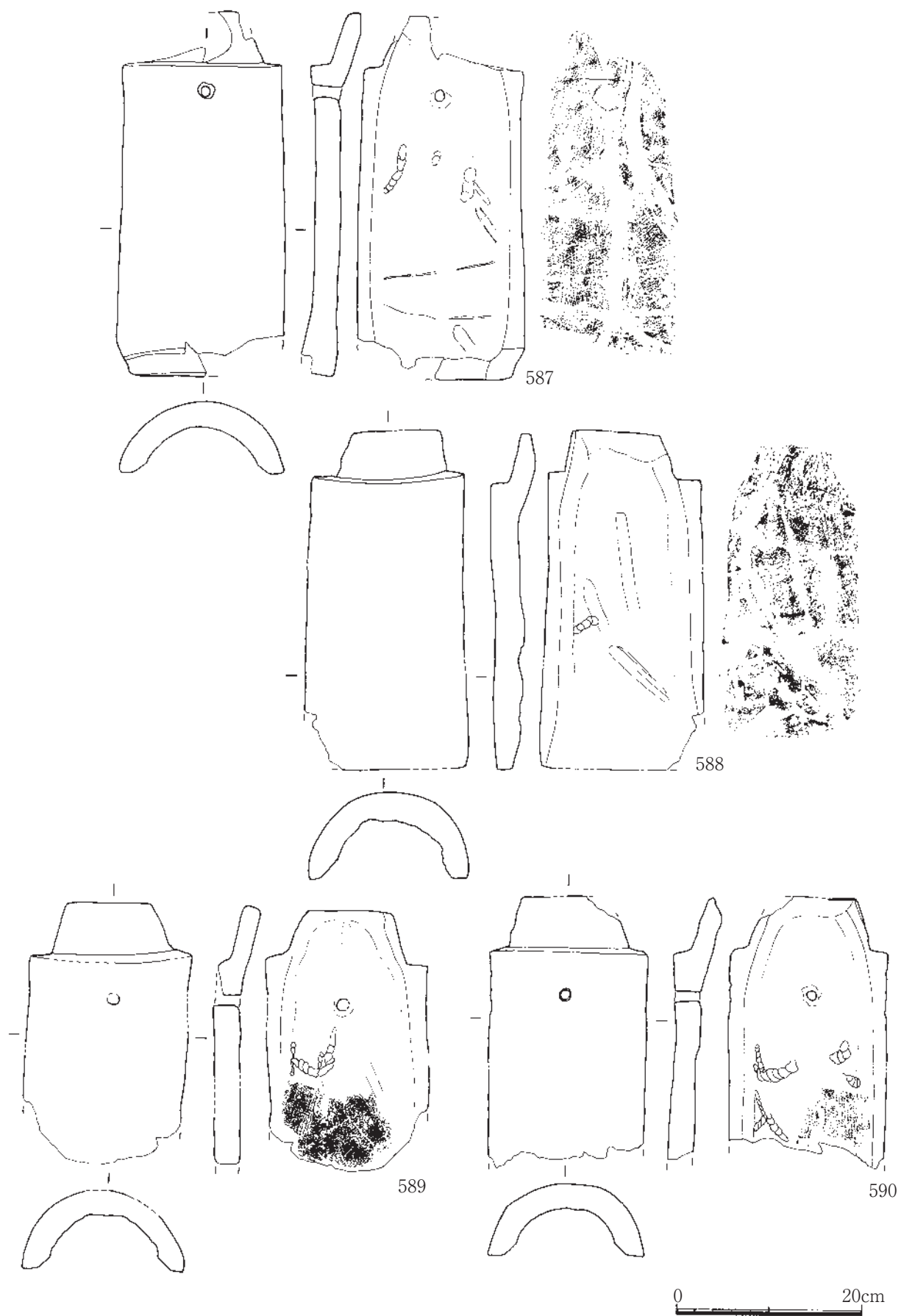
第48図 2号瓦窯



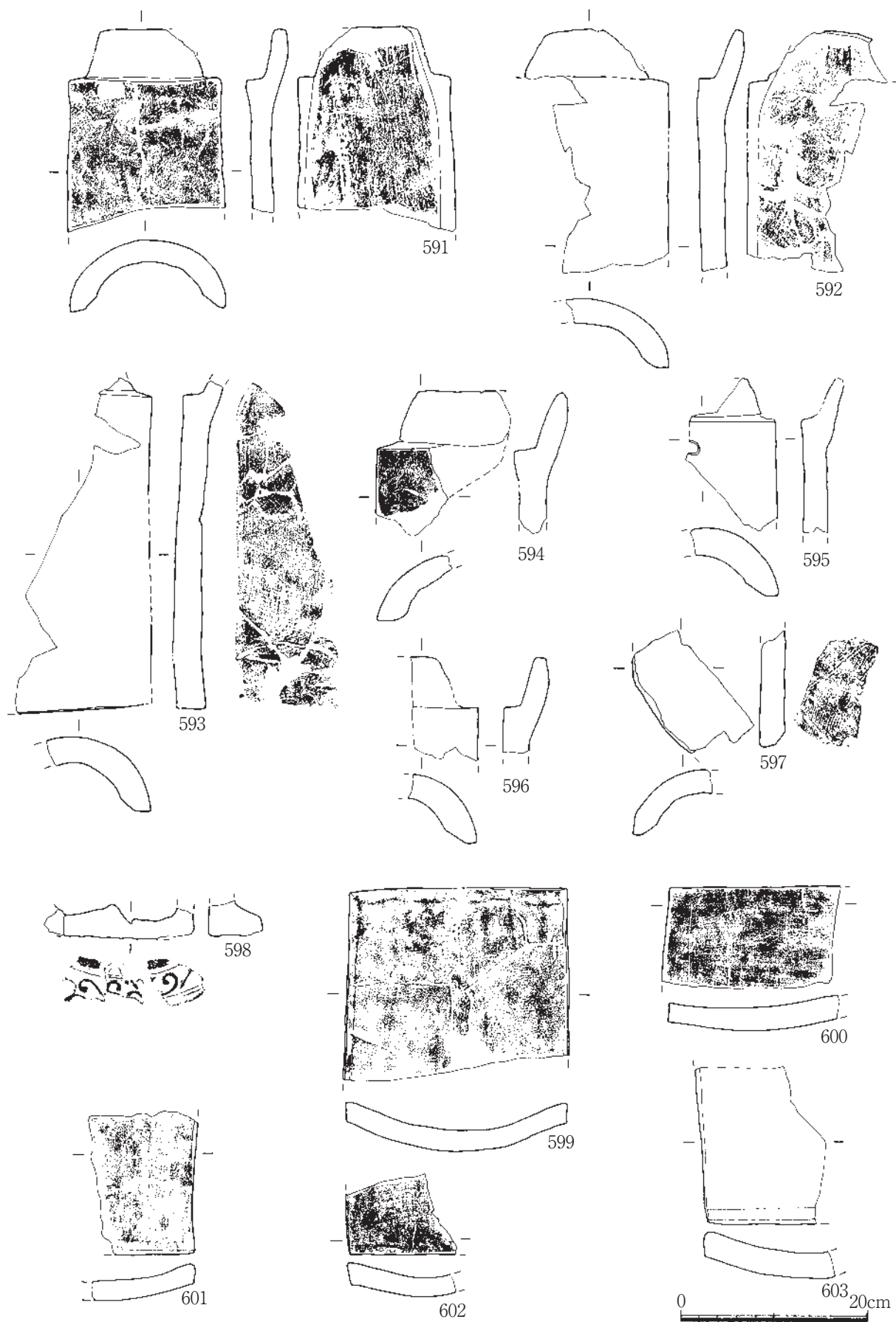
第49図 3号瓦窯



第50图 1号瓦窯遺物実測図1

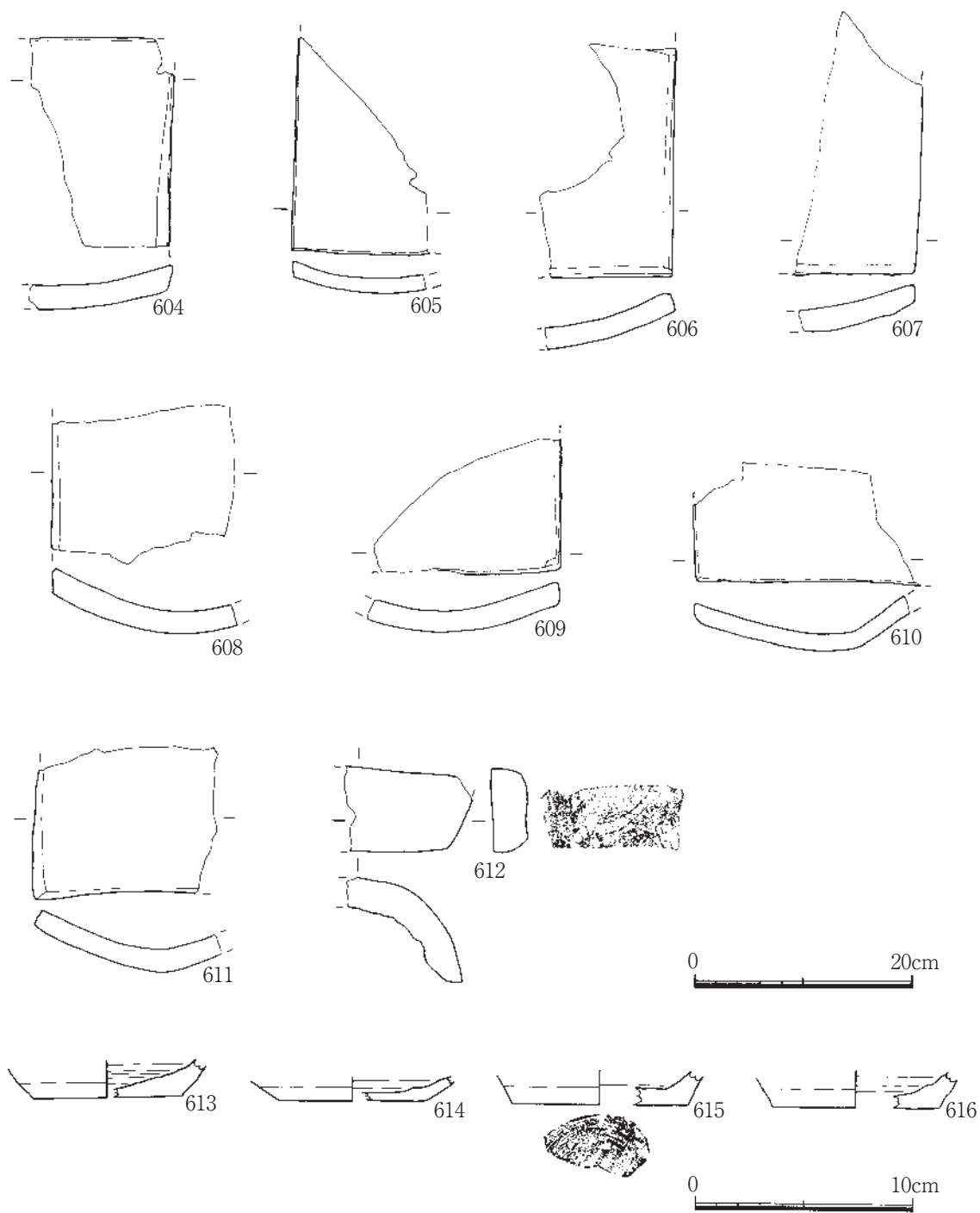


第51図 1号瓦窯遺物実測図2



第52图 1号瓦窯遺物実測図3

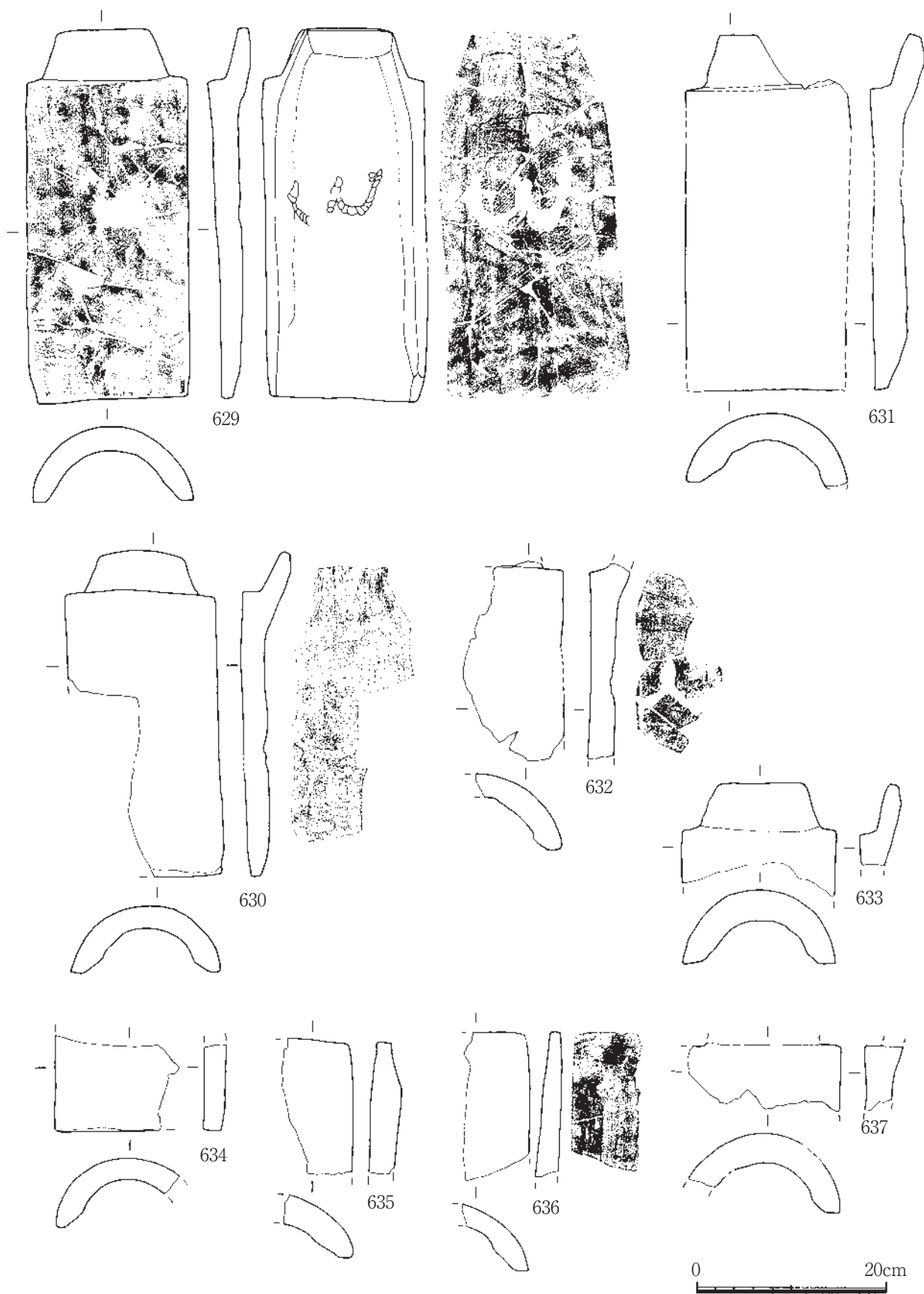




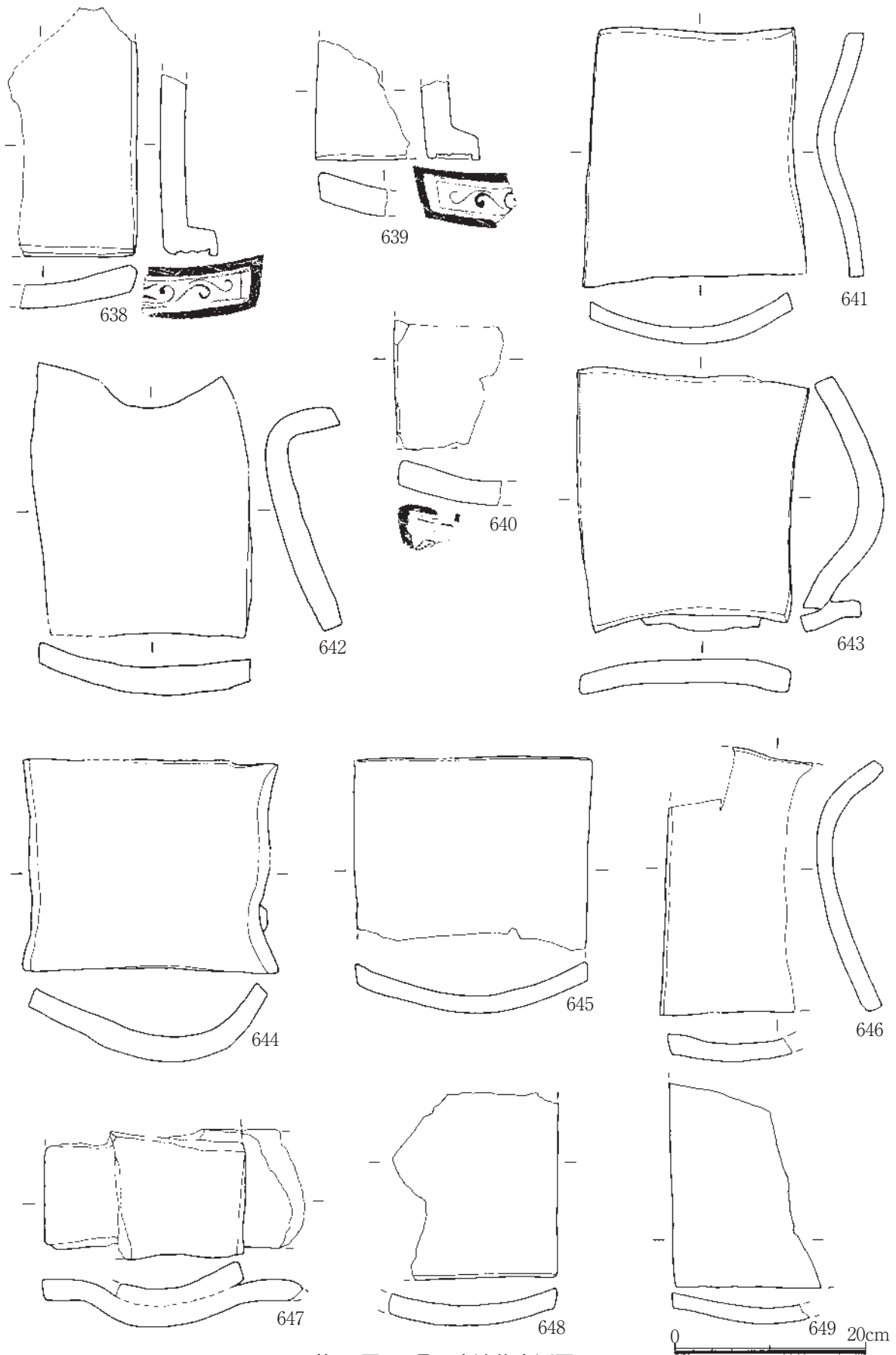
第53図 1号瓦窯遺物実測図4



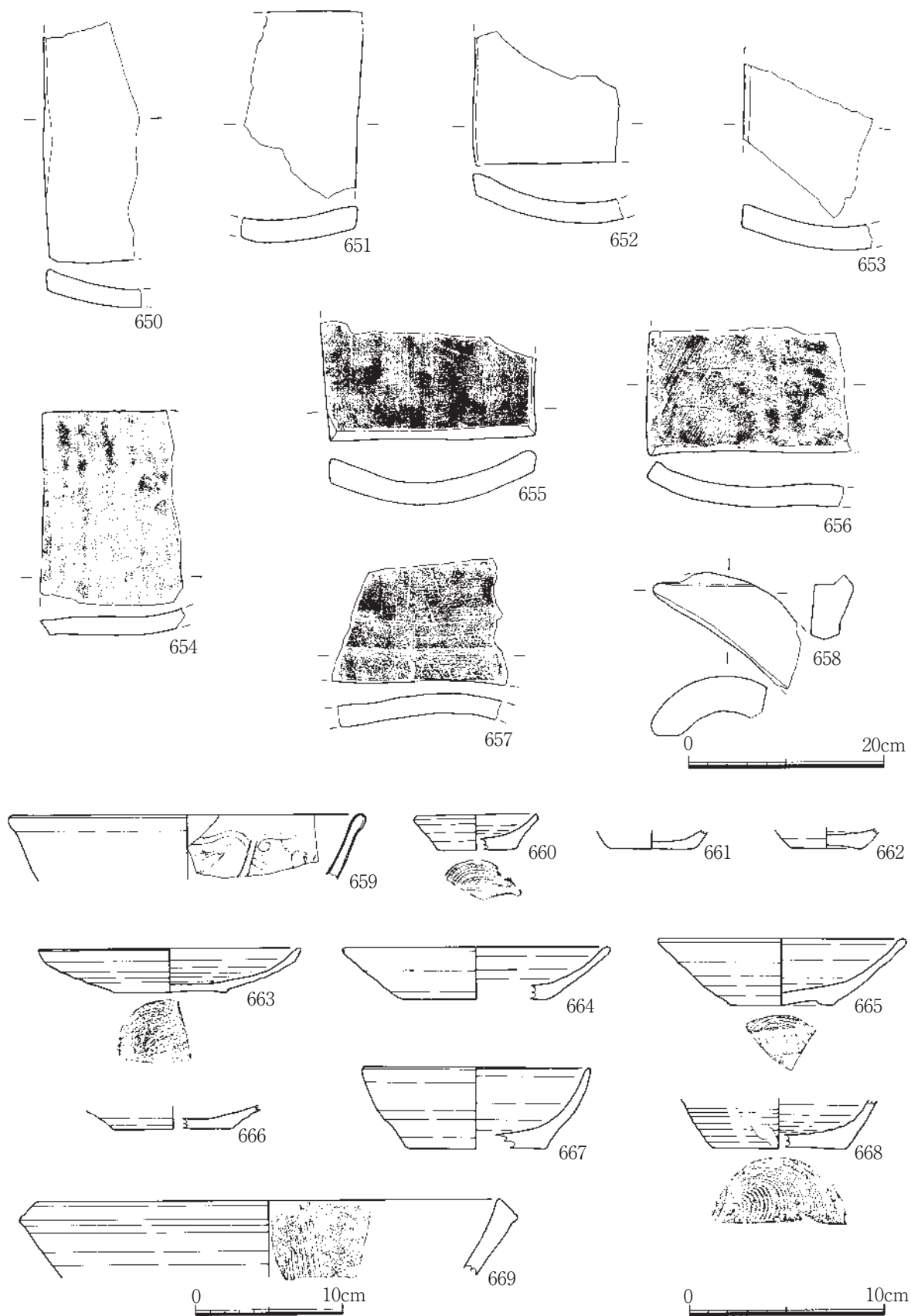
第54图 2号瓦窯遺物実測図1



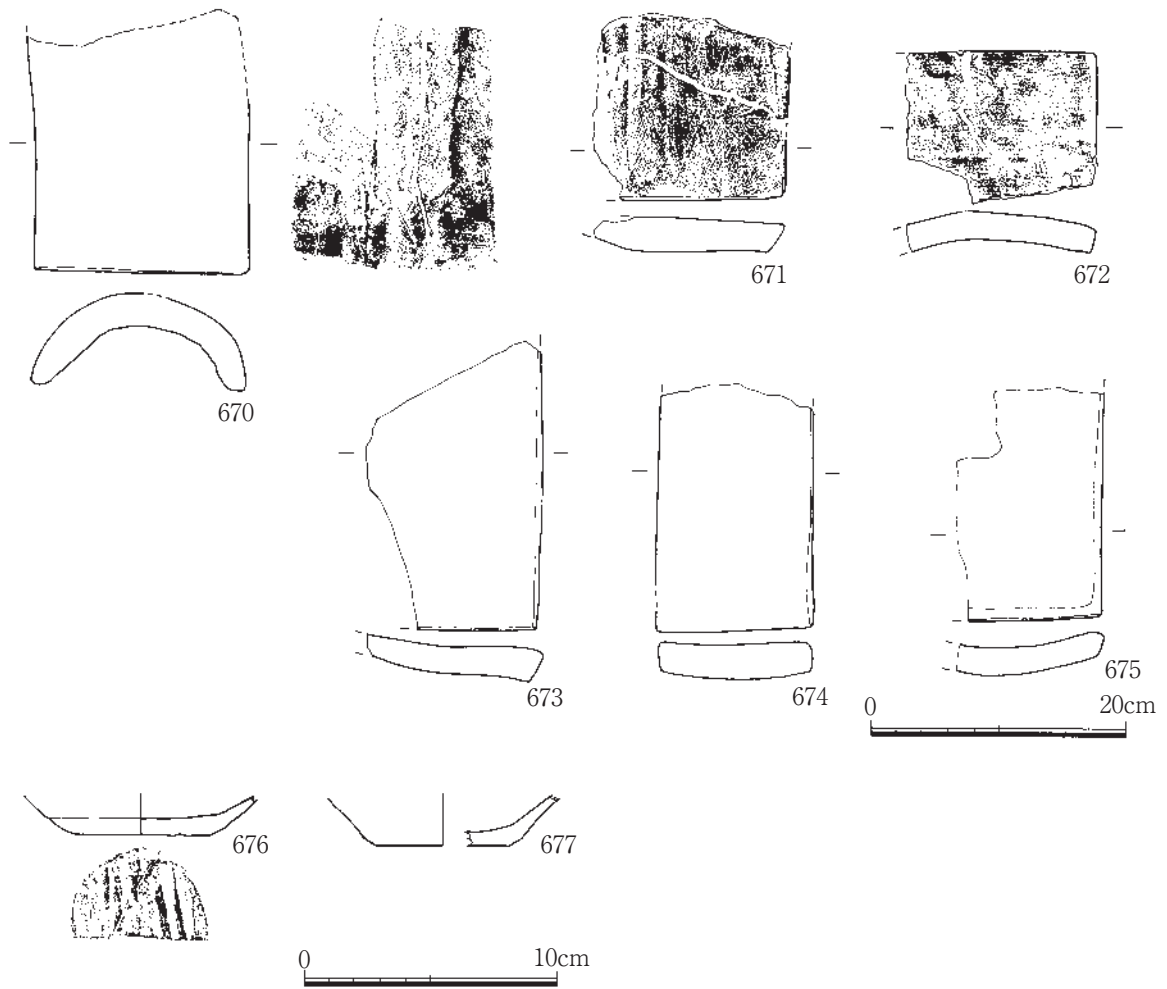
第55図 2号瓦窯遺物実測図2



第56图 2号瓦窯遺物実測図3



第57図 2号瓦窯遺物実測図4



第58图 3号瓦窠遺物実測図

## (2) 石段状遺構 (第59図、第60、61図678～745)

3A区の北東部、BⅢ・Ⅳグリッドに位置する。傾斜部分を埋め立て、石段状遺構は構築され、2A区と境を接する。幅4.8m、長さ3.2mで、基礎は最下層面に構築されている。石段は2段、長い巨石により積み上げられ、2A区と比高差は1.5mで、2A区の部分にもう1段あった可能性がある。西端に巨石が一つだけ残り、それが最下段の名残の可能性がある。基礎部分は5.8m×(3.0)mである。基礎部分は外区のみ巨石を使っている。西側部には中礫による積み石の袖が高さ1.6m構築されており、遺跡の最終段階にまで存続していた可能性が強い。最上段には柱穴2本が2.0mを隔てて穿たれており、通路となっていたようである。

出土遺物は混入品で占められており、15世紀代を主体とする遺物が多い。石段状遺構の構成礫は近場で取れる珪質頁岩を加工したもので占められ、特に遠隔地の礫の使用は認められない。

遺構の始原は基礎部分が13世紀から14世紀の可能性があり、その後16世紀前半まで袖部分の改変等を行ないながらも存続した可能性がある。

尚、石段状遺構は調査終了後、東隣りの坂本地区の共有地に移築した。

石段状遺構からの出土遺物は白磁、青磁の陶磁器類、土器、古銭、土錘、瓦等が出土している。しかしながら明確に石段状遺構に伴うものかどうかは判然としないものばかりである。

## ①陶磁器類 (第60図678～688)

## 白磁

678、679は皿である。同一個体の可能性が高い。色調は乳白色を呈する。15C中葉のものである。

680、681は白磁八角坏で、体部を八角に面取りする。681はアーチ状高台である。共に15C中葉のものである。

## 青花

682は碗である。畳付けが溶着する。15C後半以降のものである。683は碗か。682と同時期か。

## 青磁

684は碗である。口唇が反り、無文である。15C前半のものである。685は雷文の碗で14C末から15Cのものである。686はへら描き蓮弁文碗で15C末から16Cのものである。687は見込み内に陰刻文を描く。

## 直縁大皿

688は素口縁で体部は大きく開く、外面は轆轤目、緑色かかった透明釉?が掛かる。

## ②土器 (第60、61図689～729)

## 小皿

689から708は小皿である。幾つかのタイプに分かれる。689は極めて浅いもの、690から692は浅く体部が大きく開くもの、693は小坏に近いタイプのもの、694から697は体部がやや開き、外反気味のもの、698から701は体部が余り開かずやや丸味を持つもの、702、703は体部にやや丸味を持ち、立ち上がるもので、704は浅いもの、705は直立気味のもの、706は体部が厚く丸味を持つものである。

707、708は底部破片で708は体部が開く。

坏

709から729の内、720から729は底部破片である。体部が開くものは709から711、体部が直立気味のもの712から719の大きく2つのタイプに分かれる。箱形に近い体部で直立気味のもの712から719の大きく2つのタイプに分かれる。710は摩耗しており轆轤目は観察できないが、黄白色を呈している。底部も大きく2つのタイプに分かれる。720から723は体部が開くもの、724がやや開くもの、725から729は体部が直立気味のものである。摩耗するものが多く、整形は不鮮明なものが多い。

③土製品(第61図730～735)

土錘

730から735は細長い筒状の土錘である。730から732が5gから6gのもので、733は8.6gのものである。

④銭貨(第61図736、737)

736は「元豊通寶」で裏面は擦り減る。737は「洪武通寶」で字体は明瞭である。

⑤金属製品(第61図738～740)

鉄釘

738から740は断面方形の和釘である。738の頭部は折り曲げる。

⑥瓦(第61図741～745)

丸瓦

741は凹面が布目、紐吊り痕が残る。742は凸面が縄目叩き、凹面が布目、斜状コビキが残る。

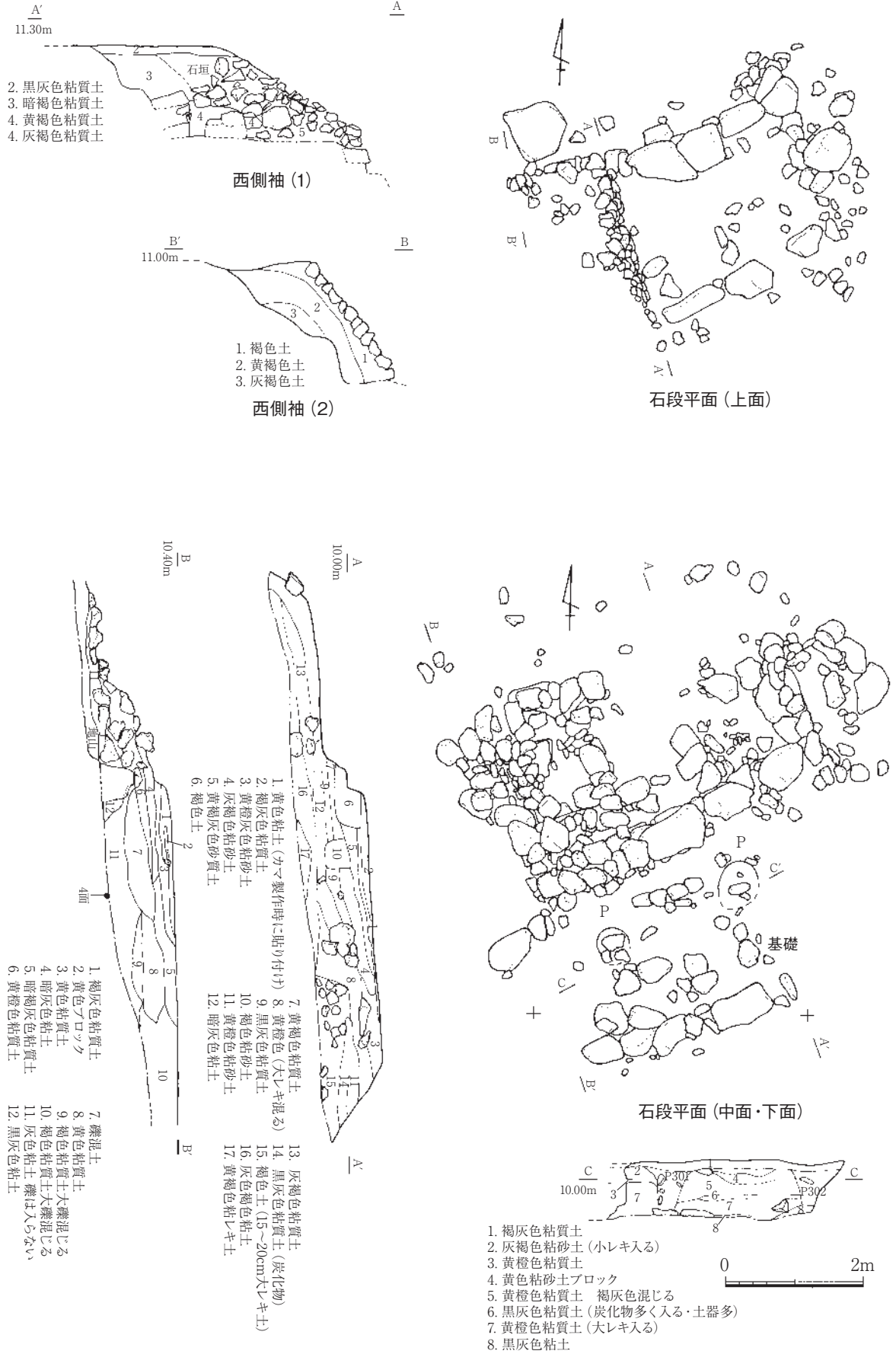
軒平瓦

743は瓦当の文様は唐草である。

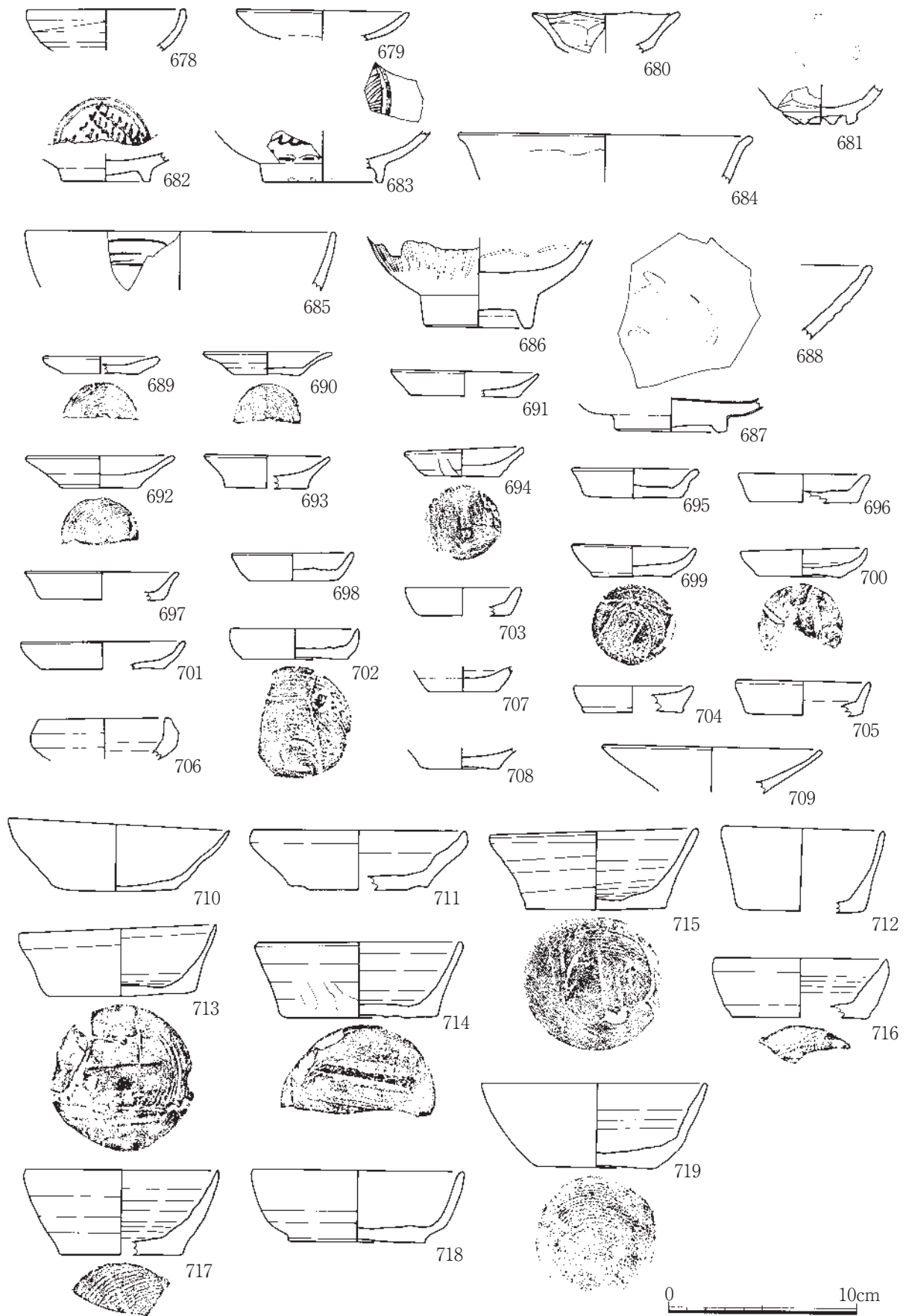
平瓦

744、745は共に離れ砂である。

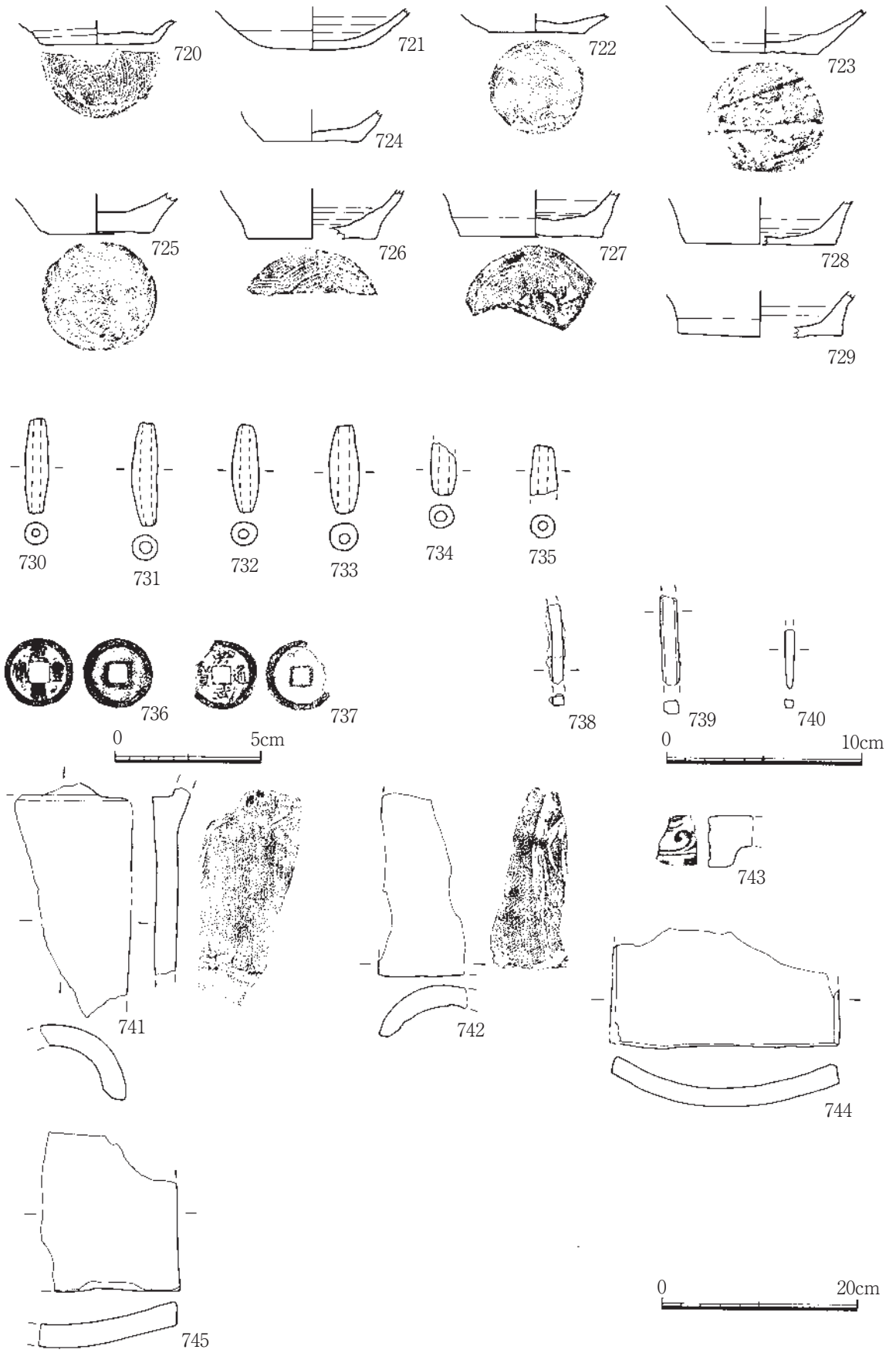




第59図 3A区石段状遺構



第60図 石段状遺構遺物実測図1



第61図 石段状遺構遺物実測図2

### (3) 建物跡

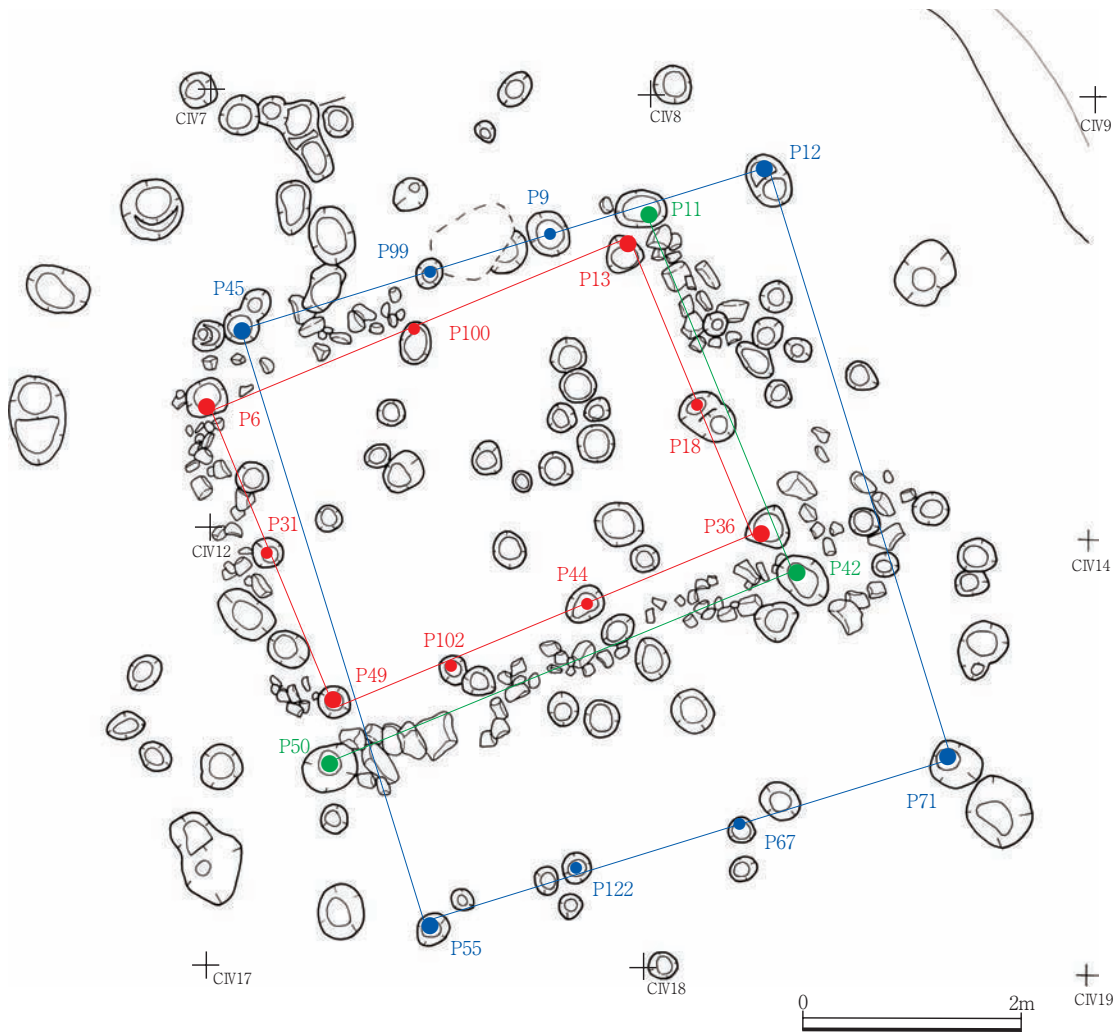
#### 3A石列区画建物跡 (第62、第63図746～782)

3A区のほぼ中央部、CV7・8・12・13グリッドに位置する。上面で検出している。東西4.6m×南北3.6mの石列で長方形に区画を行ない、石列に沿うように柱穴を検出している。長軸方向はN-65°-Eである。区画内にも柱穴が集中し、石列区画外周辺にも石列を取り巻くように柱穴が配置する。

石列区画に伴う柱穴は北側列がP6、100、13の3本、南側列がP49、102、44、36の4本である。南北列の中間柱がP31、18で南北列は2間である。東西は4.1m、南北が3.0mである。北側列のP1とP100の間、及び南側列P49とP102の間には礫が纏まって出土している。南側列の方は大礫が面を合わせて並べ置かれており、三和土状になっていた可能性がある。

すぐ外側の北西隅以外の角地ではP11、42、50のやや大きめの柱穴を検出しており、これも本建物跡に伴うものと考えられる。

建物跡を構成する柱穴の中で遺物が出土したP36からは15Cの河内の羽釜763、P11からは14C後半から15Cと考えられる雷文帯の青磁碗755が出土している。



第62図 3A石列区画建物跡

石列区画外では北側にP45、99、9、12、及び南側にP55、122、67、71の3間の柱穴の並びが2列あり、長さは5mで方位もほぼ同じである。長軸方向はN-72°-Eである。柱間は1.5mから2mである。石列区画建物に付随するものか、別途の建物かは判然としない。P71からは15C後半以降の青磁皿766が出土していることから、時期差の可能性も考えられる。

それ以外にも並びのありそうな柱穴があるものの、明確に把握できなかった。

出土遺物は建物跡を構成する柱穴以外の周辺域で遺物の出土した柱穴のものもここで取り上げる。

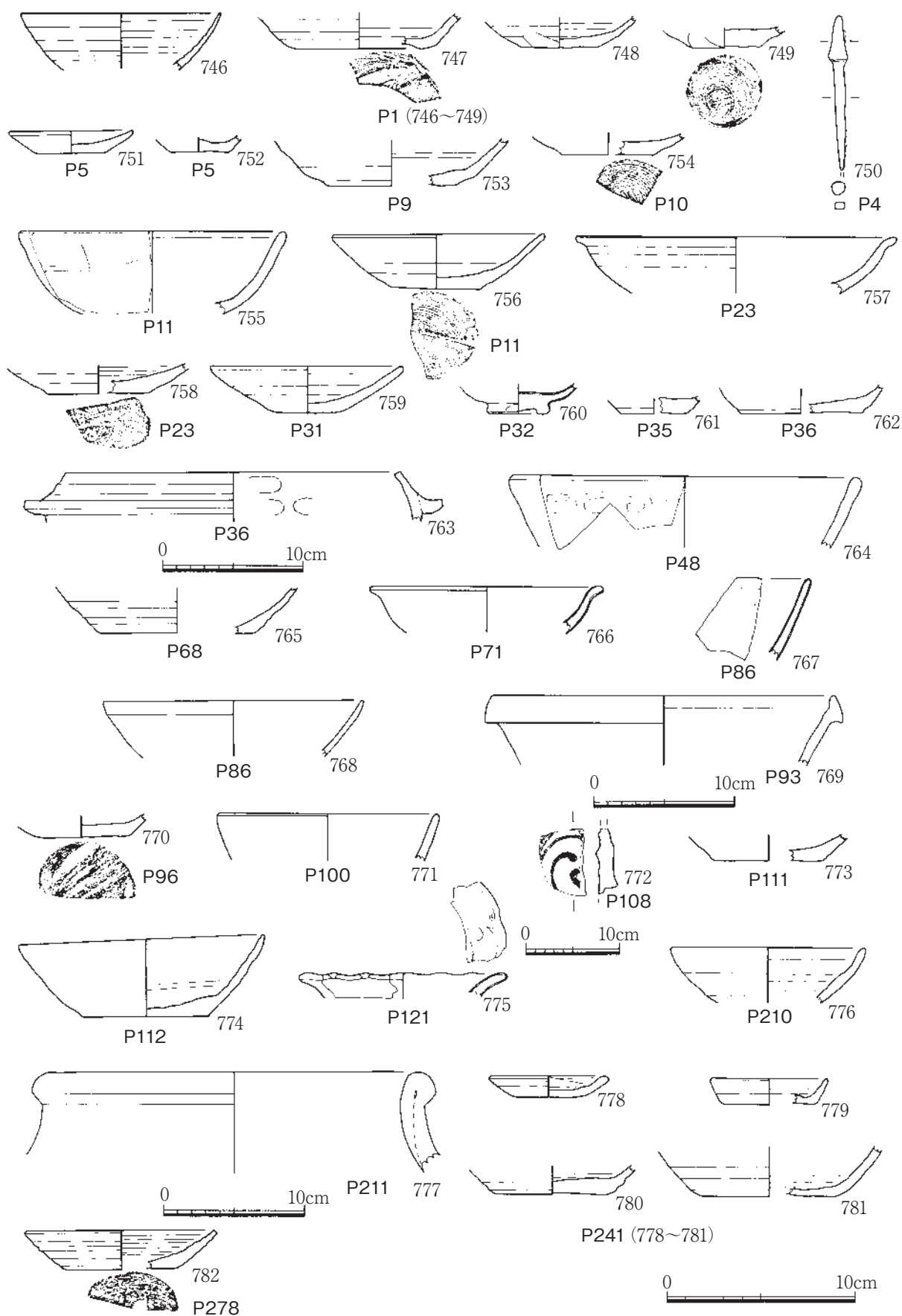
P1からは746～749の土器坏底部が4点出土している。746は内面に轆轤目を残し、器肉が薄い。747はやや大型品で底部に簀子状圧痕が残る。748は体部が開き、内面に轆轤目、749の底径は小さく体部は開く。P4からは750の錐状の鉄製品が出土している。錐部断面四角で細長い。P5からは751、752の土器小皿が出土している。751は体部が大きく開き浅い。P9からは753の土器坏底部が出土している。体部は開き、内面には轆轤目を残す。底径7cmでやや大型品である。P10からは754の土器坏底部が出土している。体部は開く。P11からは755の14C後半から15Cの青磁碗、756の土器坏で皿状に近い体部の開くものが出土している。

P23からは757の15C後半から16C前半の白磁端反り皿、体部の開く土器坏758が出土している。P31からは皿状に近い形態の土器坏759が出土している。底径は4cmと小さい。P32からは15C中葉の削り出し高台の白磁皿760が出土している。P35からは底径3.6cmの小さな土器坏761が出土している。P36からは762の土器坏、763の15Cの河内の羽釜が出土している。大きな鏝が付き、焼成は堅致である。P48からは14C後半から15Cの雷文帯の青磁碗764が出土している。P68からは体部が開き轆轤目を残す土器坏765が出土している。P71からは15C後半の青磁皿766が出土している。P86からは15C後半の線描き蓮弁文青磁碗767、口縁が開く土器坏768が出土している。P93からは13Cから14Cの東播磨の捏ね鉢が出土している。P96からは770の土器坏で体部が開き、底部に簀子状圧痕の残るものが出土している。

P100からは771の体部が直立気味の土器坏が出土している。P108からは巴文の軒丸瓦の瓦当細片772が出土している。P111からは773の土器坏で体部の開くものが出土している。P112からは土器坏774で体部が開き内面に轆轤目の残るものが出土している。黄白色を呈する。P121は15C後半の青磁稜花皿775が出土している。

P210からは776の皿状に近い土器坏が出土している。P211からは777のタイ産ノイ川窯の炆器壺が出土している。口縁は折り返し玉縁状である。口径26.0cmを測る。内外面共に黒褐色を呈し、胎土は砂粒を微量含み、灰白色を呈する。P241からは土器小皿778、779、坏780、781が出土している。778は浅く体部が開くタイプ、779は箱形に近いタイプで黄白色を呈する。坏は体部が開くものである。P278からは782の土器坏が出土している。体部外面に強い轆轤目を残し、黄白色を呈する。

本建物跡は柱穴出土遺物及び周辺の柱穴から出土した遺物から判断して主な時期は14C後半から15Cと考えられる。また15C後半から16Cの2時期に跨っていたと考えられる。それ以外に13C中葉から14Cのものも僅少ではあるものの、主体はやはり14C後半から15C前半であろう。



第63図 3A区柱穴遺物実測図

**(4) 3A塀跡 (第46図)**

塀と考えられる帯状の浅い掘り込みを持つ集石を3A区の東側で検出した。CIVグリッドに相当し、長さは13.5m、幅0.6～1.0mで1号窯跡の南側から石列区画建物跡をかすめ3A区の南端で削平により消滅する。確実に本遺構に伴う遺物はない。

**(5) 3A土坑 (第64図、第65図783～789)****SK1**

CIV7・8グリッドに位置する。長楕円形を呈し、規模は長軸2.65m、短軸1.26m、深さ0.06mである。中からは炭化物が多量に出土した。出土遺物は783の土器坏が出土している。皿状を呈し、口縁が立ち上がる。

**SK2**

CIV12グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は長軸1.24m、短軸0.98m、深さ0.12mである。遺物は784の瓦質の釜が出土している。口唇端部を僅かに摘み出し、断面三角の低い鏝が付く。時期は不明である。

**SK3**

CIV7グリッド等に跨って位置する。不整形で長軸1.2m、短軸0.85m、深さ0.12mである。遺物は785の細長い筒状の土錘が1点出土したのみである。

**SK4**

CIV13グリッドに位置する。円形を呈し径1.1m、深さ0.1mである。遺物は786、787の土器坏2点が出土している。共にほぼ完形で786は体部やや開いて立ち上がり、外面に轆轤目を残し、内外面黄白色を呈する。787は体部が開き、口唇が尖る、内面底が凹む。

**SK5**

CIV8グリッドに位置する。不整形で長軸0.95m、短軸0.76m、深さ0.09mである。遺物は788の土器坏、789の土錘が出土している。788は摩耗しており、整形は不明である。体部は直立気味で箱形を呈する。黄白色を呈する。

**(6) 3A土器廃棄帯 (第64図、第65～67図790～886)**

CIV3グリッドの傾斜地で土器が纏まって出土した。土器類以外にも若干他の陶磁器類も混在していた。

**①陶磁器 (第65図790、791)****青磁**

790は青磁蓮弁文碗である。見込み内にも文様、底裏は無釉である。

**瀬戸**

791は瀬戸の鉢か。体部は開き、口縁がやや屈曲する。内面には段を有する。内外面に薄い透明感のある緑色の釉がかかる。14Cのものか。

## ②土器(第65～67図792～878)

### 小皿

小皿は色々なタイプに分かれる。しかし、変化は漸移的である。792は極めて浅いものである。793から798はやや浅いもので体部が開く。799から804は先のものより若干器高が高いものである。805から808は浅く体部にやや丸味を持つ。809から812は若干器高が高く丸味を持つものである。813から818は底部脇がやや張り、体部が僅かに外反気味である。819の体部は外傾気味である。820から823は体部が直立気味のものである。823は黄白色を呈し、内面に轆轤目を残す。824は体部外面にヘラ削りを施す。

### 坏

826から877の内、845から877は底部である。826から833は皿状に近い形状で体部にやや丸味を持ち、轆轤目を残すものである。大部分が黄白色を呈する。834は口縁が僅かに外反する。黄白色を呈する。835から837は体部にやや丸味を持ち、器肉が僅かに厚くなる。838～847は体部がやや開くものである。844の体部は直線的に立ち上がり、箱形を呈するものである。

### 釜

878は口縁に低い鏝が付く。口唇は内傾し、体部外面に斜タタキを施す。播磨の14C後半以降のものか。

## ③瓦質土器(第67図879)

### 鍋

879は口縁が短く外反し、丸底である。口縁を強くナデる。微砂粒を多量に含む。在地の15Cのものか。

## ④炆器(第67図880、881)

### 播鉢

880は備前産の播鉢で、底部は平底、口縁は肥厚せず平坦である。内面には多条摺り目を施す。内外面共に灰色を呈する。14C前半のものか。

### 甕

881は口縁折り返しくっつき、口唇端部を摘みあげる。口径55cmを測る。内外面共に褐色を呈する。常滑の15C中葉のものか。

## ⑤土製品(第67図882～884)

### 土錘

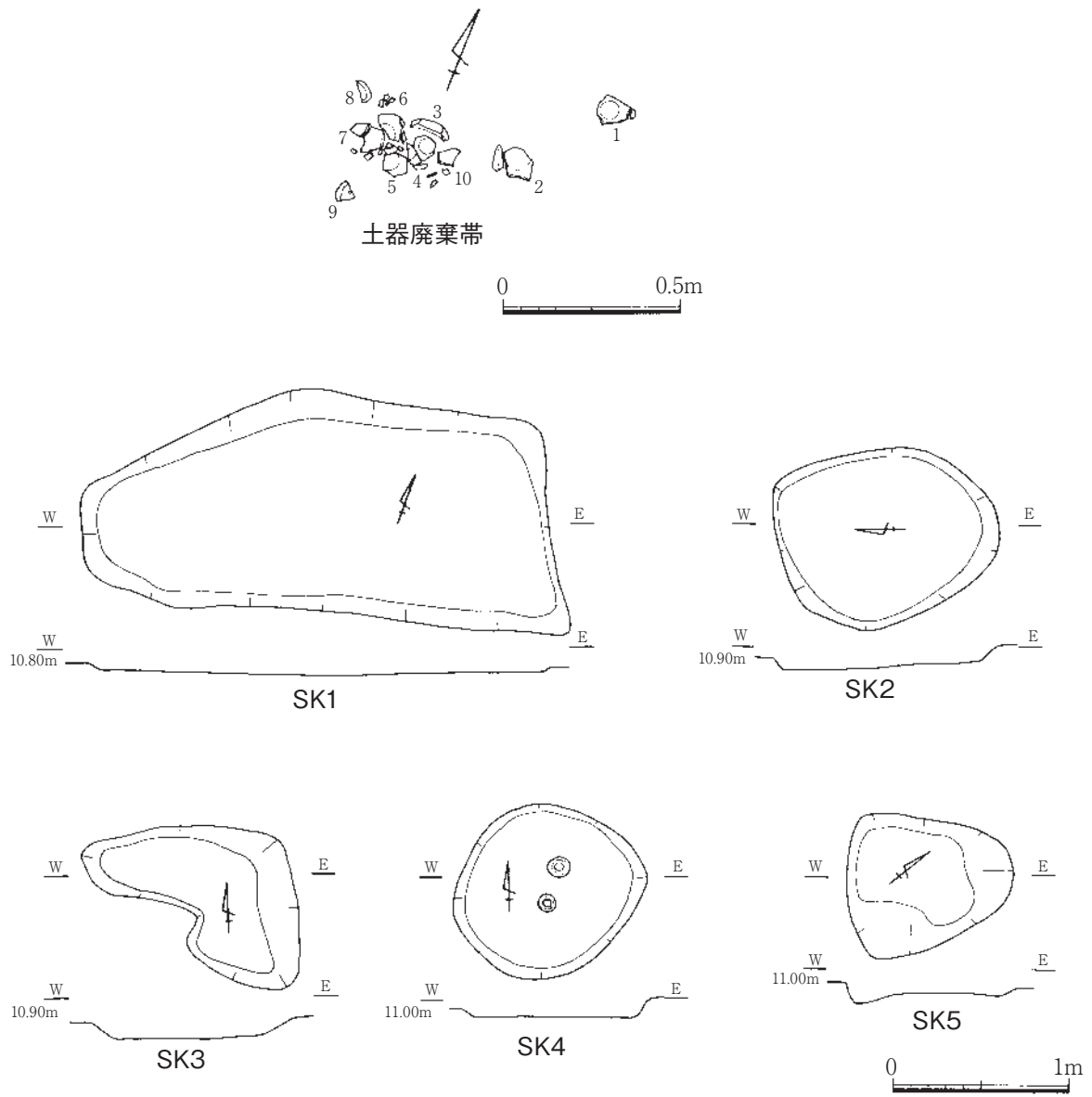
882から884は細長い筒状の土錘である。882は重さ4.3g、884はやや重く7.1gを量る。

## ⑥金属製品(第67図885、886)

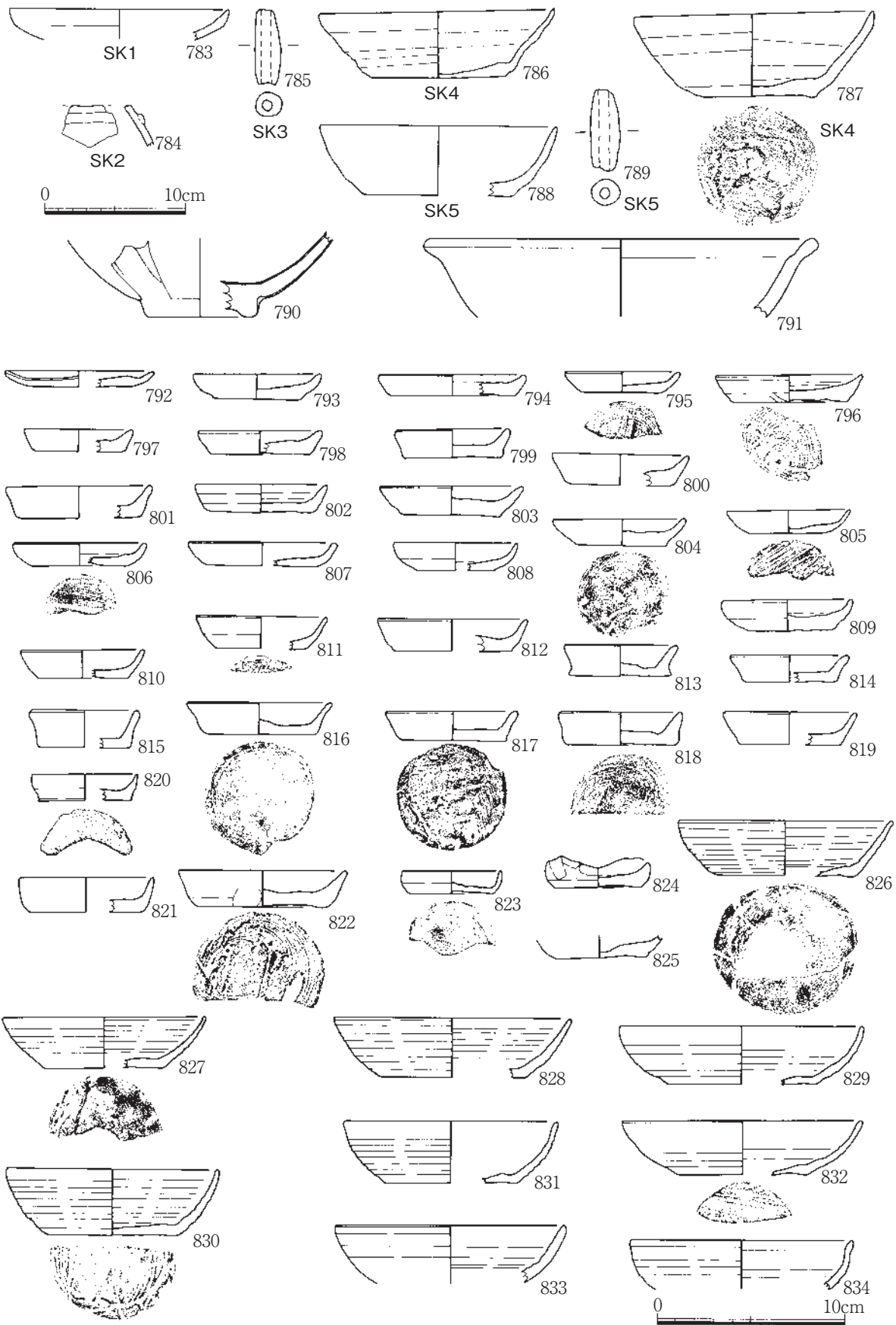
### 釘

885、886は共に鉄製の和釘である。頭部折り曲げ、断面は四角である。

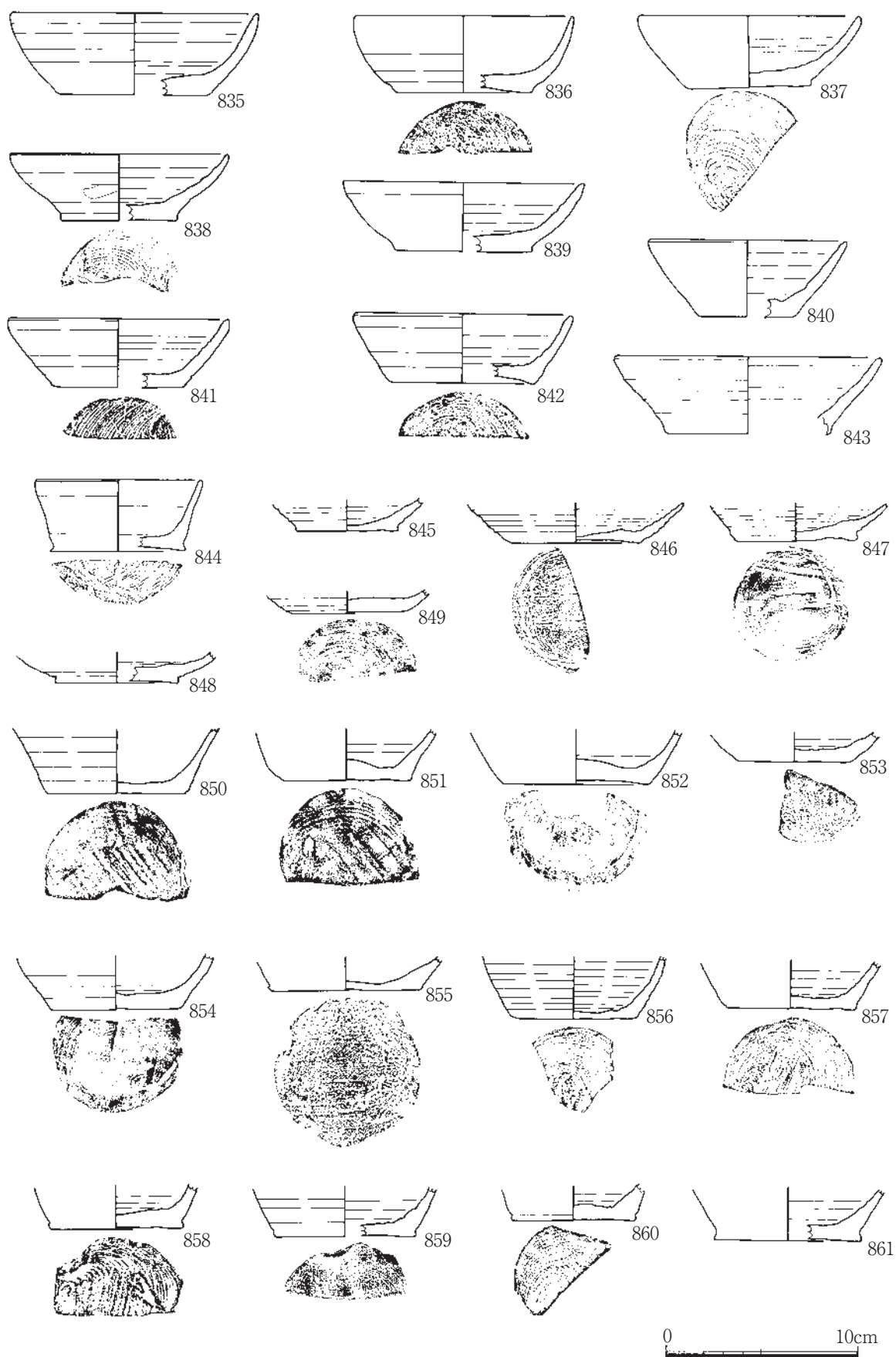




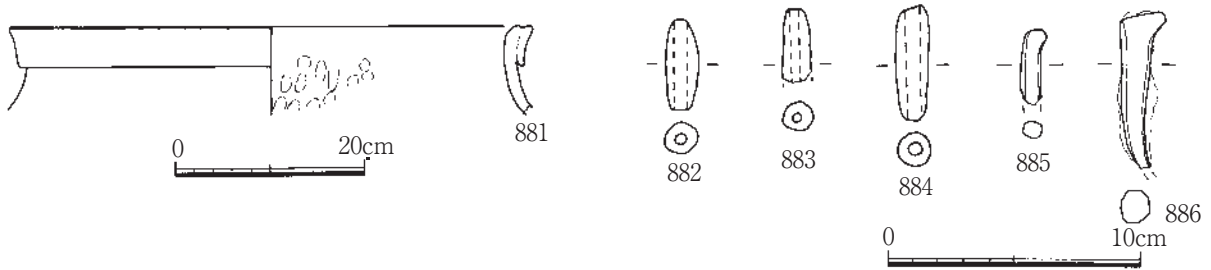
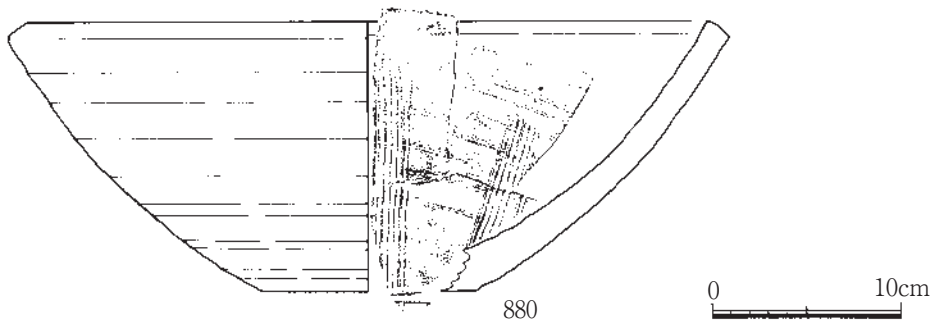
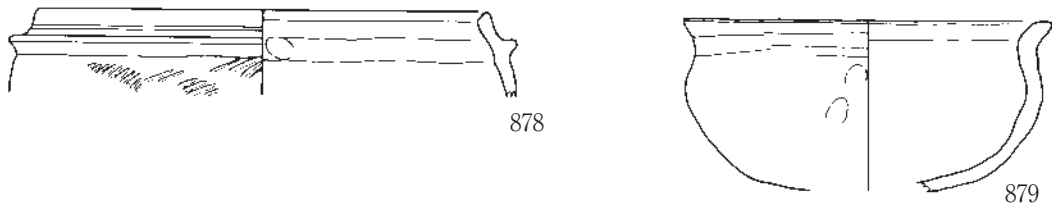
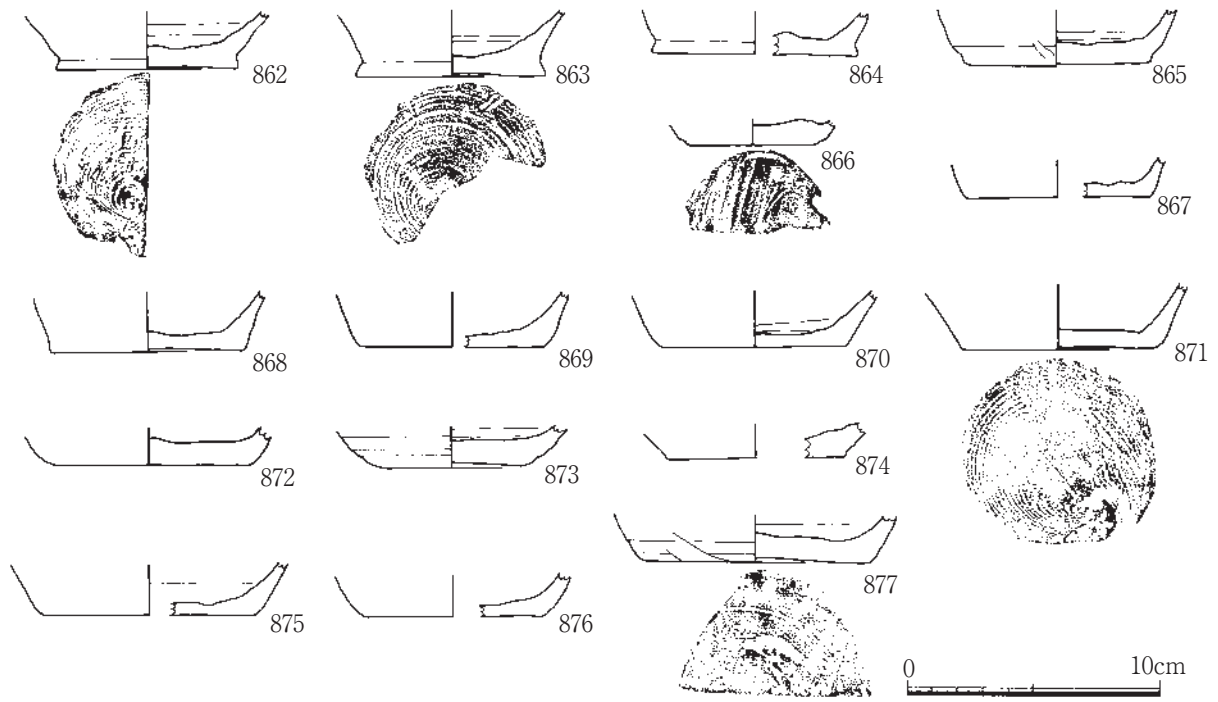
第64図 3A区土器廃棄帯・土坑



第65图 3A区土坑·土器廃棄帶遺物実測図1



第66図 3A区土器廃棄帯遺物実測図2



第67图 3A区土器廃棄帯遺物実測図3

## (7) 3A区遺物包含層出土遺物(第68～74図887～1155)

## ①陶磁器類(第68図887～914)

## 白磁

887から889は皿である。887は口縁が僅かに反り、口唇は釉剥ぎで14C前半のものである。888は輪高台で、底裏は無釉である。釉は乳白色の発色である。15C後半のものである。889は端反りの底部で畳付けは無釉である。16Cのものである。

890、981は八角坏である。共に体部は面取り状になる。15C後半のものである。

## 青白磁

892は無頸壺で胴部は膨らみ、肩部に浮き彫りの文様を施す。釉は薄い青白色の発色である。12Cから13Cのもので伝世品か。

## 青花

893は皿で畳付けが釉剥ぎ、内外面に玉取り獅子の絵付けである。15C後半のものである。

894、895は碗である。894は直線的に立ち上がる。口唇内に界線が巡り、外面は芭蕉葉文の絵付けである。15C後半のものである。895は高台で底裏は無釉である。外面及び見込み内に蛇の目の界線2条が巡る。16C末から17Cのものである。

## 青磁

896は天目台で口縁は内湾し、無文である。16Cのものである。

897は皿で体部に丸味を持ち、口唇が僅かに外反する。見込み内は僅かに段状になる。底部は碁笥底か。無文で15C後半のものである。

898から909は碗である。898は蓮弁文で14C、899は鎬蓮弁で13C後半、900は雷文帯で14C後半から15C、901は無文で14C末から15C前半のものである。902・903は共に無文で15C、904は15C後半である。905は雷文帯崩れで15C、906は蓮弁文で14C後半から15C前半である。907は15Cの雷文か。908は底裏が蛇の目状の釉剥ぎ、見込み内文様は陰刻花文である。時期は判然としない。909は底部破片で底裏無釉、無文で15C前半のものか。

910から912は盤である。910は口縁折れ、口唇は上に摘み出す。内面には縦格子の文様を施す。13C末から14C前半のものである。911も口縁が折れるように屈曲し、端部を摘みあげる。内面が丸鑿による幅広の多条の文様を施す。912は輪高台で底裏は無釉である。内面は蛇の目に釉剥ぎし、緑色の釉が厚くかかる。

## 瀬戸

913は小坏で底部は糸切り、口縁が折縁状に広がる。内面には緑色の灰釉で外面は露胎となっている。合子の蓋の可能性もある。914は四耳壺の底部である。やや脚の長い高台で外面に灰釉が掛かる。

## ②土器(第69～72図915～1093)

## 小皿

915から990は小皿である。その中で981から990が底部破片である。915から923は浅く小さいもので、体部は開き気味である。924から932はやや深いもので、930から932は内面底が出っ張る。

933から939は体部が開く。940から951は体部が外反気味である。952から957は体部が直立気味である。953は黄白色を呈する。958から968は体部に丸味を持つ。966は黄白色を呈する。969から975はやや浅く体部に丸味を持つ。976から979は坏状に開き、口唇に丸味を持たない。980の体部は短く底部が厚くはみ出る。

#### 坏

坏は991から1092で、その中で1028から1092は底部破片である。991から996は皿状で開く。997から1001は体部が直線的に外傾する。1002から1004は体部に丸味を持ち、口縁が直立気味である。1002は黄褐色、1003は黄白色を呈する。1005から1017は体部に僅かに丸味を持ち、余り開かないで内湾気味である。その中で1015から1017はやや直線気味である。1018から1021は直線的に立ち上がり箱形のものである。1021は黄白色を呈する。1022から1024は僅かに外反する。1025から1027は外反する。1025は黄白色を呈する。

底部破片の1028から1050の体部は開く。1034は黄白色を呈する。1051から1053は底部端が出っ張る。1054から1066は体部に丸味を持つ。1067から1077は体部がやや直立気味である。1078から1087は箱形である。1088、1089は底部が直立し、底部端が出っ張る。1090から1092は碗状の底部である。

#### 鍋

1093は口縁が屈曲し、口唇端部を摘みあげる。内面は刷毛整形、外面は不明である。色調は赤褐色を呈する。14Cの紀伊のものである。

### ③瓦質土器(第73図1094～1098)

#### 羽釜

1094は大きな鏝が付く。径3mmの円孔を穿つ。刷毛整形で15Cのものである。1095は15C前半で、2点共に河内のものである。

#### 鍋

1096は14C中葉以降の在地産である。

#### 鉢

1097は鉢である。素口縁で外傾する。内外面は横ナデ、外面は黒味を帯びる。

#### 風炉

1098は風炉の獣脚である。15Cのものである。

### ④炆器(第73図1099～1106)

#### 捏ね鉢

1099から1102は13C後半の東播磨の捏ね鉢である。

#### 搦鉢

1103は搦鉢で多条の擦り目、横位にも沈線状に走る。備前で15Cか。

#### 壺

1104は壺で口唇が玉縁、肩部が張る。外面は自然釉、内面は灰色を呈する。15C備前か。四耳壺

の可能性がある。1105は平底で備前のものである。

#### 甕

1106は甕で肩部に菊花、扇子の押印を施す。内面は粗いナデ整形である。13C後半の常滑である。

#### ⑤土製品(第73図1107～1123)

##### 土錘

1107から1123は細長い筒状の土錘である。小型のものが多い。

#### ⑥金属製品(第74図1124～1140)

##### 銅碗

1124は口唇端部が内に突出、底中央に円孔、単なる破損の可能性もある。口径8.0cm、器高3.3cm、底径5.4cmの小型のものである。

##### 刀子

1125は頭部が僅かに幅広で先端部欠損する。断面扁平である。

##### 釘

1126から1140は鉄製の和釘である。1126は長く先端部は曲がる。頭部の残るものは折り曲げる。断面は方形である。

#### ⑦瓦(第74図1141～1150)

##### 軒丸瓦

1141は珠文のみが残る。

##### 丸瓦

1142から1144は丸瓦で、1142は凸面が縄叩き後ナデ、凹面が布目で、ループ紐吊り痕が残る。

##### 平瓦

1145から1149は平瓦で、布目のものが多い。1148には釘穴が残る。

##### 役瓦

1150は三角形の丸瓦、降り棟脇に使用したものか。凸面には縄目叩き痕が残る。

#### ⑧石製品(第74図1151～1155)

##### 砥石

1151から1153は砥石である。1151、1152は扁平である。1153は厚く長方形のものである。1151が凝灰岩、1152が珪質頁岩、1153は砂岩である。

##### 磨石

1154は軽石製で部分的に摩耗する。

##### 燧石

1155はチャート製で、両極打法による。2側面は截断面となっている。

## (8) 3A区小結

本調査区で検出した遺構は石段状遺構、瓦窯跡3基、建物跡が主なものである。石段状遺構は2A区の下段から上がってきたところに構築され、本遺跡の初源期から築かれていた。基礎部分は最下層に大礫を組み、その上に石段を組んでいる。西側、正面から見て右側袖には石積みを行う。石積みは後半期に新たに構築されており、周辺域の嵩上げに伴い袖も築かれたようである。石段の最上段には中礫を並べおき、柱跡を2基検出している。境内に入る際の門跡と考えられる。石段状遺構は13C末から16C代迄機能していたと考えられる。

瓦窯跡については、窯跡出土遺物、周辺の状況からして15C代と考えられる。一時期に3基とも同時期に操業し、短期間の内に廃絶したと考えられる。本遺跡の寺院関係の建物に葺くための瓦を供給したと考えられる。しかしながら本遺跡内では2A区、3B区でやや瓦が出土しているもののその量は多いとは言えない。本堂に瓦は葺かれた可能性が最も強いが、纏まって出土しておらず、瓦の生産量が如何程のものであったかは不明である。本遺跡は香山寺の里坊の可能性が極めて高いところから、香山寺本体に瓦を供給した可能性も考えられるものの、残念ながら香山寺の調査が進んでいないために、それも判然としない。香山寺では龍文甃と布目瓦が採集されているものの、それについても詳細は不明であり、本瓦窯跡との関連は掴みようがない。

建物跡については、通常の住居跡とは違っており、長方形に石列で区画し、柱穴の伴う建物跡を検出している。他の調査区では4A区で同様のものがあり、僧坊かお堂の可能性もある。柱穴内出土遺物から14C後半から15Cの時期が考えられよう。

遺物については、東側山裾際の廃棄帯から纏まって土器類が出土している。器種は小皿と坏で、坏は皿状の形態を取るものがあり、形態が漸移的で峻別が難しく坏として一括りした。

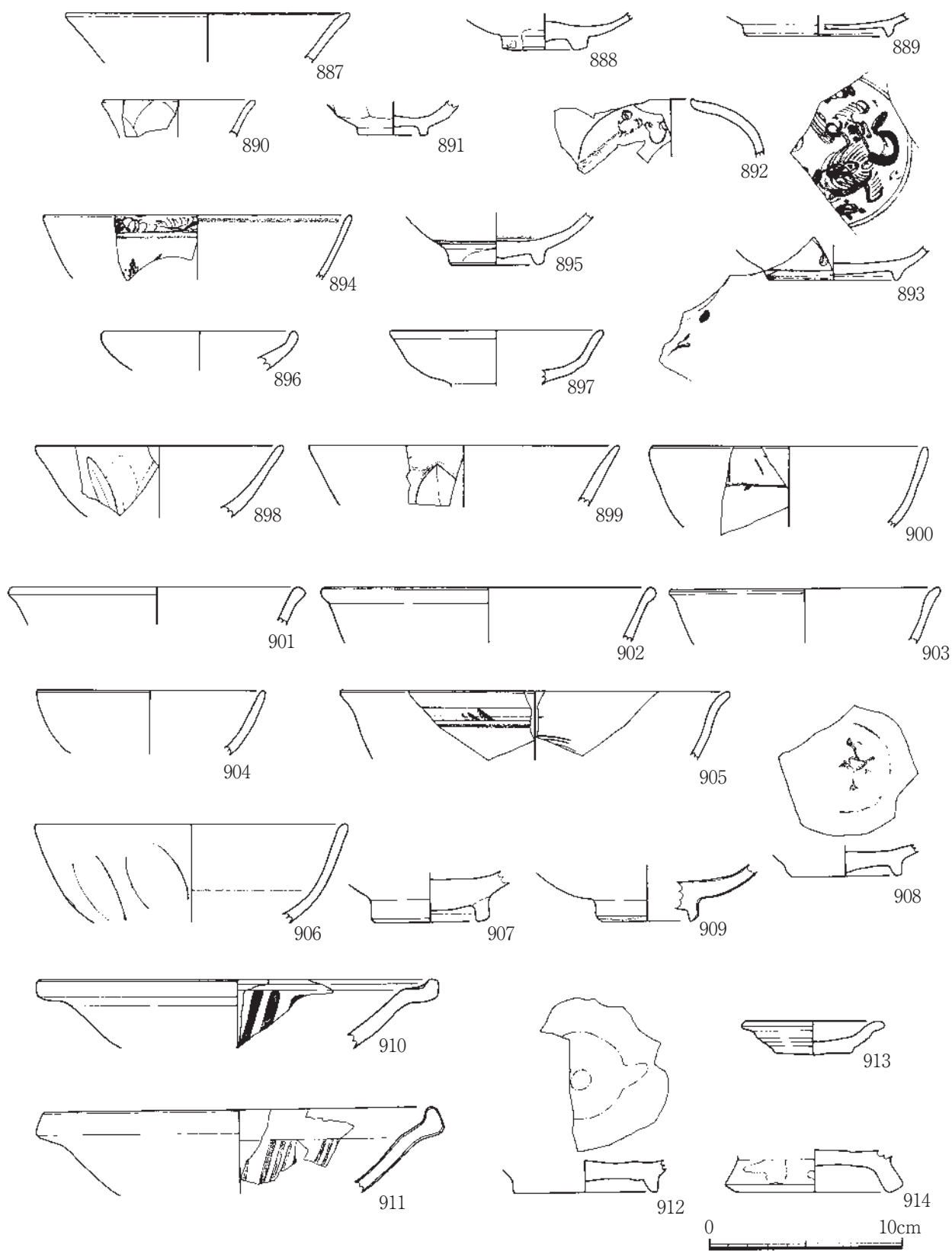
輸入陶磁器は892の青白磁無頸壺は12Cから13Cのものであり、伝世品と考えられる。また青花、青磁類は多く、青花は15C後半代、青磁は14C後半から15C代のもが多く、中には16Cの青磁天目台896の茶の湯関連のものも含まれている。白磁は680の白磁八角坏等の15C中葉から後半にかけての製品が多い。

什器類では備前産の播鉢が14C前半のもの、東播磨の捏ね鉢が13C後半のものが含まれている。貯蔵具では常滑の甕が出土している。777のタイ産ノイ川窯15C後半の壺が出土しており、本県では高岡郡葉山村姫野々土居跡からの出土例がある。煮沸具としては紀伊産の14Cの鍋、在産の14Cから15Cの瓦質鍋、14C後半以降の播磨、15Cの河内の羽釜が少量出土している。それ以外に土錘、銅碗1124が出土している。

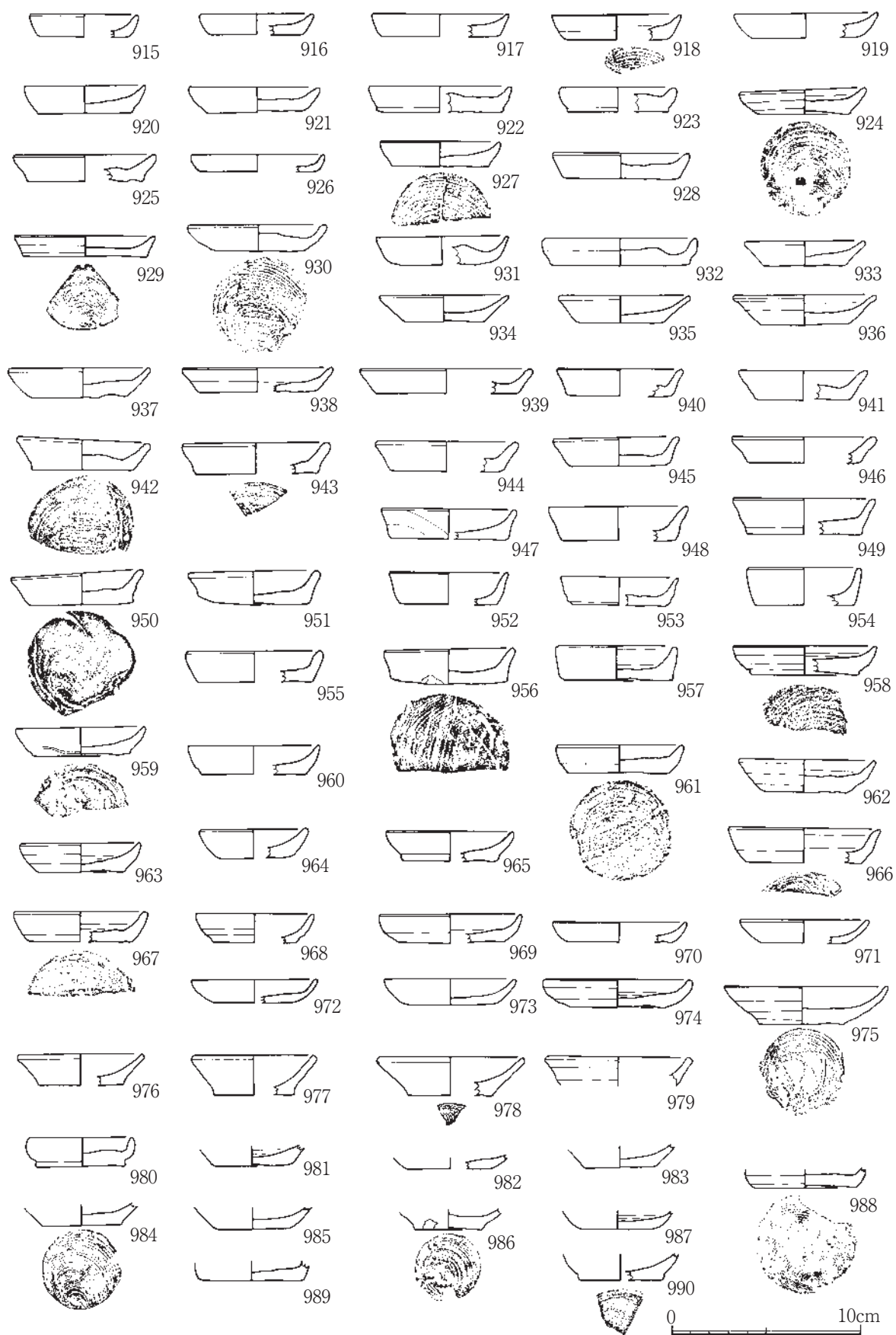
什器類は相対的に少なく、東播磨、備前播鉢は13Cから14Cの本遺跡の古段階では遺物に占める割合が高い。本調査区での主体となる14C後半から15C代は供膳具の土器小皿、坏が最も多く、次いで輸入陶磁器類が占める割合が高い。そうしたことから、14C後半から15Cは一般的な住居空間ではなく、やはり寺院跡に関連した空間として把握できそうである。

長宗我部地検帳段階16C後半では3区は「寺中」の可能性が強いものの、16C後半の遺物はほとんど出土していない。

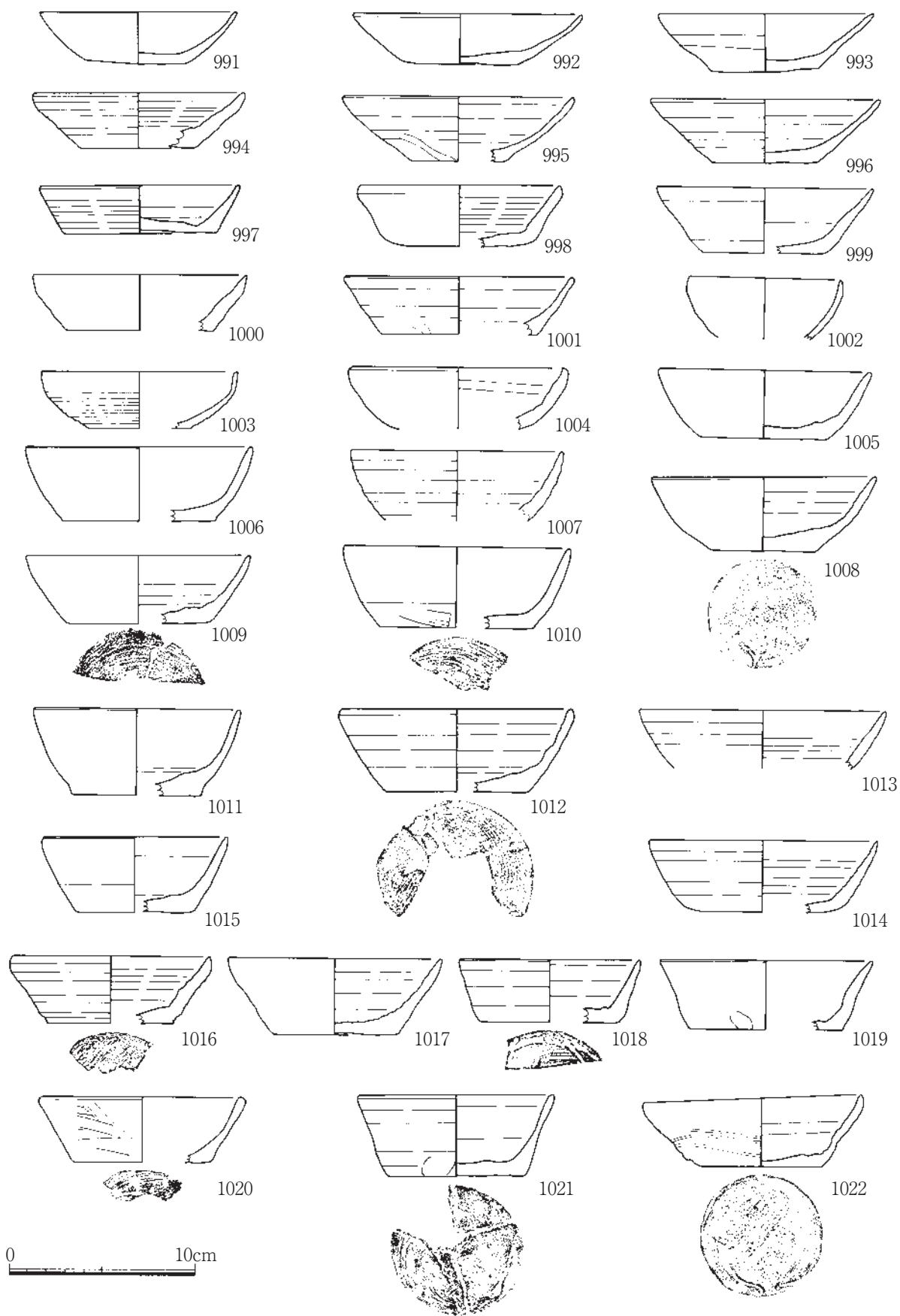




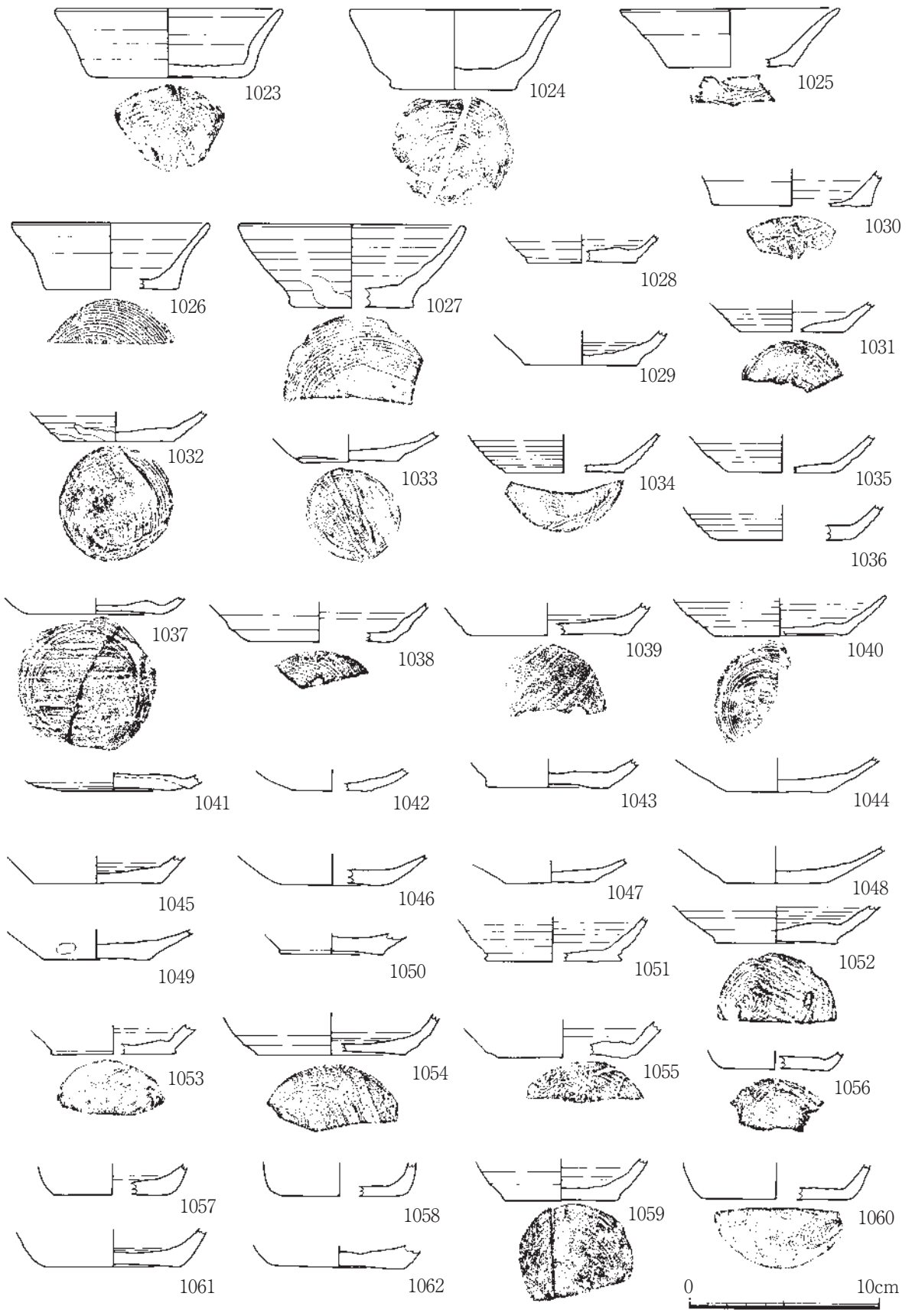
第68図 3A区遺物実測図1



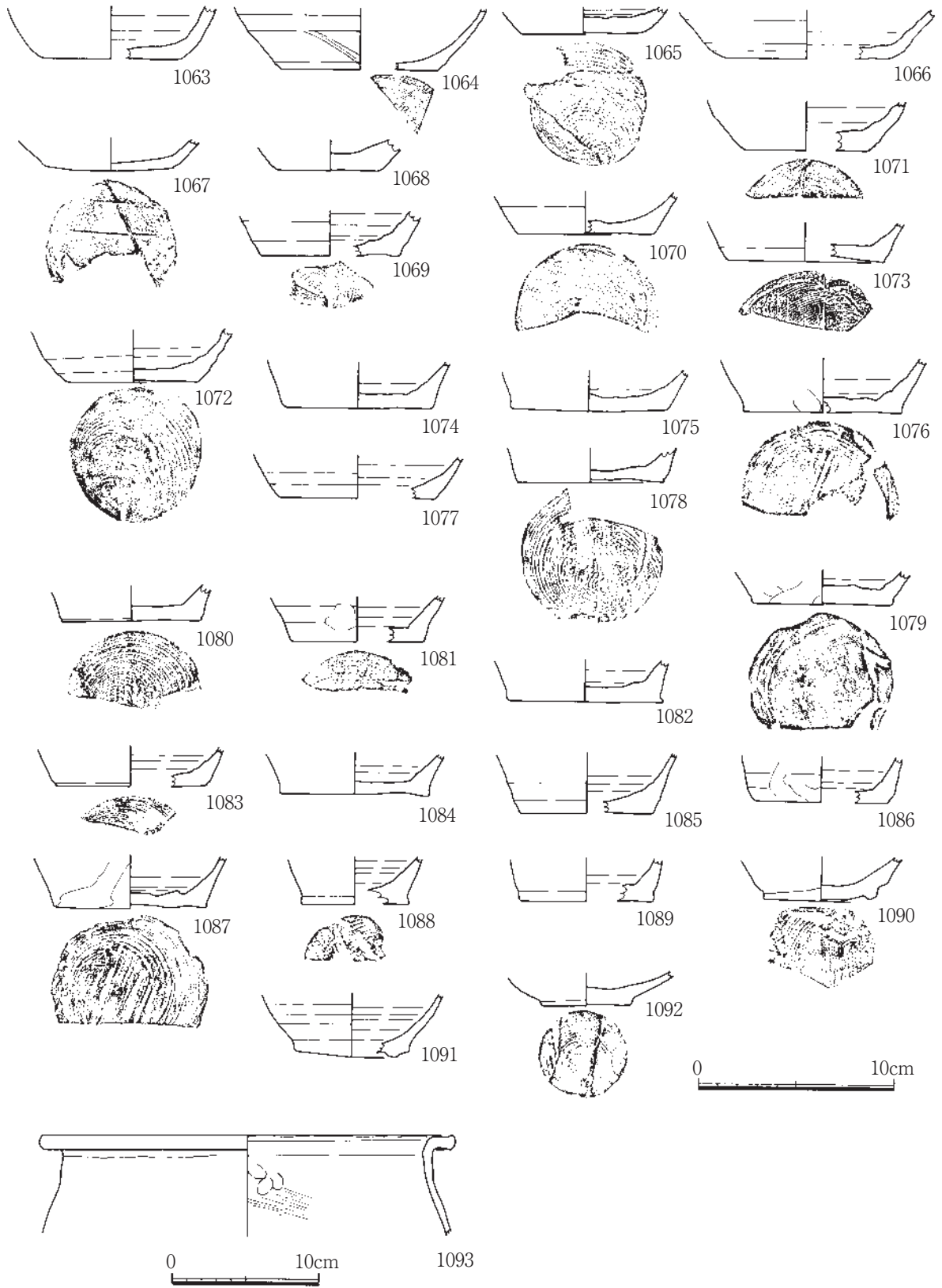
第69图 3A区遺物実測図2



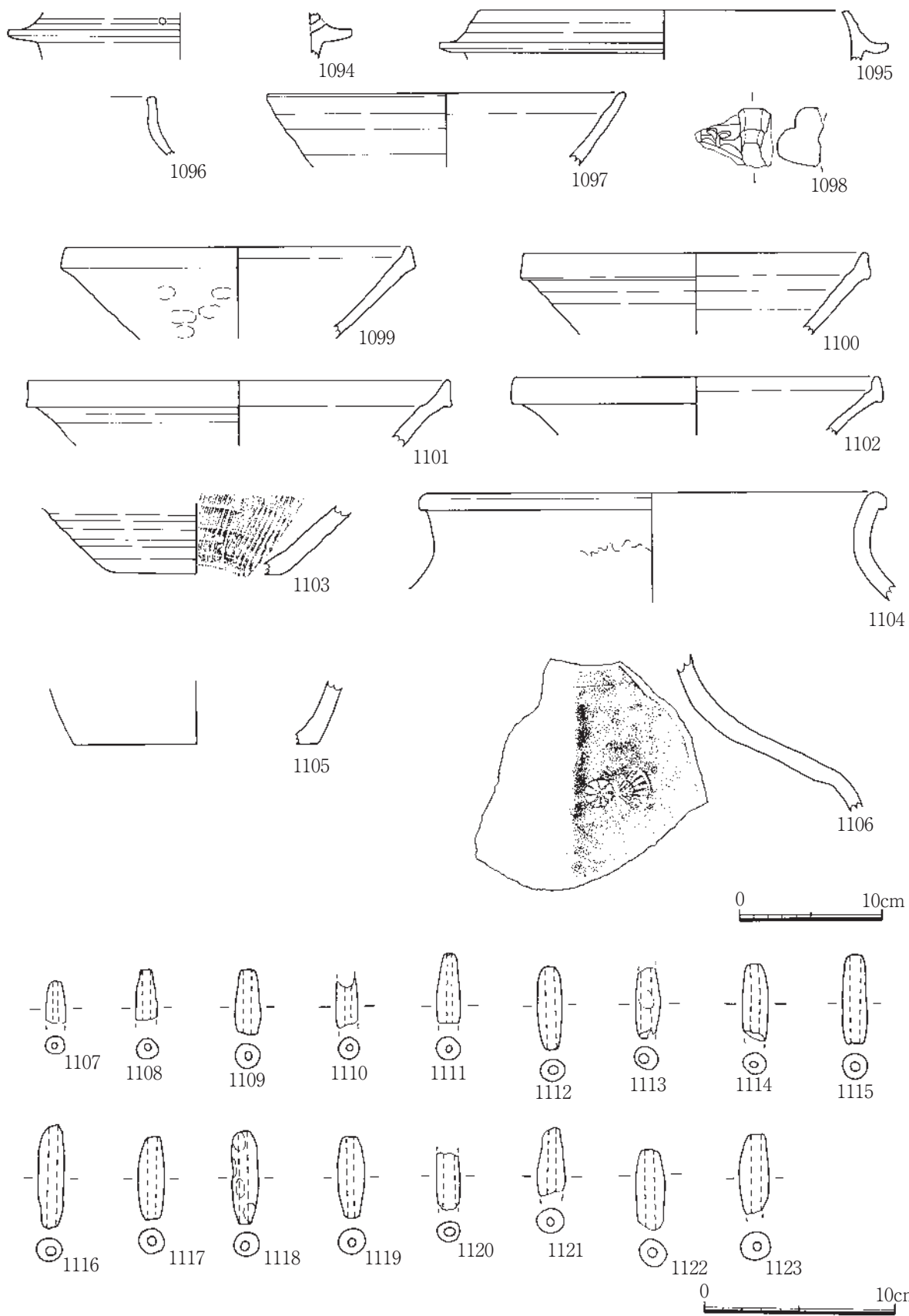
第70図 3A区遺物実測図3



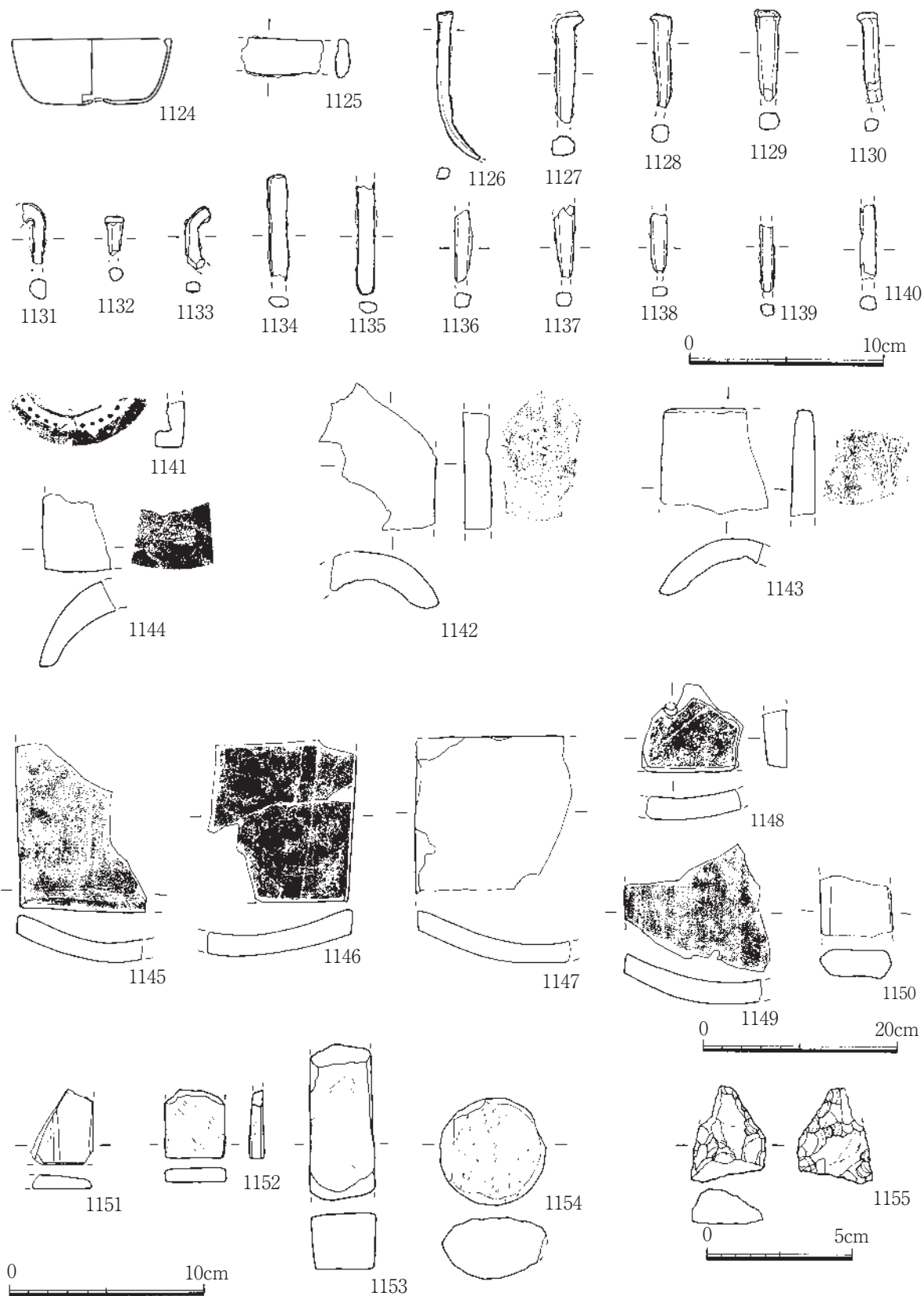
第71図 3A区遺物実測図4



第72図 3A区遺物実測図5



第73图 3A区遺物実測図6



第74図 3A区遺物実測図7

表7 3A区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
575	瓦	軒丸瓦	3A	窯1	長 (24.0)	幅17.4	厚2.3	三つ巴、珠文、文様余り鮮明でない、凹面布目、ループ紐吊り痕	精良		
576	瓦	軒丸瓦	3A	窯1・下層	径15.3	幅16.0	厚3.2	瓦当三つ巴、珠文、離れ砂、丸瓦部凹面布目痕	精良		
577	瓦	軒丸瓦	3A	窯1		幅 (14.7)	厚3.4	瓦当文様三つ巴、珠文、文様余り鮮明でない	精良		
578	瓦	軒丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (13.1)	幅 (13.8)	厚2.9	欠損、三つ巴、珠文、凹面布目	精良		
579	瓦	軒丸瓦	3A	窯1	長 (8.3)	幅 (15.5)	厚2.0	珠文	精良		
580	瓦	軒丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (19.6)	幅16.5	厚3.0	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、紐吊り痕	精良		
581	瓦	軒丸瓦	3A	窯1		幅 (10.8)	厚3.6	三つ巴、珠文	精良		
582	瓦	軒丸瓦	3A	窯1		幅 (6.8)	厚2.4	三つ巴、珠文、文様潰れる	精良		
583	瓦	軒丸瓦	3A	窯1		幅 (7.1)	厚2.6	三つ巴、珠文	精良		
584	瓦	軒丸瓦	3A	窯1		幅 (4.0)	厚1.7	珠文	精良		
585	瓦	軒丸瓦	3A	窯1		幅 (4.8)	厚2.4	珠文	精良		
586	瓦	軒丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (9.7)	幅 (16.3)	厚4.4	大部分が破損、文様不明、表面ナデ	精良		
587	瓦	丸瓦	3A	窯1・セクション	長39.5	幅17.9	厚2.8	凹面布目、紐吊り痕、斜状コビキ、釘穴	精良		
588	瓦	丸瓦	3A	窯1・セクション	長36.7	幅17.6	厚3.2	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、ループ紐吊り痕	精良		
589	瓦	丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (28.4)	幅17.6	厚3.2	凸面落剥、ナデ、凹面布目、ループ紐吊り痕、釘穴	精良		
590	瓦	丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (29.7)	幅17.0	厚2.7	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、ループ紐吊り痕、釘穴	精良		
591	瓦	丸瓦	3A	窯1	長 (22.2)	幅17.0	厚2.4	凸面縄目叩き、ナデ、凹面布目、紐吊り痕、	精良		
592	瓦	丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (26.3)	幅 (15.5)	厚2.7	凸面布目後ナデ、凹面布目、斜状コビキ	精良		
593	瓦	丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (35.6)	幅 (14.3)	厚2.8	凹面布目、紐吊り痕、斜状コビキ	精良		
594	瓦	丸瓦	3A	窯1	長 (16.8)	幅 (14.6)	厚2.6	凸面縄目叩き痕、凹面布目	精良		
595	瓦	丸瓦	3A	窯1	長 (16.7)	幅 (9.9)	厚2.9	凹面布目、釘穴	精良		
596	瓦	丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (10.6)	幅 (7.7)	厚2.8	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目	精良		
597	瓦	丸瓦	3A	窯1・セクション	長 (12.7)	幅 (13.0)	厚3.0	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、斜状コビキ	精良		
598	瓦	軒丸瓦	3A	窯1	長 (3.6)	幅 (16.2)	厚3.1	中心飾り不明、両脇唐草文	精良		
599	瓦	平瓦	3A	窯1・下層	長 (20.5)	幅23.9	厚2.2	凸面離れ砂、ナデ、凹面離れ砂、布目	精良		
600	瓦	平瓦	3A	窯1・セクション	長 (12.5)	幅 (18.7)	厚2.4	凸面布目、ひび割れ	精良		
601	瓦	平瓦	3A	窯1	長 (15.6)	幅 (11.4)	厚2.0	凸面離れ砂、凹面布目	精良		
602	瓦	平瓦	3A	窯1	長 (9.4)	幅 (11.4)	厚2.2	凸面離れ砂、凹面布目	精良		
603	瓦	平瓦	3A	窯1・セクション	長 (17.2)	幅 (14.1)	厚2.7	両面離れ砂、ひび割れ	精良		
604	瓦	平瓦	3A	窯1・セクション	長 (19.7)	幅 (13.4)	厚2.3	両面離れ砂	精良		
605	瓦	平瓦	3A	窯1	長 (19.7)	幅 (12.7)	厚1.4	器肉やや薄い、両面離れ砂	精良		
606	瓦	平瓦	3A	窯1・下層	長 (21.8)	幅 (12.2)	厚1.9	両面離れ砂	精良		
607	瓦	平瓦	3A	窯1・下層	長 (24.2)	幅 (10.4)	厚2.1	凹面離れ砂	精良		
608	瓦	平瓦	3A	窯1・セクション	長 (13.7)	幅 (17.3)	厚2.1	凸面離れ砂、凹面布目	精良		



第Ⅱ章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
609	瓦	平瓦	3A	窯1・セクション	長 (12.1)	幅 (17.8)	厚2.0	両面離れ砂	精良		
610	瓦	平瓦	3A	窯1・下層	長 (11.2)	幅 (12.1)	厚1.6	両面離れ砂	精良		
611	瓦	平瓦	3A	窯1	長 (13.6)	幅 (17.5)	厚2.1	凸面コビキ、離れ砂、凹面離れ砂、ひび割れ	精良		
612	瓦	道具瓦?	3A	窯1	長8.0	幅 (11.8)	厚3.2	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、紐吊り痕	精良		
613	土器	坏・底部	3A	窯1・TR			(6.8)	摩耗、底部糸切り、体部開く、内面轆轤目	精良		
614	土器	坏・底部	3A	窯1			(6.8)	摩耗、体部開く	精良		
615	土器	坏・底部	3A	窯1・TR			(8.2)	底部糸切り、簧子状圧痕、体部やや開く	精良		
616	土器	坏・底部	3A	窯1・TR			(7.6)	底部糸切り、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
617	瓦	軒丸瓦	3A	窯2	長40.2	幅 (16.3)	厚2.9	瓦当三つ巴、珠文、離れ砂、丸瓦部凹面紐吊り痕、離れ砂、釘穴	精良		
618	瓦	軒丸瓦	3A	窯2	長 (18.0)	幅 (13.5)	厚3.0	瓦当の大部分落剥、珠文、凹面布目	精良		
619	瓦	軒丸瓦	3A	窯2			厚2.9	三つ巴、珠文、文様余り鮮明でない	精良		
620	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・バンク・下層			厚2.4	三つ巴、珠文、離れ砂	精良		
621	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・バンク・下層			厚4.4	三つ巴、珠文、離れ砂	精良		
622	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・下層			厚2.9	三つ巴	精良		
623	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・バンク・下層			厚2.8	三つ巴、珠文、離れ砂	精良		
624	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・中、下層			厚3.5	三つ巴、珠文	精良		
625	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・バンク・下層			厚3.1	三つ巴、珠文	精良		
626	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (42.2)	幅 (17.1)	厚3.1	瓦当欠損、凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、ループ紐吊り痕	精良		
627	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (28.7)	幅 (17.0)	厚2.9	三つ巴、珠文、凹面布目、ループ紐吊り痕、斜状コビキ	精良		
628	瓦	軒丸瓦	3A	窯2	長 (15.6)	幅 (17.0)	厚3.4	珠文、三つ巴か	精良		
629	瓦	丸瓦	3A	窯2	長 (39.4)	幅 (15.2)	厚2.5	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、斜状コビキ、紐吊り痕	精良		
630	瓦	丸瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (34.8)	幅 (15.8)	厚2.3	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、紐吊り痕	精良		
631	瓦	丸瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (33.4)	幅 (17.0)	厚2.8	凹面紐吊り痕、離れ砂	精良		
632	瓦	丸瓦	3A	窯2・バンク・下層	長21.4	幅10.4	厚2.6	凸面縄目叩き痕、ナデ、凹面布目、ループ紐吊り痕	精良		
633	瓦	丸瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (8.8)	幅 (16.4)	厚3.3	凹面離れ砂	精良		
634	瓦	丸瓦	3A	窯2	長 (10.2)	幅 (13.3)	厚2.3	凹面布目	精良		
635	瓦	丸瓦	3A	窯2	長 (14.6)	幅 (8.9)	厚3.1	凹面離れ砂	精良		
636	瓦	丸瓦	3A	窯2	長 (15.8)	幅 (7.3)	厚2.6	凸面縄目叩き、ナデ、凹面布目	精良		
637	瓦	丸瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (6.9)	幅 (16.4)	厚3.1	先端部落剥、凹面布目	精良		
638	瓦	軒丸瓦	3A	窯2	長 (29.8)	幅 (14.3)	厚3.0	瓦当唐草、色調黄褐色	精良		
639	瓦	軒丸瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (13.3)	幅 (10.4)	厚2.9	瓦当唐草、離れ砂	精良		
640	瓦	軒丸瓦	3A	窯2	長 (13.9)	幅 (11.2)	厚2.8	瓦当唐草か	精良		
641	瓦	平瓦	3A	窯2	長26.1	幅21.9	厚1.8	歪み、両面離れ砂	精良		
642	瓦	平瓦	3A	窯2	長28.8	幅22.4	厚2.7	大きく歪む、両面離れ砂	精良		
643	瓦	平瓦	3A	窯2	長26.8	幅22.3	厚2.5	歪み、溶着、両面離れ砂	精良		
644	瓦	平瓦	3A	窯2	長21.8	幅25.2	厚2.6	歪み、両面離れ砂	精良		
645	瓦	平瓦	3A	窯2	長 (18.7)	幅24.7	厚1.8	凸面離れ砂	精良		
646	瓦	平瓦	3A	窯2	長13.2	幅26.6	厚1.9	凹面布目	精良		
647	瓦	平瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (12.5)	幅 (27.5)	厚2.2	歪み、溶着、両面離れ砂	精良		
648	瓦	平瓦	3A	窯2	長 (19.7)	幅 (17.8)	厚2.0	両面離れ砂	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
649	瓦	平瓦	3A	窯2	長 (21.9)	幅 (15.9)	厚1.6	両面離れ砂	精良		
650	瓦	平瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (24.8)	幅 (9.9)	厚2.0	両面離れ砂	精良		
651	瓦	平瓦	3A	窯2・バンク	長 (20.0)	幅 (12.3)	厚2.2	両面離れ砂	精良		
652	瓦	平瓦	3A	窯2	長 (13.7)	幅 (15.4)	厚2.1	両面離れ砂	精良		
653	瓦	平瓦	3A	窯2・バンク	長 (11.9)	幅 (13.5)	厚2.5	凸面布目	精良		
654	瓦	平瓦	3A	窯2	長 (20.2)	幅 (15.5)	厚1.8	凸面離れ砂、凹面布目	精良		
655	瓦	平瓦	3A	窯2	長 (12.4)	幅21.4	厚2.3	凸面布目、凹面離れ砂	精良		
656	瓦	平瓦	3A	窯2・バンク・下層	長 (13.7)	幅 (20.4)	厚2.1	歪み、両面離れ砂	精良		
657	瓦	平瓦	3A	窯2	長 (13.0)	幅 (17.1)	厚2.0	凹面布目	精良		
658	瓦	丸瓦	3A	窯2	長 (6.9)	幅 (12.0)	厚4.1	三角形の丸瓦、降り棟脇に使用したもののか？	精良		
659	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	窯2灰原、3層	(18.0)			口唇僅かに丸味、内面陰刻文	灰色、精良	14C後半～15C前半	
660	土器	小皿	3A	窯2	(6.1)	1.8	(4.2)	底部糸切り、体部短く開く	精良		
661	土器	小皿・底部	3A	窯2・灰原			(4.4)	摩耗、底部糸切り？、体部短く開く	精良		
662	土器	小皿・底部	3A	窯2			3.7	摩耗、底部糸切り？、体部開く	精良		
663	土器	坏	3A	窯2・灰原	(13.2)	2.2	(5.8)	摩耗、底部糸切り、体部開く、轆轤目	精良		
664	土器	坏	3A	窯2・バンク西	(13.4)	2.7	(5.3)	底部糸切り、体部大きく開く、轆轤目	精良		
665	土器	坏	3A	窯2	(12.4)	3.4	(5.4)	底部糸切り、体部大きく開く、轆轤目	精良		
666	土器	坏・底部	3A	窯2			(6.2)	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
667	土器	坏	3A	窯2・TR	(11.5)	4.2	(7.2)	摩耗、底部糸切り？、体部僅かに丸味を持って立ち上がる	精良		
668	土器	坏・底部	3A	窯2・TR			(6.9)	底部糸切り、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
669	炆器	擂鉢・口縁	3A	窯2	(31.3)			口縁平坦、外傾する、内面多条の播り目、内外面灰黒色	砂粒少量	14C前半	備前ⅢB期
670	瓦	丸瓦	3A	窯3・バンク・下層	長 (20.3)	幅 (17.2)	厚2.7	凸面縄叩き後ナデ、凹面布目、紐吊り痕、離れ砂	精良		
671	瓦	平瓦	3A	窯3・バンク・下層	長 (15.2)	幅 (15.3)	厚2.4	凹面布目	精良		
672	瓦	平瓦	3A	窯3・バンク・下層	長 (12.7)	幅 (15.2)	厚2.2	凸面離れ砂、凹面布目	精良		
673	瓦	平瓦	3A	窯3・バンク・下層	長 (23.0)	幅 (14.4)	厚2.3	両面離れ砂	精良		
674	瓦	平瓦	3A	窯3・バンク	長 (19.8)	幅 (12.5)	厚2.7	凸面布目離れ砂、凹面離れ砂	精良		
675	瓦	平瓦	3A	窯3・バンク・下層	長 (18.5)	幅 (11.8)	厚2.0	両面離れ砂	精良		
676	土器	坏・底部	3A	窯3・灰原			5.4	摩耗、底部糸切り？、箕子状圧痕、体部開く	精良		
677	土器	坏・底部	3A	窯3・灰原			(5.2)	摩耗、体部開く	精良		
678	陶磁器	白磁皿・口縁	3A	石段・西	(8.4)			体部丸味、貫入、外面轆轤目	乳白色、精良	15C中	白磁皿D類
679	陶磁器	白磁皿・口縁	3A	石段	(9.0)			体部丸味、外面下半露胎	乳白色、精良	15C中	実945同一か
680	陶磁器	白磁八角坏・口縁	3A	石段	(7.8)			口縁山形、体部面取り状	乳白色、精良	15C中	白磁皿D類
681	陶磁器	白磁八角坏・底部	3A	石段			3.9	体部面取り状、下半は露胎、アーチ状高台、見込み目跡	乳白色、精良	15C中	白磁皿D類
682	陶磁器	青花碗・底部	3A	石段			(4.7)	量付け溶着、内面文様	灰白色、精良	15C後半～16C前半	染付皿C群
683	陶磁器	青花碗？・底部	3A	石段			(6.3)	量付け溶着、内外面文様、アラベスク文	灰白色、精良	15C後半～16C前半	C群
684	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	石段	(15.6)			口唇反る、無文	白色、精良	15C前半	無文D類

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
685	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	石段	(16.4)			口縁僅かに内湾気味、外面雷文帯	灰白色、精良	14C末～15C	
686	陶磁器	青磁蓮弁文碗・底部	3B	石段			5.5	やや高い高台、腰部丸味、器肉厚い、底裏のみ蛇目に釉剥ぎ、外面へう描き蓮弁、内面にもへう描き文様、釉厚い	淡褐色、精良	15C末～16C	
687	陶磁器	青磁碗・底部	3A	2A石段			6.0	見込み内陰刻文、底裏・畳付け露胎	灰色、精良		
688	陶磁器	直縁大皿・口縁	3A	石段・東	-			素口縁、体部大きく開く、外面轆轤目、緑色かかった透明釉？	乳白色、精良	15C	古瀬戸
689	土器	小皿	3A	石段	(6.0)	0.9	(4.0)	底部糸切り、体部短く開く、極めて浅い	精良		
690	土器	小皿	3A	石段	(6.6)	1.2	(3.5)	底部糸切り、体部短く外反して開く、浅い	精良		
691	土器	小皿	3A	石段	(7.8)	1.3	(5.6)	摩耗、体部短く開く、浅い	精良		
692	土器	小皿	3A	石段・TR	(7.6)	1.7	(4.0)	底部糸切り、体部短く開く、浅い	精良		
693	土器	小皿	3A	石段	(6.5)	1.8	(4.4)	摩耗、小環に近い形態、体部短く外反して開く	精良		
694	土器	小皿	3A	石段	6.2	1.6	4.0	底部糸切り、箕子状圧痕、体部短くやや開き、外反	精良		
695	土器	小皿	3A	石段・下層	6.7	1.6	5.1	摩耗、底部糸切り？、体部短くやや開き外反	精良		
696	土器	小皿	3A	石段・下層	(6.8)	1.5	(5.6)	摩耗、底部糸切り？、体部短くやや開き外反	精良		
697	土器	小皿	3A	石段・下層	(8.1)	1.5	(6.6)	摩耗、体部短く僅かに外反	精良		
698	土器	小皿	3A	石段・下層	(6.4)	1.5	4.7	摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる、僅かに丸味	精良		
699	土器	小皿	3A	石段・下層	6.5	1.6	4.2	底部糸切り、体部短く僅かに丸味を持って立ち上がる	精良		
700	土器	小皿	3A	石段・下層	6.6	1.6	4.3	やや摩耗、底部糸切り、体部直線的に僅かに丸味を立ち上げる	精良		
701	土器	小皿	3A	石段・下層	(8.6)	1.5	(6.4)	底部糸切り、体部僅かに丸味を持つ、内外面轆轤目、赤褐色、堅致	精良		
702	土器	小皿	3A	石段・下層	(6.7)	1.6	5.5	摩耗、底部糸切り？、体部やや丸味	精良		
703	土器	小皿	3A	石段・下層	(6.0)	1.5	(5.0)	摩耗、体部やや丸味	精良		
704	土器	小皿	3A	石段・下層	(6.2)	1.4	(5.6)	摩耗、底部糸切り？、体部短く開く、浅い	精良		
705	土器	小皿	3A	石段・下層	(7.0)	1.8	(6.0)	摩耗、底部糸切り？、体部短く立ち上がる	精良		
706	土器	小皿・口縁	3A	石段	(6.9)			口縁内湾する	精良		
707	土器	小皿・底部	3B	石段			(3.8)	摩耗、底部箕子状圧痕、底径小、整形粗い、体部開く	精良		
708	土器	小皿・底部	3B	石段			(4.0)	摩耗、底部箕子状圧痕、底径小、体部開く	精良		
709	土器	環	3A	石段	(11.6)			体部大きく開く、極めて堅致、内外面灰色	精良		
710	土器	環	3A	石段・下層	(11.7)	3.6	6.3	摩耗、底部糸切り？、箕子状圧痕？、体部開く、黄白色	精良		
711	土器	環	3B	石段南・5層	(11.2)	3.1	(7.4)	摩耗、底部糸切り？整形粗い、体部開く、口縁直立気味、口唇尖る	精良		
712	土器	環	3A	石段・下層	(8.4)	4.4	(6.8)	摩耗、底部糸切り？、体部直立気味	精良		
713	土器	環	3A	石段・下層	10.3	3.6	7.7	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部直立気味	精良		
714	土器	環	3A	石段・下層・d No.220	(10.8)	4.0	8.2	底部糸切り、箕子状圧痕、体部直立気味	精良		
715	土器	環	3A	石段・下層	10.8	4.4	7.4	摩耗、底部糸切り、体部直立気味	精良		
716	土器	環	3A	石段・東	(9.0)	3.2	(7.3)	底部糸切り、体部やや外傾する、内面轆轤目、器肉やや厚い	精良		
717	土器	環	3B	石段南・5層	(10.2)	4.5	(6.6)	底部糸切り、体部僅かに丸味を持って直立気味、口唇尖る、やや深い、内面強い轆轤目	精良		
718	土器	環	3A	石段・下層	(11.2)	3.8	7.2	大型、摩耗、底部糸切り、体部丸味を持って直線的に立ち上がる、黄白色	精良		
719	土器	環	3A	石段・南北セクション	11.8	4.5	6.4	やや摩耗、底部糸切り、体部直立気味、内面轆轤目	精良		
720	土器	環・底部	3A	石段・下層			(5.9)	底部糸切り、体部短く僅かに丸味を持って立ち上がる	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
721	土器	坏・底部	3A	石段			(6.0)	摩耗、体部開く	精良		
722	土器	坏・底部	3A	石段			4.9	底部糸切り、体部開く	精良		
723	土器	坏・底部	3A	石段・東			5.6	摩耗、底部糸切り?、箕子状圧痕、体部開く	精良		
724	土器	坏・底部	3B	石段南・5層			(5.0)	摩耗、箕子状圧痕、体部やや開く	精良		
725	土器	坏・底部	3A	石段・下層			(5.6)	摩耗、底部糸切り、体部直立気味、器肉厚い	精良		
726	土器	坏・底部	3A	石段			(6.5)	底部糸切り、体部直立気味、内面轆轤目	精良		
727	土器	坏・底部	3A	石段・下層・d No.220			(7.1)	摩耗、底部糸切り、体部直立気味	精良		
728	土器	坏・底部	3A	石段・下層			(7.8)	摩耗、底部糸切り、体部直立気味	精良		
729	土器	坏・底部	3A	石段・下層			(8.3)	摩耗、底部糸切り、体部直立気味	精良		
730	土製品	土錘	3A	石段・下層	長4.8	径1.2	重5.5	筒状	精良		
731	土製品	土錘	3A	石段	長5.4	径1.3	重6.0	筒状	精良		
732	土製品	土錘	3A	石段	長4.5	径1.4	重6.1	筒状	精良		
733	土製品	土錘	3A	石段・下層	長4.5	径1.5	重8.6	筒状	精良		
734	土製品	土錘	3A	石段		径1.3	重(3.3)	筒状	精良		
735	土製品	土錘	3A	石段・下層		径(1.3)	重(3.4)	筒状	精良		
736	銭貨	古銭	3A	石段・西バンク・br15	径24.1 mm	厚1.6 mm	孔径6.5 mm	元豊通寶、裏面擦り減る	銅		
737	銭貨	古銭	3A	石段	径24.0 mm	厚1.5 mm	孔径5.3 mm	洪武通寶、字体明瞭	銅		
738	金属製品	鉄釘	3A	石段・西斜面	長(4.1)	厚0.7		和釘、頭部折り曲げる、先端部欠損、断面四角	鉄		
739	金属製品	鉄釘	3A	石段・下層	長(4.5)	厚0.9		和釘、先端部欠損、断面四角	鉄		
740	金属製品	鉄釘	3A	石段・下層	長(2.9)	厚0.4		和釘?、頭部欠損、先端部細長い、断面四角	鉄		
741	瓦	丸瓦	3B	石段部	長(24.4)	幅(12.5)	厚2.3	凸面ヘラナデ、凹面布目、紐吊り痕	精良		
742	瓦	丸瓦	3A	石段	長(19.3)	幅(9.1)	厚2.2	凸面縄目叩き、ナデ、凹面布目、斜状コビキ	精良		
743	瓦	軒丸瓦	3A	石段・西バンク			厚3.2	瓦当唐草	精良		
744	瓦	平瓦	3B	斜面・石段部西	長(12.4)	幅(23.8)	厚1.9	両面離れ砂	精良		
745	瓦	平瓦	3B	斜面・石段部	長(16.6)	幅(14.4)	厚2.4	両面離れ砂	精良		
746	土器	坏・底部	3A	P1・黒灰色粘土層	(10.6)			外傾気味に立ち上がる、内面轆轤目、器肉薄い	精良		
747	土器	坏・底部	3A	P1・黒灰色粘土層			(7.0)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕	精良		
748	土器	坏・底部	3A	P1・黒灰色粘土層			4.2	摩耗、体部開く、内面弱い轆轤目	精良		
749	土器	坏・底部	3A	P1・黒灰色粘土層			3.8	摩耗、底部糸切り	精良		
750	金属製品	錐?	3A	P4・黒灰色粘土層	長8.2	厚0.9		錐部断面四角で細長い、太く柄か	鉄		
751	土器	小皿	3A	P5・黒灰色粘土層	6.6	1.2	3.7	摩耗、体部大きく開く	精良		
752	土器	小皿・底部	3A	P5・黒灰色粘土層			3.1	摩耗、底部糸切り?	精良		
753	土器	坏・底部	3A	P9・黒灰色粘土層			(7.0)	摩耗、体部やや開いて立ち上がる、内面轆轤目	精良		
754	土器	坏・底部	3A	P10・黒灰色粘土層			(4.9)	摩耗、底部糸切り、体部やや開いて立ち上がる	精良		
755	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	P11・黒灰色粘土層	(14.0)			腰部丸味を持ち、口縁僅かに開き気味に立ち上がる、雷文帯	灰白色、精良	14C後半~15C	
756	土器	坏	3A	P11・黒灰色粘土層	(11.1)	3.0	4.7	底部糸切り、体部開く、やや堅致	精良		
757	陶磁器	白磁端反り皿・口縁	3A	P23・黒灰色粘土層	(17.0)			口縁端反り、薄い水色がかかる	白色、精良	15C後半~16C前半	
758	土器	坏・底部	3A	P23・黒灰色粘土層			(5.5)	やや摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
759	土器	坏	3A	P31・黒灰色粘土層	(10.0)	2.5	(4.0)	摩耗、体部開く	精良		
760	陶磁器	白磁皿・底部	3A	P32・黒灰色粘土層			3.0	削り出し高台、体部下露胎	白色、精良	15C中	白磁皿D類
761	土器	小皿・底部	3A	P35・黒灰色粘土層			(3.6)	摩耗、体部開く	精良		
762	土器	坏・底部	3A	P36・灰褐色粘土層			(6.5)	摩耗、体部やや開いて立ち上がる	精良		
763	土器	羽釜・口縁	3A	P36・灰褐色粘土層	(23.8)			大きな鏝が付く、瓦質焼成	砂粒少量	15C	河内
764	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	P48・黒灰色粘土層	(18.2)			口縁僅かに開き気味に立ち上がる、雷文帯	白色、精良	14C後半~15C	
765	土器	坏・底部	3A	P68・黒灰色粘土層			(8.4)	摩耗、体部開く、外面轆轤目	精良		

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
766	陶磁器	青磁皿・口縁	3A	P71・黒灰色粘土層	(12.4)			口縁端反る、無文	灰白色、精良	15C後半～	
767	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	P86・黒褐色土層				線描き蓮弁文	灰白色、精良	15C後半～16C前半	
768	土器	坏・底部	3A	P86・黒褐色土層	(13.7)			体部開き気味に立ち上がる、堅致	精良		
769	瓦質土器	捏ね鉢・口縁	3A	P93・黒褐色土層	(24.2)			口縁肥厚、口縁黒色、他は灰白色	微砂粒多量	13C中～14C前半	東播磨
770	土器	坏・底部	3A	P96・黒褐色土層			(4.9)	摩耗、箕子状圧痕、体部開く	精良		
771	土器	坏・口縁	3A	P100・黒褐色土層	(11.5)			体部直線的に立ち上がる	精良		
772	瓦	軒丸瓦	3A	P108・黒褐色土層			厚2.0	巴文、離れ砂	砂粒微量		
773	土器	坏・底部	3A	P111・黒褐色土層			(5.8)	摩耗、体部開く	精良		
774	土器	坏	3A	P112・黒褐色土層	(12.9)	4.2	6.6	摩耗、体部やや開いて立ち上がる、内面弱い轆轤目、黄白色	精良		
775	陶磁器	青磁椀花皿・口縁	3A	P121・黒褐色土層	(10.4)			口縁椀花	灰白色、精良	15C後半～16C前半	
776	土器	坏・口縁	3A	P210・黒灰色土層	(10.1)			摩耗、口縁僅かに開く、内面弱い轆轤目	精良		
777	炆器	壺・口縁	3A	P211・黒灰色土層	(26.0)			口縁折り返し玉縁、内外面黒褐色	砂粒微量、灰白色	15C後半	タイ、ノイ川窯
778	土器	小皿	3A	P241	(6.0)	1.2	(4.0)	底部ナデ、体部短く開く、堅致、赤褐色	精良		
779	土器	小皿	3A	P241	(6.1)	1.4	(5.0)	摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる、器肉薄い、黄白色	精良		
780	土器	坏・底部	3A	P241			6.0	摩耗、底部糸切り、体部やや開いて立ち上がる	精良		
781	土器	坏・底部	3A	P241			(7.2)	摩耗、体部やや開いて立ち上がる	精良		
782	土器	坏	3A	P278	(9.9)	2.1	(6.0)	底部糸切り、体部開く、外面強い轆轤目、黄白色	精良		
783	土器	坏・口縁	3A	SK1	(11.5)			口縁短く立ち上がる、内外面灰白色	精良		
784	瓦質土器	釜・口縁	3A	SK2				口唇端部僅かに摘み出す、断面三角の低い鋸が付く	微砂粒微量		
785	土製品	土錘	3A	SK3	長4.0	径1.5	重5.4	筒状	精良		
786	土器	坏	3A	SK4・d No.66	12.4	3.6	7.2	底部糸切り後ナデ、体部やや開いて立ち上がる、外面轆轤目、内外面黄褐色	精良		
787	土器	坏	3A	SK4・d No.65	12.6	4.6	6.1	摩耗、底部糸切り？、体部開く、口唇尖る、内面底凹む	精良		
788	土器	坏	3A	SK5	(12.5)	3.7	(8.0)	摩耗、体部やや開いて立ち上がる、黄白色	精良		
789	土製品	土錘	3A	SK5	長4.3	径1.6	重6.9	筒状	精良		
790	陶磁器	青磁碗・底部	3A	東側部斜面			(6.0)	蓮弁文、見込み内にも文様、底裏無釉	灰白色、精良		
791	陶磁器	鉢？・口縁	3A	東側部斜面・4層	(20.0)			体部開き、口縁やや屈曲、内面には段、内外面に薄い透明感のある緑色の釉がかかる	灰白色、精良	14C	瀬戸
792	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(7.6)	0.9	(5.5)	底部糸切り、体部へたれて立ち上がり	精良		
793	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	6.2	1.4	4.6	やや摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
794	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(7.4)	1.1	(6.6)	底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
795	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(6.2)	1.2	(4.2)	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部短くやや開く	精良		
796	土器	小皿	3A	東側部斜面・4層	(7.7)	1.5	(6.2)	底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
797	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(5.8)	1.2	(5.0)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
798	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(6.4)	1.3	(5.2)	摩耗、底部糸切り？、体部短く開く	精良		
799	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(6.0)	1.5	(5.2)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
800	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(7.2)	1.7	(5.8)	摩耗、体部短く開く	精良		
801	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(7.6)	1.7	(6.6)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
802	土器	小皿	3A	東側部斜面・4層	(6.9)	1.5	(6.0)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
803	土器	小皿	3A	東側部斜面・d No.52	7.5	1.6	5.2	やや摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
804	土器	小皿	3A	東側部斜面・4層・d No.44～47	(7.0)	1.4	4.7	摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
805	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(6.6)	1.2	(4.3)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部短く開く	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・土地地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
806	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(7.0)	1.2	(5.0)	摩耗、底部系切り?、体部短く開く	精良		
807	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(8.0)	1.2	(5.6)	摩耗、底部系切り?、体部短く開く	精良		
808	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(6.4)	1.5	(4.2)	やや摩耗、底部系切り、体部短く開く	精良		
809	土器	小皿	3A	東側部斜面・4層・d No.44~47	(6.9)	1.7	5.2	摩耗、底部系切り?、体部短く上る、内面轆轤目	精良		
810	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(6.6)	1.5	(4.8)	やや摩耗、底部系切り?、体部短く立ち上がる	精良		
811	土器	小皿	3A	東側部斜面・6層・No.99~103	(7.0)	1.7	(5.0)	底部系切り、体部やや開く	精良		
812	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(8.0)	1.8	(6.2)	やや摩耗、底部系切り?、体部短く立ち上がる	精良		
813	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(5.8)	1.7	(5.4)	摩耗、底部系切り?、体部短く開く	精良		
814	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(6.2)	1.5	(5.0)	摩耗、体部短く立ち上がる	精良		
815	土器	小皿	3A	東側部斜面・6層・No.99~103	(5.5)	2.0	(5.0)	摩耗、底部系切り、体部短く開く	精良		
816	土器	小皿	3A	東側部斜面・6層・No.99~105	7.6	1.7	6.0	摩耗、底部系切り、体部短くやや開く	精良		
817	土器	小皿	3A	東端・5層・d No.32	6.9	1.6	5.8	底部系切り、箕子状圧痕、体部短く立ち上がる	精良		
818	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(6.4)	1.7	(6.0)	やや摩耗、底部系切り、体部短く開く、黄白色	精良		
819	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(7.0)	1.7	(5.4)	やや摩耗、底部系切り、体部短く開く	精良		
820	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(5.6)	1.4	(5.0)	底部系切り、体部短く立ち上がる、黄白色、堅致	精良		
821	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(7.0)	1.9	(6.0)	やや摩耗、底部系切り、体部短く立ち上がる	精良		
822	土器	小皿	3A	東端・5層・d No.28	8.9	2.0	7.0	底部系切り、体部やや開く	精良		
823	土器	小皿	3A	東側部斜面・6層・No.99~103	(5.2)	1.2	(4.4)	底部系切り、体部短く直線的に立ち上がる、黄白色	精良		
824	土器	小皿	3A	東側部斜面・5層	(5.5)	1.7	(4.5)	やや摩耗、底部系切り、体部短く開く、ヘラ削り	精良		
825	土器	小皿・底部	3A	東側部斜面・5層			(5.0)	やや摩耗、底部系切り、体部短く開く、黄白色	精良		
826	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	11.3	3.0	7.4	底部系切り、体部僅かに丸味を持って立ち上がる、外面轆轤目、黄白色	精良		
827	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	(10.6)	2.7	(6.4)	底部系切り、体部僅かに丸味を持って立ち上がる、内外面轆轤目、黄白色	精良		
828	土器	坏	3A	東側部斜面・4層	(12.6)	3.2	(7.8)	やや摩耗、底部系切り、体部開き気味に立ち上がる、内外面強い轆轤目、黄白色	精良		
829	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	(12.8)	3.1	(8.0)	摩耗、体部丸味を持って立ち上がる、内外面轆轤目	精良		
830	土器	坏	3A	東側部斜面・4層	(11.2)	3.6	(7.0)	底部系切り、体部やや内湾気味、内外面強い轆轤目、やや器肉薄い、黄白色、堅致	精良		
831	土器	坏	3A	東端・5層・d No.31	(11.3)	3.3	(7.0)	やや摩耗、底部系切り、体部やや丸味、外面轆轤目、器肉薄い、黄白色	精良		
832	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	(12.7)	2.9	(6.8)	摩耗、底部系切り?、箕子状圧痕?、体部僅かに丸味を持って立ち上がる、黄白色	精良		
833	土器	坏・口縁	3A	東側部斜面・6層・No.99~104	(12.2)			体部丸味をもって開く、内外面弱い轆轤目	精良		
834	土器	坏・口縁	3A	東側部斜面・5層	(11.8)			体部僅かに丸味を持って立ち上がる、口縁僅かに外反、外面轆轤目、黄白色	精良		
835	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	(12.8)	4.2	(8.0)	摩耗、底部系切り、体部丸味を持って立ち上がる	精良		
836	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	(11.4)	4.0	(7.0)	やや摩耗、底部系切り、体部やや丸味を持ち立ち上がる、黄白色	精良		
837	土器	坏	3A	東側部斜面・d No.50	11.4	3.8	6.4	底部系切り、体部やや丸味を持ち立ち上がる、内面轆轤目、やや堅致	精良		
838	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	(11.4)	3.5	(6.1)	底部系切り、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
839	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	(12.6)	3.6	7.2	底部系切り、体部やや開く、内外面轆轤目	精良		

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
840	土器	坏	3A	東側部斜面・6層・No.99～103	(10.2)	4.0	(5.2)	摩耗、体部開く、内面轆轤目	精良		
841	土器	坏	3A	東側部斜面・6層・No.99～103	(11.4)	3.6	(6.8)	底部糸切り、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
842	土器	坏	3A	東側部斜面・5層	(11.2)	3.6	(7.6)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
843	土器	坏・口縁	3A	東側部斜面・4層・d No.44～47	(13.8)			やや摩耗、体部開き気味に立ち上がる、内外面轆轤目	精良		
844	土器	坏	3A	東側部斜面・5層・d No.60～63	(8.5)	3.8	(7.0)	底部糸切り、体部直線的にやや開く、堅致	精良		
845	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・4層			(5.2)	底部糸切り、体部開き気味に立ち上がる、内外面強い轆轤目、黄白色	精良		
846	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・d No.53～56			6.6	底部糸切り、体部開く、内外面強い轆轤目、器内薄い、黄白色	精良		
847	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・4層・d No.44～47			6.1	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内外面轆轤目、堅致	精良		
848	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・4層・d No.44～47			(6.4)	摩耗、整形やや粗い、体部開く	精良		
849	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・4層			(6.2)	やや摩耗、体部開き気味に立ち上がる、内外面轆轤目、黄白色	精良		
850	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・5層			(7.2)	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く	精良		
851	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・5層			(6.8)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
852	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・6層・No.99～103			7.6	やや摩耗、底部糸切り、体部やや開く、内面弱い轆轤目	精良		
853	土器	坏・底部	3A	東端・5層・dNo.33			(5.8)	底部糸切り、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
854	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・4層			(6.8)	大型、やや摩耗、体部やや開き気味に立ち上がる、黄白色	精良		
855	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・6層・No.99～103			8.0	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
856	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・5層			(6.6)	底部糸切り、体部直線的にやや開く、内外面轆轤目、堅致	精良		
857	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・5層			(6.7)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部直線的にやや開く、内面轆轤目	精良		
858	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・5層			(7.0)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部直線的にやや開く、内面轆轤目	精良		
859	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・5層			(7.4)	やや摩耗、底部糸切り、体部直線的に立ち上がる、内面轆轤目、黄白色	精良		
860	土器	坏・底部	3A	東端・5層・dNo.29			(6.4)	底部糸切り、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
861	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・6層・No.99～103			7.6	摩耗、底部糸切り、体部やや開く、底部厚い	精良		
862	土器	坏・底部	3A	東端・5層・d No.35			7.2	底部糸切り、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
863	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・d No.53～56			7.5	底部糸切り、円盤状の厚、体部開く、黄白色	精良		
864	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・dNo.60～63			(8.1)	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
865	土器	坏・底部	3A	東端・5層・d No.28			7.4	底部糸切り、体部やや開く	精良		
866	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・4層・d No.44～47			(5.6)	底部糸切り、箕子状圧痕、内面轆轤目、黄白色	精良		
867	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・d No.53～56			(7.3)	底部糸切り、体部短く立ち上がる、内面轆轤目	精良		
868	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・d No.51			7.6	摩耗、底部糸切り、体部やや開いて立ち上がる	精良		
869	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・d No.60～63			(7.4)	底部糸切り、体部開く	精良		
870	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・6層・No.99～103			(7.3)	摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
871	土器	坏・底部	3A	6層・dNo.96			7.6	底部糸切り、体部やや開く	精良		
872	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・5層			(8.0)	やや摩耗、底部糸切り後ナデ？、体部開く	砂粒少量		
873	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・4層・d No.44～47			(6.4)	摩耗、底部糸切り、体部開く、外面轆轤目	精良		
874	土器	坏・底部	3A	東端・5層・d No.29			(6.9)	底部糸切り、体部やや開く、内面轆轤目	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
875	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・d No.60～63			(8.4)	摩耗、体部やや開いて立ち上がる、内面轆轤目	精良		
876	土器	坏・底部	3A	東端・5層・d No.30			(7.1)	やや摩耗、底部糸切り、体部やや開く	精良		
877	土器	坏・底部	3A	東側部斜面・4層			(8.8)	大型、やや摩耗、底部糸切り、体部外傾？内面轆轤目	精良		
878	土器	羽釜・口縁	3A	東側部斜面・包含層1	(23.8)			口縁に低い鏝が付く、口唇内傾、体部外面斜タタキ	微砂粒多量	14C後半～15C前半	播磨
879	瓦質土器	鍋	3A	東側部斜面・5層No.57、6層No.97・98	19.4	9.0	(7.0)	口縁短く、丸底、口縁強いナデ	微砂粒多量	15C	土佐型
880	炆器	擂鉢	3A	西側部斜面・4層、斜面4層、東側部斜面5層	(35.8)	14.3	(11.4)	平底、口縁肥厚せず平坦、内面多条播目、内外面灰色	砂粒少量	14C前半	備前ⅢB期
881	炆器	甕・口縁	3A	東側部斜面・4層・d No.48	(55.2)			口縁折り返しくつつく、口唇端部摘みあがる内外面褐色	灰色、砂粒多量	15C中葉	常滑
882	土製品	土鍾	3A	東側部斜面・5層	長3.6	径1.3	重4.3	筒状	精良		
883	土製品	土鍾	3A	東側部斜面・5層	長(3.0)	径(1.2)	重(3.2)	筒状	精良		
884	土製品	土鍾	3A	東側部斜面・5層	長4.5	径1.3	重7.1	筒状	精良		
885	金属製品	鉄釘	3A	東側部斜面・5層・te No.23	長(3.0)	厚0.8		和釘、頭部折り曲げる、先端部欠損、断面四角	鉄		
886	金属製品	鉄釘	3A	東端・5層・teNo.33	長(6.2)	厚1.0		和釘、頭部折り曲げる、断面四角	鉄		
887	陶磁器	白磁皿・口縁	3A	サブトレ	(14.6)			口縁僅かに反る、口唇口剥ぎ	白色、精良	14C前半	Ⅸ類
888	陶磁器	白磁皿・底部	3A	バンク・包含層			(4.4)	輪高台、底裏無釉、乳白色の釉、貫入が入る	乳白色、精良	15C後半	白磁D類
889	陶磁器	白磁皿・底部	3A	2層			(7.4)	端反り、量付け無釉	白色、精良	16C	白磁皿E類
890	陶磁器	白磁八角坏・口縁	3A	3層	(7.9)			六角、口縁は反る、体部面取り状になる	乳白色、精良	15C後半	891同一か
891	陶磁器	白磁八角坏・底部	3A	西側斜面・4層			(3.6)	体部面取り状、下半は露胎、見込み目跡	乳白色、精良	15C後半	890同一か
892	陶磁器	青白磁無頸壺・口縁	3A	3層	(2.2)			胴部膨らみ、肩部に浮き彫りの文様、釉は薄い青白	白色、精良	12～13世紀	伝世品
893	陶磁器	青花皿・底部	3A	1層			(6.6)	量付け釉剥ぎ、内外面玉取り獅子	白色、精良	15C後半	染付皿B群
894	陶磁器	青花碗・口縁	3A	TR・上層	(16.0)			直線的に立ち上がる、口唇内界線、外面芭蕉葉文	白色、精良	15C後半	染付碗C群
895	陶磁器	青花碗・底部	3A	1層			4.9	高台、底裏無釉、外面及び見込み内に蛇の目の界線2条	灰色、精良	16C末～17C	中国産
896	陶磁器	青磁天目台・口縁	3A	包含層1	(9.8)			口縁内湾、無文	灰白色、精良	16C	
897	陶磁器	青磁皿・口縁	3A	東側部・4層、包含層3	(11.0)			体部丸味、口唇僅かに外反、見込み内僅かに段状になる、基筋底？、無文	灰白色、精良	15C後半	
898	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	6層・se No.12	(12.8)			蓮弁文	灰白色、精良	14C	
899	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	5層	(16.0)			鎬蓮弁文	灰白色、精良	13C後半	
900	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	包含層1	(14.1)			体部僅かに丸味、素口縁、外面雷文帯	灰白色、精良	14C後半～15C	C2類
901	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	5層	(14.6)			口縁僅かに丸味を持つ、無文	精良	14C末～15C前	D類
902	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	東側部斜面・包含層	(17.0)			口唇玉縁、無文、被熱	灰白色、精良	15C	D類
903	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	2層	(14.0)			口縁僅かに反る、無文	灰白色、精良	15C	
904	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	包含層1	(11.6)			体部僅かに丸味、素口縁、文様なし	灰白色、精良	15C後半	E類
905	陶磁器	青磁碗・口縁	3A	5層	(20.2)			口縁僅かに反る、外面雷文帯崩れ	精良	15C	C3類
906	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3A	m103	(16.2)			外面蓮弁文	灰色、精良	14C後半～15C前半	
907	陶磁器	青磁碗・底部	3A	2層			(6.1)	付け高台、絵付け不明、雷文？	灰色、精良	15C	
908	陶磁器	青磁碗・底部	3A	表土			(5.6)	底裏蛇の目状に釉剥ぎ、見込み内文様、陰刻花文	灰白色、精良	不明	
909	陶磁器	青磁碗・底部	3A	5層・m101			(4.6)	底裏無釉、無文？	灰色、精良	15C前半	D類
910	陶磁器	青磁盤・口縁	3A	包含層	(20.6)			口縁折れ、口唇は上に摘み出す、内面縦格子の文様	灰白色、精良	13C末～14C前半	



第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
911	陶磁器	青磁盤・口縁	3A	3層、東側部・斜面包含層1	(20.0)			口縁折れるように屈曲し、端部摘みあげる、丸鑿による内面多条の幅広の条の文様	灰色、精良	15C前半	
912	陶磁器	青磁盤・底部	3A	斜面・a109			7.4	輪高台、底裏無釉、内面蛇の目に釉剥ぎ、緑色の釉が厚くかかる、被熱	淡赤褐色、白色微鈹物粒少量、精良		
913	陶磁器	小坏	3A	北側部・包含層2	(7.4)	1.7	(4.0)	底部糸切り、口縁折縁状に広がる、内面緑色の灰釉、外面露胎、合子蓋?	乳白色、精良		瀬戸
914	陶磁器	四耳壺・底部	3A	4層			(9.2)	やや脚の長い高台、外面に灰釉か	灰白色、精良		瀬戸
915	土器	小皿	3A	5層	(5.6)	1.2	(4.8)	底部糸切り、体部短く立ち上がる、浅い	精良		
916	土器	小皿	3A	6層	(6.0)	1.1	(5.0)	摩耗、体部短く開く、浅い	精良		
917	土器	小皿	3A	6層	(7.2)	1.2	(6.4)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く、浅い	精良		
918	土器	小皿	3A	4層	(6.7)	1.4	(5.6)	底部糸切り、体部短く開く、浅い、堅致、赤褐色	精良		
919	土器	小皿	3A	4層	(7.6)	1.3	(5.6)	摩耗、体部短く立ち上がる、浅い	精良		
920	土器	小皿	3A	6層	(6.3)	1.5	(5.0)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く、浅い	精良		
921	土器	小皿	3A	4層・d No.22	6.9	1.4	5.1	摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる、浅い	精良		
922	土器	小皿	3A	2層	(7.4)	1.4	(6.7)	摩耗、体部短く立ち上がる、浅い	精良		
923	土器	小皿	3A	3層	(6.0)	1.3	(5.3)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる、浅い	精良		
924	土器	小皿	3A	6層・d No.114	(6.5)	1.3	4.8	やや摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
925	土器	小皿	3A	東側部・5層	(7.4)	1.4	(6.0)	摩耗、体部短く開く、やや浅い	精良		
926	土器	小皿	3A	6層	(7.0)	0.9	(6.4)	摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる、やや浅い	精良		
927	土器	小皿	3A	5層	(6.2)	1.4	5.2	底部糸切り、体部短く開く、やや浅い	精良		
928	土器	小皿	3A	6層	(7.2)	1.4	(6.1)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く、やや浅い	精良		
929	土器	小皿	3A	5層	(7.3)	1.1	(6.6)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる、やや浅い	精良		
930	土器	小皿	3A	4層・d No.24	(7.2)	1.4	4.9	底部糸切り、簧子状圧痕、体部短く立ち上がる、やや浅い、内面底出っ張る	精良		
931	土器	小皿	3A	2層	(6.9)	1.5	(5.4)	摩耗、体部短く立ち上がる、やや浅い、内面底出っ張る	精良		
932	土器	小皿	3A	4層	(8.0)	1.5	7.2	摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる、内面底出っ張る	精良		
933	土器	小皿	3A	3層	(6.2)	1.4	(4.4)	摩耗、体部短く開く	精良		
934	土器	小皿	3A	褐灰色土層	(6.8)	1.4	4.1	やや摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
935	土器	小皿	3A	斜面・a105	6.8	1.5	4.6	底部糸切り後篋削り、粗い、体部短く開く	精良		
936	土器	小皿	3A	3層	(7.6)	1.6	4.6	底部篋削り、体部短く開く	精良		
937	土器	小皿	3A	6層・d No.122	(7.3)	1.6	5.1	やや摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
938	土器	小皿	3A	東側部・5層	(7.8)	1.3	(6.0)	摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
939	土器	小皿	3A	炭化層	(9.0)	1.3	(7.5)	摩耗、底部糸切り、体部短く開く	精良		
940	土器	小皿	3A	5層	(6.6)	1.5	(5.6)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く外反気味	精良		
941	土器	小皿	3A	東側部・4層	(6.8)	1.6	(5.0)	摩耗、底部糸切り、体部短く外反気味	精良		
942	土器	小皿	3A	5層	6.9	1.7	5.3	底部糸切り、ナデ、体部短く外反気味	精良		
943	土器	小皿	3A	5層	(7.6)	1.7	(6.4)	底部糸切り、体部短く外反気味	精良		
944	土器	小皿	3A	西側部・4層	(7.4)	1.6	(5.8)	底部糸切り、体部短く外反気味	精良		
945	土器	小皿	3A	5層	6.5	1.5	5.2	やや摩耗、底部糸切り?、体部短く外反気味	精良		
946	土器	小皿	3A	5層	(7.6)	1.4	(6.0)	底部不明、体部短く外反気味	精良		
947	土器	小皿	3A	東側部・5層	(7.1)	1.6	(6.2)	摩耗、底部糸切り?、体部短く外反気味	精良		
948	土器	小皿	3A	東側部・5層	(7.4)	1.8	(6.0)	摩耗、体部短く外反気味	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
949	土器	小皿	3A	5層	(7.4)	2.0	(6.1)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く外反気味、黄白色	精良		
950	土器	小皿	3A	5層・d No.34	6.8	1.7	5.4	やや摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
951	土器	小皿	3A	5層・d No.25	6.7	1.8	5.8	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部短く外反気味	精良		
952	土器	小皿	3A	5層	(6.2)	1.7	(5.1)	底部糸切り、体部短く直立気味	精良		
953	土器	小皿	3A	4層	(6.2)	1.5	(5.4)	摩耗、底部糸切り、体部短く直立気味、黄白色	精良		
954	土器	小皿	3A	5層	(5.8)	2.0	(5.3)	底部糸切り、体部短く直立気味	精良		
955	土器	小皿	3A	5層	(7.0)	1.6	(6.0)	摩耗、底部糸切り、体部短く直立気味	精良		
956	土器	小皿	3A	TR・下層	(6.8)	1.9	6.1	底部糸切り、箕子状圧痕、体部短く直立気味	精良		
957	土器	小皿	3A	5層・d No.27	6.3	1.8	5.9	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部短く立ち上がる	精良		
958	土器	小皿	3A	5層	(7.4)	1.6	(5.8)	底部糸切り、体部短く丸味	精良		
959	土器	小皿	3A	4層	(6.8)	1.5	(5.2)	底部糸切り、整形粗い、体部短く丸味	精良		
960	土器	小皿	3A	TR・下層	(6.8)	1.5	(5.6)	摩耗、底部糸切り?、体部短く丸味	精良		
961	土器	小皿	3A	6層	6.6	1.5	5.3	底部糸切り、体部短く丸味	精良		
962	土器	小皿	3A	5層	7.1	1.8	4.6	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部短く丸味	精良		
963	土器	小皿	3A	5層	(6.3)	1.6	(4.5)	摩耗、底部糸切り、体部短く丸味	精良		
964	土器	小皿	3A	4層	(5.7)	1.6	(3.9)	摩耗、体部短く丸味	精良		
965	土器	小皿	3A	5層	(6.6)	1.6	5.0	やや摩耗、底部糸切り、体部短く丸味	精良		
966	土器	小皿	3A	5層	(7.9)	1.9	(6.0)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く丸味、黄白色	精良		
967	土器	小皿	3A	5層	6.6	1.6	5.4	やや摩耗、底部糸切り、体部短く丸味	精良		
968	土器	小皿	3A	5層	(6.2)	1.5	(4.4)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く丸味	精良		
969	土器	小皿	3A	包含層3	(7.4)	1.6	(5.8)	摩耗、底部糸切り?、体部浅く丸味	精良		
970	土器	小皿	3A	4層	(7.1)	1.1	(5.7)	摩耗、底部糸切り、体部浅く丸味	精良		
971	土器	小皿	3A	5層	(6.8)	1.3	4.6	底部糸切り、体部浅く丸味	精良		
972	土器	小皿	3A	5層	(6.6)	1.2	(4.7)	摩耗、底部糸切り?、体部浅く丸味	精良		
973	土器	小皿	3A	4層	(6.9)	1.4	(5.0)	摩耗、底部糸切り、体部浅く丸味	精良		
974	土器	小皿	3A	5層	(7.5)	1.5	(5.0)	摩耗、底部糸切り?、体部浅く丸味	精良		
975	土器	小皿	3A	2層	(8.7)	2.0	4.6	底部糸切り、箕子状圧痕、体部浅く丸味、外面弱い轆轤目、堅致	精良		
976	土器	小皿	3A	2層	(6.6)	1.7	(4.5)	摩耗、体部環状に開く、口縁僅かに反る	精良		
977	土器	小皿	3A	2層	(6.2)	2.1	(4.2)	底部糸切り、体部環状に開く、やや堅致	精良		
978	土器	小皿	3A	包含層	(7.6)	2.1	(4.4)	底部糸切り、体部環状に開く	精良		
979	土器	小皿・口縁	3A	3層	(7.4)			口縁短く立ち上がる、環状に開く	精良		
980	土器	小皿	3A	バンク・包含層	(5.4)	1.6	(4.8)	摩耗、底部糸切り?、体部短く立ち上がる	精良		
981	土器	小皿・底部	3A				(4.2)	摩耗、体部開く	精良		
982	土器	小皿・底部	3A	包含層			(4.4)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く	精良		
983	土器	小皿・底部	3A	2層			(3.8)	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
984	土器	小皿・底部	3A	2層			(4.2)	底部糸切り、やや体部開く	精良		
985	土器	小皿・底部	3A	包含層2			(4.0)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く	精良		
986	土器	小皿・底部	3A	2層			(3.5)	底部糸切り、体部開く、やや堅致	精良		
987	土器	小皿・底部	3A	東側部・5層			(4.2)	摩耗、体部短く開く	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
988	土器	小皿・底部	3A	6層・d No.116			(5.4)	底部糸切り、箕子状圧痕	精良		
989	土器	小皿・底部	3A	6層・d No.118			5.5	摩耗、体部開く?	精良		
990	土器	小皿・底部	3A	5層			(4.4)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
991	土器	坏	3A	斜面・a106	10.4	2.8	5.5	摩耗、底部糸切り?、体部皿状で開く	精良		
992	土器	坏	3A	斜面・a102、103	(12.2)	2.8	6.2	摩耗、底部糸切り?、箕子状圧痕、体部皿状で開く	精良		
993	土器	坏	3A	斜面・a104、106、108	11.5	3.1	5.7	摩耗、底部糸切り?、体部皿状で開く	精良		
994	土器	坏	3A	包含層3	(11.3)	3.0	(6.2)	摩耗、底部糸切り?、箕子状圧痕?、内面弱い轆轤目、体部皿状で開く	精良		
995	土器	坏	3A	3層	(12.3)	3.5	(5.0)	底部糸切り、体部開く	精良		
996	土器	坏	3A	斜面・a103	12.2	3.4	5.8	摩耗、底部糸切り?、体部皿状で開く	精良		
997	土器	坏	3A	6層・dNo.115	(10.6)	2.6	8.2	摩耗、底部糸切り、体部直線的に外傾、黄白色	精良		
998	土器	坏	3A	TR5・包含層5	(10.6)	3.3	(8.2)	摩耗、底部糸切り、体部直線的に外傾、内面轆轤目	精良		
999	土器	坏	3A	黄橙色粘礫土層	(11.6)	3.5	(6.6)	摩耗、体部直線的に外傾	精良		
1000	土器	坏	3A	3層	(11.4)	3.0	(8.0)	体部直線的に外傾	精良		
1001	土器	坏	3A	東側部・5層	(12.0)	3.1	(8.4)	底部糸切り、体部直線的にやや開く、堅致	精良		
1002	土器	坏・口縁	3A	5層	(8.0)			体部丸味、口縁直立、外面落剥、黄褐色	砂粒微量		
1003	土器	坏	3A	5層	(10.5)	3.1	(5.4)	底部糸切り、体部丸味、口縁直立、外面轆轤目、器肉薄い、黄白色	精良		
1004	土器	坏・口縁	3A	東側部・4層	(11.4)			体部丸味、口縁直立、内面轆轤目	精良		
1005	土器	坏	3A	6層	(11.2)	3.7	6.6	摩耗、底部糸切り、体部僅かに丸味、内湾気味	精良		
1006	土器	坏	3A	炭化層	(12.0)	4.0	(8.2)	摩耗、底部糸切り?、体部僅かに丸味、内湾気味	精良		
1007	土器	坏・口縁	3A	5層	(11.3)			体部やや丸み、内外面轆轤目、堅致	精良		
1008	土器	坏	3A	6層	11.9	4.0	5.7	摩耗、底部糸切り、体部僅かに丸味、内湾気味	精良		
1009	土器	坏	3A	5層・d No.34	(12.0)	3.7	(7.6)	やや摩耗、底部糸切り、やや体部僅かに丸味、内湾気味、内面轆轤目	精良		
1010	土器	坏	3A	炭化層	(12.0)	4.4	(8.3)	摩耗、底部糸切り、体部僅かに丸味、内湾気味	精良		
1011	土器	坏	3A	6層	(11.0)	4.7	(6.9)	摩耗、底部糸切り?、体部僅かに丸味、内湾気味	精良		
1012	土器	坏	3A	黒灰粘土層	(12.2)	4.4	(7.6)	底部糸切り、体部僅かに丸味、内湾気味、内面轆轤目	精良		
1013	土器	坏・口縁	3A	サブトレ3	(13.2)			体部僅かに丸味、内湾気味	精良		
1014	土器	坏	3A	6層	(12.2)	3.8	(8.6)	摩耗、底部糸切り?、体部僅かに丸味、内湾気味	精良		
1015	土器	坏	3A	東側部・5層	(9.7)	4.1	(6.3)	摩耗、体部僅かに外傾気味に立ち上がる	精良		
1016	土器	坏	3A	包含層2	(10.6)	3.6	(6.8)	底部糸切り、体部僅かに丸味、内湾気味、内面強い轆轤目、堅致	精良		
1017	土器	坏・底部	3A	4層・d No.23	(11.4)	4.1	6.6	摩耗、体部開く、内面轆轤目	精良		
1018	土器	坏	3A	東側部・5層	(9.6)	3.4	(7.4)	底部糸切り、体部直線的に立ち上がる、内面轆轤目	精良		
1019	土器	坏	3A	6層	(11.4)	3.8	(8.2)	底部糸切り、体部直線的に立ち上がる、口縁僅かに外傾、黄白色	精良		
1020	土器	坏	3A	東側部・4層	(10.4)	3.6	(7.6)	底部糸切り、体部直線的に立ち上がる、堅致	精良		
1021	土器	坏	3A	5層	(10.3)	4.4	7.3	やや摩耗、底部糸切り、体部直線的に立ち上がる、黄白色	精良		
1022	土器	坏	3A	5層	(11.7)	3.7	6.6	底部糸切り、箕子状圧痕、体部直線的にやや開く、内外面轆轤目	精良		
1023	土器	坏	3A	6層・d No.117	(11.8)	3.7	(8.4)	やや摩耗、底部糸切り、体部僅かに外反気味	精良		
1024	土器	坏	3A	6層・d No.119	(11.0)	4.2	6.5	摩耗、底部糸切り、体部僅かに外反気味	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1025	土器	坏	3A	6層	(11.6)	3.1	(6.6)	底部糸切り、口縁僅かに外反、黄白色	精良		
1026	土器	坏	3A	東側部・5層	(10.5)	3.5	(7.0)	底部糸切り、体部外反気味、堅致	精良		
1027	土器	坏	3A	5層・d No.26	(11.6)	4.4	(6.6)	やや摩耗、底部糸切り、体部外反気味、内面強い轆轤目	精良		
1028	土器	坏・底部	3A	4層			(5.8)	底部糸切り、体部開く、堅致、内外面轆轤、赤褐色	精良		
1029	土器	坏・底部	3A	5層			6.0	底部糸切り、箕子状圧痕?、体部開く、内面轆轤目	精良		
1030	土器	坏・底部	3A	5層			(8.4)	底部糸切り、体部開く	精良		
1031	土器	坏・底部	3A	TR5			(5.4)	底部糸切り、体部開く、外面轆轤目	精良		
1032	土器	坏・底部	3A	5層・d No.36			6.0	底部糸切り、体部開く	精良		
1033	土器	坏・底部	3A	2層			5.1	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、堅致	精良		
1034	土器	坏・底部	3A	6層			(6.2)	底部糸切り、体部開く、外面強い轆轤目、器肉やや薄い、黄白色	精良		
1035	土器	坏・底部	3A	TR5			(6.0)	底部糸切り、体部開く、外面轆轤目	精良		
1036	土器	坏・底部	3A	炭化層			(7.6)	摩耗、底部糸切り、体部開く、外面轆轤目	精良		
1037	土器	坏・底部	3A	東側部・4層			(7.1)	底部糸切り、箕子状圧痕、やや器肉薄い、黄白色	精良		
1038	土器	坏・底部	3A	石列・サブトレ1			(7.8)	底部糸切り、体部開く、外面轆轤目、黄白色	精良		
1039	土器	坏・底部	3A	5層			(8.6)	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く	精良		
1040	土器	坏・底部	3A	東側部・4層			(7.0)	底部糸切り、体部開く、内外面轆轤目、黄白色	精良		
1041	土器	坏・底部	3A	東側部・5層			6.0	摩耗、底部糸切り、体部開く、外面轆轤目	精良		
1042	土器	坏・底部	3A	2層			(4.1)	摩耗、箕子状圧痕、体部開く	精良		
1043	土器	坏・底部	3A	サブトレ2			(6.5)	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
1044	土器	坏・底部	3A	斜面・a101			5.5	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
1045	土器	坏・底部	3A	6層・No.120			(6.8)	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
1046	土器	坏・底部	3A	斜面・a108			(6.0)	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
1047	土器	坏・底部	3A	2層			(4.8)	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
1048	土器	坏・底部	3A	斜面・a105			5.6	摩耗、底部糸切り、粗い、体部開く	精良		
1049	土器	坏・底部	3A	斜面・a107			5.6	摩耗、底部糸切り?、箕子状圧痕?、体部開く	精良		
1050	土器	坏・底部	3A	5層・m102			5.5	摩耗、体部開く、底部端出っ張る	精良		
1051	土器	坏・底部	3A	炭化層			(7.2)	摩耗、底部糸切り、体部開く、底部端出っ張る、内外面轆轤目	精良		
1052	土器	坏・底部	3A	包含層3			(6.5)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、底部端出っ張る	精良		
1053	土器	坏・底部	3A	3層			(6.6)	摩耗、底部糸切り?、やや体部開く、内面轆轤目	精良		
1054	土器	坏・底部	3A	5層			(7.8)	底部糸切り、体部丸味	精良		
1055	土器	坏・底部	3A	4層			(8.0)	摩耗、底部糸切り、体部丸味、内面轆轤目、黄白色	精良		
1056	土器	坏・底部	3A				(5.7)	摩耗、底部糸切り、体部丸味	精良		
1057	土器	坏・底部	3A	東側部・5層			(6.0)	摩耗、体部丸味	精良		
1058	土器	坏・底部	3A	6層			(7.0)	摩耗、底部糸切り、体部丸味	精良		
1059	土器	坏・底部	3A	5層・d No.25			(6.1)	やや摩耗、底部糸切り、体部丸味、内面轆轤目	精良		
1060	土器	坏・底部	3A	東側部・5層			(8.0)	底部糸切り、体部丸味	精良		
1061	土器	坏・底部	3A	6層			7.1	摩耗、体部丸味	精良		
1062	土器	坏	3A	4層・d No.21			7.1	大型、底部糸切り、体部僅かに丸味、内湾気味、内面轆轤目	精良		
1063	土器	坏・底部	3A	5層・d No.64			(7.2)	摩耗、底部糸切り、やや体部丸味	精良		
1064	土器	坏・底部	3A	3層			(8.0)	底部糸切り、体部丸味、堅致	精良		
1065	土器	坏・底部	3A	5層			(6.3)	底部糸切り、体部丸味、内面轆轤目	精良		
1066	土器	坏・底部	3A	3層			(8.6)	底部篋切り、体部丸味、内面轆轤目	精良		
1067	土器	坏・底部	3A	5層			6.5	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや直立	精良		
1068	土器	坏・底部	3A	4層・d No.58			(5.3)	摩耗、体部やや直立、器肉厚い	精良		
1069	土器	坏・底部	3A	6層・No.122			(7.2)	底部糸切り、体部やや直立、内面轆轤目	精良		

第Ⅱ章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1070	土器	坏・底部	3A	東側部・5層			7.0	摩耗、底部糸切り、体部やや直立	精良		
1071	土器	坏・底部	3A	5層			(6.3)	やや摩耗、底部糸切り、体部やや直立、内面轆轤目	精良		
1072	土器	坏・底部	3A	4層・d No59			6.8	底部糸切り、体部やや外傾気味に立ち上がる、内面轆轤目	精良		
1073	土器	坏・底部	3A	東側部・5層			(8.0)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや直立	精良		
1074	土器	坏・底部	3A	4層			(7.4)	やや摩耗、底部糸切り、体部やや直立、内面轆轤目	精良		
1075	土器	坏・底部	3A	5層・d No37			8.0	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや直立	精良		
1076	土器	坏・底部	3A	6層			(8.0)	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや直立、内面轆轤目	精良		
1077	土器	坏・底部	3A	包含層3			(8.0)	摩耗、底部糸切り?、体部やや直立	精良		
1078	土器	坏・底部	3A	炭化層			(7.4)	底部糸切り、体部直立	精良		
1079	土器	坏・底部	3A	包含層3			(7.2)	やや摩耗、底部糸切り、体部直立	精良		
1080	土器	坏・底部	3A	炭化層			(7.1)	底部糸切り、体部直立	精良		
1081	土器	坏・底部	3A	5層			(6.8)	底部糸切り、体部直立、内面轆轤目	精良		
1082	土器	坏・底部	3A	東側部・5層			7.8	摩耗、体部直立	精良		
1083	土器	坏・底部	3A	炭化層			(7.5)	底部糸切り、体部直立、内面轆轤目	精良		
1084	土器	坏・底部	3A	炭化層			7.5	摩耗、底部糸切り、体部直立、内面轆轤目	精良		
1085	土器	坏・底部	3A	石列・サブトレ1			(6.8)	摩耗、底部糸切り?、体部直立	精良		
1086	土器	坏・底部	3A	5層			(6.8)	やや摩耗、底部糸切り、体部直立	精良		
1087	土器	坏・底部	3A	包含層3			(7.8)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部直立、堅致	精良		
1088	土器	坏・底部	3A	東側部・包含層			(5.4)	やや摩耗、底部糸切り、体部やや開いて立ち上がる	精良		
1089	土器	坏・底部	3A	東側部・5層			(6.8)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
1090	土器	坏・底部	3A	3層			(5.8)	底部糸切り、切り離し後の整形粗い、箕子状圧痕、体部開く、堅致	精良		
1091	土器	坏・底部	3A	斜面・a110			(5.9)	摩耗、底部糸切り、整形粗い、体部開く	精良		
1092	土器	坏・底部	3A	3層			4.5	やや摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1093	土器	鍋・口縁	3A	最下層・m101	(27.8)			口縁屈曲、口唇摘みあげる、内面刷毛、外面不明、赤褐色	砂粒多量	14C	紀伊
1094	瓦質土器	羽釜・口縁	3A	表土	銚径 (24.1)			大きな銚が付く、径3mmの円孔、刷毛整形	微砂粒少量、精良	15C	河内
1095	瓦質土器	羽釜・口縁	3A	黄橙色粘礫土層	(25.8)			口縁下大きな銚、内外面黒色	微白色鈹物粒少量	15C前半	河内
1096	瓦質土器	鍋・口縁	3A	5層				口縁外反、口唇平坦、外面煤付着	砂粒多量	14C中葉~	土佐型
1097	瓦質土器	鉢・口縁	3A	6層	(24.8)			素口縁、外傾する、内外面横ナデ、外面黒味を帯びる	砂粒多量	14C	
1098	瓦質土器	風炉・脚部	3A	東側部・4層	長 (5.5)	幅 (8.0)	厚4.5	獸脚、右側部は欠損	微砂粒少量	15C	
1099	炆器	捏ね鉢・口縁	3A	5層	(24.0)			口縁肥厚、口縁黒灰色、他は灰白色	白色鈹物粒少量	13C後半	東播磨Ⅲ期
1100	炆器	捏ね鉢・口縁	3A	6層	(24.0)			口縁肥厚、口縁黒色、他は灰白色	砂粒少量	13C後半	東播磨Ⅲ期
1101	炆器	捏ね鉢・口縁	3A	6層・d No121	(29.6)			口縁肥厚、口縁黒灰色、他は灰白色	灰色、砂粒少量	13C後半	東播磨Ⅲ期
1102	炆器	捏ね鉢・口縁	3A	5層	(25.6)			口縁肥厚、口縁黒色、他は灰白色	白色鈹物粒少量	13C後半	東播磨
1103	炆器	槽鉢・口縁	3A	斜面			(11.6)	多条の擦り目、横位にも沈線状に走る、積み上げ痕か、灰黒色	砂粒少量	15C?	備前
1104	炆器	壺・口縁	3A	包含層1	(31.4)			四耳壺?、口唇玉縁、肩部張る、外面自然釉、内面灰色	砂粒少量	15C	備前?
1105	炆器	壺・底部	3A	最下層・m103			(17.0)	平底、ナデ、黒灰色	砂粒少量		備前
1106	炆器	甕・肩部	3A	斜面・b25				肩部に押印、菊花、扇子、内面粗いナデ	白色鈹物粒、砂粒多量	13C後半	常滑
1107	土製品	土鍾	3A	2層		径 (1.1)	重 (1.6)	筒状	精良		
1108	土製品	土鍾	3A	5層		径 (1.1)	重 (2.4)	筒状	精良		
1109	土製品	土鍾	3A	黄橙色粘礫土層		径1.1	重 (4.6)	筒状	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1110	土製品	土錘	3A	2層			径1.2 重(2.9)	筒状	精良		
1111	土製品	土錘	3A	2層			径1.2 重(5.2)	筒状	精良		
1112	土製品	土錘	3A	5層	長4.3		径1.2 重4.7	筒状	精良		
1113	土製品	土錘	3A	2層			径1.3 重(3.9)	筒状	精良		
1114	土製品	土錘	3A	4層			径1.3 重(5.7)	筒状	精良		
1115	土製品	土錘	3A	5層	長(4.7)		径1.3 重(6.8)	筒状	精良		
1116	土製品	土錘	3A	5層	長5.3		径1.3 重7.4	筒状	精良		
1117	土製品	土錘	3A	5層	長4.4		径1.4 重(6.6)	筒状	精良		
1118	土製品	土錘	3A	5層	長(4.9)		径1.4 重(7.5)	筒状	精良		
1119	土製品	土錘	3A	5層	長4.3		径1.4 重6.7	筒状	精良		
1120	土製品	土錘	3A	5層			径1.2 重(2.9)	筒状	精良		
1121	土製品	土錘	3A	2層			径1.5 重(5.1)	筒状	精良		
1122	土製品	土錘	3A	3層			径1.5 重(6.1)	筒状、やや大型	精良		
1123	土製品	土錘	3A	5層	長(4.2)		径1.6 重(8.4)	筒状	精良		
1124	金属製品	銅碗	3A	3層・16-1	(8.0)	3.3	(5.4)	口唇内に突出、底中央に円孔、単なる破損の可能性もある	銅		
1125	金属製品	刀子?	3A	5層・te No.16	長(4.3)	厚0.6		頭部が僅かに幅広、先端部欠損、断面扁平	鉄		
1126	金属製品	鉄釘	3A	6層・te No.24	長(7.6)	厚0.6		和釘、頭部折り曲げる、先端部曲る、長め、断面四角	鉄		
1127	金属製品	鉄釘	3A	5層・te No.12	長5.5	厚1.2		和釘、頭部折り曲げる、断面四角	鉄		
1128	金属製品	鉄釘	3A	5層・te No.17	長(4.9)	厚0.9		和釘、頭部折り曲げる、先端部欠損、断面四角	鉄		
1129	金属製品	鉄釘	3A	6層	長4.7	厚1.0		和釘、頭部折り曲げる、断面四角	鉄		
1130	金属製品	鉄釘	3A	包含層3	長(4.7)	厚0.8		和釘、頭部折り曲げる、断面四角	鉄		
1131	金属製品	鉄釘	3A		長(3.0)	厚0.8		和釘、頭部折り曲げる、先端部欠損、断面やや扁平	鉄		
1132	金属製品	鉄釘	3A	5層	長(2.0)	厚0.9		和釘、頭部丸、断面四角	鉄		
1133	金属製品	鉄釘	3A	3層・te No.10	長(3.2)	厚0.7		和釘、頭部折り曲げる、断面四角	鉄		
1134	金属製品	鉄釘	3A		長(5.4)	厚1.0		和釘、頭部折り曲げる、先端部欠損、断面やや扁平	鉄		
1135	金属製品	鉄釘	3A	5層・te No.14	長5.8	厚0.8		和釘、頭部欠損、先端部曲る、断面やや扁平	鉄		
1136	金属製品	鉄釘	3A	3層	長(3.7)	厚0.7		和釘、断面四角	鉄		
1137	金属製品	鉄釘	3A	3層	長(3.8)	厚1.1		和釘、断面四角	鉄		
1138	金属製品	鉄釘	3A	6層	長(3.1)	厚0.8		和釘、両端欠損、断面四角	鉄		
1139	金属製品	鉄釘	3A	3層	長(3.4)	厚0.7		和釘、頭部欠損、断面四角	鉄		
1140	金属製品	鉄釘	3A	5層・te No.11	長(3.9)	厚0.8		和釘、両端部欠損、断面四角	鉄		
1141	瓦	軒丸瓦	3A	5層・No.91~97			厚1.8	珠文、三つ巴か	精良		
1142	瓦	丸瓦	3A	1層	長(15.0)	幅(11.3)	厚3.0	凸面縄叩き後ナデ、凹面布目、ループ紐吊り痕	精良		
1143	瓦	丸瓦	3A	斜面	長(11.2)	幅(11.0)	厚2.3	凸面縄目叩き、ナデ、凹面布目	精良		
1144	瓦	丸瓦	3A	北側部・包含層3	長(8.1)	幅(7.9)	厚2.2	凹面布目	精良		
1145	瓦	平瓦	3A	北側部・包含層3・k53	長(17.2)	幅(13.6)	厚2.0	凸面布目	精良		
1146	瓦	平瓦	3A		長(17.0)	幅(15.1)	厚2.3	凸面布目、凹面離れ砂	精良		
1147	瓦	平瓦	3A	3層	長(16.1)	幅(15.8)	厚2.1	両面ナデ	精良		
1148	瓦	平瓦	3A	TP・中、下層	長(9.2)	幅(10.0)	厚2.3	釘穴	精良		
1149	瓦	平瓦	3A	m101	長(13.7)	幅(14.4)	厚2.4	凸面布目	精良		
1150	瓦	役瓦	3A	斜面・包含層2	長(6.3)	幅(7.3)	厚2.8	三角形の丸瓦、降り棟脇に使用したもののか?、凸面縄目叩き痕	精良		
1151	石製品	砥石	3A	3層	長(3.9)	幅(3.1)	厚0.7	厚みが無い、扁平、表面極僅かに窪む	凝灰岩?		
1152	石製品	砥石	3A	黄橙色粘礫土層	長(3.6)	幅3.1	厚0.7	小型、両側縁・先端部擦り切り、表裏面擦痕	珪質頁岩?		
1153	石製品	砥石	3A	サブトレ3	長(8.0)	幅3.4	厚2.8	長方形、両端部以外を使用、擦痕	砂岩?		
1154	石製品	磨石	3A	5層	長5.5	幅5.4	厚3.1	裏面やや平、他は丸味、部分的に摩耗する	軽石		
1155	石製品	燧石	3A	5層	長3.1	幅2.5	厚1.2	両極打法、2側面断面	チャート		

## 第7節 3B区

### 概要

3区の中央部は3B区に相当し、やや遺構は少なく、北側部分で壁が焼けた土坑 (SK1)、礎石建物跡と思われる配石を検出しているものの、余り明確な配列は確認できていない。北側部の傾斜地では瓦廃棄集中箇所 (3B瓦溜り) を検出した。細片が多く、80点程の瓦が纏まって出土している。

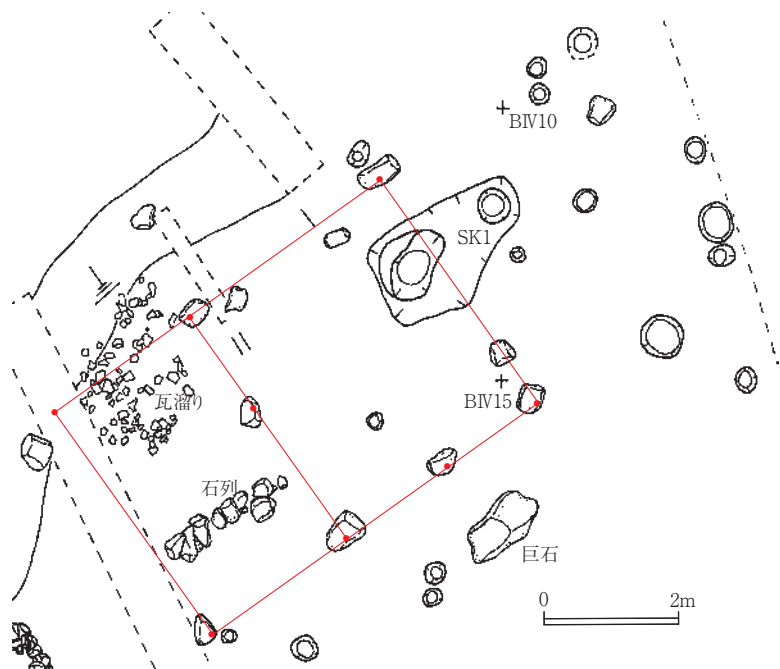
遺物は14Cから15C代を中心として、前後の時期のものが出土している。大溝SD2を調査区西端で検出しているが、別項で取り上げる (第Ⅱ章第11節)。SD2は本調査区でも最も古い時期に相当する。また本遺跡内でも最古段階のものである。

#### (1) 3B礎石建物跡 (第75図)

3B区の北側縁辺部、BIV 9・13～15グリッドに平らな礫が数個出土している。多量の礫の中に混じって出土しており、明確に礎石とは断言できないものの、ある程度の間隔で並ぶことから礎石建物跡の可能性はある。

検出した礫は7石で、北西部は欠落している。南列は4石で全長6.1m、間隔は不規則で西から2.5m、1.9m、1.7mである。北列の全長は不明で、残存している間隔は3.6mである。東列は4.1mで、中央部列は1.7m、2.4mである。

本遺構に伴う遺物は不明であるため、時期は判然としない。しかし周辺域の状況からして14Cから15C代と考えられる。



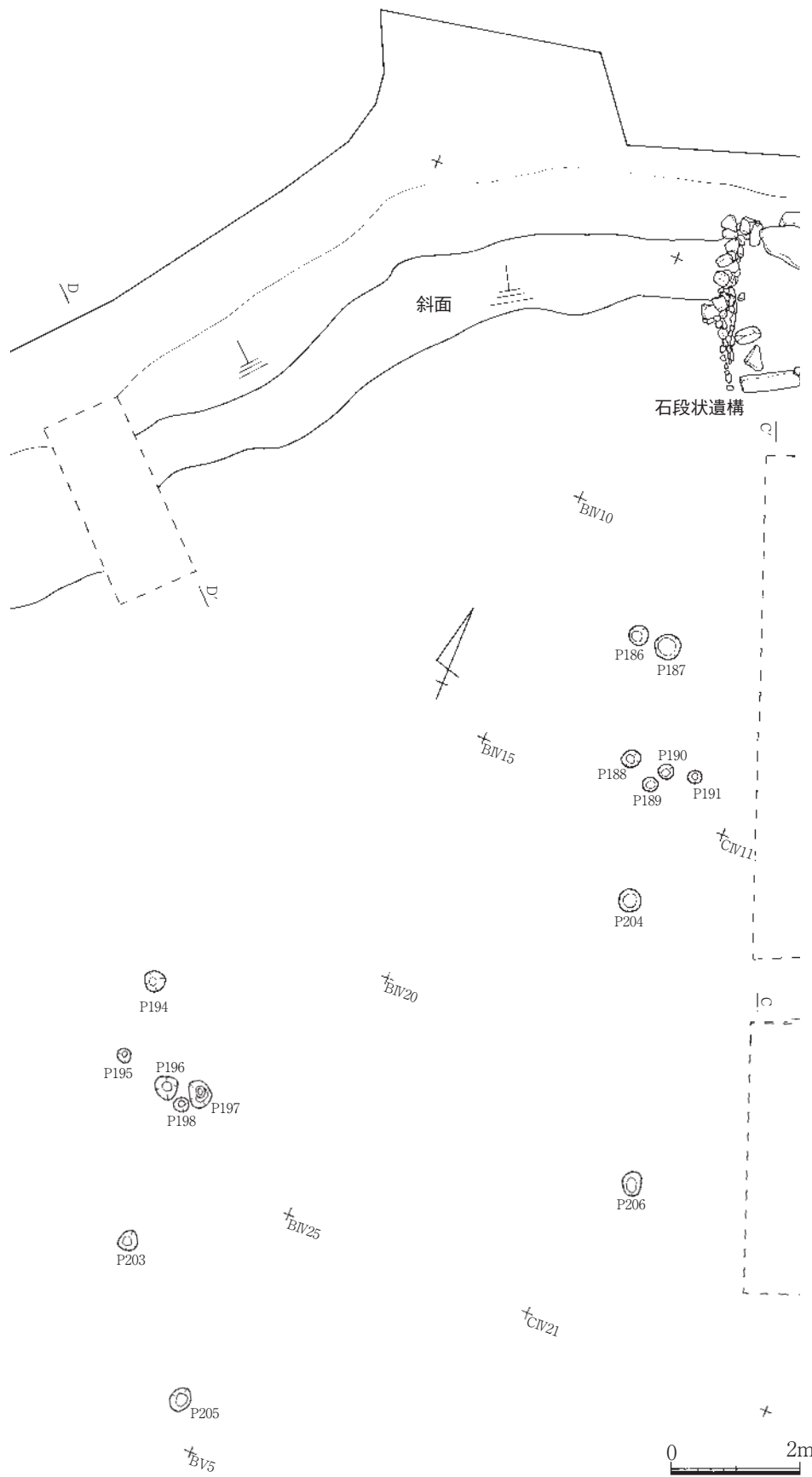
第75図 3B区礎石建物跡

#### (2) 3B瓦溜り (第78図、第79、80図1156～1176)

3B区の北側斜面地BIV 8・13グリッドで検出した。約2.5m×2mの範囲に瓦破片が約76点、平面的に出土している。

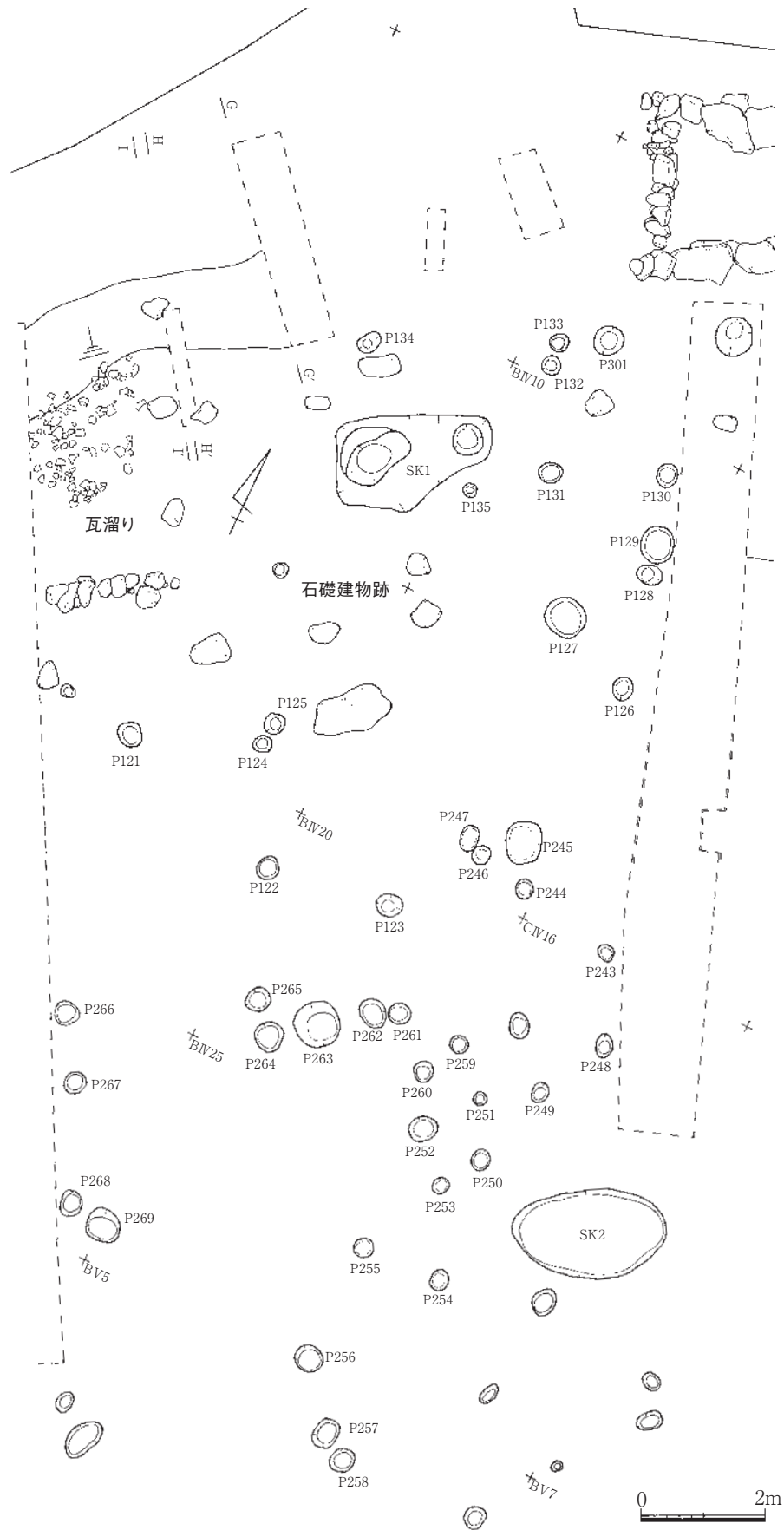
出土遺物は1156から1176で、丸瓦は1156から1159である。1156、1157、1159の凹面には紐吊り痕が残る。1158の凹面には布目痕が残る。

平瓦は1160から1176で、両面が離れ砂になるものが多い。また自然鉄分の沈着したものが多く認められる。

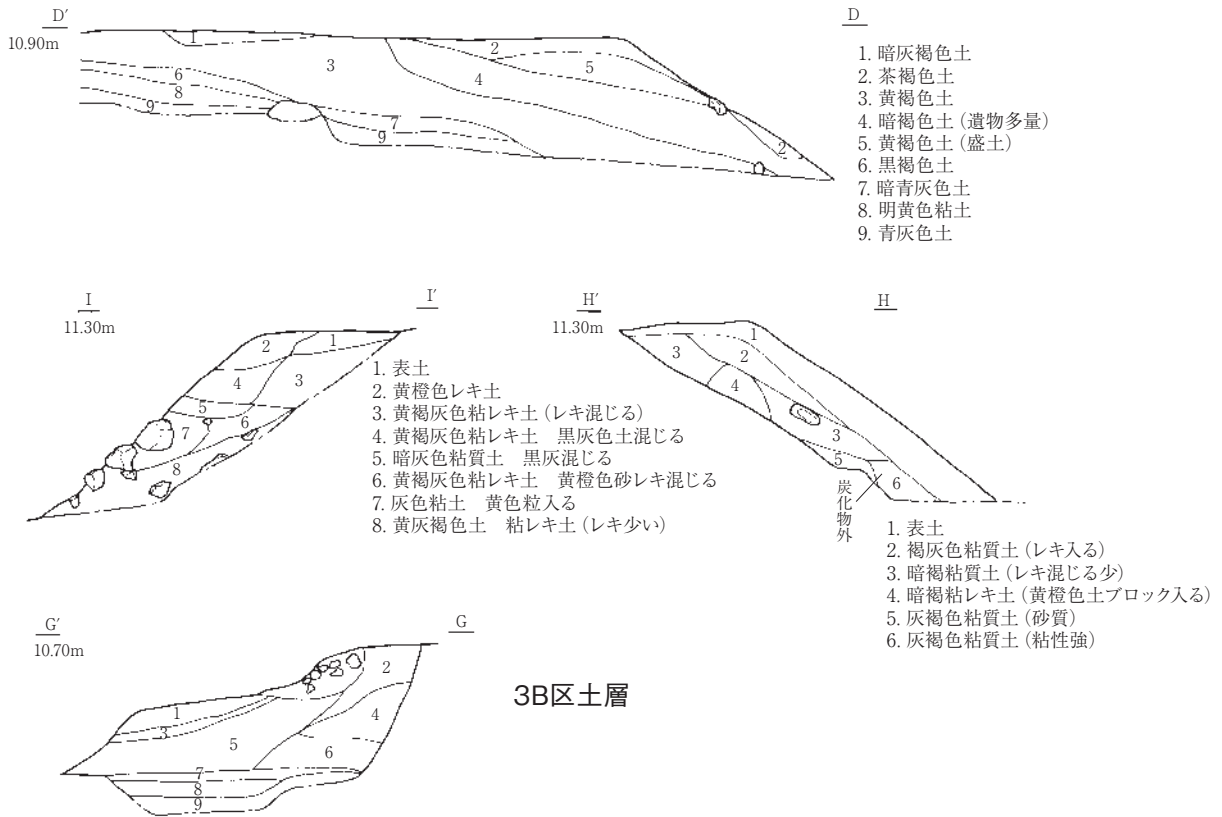


第76図 3B区上面遺構配置図

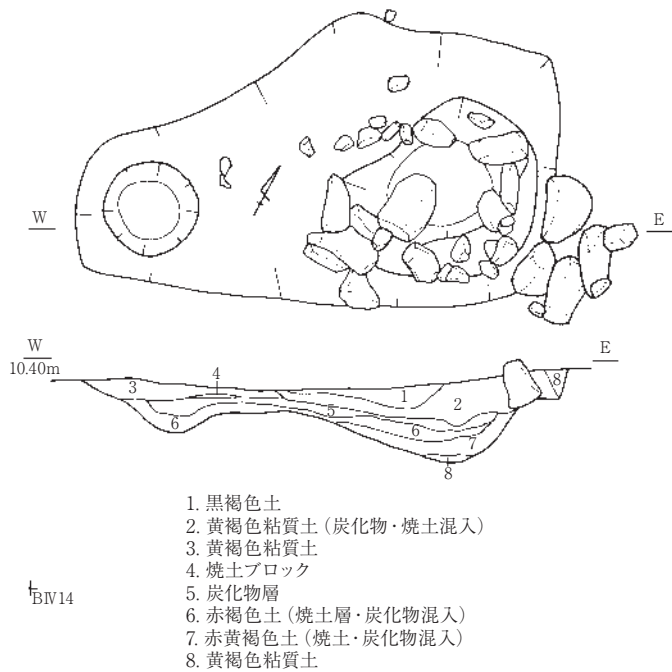
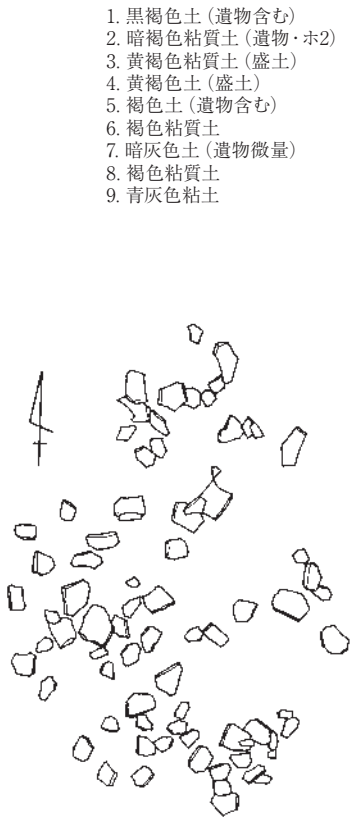




第77図 3B区上面遺構配置図



3B区土層



BIIV14

SK1



第78図 3B区土層・SK1・瓦溜り

**(3) 3B土坑 (第78図、第80図1177)**

土坑はSK1、2の2基のみである。

**SK1**

BIV 9グリッドに位置する。平面形は瓢箪形を呈し、両脇にピット状の落ち込みを有する。掘り方は2.5m×1.5m程、深さは東側の主体部側が0.4m、西側部が0.23mとなっている。西側主体部の落ち込みは径1.1mで周りを礫で囲う。壁は焼土で赤くなり、また礫も被熱する。東側部の落ち込みは径約0.5mである。

出土遺物は1177の土器坏が1点のみ出土したに留まる。底部は回転糸切りで体部が開き、内面が赤褐色を呈する。本土坑に伴うかどうかは判然としない。

時期は特定できないものの、15C代の所産と考えられる。機能については、壁が強い被熱を受けているところから、野鍛冶の可能性が考えられるものの、鉄滓等が出土していないことから確かなことは言えない。

**SK2**

CIV 16グリッドに位置する。平面形は長楕円形で長軸1.44m×短軸2.5m×深さ0.06mである。遺物は出土していない。

**(4) 3B柱穴 (第76、77図、第80図1178～1185)**

柱穴は68基検出した。中央部西端の3C区に接して数基と南側部で若干纏まって検出したに留まる。中央部西端の柱穴数基は3C区の基壇状遺構に伴う可能性があり、基壇状遺構の張り出し入り口部の可能性があるが、判然としない。

遺物の出土した柱穴のみを取り上げる。遺物の出土した柱穴は5基と少ない。

P198はBIV 19グリッドに位置する。出土遺物は1178、1179の土器坏が2点出土している。1178は内外面に強い轆轤目を残すもので、2点とも黄褐色を呈する。P204はBIV15グリッドに位置し、1180の土錘1点が出土している。P231はBIV 10グリッドに位置し、1181の土錘1点が出土している。P238はBIV 14・19グリッドに位置し、1182の土錘1点が出土している。P255はBIV25グリッドに位置し、1183から1185の土器坏が3点出土している。轆轤目を残し、黄白色の色調を呈する。

**(5) 3B区遺物包含層出土遺物 (第80～88図1186～1453)**

3B区は遺構内よりも包含層出土遺物が多く、それも大半が北端の斜面地からの出土である。遺物包含層の最下層の6層以外は盛土、整地層で各遺物包含層に各時代の遺物が混在して出土している。傾向としては包含層1層が16C代、最下層が13C後半頃の年代が考えられる。

**①陶磁器類 (第80～83図1186～1274)****白磁**

皿は1186から1198である。1186は口縁部が僅かに反り、口唇内面が口禿げとなる。13C中葉から14C初頭のものである。1188から1190は体部に丸味のあるもので15C中葉のものである。1191は

15C末から16Cのものである。1192から1196は口縁が外反するもので16Cのものである。

坏は1199で小型のもので、腰部が折れ、口縁が外反する。16Cのものである。

碗は1200の1点で口縁が外反し、口縁下がナデにより段になる。15C中葉のものか。

#### 青花

皿は1201から1205で、1201、1202は牡丹唐草文と玉取り獅子で15C後半のものである。1203は端反りで15C後半から16C前半のものである。1204は口縁が強く屈曲する。16Cのものである。

碗は1206から1209の4点が出土している。1206は直線的に立ち上がり、口縁外面に文様帯を設ける。14C末から15C中葉のものである。1207は波濤文、アラベスク文様で15C後半のものである。1208は唐草文で15C前半から中葉のものである。1209の底部破片は16C後半以降のものである。

#### 青白磁

梅瓶が2点出土している。1210は口縁部破片で口唇部が膨らむ。1211は底部破片で高台は削り出し、体部には陰刻文を施す。2点共に13Cのものと考えられる。

#### 青磁

香炉の脚部が1点出土している。1212は獣脚か。

蓋置1213は口縁が肥厚し、胴部下半に透かし窓、口縁下には円孔を持つ。14Cのものか。

皿は1214から1225である。1214は口折皿で体部にヘラ描き蓮弁文を施す。14C末から15Cのものである。1215から1219は稜花皿である。15C後半から16Cのものである。1220は器肉が薄く、雷文帯で14C後半から15Cのものである。1221は15C、1222は口縁が外反するもので15C中葉のものである。1223は15C中葉、1224は口縁が強く外反し、15C中葉から後半のものである。1225は碁笥底で15C後半のものか。

坏は1226から1229の4点である。1226、1227は小坏で、1226は15C中葉から後半のものである。1227は雷文帯で14C後半から15Cのものである。1228は口縁が屈曲し、体部は蓮弁文で13C中葉から14C初頭のものである。1229は15C代のものか。

碗は1230から1259で数多く出土している。1230から1236迄が蓮弁文でその中で1230から1232は細蓮弁文で15C後半から16Cのものである。1233は鎬蓮弁文で13C中葉以降のものである。1234の内面は劃花文か。13C中葉から後半のものである。1235は幅広の蓮弁文で14Cから15Cのものである。1236はヘラ描き蓮弁文で15Cのものである。1237、1238は雷文帯で14C中葉から15Cのものである。1251も同様のものか。1239は内面に陽刻葉状の文様で14C末から15Cのものである。1240、1241は体部に丸味を持ち外面に波状文で15C後半のものである。1242から1250は無文か文様の分からないもので口縁が外反するものが多い。大部分が14Cから15Cのものである。1252から1259は底部破片である。1252は細蓮弁文で14C後半から15C前半のものである。1253は腰部が屈曲する。15C後半のものである。

盤は1260、1261の2点である。1260は口縁が受け口状で13C後半から14C前半のものである。1261は盤の底部破片で高台断面は三角形を呈し、14Cのものか。

瓶子は象嵌の1262が出土している。3A区、5A区、表面採集がそれぞれ接合している。象嵌による6弁花の高麗青磁で14C末から15Cのものである。

### 天目茶碗

1263は口縁端部が直立気味で、黒色の釉が厚く掛かる。15Cの建窯と考えられる。

### 瀬戸

天目茶碗は1263以外に瀬戸産の1264が1点出土している。削り出し高台でベタ高台に近い。体部下半に丸味を持ち口縁は直立気味である。16Cのものである。

縁釉小皿が1点出土している。1265は底部が平底で腰部に丸味を持ち、体部は開き、口唇が外反する。内面の釉はハケヌリ、口縁内外面がツケガケである。外面下半露胎となっている。釉調は淡緑色である。15C中葉のものである。

皿1266は底部が碁笥底である。15Cのものである。

卸皿1267は口縁が受け口で、淡緑色の釉が掛かる。14C後半から15C前半のものである。

直縁大皿1268は底部が平底で回転ヘラ削り、簀子状圧痕が残る。体部が大きく開き、体部下半は回転ヘラ削り、上半は轆轤目を残す。口唇に僅かに丸味を持つ。釉は内外面上半に施釉し、下半露胎となる。14C末から15Cのものである。

洗1269は丸底のベタ底である。口唇は玉縁、見込み内に砂目を持つ。体部下半は露胎となり、他は施釉し、緑色に発色する。

施釉播鉢1270は受け口状で体部上半に施釉する。卸皿の可能性もある。15C前半のものか。

瓶1271は口径が細く、頸部がすぼまり、口縁が外反する。釉調は艶のある淡緑色で貫入が入る。

四耳壺1272は口縁を折り返す。13C後半から14C前半のものである。

### その他

近世陶磁器は2点出土している。1273は肥前の銅緑釉で17C後半、1274は18Cのものか。

## ②土器(第83～85図1275～1364)

### 小皿

小皿は1275から1301で、その中で底部破片は1298から1301である。1275から1284は浅いもので、1281から1284は口径がやや広い。1285から1289は若干深くなる。1285は焼成が良く瓦質に近い。1290、1291は浅く体部も短く直立気味で、1291は内面底が盛り上がる。1292から1294は坏状に底径が小さく体部が大きく開く。1295は口径が広く体部も開く。1296はやや大きな小皿である。1297は深く、口縁端部が直立気味である。底部の切り離しは回転糸切りである。

### 坏

坏は1302から1358で、その中で底部破片は1319から1358である。1302から1304は僅かに体部が外反気味で開く。1305から1309は体部に僅かに丸味を持ち開く。1306はヘラ描き記号を持つ。1310から1315は口縁が直立気味である。1310は浅い。1313は内面底が凹む。1316は碗状のもので体部に丸味を持つ。1317は体部が直線的に大きく開く。1318は底部の整形が粗く、実測図では高台に見えるものの、平底である。

底部破片は1319から1344は大きく開く。簀子状圧痕を有する。1345から1347は体部が余り開かない。1348から1352は底径がやや小振りで体部が余り開かない。1353は外反気味である。1354、

1355は丸味を持つ。1355は内面底が凹む。1356、1357は整形の粗いもので1357は内面底が凹む。

#### ミニチュア

1359は小壺か。頸部に簾状？の鋭い線刻を施し、下半は器肉が厚い。

#### 高台付皿

1360は円柱状の脚が付き、脚部裾はハの字状に開く。底部が糸切りで、皿部は開く。

#### 羽釜

1361は断面方形状の大きな鐙が付く。口縁に轆轤目が残る。15Cの河内のものである。

#### 鍋

1362から1364は15Cから16Cの播磨のものである。

### ③瓦質土器 (第85図1365～1374)

#### 羽釜

1365から1367は大きな鐙が付き15Cの河内のものである。

#### 鍋

1368は播磨のものか。1369の体部下半はすぼまり、上半はほぼ直線的に立ち上がる。口唇は肥厚せずナデ、外面には指頭、内面がヘラナデである。14C後半から15Cの土佐のものである。

#### 播鉢

1370の体部は開き気味で、口唇が平坦、内面には細い条線を持つ。15Cの在地のものか。

#### 火鉢

1371は波状口縁で口唇が平坦、内面にキザミを施し、口縁下に円形透かしを持つ。

#### 風炉

1372から1374で、1372は縦格子の文様で、丸味のある横位突帯数条を巡らせる。1373、1374は脚部で1373は円孔を持つ。1374は獣脚である。15Cのものである。

### ④炆器 (第85、86図1375～1389)

#### 捏ね鉢

1375、1376の2点は13C後半頃の東播磨のものである。

#### 播鉢

1377から1384は備前産である。1377から1379は口縁を拡張しないもので、1377が14C初頭以降、1378が14C前半、1379が14C後半である。1380から1382は口縁を拡張したもので、1380が15C中葉以降、1381が16C前半、1382が16C中葉のものである。

#### 小壺

1385、1386は底部破片である。共に平底である。備前産か。

#### 壺

1387は平底で整形はやや粗い。内面は回転ナデである。外面には自然釉が掛かる。備前産か。

#### 鉢

1388の底部は凸凹し砂底か。体部は直線的に立ち上がり、外面が轆轤、指頭、ナデ、内面が轆轤、ナデである。内外面共に赤褐色を呈する。備前産か。

甕

1389は備前産で口縁を折り返し丸く肥厚する。内外面はナデ整形である。15C前半から中葉のものである。

⑤土製品(第86図1390～1409)

土錘

1390から1409で、筒状の細長い小型のものである。最も重いもので1409の7gである。1408も大型のものであるが、欠損しているために重さは不明である。

⑥銭貨(第87図1410、1411)

古銭

1410は摩滅する。「開元通寶」か。1411も摩滅する。「景元通寶」か。

⑦金属製品(第87図1412～1426)

銅製品

1412から1419は銅製品で1412は銅碗か。1413は獸脚、1414は引手金具で中央部は蕨か。先端部が鋸のように尖る。1415は角環で、座は欠損する。1416は引手金具か。1417は筒状で中空である。両端部は折り返す。1418は楕円形で中央部が凹む。1419は短冊状で捻れる。

針

1420は縫い針か。頭部は欠損し、先端部が尖る。

釘

1421から1426は断面が方形で頭部を折り曲げた和釘である。

⑧瓦(第87、88図1427～1449)

軒丸瓦

1427は三つ巴と珠文、1428は珠文のみ残る。

丸瓦

1429から1437で布目、斜状コビキ、紐吊り痕が残る。

軒平瓦

1438は唐草文である。

平瓦

1439から1449は離れ砂、布目、斜状コビキの残るものである。

⑨石製品(第88図1450～1453)

## 石鍋

1450は口縁下に断面三角形の鏝が付き、口唇が平坦である。

## 砥石

1451は表面が平坦で裏面が反る。両側縁は擦り切り、両先端欠損する。頁岩製である。

## 軽石

1452は右側面がやや平らである。1453は表面の一部がやや摩滅する。

## (6) 3B区小結

本調査区では他の調査区に比べ、遺構の密集の度合いは低かった。調査区の南側、4区との境近くは削平され、遺物包含層も浅かった。北側部は盛土、整地が行なわれ斜面地では1m以上の厚さで5,6枚の遺物包含層を確認している。しかしながら正確に層序掘削調査を行なえたわけではなく、各遺構の共時性は不確かである。しかしながらどちらにしても遺構数は少なく、明確な建物跡を検出するには至らなかった。北端では礎石建物らしきもの、瓦溜り、焼土土坑のSK1が本調査区の主な検出遺構である。3区では東側部の3A区、西側部の3C区では各々本遺跡の主体となる構築物、建物跡を検出しているが、丁度両脇に挟まれた空地となっていたようである。やや北寄りに巨石が1石出土しており、回りに特に遺構は検出してはいないものの、本調査区を象徴するような位置に座っていた。

時期的には14C後半から16Cが主体となるようである。最下層では13C後半と考えられる大溝SD2を検出しているが、その時期に伴う他の遺構も検出できていない。

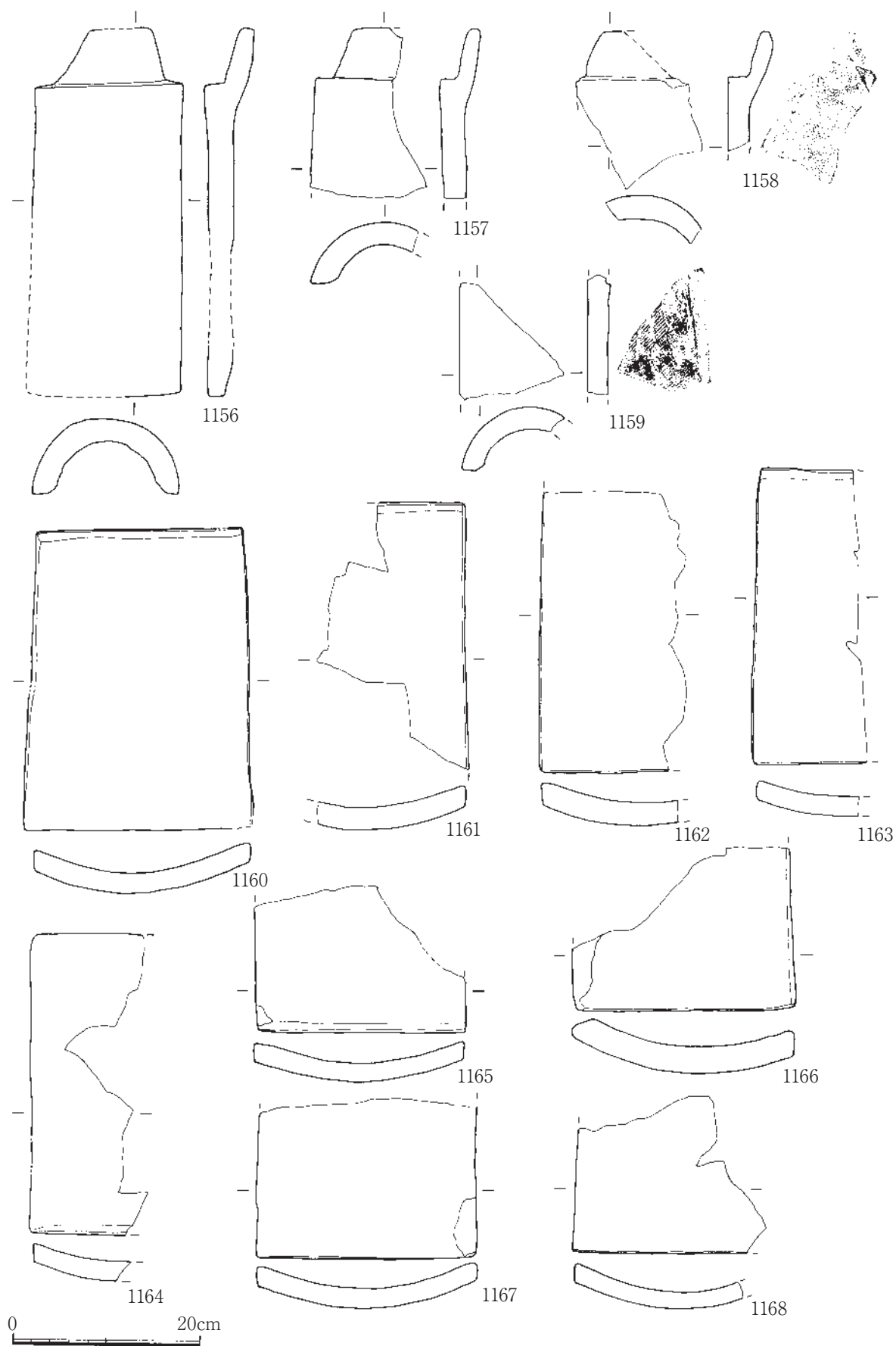
出土遺物は調査区中央部の平坦面でも若干の遺物が出土しているが、大部分は北側の斜面地からの出土遺物で占められる。

輸入陶磁器類は白磁皿、青磁碗、青花皿が多く、白磁皿は1186の13C中葉のもの以外は15C中葉、16C代のものが出土している。青花皿は15C後半の牡丹唐草文、玉取り獅子のものが多い。青磁は15Cから16Cの稜花皿、蓮弁文碗、雷文帯の碗、無文碗が出土しており、主体は14C後半から15Cのものが多い。後、青白磁梅瓶1210、1211の13C、青磁香炉1212、青磁蓋置き1213の14C、高麗青磁1262の14C末が出土している。瀬戸産では天目茶碗1264、四耳壺1272等の各時代に亘るものが出土している。

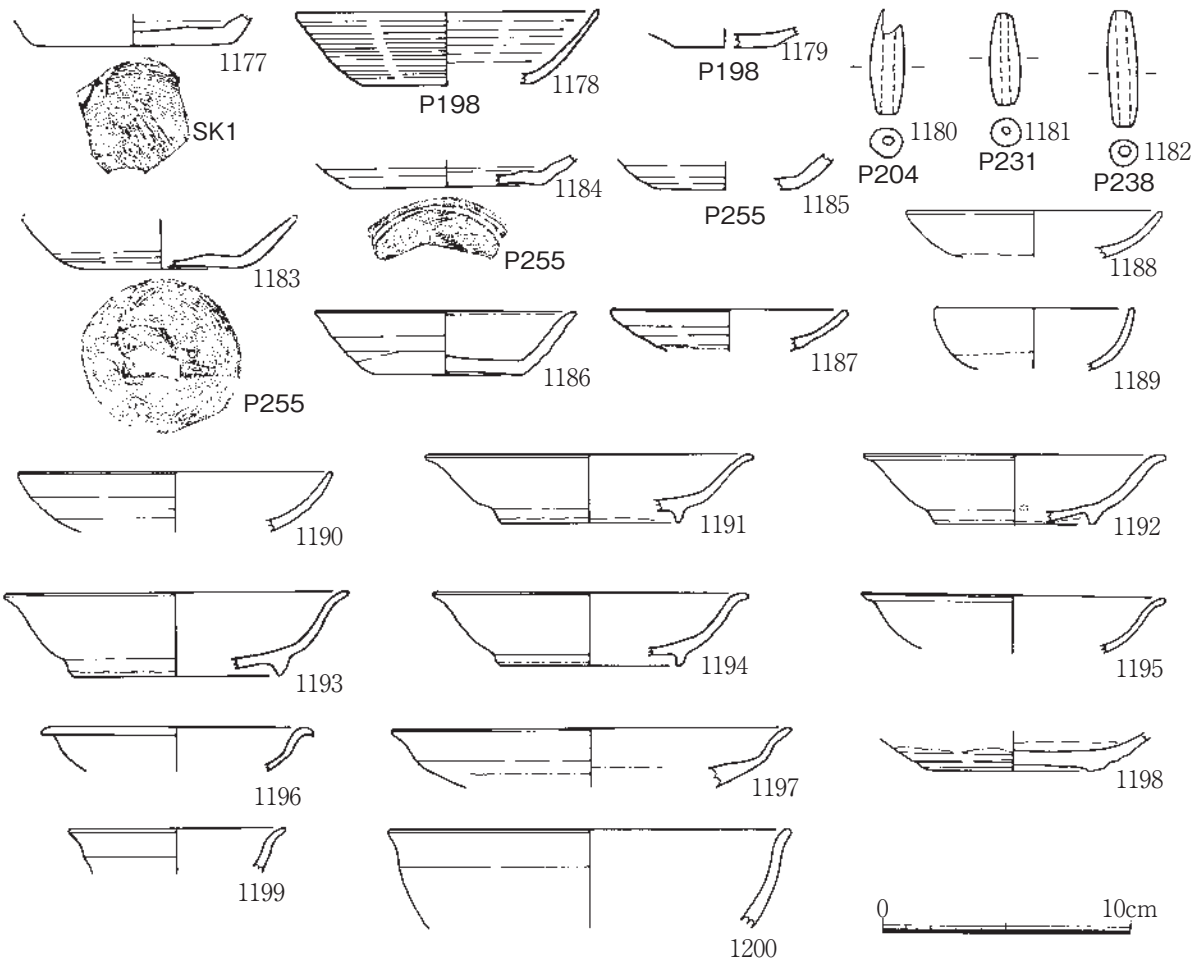
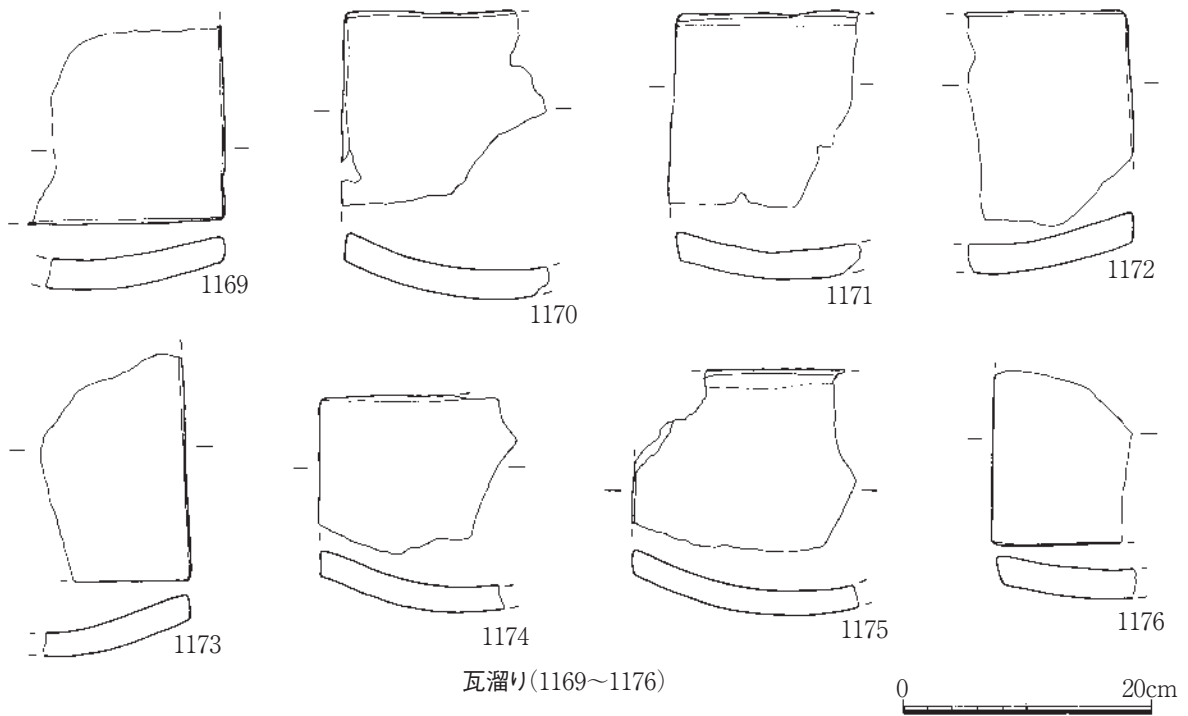
什器類では13C代の東播磨の捏ね鉢が最も古く、播鉢では備前産が14C初頭から16C前半まで入ってくる。羽釜は15Cの河内、鍋は15Cから16Cの播磨、それ以外に在地の鍋が14C後半から15Cの前段階で入って来ている。土器類は坏、小皿が出土しているものの、他の調査区に比べ量は多くない。

本調査区は出土遺物からして、13C後半の時期、14Cから15Cの時期、16Cの遺物が他の調査区に比べ若干多くなる傾向にある。長宗我部地検帳段階(1589年)では、「□坊ヤシキ」周辺域に相当すると考えられるものの、該期の遺物は極めて少ない。

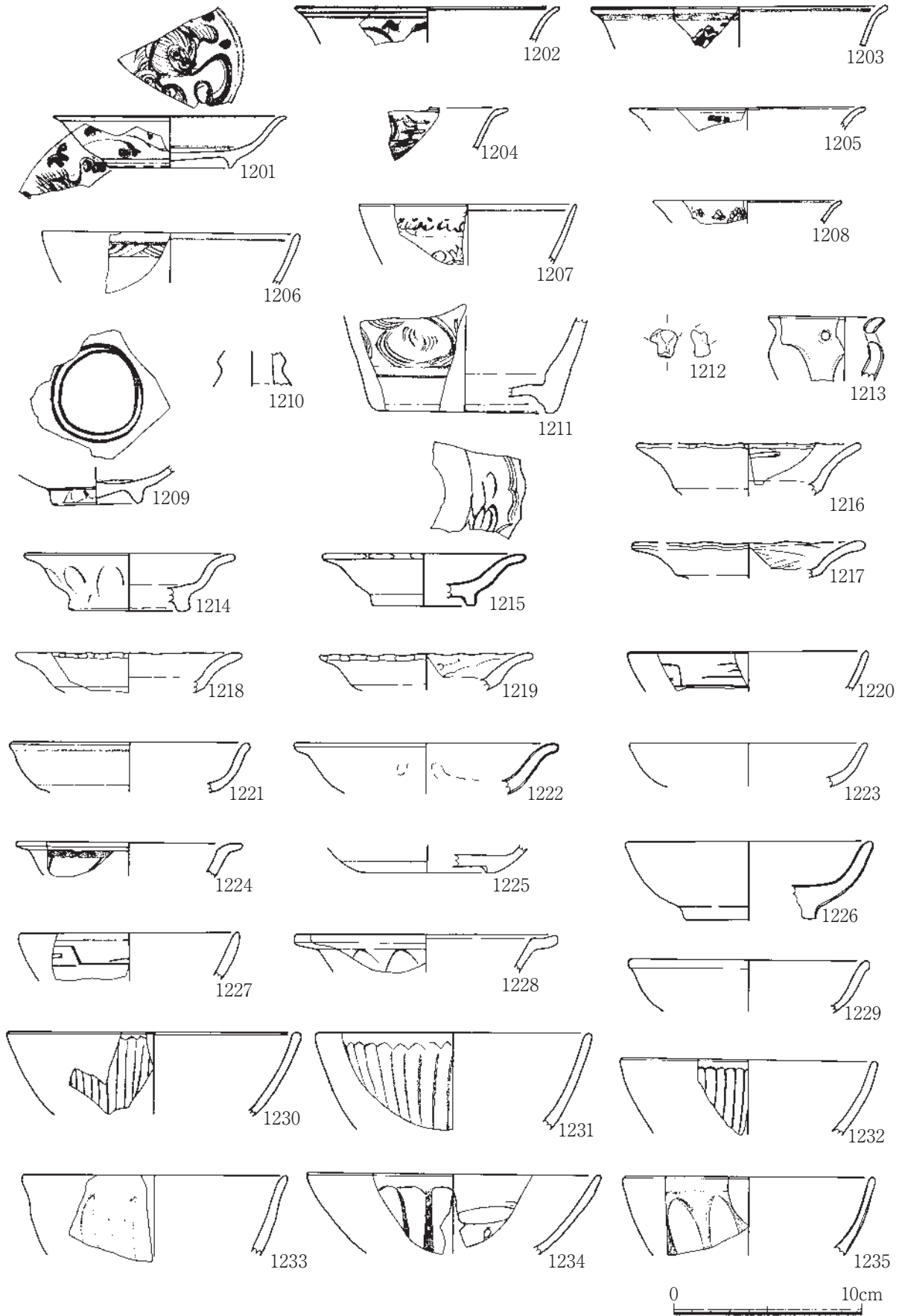




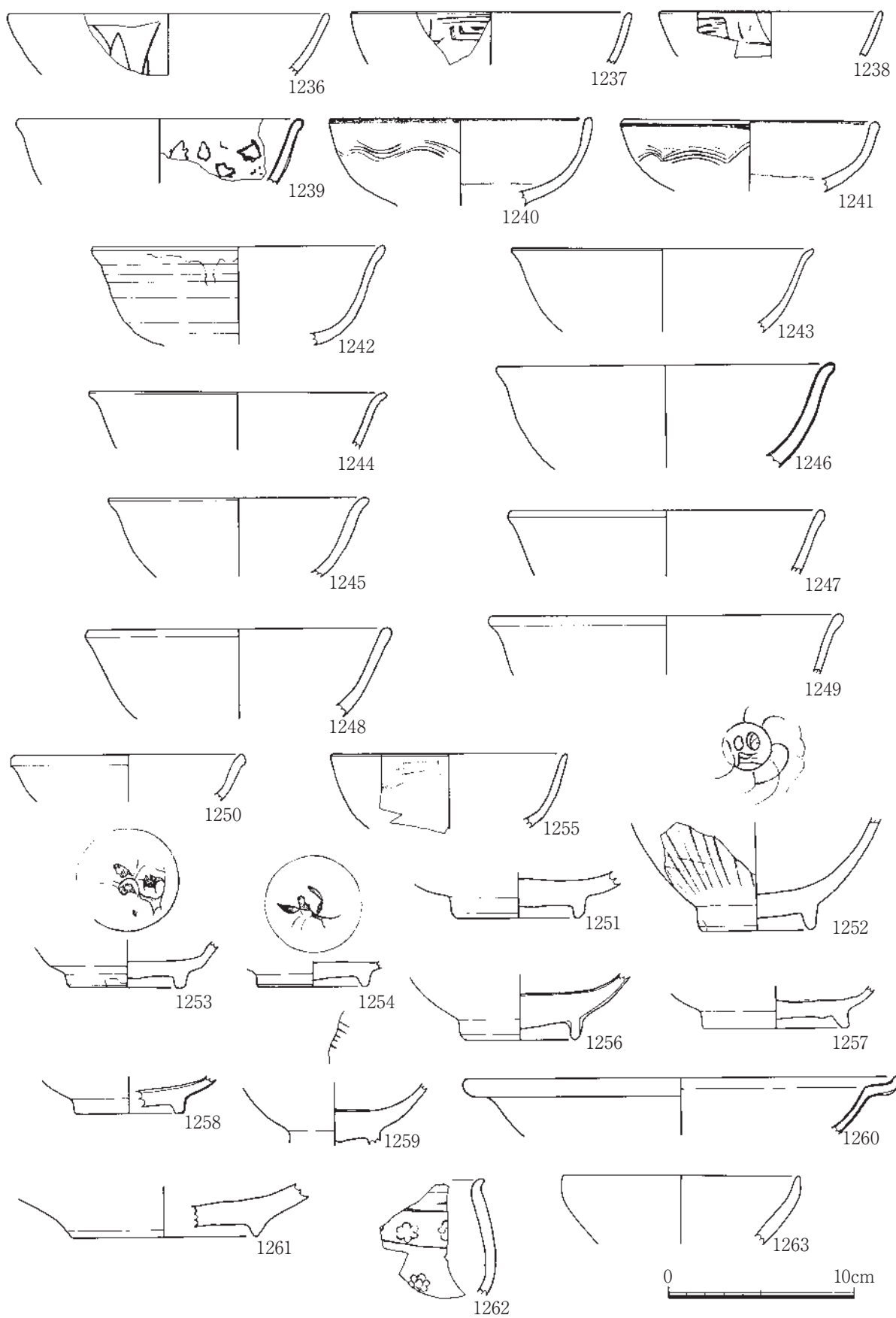
第79図 3B区瓦溜り遺物実測図1



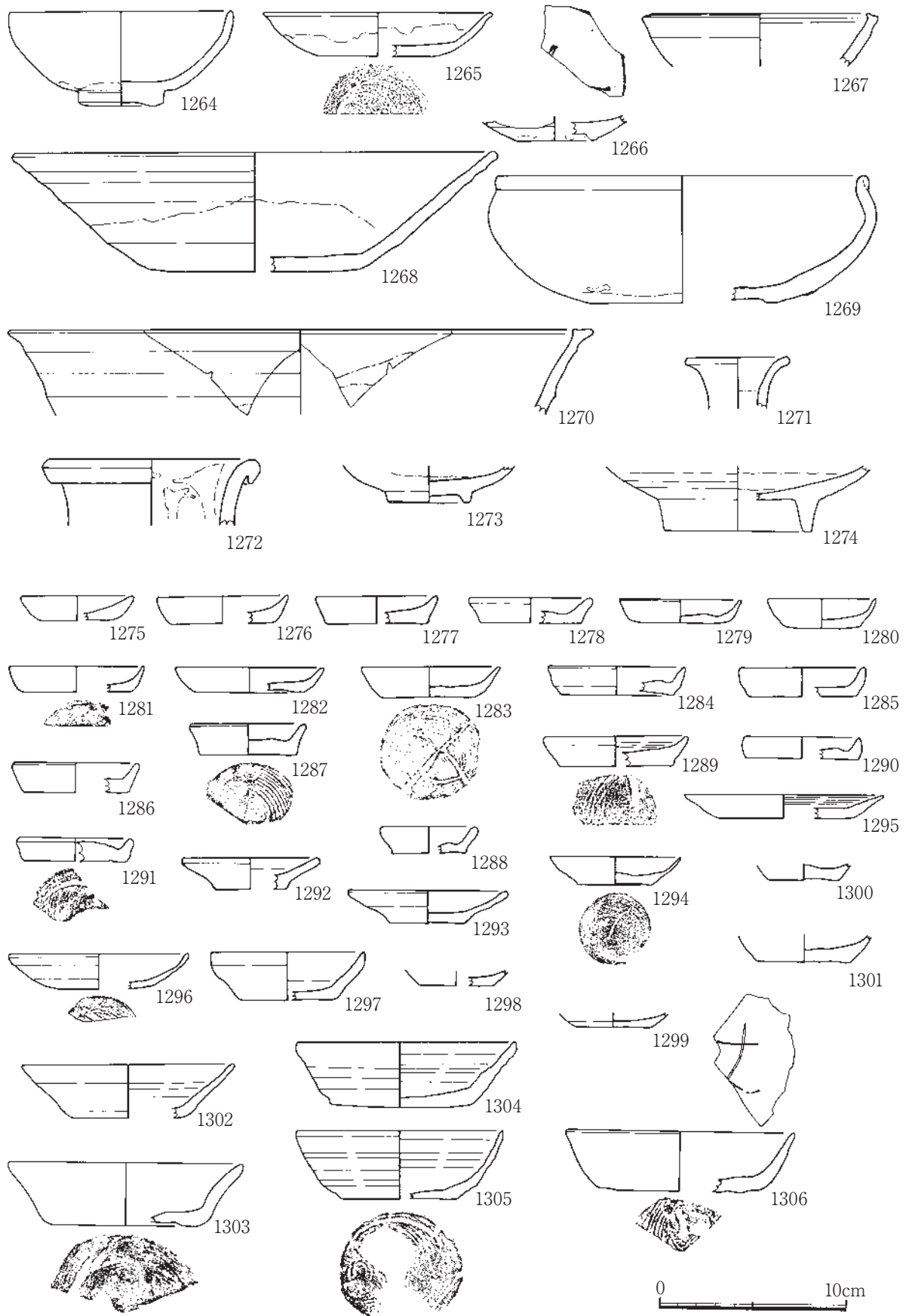
第80図 3B区瓦溜り2・土坑・柱穴遺物実測図



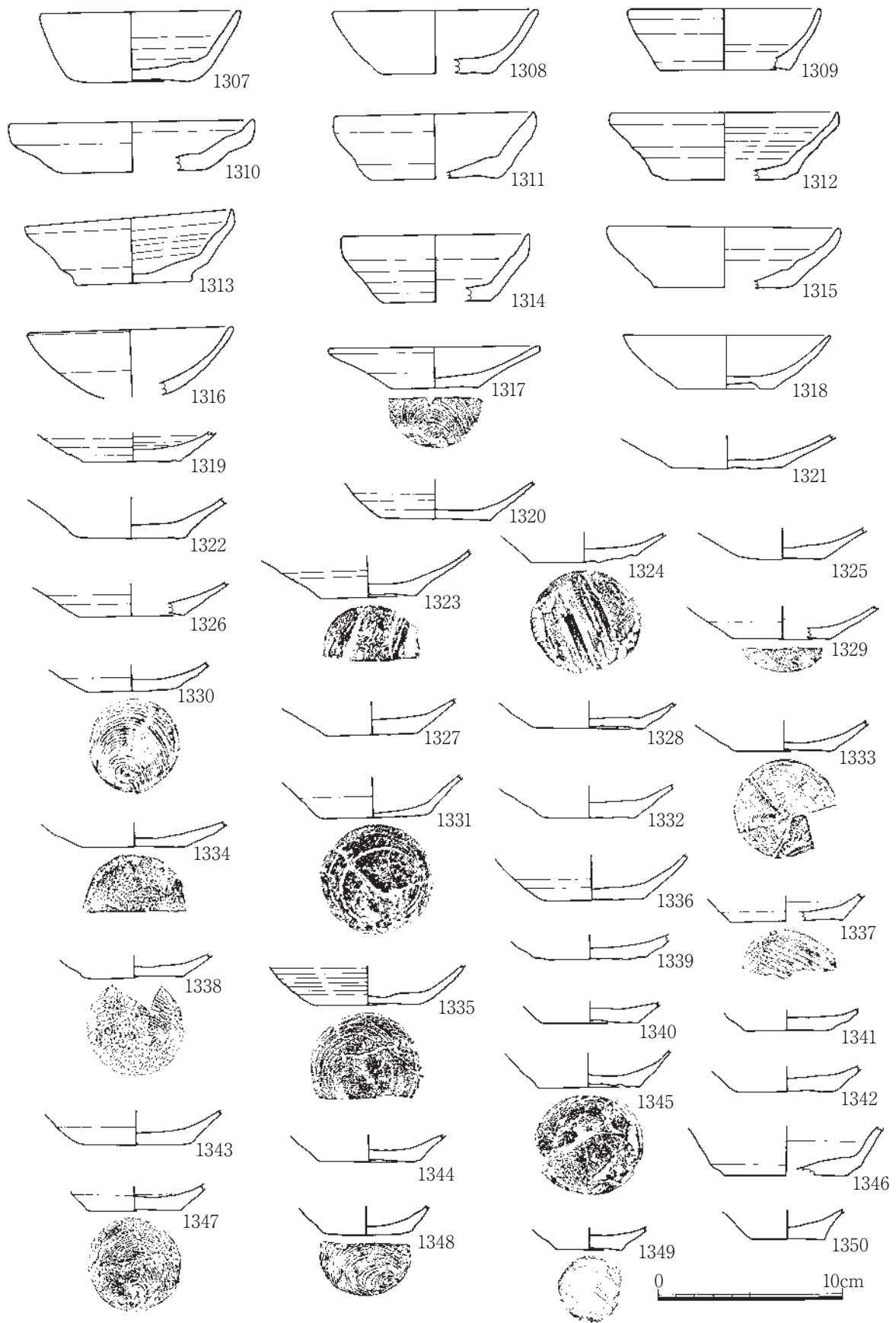
第81図 3B区遺物実測図1



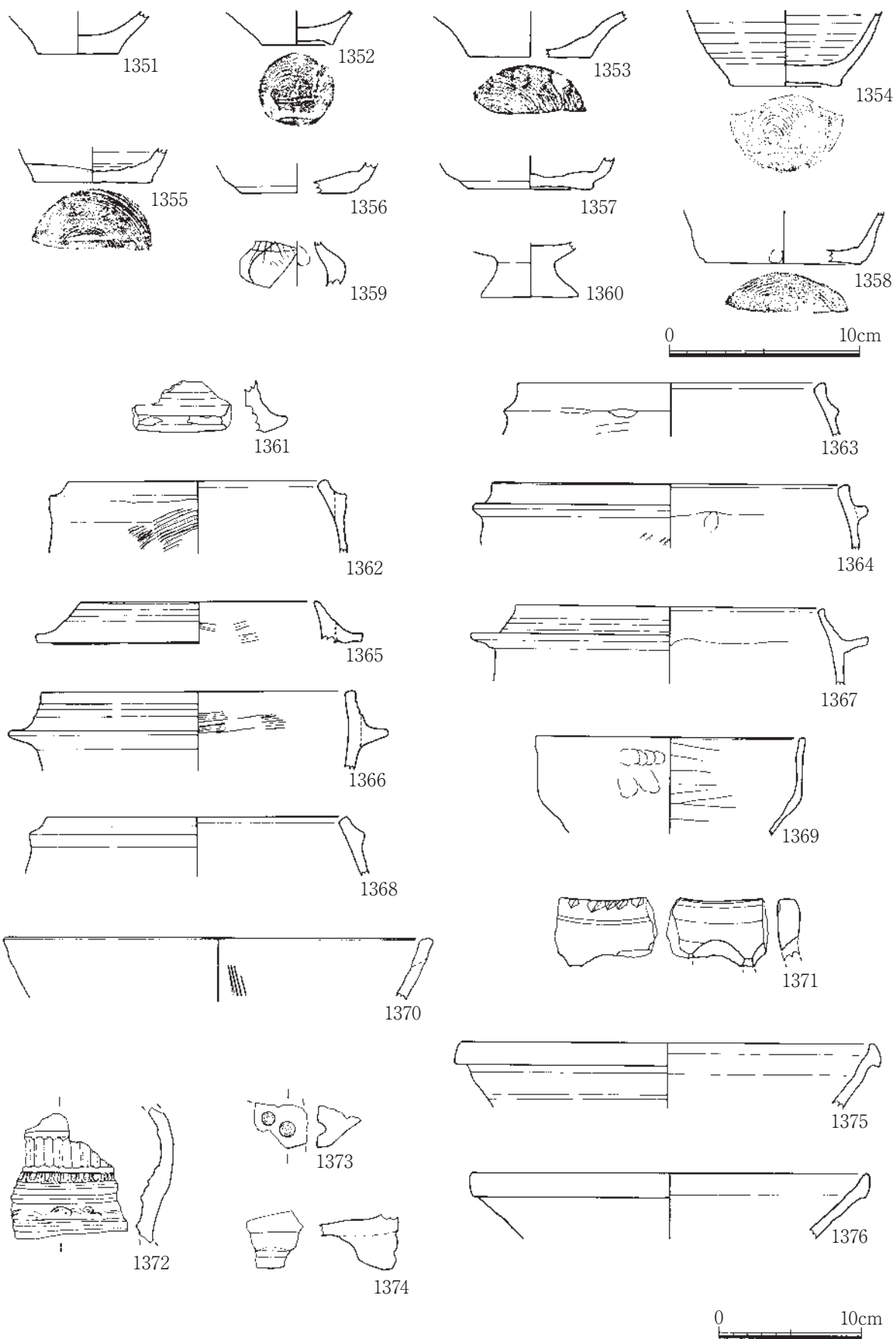
第82図 3B区遺物実測図2



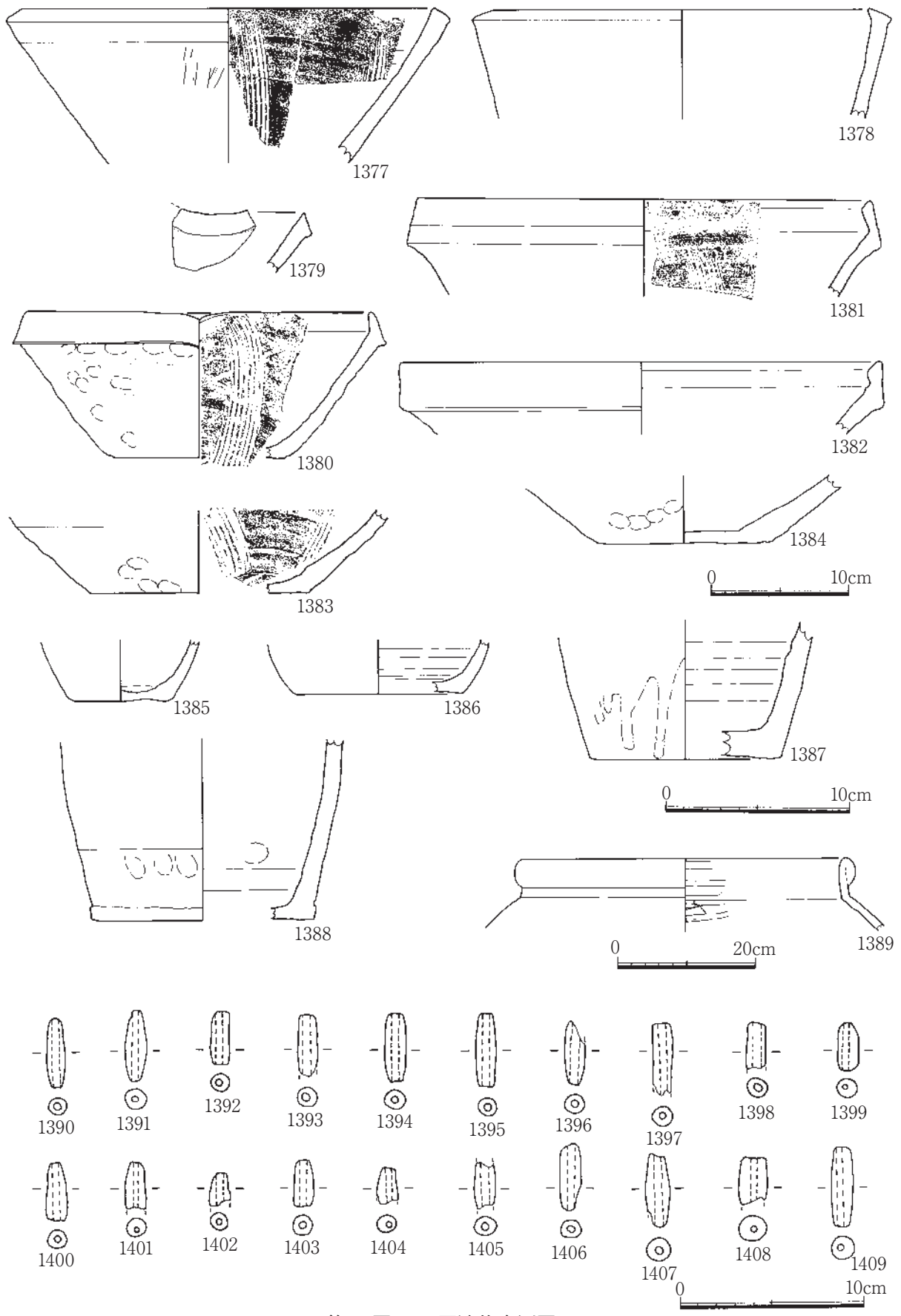
第83図 3B区遺物実測図3



第84图 3B区遺物実測図4

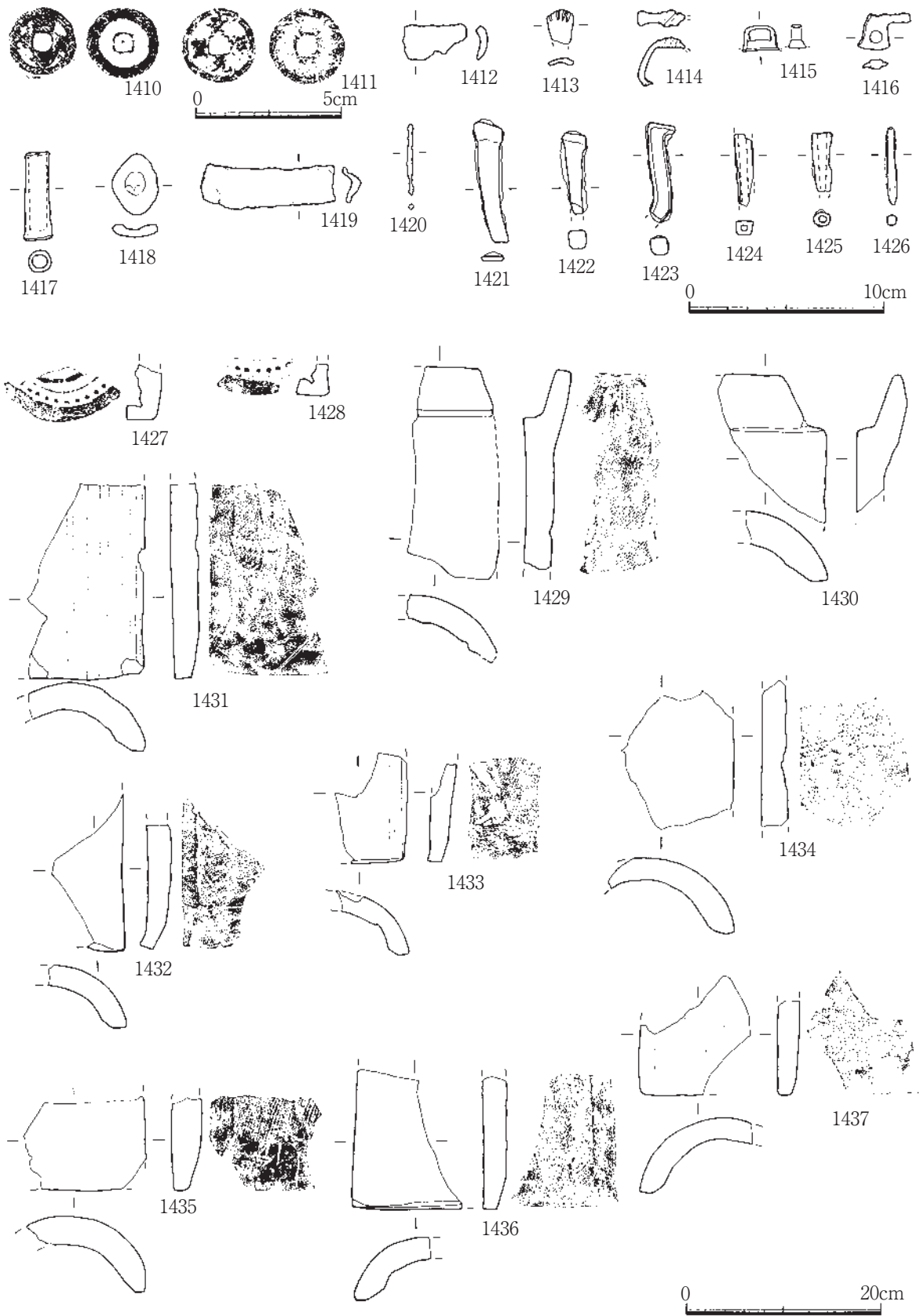


第85図 3B区遺物実測図5

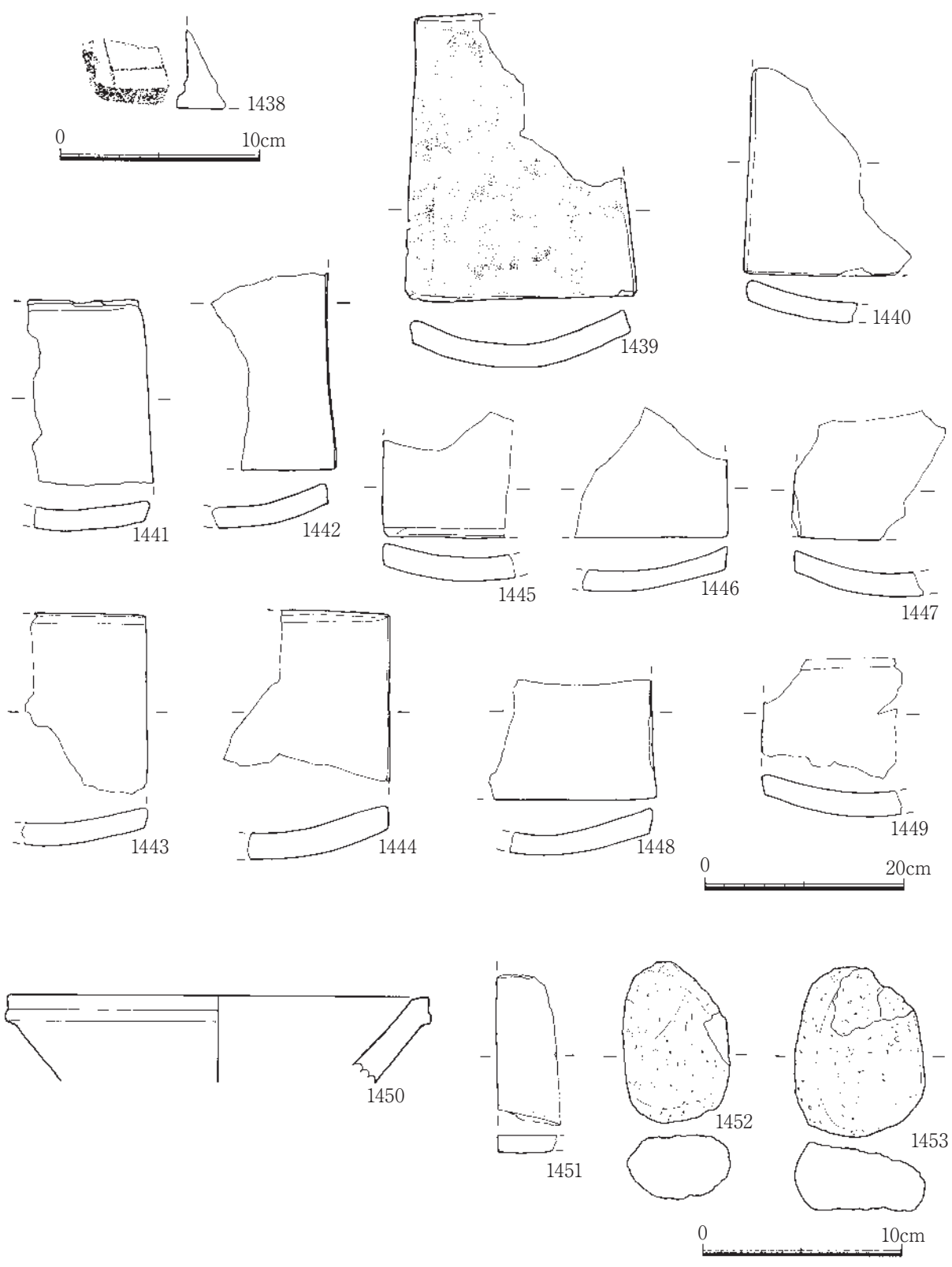


第86图 3B区遺物実測図6





第87図 3B区遺物実測図7



第88图 3B区遺物実測図8

表8 3B区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1156	瓦	丸瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長39.7	幅16.2	厚2.7	凸面ナデ、凹面紐吊り痕、ナデ	精良		
1157	瓦	丸瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(18.5)	幅(12.6)	厚2.5	摩耗、凸面ナデ、凹面斜状コビキ、紐吊り痕	精良		
1158	瓦	丸瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(17.0)	幅(12.2)	厚2.5	凸面ナデ、凹面布目	精良		
1159	瓦	丸瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(13.3)	幅(11.2)	厚2.4	凸面ナデ、凹面斜状コビキ、紐吊り痕	精良		
1160	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長32.1	幅24.8	厚2.1	両面離れ砂、一先端部角面取り	精良		
1161	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(23.9)	幅(16.2)	厚2.5	両面離れ砂、一先端部角面取り、自然鉄分沈着	精良		
1162	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長30.8	幅(16.2)	厚2.4	両面離れ砂、一先端部角面取り、自然鉄分沈着	精良		
1163	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長31.8	幅(12.4)	厚2.2	両面離れ砂、一先端部角面取り	精良		
1164	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長32.4	幅(13.0)	厚2.1	両面離れ砂、一先端部角面取り、自然鉄分沈着	精良		
1165	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(15.9)	幅22.7	厚2.0	凸面斜状コビキ、ナデ、凹面ナデ、先端部角面取り	精良		
1166	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(17.9)	幅24.0	厚2.9	両面離れ砂	精良		
1167	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(17.4)	幅(23.8)	厚2.3	両面離れ砂、自然鉄分沈着	精良		
1168	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(17.2)	幅(21.2)	厚1.8	両面離れ砂、自然鉄分沈着	精良		
1169	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(16.0)	幅(14.6)	厚2.4	両面離れ砂、自然鉄分沈着	精良		
1170	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(15.7)	幅(16.6)	厚2.3	両面離れ砂、一先端部角面取り、自然鉄分沈着	精良		
1171	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(16.2)	幅(15.5)	厚2.3	両面離れ砂、一先端部角面取り	精良		
1172	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(17.6)	幅(13.5)	厚2.5	両面離れ砂	精良		
1173	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(18.6)	幅(12.0)	厚2.0	凸面離れ砂、凹面ナデ	精良		
1174	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(12.9)	幅(16.2)	厚2.1	両面離れ砂	精良		
1175	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(15.6)	幅(18.7)	厚2.0	両面離れ砂、自然鉄分沈着	精良		
1176	瓦	平瓦	3B	西側部斜面4層71～77	長(15.2)	幅(11.7)	厚2.4	両面離れ砂	精良		
1177	土器	坏・底部	3B	SK1			(8.0)	底部回転系切り、体部開く、内面赤褐色	精良		
1178	土器	坏	3B	P198	(12.1)	2.9	(7.0)	底部回転系切り、内外面強い轆轤目、体部開く、内外面黄褐色、堅致	精良		
1179	土器	坏・底部	3B	P198			(4.0)	底部回転系切り、体部開く、内外面黄褐色	精良		
1180	土製品	土錘	3B	P204	長4.2	径1.3	重(5.0)	筒状	精良		
1181	土製品	土錘	3B	P231	長3.7	径1.2	重4.2	筒状、やや小型	精良		
1182	土製品	土錘	3B	P238	長4.7	径1.2	重5.7	筒状	精良		
1183	土器	坏・底部	3B	P255			(6.0)	摩耗、底部回転系切り、底部薄く孔が開く、内外面黄白色	精良		
1184	土器	坏・底部	3B	P255			(7.8)	やや摩耗、底部系切り、内外面轆轤目、体部開く、内外面黄褐色	精良		
1185	土器	坏・底部	3B	P255			(6.0)	やや摩耗、底部回転系切り、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
1186	陶磁器	白磁皿	3B	3層	(10.5)	2.6	5.9	平底、体部開く、口縁部僅かに反る、口唇内面口上げ、内外面施釉	白色、精良	13C中～14C初頭	白磁皿Ⅹ類
1187	陶磁器	白磁皿	3B	包含層1(3層)	(9.4)			体部浅く開く、底部露胎	白色、精良	15C中	森田編年白磁D類
1188	陶磁器	白磁皿・口縁	3B	斜面部東3層	(10.2)			体部丸味を持って開く、体部下露胎	白色、精良	15C中	森田編年白磁D類
1189	陶磁器	白磁皿・口縁	3B	包含層1	(8.0)			体部丸味、素口縁、外面体部下露胎、釉調白濁色、貫入	乳白色、精良	15C中～	森田編年白磁D類
1190	陶磁器	白磁皿・口縁	3B	斜面部東3層	(12.4)			口縁部内湾、釉調内外面白濁、貫入	乳白色、精良	15C中頃	森田編年白磁D類

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1191	陶磁器	白磁皿	3B	斜面部B	(13.2)	2.8	(7.0)	高台断面三角形、腰部丸味、体部開く、口縁外反、量付け釉剥ぎ	白色、精良	15C末～16C	白磁皿E類
1192	陶磁器	白磁皿	3B	2層	(12.2)	2.8	(6.4)	高台、量付け露胎、体部開く、口縁反る、見込み内砂目跡	白色、精良	16C	森田編年端反り皿E-2-b類
1193	陶磁器	白磁皿	3B	包含層1	(13.8)	3.4	(8.2)	高台断面三角形、体部やや丸味、口唇外反、量付けのみ釉を掻きとる	灰白色、精良	16C	森田編年白磁E類
1194	陶磁器	白磁皿	3B	包含層1	(12.7)	3.0	(7.1)	高台断面三角形、体部やや丸味、口唇外反、量付けのみ釉を掻きとる	灰白色、精良	16C	森田編年白磁E類
1195	陶磁器	白磁皿	3B	包含層1	(12.2)			体部やや丸味、口唇外反	灰白色、精良	16C	森田編年白磁E類
1196	陶磁器	白磁皿・口縁	3B	包含層1	(10.9)			口縁強く外反	白色、精良	16C	森田編年白磁E類
1197	陶磁器	白磁皿・口縁	3B	包含層1 (3層)	(16.0)			口縁部外反、外面下半露胎、見込み内釉剥ぎ、釉調灰白色	白色、精良		
1198	陶磁器	白磁皿・底部	3B				(7.4)	高台削り出し、低い、体部開く、見込み内無釉、外面体部下半露胎、釉調乳白色、貫入	白色、精良		
1199	陶磁器	白磁皿・口縁	3B	斜面部	(8.6)			口唇外反、口縁に段部、腰折れ	白色、精良	16C	
1200	陶磁器	白磁碗・口縁	3B	斜面部B	(16.0)			口縁外反、口縁下ナデによる段	灰白色、精良	15C中頃	白磁碗C類
1201	陶磁器	青花皿	3B	斜面部	(12.4)	2.8	(6.6)	体部丸味、口唇外反、量付け釉剥ぎ、外面牡丹唐草文、見込み内玉取り獅子、口縁界線	白色、精良	15C後半～16C	皿B1群
1202	陶磁器	青花皿・口縁	3B	包含層1 (3層)	(14.0)			端反り皿、口唇口鏤、玉取り獅子、内面口縁界線	白色、精良	15C後半	小野B1類か
1203	陶磁器	青花皿・口縁	3B	包含層1 (3層)	(15.8)			端反り皿、口唇口鏤、外面絵付け、内面口縁界線	白色、精良	15C後半～16C前半	
1204	陶磁器	青花皿・口縁	3B	斜面部2層				口縁強く屈曲、外面絵付け、口縁内外面界線	白色、精良	16C	
1205	陶磁器	青花皿・口縁	3B	斜面部	(12.6)			口唇外反、外面絵付け、内面界線	白色、精良		
1206	陶磁器	青花碗・口縁	3B	TR1バンク	(13.6)			口縁ほぼ直線的に僅かに開く、外面文様帯、内面界線	灰褐色、精良	14C末～15C中	
1207	陶磁器	青花碗・口縁	3B	斜面部	(11.4)			直線的に立ち上がる、口縁外面波濤文帯 イスラム書法?、胴部アラバスク文様、口縁内面界線	白色、精良	15C後半～16C	染付碗D群
1208	陶磁器	青花碗・口縁	3B	斜面部B	(10.0)			口唇外反、外面唐草文、内面界線	白色、精良	15C前半～中	B群碗
1209	陶磁器	青白磁梅瓶・底部	3B	包含層1 (3層)			4.8	削り出し高台、兜巾高台、量付けに植物繊維痕? 釉剥ぎ	灰白色、精良	16C後半～	
1210	陶磁器	青白磁梅瓶・口縁	3B	包含層1	(2.8)			頸部短く、口唇膨らむ	灰白色、精良	13C	
1211	陶磁器	青白磁梅瓶・底部	3B	2層			(9.4)	底部削り出し高台、量付け釉剥ぎ、体部直立、外面陰刻文、釉薄水色	灰白色、精良	13C代	
1212	陶磁器	青磁香炉・脚部	3B	包含層1	高 (1.3)		径 (0.6)	獣脚か	白色、精良		
1213	陶磁器	青磁蓋置	3B	se1	(6.2)			口縁肥厚、透かし窓、円孔	灰白色、精良	14C	
1214	陶磁器	青磁口折皿	3B	斜面部B	(11.2)	3.1	(6.4)	蛇目高台、腰部丸味、口縁折れる、体部ヘラ描き蓮弁文、底裏のみ露胎	灰白色、精良	14C末～15C	
1215	陶磁器	青磁稜花皿	3B	包含層1 (3層)	(10.8)	2.8	(5.5)	内面草花文、底裏露胎	灰白色、精良	15C中～後半	
1216	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	3B	包含層2	(11.8)			稜花、腰折れ	灰白色、精良	15～16C	
1217	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	3B	包含層1	(12.4)			稜花、腰折れ	灰色、精良	15C後半～16C	
1218	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	3B	斜面部B	(12.0)			腰部屈曲、体部外反、口唇輪花状の扶り、釉粗雑、貫入	灰色、精良	15C後半～16C前半	
1219	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	3B	斜面部B、表土	(11.2)			腰部屈曲、体部外反、口唇輪花状の扶り、内面ヘラ描き草花、釉調淡水色、貫入	灰白色、精良	15C後半～16C前半	
1220	陶磁器	青磁皿・口縁	3B	斜面部、包含層1	(12.6)			口縁僅かに開く、器肉薄い、外面に雷文帯	灰色、精良	14C後半～15C	
1221	陶磁器	青磁皿・口縁	3B	包含層1	(12.6)			体部丸味、口唇丸味、貫入	灰白色、精良	15C	

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1222	陶磁器	青磁皿・口縁	3B	斜面部、斜面包含層1	(14.0)			口唇外反、無文、貫入	灰色、精良	15C中	
1223	陶磁器	青磁皿・口縁	3B	包含層3	(12.6)			体部下丸味、口縁やや反る、釉やや濁る	灰白色、精良	15C中～	龍泉窯系
1224	陶磁器	青磁皿・口縁	3B	包含層1	(12.0)			口縁強く外反、体部外面文様	灰白色、精良	15C中～後半	
1225	陶磁器	青磁皿・底部	3B	斜面部B、斜面東3層			(6.4)	底部碁笥底、底裏目跡?、腰部丸味、底径大	灰白色、精良	15C後半?	
1226	陶磁器	青磁小坏	3B	包含層1	(13.2)	4.1	(7.0)	無文、高台量付け、底裏露胎、体部僅かに丸味を持って開く、口唇丸味、僅かに外反、貫入	灰白色、精良	15C中～後半	
1227	陶磁器	青磁小坏・口縁	3B	斜面部A	(11.6)			口縁直線的に立ち上がる、外面雷文帯	灰白色、精良	14後半～15C	
1228	陶磁器	青磁坏・口縁	3B	斜面部A	(13.8)			口縁部くの字状に屈曲、体部蓮弁文	灰白色、精良	13C中～14C初	
1229	陶磁器	青磁坏・口縁	3B	包含層1 (3層)	(12.6)			体部やや丸味、口唇丸く納める、無文、釉透明度なし	灰白色精良	15C代	
1230	陶磁器	青磁細蓮弁文碗・口縁	3B	包含層1、斜面部	(15.6)			体部直線的に開く、口唇僅かに内側に丸味を持つ、外面線描き細蓮弁文	灰白色、精良	15C後半～16C	
1231	陶磁器	青磁細蓮弁文碗・口縁	3B	包含層1	(14.6)			体部僅かに丸味を持ち立ち上がる、素口縁、外面口縁上部から細蓮弁文、貫入	灰白色、精良	15C後半～16C	龍泉窯系
1232	陶磁器	青磁細蓮弁文碗・口縁	3B	包含層1 (3層)	(13.7)			外面細蓮弁文、釉調やや燻んだ青褐色	白色、精良	15C後半～	
1233	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3B	斜面部2層	(14.0)			体部外傾気味に立ち上がる、蓮蓮弁文	灰色、精良	13C中～	龍泉窯
1234	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3B	包含層1 (3層)	(15.7)			外面蓮弁文、内面劃花文?	灰白色、精良	13C中～後半	
1235	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3B	包含層2	(13.0)			体部僅かに内湾気味、幅広の蓮弁文	白色、精良	14～15C	
1236	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3B	包含層3	(17.2)			へう描き蓮弁	灰色、精良	15C	
1237	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	斜面部、包含層1	(14.8)			体部直線気味に立ち上がる、口縁雷文帯、貫入	灰白色、精良	14C中～15C	
1238	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	包含層1 (3層)	(12.0)			口縁僅かに内湾、外面雷文帯	灰色、精良	14C中～15C	
1239	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	3層	(15.0)			口唇丸味、内面陽刻葉状の文様、外面貫入	灰白色、精良	14C末～15C	D類
1240	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	包含層1	(14.0)			体部丸味、口縁素口縁、外面波状文、釉濃緑色	灰色、精良	15C後半	
1241	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	西側部包含層1 (3層)	(13.2)			体部丸味、口縁素口縁、外面波状文、釉濃緑色	灰色、精良	15C後半	
1242	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	北側部包含層3、se4、トレンチ2	(15.6)			体部下丸味、口縁やや開く、口唇わずかに肥厚して外反	灰白色、精良	14C中	
1243	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	斜面部	(16.2)			口唇外反、無文、釉調透明感、貫入	灰色、精良	14C後半～15C	D類
1244	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	西南部、包含層1	(16.0)			口縁外反	灰白色、精良		
1245	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	斜面部東3層	(14.0)			口縁外反、体部緩やかな丸味、無文	灰色、精良	14C末～15C	
1246	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	包含層1	(18.2)			やや大型、器肉厚い、口縁やや外反、体部丸味、無文、釉調透明感なし	灰白色、精良	15C前半	D類
1247	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	包含層1、西側部4層	(16.6)			体部直線的に開く、口唇丸味、細かい貫入	灰色、精良	15C	
1248	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	包含層1 (3層)	(16.0)			口縁僅かに内湾、口唇丸味、無文、細かい貫入	灰色、精良	15C代	
1249	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	包含層3	(18.8)			口縁反る	灰白色、精良		
1250	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	包含層3	(12.4)			口唇玉縁、釉濁る	灰白色、精良		
1251	陶磁器	青磁碗・口縁	3B	包含層1 (3層)	(12.6)			外面雷文崩れ、2次被熱	灰白色、精良	14～15C	
1252	陶磁器	青磁碗・底部	3B	包含層1			5.8	削り出し高台、体部開く、外面細蓮弁文、見込み内陰刻文、底裏露胎	灰色、精良	14C後半～15C前半	
1253	陶磁器	青磁碗・底部	3B	斜面部			6.3	底部削り出し高台、蛇目、腰部屈曲気味、見込み印花文、釉底裏掻きとる、貫入	灰色、精良	15C後半	
1254	陶磁器	青磁碗・底部	3B	北側部・se5、			5.8	蛇目削り出し高台、見込み内印花文、底裏露胎	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1255	陶磁器	青磁碗・底部	3B	斜面部東3層			6.6	蛇目高台、高台外側面取り、腰部丸味、畳付け釉剥ぎ、底裏露胎、2次被熱、タール?付着	灰白色、精良	15C	
1256	陶磁器	青磁碗・底部	3B	表土			(6.0)	やや高い高台、腰部丸味、器肉厚い、底裏のみ蛇目に釉剥ぎ	灰白色、精良		
1257	陶磁器	青磁碗・底部	3B、3C	3B包含層1(3層)、3B北側部・包含層3、3C斜面東4層se7			(7.8)	蛇目高台、底裏蛇目釉剥ぎ、内面蛇目釉剥ぎ、2次焼成	灰白色、精良		
1258	陶磁器	青磁碗・底部	3B	斜面部東3層			(5.7)	蛇目高台、腰部丸味、底裏露胎	灰色、精良		
1259	陶磁器	青磁碗・底部	3B	包含層1、3層				削り出し高台、底裏露胎、見込み内印花文	灰色、精良		
1260	陶磁器	青磁盤・口縁	3B	包含層1(3層)	(23.0)			口縁受け口状、釉厚く貫入	灰白色、精良	13C後半~14C前半	
1261	陶磁器	青磁盤・底部	3B	西側部・3層			(10.0)	高台断面三角形、器肉厚い、全面施釉か、貫入、2次被熱	灰白色?、精良	14C	
1262	陶磁器	青磁象嵌瓶子・口縁	3B、5A	3B区北包含層2・3、5A区西5層、表採				無頸、口唇反る、象嵌6弁花、貫入	灰色、精良	14末~15C	高麗青磁
1263	陶磁器	天目茶碗・口縁	3B	包含層3	(12.6)			釉黒色、厚くかかる	灰白色、精良	15C	建窯
1264	陶磁器	天目茶碗	3B	4層・d12	(11.8)	5.1	(4.6)	削り出し高台、ベタ高台に近い、体部下丸味、口縁直立気味、体部下、高台は露胎、釉調黒色、厚く、貫入	精良、小礫極微量	16C	瀬戸
1265	陶磁器	縁袖小皿	3B	北側部・包含層3・d8	(12.2)	2.4	(6.2)	底部平底、腰部丸味、体部開く、口唇外反、内面釉ハケヌリ、口縁内外面ツケガケ、外面下半露胎、釉調灰赤、淡緑色	黄白色、精良	15C第2四半期	瀬戸
1266	陶磁器	皿・底部	3B	表採			(4.1)	底部碁笥底、内外面絵付け	白色、精良	15C	
1267	陶磁器	卸皿	3B	包含層1	(12.6)			体部開く、口縁受け口、淡緑色の釉が薄くかかる	乳白色、精良	14C後半~15C前半	瀬戸
1268	陶磁器	直縁大皿	3B	包含層1(3層)	(25.8)	6.4	(11.4)	底部平底、回転篋削り、箕子状圧痕、体部大きく開く、体部下回転ヘラ削り、上半轆轤目、口唇僅かに丸味、釉内外面上半施釉、下半露胎、釉淡黄緑色、薄い、貫入	黄灰白色、精良	14C末~15C	瀬戸
1269	陶磁器	洗	3B	南側部包含層2、東側部4層、4層	(19.6)	6.8	(10.2)	丸底、ベタ底、口唇玉縁、見込み内に砂目、体部下は露胎、他は施釉、緑色に発色	灰白色、精良		瀬戸
1270	陶磁器	施釉播鉢?・口縁	3B	西側部包含層3、包含層1	(29.2)			体部開き、口縁受け口状、内外面上半施釉、淡緑色の透明釉、卸皿?	乳白色、精良	15C前半	瀬戸
1271	陶磁器	瓶?・口縁	3B	包含層1(3層)	(5.6)			口径細く、頸部すばまる、口縁は外反、内面上半は釉、釉調は艶のある淡緑色で貫入が入る	乳白色、精良		瀬戸
1272	陶磁器	四耳壺・口縁	3B	西側部・4層	(11.0)			口縁部折り返し、2次被熱	精良	13C後半~14C前半	瀬戸
1273	陶磁器	碗・底部	3B	南側部・6層			(4.4)	削り出し蛇の目高台、体部下露胎、見込み内蛇の目釉剥ぎ、銅緑釉	黄白色、精良	17C後半	肥前
1274	陶磁器	鉢?・底部	3B	斜面部B			(7.8)	足高の高台、体部開く、内面蛇目釉剥ぎ、蛇目部分に重ね焼き痕、外面露胎、釉調透明感の褐色	灰褐色、精良	18C~	
1275	土器	小皿	3B	斜面部西3層	(6.0)	1.3	(4.2)	摩耗、底部糸切り切り離し不明、体部短く外傾、口縁内外面タール?付着、口縁部のみ黒変、灯明具か	精良		
1276	土器	小皿	3B	6層	(7.0)	1.5	(5.6)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く	精良		
1277	土器	小皿	3B	6層	(6.4)	1.5	(5.5)	摩耗、体部短く僅かに開く	精良		
1278	土器	小皿	3B	斜面部東3層	(6.4)	1.4	(5.4)	摩耗、底部糸切り切り離し不明、体部短く外反気味	精良		
1279	土器	小皿	3B	包含層1(3層)	(6.5)	1.3	(5.2)	摩耗、底部糸切り?、体部短くやや開く	精良		
1280	土器	小皿	3B	包含層1(3層)	(5.8)	1.6	(4.1)	摩耗、底部糸切り?、体部短くやや開く	精良		
1281	土器	小皿	3B	包含層1(3層)	(7.2)	1.4	(6.0)	やや摩耗、底部糸切り、体部短くやや開く	精良		
1282	土器	小皿	3B	6層	(7.9)	1.4	(5.8)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く	微砂粒微量、精良		
1283	土器	小皿	3B	6層	(7.4)	1.7	(5.0)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く	精良		
1284	土器	小皿	3B	斜面部B	(7.2)	1.5	5.8	摩耗、底部糸切り?、体部短く直立	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1285	土器	小皿	3B	包含層1	(6.6)	1.6	(5.8)	底部糸切り? 体部短く直立気味、内外面灰黒色、瓦質に近い	精良		
1286	土器	小皿	3B	包含層3	(6.6)	1.6	(5.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く直立気味	精良		
1287	土器	小皿	3B	西側部・4層	(6.0)	1.7	(5.2)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く僅かに外反	精良		
1288	土器	小皿	3B	西側部・4層	(5.0)	1.5	(4.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く開く	精良		
1289	土器	小皿	3B	斜面部西3層	(7.6)	1.6	(6.0)	底部糸切り、体部短く開く	精良		
1290	土器	小皿	3B	包含層1 (3層)	(6.1)	1.2	(6.2)	摩耗、底部糸切り?、体部短く直立	精良		
1291	土器	小皿	3B	斜面部西4層	(6.0)	1.3	(5.4)	底部糸切り、体部極めて短く直立、底部器肉厚い、内面轆轤目	精良		
1292	土器	小皿	3B	包含層1	(7.2)	1.7	(3.8)	摩耗、底径小さく、体部ハの字状に開く、口唇面取り状	精良		
1293	土器	小皿	3B	包含層1 (3層)	(8.4)	1.8	(4.2)	やや摩耗、底部糸切り、体部八字状に開く	精良		
1294	土器	小皿	3B	斜面部	(7.0)	1.5	4.0	やや摩耗、底部糸切り、体部開き、口縁僅かに直立気味	精良		
1295	土器	小皿	3B	包含層3	(10.6)	1.2	(7.0)	摩耗、底部糸切り、体部開く、内面轆轤目	精良		
1296	土器	小皿	3B	包含層1 (3層)	(9.6)	1.9	(5.5)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、器肉薄い、やや堅致	精良		
1297	土器	小皿	3B	6層	(8.1)	2.6	(5.3)	摩耗、体部僅かに開き、強いナデ、口唇直立	精良		
1298	土器	小皿・底部	3B	西側部・4層			(4.1)	摩耗、体部開く	精良		
1299	土器	小皿・底部	3B	斜面部西3層			(4.0)	摩耗、底部糸切り? 体部開く、器肉薄い	精良		
1300	土器	小皿・底部	3B	斜面部			3.8	摩耗、底部糸切り、底径小、体部開く	精良		
1301	土器	小皿・底部	3B	6層			(5.0)	摩耗、底部糸切り?、体部短く開く	精良		
1302	土器	坏	3B	斜面部東4層	(11.2)	2.9	(6.0)	底部糸切り、体部開く、器肉やや薄い	精良		
1303	土器	坏	3B	斜面部3層	(12.5)	3.3	(9.0)	摩耗、底部整形粗い、体部外反気味に開く、器肉厚い	精良		
1304	土器	坏	3B	d13	(11.6)	3.5	7.6	やや摩耗、底部糸切り、体部開く、口唇尖る、内面弱い轆轤目	精良		
1305	土器	坏	3B	斜面部西5層	(11.0)	3.6	6.2	底部糸切り、体部僅かに丸味、口唇尖る、体部外面強い轆轤目、器肉薄い	精良		
1306	土器	坏	3B	包含層2	(12.0)	3.2	(8.6)	底部糸切り、粗い、体部下半丸味、上半は直線的に開く、内面へら描き沈線記号?、堅致、赤褐色	精良		
1307	土器	坏	3B	6層	(10.8)	3.8	(6.7)	摩耗、底部糸切り?、体部やや開く、強いナデ、器肉厚い	精良		
1308	土器	坏	3B	斜面部西5層	(11.0)	3.4	(6.6)	摩耗、底部糸切り、体部僅かに丸味	精良		
1309	土器	坏	3B	6層	(10.4)	3.3	(7.0)	底部糸切り、体部直線的に僅かに開く、内外面弱い轆轤目、やや堅致、内外面赤褐色	精良		
1310	土器	坏	3B	3層	(13.2)	2.7	(8.0)	摩耗、底部糸切り?、体部開く、強いナデ、器肉厚い	精良		
1311	土器	坏	3B	d4	(10.8)	3.5	(7.0)	摩耗、底部糸切り?、整形粗い、体部開き、口縁直立気味、口唇尖る、器肉厚い	精良		
1312	土器	坏	3B	東側部・4層	(12.2)	(3.7)	(7.8)	底部糸切り、体部開く、外面強いナデ、内面轆轤目、内外面赤褐色	精良		
1313	土器	坏	3B	黄褐色盛土層・d104	11.2	3.6	6.3	摩耗、底部切り離し不明、円盤状を呈する、体部開き、口縁直線的に立ち上がる、口唇尖る、内面中央凹む	精良		
1314	土器	坏	3B	包含層1	(10.0)	3.6	(6.0)	底部糸切り、体部やや開き、口縁直立気味、内外面轆轤目、器肉やや厚い、やや堅致	精良		
1315	土器	坏	3B	黄褐色盛土層・d105	(12.4)	3.3	(7.6)	摩耗、底部糸切り?、体部開き、口縁僅かに立ち上がり気味、内面整形やや粗い	精良		
1316	土器	坏	3B	包含層1 (3層)	(11.0)	3.6		摩耗、底部糸切り?、体部丸味を持って開く	精良		
1317	土器	坏	3B	斜面部	(11.3)	2.2	4.8	底部糸切り、体部大きく開く、堅致	精良		
1318	土器	坏	3B	斜面部2層	(11.2)	2.9	5.3	摩耗、底部糸切り? 箕子状圧痕、整形粗い、実測図では高台に見えるものの平底、体部開く、口唇尖る	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1319	土器	坏・底部	3B	サブトレ2			(5.3)	摩耗、箕子状圧痕? 体部開く	精良		
1320	土器	坏・底部	3B	斜面部西3層			5.9	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、器肉薄い	精良		
1321	土器	坏・底部	3B	斜面部、包含層1			(6.2)	摩耗、底部切り離し不明、体部大きく開く、器肉やや薄い	精良		
1322	土器	坏・底部	3B	包含層1			6.1	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、黄褐色	精良		
1323	土器	坏・底部	3B	斜面部			5.2	摩耗、底部箕子状圧痕、整形粗い、体部大きく開く、体部器肉薄い	精良		
1324	土器	坏・底部	3B	斜面部西3層			(5.8)	やや摩耗、底部全面に箕子状圧痕、体部開く	精良		
1325	土器	坏・底部	3B	斜面部			4.7	摩耗、底部箕子状圧痕、整形粗い、体部大きく開く	精良		
1326	土器	坏・底部	3B	斜面部西3層			(5.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部大きく開く、器肉やや薄い	精良		
1327	土器	坏・底部	3B	包含層1・m106			5.9	摩耗、底部切り離し不明、体部大きく開く、体部の器肉薄い	精良		
1328	土器	坏・底部	3B	包含層1・m103			6.0	摩耗、落剥、底部切り離し不明、体部大きく開く	精良		
1329	土器	坏・底部	3B	包含層3			(5.2)	底部糸切り、体部開く	精良		
1330	土器	坏・底部	3B	包含層2			5.0	底部糸切り、体部開く、外面弱い轆轤目	精良		
1331	土器	坏・底部	3B	斜面部西5層			6.0	摩耗、底部糸切り、体部開く、内面底凹む、器肉薄い	精良		
1332	土器	坏・底部	3B	包含層1・m104			5.0	摩耗、底部糸切り?、箕子状圧痕?、体部開く	精良		
1333	土器	坏・底部	3B	3層			5.5	底部糸切り、体部開く	精良		
1334	土器	坏・底部	3B	斜面部A			(5.6)	底部糸切り後ナデ?、体部大きく開く、底部器肉薄い	精良		
1335	土器	坏・底部	3B	斜面部西5層			(6.0)	底部糸切り、体部やや開く、内面底凹む、体部外面強い轆轤目、器肉やや薄い	精良		
1336	土器	坏・底部	3B	TR2			(5.6)	摩耗、底部糸切り整形粗い、体部開く	精良		
1337	土器	坏・底部	3B	斜面部東4層			(6.0)	底部箕子状圧痕、整形粗い。体部開く	精良		
1338	土器	坏・底部	3B	表土下			(5.3)	底部糸切り、体部開く、自然鉄分沈着	精良		
1339	土器	坏・底部	3B	包含層3			(6.1)	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1340	土器	坏・底部	3B	d5			5.3	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1341	土器	坏・底部	3B	包含層2			4.6	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1342	土器	坏・底部	3B	包含層1・m102			5.5	摩耗、落剥、体部開く	精良		
1343	土器	坏・底部	3B	TR1バンク・包含層3			(6.0)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く	精良		
1344	土器	坏・底部	3B	斜面部西3層			5.5	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、整形粗い、体部大きく開く、器肉やや薄い	精良		
1345	土器	坏・底部	3B	斜面部2層			5.5	底部糸切り、整形粗い、体部開く、底部乾燥時のひび割れ、内面僅かに煤	精良		
1346	土器	坏・底部	3B	西側部・4層			(6.6)	摩耗、底部糸切り?、体部僅かに開く	精良		
1347	土器	坏・底部	3B	表土			(5.1)	底部糸切り、体部開く、自然鉄分沈着	精良		
1348	土器	坏・底部	3B	包含層2			(4.8)	底部糸切り、体部丸味、やや歪み、堅致、赤褐色	精良		
1349	土器	坏・底部	3B	包含層2			3.5	やや摩耗、底部糸切り、底径小	精良		
1350	土器	坏・底部	3B	包含層3			(4.0)	摩耗、底部切り離し不明、整形粗い、底径小、体部開き気味	精良		
1351	土器	坏・底部	3B	西側部包含層1 (3層)			(4.2)	摩耗、底部糸切り、底径小、体部開く	精良		
1352	土器	坏・底部	3B	斜面部			3.8	底部糸切り、箕子状圧痕、やや粗い、底径小、体部直線的に開く	精良		
1353	土器	坏・底部	3B	包含層3			(6.4)	やや摩耗、底部糸切り、体部反る、器肉やや厚い	精良		
1354	土器	坏・底部	3B	包含層1 (3層)			(5.8)	底部糸切り、体部丸味、歪み、内外面強い轆轤目、焼成堅致、炆器質に、赤褐色	精良		



第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1355	土器	坏・底部	3B	南側部・5層			(6.2)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや開く、内外面轆轤目	精良		
1356	土器	坏・底部	3B	西側部・4層			(6.0)	摩耗、底部糸切り？、体部開く、強いナデ、器肉厚い	精良		
1357	土器	坏・底部	3B	包含層1・m101			6.5	摩耗、底部糸切り、体部開く、内面底凹む	精良		
1358	土器	坏・底部	3B	表土			(8.2)	底部糸切り、体部直立気味	精良		
1359	土器	ミニチュア	3B	斜面部東3層				小壺のミニチュアか？頸部に簾状？の鋭い線刻、下半器肉厚い	精良		
1360	土器	高台付皿	3B	斜面部東3層			(5.2)	円柱状の脚が付く、脚部裾ハの字状に開く、底部糸切り、皿部開く	精良		
1361	土器	羽釜・口縁	3B	包含層1 (3層)				断面方形状の大きな鏝、口縁轆轤目	砂粒多量	15C	河内
1362	土器	鍋・口縁	3B	包含層3	(18.0)			口縁を貼付して、鏝にする、口縁反る、体部外面斜タタキ、他はナデ、赤褐色	砂粒多量	15C中～後半	播磨
1363	土器	鍋・口縁	3B	包含層1	(21.4)			口縁に断面三角形の鏝、体部ヨコナデ	微砂粒多量	15～16C	播磨
1364	土器	鍋・口縁	3B	包含層3	(25.0)			口縁内傾気味、口縁に断面方形状の鏝、口唇平坦、外面体部タタキ、他はナデ、赤褐色	砂粒多量		播磨
1365	瓦質土器	羽釜・口縁	3B	包含層1 (3層)	(16.0)			断面方形状の大きな鏝、口縁轆轤目、口唇平坦、内面ヨコハケ	微砂粒多量	15C	河内
1366	瓦質土器	羽釜・口縁	3B	西側部包含層1 (3層)	(21.8)			断面不定方形状の大きな鏝、口縁轆轤目、口唇平坦、内面ヨコハケ	微砂粒多量	15C中	河内
1367	瓦質土器	羽釜・口縁	3B	包含層1・m105	(21.6)			内傾気味に立ち上がる、口縁に大きな鏝、断面方形、口唇平坦、体部ヘラ削り、口縁強いナデ、内面ナデ	微砂粒多量	15C	河内
1368	瓦質土器	鍋・口縁	3B	斜面部	(21.0)			口縁内傾気味、断面三角形の低い鏝貼付、口唇平坦、内外面ナデ	微砂粒多量、金雲母微量		播磨系、搬入品か？
1369	瓦質土器	鍋・口縁	3B	6層・d124	(18.8)			体部下半はすぼまり、上半はほぼ直線的に立ち上がる、口唇肥厚せずナデ、外面指頭、内面ヘラナデ、内外面黒灰色	精良	14C後半～15C	土佐型
1370	瓦質土器	播鉢・口縁	3B	包含層1	(30.0)			摩耗、体部開き気味、口唇平坦、内面細い条線	微砂粒多量	15C	在地
1371	瓦質土器	火鉢・口縁	3B	斜面部				波状口縁、口唇平坦、内面にキザミ、口縁下に円形透かし	砂粒多量、金雲母微量		
1372	瓦質土器	風炉	3B	包含層1 (3層)			厚 (1.1)	脚部欠損、縦格子の文様、丸味のある横位突帯紋、赤褐色	微砂粒多量		
1373	瓦質土器	風炉・脚部装飾	3B	西側部・3層	長 (4.1)	幅 (2.8)	厚 (3.1)	脚部装飾、円孔2つ、赤褐色	微砂粒少量、精良	15C	
1374	瓦質土器	風炉・脚部	3B	包含層1	高 (3.7)	幅 (3.0)		摩耗、獣脚か、黄褐色	微砂粒少量		
1375	炆器	捏ね鉢・口縁	3B	斜面部	(29.0)			口縁を斜に肥厚、内外面ナデ、口縁のみ黒色、他は灰色	白色鉱物粒多量	13C後半～14C前半	東播磨
1376	炆器	捏ね鉢・口縁	3B	西側部・4層	(27.4)			口縁拡張、立ち上がる	微砂粒少量	13C中～後半	東播
1377	炆器	播鉢・口縁	3B	6層・d125	(29.8)			体部直線的に開く、口唇平坦、6条の条線、間隔が開く、内外面黒褐色	砂粒多量	14C初～中	備前Ⅲ期
1378	炆器	播鉢・口縁	3B	斜面部西4層	(27.0)			体部直線的にやや開く、口唇平坦で端部を内外にやや拡張、条線8条浅く間隔開く	微砂粒多量	14C前～中	備前Ⅲ期
1379	炆器	播鉢・口縁	3B	包含層2				片口、口縁外面を斜に肥厚させる	砂粒少量、灰白色	14C後半	備前ⅢB期
1380	炆器	播鉢	3B	包含層1・m108	(25.0)	10.7	(12.4)	平底、体部直線的に開く、口縁斜に肥厚させる、内面8条の条線、間隔開く、外面指頭、ナデ整形粗い、内外面灰色	砂粒少量	15C中～後半	備前Ⅳ期
1381	炆器	播鉢・口縁	3B	包含層1 (3層)	(32.8)			口縁拡張立ち上がる、口唇斜、内面7条の播り目	灰色、砂粒少量	16C前半	備前ⅤA
1382	炆器	播鉢・口縁	3B	斜面部B	(34.4)			口縁肥厚して立ち上がる、口唇内側に斜に、内外面ナデ	砂粒少量	16C中	備前
1383	炆器	播鉢・底部	3B	包含層1 (3層)			(15.8)	平底、内外面ナデ、内面播り目、間隔が開く、条線幅広で深い、内外面赤褐色	小礫、砂粒多量	15C	備前Ⅳ
1384	炆器	播鉢・底部	3B	表土下			(12.7)	平底、砂底？整形粗い、体部大きく開く、条線6条幅広い、間隔開く	黄褐色、小礫多量	14C後半～15C	備前
1385	炆器	小壺・底部	3B	斜面部東3層			(5.8)	底部糸切り、平底、体部僅かに外傾して立ち上がる、内面底自然釉？、外面赤褐色、内面灰色	灰色、精良		備前

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1386	炆器	小壺・底部	3B	表土			(9.0)	底部糸切り、平底、体部僅かに外傾して立ち上がる、内外面ナデ、赤褐色	灰色、精良		備前
1387	炆器	壺・底部	3B	西端4層d14			(10.4)	平底、整形やや粗い、内面回転ナデ、外面自然釉が垂る、内外面褐紫色	白色鈹物粒多量		備前
1388	炆器	鉢？・底部	3B	3層、TR2			(12.1)	底部凸凹砂底？、体部直線的に立ち上がる、外面轆轤、指頭、ナデ、内面轆轤、ナデ、内外面赤褐色	小礫、砂粒少量、精良		備前？
1389	炆器	甕・口縁	3B	斜面部	(47.4)			口縁折り返し丸く肥厚、内外面ナデ	小礫多量	15C前半～中	備前甕IV期
1390	土製品	土鍾	3B	3層	長3.8	径1.0	重2.3	小型、筒状	精良		
1391	土製品	土鍾	3B	斜面部B	長3.9	径1.2	重3.6	筒状	精良		
1392	土製品	土鍾	3B	包含層1 (3層)		径1.1	重(2.6)	筒状	精良		
1393	土製品	土鍾	3B	斜面部B	長3.4	径1.1	重3.0	筒状、2次被熱	精良		
1394	土製品	土鍾	3B	包含層2	長3.7	径1.1	重3.3	やや小型、筒状	精良		
1395	土製品	土鍾	3B	包含層1 (3層)	長4.0	径1.1	重3.8	やや小型、筒状	精良		
1396	土製品	土鍾	3B	西側部・3層		径1.1	重(2.8)	筒状	精良		
1397	土製品	土鍾	3B	西側部・4層		径(1.1)	重(3.8)	筒状	精良		
1398	土製品	土鍾	3B	包含層1		径1.1	重(2.6)	筒状	精良		
1399	土製品	土鍾	3B	包含層2		径1.1	重(3.1)	筒状	精良		
1400	土製品	土鍾	3B	包含層3		径1.1	重(2.3)	筒状	精良		
1401	土製品	土鍾	3B	包含層1 (3層)		径1.1	重(2.4)	筒状	精良		
1402	土製品	土鍾	3B	包含層2		径0.9	重(1.3)	筒状	精良		
1403	土製品	土鍾	3B	包含層3		径1.1	重(2.4)	筒状	精良		
1404	土製品	土鍾	3B	包含層1 (3層)		径(1.1)	重(1.9)	筒状、2次被熱	精良		
1405	土製品	土鍾	3B	包含層1 (3層)		径1.2	重(2.9)	筒状	精良		
1406	土製品	土鍾	3B	斜面部A	長3.6	径1.4	重(2.9)	筒状	精良		
1407	土製品	土鍾	3B	包含層1 (3層)	長(4.1)	径1.4	重(5.0)	筒状	精良		
1408	土製品	土鍾	3B	包含層1 (3層)		径1.6	重(5.8)	大型、筒状、2次被熱	精良		
1409	土製品	土鍾	3B	斜面部B	長4.3	径1.3	重7.0	筒状	精良		
1410	錢貨	古銭	3B	北側部・包含層・br7	径24.0mm	厚1.1mm	孔径6.2mm	開元通寶？、表裏面摩滅	銅		
1411	錢貨	古銭	3B	斜面東・3層	径25.4mm	厚1.8mm	孔径7.6mm	景元通寶？、裏面摩滅	銅		
1412	金属製品	不明銅製品	3B	3層	長(3.1)	厚0.4		銅碗？	銅		
1413	金属製品	不明銅製品	3B	3層・1001	長(1.7)	幅(1.4)	厚0.3	獣足？	銅		
1414	金属製品	引手金具	3B	包含層3・br8	長(2.4)	幅(0.9)	厚(0.5)	引手金具把手、中央部蕨？、先端部銹	銅		
1415	金属製品	銅製金具	3B	1005	長(1.3)	幅(1.9)	厚(0.6)	角環、座は欠損	銅		
1416	金属製品	銅製金具	3B	3層	長(1.8)	厚0.3		引手金具か、銹	銅		
1417	金属製品	筒状銅製品	3B	斜面・br2	長4.6	径1.4		筒状、中空、両端部折り返す	銅		
1418	金属製品	不明銅製品	3B	3層・1001	長3.1	幅2.3	厚0.5	楕円形、中央部が凹む	銅		
1419	金属製品	不明銅製品	3B	包含層2・br1	長(6.8)	幅(1.8)	厚(0.4)	短冊状、捻れる	銅		
1420	金属製品	鉄製針？	3B	南側部・灰色土	長(3.7)	径0.3		縫い針？頭部欠損、先端部尖る	精良		
1421	金属製品	鉄釘	3B	斜面・te1	長(6.1)	幅1.1	厚0.2	頭部肥厚、先端部欠損、断面長方形、扁平	鉄		
1422	金属製品	鉄釘	3B	斜面東・3層	長(4.1)	径1.2		頭部肥厚、先端部欠損、断面方形	鉄		
1423	金属製品	鉄釘	3B	東側部・4層	長(5.1)	径1.0		頭部肥厚、先端部欠損、断面方形	鉄		
1424	金属製品	鉄釘	3B	3層	長(3.7)	径0.7		両端欠損、断面方形	鉄		
1425	金属製品	鉄釘	3B	3層	長(3.0)	径1.0		両端欠損、断面円形、鏽のため中空	鉄		
1426	金属製品	鉄釘	3B	3層	長(3.5)	径0.6		頭部欠損、先端部尖る、断面方形	鉄		
1427	瓦	軒丸瓦	3B	包含層2・k17				珠文、三つ巴	精良		
1428	瓦	軒丸瓦	3B	東側部・4層				珠文のみ残存	精良		
1429	瓦	丸瓦	3B	k67	長(21.9)	幅(9.5)	厚2.8	凸面ナデ、凹面布目、斜状コビキ、紐吊り痕	精良		
1430	瓦	丸瓦	3B	斜面部東3層	長(16.0)	幅(11.2)	厚3.5	摩耗、整形不明	精良		

第Ⅱ章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1431	瓦	丸瓦	3B	2層、表土下	長 (20.5)	幅 (12.0)	厚2.8	凸面ヘラナデ、凹面布目、斜状コビキ、紐吊り痕	精良		
1432	瓦	丸瓦	3B	包含層2	長 (16.4)	幅 (8.1)	厚2.2	凸面ヘラナデ、凹面布目	精良		
1433	瓦	丸瓦	3B	表土下	長 (11.5)	幅 (7.8)	厚2.2	凸面ヘラナデ、凹面布目、紐吊り痕	精良		
1434	瓦	丸瓦	3B	包含層3	長 (15.7)	幅 (13.1)	厚2.5	凸面ナデ、凹面斜状コビキ、紐吊り痕	精良		
1435	瓦	丸瓦	3B	北側部・包含層3・k55	長 (9.9)	幅 (12.7)	厚3.0	凸面布目、ナデ、凹面布目、斜状コビキ	精良		
1436	瓦	丸瓦	3B	包含層3・k59	長 (15.1)	幅 (11.4)	厚2.5	凹面布目、紐吊り痕、凸面ナデ	精良		
1437	瓦	丸瓦	3B	北側部・包含層3・k58	長 (13.0)	幅 (11.9)	厚2.1	凸面ヘラナデ、凹面布目	精良		
1438	瓦	軒丸瓦	3B	斜面部東3層				唐草文	精良		
1439	瓦	平瓦	3B	北側部・包含層3・k52	長29.0	幅23.6	厚2.3	凸面離れ砂、凹面布目	砂粒少量		
1440	瓦	平瓦	3B	包含層1	長 (20.9)	幅 (17.0)	厚2.1	摩耗、両面離れ砂?	精良		
1441	瓦	平瓦	3B	2層	長 (18.9)	幅 (11.9)	厚2.1	凸面離れ砂、凹面ナデ	精良		
1442	瓦	平瓦	3B	k51	長 (20.0)	幅 (11.8)	厚2.1	凸面布目、斜状コビキ、凹面ナデ	精良		
1443	瓦	平瓦	3B	北側部・包含層3・k59	長 (18.3)	幅 (12.7)	厚2.3	両面離れ砂、一先端部角面取り	精良		
1444	瓦	平瓦	3B	包含層k104001・m101、斜面A	長 (16.1)	幅 (17.2)	厚2.8	凸面離れ砂、斜状コビキ、凹面離れ砂	精良		
1445	瓦	平瓦	3B	北側部・包含層1	長 (13.8)	幅 (13.4)	厚2.4	凸面落剥、凹面ナデ、先端部角面取り	精良		
1446	瓦	平瓦	3B	北側部・包含層3・k60	長 (13.1)	幅 (14.8)	厚2.0	両面離れ砂	精良		
1447	瓦	平瓦	3B	包含層1・m102	長 (14.2)	幅 (16.3)	厚2.4	両面離れ砂、両面褐色	精良		
1448	瓦	平瓦	3B	包含層3・k70	長 (12.3)	幅 (16.9)	厚2.2	両面離れ砂	精良		
1449	瓦	平瓦	3B	北側部・包含層3・k56	長 (12.9)	幅 (14.1)	厚2.5	両面離れ砂	精良		
1450	石製品	石鍋・口縁	3B	包含層1	(21.0)			口縁下に断面三角形の鏝、口唇平坦	滑石	14~15 C	
1451	石製品	砥石	3B	包含層1 (3層)	長 (7.4)	幅 (3.2)	厚 (0.9)	表面平坦、裏面反る、両側縁擦り切り、両先端欠損	頁岩		
1452	石製品	軽石	3B	包含層1	長8.1	幅5.2	厚3.2	右側面がやや平	軽石		
1453	石製品	軽石	3B	包含層2	長8.6	幅6.4	厚3.3	表面の一部がやや摩滅	軽石		

## 第8節 3C区

### 概要

3C区では基壇状遺構を検出した。鈎状に曲った石列内には大型の掘立柱建物が建つ。石列は東側部と北側部に配置し外側の面を整然とではないが面合わせする。石列の内側は幅1m程に乱雑な中礫の裏込め状となっている。北側列は傾斜地に築かれ、盛土により平坦にし、崩落を避けるために巨岩で基礎としている。基礎部分はSD1の上に築かれている。基壇状遺構内には掘立柱建物が建っており、2×6間の大型建物で、東側の中央部に面していたものと考えられる。基壇状遺構より南側でも柱穴を検出しているものの、明確な並びは確認できなかった。大溝SD1については別項で取り上げる（第Ⅱ章第11節参照）。13Cの大溝SD1以外は、14C後半から15C、15C後半から16Cの遺構遺物が本調査区では多い。

#### (1) 基壇状遺構（第89、90、92図、第94、95図1454～1494）

3C区西側部、BIV・Vグリッドに位置する。表土除去後の包含層の上部で検出した。基壇状遺構は礫により構築されており、北側と東側の2列の石列で、「L」状を呈する。軸方向はN-28°-Wである。他の南側、山側の西側には石列はなかった。北側石列は盛土を行ないその上に構築されており、長さ9.1mで外側の面には比較的大きな礫を並べる。石列の下には巨石を使った基礎が大溝SD1の上に構築されていた。東側の石列は南へいくほど並びが不鮮明で長さ8.4m程で消滅する。石列は積み上げることなく1段である。北側石列と東側石列共に内側に中破損礫を幅11m程乱雑に裏込め状に入れる。

基壇状遺構の内側には柱穴を数基確認しており、東西2×南北6間の掘立柱建物跡を検出した。軸方向はN-25°-Wで基壇状遺構と軸方向は若干ずれる。東西列は12m、南北列は4.6mである。柱間は東西列が2.2m、南北列約1.8～2.2mである。また基壇状遺構と北側の斜面部の空間には柱穴等は存在せず、犬走り状に幅1.6～2.2m程平坦部を形成する。基壇状遺構は本遺跡の中核の構築物と考えられる。

出土遺物は基壇状遺構、裏込め石内、建物跡柱穴から出土したものを取り上げる。

#### ①陶磁器

##### 青花皿

1454は碁笥底の口縁か。口縁内絵付け、外面にも。15C後半から16C前半のものである。

##### 青磁連弁文碗

1455は鎬蓮弁文で13C末から14Cのものである。

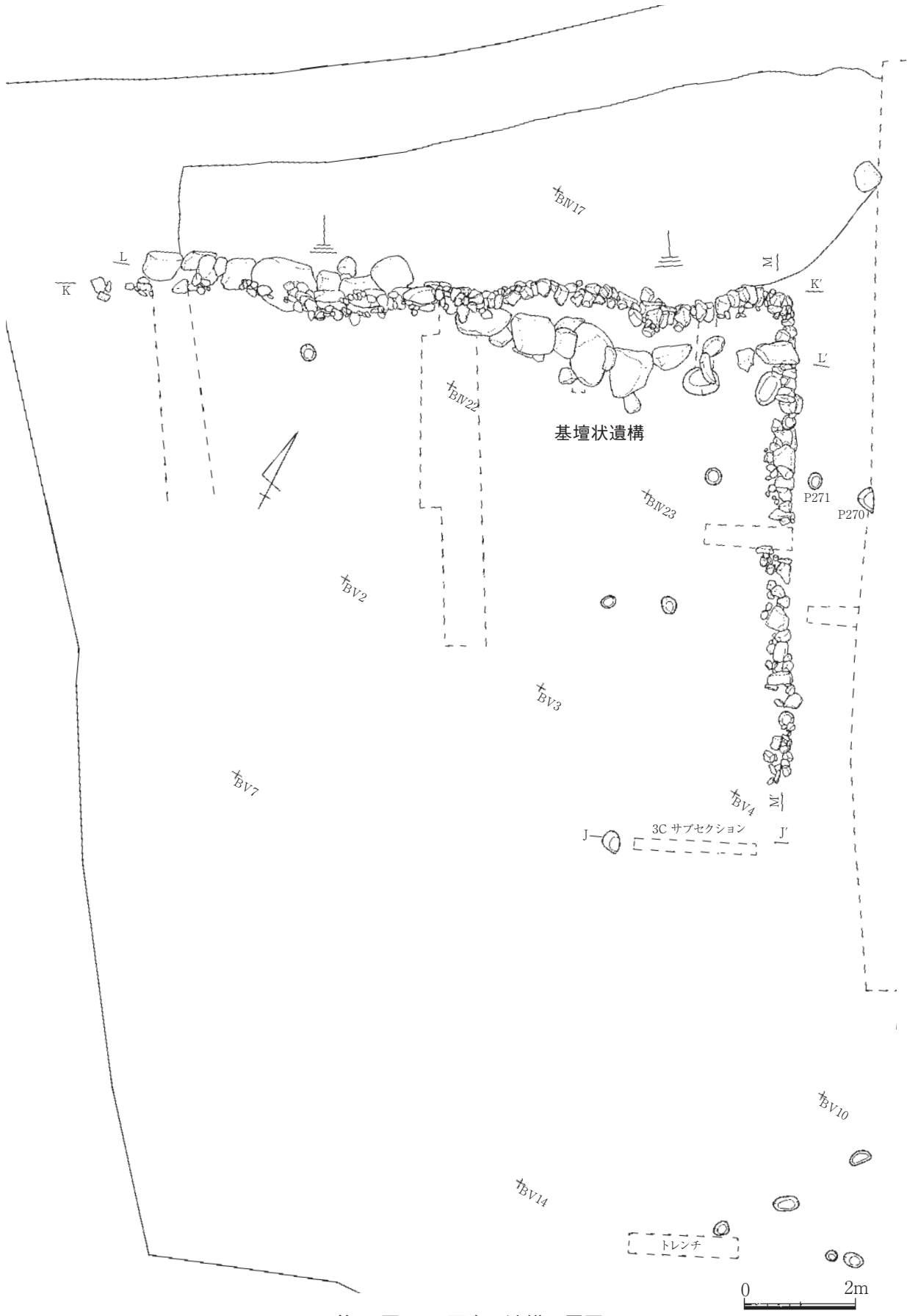
##### 瀬戸折縁深皿

1456は口縁が屈曲し、体部が開く。内外面共に艶のある淡緑色の釉が掛かる。14Cのものである。

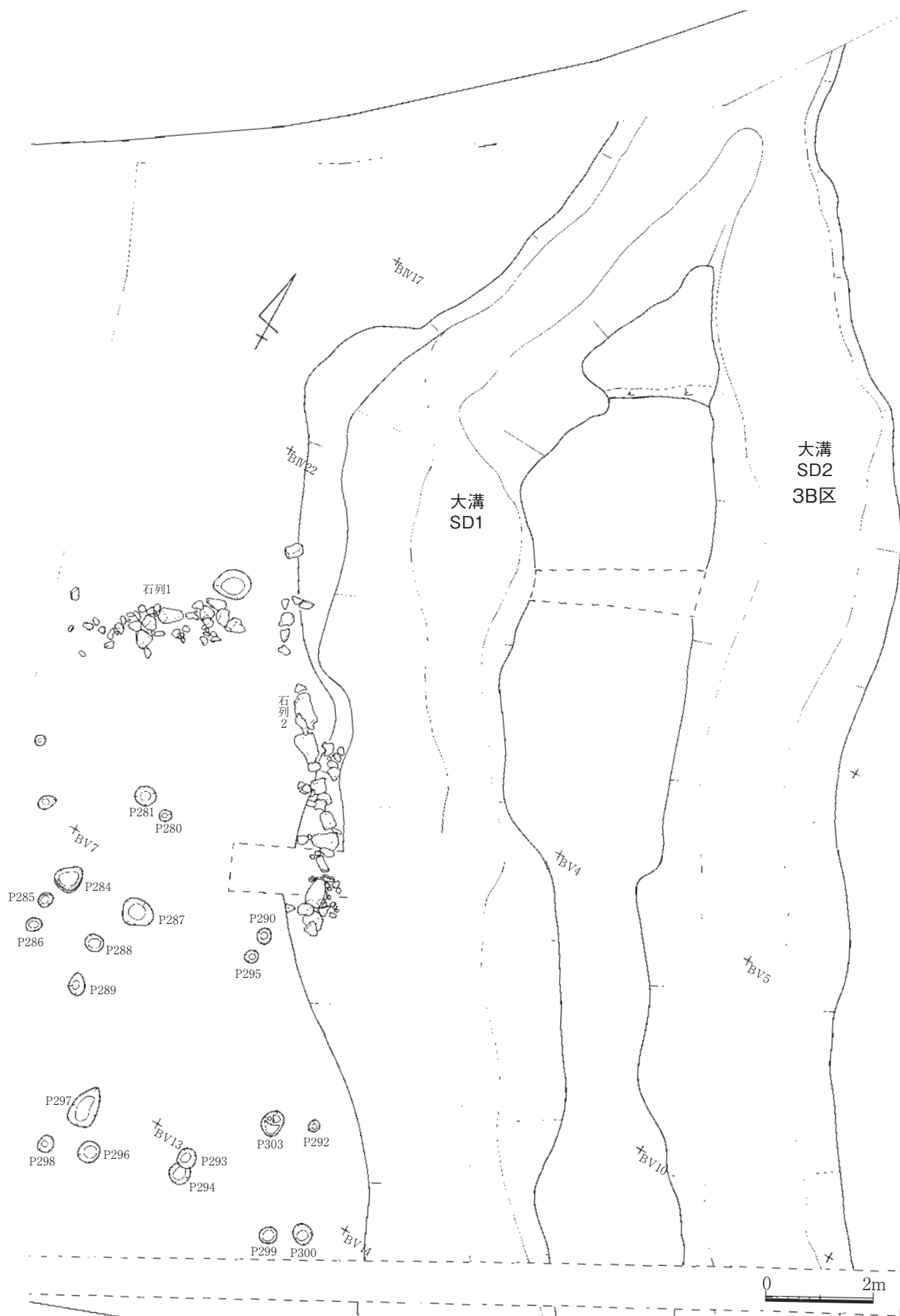
#### ②土器



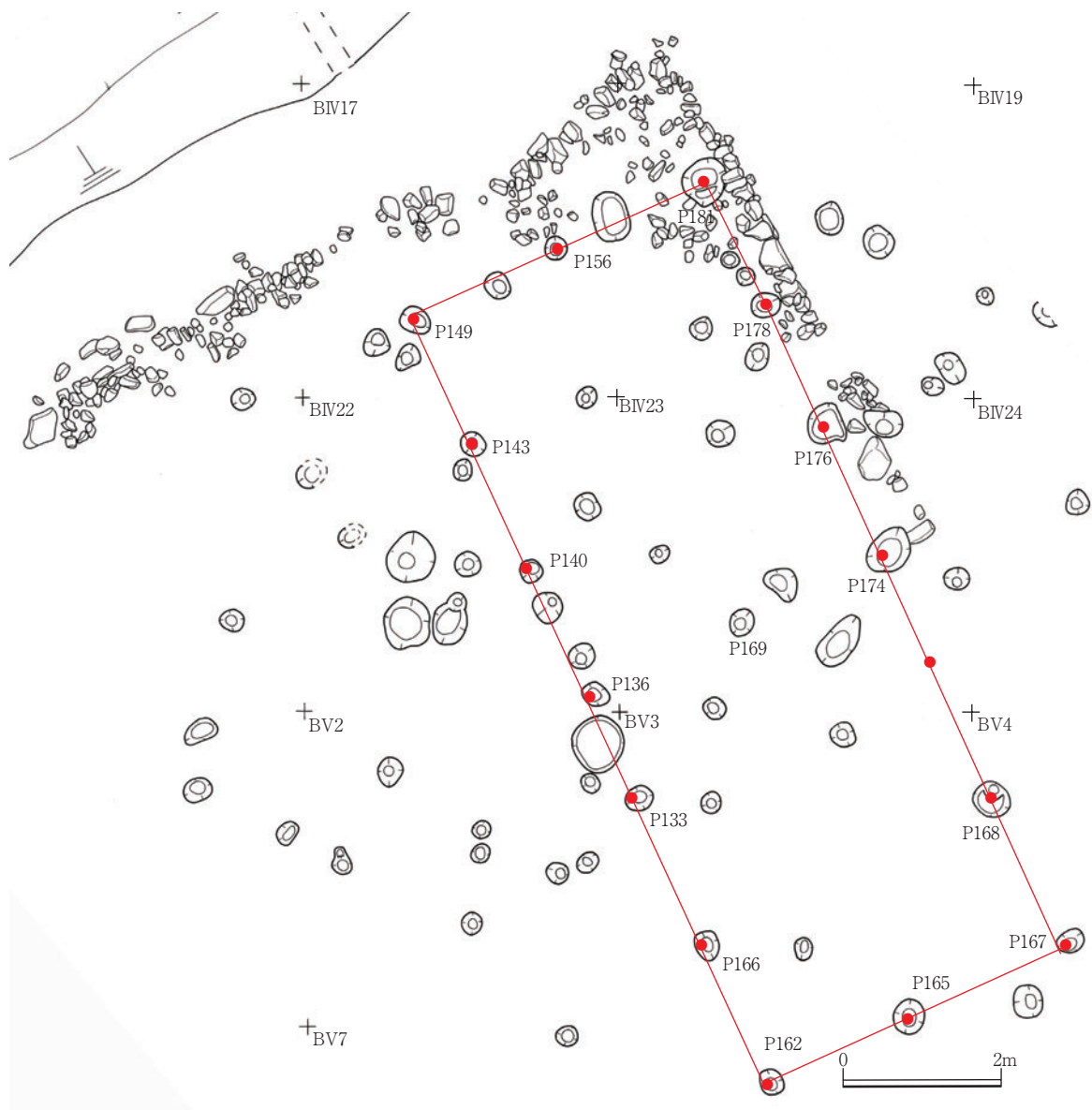
第89図 3C区上面遺構配置図



第90図 3C区中面遺構配置図



第91図 3C区下面遺構配置図



第92図 3C区基壇状遺構

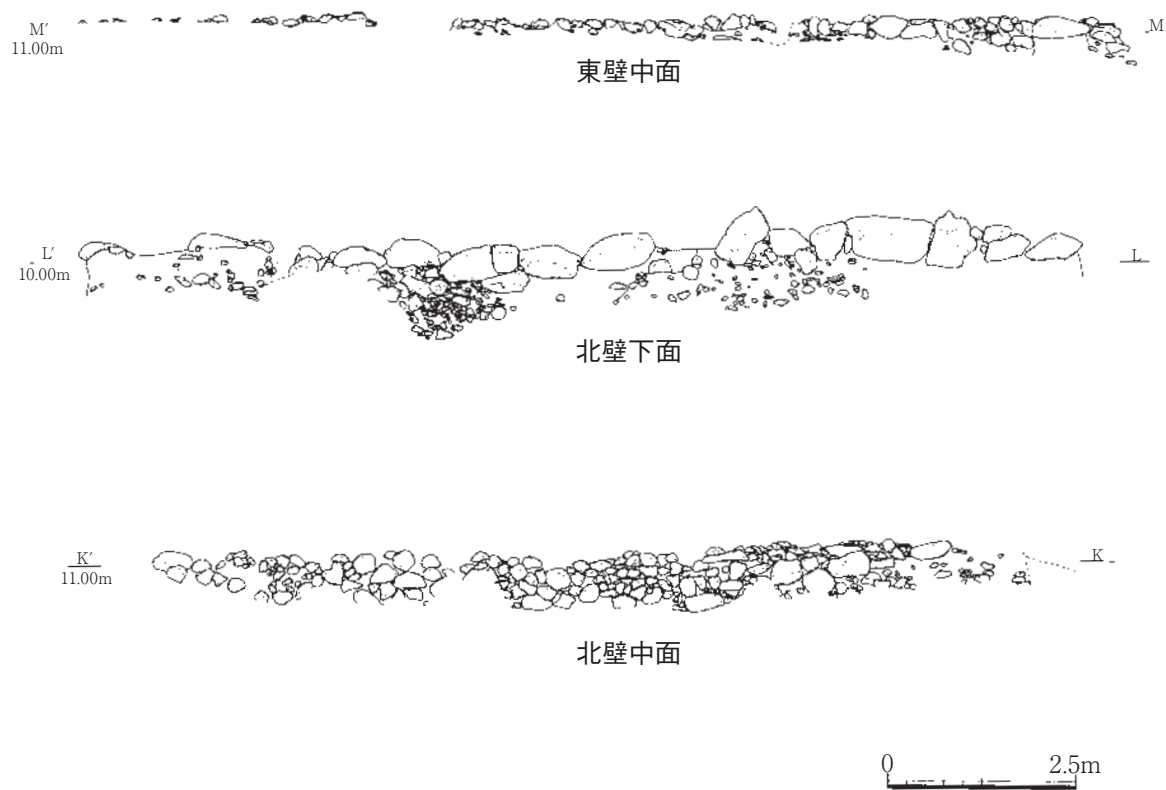
#### 小皿

1457から1464は小皿である。1457は浅く体部が開くもの、1458は浅く内面底は轆轤目で凸る。1459、1460はやや浅く体部が開く。1461、1462は体部が短く立ち上がる。1462は底部の整形は粗い。1463はやや口径、底径が広い。1464は底部破片で体部下半に丸味を持つ。

#### 坏

1465から1478は坏である。1465、1466は皿状に体部が開き、1466は内面底が凹む。1467から1469はやや深くなり、体部が開く。1468、1469は口唇が尖り気味である。1470、1471は体部下半にやや丸味を持つ。1472の体部は僅かに直立気味である。1473、1474は体部が直立気味である。1475は底部破片で外面に轆轤目を残し、黄白色を呈する。1476は内面底が凹む。1477は円柱の脚付きで脚切り離し糸切り、坏部体部は開く。1478は裾広がりの脚部か。





第93図 3C区基壇状遺構立面図

### ③瓦質土器

#### 風炉

1479は風炉の底部で平底である。円形刺突の装飾足が付く。体部下半に丸味のある突帯を貼付する。内外面共に橙黄色を呈する。

### ④炆器

1480は備前の播鉢である。口縁は肥厚せず平坦である。片口を有する。14C中葉のものである。

### ⑤土製品

#### 土錘

1481は細長い筒状のものである。やや大きなものである。

### ⑥瓦

1482は丸瓦で凸面はナデ、凹面には紐吊り痕を残す。

### ⑦掘立柱建物跡柱穴出土遺物

P133からは1483の土器坏底部が1点出土した。摩耗しており、底部糸切りか。体部は開く。

P143からは1484の土器小皿底部が1点出土した。摩耗しており整形は不明である。底径は3.7cmと小さい。

P156からは1485は土器坏底部で底部は回転糸切り、体部は大きく開く。

P165からは1486の青花皿、1487と1488の土器坏の2点が出土している。1486は内外面絵付けを施し、底裏「□□年造」銘を書く。破損部は漆接合を施す。16C中葉以降のものである。1487の土器坏は体部に僅かに丸味を持ち、口唇が尖る。器肉は薄く、外面に強い轆轤目を残す。内外面共に色調は淡黄白色である。1488は底部に簀子状圧痕が残り、体部はやや開く。口唇が尖り、器肉は薄い。外面に強い轆轤目を残す。

P166からは土器坏1489、1490の2点が出土した。1489は体部に僅かに丸味を持ち、器肉は薄い。内外面に強い轆轤目を残す。1490は底部に簀子状圧痕を持ち、体部は僅かに丸味を持って立ち上がる。内外面に強い轆轤目を残す。

P168からは土器坏底部1491の1点が出土した。摩耗しており、整形は不明。体部は開き、底径が4.4cmと小さい。

P176からは土器小皿1492の1点が出土した。体部は短く立ち上がり、外面の整形が沈線状に凸凹になる。

P181からは土器坏底部が2点出土した。1493、1494は共に摩耗しており整形は不明である。体部は開く。

基壇状遺構、裏込めから出土した遺物の時期にはばらつきがある。13Cから14Cの遺物が出土し

ているものの、混入の可能性が強い。また大溝SD1の上に構築されていることから13Cから14Cに遡るものではなく、回りの柱穴からは14C後半から15C前半の遺物が多いことから、14C後半から15C前半をメインとし、15C後半から16C代まで存続していたと考えられる。

## (2) 3C柱穴 (第95図1495～1506)

3C区では柱穴は92基検出している。下層でも22基検出した。ここでは遺物の出土した柱穴のみを取り上げる。

P132からは白磁皿1495の16C前半のもの、ヘラ描き青磁蓮弁文碗1496の15C後半のものが出土している。P134から土器坏1497が出土している。体部がやや開き口唇が尖る。内外面の色調は黄褐色を呈する。P141からは土器坏底部1498が出土している。体部が開く。

P162からは土器小皿底部1499が出土している。摩耗しており、整形は不明である。体部は開く。P171からは土器坏底部1500が出土している。底部に簀子状圧痕を持ち、体部が開く。体部外面は強い轆轤目で、器肉は薄い。内外面共に黄白色である。1501は備前産の播鉢で口唇は平坦である。14C前半から後半のものである。P179からは土器底部1502が出土している。底部に簀子状圧痕を残し、体部は開く。内外面に轆轤目を残し、黄白色を呈する。

P287からは土器坏底部1503が出土している。体部は開く。P288からは土器坏底部1504、1505の2点が出土している。1505の底径は4.4cmと小さい。P292からは白磁皿1506が出土している。口唇が外反し16C前半のものである。

## (3) 3C区遺物包含層出土遺物 (第95～99図1507～1643)

北端の斜面地からの出土遺物が最も多かった。

### ①陶磁器類

#### 白磁

坏は2点出土している。1507は口縁が端反り、体部下半は露胎となっている。15C後半のものである。1508は八角坏で口縁は反る。削り出し高台は露胎となっている。15C後半のものである。

#### 青花

皿は2点出土している。共に底部破片である。1509は畳付けが釉剥ぎ、見込み内は玉取り獅子文様である。高台には界線が巡る。15C後半のものである。1510は碁笥底で底裏が露胎となっている。見込み内に文様を持つ。15C後半のものである。

#### 青白磁

梅瓶の底部破片が2点出土している。別個体である。1511は体部が直立気味で外面に文様を持つ。畳付けは釉剥ぎである。1512は体部が外反気味で外面に文様を持つ。高台は高く、畳付けが釉剥ぎ、底裏は露胎となっている。共に13C代のものである。

#### 青磁

小碗1513は高台で底部はすぼまり小さい。畳付けと底裏は無釉である。体部外面は蓮弁文である。13C後半以降のものか。

碗は多く6点出土している。1514から1517は14Cから15Cのもので、1515は陰刻草花文である。1516は無文である。1517も無文で大型品である。1518は無文で15C後半のものか。1519は蓮弁文碗で15Cのものである。

盤1520は口縁が折れるように屈曲し、端部を摘みあげる。内面には丸鑿による幅広の多条の文様を施す。13C末から14Cのものである。

#### 瀬戸

瀬戸の製品が4点出土している。合子1521は小型で無頸である。肩部に沈線が巡る。内外面に艶のある淡緑色の釉が掛かる。14Cから15Cのものである。卸皿1522は体部が外傾し、口縁は受け口状になる。内面には播り目、釉は褐色の発色である。15C前半のものである。折縁深皿1523は口縁が強く屈曲する。口縁内に2条の溝が巡る。体部は開き、外面に轆轤目を残す。14C末から15Cのものである。直縁大皿1524は体部が大きく開き、口唇に丸味を持つ。体部外面には轆轤目を残す。内外面には淡緑色の釉が掛かる。14C末から15Cのものである。

#### 甕

1525は14Cの備前産と考えられる。口縁は玉縁、肩部が張る。内面はハケ整形である。外面が灰色、内面は褐色を呈する。

#### その他

染付碗1526は広東碗で19Cのものである。

## ②土器

### 小皿

小皿は1527から1558で、その中で底部破片は1552から1558である。1527から1532は浅く体部が開く。1533から1538はやや浅く開く。1538及び1539の体部はやや外反気味である。1539、1540の体部は直立気味である。1541から1545はやや深く体部が開く。1546から1550は体部が外傾気味である。その中で1549、1550はやや大きく深い。1547は底部中央に焼成前の円孔を穿つ。1551は体部に丸味を持つ。

### 坏

坏は1559から1604で、その中で1576から1604は底部破片である。1559から1567は皿状で浅い。1559は中でも体部は短く浅い。1568、1569は外傾気味に大きく開く。1570から1575は深い。1575は箱形を呈する。1604はベタ高台状の底部である。

### 高坏

1605、1606は柱状を呈する。

### 不明

1607は高坏の脚部状を呈する。底部糸切りで、中は中空である。

### 鍋

1608、1609は口縁下に低い鍔が付く。1608は口縁内外がヨコナデ、体部がタタキ整形である。1609は口縁内外面がナデ、体部外面がタタキ整形である。

③瓦質土器

羽釜

1610から1612の3点は14C末から15Cの河内のものである。

釜

1613は口縁下に低い鋳が付く。口縁内外面共にヨコナデ、体部外面が指頭整形である。

火鉢

1614は平底で体部下半に丸味のある突帯を巡らす。

風炉

1615は口唇が平坦、口縁に縦格子の文様、口縁下には丸味のある突帯を巡らせ、肩部は張る。  
1616は脚部の飾り部分で円形刺突2ヶ所を施す。

④炆器

挿鉢

1617から1620は備前産のものである。1617は口縁が肥厚しないもので14C中葉のものである。  
1618は口縁がやや肥厚する。1619は底部に砂粒を多量に含むもので、共に15C前半のものである。  
1620は口縁が肥厚するもので片口が付く。15C後半のものである。

甕

1621は平底で体部が直線的に開く。外面はハケ整形、色調は外面が赤褐色、内面が灰褐色を呈する。備前産か。

⑤土製品

土錘

1622から1627は細長い筒状のものである。小型のものである。

⑥金属製品

飾り金具

1628は円形の飾り金具である。鉤状を呈し、中央部がやや盛り上がる。銅製である。

鉄鍋

1629は上半部が膨らみ、ややカーブする。口径50cm弱の大型品である。

不明鉄製品

1630は緩やかに曲る。外面は平滑で厚みがある。鉄鍋の可能性はある。

釘

1631から1635は鉄釘で、断面が方形で頭部を折り曲げる和釘である。1635は頭部が幅広で断面長方形を呈する。楔の可能性もある。

⑦瓦

#### 丸瓦

1636は瓦当が部分欠損か。凸面は縄目叩き、凹面が紐吊り痕を残す。自然鉄分が沈着する。

#### 平瓦

1637から1641は離れ砂、斜コビキを残すものである。自然鉄分が沈着する。

### ⑧石製品

#### 軽石

1642は楕円形でやや扁平である。使用痕跡は不明である。

#### 五輪塔

1643は水輪部で上面の半分程が残存し他は欠損する。上面中央部は加工により平坦で他は平滑である。部分的に被熱か。

#### (4) 3C区小結

本調査区の主体となる遺構は基壇状遺構である。時期は14C後半から15C前半と想定され、本遺跡の中枢の時期でまた本遺跡を代表する構築物である。基壇状遺構の機能、性格は基壇状遺構の内側には掘立柱建物跡を伴うことから建物跡の外郭に相当すると考えられる。長宗我部地検帳では「□坊ヤシキ」、「□城アリ宮床」に相当する可能性があり、「□城アリ宮床」は「一所社壇 弐間四間 同横殿弐間十二間 王子権現」となっている。王子権現は現在の皇子神社に相当すると考えられるものの、皇子神社は遺跡の向かい側に勧請されており、城もないところから、別の場所から新しく移し替えられたものと考えられる。地検帳に掲載された城は本遺跡側の上にある皇子山城跡と考えられ、地検帳段階では本遺跡側のどこかにあった可能性が強い。「同横殿弐間十二間」と大きな建物であったと考えられ、基壇状遺構内の掘立柱建物跡が2間×6間と大きく、基壇状遺構が地検帳段階以前の王子権現に相当する可能性があるものの定かではない。

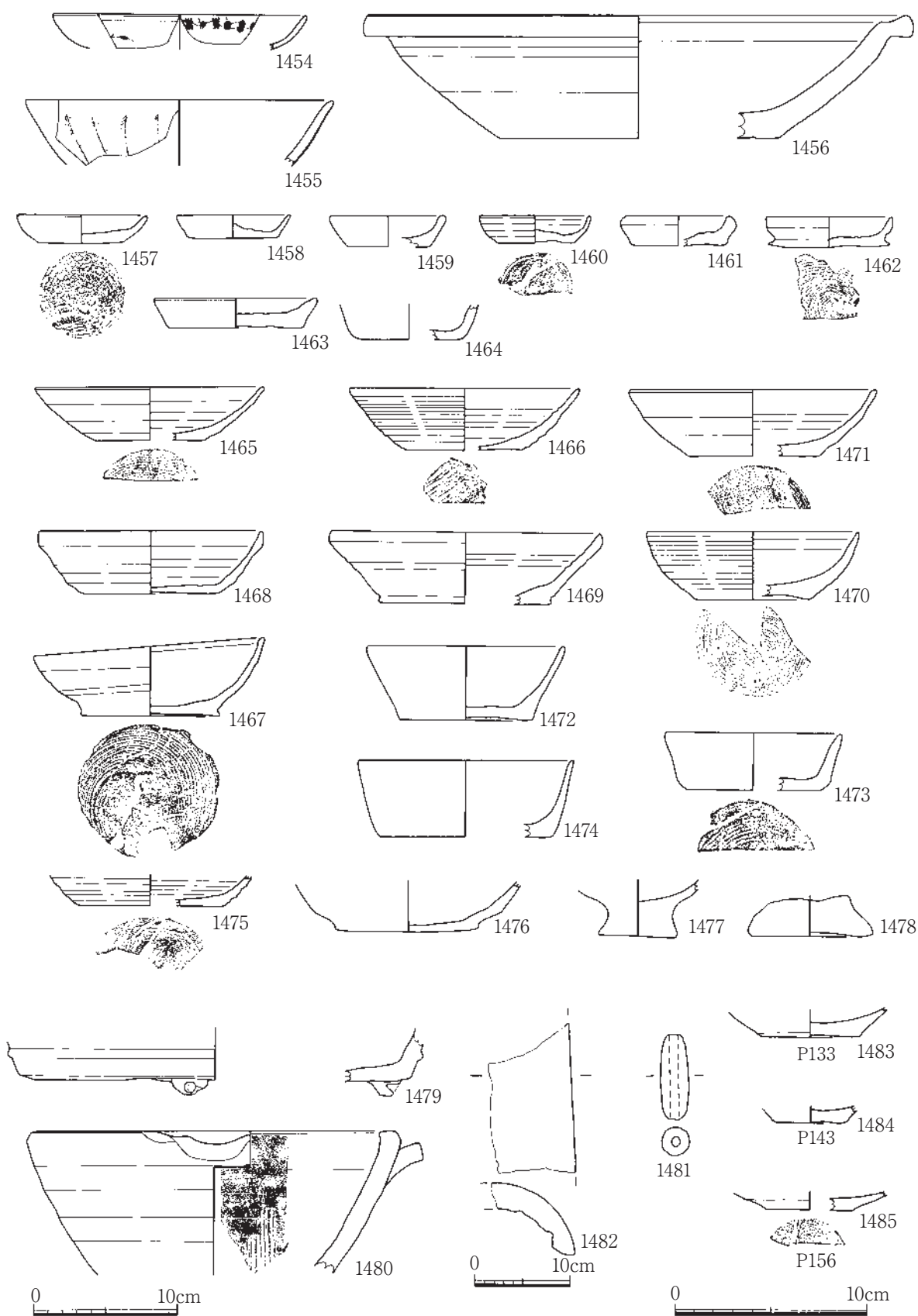
出土遺物は基壇状遺構からは青花皿1454、青磁蓮弁文碗1455、瀬戸折縁深皿1456、備前播鉢1480の時期が分かるものが出土しているものの、15C後半から16C前半、13C末から14C、14C代、14C中葉とばらつきがある。掘立柱建物跡の柱穴からは青花皿1486の16C中葉のものが出土しており、やはり時期的にばらつきが認められる。周辺域の柱穴からも15C後半から16C代、また遺物包含層からは14C後半から15C、15C後半代の遺物群が出土していること、13Cから14Cの大溝SD1の上に構築されていることを勘案すると、基壇状遺構は14C後半から15C前半をメインとし、15C後半から16C代まで存続していた可能性がある。

遺物包含層からの遺物は斜面地からの出土が多く、平坦部分からの出土は少なかった。輸入陶磁器は白磁、青花、青白磁、青磁が出土しており、13C代の青白磁梅瓶1511、1512、13C末から14Cは青磁蓮弁文碗1455、青磁盤1520、14C後半から15Cは青磁碗が多くなる。15C後半代は玉取り獅子、無文の青磁碗が引き続き出土し、青花皿は16C代まで出土する。白磁は15C後半から16Cにかけての坏、皿類が出土するようになる。他の調査区に比べ15C後半から16Cのものがやや多い。

国内品では瀬戸が目立ち、合子1521が14Cから15Cのもので、他の雑器類も14Cから15Cのもので、折縁深皿1456、1523等が出土している。

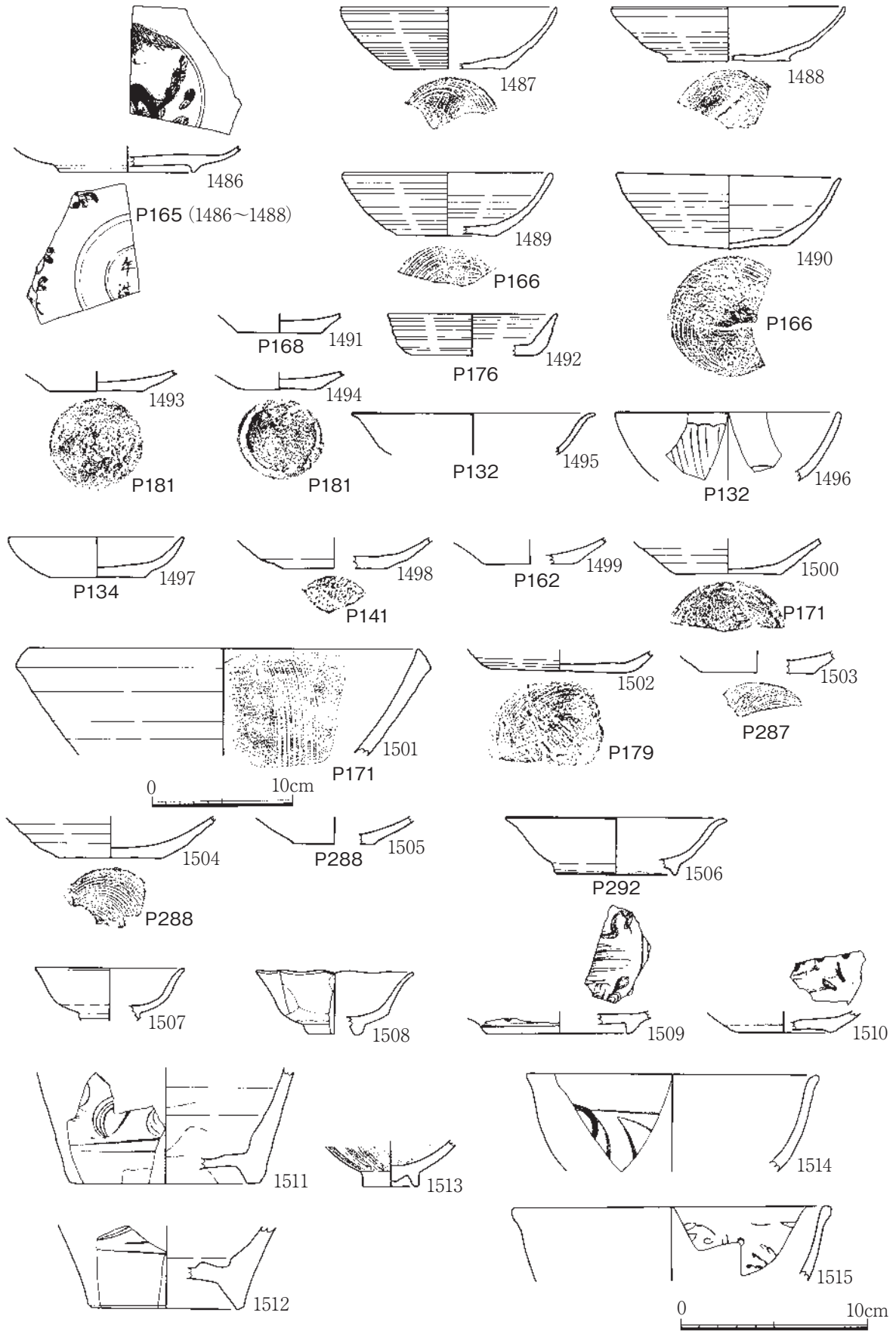
什器類は調理具播鉢が14C中葉から15C後半までのものが出土している。煮沸具羽釜は14C末から15Cの河内のものが多い。供膳具は土器小皿、坏類で纏まって出土する傾向にはなく、北側斜面地からの出土が多い。什器類以外には他に風炉、瓦類、土鍾等が若干出土している程度で、本調査区を特徴付ける出土状況にはない。

出土遺物は他の調査区に比べ特に相違は認められず、本遺跡の中枢構築物と考えられる基壇状遺構を特徴付ける遺物、出土状態は認めがたい。

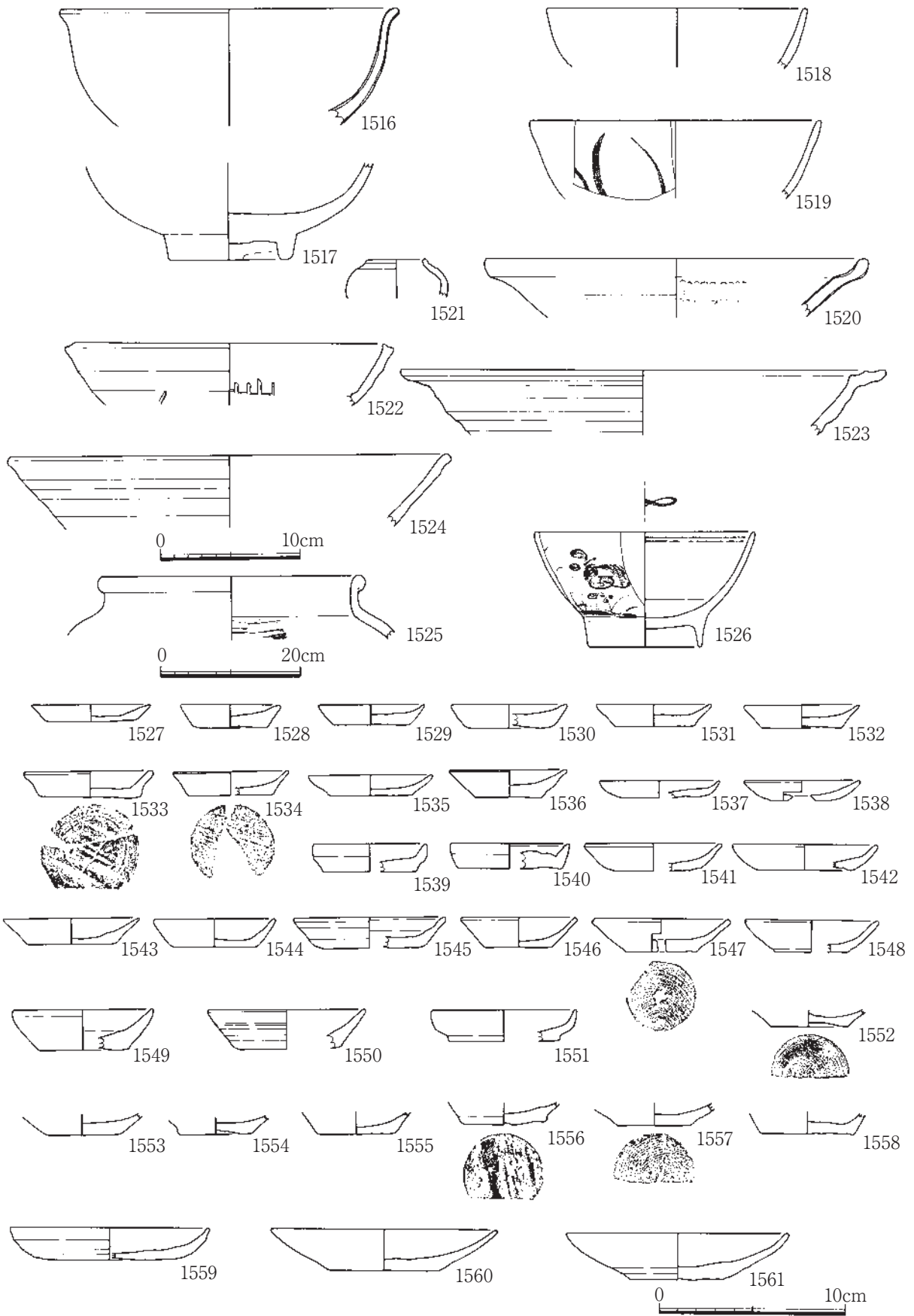


第94图 3C区基壇状遺構・柱穴遺物実測図

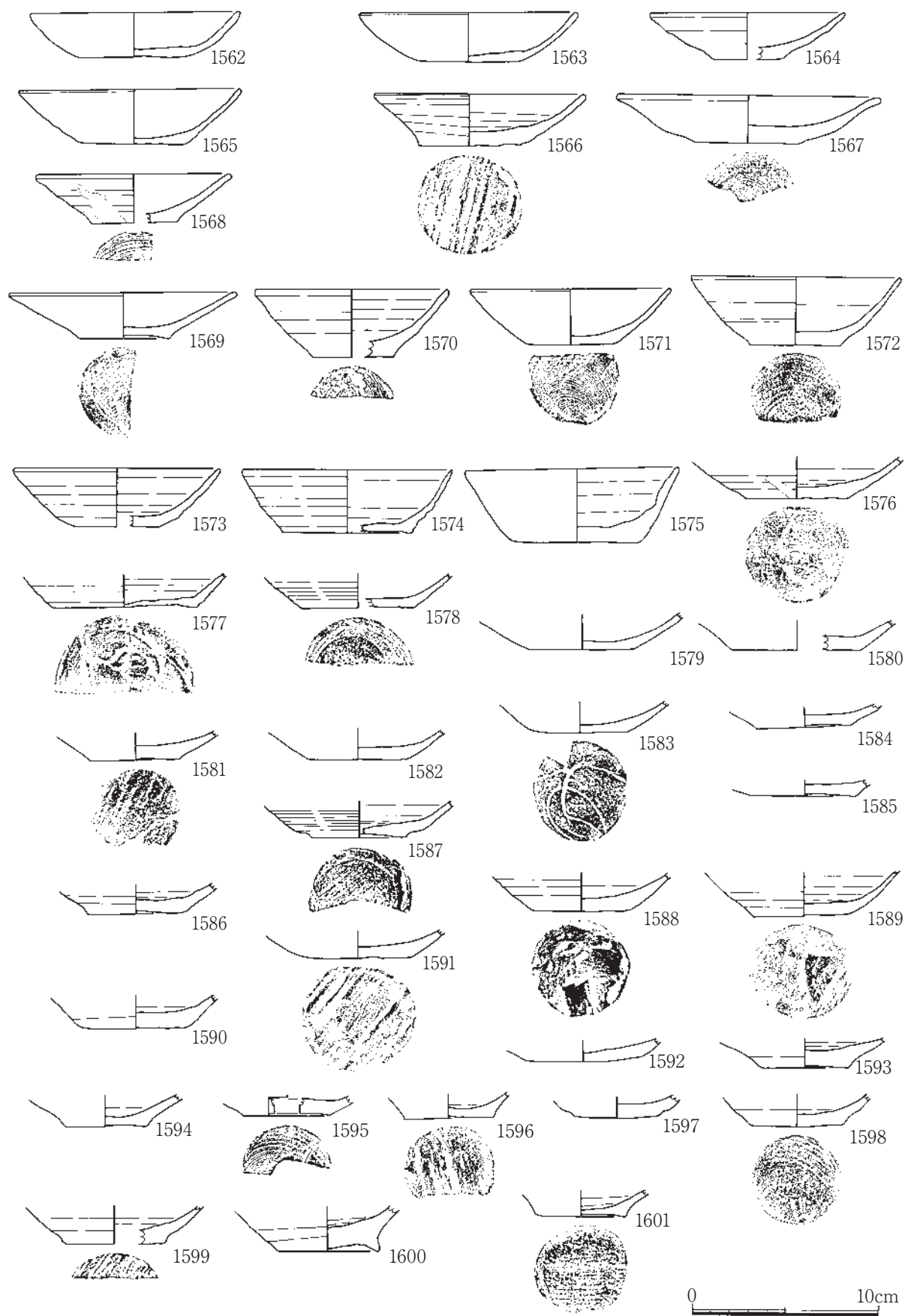




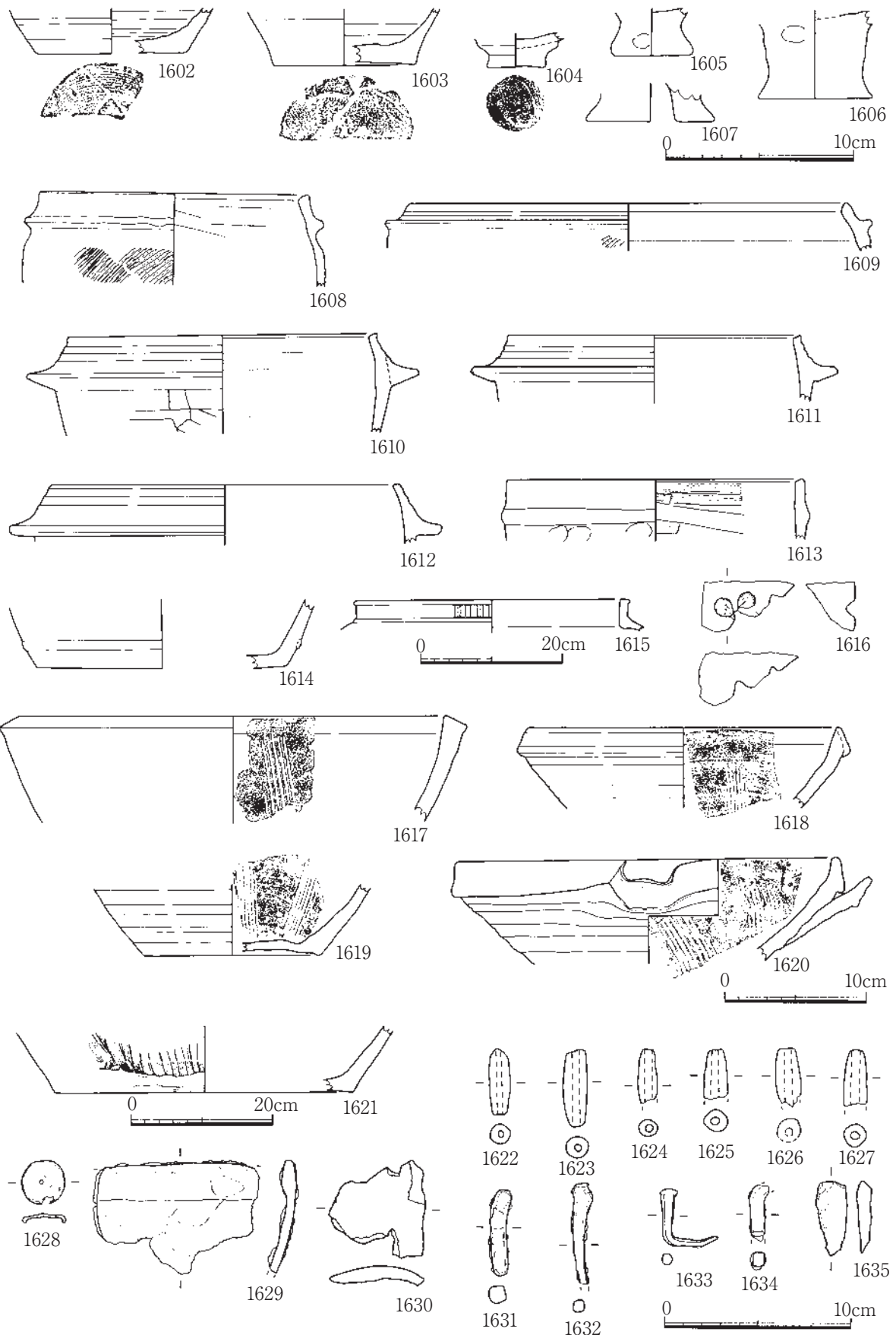
第95図 3C区遺物実測図1



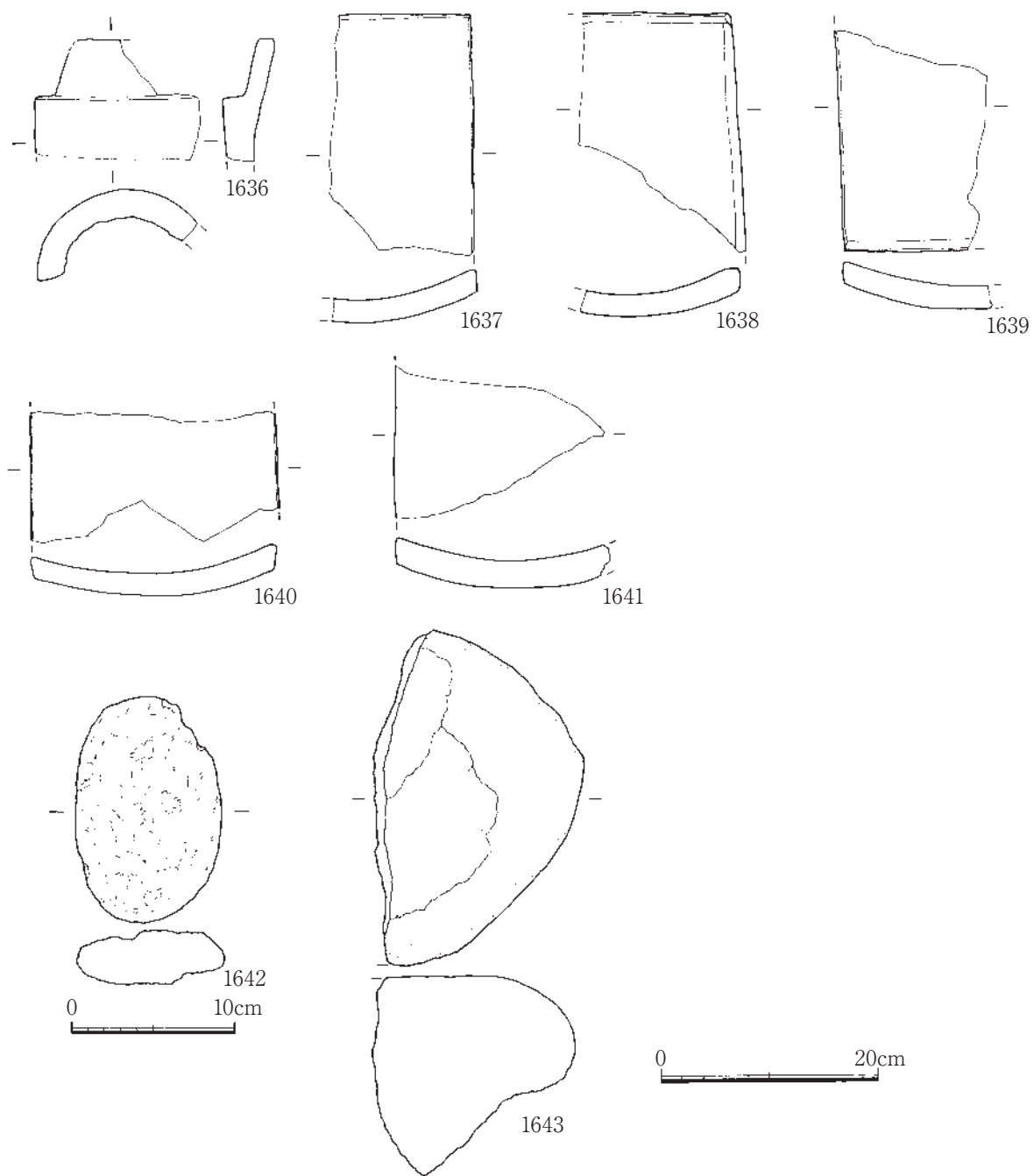
第96図 3C区遺物実測図2



第97図 3C区遺物実測図3



第98图 3C区遺物実測图4



第99図 3C区遺物実測図5

表9 3C区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1454	陶磁器	青花皿・口縁	3C	基壇状遺構・裏込め5層	(13.0)			基筒底の口縁か。口縁内絵付け、外面にも	白色、精良	15C後半～16C前半	染付皿C群
1455	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3C	基壇状遺構・裏込め5層	(16.0)			外面蓮弁文、貫入	灰白色、精良	13C末～14C	
1456	陶磁器	折縁深皿・口縁	3C	基壇状遺構・d20	(27.8)	6.4	(14.6)	口縁屈曲、体部開く、内外面艶のある淡緑色の釉	乳白色、精良	14C	瀬戸
1457	土器	小皿	3C	基壇状遺構・裏込め5層・d49	6.8	1.5	4.5	底部糸切り、体部短く開く、内面底ナデ	精良		
1458	土器	小皿	3C	基壇状遺構	(5.9)	1.2	4.7	摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる、内面底轆轤目、凸る	精良		
1459	土器	小皿	3C	基壇状遺構	(6.0)	1.6	(4.4)	摩耗、底部切り離し不明、体部短くやや外傾	精良		
1460	土器	小皿	3C	基壇状遺構・裏込め	(5.7)	1.4	(4.0)	摩耗、底部糸切り、体部短く立ち上がる	精良		
1461	土器	小皿	3C	基壇状遺構・裏込め5層・d2	(5.2)	1.6	(5.0)	摩耗、底部糸切り？、体部短く立ち上がる、体部器肉厚い	砂粒少量		
1462	土器	小皿	3C	基壇状遺構・裏込め5層・d2	(6.6)	1.6	(6.4)	底部糸切り、底部脇粘土はみ出し整形粗い、内面底轆轤目	精良		
1463	土器	小皿	3C	基壇状遺構	(8.3)	1.6	7.0	摩耗、底部切り離し不明、体部短く開く	精良		
1464	土器	小皿・底部	3C	基壇状遺構・裏込め5層・d2			(5.8)	摩耗、底部切り離し不明、体部僅かに開く、下半に丸味	精良		
1465	土器	坏	3C	東斜面・石列北東隅・d10	(12.0)	2.8	(5.6)	底部糸切り、体部開く	精良		
1466	土器	坏	3C	基壇状遺構・裏込め5層	(11.8)	3.2	(6.6)	底部糸切り、体部開く、内面底凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
1467	土器	坏	3C	南北石列裏込め・67	12.0	4.1	7.2	底部糸切り、体部やや丸味、外面弱い轆轤目	精良		
1468	土器	坏	3C	基壇状遺構・裏込め5層	(11.5)	3.3	7.0	摩耗、底部糸切り？、簀子状圧痕、体部開く、口縁直立気味、口唇尖る、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
1469	土器	坏	3C	基壇状遺構	(14.0)	3.8	(9.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部開く、口縁やや直立気味	精良		
1471	土器	坏	3C	基壇状遺構	(12.8)	3.5	(6.8)	底部糸切り、体部開く	精良		
1470	土器	坏	3C	基壇状遺構北側、6層	(11.0)	3.5	(6.0)	底部糸切り、体部下やや丸味、口唇尖る、外面轆轤目、堅致	精良		
1472	土器	坏	3C	基壇状遺構・裏込め5層	(10.2)	3.9	(7.0)	摩耗、底部糸切り？、簀子状圧痕、体部直立気味	精良		
1473	土器	坏	3C	基壇状遺構・裏込め6層	(9.1)	3.0	(7.0)	摩耗、底部糸切り、体部直立気味、内面底轆轤目	精良		
1474	土器	坏	3C	基壇状遺構・裏込め5層	(11.2)	4.0	(9.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部直立気味	精良		
1475	土器	坏・底部	3C	基壇状遺構・裏込め			(7.6)	摩耗、底部糸切り？、簀子状圧痕体部開く、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
1476	土器	坏・底部	3C	基壇状遺構・裏込め6層・d94			7.5	摩耗、底部切り離し不明、底部脇はみ出る、体部開く、内面底凹む	精良		
1477	土器	坏・底部	3C	基壇状遺構・裏込め4層			(4.1)	円柱脚付き、脚切り離し糸切り、坏部体部開く	精良		
1478	土器	坏・脚部？	3C	基壇状遺構			(6.5)	摩耗、切り離し不明、裾広がりの脚部か	精良		
1479	瓦質土器	風炉・底部	3C	基壇状遺構			(27.2)	底部平底、円形刺突の装飾足、体部下に丸味のある突帯、内外面橙黄色	微砂粒多量		
1480	炆器	播鉢・口縁	3C	基壇状遺構・d19	(25.2)			口縁肥厚せず、平坦、片口、内面刷り目、内外面ヨコナデ、黒灰色	砂粒多量	14C中	備前ⅢB期
1481	土製品	土錘	3C	基壇状遺構・裏込め5層	長(4.4)	径1.5	重(8.1)	筒状	精良		
1482	瓦	丸瓦	3C	基壇状遺構	長(16.2)	幅(9.0)	厚2.9	凸面ナデ、凹面紐吊り痕	精良		
1483	土器	坏・底部	3C	P133			5.1	摩耗、底部糸切り？体部開く	精良		
1484	土器	小皿・底部	3C	P143			3.7	摩耗、整形不明、底径小	精良		
1485	土器	坏・底部	3C	P156			(4.4)	底部糸切り、体部大きく開く	精良		
1486	陶磁器	青花皿・底部	3C	P165・黒灰粘土層			(7.0)	内外面絵付け、底裏「□□年造」銘、破損部漆接合痕	白色、精良	16C中葉以降	E類

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1487	土器	坏	3C	P165	(11.4)	3.3	(5.9)	底部糸切り、体部僅かに丸味、口唇尖る、器肉薄い、外面強い轆轤目、内外面淡黄白色	精良		
1488	土器	坏	3C	P165	(12.3)	2.9	(6.6)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや開く、口唇尖る、器肉薄い、外面強い轆轤目	精良		
1489	土器	坏	3C	P166	(11.0)	3.4	(5.1)	底部糸切り、体部僅かに丸味、器肉薄い、内外面強い轆轤目	精良		
1490	土器	坏	3C	P166・黒灰色土層・d7	(12.0)	4.0	6.5	底部糸切り、箕子状圧痕、体部僅かに丸味を持って立ち上がる、内外面強い轆轤目	精良		
1491	土器	坏・底部	3C	P168			4.4	摩耗、底部糸切り？、体部開く、底径小	精良		
1492	土器	小皿	3C	P176	(9.0)	2.2	(6.4)	底部糸切り、体部短く立ち上がる、外面整形沈線状の凸凹	精良		
1493	土器	坏・底部	3C	P181・黒灰色土層			5.1	摩耗、底部糸切り切り離し不明、体部開く	精良		
1494	土器	坏・底部	3C	P181・黒灰色土層			4.4	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1495	陶磁器	白磁皿・口縁	3C	P132	(13.0)			腰部やや丸味、口唇外反、内外面灰白色	灰白色、精良	16C前半	
1496	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3C	P132	(12.0)			体部やや丸味、外面へラ描き蓮弁文	灰色、精良	15C後半～	
1497	土器	坏	3C	P134・黒灰色土層	(9.3)	2.2	5.3	摩耗、整形不明、体部やや開く、口唇尖る、内外面黄褐色	精良		
1498	土器	坏・底部	3C	P141			(5.8)	底部切り離し不明、体部開く	精良		
1499	土器	小皿・底部	3C	P162			(5.0)	摩耗、整形不明、体部開く	精良		
1500	土器	坏・底部	3C	P171			(5.6)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、体部外面強い轆轤目、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
1501	炆器	播鉢・口縁	3C	P171・黒灰色土層	(27.6)			体部直線的に開く、口唇外斜に平坦、内外面ヨコナデ、内面8条の浅い条線、内外面褐色	白色鉍物粒多量	14C前半～後半	備前
1502	土器	坏・底部	3C	P179			7.6	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
1503	土器	坏・底部	3C	P287			(6.0)	底部糸切り、体部開く	精良		
1504	土器	坏・底部	3C	P288			(5.7)	底部糸切り、体部開く、外面轆轤目	精良		
1505	土器	坏・底部	3C	P288			(4.4)	摩耗、底部切り離し不明、体部開く、底径小	精良		
1506	陶磁器	白磁皿・口縁	3C	P292	(11.8)	3.1	(6.3)	僅かに丸味を持って外反、口唇外反、量付けのみ釉剥ぎ	灰白色、精良	16C前半	森田編年白磁皿E類
1507	陶磁器	白磁坏	3C	斜面東側部・4層・8	(8.0)	(2.8)	(2.8)	体部下丸味、口縁端反り、体部下露胎	白色、精良	15C後半	白磁D類
1508	陶磁器	白磁八角坏	3C	斜面東側部・4層	(8.4)	3.4	(3.0)	八角、口縁は反る、削り出し高台は露胎	白色、精良	15C後半	白磁D類
1509	陶磁器	青花皿・底部	3C	斜面			(7.8)	量付け釉剥ぎ、見込み内玉取り獅子文様、高台界線	精良	15C後半～	
1510	陶磁器	青花皿・底部	3C	西南部・包含層1			(5.0)	底裏露胎、見込み内文様、碁笥底	白色、精良	15C後半～16C前半	染付皿C群
1511	陶磁器	青白磁梅瓶・底部	3C	4層			(10.2)	体部直立気味、外面文様、量付け釉剥ぎ、2次被熱か	灰白色、精良	13C	
1512	陶磁器	青白磁梅瓶・底部	3C	4層			(8.2)	体部外反気味、外面文様、量付け釉剥ぎ、底裏露胎	灰白色、精良	13C	
1513	陶磁器	青磁小碗・底部	3C	斜面・6層			(3.0)	高台、底部すばまり小さい、量付け、底裏無釉、体部外面蓮弁文	灰白色、精良	13C後半～14C?	
1514	陶磁器	青磁碗・口縁	3C	斜面東側部・4層	(15.2)			体部下丸味、口唇外反、外面雷文の崩れか？	灰白色、精良	14C後半～15C	
1515	陶磁器	青磁碗・口縁	3C	斜面東側部・4層	(16.8)			口縁部やや外反、玉縁状、内面に陰刻草花文	灰色、精良	14C末～15C	
1516	陶磁器	青磁碗・口縁	3C	包含層1・m101	(18.1)			大型品、口縁反る、無文、貫入	灰白色、精良	14C末～15C	
1517	陶磁器	青磁碗・底部	3C	包含層・se2			6.3	大型品、無文、見込み内文様不明、底裏無釉	灰色、精良	14C	
1518	陶磁器	青磁碗・口縁	3C	斜面東側部・4層	(13.6)			体部丸味、無文	灰色、精良	15C後半?	
1519	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3C	黄橙色土層	(15.6)			外面蓮弁文	灰色、精良	15C	
1520	陶磁器	青磁盤・口縁	3C	se6	(20.4)			口縁折れるように屈曲し、端部摘みあげる、丸鑿による内面多条の幅広の条の文様	灰色、精良	13C末～14C前半	

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1521	陶磁器	合子・口縁	3C	斜面・包含層2	(3.0)			小型無頸、肩部に沈線が巡る、内外面艶のある淡緑色の釉	灰白色、精良	14C～15C	瀬戸
1522	陶磁器	卸皿・口縁	3C	6層	(16.5)			体部外傾、口縁受け口状、内面播り目、内外面釉、褐色、被熱	精良	15C前半	瀬戸
1523	陶磁器	折縁深皿・口縁	3C	斜面・5層	(26.0)			口縁強く屈曲、2条の溝、体部開く、外面轆轤目、被熱か、釉葉判然としない	乳白色、精良	14C末～15C	瀬戸
1524	陶磁器	直縁大皿・口縁	3C	斜面	(31.2)			体部大きく開く、口唇丸味、体部外面轆轤目、内外面淡緑色釉、貴入	精良	14C末～15C	瀬戸
1525	陶磁器	甕・口縁	3C	黄褐色盛土層	(37.0)			口縁玉縁、肩部張る、内面ハケ、外面灰色、内面褐色	砂粒少量	14C	備前Ⅲ期
1526	陶磁器	染付碗	3C	TR4	(11.6)	6.2	(6.1)	壘付け釉剥ぎ、外面草花文、見込み内文様、界線	白色、精良	19C	広東碗
1527	土器	小皿	3C	斜面・5層	(6.4)	0.9	(5.2)	自然鉄分沈着、底部簀子状圧痕？、体部浅く開く	精良		
1528	土器	小皿	3C	斜面	(5.3)	1.3	4.0	摩耗、底部切り離し不明、簀子状圧痕、体部浅く開く	精良		
1529	土器	小皿	3C	斜面東側部・4層	(5.6)	1.1	(3.9)	摩耗、底部切り離し不明、体部浅く開く	精良		
1530	土器	小皿	3C	斜面・包含層1～2	(6.2)	1.3	(4.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部浅く開く	精良		
1531	土器	小皿	3C	斜面・6層	(6.2)	1.2	4.2	摩耗、底部切り離し不明、体部浅く開く	精良		
1532	土器	小皿	3C	斜面東側部・4層	(6.2)	1.2	(4.2)	摩耗、底部切り離し不明、体部浅く開く	精良		
1533	土器	小皿	3C	5層	(6.9)	1.4	(5.4)	底部糸切り、簀子状圧痕、体部やや浅く外反	精良		
1534	土器	小皿	3C	斜面西側部・4層	(6.1)	1.3	4.5	底部簀子状圧痕、体部やや浅く外反気味	精良		
1535	土器	小皿	3C	斜面東側部・4層	(6.7)	1.1	4.5	摩耗、底部切り離し不明、体部やや浅く開く	精良		
1536	土器	小皿	3C	斜面西側部・4層	6.3	1.5	3.7	摩耗、底部切り離し不明、体部やや浅く開く	精良		
1537	土器	小皿	3C	斜面東側部・3層	(6.5)	0.9	(4.9)	底部簀子状圧痕、体部浅く開く、器肉薄い	精良		
1538	土器	小皿	3C	北側部・包含層1	(6.1)	1.1	(4.3)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや浅く開く	精良		
1539	土器	小皿	3C	斜面東側部・4層	(6.0)	1.5	(5.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く直立気味	精良		
1540	土器	小皿	3C	斜面・包含層1～2	(6.2)	1.4	(5.6)	底部糸切り、体部短く直立気味、内面底轆轤目	精良		
1541	土器	小皿	3C	東側部・4層	(7.2)	1.5	(5.2)	底部簀子状圧痕、体部やや深く開く	精良		
1542	土器	小皿	3C	6層	(7.6)	1.4	(5.8)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや深く開く	精良		
1543	土器	小皿	3C	斜面西側部・4層	(7.3)	1.4	(5.0)	摩耗、底部切り離し不明、口唇尖る、体部やや深く開く	精良		
1544	土器	小皿	3C	斜面・5層	(6.5)	1.5	(4.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや深く開く	精良		
1545	土器	小皿	3C	斜面・包含層1～2	(8.1)	1.7	(6.0)	摩耗、底部簀子状圧痕？、体部やや深く開く	精良		
1546	土器	小皿	3C	斜面	(6.0)	1.6	3.6	摩耗、底部切り離し不明、体部外傾気味	精良		
1547	土器	小皿	3C	北側部・包含層1	(7.5)	1.8	3.8	底部糸切り、底部中央部に焼成前の径5mmの円孔、体部外傾気味、口唇平坦	精良		
1548	土器	小皿	3C	斜面	(7.1)	1.7	(4.0)	摩耗、底部糸切り、体部外傾気味	精良		
1549	土器	小皿	3C	斜面・5層	(7.5)	2.2	(4.8)	自然鉄分沈着、摩耗、底部糸切り、体部外傾気味	精良		
1550	土器	小皿	3C	斜面・包含層1～2	(8.3)	2.1	(5.8)	摩耗、底部切り離し不明、体部外傾気味	精良		
1551	土器	小皿	3C	斜面・6層	(7.7)	1.7	(6.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部短くやや丸味を持ち直立気味	精良		
1552	土器	小皿・底部	3C	6層			(4.2)	底部糸切り、体部開く、内面底轆轤目、凸る	精良		
1553	土器	小皿・底部	3C	斜面東側部・3層			4.0	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1554	土器	小皿・底部	3C	斜面西側部・4層			4.0	摩耗、底部切り離し不明、簀子状圧痕、体部開く	精良		
1555	土器	小皿・底部	3C	斜面・6層			(4.2)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く開く	精良		



遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1556	土器	小皿・底部	3C	斜面・5層			4.3	底部箕子状圧痕、整形粗い、体部短く開く	精良		
1557	土器	小皿・底部	3C	斜面			4.1	底部糸切り、体部短く開く	精良		
1558	土器	小皿・底部	3C	6層			4.8	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
1559	土器	坏	3C	5層	(10.6)	1.8	(7.2)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く外反	精良		
1560	土器	坏	3C	東斜面・石列北東隅・d9	(12.0)	2.2	(6.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部大きく開く	精良		
1561	土器	坏	3C	斜面・5層	(11.8)	2.6	4.9	摩耗、底部切り離し不明、体部大きく開く	精良		
1562	土器	坏	3C	斜面東側部・4層	(11.1)	2.4	6.1	摩耗、底部糸切り?、体部やや短く外傾	精良		
1563	土器	坏	3C	斜面・6層	(11.6)	2.7	5.6	摩耗、底部箕子状圧痕?、体部やや短く開く	精良		
1564	土器	坏	3C	斜面・包含層1~2	(10.3)	2.5	(3.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1565	土器	坏	3C	斜面・6層	(11.8)	3.1	5.7	摩耗、底部箕子状圧痕、体部開く	精良		
1566	土器	坏	3C	斜面・5層・d128	(11.2)	2.8	5.3	自然鉄分沈着、底部箕子状圧痕、整形粗い、体部開く	精良		
1567	土器	坏	3C	斜面・包含層1~2	(14.0)	2.6	(5.7)	底部糸切り、体部大きく開き、口縁外反	精良		
1568	土器	坏	3C	斜面西側部・4層	(10.2)	2.6	(4.7)	自然鉄分沈着、底部糸切り、体部大きく開く	精良		
1569	土器	坏	3C	斜面西側部・4層	(12.0)	2.5	(4.9)	自然鉄分沈着、底部糸切り、体部大きく開く、体部歪み	精良		
1570	土器	坏	3C	北側部・包含層1	(10.3)	3.7	(4.5)	底部糸切り、体部開く	精良		
1571	土器	坏	3C	北側部・包含層1	(10.6)	3.0	4.8	底部糸切り、体部開く	精良		
1572	土器	坏	3C	斜面	(11.2)	3.7	4.9	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1573	土器	坏	3C	斜面・包含層1~2	(11.0)	3.2	(4.6)	底部糸切り、体部開く、全体に歪み、外面弱い轆轤目	精良		
1574	土器	坏	3C	東側部・4層	(11.2)	3.4	(7.0)	摩耗、底部糸切り、体部やや開く、口唇尖る、外面強い轆轤目	精良		
1575	土器	坏	3C	4層・D16	(11.3)	4.1	(6.8)	摩耗、底部糸切り?、体部やや開く、内面轆轤目	精良		
1576	土器	坏・底部	3C	斜面・5層・d127			5.4	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1577	土器	坏・底部	3C	4層・D19			(7.6)	摩耗、底部糸切り、内面底轆轤目、ナデ	精良		
1578	土器	坏・底部	3C	5層			(6.0)	底部糸切り、体部開く、外面強い轆轤目	精良		
1579	土器	坏・底部	3C	斜面・5層			5.6	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1580	土器	坏・底部	3C	斜面			(6.8)	摩耗、底部切り離し不明、箕子状圧痕?、体部開く	精良		
1581	土器	坏・底部	3C	斜面東側部・4層			4.8	摩耗、底部箕子状圧痕、体部開く	精良		
1582	土器	坏・底部	3C	4層			5.2	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1583	土器	坏・底部	3C	斜面			5.2	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1584	土器	坏・底部	3C	斜面・6層・d130			5.1	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1585	土器	坏・底部	3C	包含層・d2			5.6	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1586	土器	坏・底部	3C	斜面・包含層1~2			5.1	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1587	土器	坏・底部	3C	6層			(5.2)	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内面底凹む、外面轆轤目、煤付着	精良		
1588	土器	坏・底部	3C	斜面東側部・3層			5.2	摩耗、底部切り離し不明、整形粗い、体部開く	精良		
1589	土器	坏・底部	3C	斜面西側部・4層			5.5	摩耗、底部箕子状圧痕?、体部開く、	精良		
1590	土器	坏・底部	3C	斜面・包含層1~2			5.9	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1591	土器	坏・底部	3C	斜面・6層・d131			5.7	底部箕子状圧痕、体部開く	精良		
1592	土器	坏・底部	3C	包含層・d18			6.2	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1593	土器	坏・底部	3C	斜面西側部・4層			4.7	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
1594	土器	坏・底部	3C	斜面・3層			(4.4)	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1595	土器	坏・底部	3C	斜面			(4.6)	底部糸切り、体部開く	精良		
1596	土器	坏・底部	3C	斜面西側部・4層			4.8	自然鉄分沈着、底部箕子状圧痕、体部開く	精良		
1597	土器	坏・底部	3C	斜面			(4.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部開く	精良		
1598	土器	坏・底部	3C	斜面・包含層1~2			5.0	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1599	土器	坏・底部	3C	斜面西側部・4層			(5.6)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く	精良		
1600	土器	坏・底部	3C	斜面西側部・4層			5.4	摩耗、底部整形粗い、底部器肉厚い、体部開く	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1601	土器	坏・底部	3C	斜面西側部・4層			4.9	自然鉄分沈着、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く	精良		
1602	土器	坏・底部	3C	斜面・5層・d127			(7.8)	摩耗、底部糸切り、体部開く、内面轆轤目	精良		
1603	土器	坏・底部	3C	6層			(7.5)	摩耗、底部糸切り?、体部開く、内面轆轤目	精良		
1604	土器	坏・底部	3C	6層			3.0	ベタ高台状の底部、糸切り	精良		
1605	土器	高坏?脚部	3C	斜面・3層			4.2	柱状、摩耗、切り離し不明	精良		
1606	土器	高坏?脚部	3C	斜面・6層・d129			6.0	柱状、摩耗、底部糸切り?	精良		
1607	土器	不明	3C	斜面東側部・3層			(6.8)	高坏の脚部状、底部糸切り、中は中空	精良		
1608	土器	鍋・口縁	3C	斜面東側部・3層	(19.0)			口縁直立気味、口唇平坦、口縁下鏝、口縁内外ヨコナデ、体部タタキ、堅致、内外面赤褐色	微砂粒多量		
1609	土器	鍋・口縁	3C	斜面東側部・4層	(31.0)			口縁やや外反気味、口唇内側に斜、口縁下に断面三角形の鏝、口縁外面ナデ、体部外面タタキ、煤付着	砂粒少量		
1610	瓦質土器	羽釜・口縁	3C	斜面・6層	(22.0)			断面不定方形の大きな鏝、口縁轆轤目、口唇平坦、口縁内面ヨコナデ、ハケ、外面煤付着	微砂粒多量	14C末～15C	河内
1611	瓦質土器	羽釜・口縁	3C	斜面・6層・d135	(20.8)			断面不定方形の大きな鏝、口縁轆轤目、口唇平坦、口縁内面ヨコナデ	微砂粒多量	14C末～15C	河内
1612	瓦質土器	羽釜・口縁	3C	斜面・6層・d132	(24.6)			断面不定方形の大きな鏝、口縁轆轤目、口唇斜、口縁内面ヨコナデ	微砂粒多量	14C末～15C	河内
1613	瓦質土器	釜・口縁	3C	6層	(21.0)			口縁低い鏝、口縁直立気味、口唇丸味、口縁内外面ヨコナデ、体部外面指頭、ナデ	灰白色、微砂粒少量		
1614	瓦質土器	火鉢・底部	3C	斜面東側部・4層			(17.6)	平底、体部下半に丸味のある突帯	砂粒多量		
1615	瓦質土器	風炉・口縁	3C	斜面	(39.0)			口唇平坦、口縁縦格子の文様、口縁下丸味のある突帯、肩部張る、内外面褐色	微砂粒多量		
1616	瓦質土器	風炉・脚部	3C	斜面・包含層1～2				脚部の飾り部分、円形刺突2ヶ所、内外面黒灰色	微砂粒多量		
1617	炆器	播鉢・口縁	3C	西側部・TR7	(30.0)			口縁余り肥厚せず、外側にやや斜、内面播り目、内外面赤褐色	砂粒少量	14C中	備前ⅢB期
1618	炆器	播鉢・口縁	3C	斜面・6層	(22.1)			口縁外面肥厚させる、内面6条の播り目、内外面黒褐色	砂粒少量	15C前半	備前ⅣA
1619	炆器	播鉢・底部	3C	斜面・6層・d134			(12.6)	底部指頭、整形粗い、体部開く、内面6条播り目、間隔開く、内外面黒灰色	黒灰色、砂粒多量	15C前半	備前ⅣA
1620	炆器	播鉢・口縁	3C	斜面・包含層1～2	(27.0)			口縁外面肥厚させる、片口、内面8条の播り目、外面整形粗い、指頭、ナデ、内外面灰色	砂粒少量	15C後半	備前ⅣB
1621	炆器	甕・底部	3C	斜面・6層・d136			(42.2)	平底、体部直線的に開く、外面ハケ、外面赤褐色、内面灰褐色	灰白色、砂粒多量		備前
1622	土製品	土錘	3C	6層	長(3.5)	径1.1	重(3.9)	筒状	精良		
1623	土製品	土錘	3C	斜面東側部・3層	長(4.1)	径1.3	重(5.0)	筒状	精良		
1624	土製品	土錘	3C	斜面		径(1.1)	重(1.9)	筒状	精良		
1625	土製品	土錘	3C	6層		径(1.3)	重(3.8)	筒状	精良		
1626	土製品	土錘	3C	西南部・包含層1	長(3.2)	径(1.4)	重(3.2)	筒状	砂粒微量		
1627	土製品	土錘	3C	斜面・包含層2		径(1.2)	重(3.4)	筒状	精良		
1628	金属製品	飾り金具	3C	東側部・4層・br12	径2.3			円形の飾り金具、釦状、中央部がやや盛り上がる	銅		
1629	金属製品	鉄鍋	3C	斜面西側部・4層・te6	(49.6)		厚0.8	上半部膨らみ、ややカーブする	鉄		
1630	金属製品	不明鉄製品	3C	4層・te18	長(5.0)	幅(5.0)	厚0.8	緩やかに曲る、外面平滑、厚みあり	鉄		
1631	金属製品	鉄釘	3C	斜面・6層・te28	長(4.1)	厚0.8	重9.4	和釘、頭部折り曲げる、先端部欠損、断面四角	鉄		
1632	金属製品	鉄釘	3C	斜面・te5	長(5.3)	厚0.6	重8.2	和釘、頭部折り曲げる、先端部欠損、断面四角	鉄		
1633	金属製品	鉄釘	3C	斜面東側部・3層	長(3.1)	厚0.7	重2.4	和釘、頭部折り曲げる、先端部曲る、断面四角	鉄		
1634	金属製品	鉄釘	3C	斜面付近・包含層2		厚0.8		和釘、頭部折り曲げる、先端部欠損、断面四角	鉄		

遺物 番号	種別	器種・ 部位	調査区	遺構名・出土地点・ 層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1635	金属製品	鉄釘？	3C	斜面	長(3.9)	幅 (1.6)	重12.4	頭部幅広、断面長方形か、楔の可能性もある	鉄		
1636	瓦	丸瓦	3C	黄褐土層・18	長 (11.5)	幅 (15.3)	厚2.6	瓦当部分欠損か、凸面縄目叩き、凹面紐吊り痕、自然鉄分沈着	砂粒少量		
1637	瓦	平瓦	3C	斜面・6層・k98	長 (22.6)	幅 (13.8)	厚2.1	両面離れ砂	精良		
1638	瓦	平瓦	3C	斜面東側部・4層 ・k78	長 (21.5)	幅 (15.5)	厚2.2	両面離れ砂、凸面自然鉄分沈着	精良		
1639	瓦	平瓦	3C	斜面東側部・5層 ・k90	長 (20.8)	幅 (14.5)	厚2.3	両面離れ砂、凹面自然鉄分沈着	精良		
1640	瓦	平瓦	3C	斜面東側部・4層	長 (13.8)	幅23.0	厚2.2	両面離れ砂	精良		
1641	瓦	平瓦	3C	斜面東側部・5層 ・k89	長 (16.0)	幅 (20.1)	2.6	凸面斜コビキ	精良		
1642	石製品	軽石製品	3C	斜面西側部・4層	長14.0	幅9.0	厚3.3	楕円、やや扁平、使用痕跡不明	軽石		
1643	石製品	五輪塔・ 水輪	3C	斜面・s6	長 (30.5)	幅 (18.9)	厚 (18.6)	上面の半分程が残存、他は欠損、上面部中央部加工により平坦、他は平滑、部分的に被熱か	花崗岩		

## 第9節 4区

### 概要

4区は3区の南側谷部の奥に相当する。3区と同様に便宜的に東より4A区、4B区、4C区と大きく調査区を縦割りしたものの、4区としてまとめて報告する。調査面積は合計で998㎡である。

3区と4区の境には現況では石垣が高く積まれ、比高差のある段となっていた。上層は盛土層で高さ1.4mと厚い。盛土除去後には礫の纏まりを検出したが、礫間からは寛永通宝が出土した。その下には中世の包含層を検出した。レベルは3区とほぼ同じで層厚は薄く約10cm程であった。

遺構は東側部4A区では小礫による区画建物跡1棟を検出した。建物跡の東側では柱痕を検出しており、裏木戸の可能性もある。南側の5区に跨り、幅0.9m程の石列が犬走状に東西に走り、土塀か通路の可能性があり、西側部では礎石状の平らな礫が飛び飛びに配列していた。一部5区にも跨るが本調査区で通路状遺構として取り上げる。さらに西端は山裾となり、5区との境には大石を使った配列が認められた。下層では4B、C区では3区からの大溝SD1、2が縦走している。周辺には巨石が散在しているが特に配列は認めがたい。

遺物は陶磁器類、土器小皿、坏類が出土している。15Cから16Cのものが大半を占めている。通路状遺構では舟形木製品W28が出土しているのが注目される。

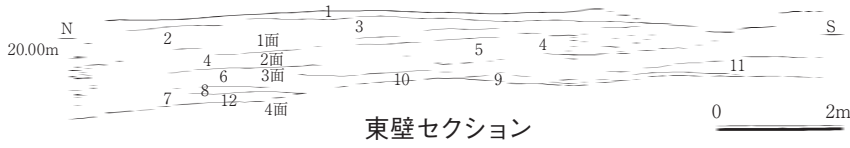
### (1) 建物跡

#### 4A石列区画建物跡(第103図W29～W31)

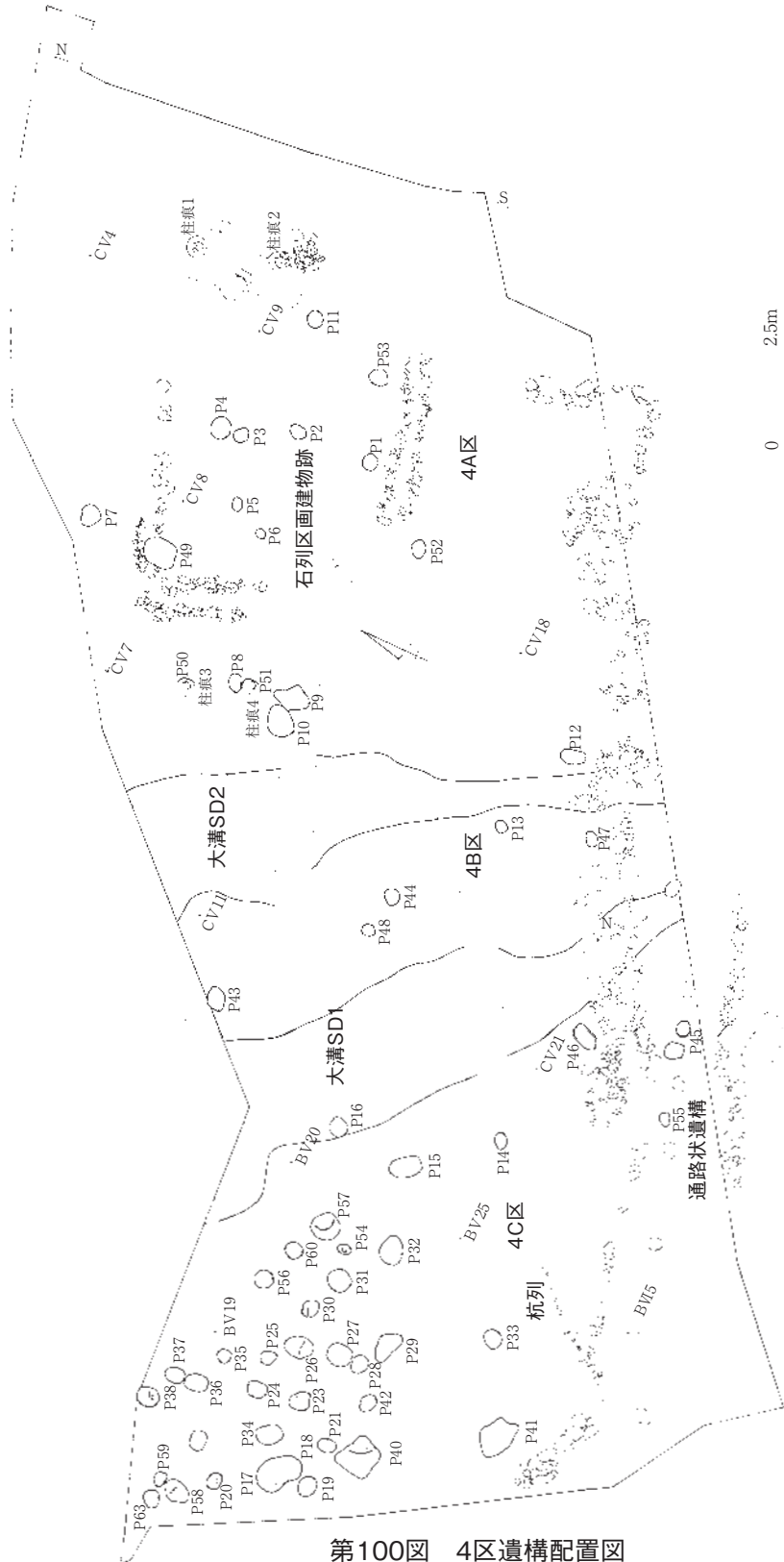
4A区のCV2～14グリッドに位置し、軸方向はN-73°-Eである。「コ」字状で東側部分は石列がなかった。また西南部の一部でも礫はなくなる。南北長約6m、東西長約6m、石列幅は約0.7mである。中央部分には柱穴数基を確認したものの明確な並びとはなっていない。P1から6、11、49、53の9基は内区で検出しているものの、遺物は出土していない。区画より外側に東側部と西側部に2本一対となった柱穴を2ヶ所検出した。共に柱痕が残る。西側部の柱穴(柱痕3、4)は張り出し部か建物への入り口部の可能性がある。東側部(柱痕1、2)については、区画建物の付帯施設かは不明である。山側と区切る境で裏木戸の可能性もある。

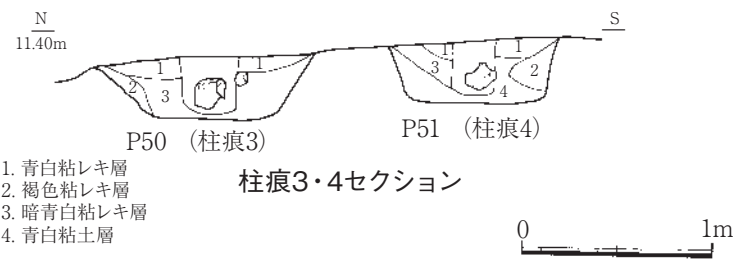
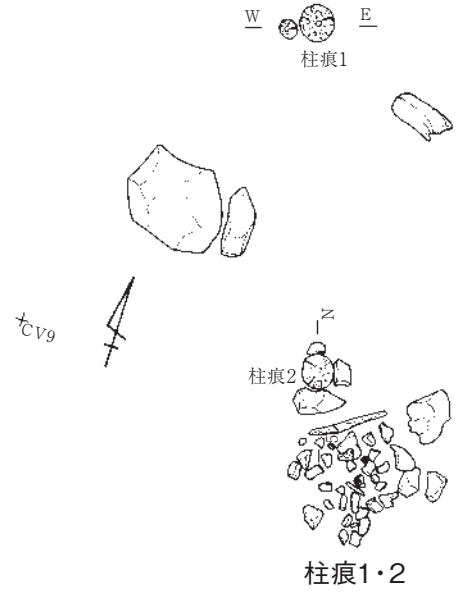
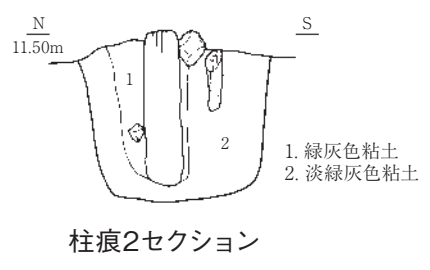
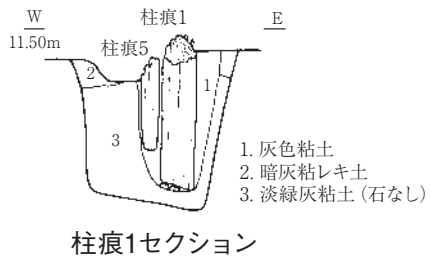
W29、W30は東側部で検出したもので、W29は柱痕1で残存長85cm、径19cmを測り、全体を加工し、先端部は平坦である。W30はW29の脇で支柱のような形で検出している。残存長50cm、径8cmを測り、先端部を加工し、尖る。W31は柱痕3で残存長18cm、径13cmで先端部を加工し、更に中央部に溝を穿っている。

本遺構に伴う土器、陶磁器の遺物は明確にできない。周辺域からは14世紀前半の瀬戸梅瓶1711が出土しているものの、同一個体が4B区、5A区からも破片で出土しており、本遺構の時期を特定できるものではない。他に青磁、白磁、青花等が出土しており、15世紀から16世紀のもので大半が占められ、本遺構も該期の可能性がある。



- 1 現耕作土・青灰色粘土
- 2 灰色(細角礫層)盛土
- 3 黄色(細角礫層)盛土
- 4 灰褐色土(小角礫多量)盛土
- 5 灰褐色粘質土(大角礫多量)
- 6 灰褐色粘質土
- 7 灰褐色粘土
- 8 暗褐色粘質土(中世包含層)
- 9 灰褐色粘土(中世包含層)
- 10 灰色シルト(近世包含層)
- 11 黄褐色粘土(近世)
- 12 黄灰色粘土層(基盤層)





第101図 4区柱痕1～4

## (2) 4・5区通路状石列 (第100、102図、103図W28)

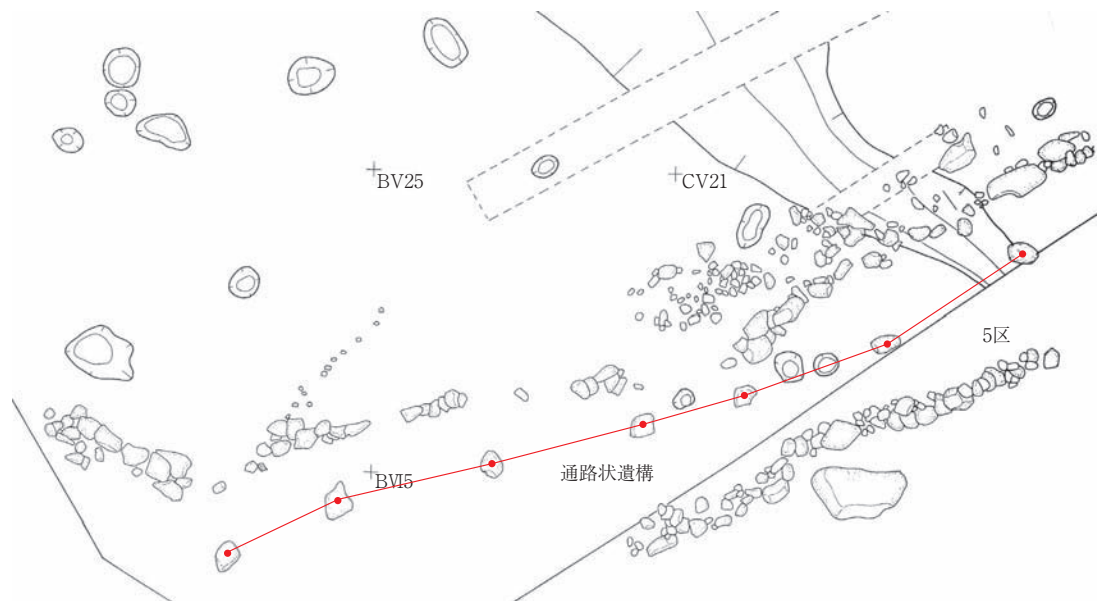
5区との境で東西に石列を検出した。2列の石列で幅約22m、長さ約15.9mで東側部分では不鮮明になる。西側では山裾に添うように緩やかにカーブを描き、南側の石列は判然としない。石列間には中礫がまばらに入るが東側部は少なく、西側部では多くなる。東側は全体的に石列の並びは不明確で、少し纏まる程度である。本遺構を境に南側谷部5区はなだらかに高くなり、3、4区の平坦部と5区側を区切るような形で通路状遺構が配置している。

CV 21グリッド周辺では北側部分に幅0.9m、長さ5.5mで通路状遺構に沿うようにテラス状に礫が集中する。本遺構の付帯施設と考えられる。

西側部では石列間の中央に平らな平石をほぼ1.5～2.0mの間隔の並びで検出している。検出した配石は7石である。

この遺構の中ほどの5区側で舟形木製品が逆位で出土した。舟形木製品W28は残存長29.7cm、高さ7.4cm、幅9.6cmである。厚さは1.5cm程で比較的肉厚である。複材の刳船舟で船首水押し部が差し込みとなっているが欠落している。船底中央部に帆柱穴が開く。船尾には梶が付くように穴が開いている。材質はシャシャンポである。

本遺構に伴う明確な遺物は判然としない。舟形木製品も直接通路状遺構に伴うかどうかは不確かである。しかしながら周辺の遺物等からして本遺構は15Cから16Cのものと考えられる。



第102図 4区通路状遺構

### (3) 4C杭列(第100図)

西側部4C区のBV 24グリッドで、小杭の列を検出した。通路状石列際から10本程が約3mの長さに並ぶ。間隔はまばらである。軸方向はN-43°-Eで方位は他の遺構群とは違っている。時期等は不明である。

### (4) 柱穴(第100図1644~1663、W32、W33)

柱穴は西側部の4C区で比較的多くを検出した。纏まりは認められるものの、並びは把握できなかった。ここでは遺物の出土した柱穴のみを取り上げる。

P15はBV 20グリッドに位置し、土器小皿底部1644が出土した。体部が開く。P17はBV18グリッドに位置し、無文銭1645が出土した。P18はBV18グリッドに位置し、青花皿1646は端反り、外面及び見込み内は牡丹唐草文である。15C後半のものである。土器坏1647は体部が開き、底部は器肉が厚く、内外面に弱い轆轤目を残し、黄白色を呈する。

P20はBV18グリッドに位置し、土器坏1649は体部が開き、内面に弱い轆轤目を残す。同じく1650は土器坏底部で体部は開く。P26はBV19グリッドに位置し、土器坏1651は体部が直線的に立ち上がる。

P30はBV19グリッドに位置し、土器小皿1652の体部は坏状に大きく開き、口唇は平坦である。P40はBV18グリッドに位置し、土器坏底部1653は摩耗する。体部は開く。1654は丸瓦で紐吊り痕が残る。P41はBV24グリッドに位置し、青磁碗1655は線描き蓮弁文か。見込み内は陰刻文で、底裏露胎となっている。15C後半のものか。P42はBV18グリッドに位置し、青磁碗底部1656は見込み内な陰刻文で底裏は露胎となっている。P43はBV15グリッドに位置し、土器坏1657は外面に強い轆轤目を残す。P45はCV21グリッドに位置し、漆椀W32は口径12cmで、黒漆で内外面は赤漆で秋草文の文様を施す。P46はCV21グリッドに位置し、材W33が出土している。両端切り落とし、一端部は斜めに削ぎ落とす。

P52はCV13グリッドに位置し、土器坏底部1658は体部が開く。P54はBV19グリッドに位置し、瓦質土器で火鉢と考えられる。口縁は波状で外面に同心方形のスタンプ文を施す。丸味のある突帯が巡る。外面は黒色、内面には煤が付着する。P56はBV19グリッドに位置し、土器坏1660、1661の2点が出土している。共に体部にやや丸味を持つものである。P57はBV19グリッドに位置し、土器小皿1662は浅く体部が開く。P59はBV18グリッドに位置し、土器小皿1663は体部が開き、内面底は凸る。

### (5) 4区遺物包含層出土遺物(第104~108図1664~1813、W34~W48)

#### ①陶磁器類

##### 白磁

皿は1664から1666の3点が出土している。共に端反り皿で16C前半のものである。

小坏1667は口縁が反り、畳付けは釉剥ぎである。破損部に漆接着か。16C前半のものである。

坏は1668、1669の2点が出土している。1668は口縁僅かに反る。見込み内は露胎、畳付けも釉剥



ぎである。1669は断面三角形の低い高台で畳付けは釉剥ぎ、見込み内も蛇の目の釉剥ぎである。共に15C後半のものである。

#### 青花

皿は1670から1689で多くの青花皿が出土している。端反り皿が多く、玉取り獅子、牡丹唐草文の絵付けのものが多い。1682は底裏に墨書か。1685の見込み内は十字花文である。1689の見込み内は捻子花文である。大部分のものが15C後半のものである。

#### 青磁

皿は1690から1701である。その中で1698から1701は稜花皿である。蓮弁文が多く、1690等は13C中葉から14Cのものである。1694から1697は15C中葉から後半のものである。稜花皿1698から1701は15C後半のものである。

碗は1702が線描き蓮弁文で13C中葉から14Cのものである。1703、1704は雷文帯で14C末から15Cのものである。1705から1707は無文で15C代のものである。1708は14Cから15C、1709は15C中葉のものである。

盤1710は強く口縁が屈曲する。15C代のものか。

#### 瀬戸

梅瓶1711は口縁部が小さく、突帯が巡る。肩部張る、胴部は陰刻文の梅。14C前半のものか。

#### 灰釉陶器碗

1712は底部が回転糸切り、体部下半にはやや丸味を持ち、外面は回転ナデ、内面には灰釉が掛かる。内外面共に灰白色を呈し、胎土は精良である。

#### 近世陶磁器

染付碗1713は体部下半には丸味を持ち、畳付けは釉剥ぎ。外面絵付け、貫入が入る。

### ②土器

#### 小皿

1714から1740は小皿である。1714から1718は浅く体部が開く。1719、1720はやや深く体部が開く。1721から1730はやや深く、体部が直立気味である。1734から1735は浅く、体部が直立気味である。1736から1739は坏状で体部が大きく開く。1739は皿に近いやや大型のものである。

#### 坏

1741から1744は皿状のものである。体部下半に僅かに丸味を持ち開く。1745、1746は皿状でやや大きくなる。1747は体部に丸味を持ち、浅い。1748は直立気味で深い。1749は体部下半にやや丸味を持つ。1750、1751は体部が外傾気味である。

#### 脚部

1753は器種不明である。底部は平坦で下半に稜線を持つ。上半はすぼまり、上部は欠損する。

### ③瓦質土器

#### 片口鉢

1754は体部が開き、口唇に丸味を持ち僅かに内面に突出する。片口を有する。内面はハケ整形、内外面共に赤褐色を呈する。14Cから15Cの在地のものか。

#### 鍋

1755、1756は在地のもので、14C以降のものである。1755は内面にハケ、外面粘土積み上げ痕を残す。1756は口縁がやや屈曲し、外面が指頭、内面はナデ整形である。1757はやや体部が内傾気味で、口唇は平坦である。口縁下に低い鏝が付き、内外面ヨコナデ整形である。15C中葉のものか。

#### 火鉢

1758は角底部で、脚部は欠損する。下半に丸味のある突帯が巡り、黒灰色を呈する。

#### 風炉

1759から1762は15C前半のものと考えられる。1759は口唇が平坦で頸部に縦格子の文様。1760は印刻文を施し、丸味のある突帯が巡る。1761は脚部の飾り部分で円形刺突を2ヶ所施す。

#### 茶釜

1763は茶釜の把手部分と考えられる。突起状で孔が開く。

#### 壺

1764、1765は壺と考えられ、1764は口縁が肥厚し、頸部は外反する。内外面共に回転ナデ整形である。1765は底部破片で平底である。体部は外傾し、内面底は回転ナデ整形である。

### ④ 炆器

#### 播鉢

1766から1768は備前産の播鉢である。1766は口唇が肥厚しないもので、14C中葉のものである。1767は口縁を肥厚させるもので15C中葉から後半のものである。1768は底部で胎土には砂粒が少量入る。

#### 壺

1769は口縁が玉縁状、頸部は直立し、肩部が張る。肩部に自然釉がかかる。内外面共に黒灰色を呈する。14Cから15Cの備前産か。1770は口縁を折り返し丸く肥厚する。肩部は張り、肩部に自然釉が掛かる。内外面共に赤褐色を呈する。15Cの備前産か。

### ⑤ 土製品

#### 土錘

1771から1798は筒状のものである。1798はやや大型のもので11gを量る。

#### 羽口

1799は鞆の羽口である。筒状を呈する。大部分が欠損する。

### ⑥ 銭貨

1800は「至道元寶」である。草書体で字体が潰れ、裏面も擦り減る。1801は「皇宋通寶」である。篆書体で字体潰れ、裏面も擦り減る。1802は不明である。

1803から1806は無文銭である。薄く、中央穴は方形である。また曲るものもある。

1807は「寛永通寶」で、裏面背字にも「文」である。

⑦金属製品

銅製飾り金具

1808は鑲座か。中央の突起部分に円鑲が付く？。座は10花卉である。

不明銅製品

1809は柳葉形状で中央に稜線が走り、下端部はすぼまる。1810は鍍金か。挟りが連続的に入る。装飾金具か。1811は4点に破損して出土した。端部は丸く口縁状に納まる。一部に彫金状になるもののモチーフは不明である。

⑧瓦

平瓦

1812は凸面が斜コビキ、離れ砂、ナデ整形である。凹面は布目痕である。

⑨石製品

砥石

1813は砂岩製で3面が欠損する。表裏面は使用により、凹む。煤が付着する。

⑩木製品 (第108図W34～W48)

漆椀

W34は口径14.4cmを測る赤漆椀である。口縁は外反する。文様はない。

不明木製品

W35は上部両脇に切り込みが入り、人形または木札か。長さ4.6cm、幅1.5cmを測る。

柄

W36は丸棒状で先端部に四角形のほぞ穴が開く。深さ3.5cmである。

下駄

W37、W38は連菌下駄である。W38の材質はヒノキである。

部材

W39からW44は曲げ物の可能性のあるものである。W40からW43は小孔が幾つか開く。W45は厚みがあり、円孔が開く。材質はヒノキである。

杭

W46からW48は先端部を加工したものである。W48は樹皮を残す。

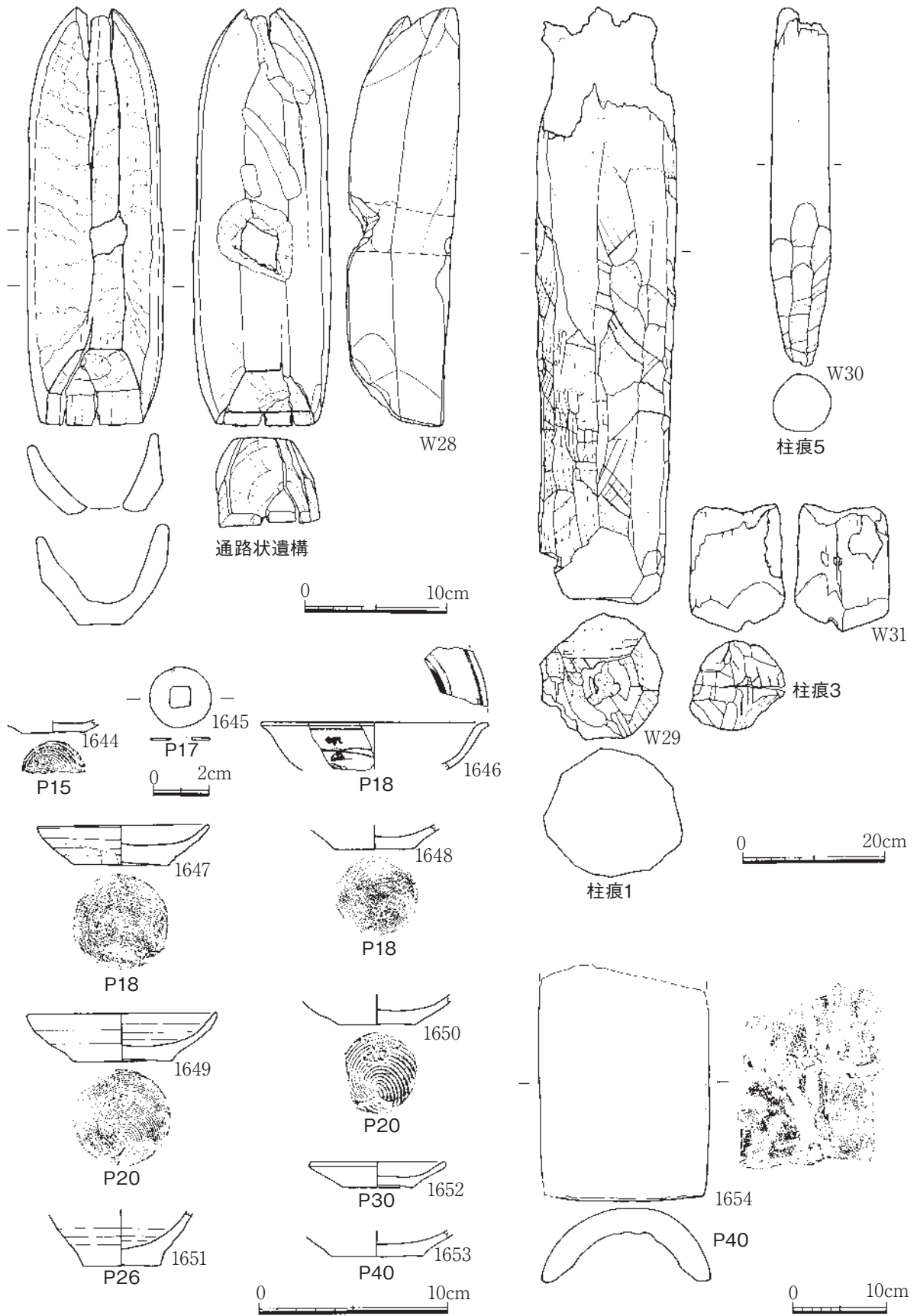
#### (6) 4区小結

4区の主な遺構は4A石列区画建物跡と通路状遺構である。共に時期は判然としない。4A石列区画建物跡は周辺域から出土した遺物からすると、4A区から15C後半代の青花皿類が多く、15C後半代の年代が想定される。3区にも同様の建物跡を検出しており、3A石列区画建物跡の規模は東西4.6m×南北3.6mで、4A石列区画建物跡は6m×6mで一回り大きくなるなどの相違点は認められるものの、3A石列区画建物跡は14C後半から15C及び15C後半から16Cの2時期に跨っていたと考えられ、4A石列区画建物跡は3A石列区画建物跡の後半期と同時併存した可能性がある。

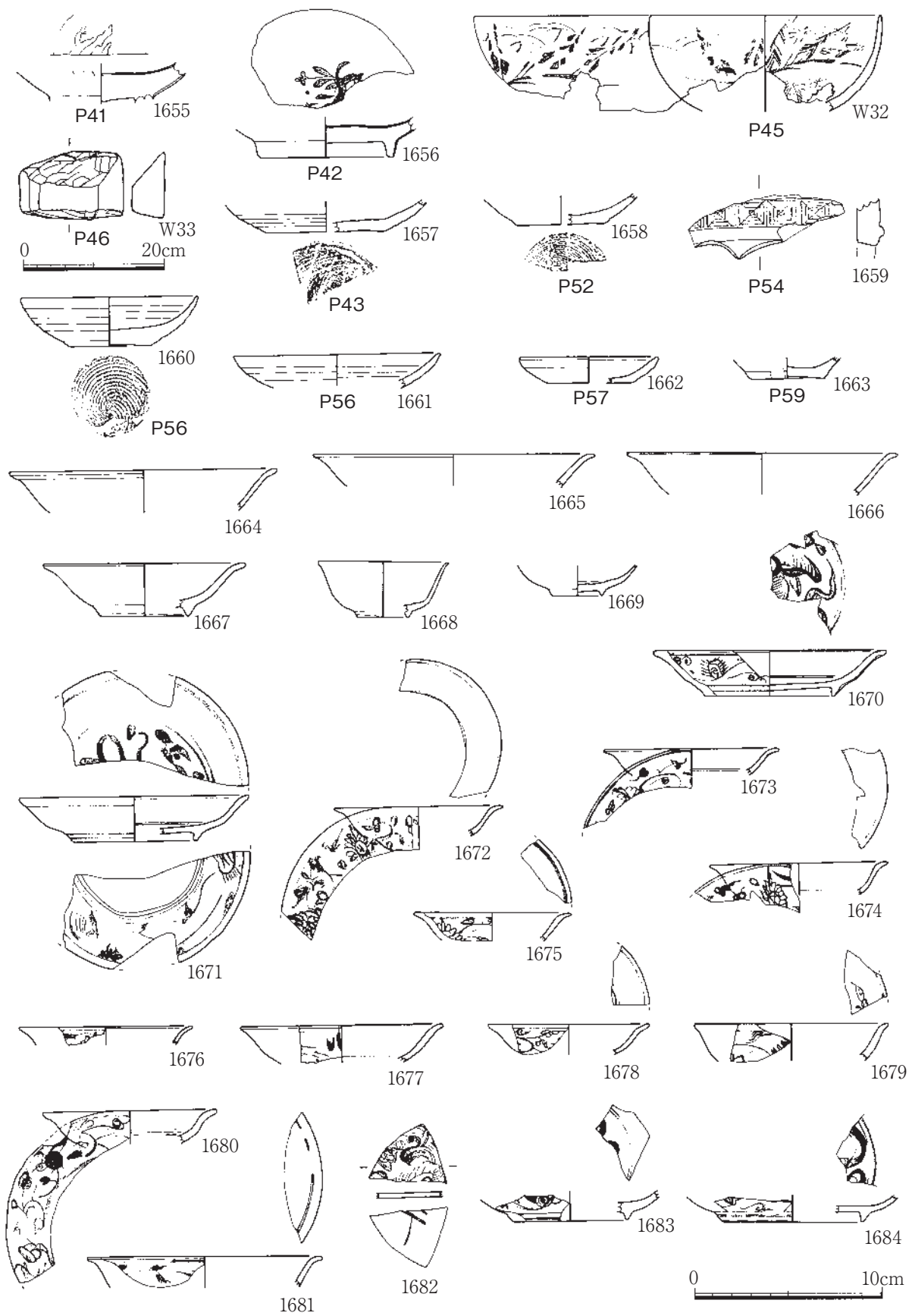
通路状遺構は3、4区を同一エリアと捉えたとき、谷部側の一段高くなった5区とを区切る役目を持っていた可能性がある。通路状遺構から出土した舟形木製品W28は祭祀関連の可能性が強く、通路状遺構に直接伴うものではないと考えられる。

出土遺物は遺構から出土するものは少なく、ほとんどが包含層出土遺物である。包含層は浅く、黒灰粘土層に中世の各時期のものが含まれていた。古いもので13Cから14Cの1690、1702の青磁類が極僅かに出土した。14C代では1711の瀬戸梅瓶、青磁の雷文帯のものが若干出土する程度である。最も多いものは15C後半代のものである。青花皿、青磁稜花皿の大部分が15C後半代である。次いで16C前半代は白磁皿類が多くなる。

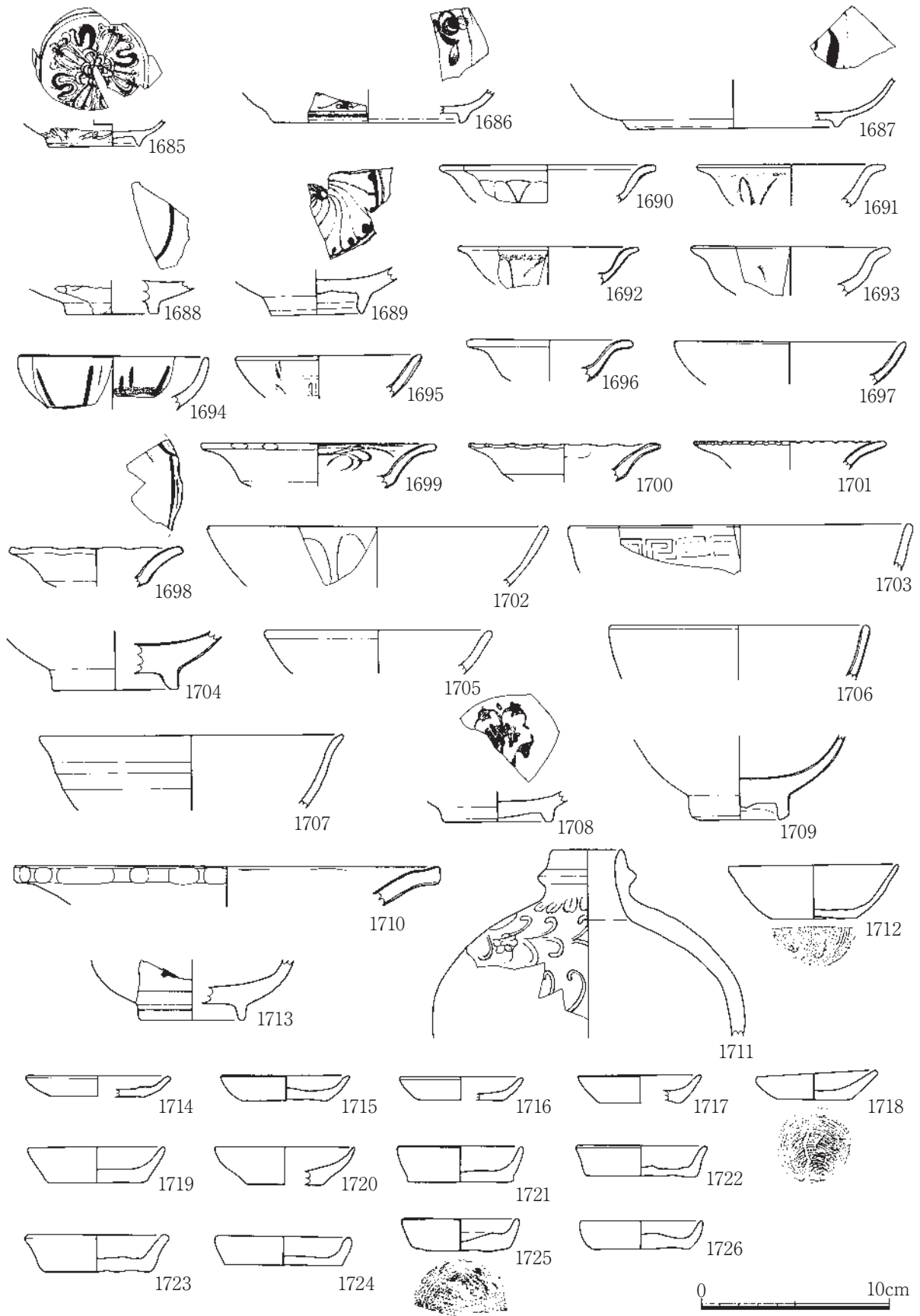
什器類では在地産の瓦質鍋類が14C後半代に入り始め、備前産の播鉢が同時期から15Cにかけて引き続き入って来ている。他の什器類は少ない。その他、4B区で比較的土錘が纏まって出土する傾向にあるものの、他に特徴的な出土傾向は掴めない。風炉、茶釜が出土しているものの、細片が多く、本調査区を特徴付けるものとはなっていない。



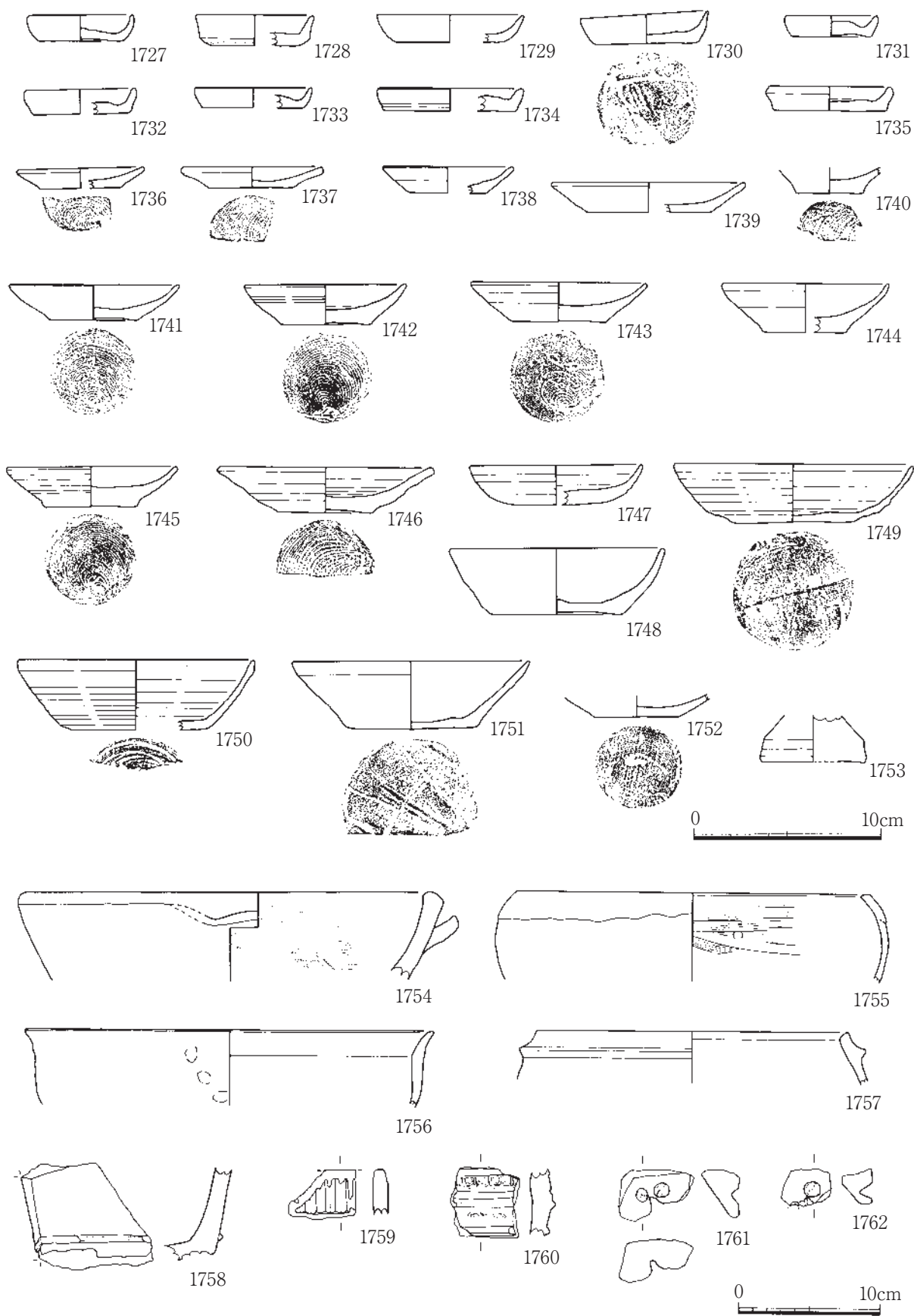
第103図 4区遺物実測図1



第104图 4区遺物実測図2

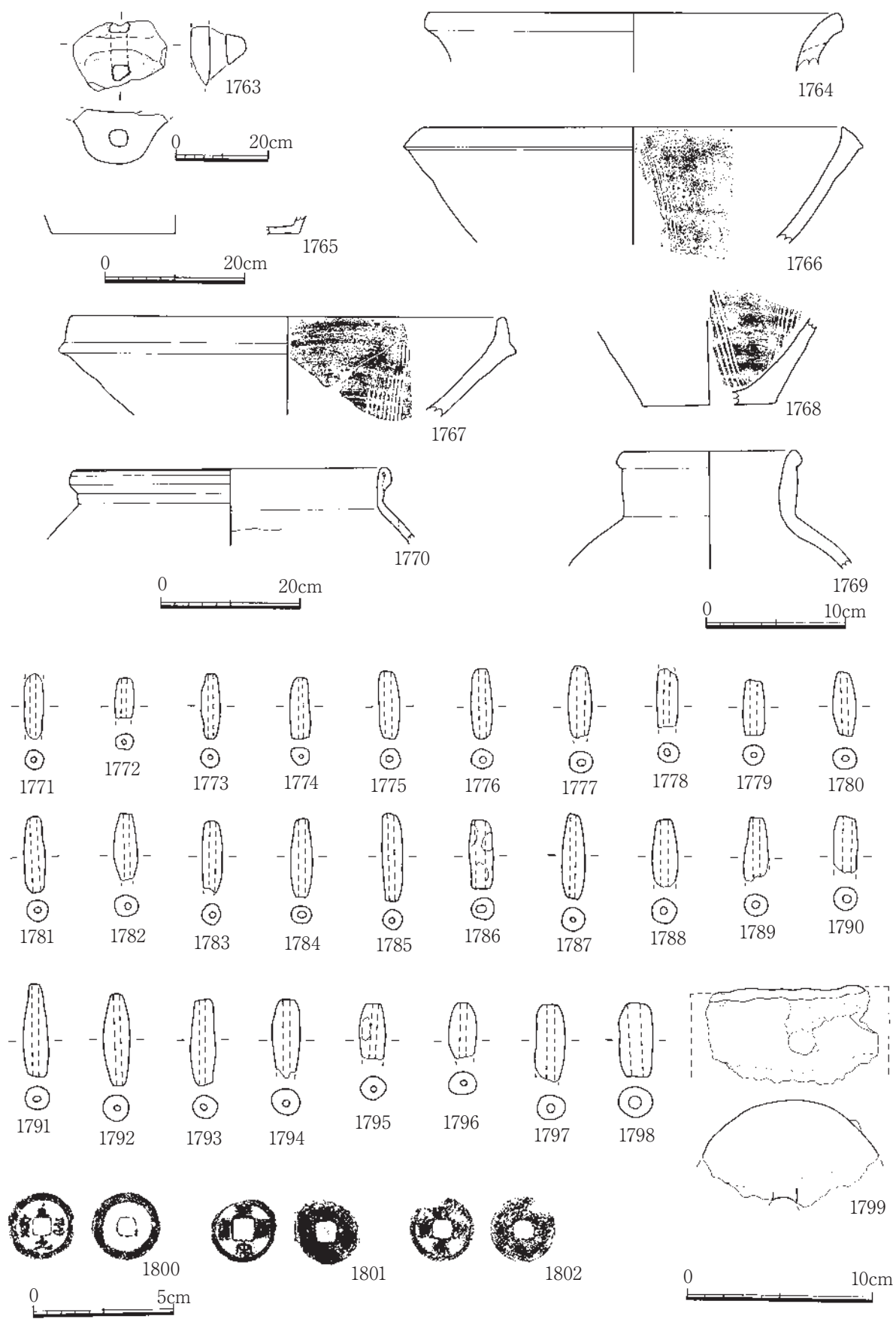


第105図 4区遺物実測図3

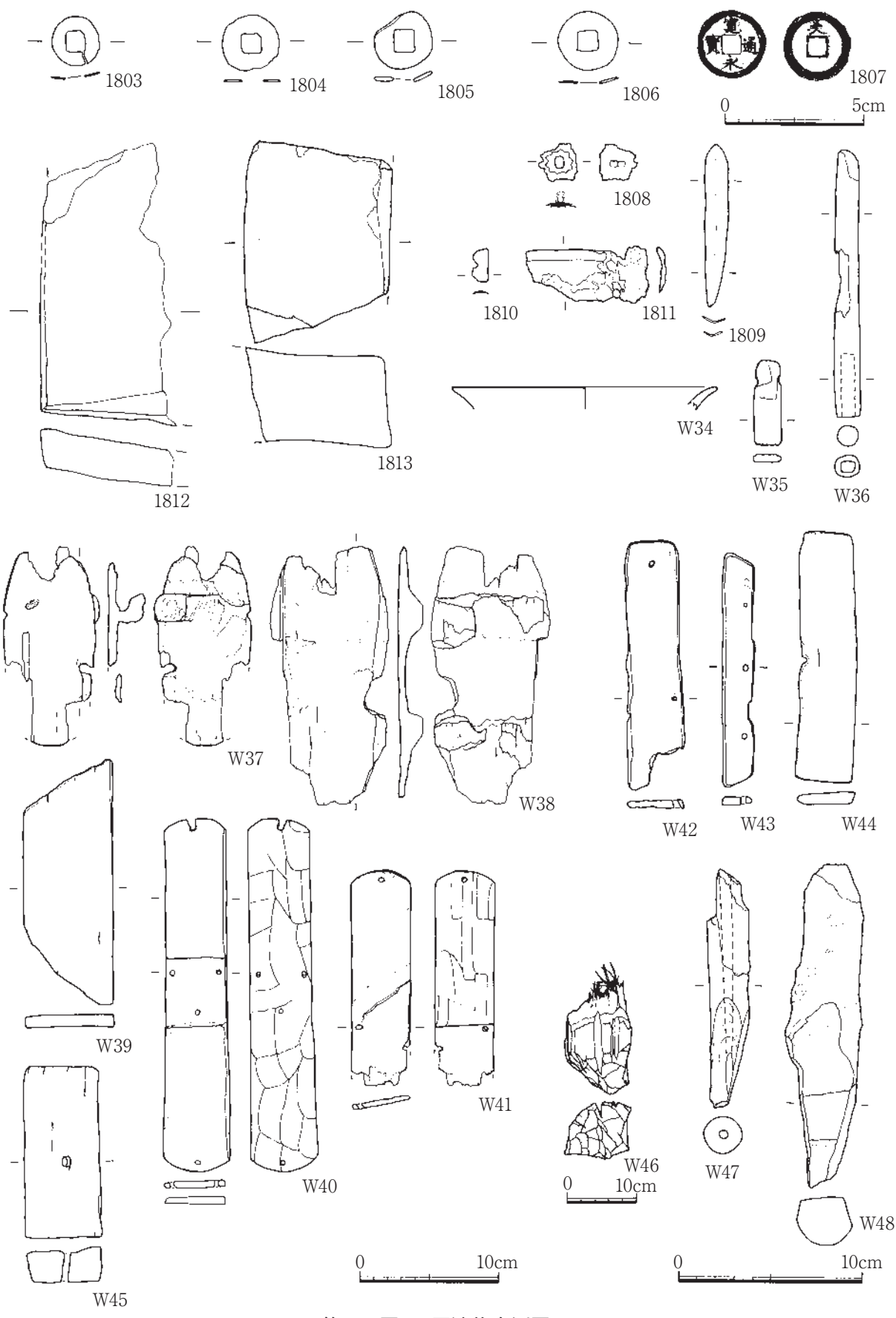


第106图 4区遺物実測図4





第107図 4区遺物実測図5



第108图 4区遺物実測図6

表10 4区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1644	土器	小皿・底部	4C	P15			(3.2)	底部糸切り、体部開く	精良		
1645	銭貨	無文銭	4C	P17・黒灰色粘土層・br25	径21mm	厚1.0mm	孔径7.6mm	円形、中央に方形の孔、文様等はなし	銅		
1646	陶磁器	青花皿・口縁	4C	P18・黒灰色粘土層・189	(12.0)			端反り、外面及び見込み内牡丹唐草文	白色、精良	15C後半～16C	
1647	土器	坏	4C	P18・d189・黒灰色粘土層	9.0	2.1	5.0	底部糸切り、体部開く、底部器肉厚、内外面弱い轆轤目、黄白色	精良		
1648	土器	坏・底部	4C	P18			4.2	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1649	土器	坏	4C	P20・黒灰色粘土層	(10.0)	2.5	5.1	底部糸切り、体部開く、内面弱い轆轤目	精良		
1650	土器	坏・底部	4C	P20・黒灰色粘土層			4.1	底部糸切り、体部開く	精良		
1651	土器	坏・底部	4C	P26・黒灰色粘土層			4.1	底部糸切り、体部直線的に開く	精良		
1652	土器	小皿	4C	P30・黒灰色粘土層	(7.0)	1.4	(3.6)	摩耗、底部糸切り？、体部開く、口唇平坦	精良		
1653	土器	坏・底部	4C	P40・黒灰色粘土層			4.8	摩耗、底部切り難し不明、体部開く	精良		
1654	瓦	丸瓦	4C	P40・黒灰色粘土層・102	長(25.2)	幅(18.0)	厚3.0	凸面縄目叩き、ナデ、凹面布目、紐吊り痕	精良、砂粒微量		
1655	陶磁器	青磁碗・底部	4C	P41・黒灰色粘土層			(5.5)	外面線描き蓮弁文？、見込み内陰刻、底裏露胎	灰色、精良	15C後半	
1656	陶磁器	青磁碗・底部	4C	P42・黒灰色粘土層・se20			(7.2)	見込み内陰刻、底裏露胎	灰色、精良		
1657	土器	坏・底部	4B	P43			(6.3)	摩耗、底部糸切り、簧子状圧痕、体部開く、外面強い轆轤目	精良		
1658	土器	坏・底部	4B	P52			(4.7)	底部糸切り、体部開く	精良		
1659	瓦質土器	火鉢？・口縁	4C	P54・d223			厚(1.3)	口縁波状、外面同心方形のスタンブ文、丸味のある突帯、外面黒色、内面煤付着	灰色、砂粒少量		
1660	土器	坏	4C	P56・d224	9.4	2.6	4.3	底部糸切り、体部やや丸味、内外面弱い轆轤目	精良		
1661	土器	坏	4C	P56・d224	(11.0)			体部やや丸味、開く、内外面弱い轆轤目	精良		
1662	土器	小皿	4C	P57	(7.2)	1.4	(4.6)	底部糸切り、体部短く開く、やや堅致	精良		
1663	土器	小皿・底部	4C	P59			4.0	摩耗、底部糸切り、体部開く、内面底凸る	精良		
1664	陶磁器	白磁皿・口縁	4B	黒灰色粘土層・d95	(14.2)			端反り	白色、精良	16C前半	白磁E類
1665	陶磁器	白磁皿・口縁	4B	黒灰色粘土層	(15.0)			端反り	白色、精良	16C前半	
1666	陶磁器	白磁皿・口縁	4A	黒灰粘土層・南側部	(14.4)			端反皿	白色、精良	16C前半	白磁E類
1667	陶磁器	白磁・小坏	4B	黒灰色粘土層	(10.8)	2.8	(4.6)	口縁反る、量付け釉剥ぎ、破損部に漆接着か	灰白色、精良	16C前半	白磁E類
1668	陶磁器	白磁坏	4A	黒灰粘土層・南側部	(7.0)	3.0	(2.7)	口縁僅かに反る。見込み内露胎、量付け釉剥ぎ	灰白色、精良	15C後半	白磁D類
1669	陶磁器	白磁坏・底部	4B	黒灰色粘質土層、現石垣下暗灰色土			(2.6)	断面三角形の低い高台、量付け釉剥ぎ、見込み内蛇目の釉剥ぎ	白色、精良	15C後半	白磁D類
1670	陶磁器	青花皿	4A	黒灰粘土層・南側部	(12.4)	2.5	(6.8)	端反皿、外面牡丹唐草文、内面玉取り獅子、量付け及び底裏無釉	白色、精良	15C後半～16C	染付皿B群
1671	陶磁器	青花皿	4A	6層・d221	(12.2)	2.4	(6.6)	口縁外反、内面玉取り獅子、外面牡丹唐草文、量付け・底裏露胎	白色、精良	15C後半～16C中	染付皿B群
1672	陶磁器	青花皿・口縁	4A・4B	4A黒灰粘土層・南側部、4B黒灰粘土層	(9.0)			端反皿、外面牡丹唐草文、内面口縁界線、玉取り獅子か	白色、精良	15C	染付皿B群
1673	陶磁器	青花皿・口縁	4B	黒灰色土層	(9.3)			端反り、外面牡丹唐草文、口縁内界線	白色、精良	15C後半～16C	
1674	陶磁器	青花皿・口縁	4B	黒灰色土層・108	(9.5)			端反り、外面牡丹唐草文、口縁内界線	白色、精良	15C後半～16C	
1675	陶磁器	青花皿・口縁	4A	黒灰粘土層・南側部	(8.4)			端反皿、外面牡丹唐草文、内面口縁界線	白色、精良	15C後半～16C	染付皿B群
1676	陶磁器	青花皿・口縁	4A	黒灰粘土層	(9.2)			端反皿、外面絵付け、内面口縁界線	白色、精良	15C後半～16C	染付皿B群
1677	陶磁器	青花皿・口縁	4A	黒灰粘土層	(10.8)			端反皿、外面絵付け、内面口縁界線	白色、精良	15C後半～16C	染付皿B群
1678	陶磁器	青花皿・口縁	4A	黒灰粘土層・南側部	(8.6)			端反皿、外面牡丹唐草文、内面口縁界線	白色、精良	15C後半～16C	染付皿B群

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・土地地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1679	陶磁器	青花皿・口縁	4B	黒褐色土層	(10.4)			口縁僅かに外反、内外面牡丹唐草文	白色、精良	15C後半～16C	
1680	陶磁器	青花皿・口縁	4A	黒灰粘土層・南側部	(9.2)			端反皿、外面牡丹唐草文、内面玉取り獅子、内面口縁界線	白色、精良	15C後半～16C	染付皿B群
1681	陶磁器	青花皿・口縁	4B	石列南北・黒灰色粘土層・111	(12.5)			端反り、外面草花文	灰白色、精良		
1682	陶磁器	青花皿・底部	4B	黒灰色粘土層			厚0.24	見込み内文様、器肉薄い、底裏墨書?	白色、精良	15C末～16C前半	染付皿B群
1683	陶磁器	青花皿・底部	4B	黒褐色土層			(6.0)	量付け釉剥ぎ、外面牡丹唐草文及び見込み内玉取り獅子	白色、精良	15C後半～16C	
1684	陶磁器	青花皿・底部	4B	黒灰色粘土層			(7.3)	量付け釉剥ぎ、外面及び見込み内絵付け	灰白色、精良		
1685	陶磁器	青花皿・底部	4B	黒灰色粘土層			4.8	量付け釉剥ぎ、見込み内十字花文、外面牡丹唐草文	灰白色、精良	15C後半～16C中	
1686	陶磁器	青花皿・底部	4A	黒灰粘土層・南側部			(10.0)	量付け釉剥ぎ、玉取り獅子、見込み内・高台脇界線	白色、精良	15C後半～16C	染付皿B群
1687	陶磁器	青花皿・底部	4C	黒灰色粘質土層			(10.8)	見込み内絵付け、量付け釉剥ぎ	乳白色、精良		
1688	陶磁器	青花皿・底部	4C	黒灰色粘質土層			(4.9)	見込み内界線、量付け釉剥ぎ、底裏無釉	乳白色、精良		
1689	陶磁器	青花皿・底部	4A	TR			(4.8)	見込み内捻子花文、量付け釉剥ぎ	乳白色、精良	15C中	染付皿C群
1690	陶磁器	青磁皿・口縁	4B	黒灰色粘土層	(11.5)			口縁屈曲、体部外面蓮弁文	灰白色、精良	13C中～14C	
1691	陶磁器	青磁皿・口縁	4C	黒灰色粘土層	(10.0)			口縁屈曲、体部外面蓮弁文	灰色、精良		
1692	陶磁器	青磁皿・口縁	4C	黒灰色粘土層	(9.2)			口縁外反、体部外面蓮弁文	灰色、精良		
1693	陶磁器	青磁皿・口縁	4B	黒灰色粘土層	(10.5)			体部下半丸味、口縁屈曲気味、外面蓮弁文?	灰白色、精良		
1694	陶磁器	青磁皿・口縁	4C	黒灰色粘土層	(10.0)			体部丸味、内外面線描き	灰色、精良	15C中	
1695	陶磁器	青磁皿・口縁	4C	6層・黒色土層	(9.8)			外面陰刻文	灰色、精良		
1696	陶磁器	青磁皿・口縁	4C	6層・黒色土層	(8.8)			口縁外反、腰部屈曲、無文	灰白色、精良	15C中～後半	
1697	陶磁器	青磁皿・口縁	4B	黒灰色粘土層	(12.0)			素口縁、無文	灰白色、精良		
1698	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	4C	黒灰色粘土層	(8.9)			稜花、腰部屈曲、口縁内面陰刻	灰白色、精良	15C後半	
1699	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	4B	黒灰色粘質土層・南側部	(12.4)			稜花、内面陰刻草花文	灰色、精良	15C後半～	
1700	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	4C	黒灰色粘土層	(10.2)			稜花	灰色、精良	15C後半	
1701	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	4C	黒灰色粘土層	(10.2)			稜花	黒灰色、精良	15C後半	
1702	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	4B	黒灰色粘土層	(17.8)			外面線描き蓮弁文	灰色、精良	13C中～14C	
1703	陶磁器	青磁碗・口縁	4B	黒灰色粘土層	(18.0)			口唇丸味、外面口縁下に雷文帯	灰色、精良	14C末～15C前半	
1704	陶磁器	青磁碗・底部	4A	黒灰粘土層			(6.6)	外面雷文帯か、底裏露胎、肉厚	灰色、精良	14C～15C	C類
1705	陶磁器	青磁碗・口縁	4B	黒灰色粘土層・南側部	(11.8)			口唇僅かに丸味、無文	灰白色、精良	15C	
1706	陶磁器	青磁碗・口縁	4B	黒灰色粘土層	(13.4)			素口縁、無文	灰白色、精良		
1707	陶磁器	青磁碗・口縁	4C	黒灰色粘質土層	(16.0)			口縁僅かに外反、無文	灰色、精良		
1708	陶磁器	青磁碗・底部	4A	黒灰粘土層			(5.6)	底裏蛇目に露胎、見込み内陰刻文	灰色、精良	14C～15C	
1709	陶磁器	青磁碗・底部	4C	黒灰色粘土層・se18			4.4	体部下半丸味、量付け釉剥ぎ、底裏露胎、貫入	灰色、精良	15C中	
1710	陶磁器	青磁盤・口縁	4B	黒灰色粘土層	(22.4)			口縁屈曲、口唇端部やや摘み上げる	灰色、精良		
1711	陶磁器	梅瓶・口縁	4A・4B・5A	4A区黒灰粘土、4B区黒灰粘土d109、5A区4層・5層	(3.4)			口縁部突帯、肩部張る、胴部陰刻文梅、2次被熱か	灰色、精良	14C前半	瀬戸
1712	陶磁器	灰釉陶器碗	4B	黒灰色粘土層	(9.0)	2.9	(4.4)	底部糸切り、体部下半やや丸味、外面回転ナデ、内面灰釉、内外面灰白色	灰白色、精良		

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1713	陶磁器	染付碗・底部	4B	暗灰色土層			(5.5)	体部下丸味、量付け釉剥ぎ、外面絵付け、貫入	灰色、精良	近世	
1714	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(7.7)	1.1	(5.1)	底部箆子状圧痕、体部浅く開く、堅致	精良		
1715	土器	小皿	4C	黒灰色粘土層	6.8	1.4	4.6	摩耗、底部糸切り、体部浅く開く	精良		
1716	土器	小皿	4C	黒灰色粘土層	(6.4)	1.2	(4.6)	摩耗、底部糸切り、体部浅く開く	精良		
1717	土器	小皿	4C	黒灰色粘土層	(6.4)	1.4	(4.4)	底部糸切り、体部浅く開く	精良		
1718	土器	小皿	4A	6層・南側部	6.3	1.6	4.1	底部糸切り、体部浅く開く、堅致	精良		
1719	土器	小皿	4B	石列南北・黒灰色粘土層	(7.2)	1.9	5.3	摩耗、底部切り離し不明、体部やや深く外傾	精良		
1720	土器	小皿	4B	黒灰色粘質土層	(7.4)	2.0	(4.0)	摩耗、底部箆子状圧痕？、体部やや深く開く	精良		
1721	土器	小皿	4C	黒灰色粘土層	(6.5)	1.9	(5.6)	摩耗、底部糸切り、体部やや深く直立気味、内外面黄白色	精良		
1722	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(6.8)	1.7	(5.9)	摩耗、底部糸切り、体部やや深く直立気味、内面底凸る	精良		
1723	土器	小皿	4C	黒灰色粘土層	(7.2)	2.0	(5.6)	摩耗、底部糸切り？、体部やや深く直立気味	精良		
1724	土器	小皿	4C	黒灰色粘質土層	(7.0)	1.5	(6.3)	摩耗、底部糸切り？、体部やや深く直立気味、内面底轆轤目	精良		
1725	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(6.2)	1.7	(5.2)	底部糸切り、体部やや深く直立気味、堅致	精良		
1726	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(6.4)	1.5	(5.0)	摩耗、底部糸切り？、体部やや深く直立気味、内面底轆轤目、凸る、内外面黄白色	精良		
1727	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(5.4)	1.4	4.4	摩耗、底部切り離し不明、体部やや深く直立気味、内面底轆轤目、黄白色	精良		
1728	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(6.2)	1.7	(5.8)	摩耗、底部糸切り、体部やや深く直立気味、内面底轆轤目	精良		
1729	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(7.7)	1.5	(5.8)	底部糸切り、体部下丸味、体部やや深く直立気味	精良		
1730	土器	小皿	4B	黒灰色粘質土層・d41	6.8	1.7	5.4	摩耗、底部糸切り？、箆子状圧痕？、体部やや深く直立気味、黄白色	精良		
1731	土器	小皿	4C	黒灰色粘土層	(4.8)	1.1	(4.2)	摩耗、底部糸切り？、体部浅く直立気味、内面体部と底部接合部沈線状	精良		
1732	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(7.9)	1.3	(5.9)	摩耗、底部、体部浅く直立気味、切り離し不明	精良		
1733	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(6.1)	1.1	(5.4)	底部糸切り、体部浅く直立気味、内面底轆轤目	精良		
1734	土器	小皿	4B	黒灰色粘質土層	(7.8)	1.2	(7.0)	摩耗、底部糸切り？、体部浅く直立気味	精良		
1735	土器	小皿	4B	黒灰色粘質土層	(6.4)	1.3	(6.0)	摩耗、底部糸切り？、体部浅く直立気味	精良		
1736	土器	小皿	4B	黒灰色粘土層	(6.6)	1.1	(4.3)	底部糸切り、体部大きく開く	精良		
1737	土器	小皿	4C	石列裏込め	(7.4)	1.1	(4.4)	底部糸切り、体部大きく開く、口唇やや平坦	精良		
1738	土器	小皿	4B	黒灰色粘質土層	(7.0)	1.4	(4.2)	摩耗、底部糸切り？、体部大きく開く	精良		
1739	土器	小皿	4B	6層	(10.2)	1.6	(6.7)	摩耗、底部切り離し不明、体部大きく開く	精良		
1740	土器	小皿・底部	4A	6層			(3.6)	底部糸切り、体部開く	精良		
1741	土器	坏	4A	黒灰粘土層	(9.0)	1.9	4.8	底部糸切り、体部下半に僅かに丸味	精良		
1742	土器	坏	4B	黒灰色粘土層・南側部	(8.6)	2.1	4.9	底部糸切り、体部下半に僅かに丸味、底部器肉やや厚い	精良		
1743	土器	坏	4A	黒灰粘土層	(9.2)	2.1	5.0	底部糸切り、体部下半に僅かに丸味、口唇面をなす、底部器肉やや厚い	精良		
1744	土器	坏	4A	6層	(8.8)	2.6	(4.4)	摩耗、底部糸切り、体部やや開き気味、底部器肉やや厚い	精良		
1745	土器	坏	4B	黒灰色粘土層・d95・南北石列横	(8.9)	2.2	4.9	底部糸切り、体部開く、外面弱い轆轤目	精良		
1746	土器	坏	4C	黒灰色粘土層	(11.0)	2.4	(5.0)	底部糸切り、体部大きく開く、内外面弱い轆轤目	精良		
1747	土器	坏	4B	黒褐色土層	(9.2)	2.1	(5.6)	摩耗、底部糸切り？、体部下丸味、体部短くやや開く	精良		
1748	土器	坏	4C	黒灰色粘土層・d112	(11.4)	3.5	7.0	摩耗、底部切り離し不明、体部直立気味、内面底やや凸る	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1749	土器	坏	4B	黒灰色粘土層	(12.6)	3.2	6.6	摩耗、底部糸切り、体部下半丸味、口唇尖る、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
1750	土器	坏	4B	黒灰色粘土層	(12.6)	3.7	(7.6)	底部糸切り、体部外傾気味、口唇尖る、内面底凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
1751	土器	坏	4B	黒灰色粘質土層・d42	(12.6)	3.6	7.0	摩耗、底部箕子状圧痕？、体部外傾気味	精良		
1752	土器	坏・底部	4C	黒灰色粘土層			4.4	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く	精良		
1753	土器	脚部？	4C	黒灰色粘質土層			(5.4)	脚部か、底部平坦、下半に稜線、上半はすぼまり、上部は欠損	精良		
1754	瓦質土器	片口鉢・口縁	4B	黒灰色粘質土層・d39	(29.0)			体部開く、口唇丸味、僅かに内面に突出、片口、内面ハケ、内外面赤褐色	砂粒多量	14C～15C	在地
1755	瓦質土器	鍋・口縁	4B	黒灰色粘土層・d137	(25.0)			口縁内湾、内面ハケ、外面粘土積み上げ痕、内外面灰色	微砂粒少量	14C後半～15C前半	土佐
1756	瓦質土器	鍋・口縁	4B	黒灰色粘質土層	(29.0)			口縁やや屈曲、外面指頭、内面ナデ、外面黒灰色、内面灰色	微砂粒多量	14C後半～15C前半	土佐
1757	瓦質土器	鍋・口縁	4B	6層・黒色土層	(22.2)			やや体部内傾気味、口唇平坦、口縁下に低い鏝、内外面ヨコナデ、外面体部煤付着	砂粒多量	15C中	
1758	瓦質土器	火鉢・底部	4A	東端・6層・d222				角底部、脚部欠損、下半に丸味のある突帯、黒灰色	微砂粒多量		
1759	瓦質土器	風炉・口縁	4B	黒褐色土層				口唇平坦、頸部縦格子	精良		
1760	瓦質土器	風炉・胴部	4B	黒灰色粘土層			厚1.3	印刻文、丸味のある突帯	砂粒少量		
1761	瓦質土器	風炉・脚部	4B	黒灰色粘土層				脚部飾り部分、円形刺突2ヶ所	微砂粒少量		
1762	瓦質土器	風炉・脚部	4B	黒褐色土層				脚部飾り部分、円形刺突	砂粒少量		
1763	瓦質土器	茶釜・把手	4C	黒灰色粘土層・d182	長(5.1)	孔径0.9		突起、孔が開く、黄白色	砂粒少量		
1764	瓦質土器	壺・口縁	4B	黒灰色粘土層	(29.4)			口縁肥厚、頸部外反、内外面回転ナデ	角閃石、金雲母少量		
1765	瓦質土器	壺？・底部	4B	黒灰色粘土層			(35.6)	平底、体部外傾、内面底回転ナデ	精良		
1766	炆器	播鉢・口縁	4B	黒灰色粘土層	(30.0)			口縁両端部僅かに摘み出す、内面刷り目、内外面黒灰色	礫少量	14C中	備前
1767	炆器	播鉢・口縁	4C	黒灰色粘土層	(31.2)			口縁上方に立ちあげ、下部は摘み出し突帯状になる、内面播り目、内外面赤褐色、口縁外面黒褐色	砂粒多量	15C中～後半	備前
1768	炆器	播鉢・底部	4A	暗灰粘土層・現石垣下			(9.6)	底部砂底？、体部外傾、内面播り目、内外面黒灰色	砂粒少量		備前
1769	炆器	壺・口縁	4B	暗灰色土層	(12.4)			口縁玉縁、頸部直立肩部張る、肩部に自然釉、内外面黒灰色	砂粒少量	15C	備前
1770	炆器	甕・口縁	4C	黒灰色粘土層・B27	(44.2)			口縁折り返し丸く肥厚、肩部張る、肩部自然釉、内外面赤褐色	礫多量	15C	備前
1771	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘質土層	長(3.5)	径1.0	重(2.8)	筒状	精良		
1772	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長(2.4)	径1.0	重(2.1)	筒状、小型	精良		
1773	土製品	土鍾	4C	黒灰色粘土層	長3.5	径1.0	重2.7	筒状	精良		
1774	土製品	土鍾	4A	黒灰粘土層	長3.3	径1.0	重3.6	筒状、両端切断、堅致	精良		
1775	土製品	土鍾	4B	黒褐色土層	長3.6	径1.1	重3.8	筒状	精良		
1776	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長(3.8)	径1.2	重(4.1)	筒状	微砂粒少量		
1777	土製品	土鍾	4A	黒灰粘土層	長(3.9)	径1.3	重(4.4)	筒状	精良		
1778	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長(3.1)	径1.2	重(3.8)	筒状	精良		
1779	土製品	土鍾	4C	黒灰色粘土層	長(2.9)	径1.2	重(3.5)	筒状	精良		
1780	土製品	土鍾	4B	黄橙色土層	長3.5	径1.3	重4.1	筒状	精良		
1781	土製品	土鍾	4A	黒灰粘土層	長4.1	径1.2	重4.7	筒状	精良		
1782	土製品	土鍾	4B	黒褐色土層	長(3.6)	径1.3	重(4.7)	筒状	精良		
1783	土製品	土鍾	4C	黒灰色粘土層	長3.9	径1.0	重(4.0)	筒状	精良		
1784	土製品	土鍾	4B	黒褐色土層	長4.2	径1.2	重4.1	筒状	精良		
1785	土製品	土鍾	4A	6層・南側部	長4.7	径1.1	重5.5	筒状	精良		
1786	土製品	土鍾	4A	黒灰粘土層・南側部	長3.7	径1.3	重5.1	筒状、堅致	精良		
1787	土製品	土鍾	4A	黒灰粘土層	長4.6	径1.3	重6.3	筒状	精良		
1788	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘質土層	長(3.6)	径1.4	重(4.8)	筒状	精良		
1789	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長(3.4)	径(1.4)	重(4.3)	筒状	精良		

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1790	土製品	土鍾	4C	黒灰色粘土層	長 (3.0)	径1.3	重 (4.2)	筒状	精良		
1791	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長 (5.1)	径1.4	重 (8.1)	筒状、やや長い	精良		
1792	土製品	土鍾	4A	6層	長5.0	径1.4	重7.6	筒状	精良		
1793	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長4.6	径1.4	重7.1	筒状	精良		
1794	土製品	土鍾	4C	黒灰色粘土層	長 (4.2)	径1.5	重 (7.8)	筒状	精良		
1795	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長 (3.0)	径1.4	重 (4.9)	筒状	精良		
1796	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長 (3.0)	径1.5	重 (5.1)	筒状	精良		
1797	土製品	土鍾	4B	黒灰色粘土層	長 (4.2)	径1.6	重 (8.0)	筒状	砂粒少量		
1798	土製品	土鍾	4C	黒灰色粘土層・東西石列	長4.0	径1.8	重11.0	筒状	精良		
1799	土製品	鞆羽口	4B	黒灰色粘土層	径 (10.6)			羽口先端部、不純物付着	礫多量		
1800	銭貨	古銭	4C	黒灰色粘土層・br24	径24.4 mm	厚1.3 mm	孔径6.3 mm	至道元寶、草書体、字体潰れる、裏面擦り減る	銅		
1801	銭貨	古銭	4C	黒灰色粘土層・br22	径23.6 mm	厚1.2 mm	孔径7.2 mm	皇宋通寶、篆書体、字体潰れる、裏面擦り減る	銅		
1802	銭貨	古銭	4A	黒灰粘土層	径23.6 mm	厚1.0 mm	孔径6.2 mm	??通寶、厚さ極めて薄い	銅		
1803	銭貨	無文銭	4B	黒灰色粘質土層・br6	径18mm	厚0.6 mm	孔径7.0 mm	円形、中央に方形の孔、歪み、文様等はなし	銅		
1804	銭貨	無文銭	4C	黒灰色粘土層・br22	径20.8 mm	厚0.8 mm	孔径8.0 mm	円形、中央に方形の孔、歪み、文様等はなし	精良		
1805	銭貨	無文銭	4B	黒灰色粘質土層	径20mm	厚0.8 mm	孔径8mm	円形、中央に方形の孔、歪み、文様等はなし	銅		
1806	銭貨	無文銭	4C	黒灰色粘土層・br23	径20.8 mm	厚0.6 mm	孔径7.7 mm	円形、中央に方形の孔、歪み、文様等はなし	精良		
1807	銭貨	古銭	4A	暗灰粘土層・現石垣下・br5	径26.3 mm	厚1.2 mm	孔径6.2 mm	寛永通寶、裏面「文」	銅		寛文8年 (1668年) 初鑄
1808	金属製品	銅製飾り金具	4B	黒灰色粘土層	径 (2.0)		厚0.1	鑲座か。中央の突起部分に円鑲が付く?、座は10花弁	銅		
1809	金属製品	不明銅製品	4A	黒灰粘土層・br9	長8.9	幅1.3	厚0.1	柳葉状、中央に稜線が走る、下端部はすぼまる	銅		
1810	金属製品	不明製品	4B	黒灰色粘土層	長 (1.8)	幅 (0.8)	厚 (0.1)	鍍金?、扶りが連続的に入る? 装飾金具?	銅?		
1811	金属製品	不明銅製品	4B	黒灰色粘質土層・br14、br11、3B区3層			厚0.27	4点に破損して出土、端部は丸く口縁状に納まる、一部に彫金状になるもモチーフは不明。	銅		
1812	瓦	軒丸瓦	4C	黒灰色粘土層	長 (15.6)	幅 (7.3)	2.1	凸面斜コビキ、離れ砂、ナデ、凹面布目	精良		
1813	石製品	砥石	4A	黒灰粘土層	長 (10.8)	幅 (7.9)	厚5.0	3面欠損、表裏面使用、凹む、煤付着	砂岩		

#### 4区木製品

決定遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	法量 (cm)			特 徴	材 質	備 考
W28	木製品	舟形木製品	5B	通路状遺構・黒灰粘土層・wd2	長 (29.7)	高7.4	幅9.6	複材割船、船首水押し部差し込み、船底中央部に帆柱穴、船尾梶が付くように穴	シャシャンボ	保存処理No.01
W29	木製品	柱痕	4A	柱痕1	長 (85)	径19		全体を加工、先端部平坦	ニヨウマツ	保存処理No.08
W30	木製品	杭	4A	柱痕5	長 (50)	径8		先端部加工、尖る、柱痕1の隣で出土		
W31	木製品	柱痕	4A	P50・柱痕3	長 (18)	径13		先端部加工、更に中央部に溝を穿つ		
W32	木製品	漆椀	4C	P45	口径 (12.0)			黒漆に内外面赤で秋草文	トチノキ	保存処理No.11
W33	木製品	材	4C	P46・wd33	長9.6	幅 (14.7)	厚 (4.7)	両端切り落とす、一端部は斜めに削ぎ落とす		
W34	木製品	漆椀	4A	黒灰色粘質土層	口径 (14.4)			口縁外反、赤漆、文様はなし		
W35	木製品	不明木製品	4C	黒灰色土層	長4.6	幅1.5	厚0.4	上部両脇に切り込み、人形または木札か	コウヤマキ	保存処理No.20
W36	木製品	柄	4C	黒色土層	長 (14.5)	径1.2		円形棒、先端部に四角形のほぞ穴、深さ3.5cm		
W37	木製品	下駄	4A	南側部・黒灰色粘土層	長 (14.4)	幅 (6.7)	厚 (2.6)	連歯下駄、小型、歯作出、後歯欠損、歯高さ1.6cm、		
W38	木製品	下駄	4B	ge 1	長 (18.4)	幅 (8.0)		保存状態不良、連歯下駄、歯作出	ヒノキ	保存処理No.05
W39	木製品	部材	4A	黒灰色土層・ktt1	長 (17.8)	幅 (6.5)	厚0.9	円形板の一部、曲げ物か	ヒノキ	保存処理No.19
W40	木製品	部材	4B	黒灰色粘土層	長25.1	幅4.4	厚0.5	両端部円形、小孔、中央部裏面挟り小孔3ヶ所、曲げ物か	ヒノキ	保存処理No.21
W41	木製品	部材	4B	黒灰色粘土層・3	長 (15.5)	幅4.3	厚0.4	一端部欠損、一端部円形、小孔、裏面挟り小孔3ヶ所、曲げ物か	ヒノキ	保存処理No.24
W42	木製品	部材	4B	黒灰色粘土層	長 (13.5)	幅 (8.0)	厚0.5	先端部角は僅かに丸味、小孔、側縁にも小孔		
W43	木製品	部材	4B	黒褐色土層	長 (12.7)	幅 (1.7)	厚0.5	両端斜めに切る、側縁に小孔3ヶ所、部分的に黒漆が残存		
W44	木製品	部材	4A	黒灰色粘土層	長13.5	幅 (3.1)	厚0.7	曲げ物か、中央部に小孔		
W45	木製品	部材	4C	6層・34	長12.5	幅5.5	厚2.5	中央部に小孔径6mm、厚みあり	ヒノキ	保存処理No.22
W46	木製品	杭	4A	P51・柱痕4	長 (16)	径10		先端部加工		
W47	木製品	杭	4B	黒灰色粘土層	長 (13.0)	径2.1	孔径0.5	先端部尖らず、中心に孔、人工的か不明		
W48	木製品	杭	4A	黒灰色粘土層	長 (17.0)	径4.0		先端部尖らず、樹皮残存		



## 第10節 5区

### 概要

調査対象区では最も谷部の奥に相当する。調査面積は380㎡である。現地地形では4区よりも更に高く、石垣が高く積まれ、試掘調査の段階で、崩落土に覆われ、遺構遺物は検出されていなかったため、調査対象区は4区までとしていた。しかしながら、4区の調査を進める内に、更に奥に遺跡は広がる可能性が強くなり、調査区を拡張した。崩落土は現地表面から4m余り堆積し、試掘調査では到底遺構遺物の確認にまでには至らなかったことが判明した。

崩落土、盛土を除去すると4区の通路状遺構が更に5区まで広がっていることが判明した。通路状遺構より奥は傾斜地となり一段高くなる。傾斜地には礫が乱雑に散らばり、上段との境は部分的には不規則ながらも纏まりの認められる部分がある。大溝SD1、2は収束し、大溝の両脇は高台となる。大溝には谷奥からの土石流が覆い、そのまま土石流が放置されたままであるが、5区から南はその土石流は除去されて、遺跡の復旧が行われたようである。東側部分の高台で柱穴を数基検出した。小規模な建物跡があったと考えられる。西側部分の高台からは巨岩が立ったような状況で出土しており、近くで柱穴を確認している。

出土遺物は少なく、陶磁器類、土器坏、小皿類が出土している。15Cから16Cのものが大半である。その中で特筆されるものは、東側高台部分で出土した鬼瓦1896である。

#### (1) 5A建物跡 (第109図)

東側の高台部分で柱穴を7基検出した。CVI4グリッドに位置する。明確な並びとはなっていない。また柱穴からは遺物は出土していない。高台の回りにはカーブを描き礫が並べたように纏まって出土している。土留めの可能性が強い。一部下段には大石が配置することから、上段への上がり口通路の可能性はある。

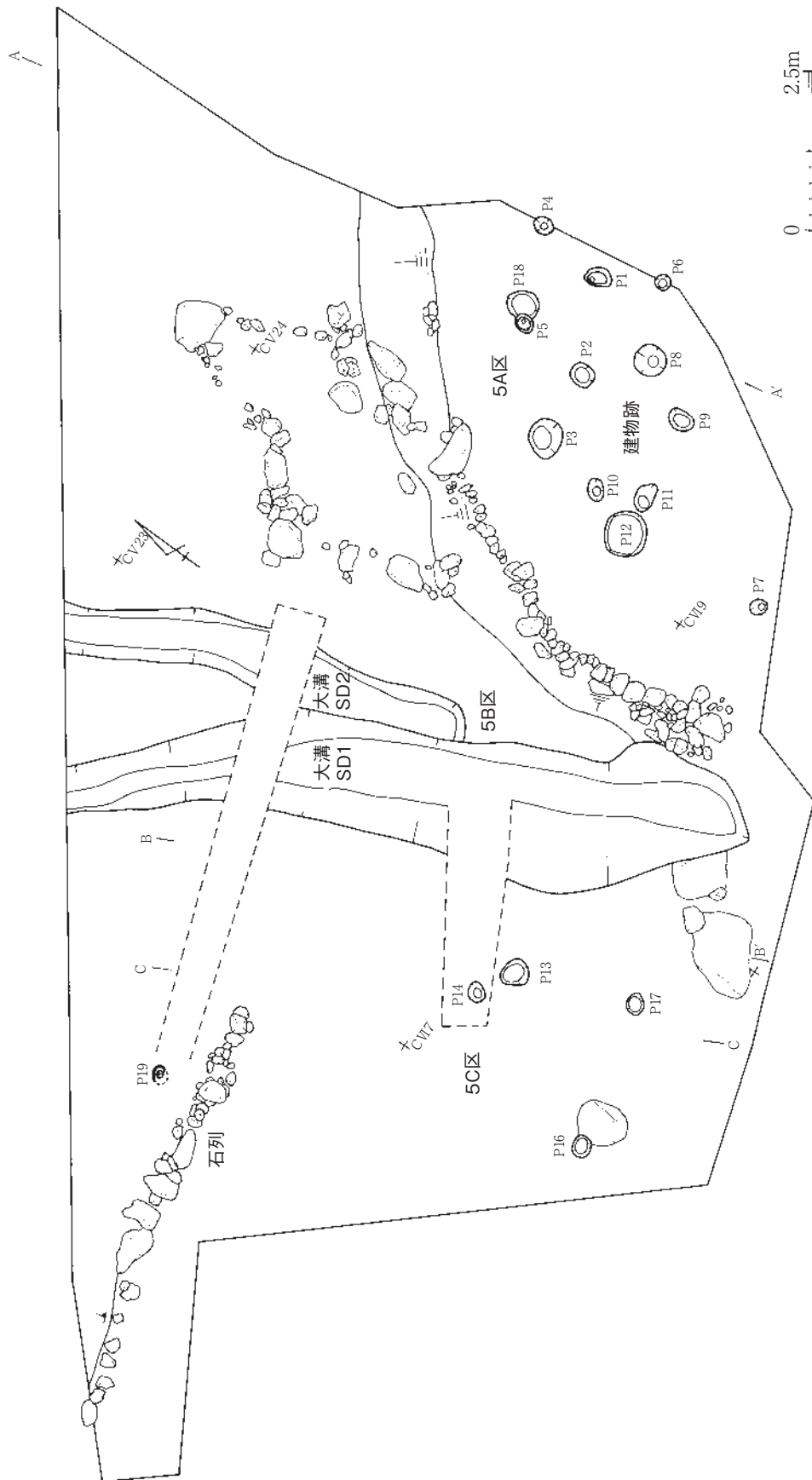
高台の西側部で鬼瓦1896が出土している。他に5A区からは15C中葉から後半の青花皿、青磁稜花皿が出土しており、本遺構に直接伴うものではないものの、同時期の可能性はある。

#### (2) 5C石列 (第109図)

西側の山裾に沿うように大石を使った石列を検出した。BVI5、CVI1グリッドに位置する。長さ約7mである。山側の土留めの可能性が強い。遺物は出土していない為、時期は不明である。5C区からは時期の分かる遺物は1829の15C後半の青磁蓮弁文碗のみであり、具体的な年代は出すことはできない。しかしながら、大枠では15C代と考えられる。

#### (3) 柱穴 (第109図1814～1816)

本調査区では柱穴は極めて少ない。東側の高台にある以外は、西側部で4基検出したのみである。回りには巨石があるものの、土石流によって運ばれて来たものと考えられ、柱穴との関連性はない



第109図 5区遺構配置図



第110図 5区土層

ものと考えられる。遺物はP16から土錘1814、1815の2点と砥石1816が出土している。

#### (4) 5区遺物包含層出土遺物(第111～113図1817～1899、W49～51)

##### ①陶磁器類

###### 白磁

皿1817は端反り皿で15C中葉以降のものである。

小坏1818は口縁が僅かに外反し、腰部に丸味を持つ。見込み内は蛇の目釉剥ぎである。

###### 青花

皿は1819から1821で、1819は15C中葉、1820はアラバスク文で15C後半から16Cのものか。1821は15C後半のものである。

碗は1822、1823の2点で15C中葉から後半のものである。2点は同一個体か。

###### 青磁

皿は1824から1828である。1826から1828は稜花皿である。1824は15C前半で、稜花皿は15C中葉から後半のものである。

碗は1829から1832である。1829、1830は蓮弁文で15C後半のものである。

###### 瀬戸

1833は水注と考えられる。底部は上げ底、体部がやや開き直立気味である。外面に厚い鉄釉が掛り、下半及び底部は露胎となる。内面は薄く鉄釉が掛かる。

###### 近世陶磁器

1834、1835は近世と考えられる。1835は蛸唐草の蕎麦猪口である。

##### ②土器

###### 小皿

小皿は1836から1843で、1836は浅い。1837は体部が大きく開く。1838もやや大型で体部が大きく開く。1839から1843は底部破片である。

###### 坏

1844から1858は坏である。1844は皿状で浅く体部が開く。1845は深く外傾気味に開く。1846は口縁が僅かに括れる。外面に布目痕らしき跡が残る。漆か。内面も漆塗りか。1847から1853の底部は体部が開く。1854から1856は体部が外傾気味に開く。1857は体部に僅かに丸味を持つ。1858は体部下半に丸味を持つ。

###### 釜

1859、1860は口縁下に低い鏝が付く。1859の整形は内外面共ナデ、1860は外面が斜タタキを施す。1859が15C代、1860は15C前半のものである。

##### ③瓦質土器

###### 火鉢

1861から1864は火鉢である。1861は透かし窓を持ち、丸味のある突帯2条の間に円形貼付文を施す。1862も同様のものである。1863は丸味のある突帯の間にスタンプ文を施す。1864は平底で体部下半に丸味のある突帯が1条巡る。

④ 炆器

風炉

1865は胴部の装飾部分で縦格子である。1866は線刻を施す。

壺

1867は口縁に僅かに丸味を持ち、頸部が短く、肩部が張る。肩部に耳を貼付する。自然釉が掛かる。

甕

1868、1869は共に備前産で口縁を折り返し肥厚させる。1868は14C後半以降、1869は15C代と考えられる。1870は平底で体部が僅かに開き直立する。小礫を多量に含む。

⑤ 土製品

土錘

1871から1892は細長い筒状の土錘である。1883から1892は6g以上のものでやや重い。1891は10g程の重いものである。

⑥ 金属製品

針

1893は鉄製縫い針で頭部に小孔径1.8mmが開く。先端は細く尖り、曲る。断面は多面体である。

不明銅製品

1894は短冊状を呈し、裏面はほぼ平坦で表面はやや膨らみを持つ。先端部は欠損し、全体にややカーブする。頭部にやや片寄って小円孔径3.4mmを穿つ。

釘

1895は鉄製の和釘で断面は四角である。両端部は欠損する。

⑦ 瓦

鬼瓦

1896の文様は珠文のみ残存する。角は面取りを行ない、裏面は外区が突帯状に出っ張る。裏面の整形は粗い指ナデである。

⑧ 石製品

石鍋

1897は滑石製の石鍋である。口径は41cmを測る。口縁部は肥厚し、口縁下端に低い鏝が付く。

口唇は平坦で体部は直線的にすぼまる。被熱する。15Cのものか。

#### 石臼

1898、1899は粉曳き臼である。1898は上臼、1899は下臼である。

### ⑨木製品

#### 部材

W49は薄く小孔を1ヶ所穿つ。曲げ物か。W50は細長く、側縁に径5mmの小穴が5ヶ所開けられている。材質はヒノキである。

#### 柱痕

W51は径8cmで一側面が焼ける。

### (5) 5区小結

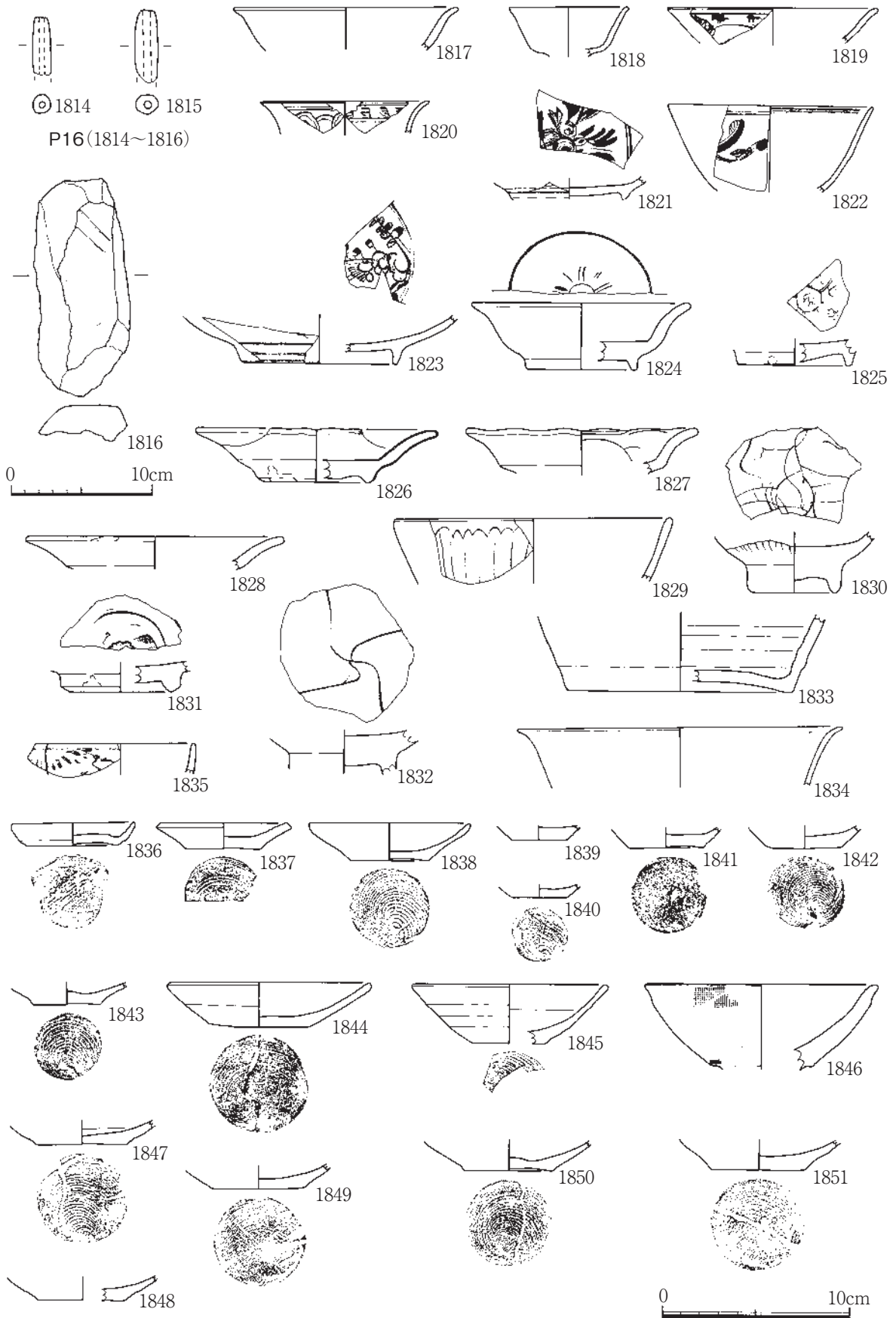
本調査区は中枢である3、4区から通路状遺構を隔てた奥に当たる。地形は余り改変された痕跡がなく、自然地形を利用して、3、4区より一段高所に立地していた。中世の遺物包含層に至るまでに現代、近世の瓦礫が厚く被覆しており、更に中世の段階の崩落土が被覆していた。崩落土は通路状遺構迄でそこから先の3、4区では復旧が行なわれたようであるが、5区は放置されたままの状態と考えられる。出土遺物の年代からして15C末から16Cには放置されたと考えられる。

検出した遺構は少なく、一段高くなった高台の東側部分で柱穴数基を確認する程度であった。鬼瓦が出土しているものの、他に瓦は出土しておらず、瓦葺建物跡の存在は希薄と考えられる。総じて遺物量も少なく、本遺跡の中枢となる可能性は少ない。

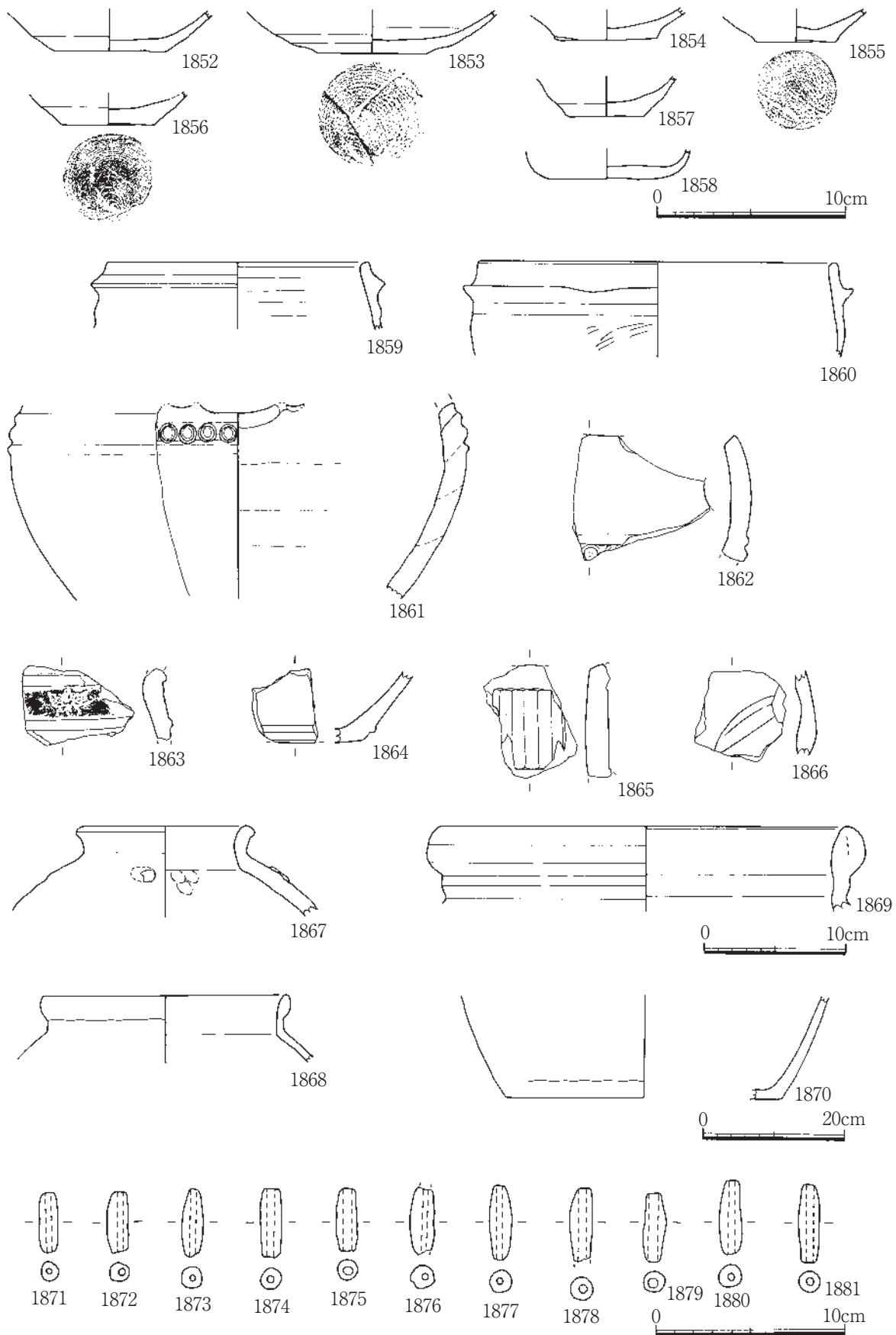
遺物は陶磁器類の白磁は少なく、青花皿、青磁稜花皿、青磁碗が主なものである。年代は15C中葉から後半のものがほとんどを占めている。瀬戸産も少なく1833の水注と考えられるものがある程度である。

日常雑器類は備前産の14C後半以降の甕、播磨の15C代の釜、土器坏、小皿も少ない量である。風炉、火鉢類も1861を除いて細片が占めている。その他、1897の石鍋が1点と土錘が比較的纏まっているのが若干特徴的である。

本調査区の年代幅は少なく、15C代で始まり、同じく15C代内で終結したと考えられる。

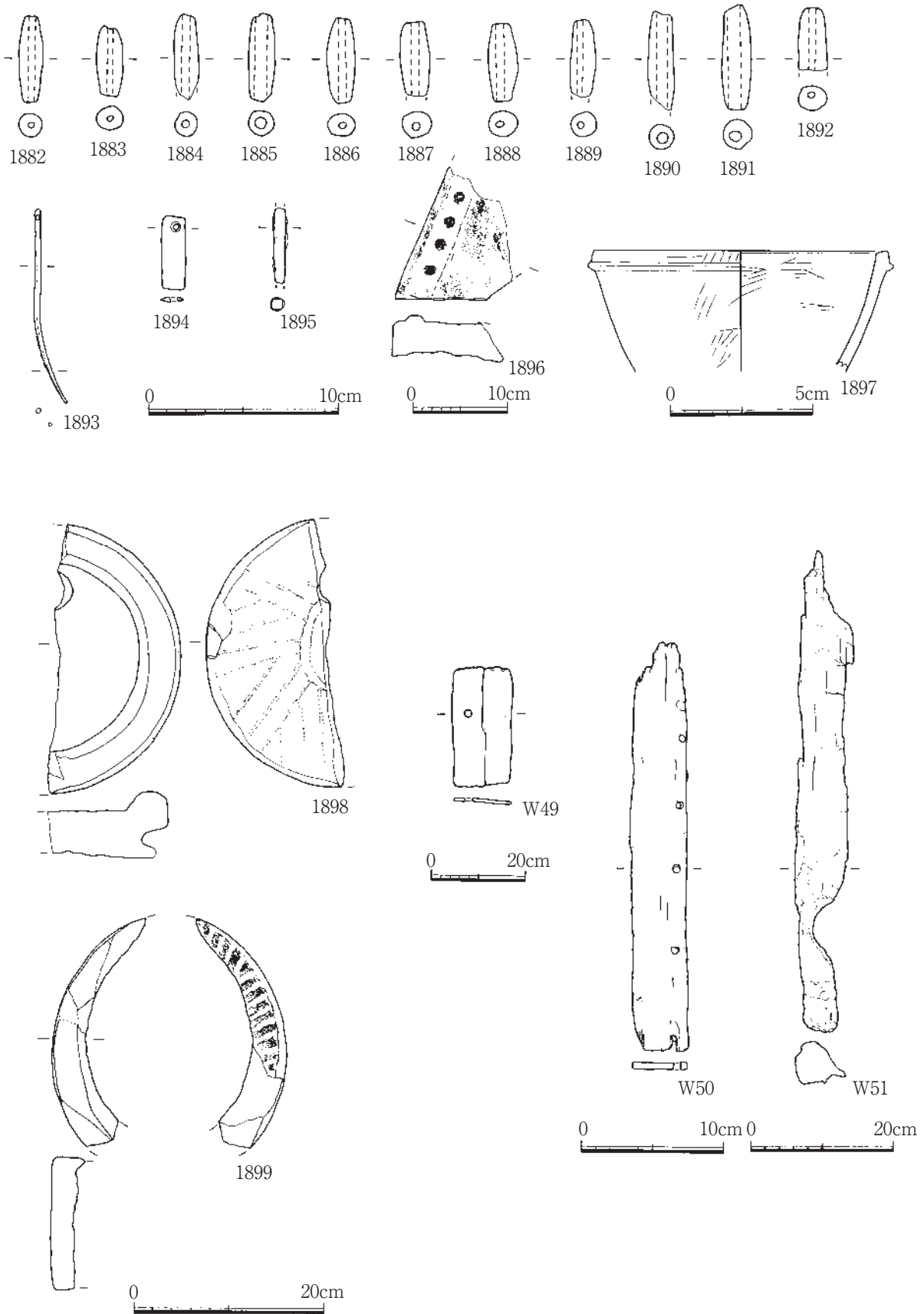


第111図 5区遺物実測図1



第112图 5区遺物実測図2





第113図 5区遺物実測図3

表11 5区遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1814	土製品	土鉢	5C	P16	長(3.1)		径1.0 重(3.0)	筒状	精良		
1815	土製品	土鉢	5C	P16	長(3.8)		径1.4 重(4.3)	筒状	精良		
1816	石製品	砥石	5C	P16	長15.3	幅6.4	厚2.5	表面のみ自然面が残り、中央部凹み、擦痕数条	緑色岩		
1817	陶磁器	白磁皿・口縁	5A	盛土	(12.0)			端反り	乳白色、精良		
1818	陶磁器	白磁小坏	5A	6層	(6.4)			口縁僅かに外反、腰部丸味、見込み内蛇の目	白色、精良		
1819	陶磁器	青花皿・口縁	5A	西・黒灰色粘土層	(11.3)			口縁外反、体部外面草花文、口縁内面界線	白色、精良	15C中～	
1820	陶磁器	青花皿・口縁	5A	5層	(9.0)			口縁外反、口縁外面波濤文帯、口縁内面界線間アラベスク文様	白色、精良	15C後半～16C	
1821	陶磁器	青花皿・底部	5A	4層			(6.0)	外面、見込み内花樹?、底裏露胎	灰白色、精良	15C後半～	
1822	陶磁器	青花碗・口縁	5B	下段・黒灰色粘土層	(10.9)			外面絵付け、口縁内外面界線	白色、精良	15C中～後半	1823同一
1823	陶磁器	青花碗・底部	5B	下段・黒灰色粘土層			(8.1)	見込み内梅花文、畳付け釉剥ぎ	白色、精良	15C中～後半	1822同一
1824	陶磁器	青磁皿	5A	4層・d14	(11.7)	3.6	(5.8)	口縁反る、底裏露胎、見込み内文様	灰白色、精良	15C前半	
1825	陶磁器	青磁皿・底部	5A	4層			(6.1)	見込み内陰刻、底裏露胎	灰白色、精良		
1826	陶磁器	青磁稜花皿	5A	4層	(12.8)	2.9	(5.6)	稜花、口縁開く、腰部腰折れ、見込み内露胎、畳付け・底裏露胎	灰色、精良	15C中～後半	
1827	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	5B	下段・黒灰色粘土層	(12.4)			稜花、口縁開く、腰部腰折れ、内面陰刻文	乳白色、精良	15C中～後半	
1828	陶磁器	青磁稜花皿・口縁	5A	4層	(13.5)			口縁開く、腰部腰折れ、2次被熱、釉褐色	精良	15C中～後半	
1829	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	5C	6層	(14.6)			線描き蓮弁文	灰色、精良	15C後半	
1830	陶磁器	青磁碗・底部	5A	下段・黒灰色粘土層・16			(4.4)	底裏蛇の目軸剥ぎ、外面線描き蓮弁文、内面陰刻文	灰白色、精良		
1831	陶磁器	青磁碗・底部	5A	5層			(5.5)	見込み内陰刻、底裏・畳付け露胎	淡茶色、精良		
1832	陶磁器	青磁碗・底部	5A	se22				見込み内陰刻、底裏露胎	灰色、精良		
1833	陶磁器	水注?・底部	5A	4層、5層			(12.0)	底部上げ底、体部やや開き直立、外面厚い鉄釉、下半及び底部は露胎、内面薄い鉄釉	乳灰白色、精良		瀬戸
1834	陶磁器	染付碗・口縁	5A	5層	(17.3)			口縁外反、口縁内外面界線、口鏝	白色、精良	近世	
1835	陶磁器	染付蕎麦猪口・口縁	5A	上層・d110	(7.8)			蛸唐草文?	白色、精良	近世	
1836	土器	小皿	5C	5層	(6.6)	1.2	(5.0)	摩耗、底部切り離し不明、箕子状圧痕、体部短く立ち上がる、内面底轆轤目	精良		
1837	土器	小皿	5C	6層	(6.8)	1.4	(4.0)	底部糸切り、体部短く外反気味に開く、口唇平坦	精良		
1838	土器	小皿	5B	下段・黒灰色粘土層	(8.6)	2.0	4.2	底部糸切り、体部短く開く	精良		
1839	土器	小皿・底部	5A	4層			3.0	摩耗、底部糸切り?、底径小さい、体部開く	精良		
1840	土器	小皿・底部	5A	4層			3.0	摩耗、底部糸切り、底径小さい、体部開く	精良		
1841	土器	小皿・底部	5A	4層			4.0	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1842	土器	小皿・底部	5A	5層			4.2	底部糸切り、体部開く	精良		
1843	土器	小皿・底部	5A	5層			3.6	底部糸切り、体部開く、内面底凸る	精良		
1844	土器	坏	5C	6層	(10.9)	2.4	5.4	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1845	土器	坏	5B	6層	(10.5)	3.2	(4.0)	底部糸切り、体部開く、やや堅致	精良		
1846	土器	坏	5A	4層	(12.5)		(5.6)	体部やや開く、口縁僅かに括れる、外面布目痕漆か、内面も漆塗りか	精良		
1847	土器	坏・底部	5B	6層			4.8	底部糸切り、体部開く	精良		
1848	土器	坏・底部	5B	下段・黒灰色粘土層			(4.6)	底部糸切り、体部短く開く	精良		
1849	土器	坏・底部	5C	6層			5.0	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1850	土器	坏・底部	5A	下段・黒灰色粘土層			4.8	底部糸切り、体部開く、内面底やや凸る	精良		
1851	土器	坏・底部	5C	6層			5.0	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1852	土器	坏・底部	5C	6層・d213			6.0	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1853	土器	坏・底部	5C	6層			5.8	摩耗、底部糸切り、体部大きく開く、制作時にへたって大きく体部開いたものか	精良		
1854	土器	坏・底部	5C	6層			5.4	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1855	土器	坏・底部	5A	下段・黒灰色粘土層			4.2	底部糸切り、体部開く、内面底やや凸る	精良		
1856	土器	坏・底部	5B	下段・黒灰色粘土層			4.9	底部糸切り、体部短く開く	精良		
1857	土器	坏・底部	5A	4層・d143			4.0	摩耗、底部切り離し不明、体部やや開く	精良		
1858	土器	坏・底部	5A	5層			6.4	摩耗、底部糸切り？、体部下半丸味、自然鉄分沈着	精良		
1859	土器	釜・口縁	5B	下段・黒灰色粘土層	(18.4)			口縁下に低い鏝、口唇やや平坦気味、内外面ナデ	微砂粒多量	15C	
1860	土器	釜・口縁	5A	4層	(25.0)			口縁下に低い鏝、口縁直立気味、口唇やや丸味、体部外面斜タタキ、煤付着	砂粒多量	15C前半	播磨
1861	瓦質土器	火鉢・底部	5A	黒灰粘土層・d140			厚1.6	透かし窓、丸味のある突帯2条の間に円貼付、内外面黒灰色	灰色、小礫少量		1862同一か
1862	瓦質土器	火鉢・口縁	5A	下段・5層・181				口唇斜に平坦、口縁無文、内湾気味、胴部丸い突帯に円貼付文、透かし窓、内外面黒灰色	灰色、砂粒少量		1861同一か
1863	瓦質土器	火鉢・胴部	5A	4層			厚1.2	丸味のある突帯の間にスタンプ文、内外面黒灰色	灰色、微砂粒多量		
1864	瓦質土器	火鉢・底部	5B	下段・黒灰色粘土層				平底、体部下半に丸味のある突帯1条、体部開く	微砂粒多量、金雲母微量		
1865	瓦質土器	風炉・胴部	5A	4層・d14			厚1.6	風炉胴部裝飾部分、縦格子、内外面黒灰色	灰色、微砂粒少量		
1866	瓦質土器	風炉・胴部	5B	下段・黒灰色粘土層				線刻	微砂粒多量		
1867	炆器	壺・口縁	5A	4層、5層	(11.6)			口縁僅かに丸味、頸部短く、肩部張る、肩部に耳貼付、自然釉	砂粒少量		ベトナム？
1868	炆器	甕・口縁	5A	下段・黒灰色粘土層・d178	(33.8)			口縁折り返し肥厚、肩部張る、内外面赤褐色	小礫多量	14C後半～	備前
1869	炆器	甕・口縁	5B	下段・黒灰色粘土層	(29.0)			口縁折り返し肥厚、内外面赤褐色	礫少量	15C	備前
1870	炆器	甕・底部	5A	4層、5層			(38.8)	平底、体部僅かに開き直立	小礫多量		
1871	土製品	土錘	5C	6層	長(3.2)	径1.0	重(3.1)	小型、筒状	精良		
1872	土製品	土錘	5B	下段・黒灰色粘土層	長3.2	径1.1	重3.8	筒状	精良		
1873	土製品	土錘	5A	4層	長(3.6)	径1.1	重(3.6)	筒状	精良		
1874	土製品	土錘	5A	4層	長(3.7)	径1.2	重(3.9)	筒状	砂粒微量		
1875	土製品	土錘	5A	5層	長3.3	径1.1	重3.5	筒状、自然鉄分沈着	砂粒微量		
1876	土製品	土錘	5B	下段・黒灰色粘土層	長(3.6)	径1.3	重5.2	筒状	精良		
1877	土製品	土錘	5A	4層	長3.9	径1.2	重4.5	筒状	精良		
1878	土製品	土錘	5A	5層	長(3.9)	径1.2	重(4.4)	筒状	精良		
1879	土製品	土錘	5A	5層	長3.7	径1.2	重3.5	筒状	精良		
1880	土製品	土錘	5A	5層	長3.9	径1.2	重4.6	筒状	砂粒微量		
1881	土製品	土錘	5A	下段・黒灰色粘土層	長4.1	径1.1	重4.3	筒状	精良		
1882	土製品	土錘	5A	4層	長4.6	径1.3	重5.7	筒状	砂粒微量		
1883	土製品	土錘	5B	下段・黒灰色粘土層	長3.7	径1.4	重6.2	筒状	精良		
1884	土製品	土錘	5A	4層	長(4.5)	径1.2	重(6.0)	筒状	精良		
1885	土製品	土錘	5A	4層	長(4.6)	径1.4	重(6.9)	筒状	精良		
1886	土製品	土錘	5A	4層	長4.5	径1.5	重7.2	筒状	精良		
1887	土製品	土錘	5A	4層	長(3.9)	径1.5	重(7.7)	筒状	精良		
1888	土製品	土錘	5A	5層	長4.1	径1.6	重7.9	筒状	砂粒微量		
1889	土製品	土錘	5A	5層	長(4.0)	径1.9	重(6.5)	筒状	精良		
1890	土製品	土錘	5A	4層	長(5.1)	径1.3	重(7.8)	筒状、やや大型	精良		
1891	土製品	土錘	5A	4層	長(5.5)	径1.5	重(9.8)	筒状、やや大型	精良		
1892	土製品	土錘	5B	下段・黒灰色粘土層	長(3.3)	径1.5	重(7.2)	筒状	精良		
1893	金属製品	針	5A	4層・te30	長10.2	径0.3	重3.0	鉄製縫い針、頭部に小孔径1.8mm、先端は細く尖り、曲る、断面多面体	鉄		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1894	金属製品	不明銅製品	5A	4層・br19	長 (3.8)	幅 (1.2)	厚6.9	短冊状、裏面はほぼ平坦、表面はやや膨らみを持つ、先端部は欠損、全体にややカーブする、頭部にやや片寄って小円孔径3.4mm	精良		
1895	金属製品	鉄釘	5A	5層	長 (3.9)	厚0.7		和釘、断面四角	鉄		
1896	瓦	鬼瓦	5A	5層・k104	長 (15.3)	幅 (105)	厚 (3.9)	文様は珠文のみ	精良		
1897	石製品	石鍋・口縁	5A	4層・d144	(41.0)			口縁部肥厚、口縁下端低い鏝、口唇平坦、体部直線的にすぼまる、被熱	滑石	15C	
1898	石製品	石臼	5A		径 (18.5)	高7.2	重 (3840)	粉引き上臼、半損、上面ほぞ孔、裏面擦り減る	砂岩		
1899	石製品	石臼	5C	6層	径 (22.0)	高さ 14.0		下臼、極部分的に側面が残る、下面に刷り目、側面製作工具痕	砂岩		

## 5区木製品

決定遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	法量 (cm)			特 徴	材 質	備 考
W49	木製品	部材	5B	6層	長 (6.3)	幅 (3.1)	厚0.2	薄い、小孔1ヶ所、曲げ物か		
W50	木製品	部材	5下	黒灰色粘土層	長 (28.8)	幅 (4.0)	厚0.5	側縁に小穴径5mmが5ヶ所	ヒノキ	保存処理No.18
W51	木製品	柱痕	5B	tu1、2	長 (68)	径8		一側面焼ける		

## 第11節 大 溝

### 概 要

3B区と3C区の境部分で大溝SD1、2の2条を検出した。南側の谷部5区から、4区、3区、下段の2B区まで調査区を縦走し、更に延びるものと考えられる。3区北端でSD1、2は合流し、2B区では1条となる。時期的には本遺跡で最も古い時期に相当し、3C区の基壇状遺構の下層で検出している。SD1は部分的に石積みが認められている。SD2には石積みは認められず、SD1、2は時期差があるものと考えられ、同時併存したのではなく、SD2からSD1に付け替えられた可能性が高い。2B区の出土遺物はSD1として報告する。また3C区、4C区、5C区も調査区別に記述する。

#### (1) 大溝SD1

SD1は谷部の5区から4区、3区と縦走し、3区北端でSD2と合流する。SD2との合流点近くでやや東に屈曲する。合流後、未調査区を隔てて2B区で再び検出している。遺構確認は上層の基壇状遺構の下になり、本遺跡では最下層に構築されていた。

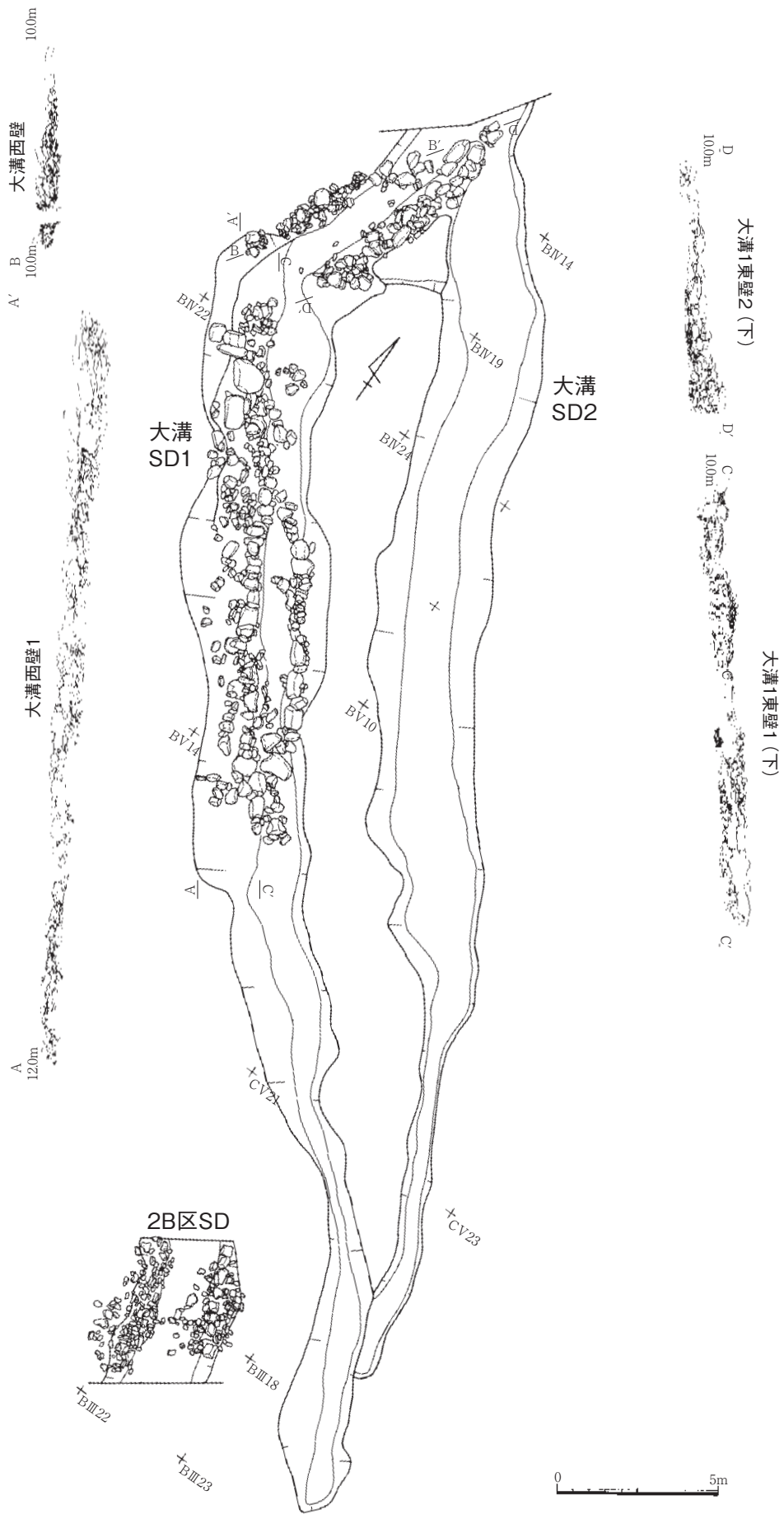
規模は3区から5区での全長は約46mを測る。比較差は4m程になる。掘り方は壁はなだらかである。幅は上流の5区では狭く1m足らずであるが、3区の下流に行くに従い徐々に幅を広げ5m程になる。底部幅は2mから3mである。深さもまちまちで深いところで1.2mを測る。3区では壁両脇に石積みを行う。下流域では杭も打たれていた。

遺物は2172の大甕がBIV 8グリッド周辺で出土している。また土器坏、小皿類も完形品、半完形品が纏まって出土している。時期の分かるものは1918の青磁鎬蓮弁文の13C後半、東播磨の捏ね鉢2165、2166は13C中葉と考えられるものが出土しているところから、SD1の所属時期は13C後半頃と考えられる。

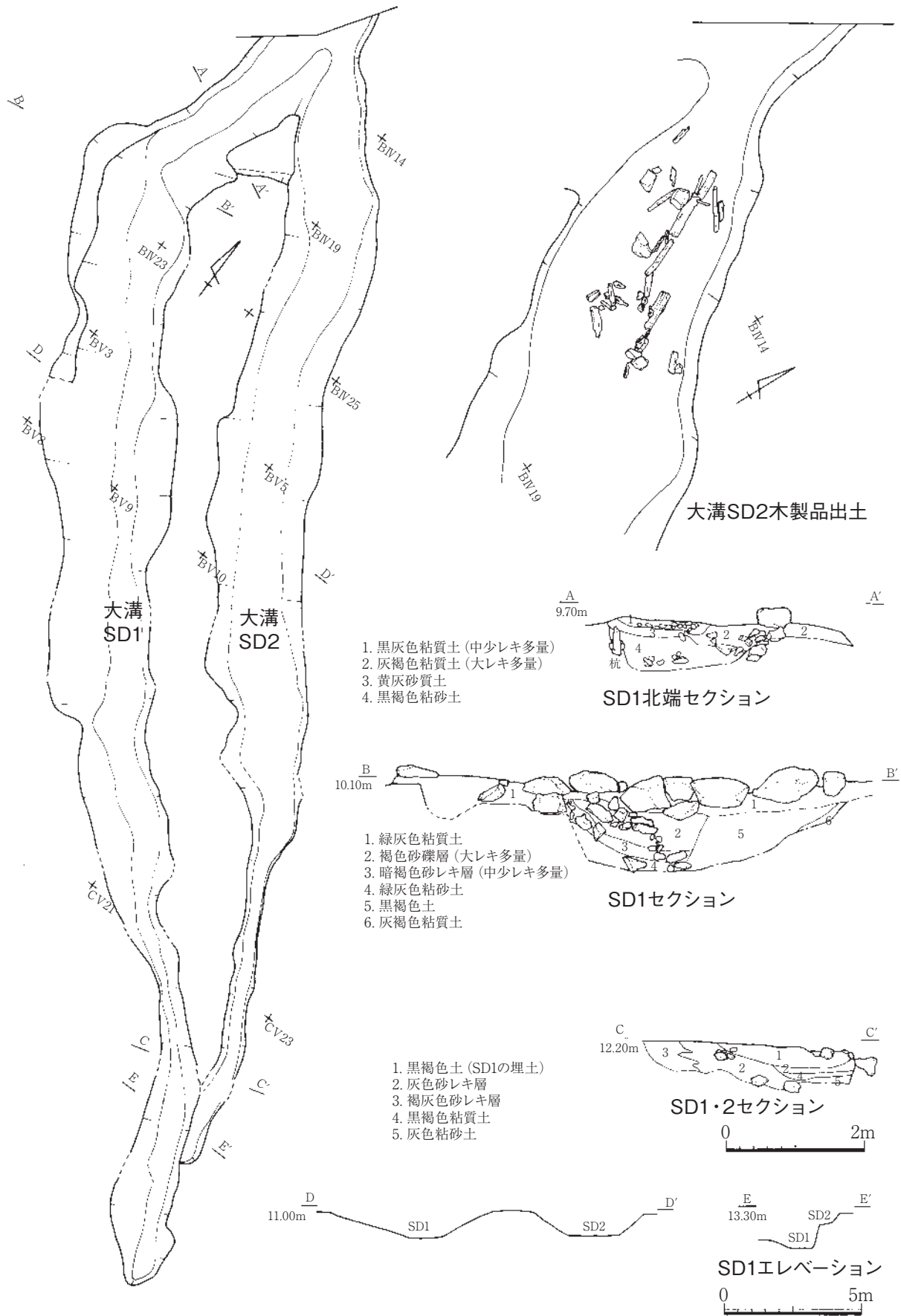
#### (2) 大溝SD2

SD1とSD2は5区で枝分かれし、再び3区の北側部で合流する。しかし、同時に存在したものではなく、付け替えを行なった結果と考えられる。幅は約3.5mでSD1より若干狭く、底面は約2mで断面は皿状に近い。SD1との大きな差は石積みが認められない点である。

出土遺物で時期の分かるものは2191の白磁四耳壺が13C後半、東播磨の捏ね鉢2234が13C中葉に含まれ、SD1と出土遺物からは時期差は認められない。しかしながらSD1とSD2が同時併存したものではなく、SD1が一段階新しい可能性が高い。本来、SD2にも石積みが行なわれていたものの、石積みを抜去し、SD1に付け替えられた可能性がある。出土した陶磁器類には時期差は認められないものの、土器坏には形態差が認められる。土器類から明確に時期差は導き出せないものの、時期差の顕れと捉えられる。BIV 13グリッドでは下駄以外に柿経に似た薄い板材が纏まって出土している。また、衣笠の木製品も出土した。



第114図 大溝



第115図 大溝SD1・2

### (3) 2B区SD1出土遺物(第116図1900～1917)

#### ①陶磁器類

##### 白磁

碗1900が1点出土している。口縁が反り、11Cのものと考えられる。伝世品か。

#### ②土器

##### 坏

1901から1906である。1901は底部に簀子状圧痕が残り、体部やや外傾気味に立ち上がる。内外面共に轆轤目を残す。1902は体部が直線的に開く。1903から1906は底部破片である。体部に轆轤目を残し、開く。

#### ③瓦質土器

##### 鉢

1907は素口縁で内外面の整形はナデである。灰白色を呈する。14C後半の在地のものか。

##### 甕

1908は口縁が内傾し、口唇が反る。外面は叩き、内面が刷毛整形である。黒灰色を呈する。2B区の柱穴P55出土の502と同一個体か。15C後半のものか。

#### ④炆器

##### 壺

1909、1910は共に口唇を折り返し玉縁で、肩部が張る。外面に自然釉が掛り、灰色を呈する。

#### ⑤土製品

##### 土錘

1911から1914は細長い筒状の土錘である。4gから5gの小型のものである。

#### ⑥瓦

##### 平瓦

1915は両面離れ砂か。表面はコビキか。

#### ⑦石製品

##### 石鍋

1916は口縁下に断面三角形の鏝が付く。口唇は平坦で体部外面に縦の工具痕が残る。滑石製である。15C代のものか。

##### 砥石

1917は仕上げ砥である。一側面が欠損し、表裏面と一側面を使用し擦痕が残る。粘板岩製である。



## (4) 3C区SD1出土遺物(第117～125図1918～2180、W52～W65))

## ①陶磁器類

## 青磁

1918から1920は碗である。1918は鎬蓮弁文で13C後半、1919は削り出し高台で、底裏は蛇の目釉剥ぎである。体部外面は鎬状の蓮弁文で14Cから15Cのものである。1920は見込み内に陰刻文を施す。畳付けは釉剥ぎ、底裏は露胎である。14Cから15Cのものである。

## ②土器

## 小皿

小皿は多量に出土した。掲載した点数は1921から2012の92点である。1921から1965は小型のもの、1966から2011はやや大きなものである。その中で幾つかのタイプに分かれる。1921から1932は浅い。1933から1945はやや浅く、体部に僅かに丸味を持つ。1946から1950はやや深く体部に丸味を持つ。1951から1956は浅く体部が外反気味である。1957から1960は浅く体部が外傾する。1961から1965は浅く体部が直立する。

1966から1972はやや浅く体部はやや丸味を持つ。1973から1978は浅く体部は丸味を持つ。1985から1993はやや浅く体部が外反気味である。1994から2000は浅く体部が外反する。2001から2006はやや深く体部が直立気味である。2007から2011は浅く体部が直立する。2012は底部破片で下半に丸味を持つ。

## 坏

坏も多く、2013から2161の149点を取り上げる。器肉が薄く、轆轤目を顕著に残し口縁端部が直立し、底部内面が凹むものが多い。また色調が黄白色を呈するものの一定量含まれる。2013から2036はやや小型、2037から2103はやや大きなものに分かれ、更に幾つかのタイプに分かれる。変化は漸移的である。

2013から2020は皿状で浅く体部が開く。2021から2036は皿状に近く、浅く体部は丸味を持つ。2037から2061はやや大きく、体部に丸味を持ち、やや浅いものと深いものに更に分かれる。2037から2045は浅く、2046から2061は深いものである。

2062から2082は深く、体部が外反か外傾するものである。2062から2073はやや深く、体部が開き、口縁端部が直立する。2074から2082はやや深く、体部は直線的に外傾するものである。

2083から2106は体部の余り開かないもので、深いものである。2083から2094はやや外傾する。2095から2103は深く体部は直立気味のものである。2104から2106は箱形を呈する。

2107から2161は底部破片である。底部破片のみで類型化は困難で、残存した体部の開き具合で大きく分類した。2107から2125は大きく開く。2126から2135はやや開く。2136から2142はやや丸味を持つ。2143から2146は外傾する。2147から2149は直立気味である。2150、2151は直立する。2152から2157は底部端脇が出っ張るものである。2158から2161は類型化できない。

## ③瓦器

## 瓦器碗

2162は口縁が内湾気味で外面がナデ、内面がハケとミガキ整形である。外面は黒灰色、内面が灰色を呈する。在地産か。本遺跡では瓦器碗はこの1点のみである。

## ④瓦質土器

### 羽釜

2163は口縁が直立し、口唇は丸味を持つ。口縁下に低い鐳が付く。口縁がヨコナデ整形、内外面共に黒褐色を呈する。13C末の畿内のものか。

### 甕

2164は肩部が余り張らず頸部はやや反る。口縁外面が面になり口唇は丸味を持つ。肩部に僅かにハケ、内面はナデとヘラナデ整形である。内外面共に褐色を呈し、軟質である。

## ⑤炆器

### 捏ね鉢

2165、2166は共に口縁を拡張する。2165は内面が落剥しており、使用痕か。東播磨の13C中葉のものか。

### 播鉢

2167は備前産の播鉢の底部破片である。胎土は少量砂粒を含む。

### 甕

2168は東播磨の甕である。肩部が張り、頸部は短く、口縁が強く外反する。口唇外面は面になり、受け口状を呈する。肩部はタタキ整形である。13C中葉のものである。2169から2171は常滑である。2169は口縁を折り返し「N」字状になり、肩部はなだらかで自然釉が掛かる。内外面共に赤褐色を呈する。2170、2171は底部である。3点共に13Cから14Cのものである。

## ⑥土製品

### 土錘

2173から2176は細長い筒状のものである。2176が7.7gで他は4gから5gのものである。

## ⑦銭貨

### 古銭

2177、2178の2点共に「熙寧元寶」である。字体は潰れ、裏面が擦り減る。

## ⑧金属製品

### 飾り金具

2179は円形の飾り金具である。径2.1cmを測る。菊文様か。中央に孔が開き、孔径4mmである。銅製である。

⑨石製品

磨石

2180は磨石か。楕円礫で一面のみ摩耗し、煤が付着する。花崗岩製である。

⑩木製品

箸状木製品

W52からW65は長さ20cm前後の細長いものである。両端部が尖り、断面が長方形を呈する。樹脂同定ではヒノキの結果が出ている。

(5) 4C区SD1出土遺物(第126図2181～2189)

①土器

小皿

2181から2186で、2181は浅く開く。2182から2184は浅く体部は外傾気味である。2185、2186は体部が短く外反気味である。

坏

2187、2188は底部破片で、2187は体部が開き、轆轤目を残す。2188は底部脇が突出気味で、体部は直立気味である。

②瓦質土器

鍋

2189は口縁下に低い鏝が付き、口唇はやや平坦気味である。内外面共に指頭、ナデ整形である。自然鉄分沈着する。14C末から15Cのものである。

(6) 5C区SD1出土遺物(第126図2190)

①土器

坏

2190の1点のみである。体部は轆轤目を残し、やや開く。内面底はやや凹む。

(7) 3・4B区SD2出土遺物(第126、127図2191～2239)

SD2は大部分が3B区に含まれており、4B区からの遺物は僅かであり、3B区と4B区を纏めて報告する。

①陶磁器

白磁

2191は四耳壺で口縁部が丸く、折り曲げる。内外面共に薄緑に発色する。13C後半のものである。

②土器

### 小皿

2192から2204で、その中で2203、2204は底部破片である。2192は極めて浅い。2193から2196は浅く体部が外反する。2197から2202は体部にやや丸味を持つもので、2197は浅い。底部破片2204は底部中央部に径0.7cmの円孔を穿つ。

### 坏

2205から2207は皿状である。2208から2214は体部が外傾気味である。2215から2217は体部がへたったようなもので、口縁が直立する。2218、2219は外傾する。2220から2224は深く、体部にやや丸味を持つ。2225は碗状に体部に丸味を持つ。2226、2227は箱形である。2228から2232は底部破片で2228、2229は体部が開く。2230から2232は底部脇が突出し、体部は直立気味である。

### 燭台

2233は円盤状の底部で焼成前の円孔径8mmを穿っている。上に坏状に立ち上がる。胎土は他のものと同様である。

## ③瓦質土器

### 捏ね鉢

2234は片口部分である。口縁は肥厚し、内外面とも灰白色を呈する。13C中葉の東播磨のものである。

### 鍋

2235は頸部が僅かに括れ、口唇部は平坦である。外面が灰色、内面は黒灰色を呈する。14C後半の在地のものである。

## ④炆器

### 甕

2236は平底で体部は斜め上方に伸びる。外面は縦ヘラ削り、内面がナデ整形である。

## ⑤土製品

### 穿孔盤

2237は土器片に穿孔したものである。孔径0.3cmである。

### 土錘

2238は細長い筒状のもので、10.1gとやや重い。

## ⑥銭貨

### 古銭

2239は「開元通寶」である。裏面は摩滅する。

## ⑦木製品

#### 箸状木製品

W66からW76は長さ20cm前後の細長いものである。両端部が尖り、断面が長方形を呈する。

#### 下駄

W77からW79は連歯下駄である。W77は角丸長方形で長さ21cmである。W78は小判形で長さ21.7cmである。W79は保存状態が悪い。3点共に材質はヒノキである。

#### 傘

W80は傘の鏡板部分か。中央の軸に0.6cmの孔、枝骨5本がほぼ均等に広がる。

#### 部材

W81は三日月形を呈し、側面に小孔を穿つ。片面は黒漆塗りである。W82は台形状を呈する。底辺が5.7cm、上辺2.9cm、高さ3.5cmを測る。

#### 板状木製品

W83からW87は短冊状の薄い板である。SD2の南側下流で纏まって出土している。W83、W86は先端部角を削り取る。柿経のように文字等は観察できなかった。

## (8) 大溝小結

大溝SD1、SD2は調査区での長さは50m以上を測る人工的に掘削された大溝である。谷奥の5区から始まり、4区、3区、2B区へと調査区を縦走し、更に調査区外へと続く。基壇状遺構の調査終了後の下層で検出している。大溝が埋まった後に基壇状遺構の基礎部分の大石がBIV18グリッド周辺に構築されており、基壇状遺構の所属時期が14C後半から15C前半であるところから、それ以前に遡ることは明白である。出土遺物からは時期差は判然としないものの、SD1とSD2は同時併存したのではなく、若干の時期差があったものと考えられる。

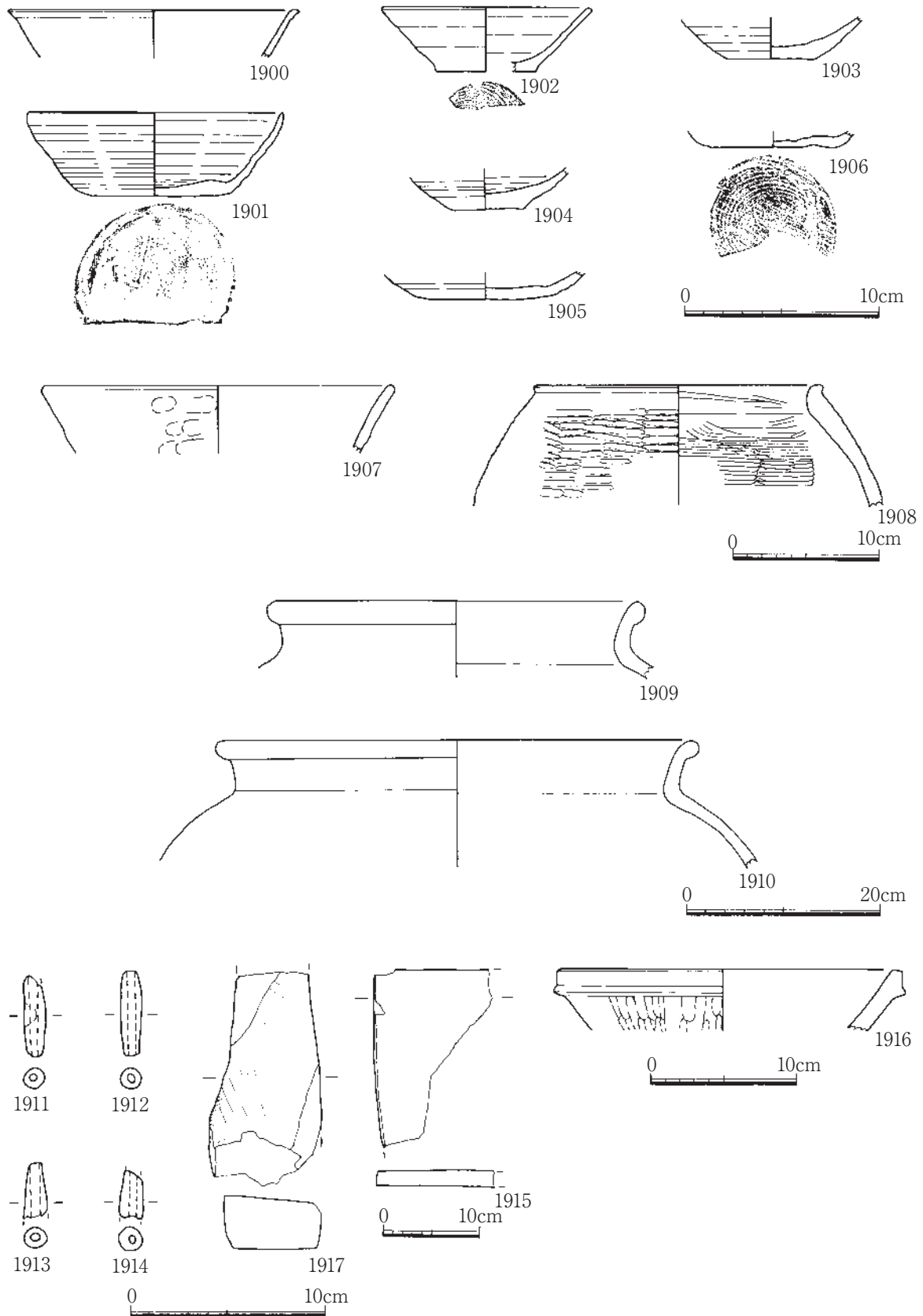
出土遺物からしてSD1、SD2の所属時期は13C後半と考えられる。本遺跡の中核の時期は14C後半から15C前半であり、大溝は初源期の遺構と考えられる。初源期の遺構は明確なものは少なく、3C区の石列1とその周辺の柱穴群に絞られる。他の調査区でも13Cの遺物群は出土しているものの、13Cと特定できる遺構は検出していない。大規模な大溝を掘削していることからして、該期の集落跡、寺院関連遺構が検出されて当然と考えられるものの、3区、4区では13Cの遺構は少なかった。

大溝からの出土遺物は、時期の分かるものから取り上げると、SD1からは2169、2170の13Cから14Cの常滑、2168の13C中葉の東播磨の甕、同じく東播磨の捏ね鉢、青磁碗は1918の蓮弁文碗が13C後半、1919、1920は14C以降のものである。SD2からは2234の東播磨の13C中葉の捏ね鉢、2235の在地の14C後半の鍋が出土しており、おおむね13Cから14C代の遺物で占められているところから、大溝の存続時期は該期と考えて大過ない。時期、産地が比定できていない大甕2172も該期に含まれる可能性が強くなった。

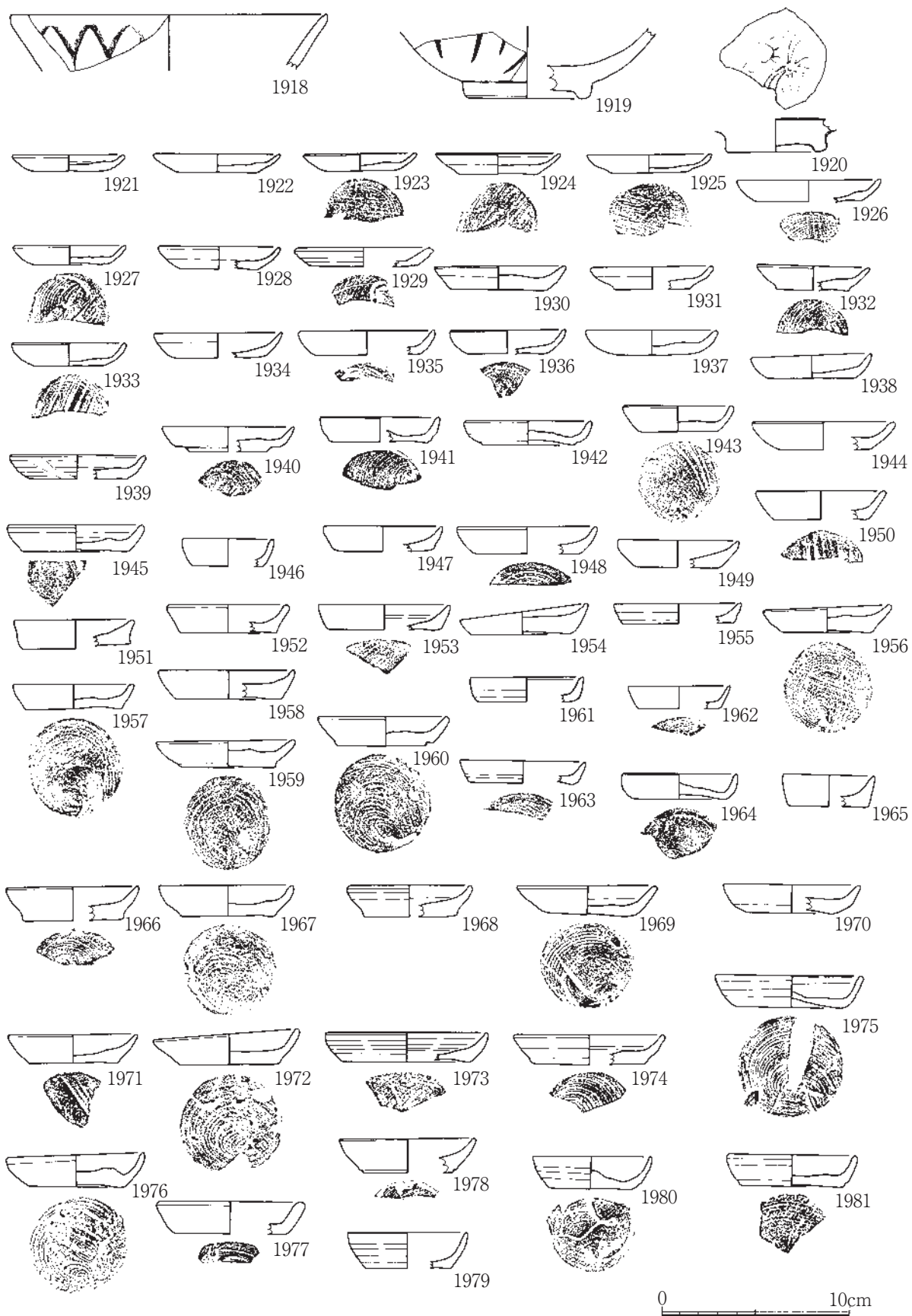
土器類は坏、小皿でSD1、SD2では形態が違っており、SD1から出土した坏類は轆轤目を顕著に残し、器肉が薄く、底部内面が凹むものが多い。また色調も黄白色を呈するものが多い。それに対し、SD2から出土した坏は轆轤目は残すものの、それほど顕著ではなく、体部がへたった様に屈曲し、口縁部が直立気味で口唇が尖る特徴が認められる。色調も黄白色を呈するものは極めて稀である。こうした形態差は時期差の可能性を含んでいる。

その他の遺物として、SD2からは木製品が比較的纏まって出土している。特にSD1との合流地点近くの3C区北端では柿経のような薄い短冊状の板材が纏まって出土している。しかしながら墨書等の文字は観察できなかった。箸も多く出土しており、曲げ物の一部、下駄類が出土した。またW80は衣笠と考えられるものが出土している。

大溝の所属時期は13Cから14Cと考えられるところから、文献上拾っていくと、嘉禎3年(1237)には香山寺に「法橋、田三町寄進」し、建長2年(1250)に幡多荘が九条家から一条家に譲られ、正嘉2年(1258)には香山寺の寺領が4町となり、南仏上人が正応元年(1288)迄金剛福寺の院主職を勤めた後、香山寺に帰って来た時期に相当する。その後、香山寺の麓坂本村に南仏堂が建立されたとされており、正慶4年(1335)に香山寺寺領の内四町が南仏堂の作分となった年代を拾い出すことができる。今回検出した大溝はこうした香山寺の変遷に連動し構築された遺構と考えられる。それも南仏堂の建立に関わる遺構と考えた方が蓋然性がある。

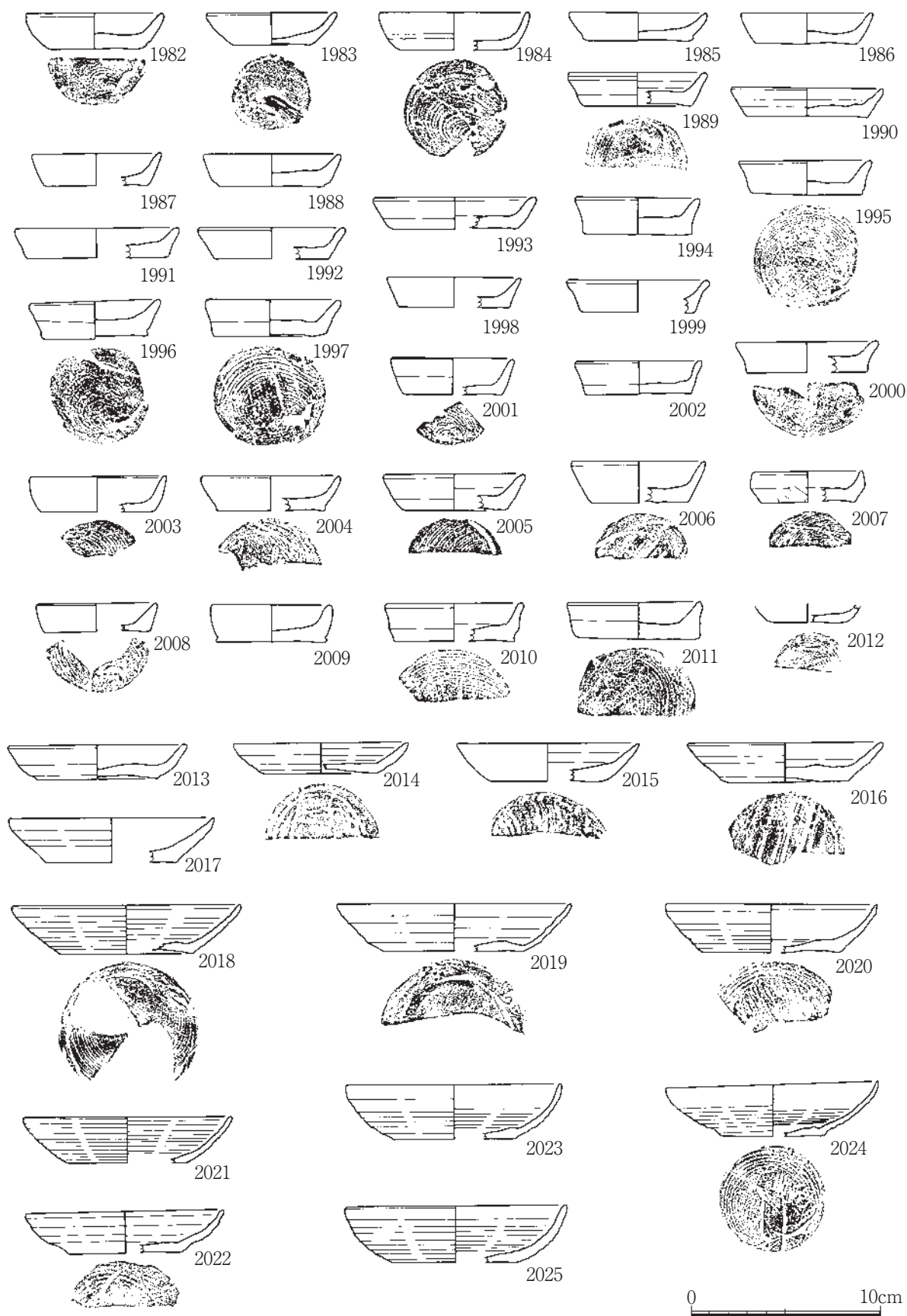


第116図 大溝2B区SD1遺物実測図

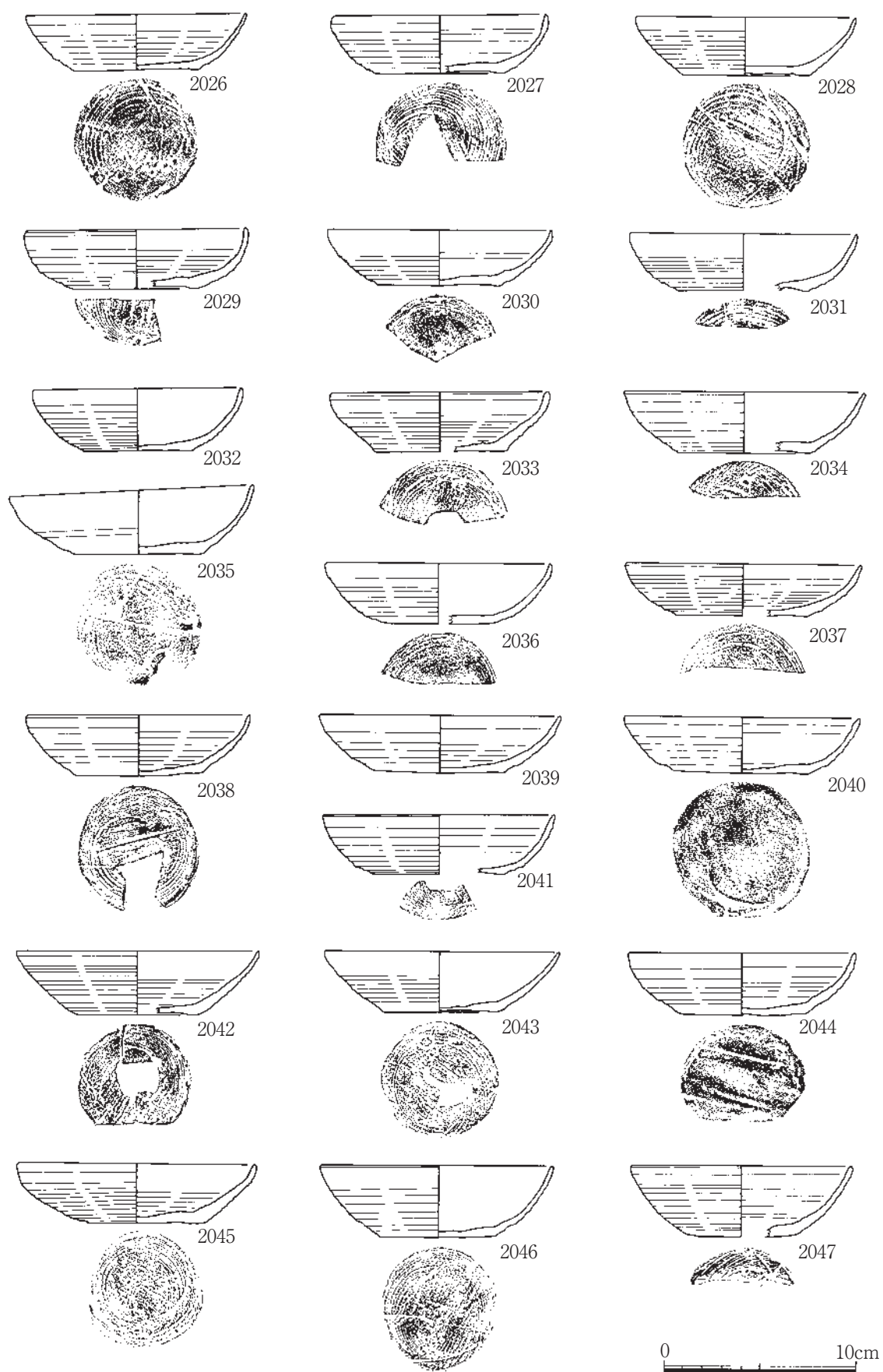


第117図 大溝SD1遺物実測図1

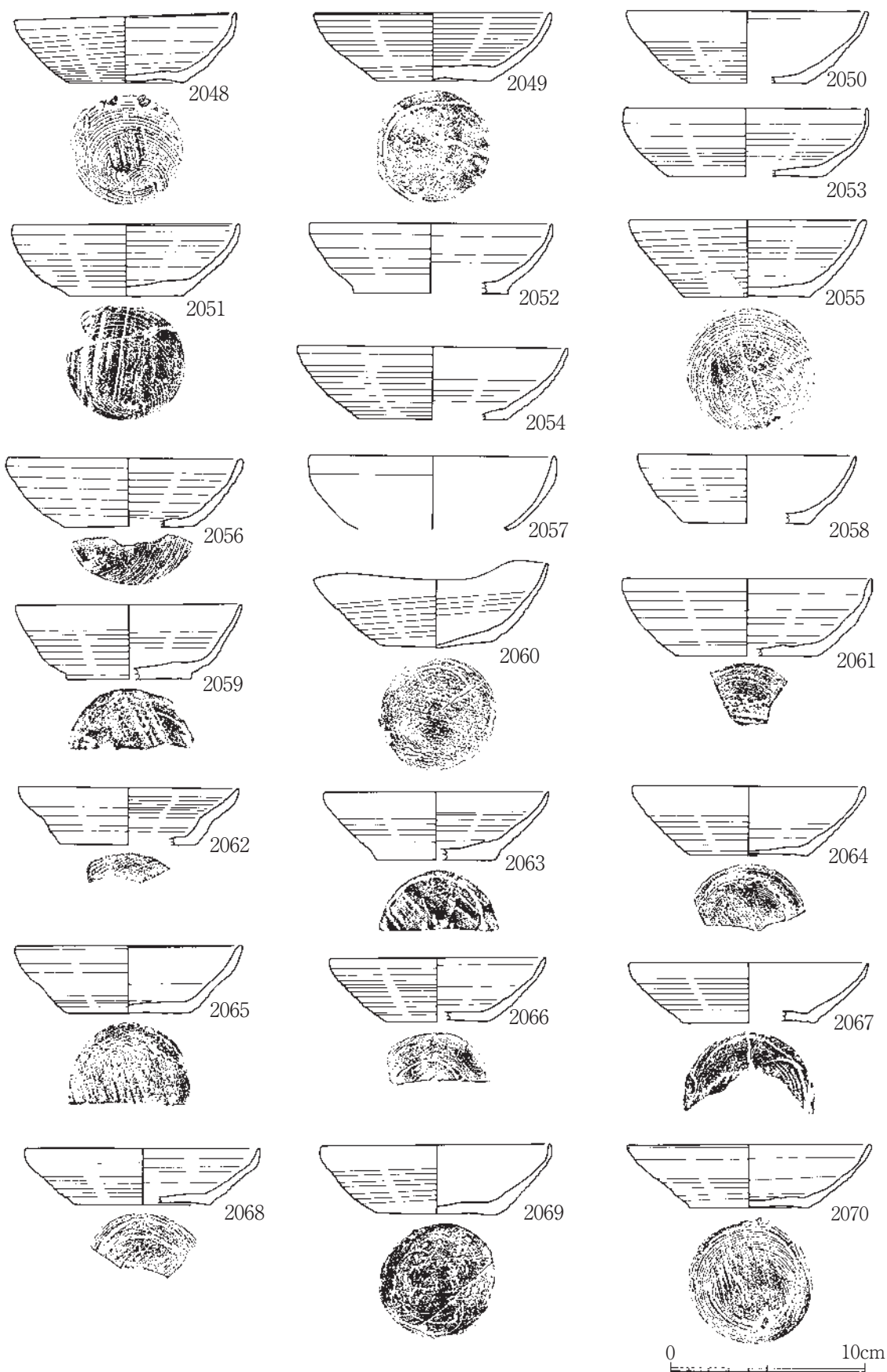




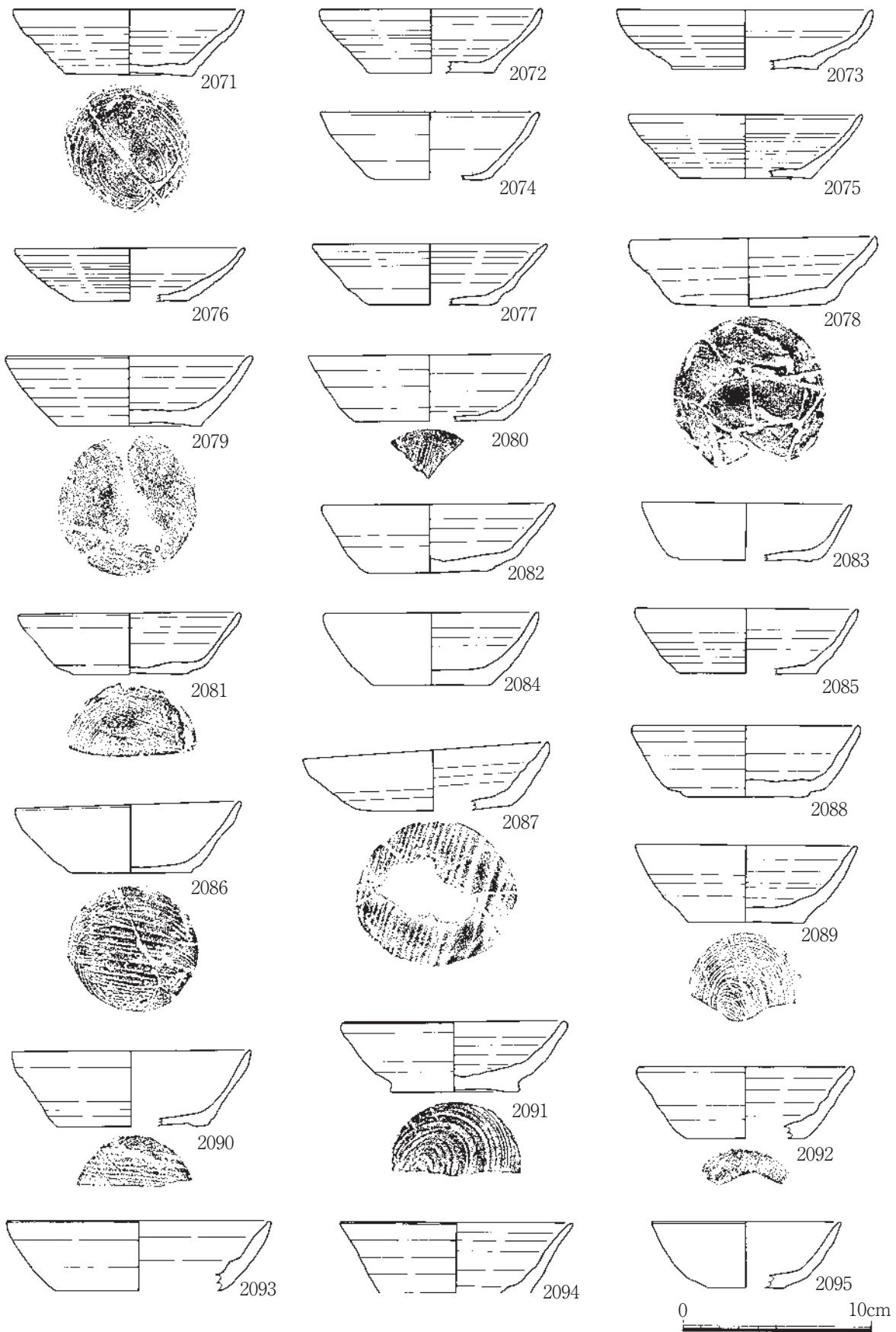
第118図 大溝SD1遺物実測図2



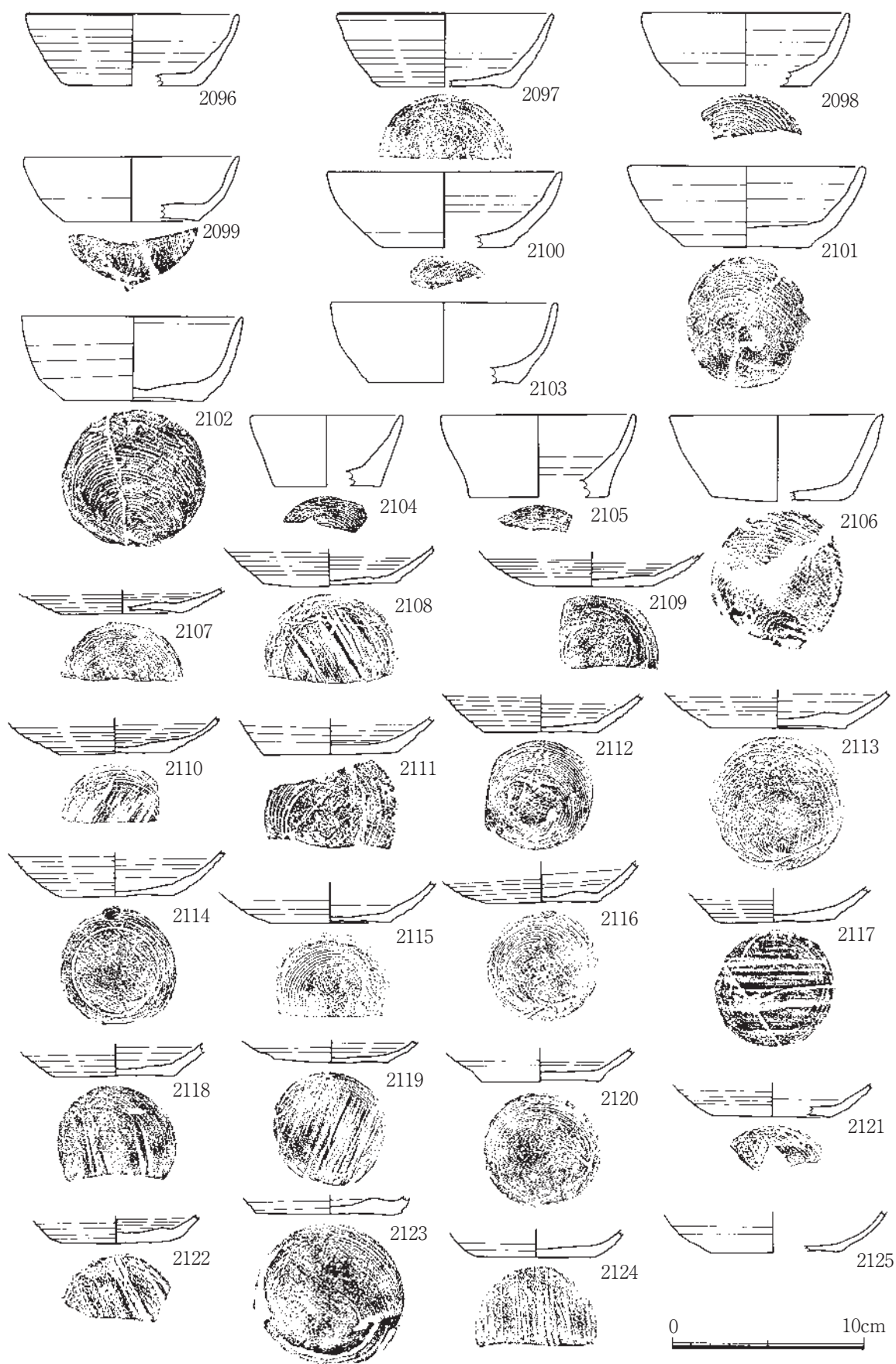
第119図 大溝SD1遺物実測図3



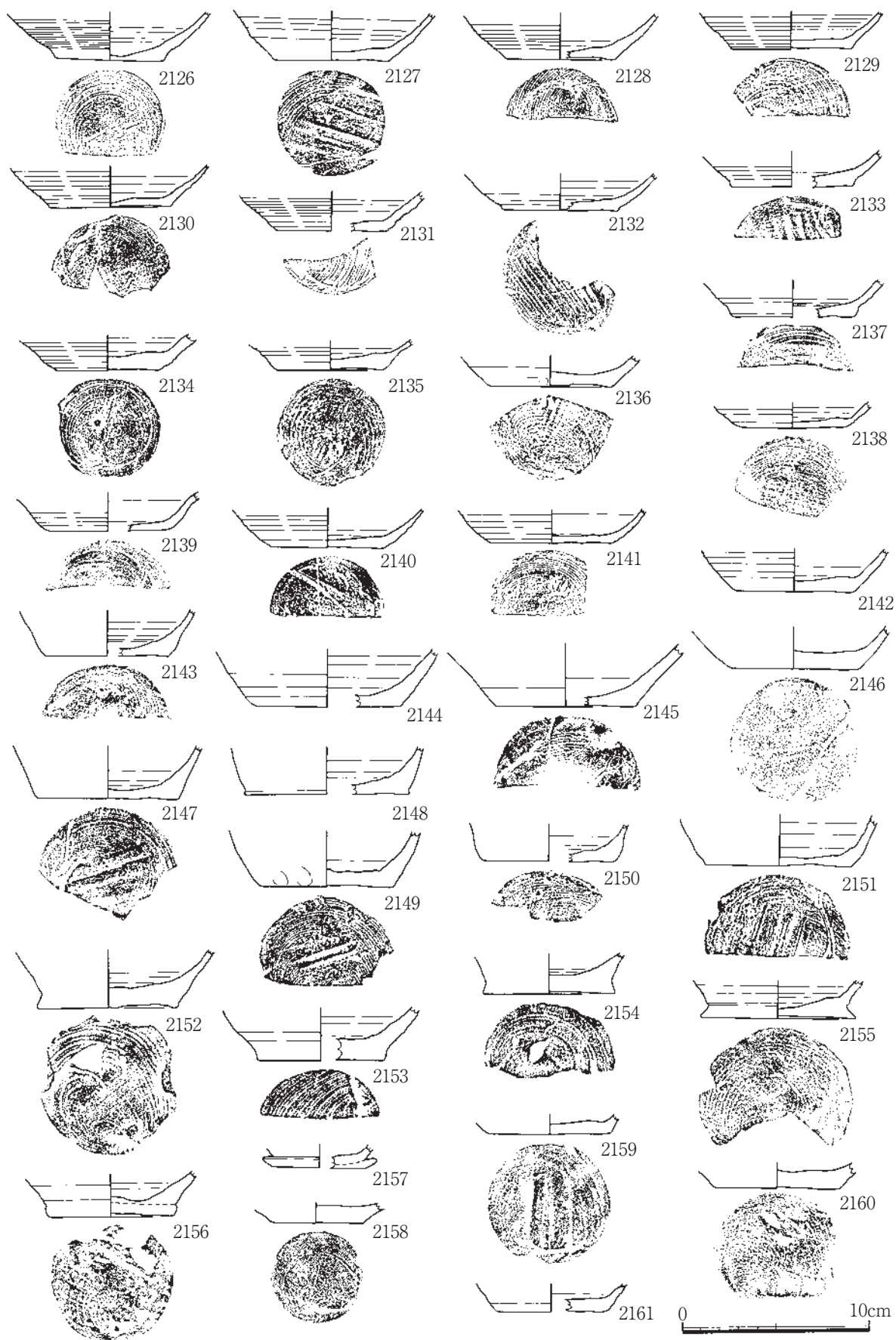
第120図 大溝SD1遺物実測図4



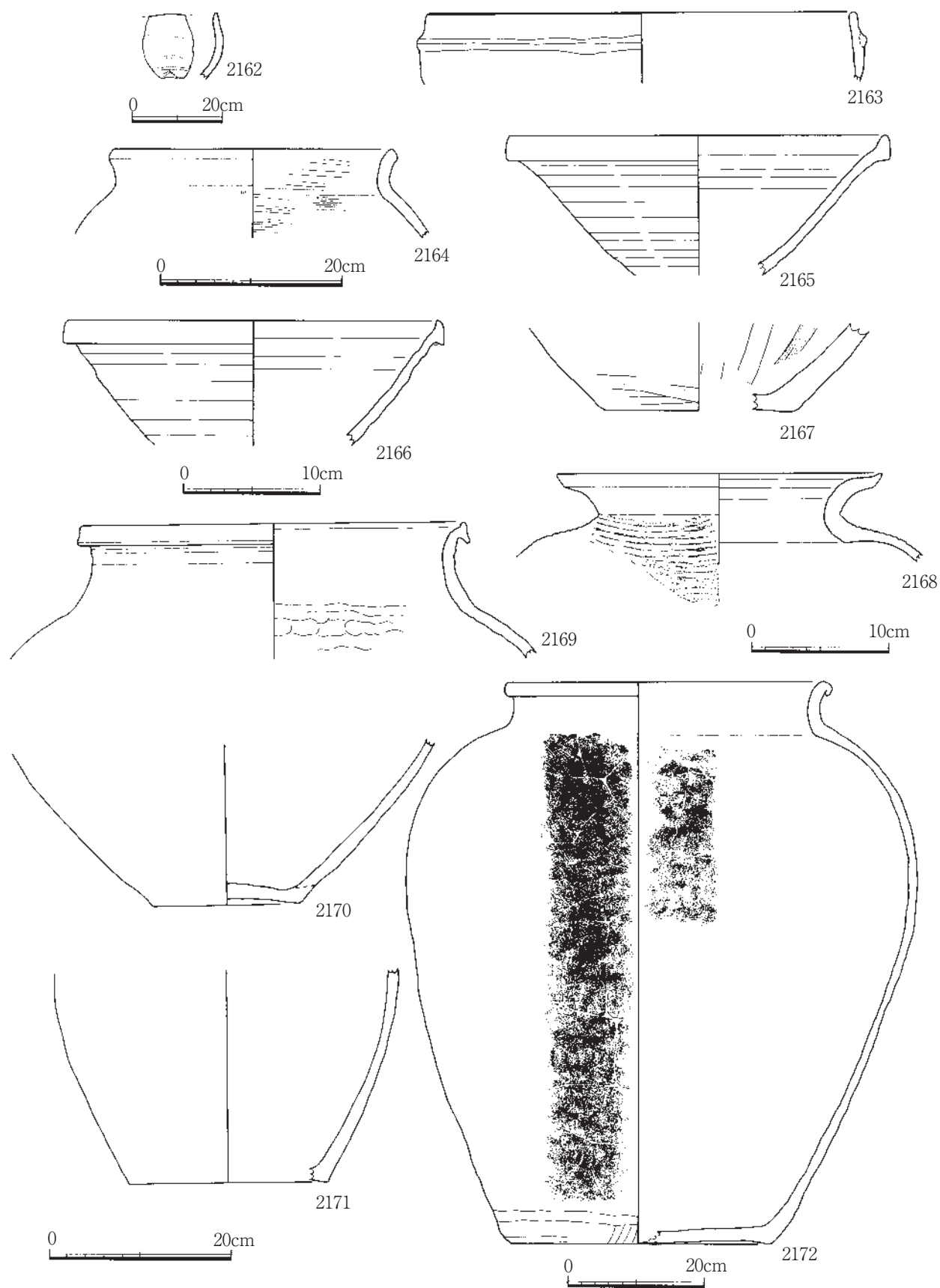
第121図 大溝SD1遺物実測図5



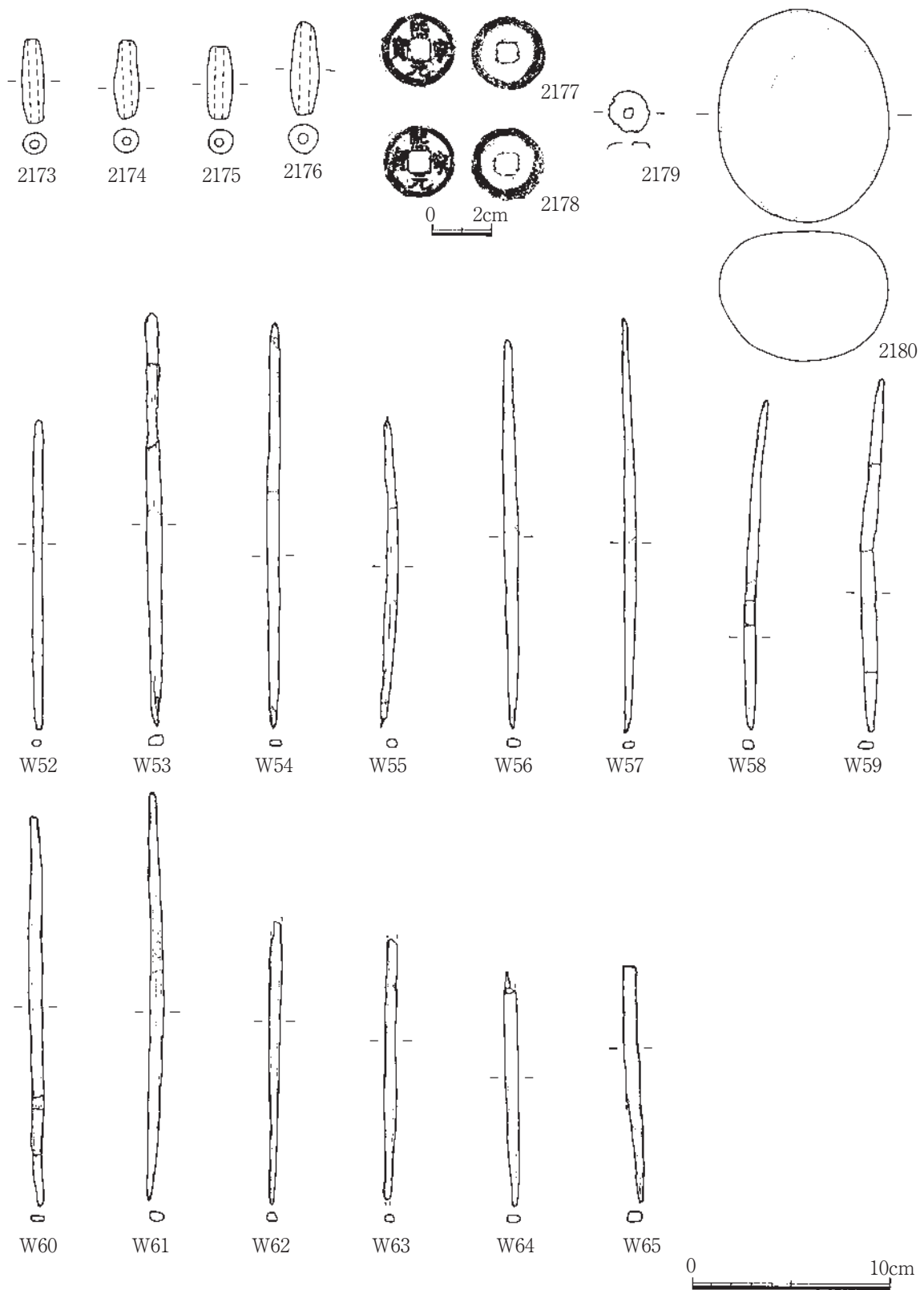
第122図 大溝SD1遺物実測図6



第123図 大溝SD1遺物実測図7

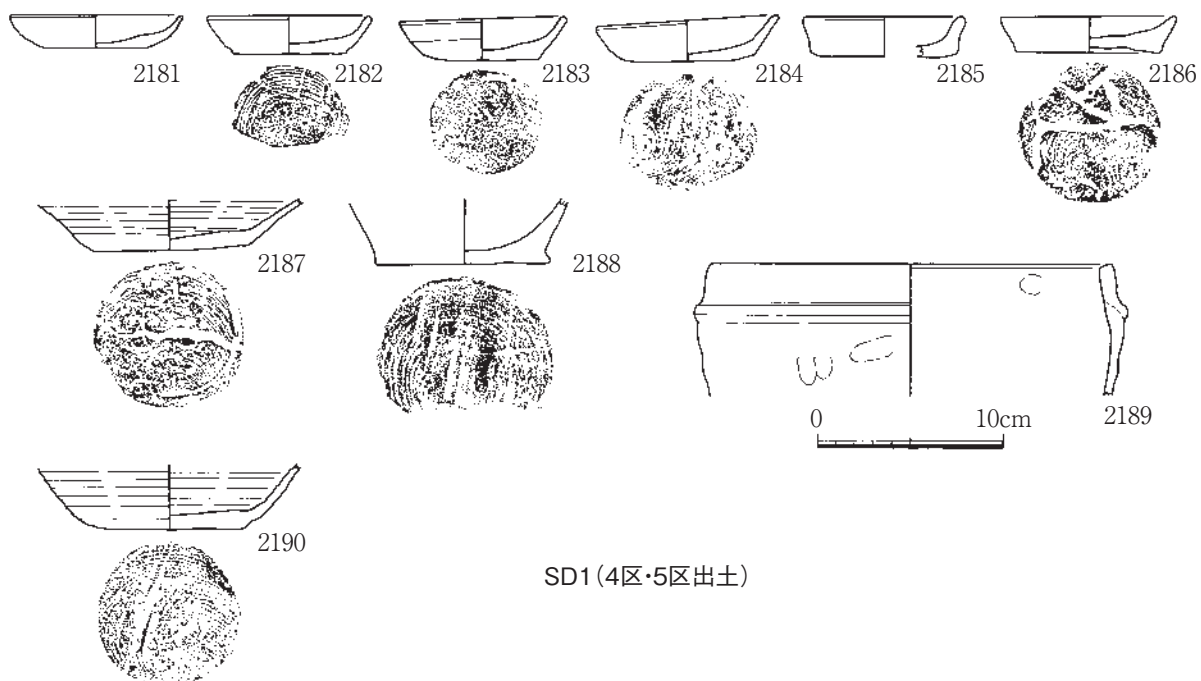


第124図 大溝SD1遺物実測図8

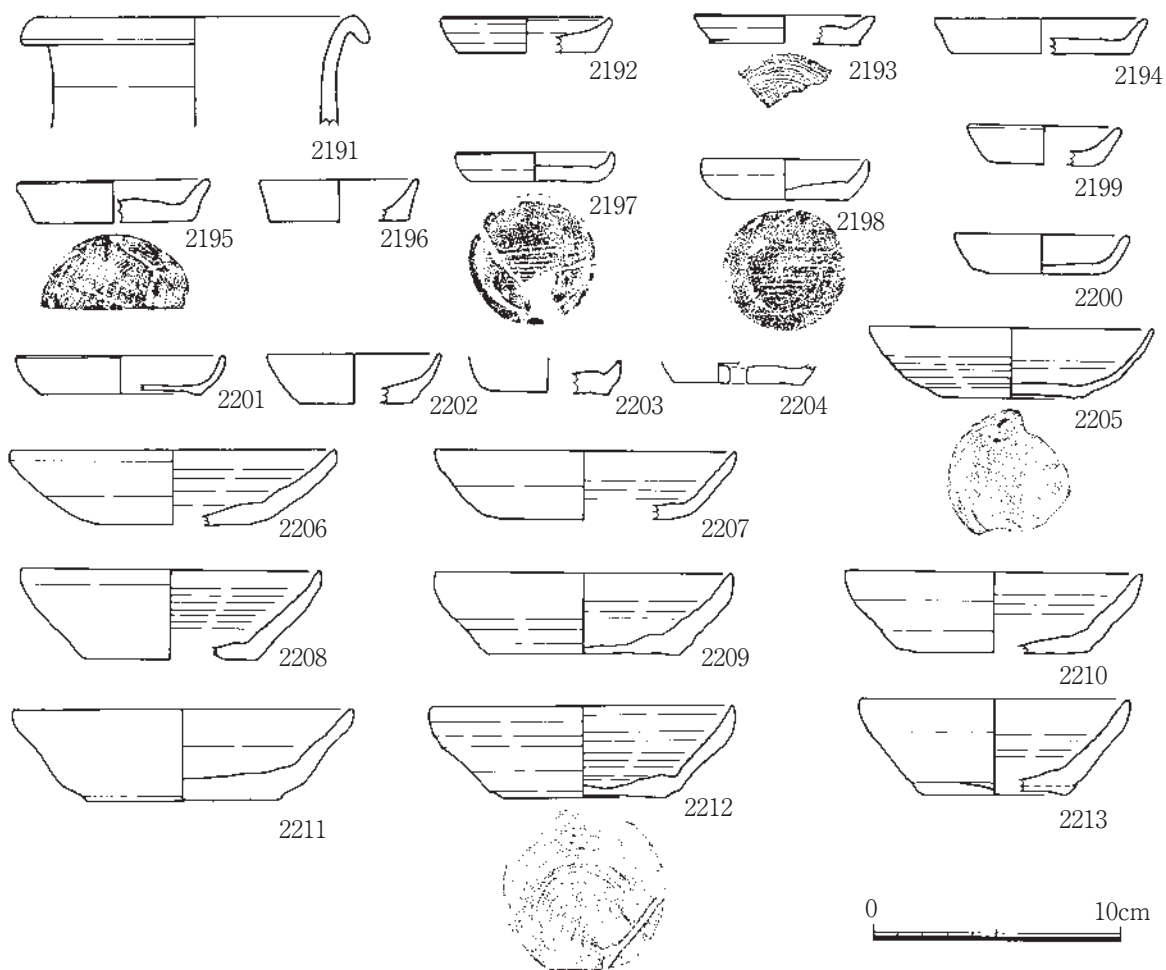


第125図 大溝SD1遺物実測図9

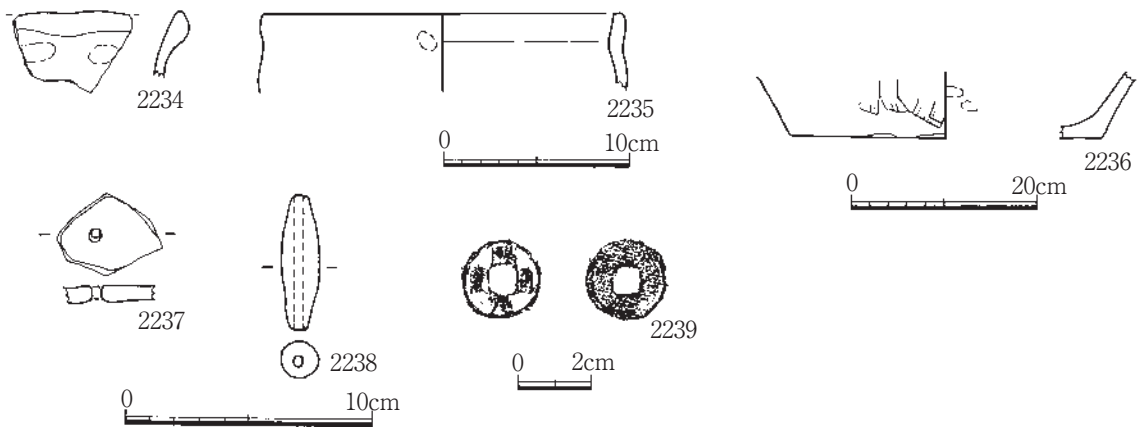
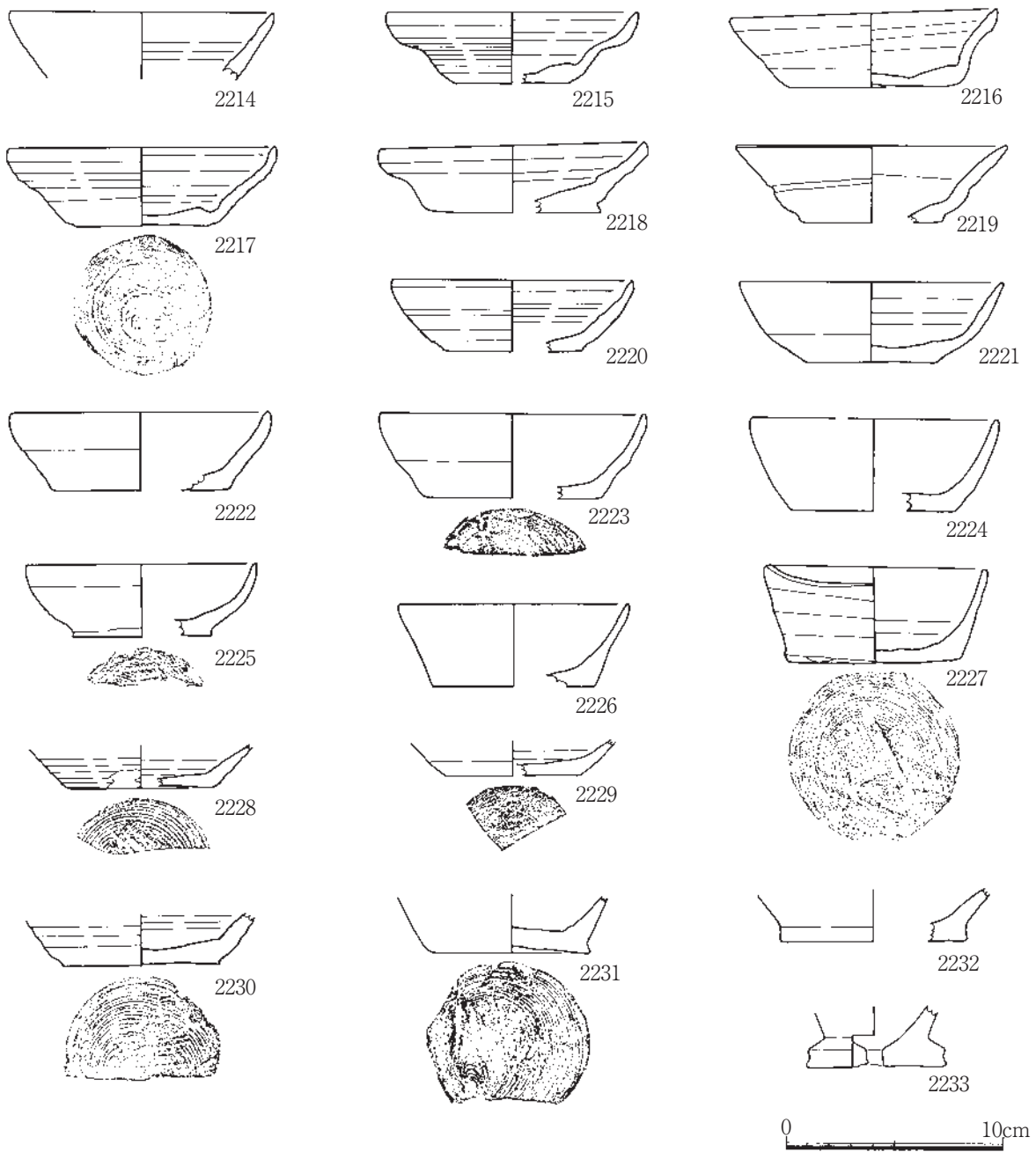




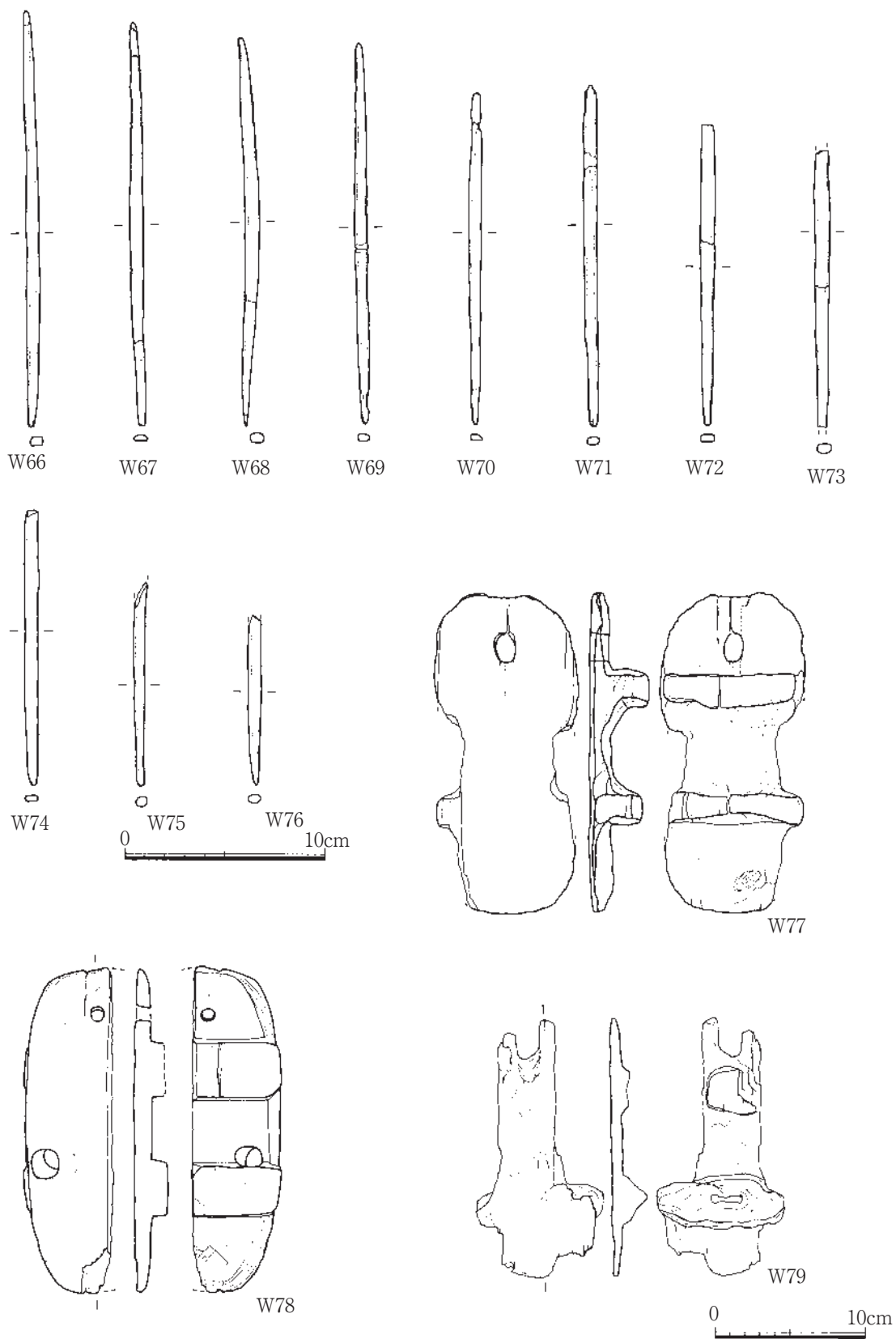
SD1(4区・5区出土)



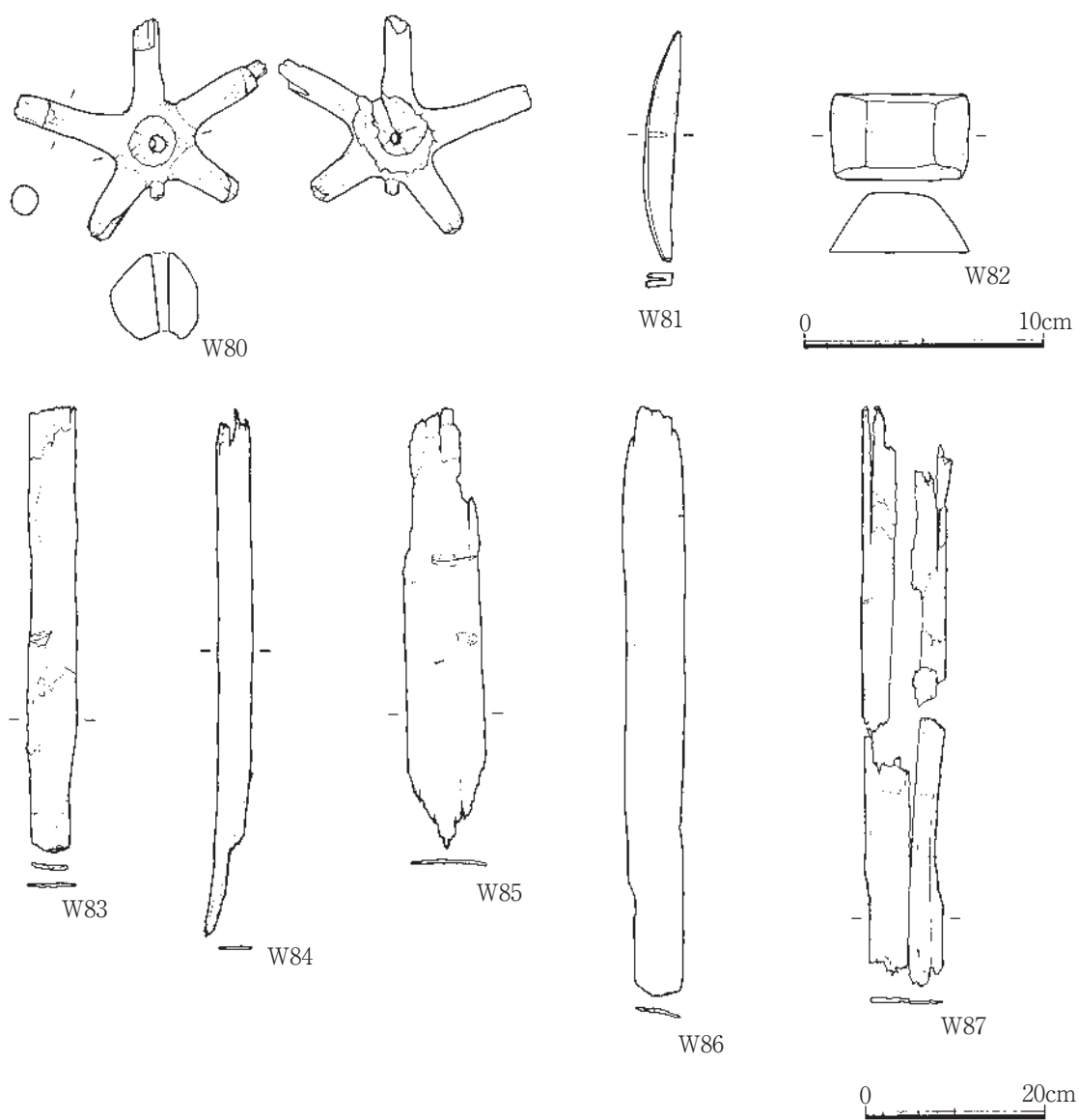
第126図 大溝SD1・2遺物実測図8



第127図 大溝SD2遺物実測図1



第128図 大溝SD2遺物実測図2



第129図 大溝SD2遺物実測図3

表11 大溝遺物観察表

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
1900	陶磁器	白磁皿・口縁	2B	西側部・石列1、2下層	(15.0)			口縁反る	白色、精良	11C後半～12C	白磁碗V類
1901	土器	坏	2B	SD1	(13.1)	4.3	7.8	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや外傾気味に立ち上がる、内外面轆轤目	精良		
1902	土器	坏	2B	石列	(10.4)	3.3	(5.2)	底部糸切り、体部大きく開く	精良		
1903	土器	坏	2B	石列			4.7	摩耗、底部糸切り?、体部外傾気味	精良		
1904	土器	坏・底部	2B	西側部・石列1下・黒灰色粘土層			3.8	やや摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
1905	土器	坏・底部	2B	西側部・SD1			6.6	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、外面轆轤目、黄白色	精良		
1906	土器	坏・底部	2B	石列1下・黒灰色粘土層			6.5	やや摩耗、底部糸切り、内外面黄褐色	精良		
1907	瓦質土器	鉢・口縁	2B	西側部・SD1	(24.4)			素口縁、内外面ナデ、灰白色	微砂粒多量	14C後半～	在地
1908	瓦質土器	甕・口縁	2B	石列1・m102	(18.6)			口縁内傾し、口唇反る、外面叩き、内面刷毛、黒灰色	灰白色、砂粒少量	15C後半	河内和泉、502同-?
1909	炆器	壺・口縁	2B	石列1下層・黒灰色粘土層	(37.2)			口唇折り返し玉縁、肩部張る、外面自然釉、灰色	白色鋳物粒多量		産地不明
1910	炆器	壺・口縁	2B	石列1下層・黒灰色粘土層	(48.0)			口唇折り返し玉縁、肩部張る、外面自然釉、灰色	白色鋳物粒多量		産地不明
1911	土製品	土錘	2B	石列1、2下層	長4.2	径1.2	重4.0	筒状	精良		
1912	土製品	土錘	2B	石列1、2下層	長4.4	径1.1	重5.0	筒状	精良		
1913	土製品	土錘	2B	石列		径(2.5)	重(2.9)	筒状	精良		
1914	土製品	土錘	2B	西側部・SD1		径1.2	重(2.1)	筒状	精良		
1915	瓦	平瓦	2B	石列			厚1.6	両面離れ砂?、表面、コビキ?	精良		
1916	石製品	石鍋・口縁	2B	石列	(24.8)			口縁下に断面三角形の鏝、口唇平坦、外面縦の工具痕	滑石	15C	Ⅲe類
1917	石製品	砥石	2B	石列1下・黒灰色粘土層	長(11.0)	幅(5.8)	厚(2.7)	仕上げ砥、一側面欠損、表裏面、一側面使用、擦痕	粘板岩?		
1918	陶磁器	青磁蓮弁文碗・口縁	3C	SD1・南側部	(16.8)			外面鑄蓮弁文	灰白色、精良	13C後半～14C前半	
1919	陶磁器	青磁蓮弁文碗・底部	3C	SD1・se15			(6.6)	削り出し高台、底裏蛇目釉剥ぎ、体部外面鑄蓮弁文	灰色、精良	14C～15C	
1920	陶磁器	青磁碗・底部	3C	SD1・肩部・21			5.4	高台、見込み内陰刻文、量付け釉剥ぎ、底裏無釉	灰白色、精良	14C～15C	
1921	土器	小皿	3C	SD1	(5.9)	0.9	(3.9)	摩耗、切り離し不明、体部浅く開く	精良		
1922	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.7)	1.0	(4.4)	摩耗、底部ナデ?、体部浅く短く外傾、内外面黄白色	精良		
1923	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.0)	0.9	(3.8)	摩耗、底部糸切り? 箕子状圧痕、体部浅く開く、内外面黄白色	精良		
1924	土器	小皿	3C	SD1	(6.7)	1.1	(4.1)	摩耗、底部糸切り、体部浅く開く	精良		
1925	土器	小皿	3C	SD1・159	(6.6)	1.0	(4.0)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部浅くやや丸味、内面底凹む、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
1926	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.6)	1.2	(5.6)	底部糸切り、体部浅くやや開く、内面底凹む	精良		
1927	土器	小皿	3C	SD1	(6.0)	1.0	(4.0)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部浅く開く	精良		
1928	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.3)	1.2	(4.1)	摩耗、底部切り離し不明、体部浅く開く、内外面黄白色	精良		
1929	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.9)	1.0	(5.8)	底部糸切り、体部浅く開く、口縁内面煤タール付着	精良		
1930	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	7.0	1.3	5.1	摩耗、底部切り離し不明、体部浅く開く	精良		
1931	土器	小皿	3C	SD1・南側部	(6.2)	1.2	(4.0)	摩耗、底部糸切り、体部浅く開く、内面底凹む、内外面黄白色	精良		
1932	土器	小皿	3C	SD1	(5.8)	1.3	(3.8)	底部糸切り、体部浅く開く、内面底やや凹む	精良		
1933	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(5.9)	1.2	(3.8)	底部箕子状圧痕、体部やや浅く僅かに丸味、堅致	精良		
1934	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.8)	1.4	(5.2)	摩耗、底部糸切り? 体部やや浅く僅かに丸味、内外面黄白色	精良		
1935	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.0)	1.3	(5.5)	底部糸切り、体部やや浅く僅かに丸味	精良		

遺物 番号	種別	器種・ 部位	調査区	遺構名・出土地点・ 層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1936	土器	小皿	3C	SD1	(6.2)	1.3	(4.2)	摩耗、底部糸切り、体部やや浅く 僅かに丸味、内外面黄白色	精良		
1937	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.0)	1.4	5.2	底部糸切り?整形粗い、体部やや浅く僅 かに丸味、内面底やや凹む、やや堅致	精良		
1938	土器	小皿	3C	SD1	6.4	1.2	4.6	摩耗、底部切り離し不明、体部や やや浅く僅かに丸味	精良		
1939	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.0)	1.3	(5.2)	摩耗、底部糸切り?体部やや浅く 僅かに丸味	精良		
1940	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.9)	1.3	(4.2)	摩耗、底部糸切り、体部やや浅く 僅かに丸味	精良		
1941	土器	小皿	3C	SD1	(6.2)	1.3	(5.4)	底部糸切り、体部やや浅く僅かに 丸味、内面底凸る	精良		
1942	土器	小皿	3C	SD1	(6.7)	1.3	4.9	摩耗、底部糸切り、体部やや浅く 僅かに丸味、内面底轆轤目、内外 面灰白色	精良		
1943	土器	小皿	3C	SD1・149	5.9	1.4	4.1	摩耗、底部糸切り、体部やや浅く 僅かに丸味	精良		
1944	土器	小皿	3C	SD1	(7.5)	1.5	(5.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部や やや浅く僅かに丸味	精良		
1945	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.0)	1.4	(5.8)	摩耗、底部糸切り?、体部やや浅 く僅かに丸味、内面底凹む	精良		
1946	土器	小皿	3C	SD1	(4.8)	1.5	(3.8)	摩耗、底部糸切り、体部やや深く 丸味	精良		
1947	土器	小皿	3C	SD1・肩部	(6.2)	1.4	(5.3)	摩耗、底部糸切り?、体部やや深 く丸味	精良		
1948	土器	小皿	3C	SD1・肩部	(7.4)	1.4	(5.8)	摩耗、底部糸切り、体部やや深く 丸味	精良		
1949	土器	小皿	3C下	SD1	(6.4)	1.5	(4.5)	摩耗、底部糸切り、体部やや深く 丸味、内外面灰黄色	精良		
1950	土器	小皿	3C	SD1	(7.0)	1.5	(5.0)	摩耗、底部簀子状圧痕、体部やや 深く丸味	精良		
1951	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	6.3	1.5	(5.8)	底部糸切り切り離し不明、整形粗 い、体部浅く外反気味、器肉厚い	精良		
1952	土器	小皿	3C	SD1	(6.1)	1.5	(5.2)	摩耗、底部糸切り、体部浅く外反 気味	精良		
1953	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.0)	1.4	(6.0)	摩耗、底部糸切り、体部浅く外反 気味	精良		
1954	土器	小皿	3C下	SD1	(6.7)	1.6	5.4	摩耗、底部糸切り?、体部浅く外 反気味、底部器肉厚い	精良		
1955	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.8)	1.1	(5.9)	摩耗、底部切り離し不明、体部浅 く外反気味、内外面黒灰色	精良		
1956	土器	小皿	3C	SD1・145	6.8	1.4	4.8	底部糸切り、簀子状圧痕、体部浅 く外反気味	精良		
1957	土器	小皿	3C	SD1・南側部	(6.4)	1.3	(5.2)	底部糸切り、体部浅く外傾気味	精良		
1958	土器	小皿	3C下	SD1・192	7.2	1.5	5.6	摩耗、底部糸切り、体部浅く外傾 気味、底部器肉厚い	精良		
1959	土器	小皿	3C	SD1	(7.3)	1.4	5.0	摩耗、底部糸切り、体部浅く外傾 気味	精良		
1960	土器	小皿	3C	SD1・156	7.0	1.6	5.1	底部糸切り、体部浅く外傾気味	精良		
1961	土器	小皿	3C下	SD1	(6.0)	1.3	(5.0)	摩耗、底部糸切り、体部浅く直立	精良		
1962	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(5.4)	1.2	(4.4)	摩耗、底部糸切り、体部浅く直立	精良		
1963	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.6)	1.2	(5.5)	摩耗、底部糸切り、体部浅く直立、 内外面灰白色	精良		
1964	土器	小皿	3C	SD1	(6.0)	1.4	(4.9)	やや摩耗、底部糸切り、体部浅く 直立、内面底轆轤目、凸る、内外 面黄白色	精良		
1965	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(4.8)	1.7	(4.2)	摩耗、底部糸切り?体部浅く直立	精良		
1966	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.0)	1.8	(5.3)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、 やや浅く丸味	精良		
1967	土器	小皿	3C	SD1	7.1	1.7	5.0	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、 やや浅く丸味	精良		
1968	土器	小皿	3C	SD1	(6.4)	1.7	(5.0)	摩耗、切り離し不明、体部やや大 きく、やや浅く丸味	精良		
1969	土器	小皿	3C	SD1	7.3	1.7	4.9	底部糸切り、体部やや大きく、や や浅く丸味	微砂粒微量		
1970	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.2)	1.5	(4.6)	摩耗、底部糸切り?体部やや大き く、やや浅く丸味	精良		
1971	土器	小皿	3C	SD1	(6.8)	1.5	(4.8)	摩耗、底部糸切り?、簀子状圧痕、 体部やや大きく、やや浅く丸味	精良		

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
1972	土器	小皿	3C	SD1	7.8	1.9	5.4	底部糸切り、体部やや大きく、やや浅く丸味	精良		
1973	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(8.5)	1.6	(7.0)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、浅く丸味	精良		
1974	土器	小皿	3C	SD1	(7.8)	1.6	(6.1)	底部糸切り、体部やや大きく、浅く丸味、堅致	精良		
1975	土器	小皿	3C	SD1・南側部	7.7	1.7	5.5	底部糸切り、体部やや大きく、浅く丸味、内面底轆轤目、凸る	精良		
1976	土器	小皿	3C	SD1・157	7.2	1.8	5.2	底部糸切り、底部内外面整形粗い、体部やや大きく、浅く丸味、堅致、内外面赤褐色	精良		
1977	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.6)	1.7	(6.0)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、浅く丸味	精良		
1978	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.2)	1.8	(4.8)	底部糸切り、体部やや大きく、浅く丸味	精良		
1979	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.3)	1.9	(4.5)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、やや深く丸味、外面弱い轆轤目	精良		
1980	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	6.3	1.8	4.6	底部糸切り、整形粗い、体部やや大きく、やや深く丸味、内面底凸る、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
1981	土器	小皿	3C	SD1	(6.7)	1.7	(5.6)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、やや深く丸味	精良		
1982	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.3)	1.9	(5.0)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、やや深く丸味	精良		
1983	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.8)	1.7	4.3	摩耗、底部糸切り、整形粗い、体部やや大きく、やや深く丸味、内面底凹む	精良		
1984	土器	小皿	3C	SD1	(7.9)	2.0	(6.4)	摩耗、切り離し不明、体部やや大きく、やや深く丸味	精良		
1985	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.2)	1.5	(5.8)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや大きく、やや浅く外反気味、内面底僅かに凹む	精良		
1986	土器	小皿	3C	SD1	(6.9)	1.7	(5.4)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや大きく、やや浅く外反気味、内面底やや凸、内外面黄白色	精良		
1987	土器	小皿	3C	SD1	(6.7)	1.7	(5.5)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、やや浅く外反気味	精良		
1988	土器	小皿	3C	SD1・南側部	(7.2)	1.7	(6.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや大きく、やや浅く外反気味	精良		
1989	土器	小皿	3C	SD1	(7.3)	1.8	(5.9)	摩耗、底部糸切り?、体部やや大きく、やや浅く外反気味	精良		
1990	土器	小皿	3C	SD1	(7.8)	1.5	(6.4)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや大きく、やや浅く外反気味	精良		
1991	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(8.6)	1.6	(7.5)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや大きく、やや浅く外反気味	精良		
1992	土器	小皿	3C	SD1・肩部	(7.6)	1.7	(6.0)	摩耗、底部糸切り?、体部やや大きく、やや浅く外反気味	精良		
1993	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(8.6)	1.7	(6.8)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、やや浅く外反気味	精良		
1994	土器	小皿	3C	SD1・肩部	(6.6)	2.0	5.8	摩耗、底部切り離し不明、体部やや大きく、浅く外反、器肉やや厚い	精良		
1995	土器	小皿	3C	SD1・151・黒灰粘土層	6.9	1.9	5.9	底部糸切り、体部やや大きく、浅く外反、内外面黄白色	精良		
1996	土器	小皿	3C	SD1	(6.7)	2.1	5.6	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、浅く外反	微砂粒少量		
1997	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(6.8)	2.0	5.9	底部糸切り、簀子状圧痕、体部やや大きく、浅く外反	精良		
1998	土器	小皿	3C	SD1・肩部	(7.0)	1.6	(6.0)	底部糸切り?、体部やや大きく、浅く外反	精良		
1999	土器	小皿	3C下	SD1	(7.4)	1.7	(6.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや大きく、浅く外反	精良		
2000	土器	小皿	3C	SD1・肩部	(7.6)	1.6	(6.4)	底部糸切り、体部やや大きく、浅く外反	精良		
2001	土器	小皿	3C	SD1・南側部	(6.5)	1.9	(5.2)	底部糸切り、体部やや大きく、やや深く直立気味、内外面黄白色	精良		
2002	土器	小皿	3C下	SD1	(6.6)	1.8	(5.6)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、やや深く直立気味	精良		
2003	土器	小皿	3C	SD1・南側部	(7.2)	1.9	(6.0)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、やや深く直立気味、内面底轆轤目、内外面黄白色	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
2004	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.3)	1.9	(5.7)	底部糸切り、整形粗い、体部やや大きく、やや深く直立気味	精良		
2005	土器	小皿	3C	SD1	(7.4)	1.9	(5.7)	摩耗、底部糸切り、体部やや大きく、やや深く直立気味	精良		
2006	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.0)	2.2	(5.2)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや大きく、やや深く直立気味	精良		
2007	土器	小皿	3C	SD1	(5.7)	1.7	(4.9)	底部糸切り、体部深く直立	精良		
2008	土器	小皿	3C下	SD1	(6.3)	1.5	(5.6)	底部糸切り、体部深く直立	微砂粒微量		
2009	土器	小皿	3C	SD1	(6.3)	2.0	(5.8)	摩耗、底部糸切り、体部深く直立	精良		
2010	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.2)	2.0	(6.4)	底部糸切り、体部深く直立	精良		
2011	土器	小皿	3C	SD1・黒灰粘土層	(7.1)	2.0	(6.5)	摩耗、底部糸切り、体部深く直立	精良		
2012	土器	小皿・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(4.2)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部浅く皿状、内外面黄白色	精良		
2013	土器	坏	3C	SD1	(9.4)	1.8	(6.4)	摩耗、底部切り離し不明、体部浅く皿状	精良		
2014	土器	坏	3C	SD1・北側部	(9.2)	1.6	(6.0)	摩耗、底部糸切り?、体部浅く皿状、内面底凹む、内外面黄白色	精良		
2015	土器	坏	3C	SD1	(9.7)	2.0	(6.4)	摩耗、底部糸切り?、箕子状圧痕、体部浅く皿状	精良		
2016	土器	坏	3C	SD1	(10.3)	2.1	(6.7)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部浅く皿状、内外面黄白色	精良		
2017	土器	坏	3C	SD1	(10.8)	2.4	(7.0)	摩耗、底部糸切り?、体部浅く皿状、口唇尖る	精良		
2018	土器	坏	3C	SD1	(12.0)	2.6	7.0	底部糸切り、体部浅く皿状、外面轆轤目	精良		
2019	土器	坏	3C下	SD1	(12.4)	2.5	(7.4)	底部糸切り、体部浅く皿状、内面底凹む、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2020	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(11.2)	2.6	(7.4)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部浅く皿状、口唇尖る、内面底凹む、外面轆轤目、内面口縁白化粧土?、内外面黄白色	精良		
2021	土器	坏	3C	SD1	(11.0)	2.4	(6.0)	体部浅く皿状、丸味、口縁直立気味、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2022	土器	坏	3C	SD1	(10.4)	2.2	(6.0)	やや摩耗、底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、内外面強い轆轤目	精良		
2023	土器	坏	3C	SD1	(11.4)	2.9	(6.4)	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口縁直立気味、口唇尖る、内面底凹む、外面轆轤目	精良		
2024	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(11.2)	3.0	5.5	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口縁直立気味、口唇尖る、内面底凹む、外面轆轤目	精良		
2025	土器	坏	3C	SD1	(11.6)	3.0	(6.6)	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口縁直立気味、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2026	土器	坏	3C	SD1・79	(11.4)	2.9	6.2	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口唇尖る、内面底僅かに凹む、外面轆轤目、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
2027	土器	坏	3C	SD1	(11.0)	3.0	(6.6)	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口縁直立、内面底凹む、轆轤目、ナデ、外面強い轆轤目、堅致、口唇に自然釉	精良		
2028	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(11.4)	3.0	6.5	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部浅く皿状、丸味、外面轆轤目、内外面黄白色	砂粒微量		
2029	土器	坏	3C	SD1	(11.4)	3.1	(6.4)	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、内面底凹む、外面轆轤目	精良		
2030	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(11.6)	2.9	(6.4)	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口縁直立気味、口唇尖る、内面底凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2031	土器	坏	3C	SD1・肩部	(11.7)	3.0	(6.6)	摩耗、底部糸切り、整形粗い、体部浅く皿状、丸味、口唇尖る、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2032	土器	坏	3C	SD1	(10.8)	3.2	(5.8)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部浅く皿状、丸味、口縁直立気味、外面強い轆轤目、器肉薄い、口縁僅かに自然釉、内外面黄白色	精良		
2033	土器	坏	3C	SD1・150	(11.3)	3.1	(6.8)	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口縁直立気味、口唇尖る、内面底凹む、底部器肉薄い、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		



第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
2034	土器	坏	3C	SD1・152	(12.4)	3.2	(7.0)	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口唇尖る、外面轆轤目、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
2035	土器	坏	3C	SD1	(12.6)	3.6	6.9	摩耗、底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口唇尖る、内面底やや凹む	精良		
2036	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(11.6)	3.2	(5.8)	底部糸切り、体部浅く皿状、丸味、口縁直立気味、口唇尖る、外面強い轆轤目	精良		
2037	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(12.2)	2.7	(6.8)	底部糸切り、簀子状圧痕、体部やや深く丸味、口唇尖る、外面轆轤目、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
2038	土器	坏	3C	SD1・160	11.6	3.2	6.4	底部静止糸切り、簀子状圧痕、体部やや深く丸味、口縁直立気味、口唇尖る、内外面強い轆轤目、器肉薄い、口縁一部自然釉がかかる、内外面黄白色	精良		
2039	土器	坏	3C	SD1・83	(12.4)	3.0	6.8	摩耗、底部糸切り?、体部やや深く丸味、口唇尖る、内面底僅かに凹む、外面轆轤目、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
2040	土器	坏	3C	SD1・163	(12.2)	2.9	7.0	底部糸切り、ナデ、底径大、体部やや深く丸味、口唇尖る、内面底凹む、器肉薄い、外面弱い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2041	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(12.0)	3.1	(6.7)	底部糸切り、体部やや深く丸味、口唇尖る、内面底凹む、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2042	土器	坏	3C	SD1・159	(12.5)	3.3	5.9	底部糸切り、体部やや深く丸味、口唇やや尖る、外面強い轆轤目、器肉薄い、黄白色	精良		
2043	土器	坏	3C	SD1・161	(12.2)	3.2	5.9	底部糸切り、簀子状圧痕、体部やや深く丸味、口唇尖る、内面底やや凹む、外面轆轤目、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
2044	土器	坏	3C	SD1・南側部	(11.7)	3.3	6.6	底部簀子状圧痕、体部やや深く丸味、口縁直立気味、内外面轆轤目	精良		
2045	土器	坏	3C	SD1・d147	(12.2)	3.1	6.0	底部糸切り、体部やや深く丸味、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2046	土器	坏	3C	SD1・172	12.0	3.8	6.0	底部糸切り、ナデ、体部やや深く丸味、内面底やや凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2047	土器	坏	3C	SD1	(11.3)	3.7	(6.0)	底部糸切り、体部やや深く丸味、内面底凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2048	土器	坏	3C	SD1・193	11.4	3.6	5.8	底部糸切り、簀子状圧痕、体部やや深く丸味、口縁直立気味、口唇尖る、外面強い轆轤目、器肉薄い	精良		
2049	土器	坏	3C	SD1	(12.0)	3.5	(6.0)	摩耗、底部糸切り?、体部やや深く丸味、内外面弱い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2050	土器	坏	3C	SD1・146	(12.4)	3.7	(6.0)	底部糸切り、体部やや深く丸味、外面強い轆轤目、器肉やや薄い、内外面黄白色	精良		
2051	土器	坏	3C	SD1	(11.6)	3.7	(5.9)	摩耗、底部糸切り、簀子状圧痕、体部やや深く丸味、口縁直立気味、内面底凹む、外面轆轤目	精良		
2052	土器	坏	3C	SD1・84~88	(12.4)	3.6	(8.0)	底部糸切り?、体部やや深く丸味、内外面轆轤目	精良		
2053	土器	坏	3C	SD1・154	(12.5)	3.5	(8.2)	底部糸切り、体部やや深く丸味、口縁内湾気味、口縁自然釉、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
2054	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(13.9)	3.8	(7.6)	摩耗、底部糸切り、体部やや深く丸味、外面強い轆轤目、内外面煤付着、黄白色	精良		
2055	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(12.1)	4.0	6.5	底部糸切り、体部やや深く丸味、内外面轆轤目	精良		
2056	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	12.1	3.6	(6.8)	底部糸切り、体部やや深く丸味、口縁やや直立気味、内外面強い轆轤目	精良		
2057	土器	坏・口縁	3C	SD1・黒灰粘土層	(12.6)			体部やや深く丸味、口縁直立気味、内外面褐色	微砂粒少量		
2058	土器	坏	3C	SD1・84~88	(11.2)	3.5	(6.4)	底部糸切り、体部やや深く丸味、口唇尖る、内外面轆轤目、外面淡褐色、内面黄白色	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
2059	土器	坏	3C	SD1	(11.6)	3.9	(6.4)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや深く丸味、口縁直立気味、口唇尖る、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2060	土器	坏	3C	SD1・148	12.0	4.4	5.9	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや深く丸味、口唇尖る、全体が歪む、内面底凹む、外面強い轆轤目、内面火罨状の痕、内外面口縁部自然釉、内外面黄白色	精良		
2061	土器	坏	3C	SD1	(12.8)	4.0	(7.4)	底部糸切り、体部やや深く丸味、口縁直立、口唇尖る、外面轆轤目	精良		
2062	土器	坏	3C	SD1・6層	(11.3)	3.0	(7.1)	底部糸切り、体部開き、口縁やや直立気味、内面轆轤目	精良		
2063	土器	坏	3C	SD1・南側部	(11.6)	3.5	(6.0)	底部箕子状圧痕、内面底凹む、体部開く、口縁直立、口唇尖る、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2064	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(12.0)	3.6	(6.1)	底部糸切り、体部開く、口縁直立気味、内面底凹む、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2065	土器	坏	3C	SD1・81	(11.5)	3.5	6.6	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、口縁やや直立気味、内面底凹む、外面轆轤目	精良		
2066	土器	坏	3C	SD1	(11.0)	3.3	(5.6)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部丸味、口縁直立気味、外面強い轆轤目、器肉薄い、口縁僅かに自然釉、内外面黄白色	精良		
2067	土器	坏	3C	SD1	(12.3)	3.1	(6.8)	底部糸切り、体部やや開く、口縁直立、口唇尖る、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2068	土器	坏	3C	SD1・154	(12.0)	2.9	(7.0)	底部糸切り、ナデ、体部開き、口縁直立気味、口唇尖る、外面轆轤目、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
2069	土器	坏	3C	SD1・146	(11.7)	3.6	6.2	底部糸切り、箕子状圧痕、ナデ、体部やや開き、口縁直立気味、内面底凹む、全体がやや歪む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2070	土器	坏	3C	SD1・80	(12.5)	3.2	6.2	底部静止糸切り、体部丸味を持って開く、口縁直立気味、口唇尖る、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2071	土器	坏	3C下	SD1・191	(12.1)	3.5	6.8	底部糸切り、体部僅かに開く、口縁直立気味、底径やや大、内外面轆轤目	精良		
2072	土器	坏	3C	SD1・トレンチ1	(11.7)	3.4	(6.6)	底部糸切り、体部開く、口縁直立気味	精良		
2073	土器	坏	3C	SD1	(13.5)	3.1	(7.9)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開き、口縁直立気味、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2074	土器	坏	3C	SD1	(11.5)	3.6	(6.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部外傾	精良		
2075	土器	坏	3C	SD1	(12.4)	3.4	(7.0)	摩耗、底部糸切り?、体部外傾、口縁直立気味、口唇尖る、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2076	土器	坏	3C	SD1	(12.2)	2.8	(6.4)	底部糸切り、体部外傾、内外面轆轤目、内外面黄白色、口縁内面煤付着	精良		
2077	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(12.4)	3.2	(7.0)	摩耗、底部糸切り、体部外傾、内面底やや凹む、内面弱い轆轤目、器肉やや薄い	精良		
2078	土器	坏	3C	SD1・187	12.9	3.7	8.1	摩耗、底部糸切り?底径大、体部外傾、口縁直立気味、口唇尖る、内面底やや凹む、内面弱い轆轤目	精良		
2079	土器	坏	3C	SD1・南側部	(12.8)	3.7	7.6	摩耗、底部糸切り、円盤状、体部外傾、内面轆轤目、器肉厚い	精良		
2080	土器	坏	3C	SD1	(12.8)	3.5	(8.0)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部外傾、内外面弱い轆轤目	精良		
2081	土器	坏	3C	SD1	(11.8)	3.2	(6.4)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部外傾、内面底凹む、ナデ、内外面黄白色	精良		
2082	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(12.2)	3.6	6.9	摩耗、底部糸切り、体部外傾、器肉厚い	精良		
2083	土器	坏	3C	SD1	(11.0)	3.1	(7.6)	底部糸切り、体部やや外傾	砂粒少量		
2084	土器	坏	3C	SD1・175	(11.4)	3.8	6.5	摩耗、底部糸切り、体部やや外傾、2次被熱	精良		
2085	土器	坏	3C	SD1	(11.8)	3.4	(7.4)	摩耗、底部糸切り?、体部やや外傾、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
2086	土器	坏	3C	SD1・158、黒灰粘土層	11.9	3.8	6.4	やや摩耗、底部糸切り、簀子状圧痕、体部やや外傾、内面底やや凹む、内外面淡褐赤色、2次被熱か	精良		
2087	土器	坏	3C下	SD1	(13.0)	3.6	(8.4)	底部簀子状圧痕、底径大きい、体部やや外傾、内外面轆轤目	精良		
2088	土器	坏	3C	SD1	(11.9)	3.8	6.8	摩耗、底部糸切り、体部やや外傾、内外面弱い轆轤目、器肉厚い	精良		
2089	土器	坏	3C下	SD1	(11.8)	4.1	6.2	底部糸切り、体部やや外傾、内面轆轤目、内面底ナデ、外面煤付着、器肉やや厚い	精良		
2090	土器	坏	3C	SD1・154	(12.6)	4.0	(8.0)	底部糸切り、簀子状圧痕、体部やや外傾、口縁直立気味、口唇尖る、器肉やや薄い、内外面黄白色	精良		
2091	土器	坏	3C	SD1・153	(11.7)	3.7	6.9	底部糸切り、円盤状高台、体部やや外傾、内面轆轤目、器肉厚い	精良		
2092	土器	坏	3C	SD1	(11.4)	3.8	(6.4)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや外傾、内面轆轤目	精良		
2093	土器	坏	3C下	SD1	(13.8)	3.7	(8.8)	摩耗、体部やや外傾、内面轆轤目	精良		
2094	土器	坏	3C	SD1	(12.2)	4.7	6.7	摩耗、底部糸切り?、体部やや外傾、内面轆轤目、器肉厚い	精良		
2095	土器	坏	3C	SD1・肩部	(10.0)	3.5	(4.1)	摩耗、底部糸切り?、底径小、体部深く直立気味、上半開く	砂粒少量		
2096	土器	坏	3C	SD1	(11.0)	3.8	(7.2)	摩耗、底部切り離し不明、体部深く直立気味、内外面轆轤目	精良		
2097	土器	坏	3C	SD1・197	(11.1)	3.9	(7.0)	摩耗、底部糸切り、体部深く直立気味、内外面轆轤目	精良		
2098	土器	坏	3C	SD1・肩部	(10.6)	3.8	(6.8)	底部糸切り、体部深く直立気味、内面轆轤目、器肉やや厚い	精良		
2099	土器	坏	3C	SD1・北側部	(11.2)	3.4	(7.0)	底部糸切り、体部深く直立気味、上半開く	砂粒少量		
2100	土器	坏	3C	SD1・南側部	(12.0)	3.9	(6.9)	摩耗、底部糸切り、体部深く直立気味、内面弱い轆轤目	精良		
2101	土器	坏	3C	SD1・194	(12.0)	4.2	6.5	摩耗、底部糸切り、体部深く直立気味、器肉厚い、内外面轆轤目	精良		
2102	土器	坏	3C	SD1・183	11.4	4.4	7.2	底部糸切り、体部深く直立気味、口唇尖る、内面底僅かに凹む	精良		
2103	土器	坏	3C	SD1・肩部	(11.6)	4.2	(7.8)	摩耗、底部糸切り?、体部深く直立気味	精良		
2104	土器	坏	3C下	SD1	(7.8)	3.9	(5.6)	底部糸切り、体部直立	精良		
2105	土器	坏	3C	SD1・黒灰粘土層	(10.1)	4.3	(7.3)	摩耗、底部糸切り、体部直立、内面轆轤目、器肉厚い	精良		
2106	土器	坏	3C	SD1・83	11.0	4.5	6.8	底部糸切り、体部直立、内面底やや凹む	精良		
2107	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.2)	底部糸切り、簀子状圧痕、体部大きく開く、内面底凹む、内外面黄白色	精良		
2108	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.8)	底部糸切り、簀子状圧痕、体部開く、内面底凹む、ナデ、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2109	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.6)	底部糸切り、体部大きく開く、内面底凹む、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2110	土器	坏・底部	3C	SD1・147			(5.8)	底部糸切り、簀子状圧痕、体部開く、内面底凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2111	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(7.0)	摩耗、底部糸切り、簀子状圧痕、体部開く、内面底ナデ、内外面轆轤目	精良		
2112	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(5.8)	底部糸切り、体部開く、内面底凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2113	土器	坏・底部	3C	SD1・160			7.1	底部糸切り、体部開く、底径大、内面底凹む、外面強い轆轤目	精良		
2114	土器	坏・底部	3C	SD1			5.9	底部糸切り、ナデ、体部開く、内面底凹む、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2115	土器	坏・底部	3C	SD1・155			6.2	底部糸切り、体部やや開く、内面底凹む、体部外面強い轆轤目、器肉やや薄い、内外面黄白色	精良		
2116	土器	坏・底部	3C	SD1・162			6.1	底部糸切り、体部開く、内面底凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
2117	土器	坏・底部	3C	SD1			(6.2)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内面底凹む、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2118	土器	坏・底部	3C	SD1・205・黒灰粘土層			6.2	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内外面轆轤目	精良		
2119	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(5.9)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内面底凹む、内外面轆轤目、内外面黄白色、内面煤付着	精良		
2120	土器	坏・底部	3C	SD1・南側部			6.2	底部糸切り、体部開く、内外面黄白色	精良		
2121	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.4)	摩耗、底部糸切り、体部開く、外面轆轤目、器肉やや薄い、内外面黄白色	精良		
2122	土器	坏・底部	3C	SD1・82			(6.0)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内外面強い轆轤目、器肉やや薄い、内外面黄白色	精良		
2123	土器	坏・底部	3C	SD1・184			7.5	やや摩耗、底部糸切り、内面底凹む	精良		
2124	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.2)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く、内面ナデ、内外面黄白色	精良		
2125	土器	坏・底部	3C	SD1・82			7.0	摩耗、底部糸切り、体部開く、底径やや大	精良		
2126	土器	坏・底部	3C	SD1・160			(5.8)	底部糸切り、体部やや開く、内面底凹む、外面強い轆轤目、器肉やや薄く堅致	精良		
2127	土器	坏・底部	3C	SD1			(6.0)	底部糸切り、箕子状圧痕、底部円盤状、体部やや開く、内面底やや凹む、内外面轆轤目、器肉厚い	精良		
2128	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.0)	底部糸切り、体部やや開く、内面底凹む、内外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2129	土器	坏・底部	3C	SD1			(6.4)	底部糸切り、体部やや開く、内外面轆轤目、やや堅致	精良		
2130	土器	坏・底部	3C	SD1			(6.4)	底部糸切り、体部やや開く、内面底凹む、轆轤目、外面体部轆轤目、内外面黄白色	精良		
2131	土器	坏・底部	3C	SD1・160			(6.0)	底部糸切り、体部やや開く、外面強い轆轤目、器肉やや薄い、内外面黄白色	精良		
2132	土器	坏・底部	3C	SD1・173			(6.2)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや開く、内面底凹む	精良		
2133	土器	坏・底部	3C	SD1・81			(6.6)	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや開く、外面轆轤目	精良		
2134	土器	坏・底部	3C	SD1			(5.5)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部やや開く、内面底凹む、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2135	土器	坏・底部	3C	SD1・161			5.7	底部糸切り、体部やや開く、内面底やや凹む、外面強い轆轤目、内外面黄白色	精良		
2136	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.5)	底部糸切り、整形やや粗い、体部やや開く	砂粒少量		
2137	土器	坏・底部	3C	SD1・82			(6.6)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部僅かに丸味、外面轆轤目	精良		
2138	土器	坏・底部	3C	SD1・156			(6.0)	底部糸切り、体部僅かに丸味、内面底凹む、外面轆轤目、器肉薄い、内外面黄白色	精良		
2139	土器	坏・底部	3C	SD1・171			(6.8)	摩耗、底部糸切り、底径やや大、体部僅かに丸味、器肉やや薄い、内外面灰黄色	精良		
2140	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.0)	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部僅かに丸味、内面底凹む、外面轆轤目、内外面黄白色	精良		
2141	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(6.4)	底部糸切り、ナデ、体部僅かに丸味、外面轆轤目、内面ナデ	精良		
2142	土器	坏・底部	3C	SD1・肩部			6.2	摩耗、底部糸切り、体部僅かに丸味、内面底凹む、外面轆轤目	精良		
2143	土器	坏・底部	3C	SD1・84～88			(6.6)	底部糸切り、体部外傾、内面轆轤目	精良		
2144	土器	坏・底部	3C	SD1・156			(7.8)	摩耗、底部糸切り、体部外傾、内面弱い轆轤目	精良		
2145	土器	坏・底部	3C	SD1			(7.5)	摩耗、底部糸切り、体部外傾、器肉厚い	精良		

第II章 調査成果

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
2146	土器	坏・底部	3C	SD1・174			7.0	摩耗、箕子状圧痕? 体部外傾、底径大	精良		
2147	土器	坏・底部	3C	SD1・肩部			(7.5)	摩耗、底部糸切り?、箕子状圧痕?、体部直立気味	精良		
2148	土器	坏・底部	3C下	SD1・肩部			(8.8)	底部糸切り、体部直立気味、内面轆轤目	精良		
2149	土器	坏・底部	3C	SD1			(7.0)	底部糸切り、箕子状圧痕、底部円盤状、体部直立気味、内面底轆轤目、器肉厚い	精良		
2150	土器	坏・底部	3C	SD1			(7.2)	底部糸切り、体部直立、内面弱い轆轤目	精良		
2151	土器	坏・底部	3C	SD1・黒灰粘土層			(7.8)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部直立、内面轆轤目	精良		
2152	土器	坏・底部	3C	SD1			(7.5)	摩耗、底部円盤状、底部脇出っ張る、糸切り、整形粗い、体部開く	精良		
2153	土器	坏・底部	3C	SD1			(6.8)	摩耗、底部糸切り、円盤状、体部開く、底部脇出っ張る、内面底弱い轆轤目、器肉厚い	精良		
2154	土器	坏・底部	3C	SD1			(7.0)	摩耗、底部糸切り、円盤状、体部開く、底部脇出っ張る、内面底弱い轆轤目	精良		
2155	土器	坏・底部	3C	SD1			(8.3)	底部切り離し不明、円盤状、底部脇出っ張る、体部開く、内面底凹む	精良		
2156	土器	坏・底部	3C	SD1			(6.6)	摩耗、底部糸切り、円盤状底部、円盤を糸切りした後に坏部を接合、体部開く、底部脇出っ張る	精良		円盤状底部の成形が分かる例
2157	土器	坏・底部	3C	SD1			(4.9)	底部糸切り?、円盤状の底部に更に重ね、灯明皿状にする	精良		
2158	土器	坏・底部	3C	SD1・6層			(5.0)	摩耗、底部糸切り	精良		
2159	土器	坏・底部	3C	SD1・196			6.5	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、体部開く	精良		
2160	土器	坏・底部	3C	SD1・84~88			(6.6)	摩耗、底部糸切り、体部開く、器肉厚い、内外面灰褐色	砂粒少量		
2161	土器	坏・底部	3C	SD1			(6.0)	摩耗、底部糸切り?、体部開く	精良		
2162	瓦器	瓦器碗・口縁	3C下	SD1				口縁内湾気味、外面ナデ、内面ミガキ、ハケ、外面黒灰色、内面灰色	微砂粒微量		在地?
2163	瓦質土器	羽釜・口縁	3C	SD1	(31.0)			口縁直立、口唇丸味、口縁下に低い鏝、口縁ヨコナデ、内外面黒褐色	灰白色、微砂粒微量	13C末~14C	畿内
2164	瓦質土器	甕・口縁	3C	SD1・北側部	(30.8)			肩部余り張らない、頸部やや反る、口縁外面になる、口唇丸味、外面落剥か、肩部に僅かにハケ、内面ナデ、ヘラナデ、軟質、内外面褐色	石英、砂粒、雲母多量		
2165	炆器	捏ね鉢・口縁	3C	SD1・195	(27.6)			口縁拡張、内外面灰色、内面落剥使用痕	白色鈹物粒多量	13C中~後半	東播磨Ⅲ
2166	炆器	捏ね鉢・口縁	3C	SD1・西側部黄橙色土層	(27.2)			口縁拡張、立ち上がる	微砂粒少量		東播磨
2167	炆器	攪鉢・底部	3C	SD1・68~71			(14.2)	平底、体部開く、9条の条線、内外面灰黒色	砂粒少量		備前
2168	炆器	甕・口縁	3C	SD1・176・黒灰粘土層	(23.6)			肩部張る、頸部短く口縁強く外反、口唇外面に面、受け口状、肩部タタキ整形	白色鈹物粒多量	13C中~後半	東播磨
2169	炆器	甕・口縁	3C	SD1・164~170、基壇状遺構内、3B区SD1	42.4			口縁折り返し「N」字状、肩部なだらか、自然釉、内外面赤褐色	砂粒多量	13~14C	常滑、2170同一
2170	炆器	甕・底部	3C	SD1・68~77・72~77			16.6	平底、離れ砂、体部開く、内外面赤褐色、内面自然釉	砂粒多量	13~14C	常滑、2169同一
2171	炆器	甕・底部	3C	SD1・198・200・225			(22.0)	平底、体部直立気味、内面ヨコナデ、外面淡緑色の自然釉、内外面灰白色	砂粒少量		常滑
2172	炆器	甕・口縁	3C	SD1	(46.0)	83.0	38.0	口縁折り返し玉縁、内外面灰黒色	灰色、砂粒少量		
2173	土製品	土鍾	3C	SD1	長4.3	径1.1	重4.6	筒状	微砂粒少量		
2174	土製品	土鍾	3C	SD1・肩部	長4.0	径1.3	重5.0	筒状	精良		
2175	土製品	土鍾	3C	SD1・肩部	長3.7	径1.3	重5.6	筒状	精良		
2176	土製品	土鍾	3C	SD1	長4.8	径1.4	重7.7	筒状	微砂粒少量		
2177	銭貨	古銭	3C	SD1・br27	径25.2mm	厚1.5mm	孔径6.6mm	照寧元寶、字体潰れる、裏面擦り減る	銅		
2178	銭貨	古銭	3C	SD1・床面・br27	径24.6mm	厚1.0mm	孔径6.8mm	照寧元寶、字体潰れる、裏面擦り減る	銅		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特 徴	胎土、材質	時 期	備 考
2179	金属製品	飾り金具	3C	SD1・黒灰粘土層・br21	径2.1	孔径0.4		円形の飾り金具、菊文様か、中央に孔	銅		
2180	石製品	磨石?	3C	SD1・北側部	長10.7	厚6.5	重860	精円礫、一面のみ摩耗、煤付着	花崗岩		
2181	土器	小皿	4C	SD1	(7.0)	1.4	(4.2)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く丸味を持ち開く、内面底凹む	精良		
2182	土器	小皿	4C	SD1	(6.5)	1.6	4.7	底部糸切り、体部短く開く、堅致	精良		
2183	土器	小皿	4C	SD1	6.7	1.8	4.6	摩耗、底部糸切り、体部短く開く、内面底凹む	精良		
2184	土器	小皿	4C	SD1	7.4	1.9	5.4	底部糸切り、簀子状圧痕、粘土付着し底部整形粗い、体部短く開く	精良		
2185	土器	小皿	4C	SD1	(6.4)	1.6	(6.0)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く立ち上がる	精良		
2186	土器	小皿	4C	SD1	7.0	1.5	5.8	底部糸切り、体部短く外傾気味に立ち上がる	精良		
2187	土器	坏・底部	4C	SD1・d126			6.2	底部糸切り、体部開く、内外面轆轤目、内面底凹む、内外面黄白色	精良		
2188	土器	坏・底部	4C	SD1			7.0	底部糸切り、簀子状圧痕、底部器肉厚い、体部開く	精良		
2189	瓦質土器	鍋・口縁	4C	SD1	(21.6)			口縁下に低い罅、口唇やや平坦気味、内外面指頭、ナデ、自然鉄分沈着	微砂粒少量	14C末～15C	
2190	土器	坏・底部	5C	SD1・d215			6.0	底部糸切り、体部やや開く、内外面轆轤目、内面底やや凹む	精良		
2191	陶磁器	白磁四耳壺・口縁	3B	SD2	(12.8)			口縁部丸く、折り曲げる、内外面共薄緑の発色	灰白色、精良	13C後半～14C前半	
2192	土器	小皿	3C	SD2・肩部	(6.7)	1.5	(5.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く開く	精良		
2193	土器	小皿	3B	SD2	(7.3)	1.2	(6.1)	底部糸切り、体部短く開く	精良		
2194	土器	小皿	3B	SD2	(8.5)	1.5	(7.3)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く僅かに外反	精良		
2195	土器	小皿	3B	SD2	(7.7)	1.7	(6.4)	やや摩耗、底部糸切り、簀子状圧痕、体部短く僅かに開く	精良		
2196	土器	小皿	3B	SD2	(6.2)	1.7	(5.6)	やや摩耗、底部糸切り、体部短く直線的	精良		
2197	土器	小皿	4B	SD2	6.3	1.2	5.2	摩耗、底部糸切り、簀子状圧痕、体部短く立ち上がる、内面底部と体部の接合痕沈線状になる	精良		
2198	土器	小皿	4B	SD2・d201	6.6	1.7	5.0	摩耗、底部糸切り、簀子状圧痕、体部短く丸味を持って立ち上がる、内面底凹む、内面底部と体部の接合痕沈線状になる	精良		
2199	土器	小皿	3B	SD2	(6.2)	1.6	(4.6)	摩耗、底部糸切り?、体部短くやや開く、内外面黄白色	精良		
2200	土器	小皿	3B	SD2	(7.0)	1.6	(5.6)	摩耗、底部糸切り?、体部短く僅かに開く	精良		
2201	土器	小皿	3B	SD2	(8.3)	1.6	(6.4)	底部糸切り、体部短く内湾気味	精良		
2202	土器	小皿	3B	SD2	(7.0)	2.0	(4.6)	やや摩耗、底部切り離し不明、口縁部内湾気味	精良		
2203	土器	小皿・底部	3B	SD2			(5.1)	摩耗、底部切り離し不明、体部短く開く	精良		
2204	土器	小皿・底部	4B	SD2			(5.2)	摩耗、底部中央部に径0.7cmの円孔	精良		
2205	土器	坏	3B	SD2	(11.5)	2.9	(5.6)	底部糸切り、ナデ、体部丸味、内外面轆轤目、器肉やや薄い	精良		
2206	土器	坏	3C	SD2・肩部	(12.9)	3.1	(7.4)	摩耗、底部切り離し不明、体部開く、口縁直立、口唇尖る	精良		
2207	土器	坏	3B	SD2	(12.0)	2.8	(8.2)	摩耗、底部糸切り?、体部僅かに丸味、内面轆轤目	精良		
2208	土器	坏	3B	SD2	(12.0)	3.7	(7.0)	摩耗、口縁部は僅かに内湾、内外面轆轤目	精良		
2209	土器	坏	3B	SD2・d210	(11.9)	3.3	(7.8)	やや摩耗、底部糸切り、簀子状圧痕、体部開き、口縁直立気味、内外面轆轤目	精良		
2210	土器	坏	3B	SD2	(11.9)	3.3	(7.6)	摩耗、底部切り離し不明、体部やや開き口縁部僅かに内湾、内面轆轤目	精良		
2211	土器	坏	3B	SD2	(13.6)	3.7	(7.7)	摩耗、体部開く	精良		
2212	土器	坏	3B	SD2・d190	(12.2)	3.7	6.5	やや摩耗、底部糸切り、体部開き、口縁直立気味、外面弱い轆轤目、内面強い轆轤目	精良		

遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	口径 (cm)	器高	底径、重 (g)	特徴	胎土、材質	時期	備考
2213	土器	坏	3B	SD2	(10.8)	3.9	(6.0)	やや摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、底部円盤状接合痕、体部開口縁部僅かに内湾	精良		
2214	土器	坏・口縁	3B	SD2・d209	(12.0)			摩耗、体部開く、口唇尖る	精良		
2215	土器	坏	3B	SD2	(11.4)	3.3	(5.2)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部へたる、やや堅致	精良		
2216	土器	坏	3B	SD2・d208	(12.2)	3.5	7.9	やや摩耗、底部糸切り？、箕子状圧痕、整形粗い、体部開き、口縁直立気味、全体にやや歪み、内面強い轆轤目	精良		
2217	土器	坏	3B	SD2・d203	12.2	3.6	6.0	底部糸切り、箕子状圧痕、体部開き、口縁直立気味、外面弱い轆轤目、内面強い轆轤目	微砂粒少量		
2218	土器	坏	3B	SD2・d209	12.2	3.2	8.0	摩耗、底部糸切り、箕子状圧痕、整形粗い、体部開く、口縁直立、口唇尖る、内面整形粗い、轆轤目	精良		
2219	土器	坏	3B	SD2	(12.4)	3.6	(6.6)	摩耗、底部糸切り、整形粗い、体部八字状に開く、内外面黄白色	微砂粒少量、精良		
2220	土器	坏	3B	SD2	(11.0)	3.3	(6.5)	やや摩耗、底部糸切り、体部やや丸味、内面轆轤目	精良		
2221	土器	坏	3B	SD2	(12.0)	3.7	(6.0)	摩耗、底部糸切り、体部僅かに丸味、内面轆轤目	精良		
2222	土器	坏	3B	SD2	(11.7)	3.6	(8.2)	摩耗、底部糸切り、体部直線的に僅かに開く、内面轆轤目	精良		
2223	土器	坏	3B	SD2・d219	(12.1)	3.9	(8.1)	摩耗、底部糸切り、体部僅かに丸味、口縁部内湾気味	砂粒少量		
2224	土器	坏	3B	SD2	(11.3)	4.3	(7.5)	摩耗、底部糸切り？、体部僅かに丸味	微砂粒微量、精良		
2225	土器	坏	3B	SD2	(10.6)	3.4	(6.4)	底部糸切り、箕子状圧痕、体部丸味、外面僅かに轆轤目、堅致	精良		
2226	土器	坏	3B	SD2	(10.6)	3.8	(7.5)	底部糸切り、体部直線的に僅かに開く	精良		
2227	土器	坏	3B	SD2	(10.2)	4.5	8.0	底部糸切り、箕子状圧痕、底部接合痕、体部直線的、やや歪み、内面轆轤目、堅致	精良		
2228	土器	坏・底部	3C	SD2北・下層			(6.4)	底部糸切り、体部開く、内面底凹む、外面轆轤目	精良		
2229	土器	坏・底部	3C	SD2・下層			(6.2)	摩耗、底部糸切り、体部開く	精良		
2230	土器	坏・底部	3B	SD2			(7.1)	底部糸切り、箕子状圧痕、内面強い轆轤目、やや堅致	精良		
2231	土器	坏・底部	3B	SD2・d204			7.1	底部糸切り、箕子状圧痕、整形粗い、体部開く、内面整形粗い	精良		
2232	土器	坏・底部	3B	SD2			(8.6)	摩耗、底部糸切り、円盤状を呈する、内外面黄白色	精良		
2233	土器	燭台	3B	SD2・d202			6.4	円盤状の底部？焼成前円孔8mm、上に坏状に立ち上がる、胎土は他のものと同様	精良		
2234	瓦質土器	捏ね鉢・口縁	3B	SD2肩部・d270				片口部分、口縁肥厚、内外面とも灰白色	砂粒多量	13C中～後半	東播磨
2235	瓦質土器	鍋・口縁	3B	SD2	(19.3)			摩耗、頸部僅かに括れる、口唇部平坦、外面灰色、内面黒灰色	微砂粒微量、精良	14C後半～15C前半	土佐型
2236	妬器	甕・底部	3B	SD2			(33.6)	平底、斜め上方に伸びる、外面縦へら削り、内面ナデ	精良		備前
2237	土製品	穿孔盤	3B	SD2	(4.2)	厚0.7	孔径0.3	土器片に穿孔	精良		
2238	土製品	土錘	3B	SD2	長5.4	径1.5	重(10.1)	筒状	精良		
2239	銭貨	古銭	3B	SD2・br28	径(21.9)mm	厚1.1mm	孔径7.2mm	開元通寶、裏面摩滅	銅		

## 大溝木製品

決定遺物番号	種別	器種・部位	調査区	遺構名・出土地点・層位・取り上げ番号	法量 (cm)			特 徴	材 質	備 考
W52	木製品	箸状木製品	3C	SD1	長 (15.6)	径0.5		一端部欠損、一端部やや尖る、断面やや楕円形	ヒノキ	保存処理No.12
W53	木製品	箸状木製品	3C	SD1	長 (20.8)	径0.8		一端部欠損、断面長方形	ヒノキ	保存処理No.13
W54	木製品	箸状木製品	3C	SD1	長 (20.3)	径0.6		一端部欠損、一端部尖る、断面方形	ヒノキ	保存処理No.14
W55	木製品	箸状木製品	3C	SD1	長 (15.7)	径0.6		一端部欠損、一端部尖る、断面やや長方形	ヒノキ	保存処理No.15
W56	木製品	箸状木製品	3C	SD1	長20.0	径0.7		両端部尖る、断面長方形	ヒノキ	保存処理No.16
W57	木製品	箸状木製品	3C	SD1	長21.0	径0.6		両端部尖る、断面長方形	ヒノキ	保存処理No.17
W58	木製品	箸状木製品	3C下	SD1	長 (16.6)	径0.6		一端部欠損、一端部尖る、断面方形		
W59	木製品	箸状木製品	3C下	SD1	長17.8	径0.8		両端部尖る、断面長方形		
W60	木製品	箸状木製品	3C下	SD1	長19.5	径0.7		両端部尖る、断面長方形		
W61	木製品	箸状木製品	3C下	SD1	長20.5	径0.7		両端部尖る、断面長方形		
W62	木製品	箸状木製品	3C下	SD1	長 (14.2)	径0.6		一端部欠損、一端部尖る、断面方形		
W63	木製品	箸状木製品	3C下	SD1	長 (13.1)	径0.6		両端部欠損、断面方形		
W64	木製品	箸状木製品	3C下	SD1	長 (12.9)	径0.7		一端部欠損、一端部尖る、断面長方形		
W65	木製品	箸状木製品	3C	SD1	長 (11.9)	径0.8		一端部欠損、断面方形		
W66	木製品	箸状木製品	3B	SD2	長20.6	径0.6		両端部尖る、断面長方形		
W67	木製品	箸状木製品	3B	SD2	長20.0	径0.7		両端部尖る、断面長方形		
W68	木製品	箸状木製品	3B	SD2	長19.1	径0.7		両端部尖る、断面長方形		
W69	木製品	箸状木製品	3A	SD2・下層	長18.9	径0.6		両端部尖る、断面長方形		
W70	木製品	箸状木製品	3B	SD2	長 (16.4)	径0.6		一端部欠損、一端部尖る、断面長方形		
W71	木製品	箸状木製品	3A	SD2・下層	長 (11.9)	径0.7		両端部欠損、断面長方形		
W72	木製品	箸状木製品	3B	SD2	長 (14.9)	径0.7		一端部欠損、一端部尖る、断面長方形		
W73	木製品	箸状木製品	3A	SD2・下層	長 (13.7)	径0.6		両端部欠損、断面長方形		
W74	木製品	箸状木製品	3B	SD2	長 (13.6)	径0.7		一端部欠損、一端部尖る、断面長方形		
W75	木製品	箸状木製品	3B	SD2	長 (10.0)	径0.5		一端部欠損、一端部尖る、断面方形		
W76	木製品	箸状木製品	3C	SD2・下層	長 (8.2)	径0.7		一端部欠損、一端部尖る、断面長方形		
W77	木製品	下駄	3A	SD2・下層・wd7	長21.0	幅9.6	厚3.9	連歯下駄、角丸長方形、歯作出、後紐穴欠損、歯高さ2.3cm、	ヒノキ	保存処理No.23
W78	木製品	下駄	3B下	SD2・ge3	長21.7	幅 (5.8)	厚1.2	連歯下駄、半折、小判形、歯作出、歯高さ1.6cm、	ヒノキ	保存処理No.03
W79	木製品	下駄	3B下	SD2・ge2	長 (17.1)	幅 (8.5)		保存状態不良、連歯下駄、歯作出	ヒノキ	保存処理No.04
W80	木製品	傘	3A	SD2・下層・6	軸径3.6			傘鏡板部分か、中央の軸に0.6cm孔、枝骨5本がほぼ均等に広がる		
W81	木製品	部材	3A	SD2・下層	長9.7	幅1.2	厚0.5	三日月形、側面に小孔、片面は黒漆塗り		
W82	木製品	部材	3C	SD2・下層	底辺5.7	上辺2.9	厚3.5	台形状		
W83	木製品	板	3A	SD2・下層・wd8	長 (50)	幅 (5.5)	厚0.6	短冊状、先端部角を取る、薄い		
W84	木製品	板	3A	SD2・下層・wd24、25	長 (59)	幅 (3.8)	厚2.5	短冊状、薄い		
W85	木製品	板	3A	SD2・下層・wd13	長 (49)	幅 (8.7)	厚0.4	短冊状、幅広、薄い		
W86	木製品	板	3A	SD2・下層・wd9	長 (66)	幅 (7)	厚0.4	短冊状、先端部角をやや取る、薄い		
W87	木製品	板	3A	SD2・下層・wd10			厚0.6	短冊状、薄い		



許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中



許諾手続き中

許諾手続き中

## 第IV章 坂本遺跡の遺物と中筋川流域の中世集落

### 第1節 坂本遺跡出土の遺物について

坂本遺跡の発掘調査では、中世～近世の遺物が遺構・包含層を含めると約32,000点近く出土している。調査区を1区から5区に分け調査を行っているが、遺物出土量の約6割が3区より出土している。遺構も3区では基壇状遺構や瓦窯跡、建物跡等の遺跡の中核をなす遺構が存在している。遺物の出土量や、遺構の密度等からも3区が遺跡の中心的役割を担った場所であったと考えられる。出土遺物は、種類別では土師質土器、貿易陶磁器、国産陶器、瓦質土器等がみられる。以下それぞれの土器・陶磁器類について取り上げる。

#### (1) 土師質土器

最も多いのが土師質土器である。総数40,256点を数え、遺物総点数の約90%を占めている。主に供膳具と煮炊具に分けられる。供膳具としては皿と杯が出土しており、中でも杯の比率が高い。

皿、杯の良好な資料としては、調査区を南北に縦断する大溝SD1を挙げることができる。大溝SD1は大溝SD2から連結する溝で、共に13世紀末から14世紀代を中心に機能しており、土師器では皿と杯の良好な資料が出土している。皿は口径約6cm～8cm、杯は口径10～12cm、器高は3.6～3.9cmを測り、器壁は非常に薄く、その殆どが回転台を利用して作られたものである。底部外面には糸切り痕が残るものがほとんどを占める。

土師質土器の資料を多量に出土している対岸の具同中山遺跡群を例に上げ、比較検討すると、具同中山遺跡群<sup>1)</sup>では、同様に回転台成形によるもので、底部外面には回転糸切りが施されている。口径の大きさと体部から口縁部にかけての形状から大きくIV類に分類されている<sup>2)</sup>(表IV-1)。坂本遺跡は、この分類における、II-b、III-bの範疇で押さえることができる。また、SD1出土の杯(No.2026～2070)に類似したタイプが具同中山遺跡群IVの調査において出土している。土師質土器集中から

分類	口径	体部から口縁部の形態
I - a	口径が13cm台を測る	体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる
I - b	口径が13cm台を測る	体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる
I - c	口径が13cm台を測る	体部は内湾して立ち上がり口縁部は外反する
II - a	口径が12cm台を測る	体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる
II - b	口径が12cm台を測る	体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる
III - a	口径が11cm台を測る	体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる
III - b	口径が11cm台を測る	体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる

表IV-1 具同中山遺跡群土師質土器分類表(『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』より抜粋)

出土したもので、口径は11～12cmを測り、口縁部はやや内湾気味に外上方に延びるタイプである。全体的に摩耗しているが、形状からもⅡ-b、Ⅲ-bに分類することができる。おおむね13世紀後半から14世紀代を考えることができる。

煮炊具では鍋、羽釜が出土している。鍋では外面にタタキ目の残る播磨系ものや、口縁部が大きく外反する紀伊型の鍋(1093)が出土している。羽釜では、河内系のものが出土している。

## (2) 国内産陶器

遺物総点数の内4%を占める。東播系須恵器、備前焼、古瀬戸、常滑焼が出土している。組成をみると88%が備前焼で占められており、播鉢、壺、甕がみられる。次いで古瀬戸が9%を占め、折縁皿、直縁大皿、卸皿、天目茶碗、四耳壺、瓶等が出土している。周辺の中世遺跡の中では、その量と器種は豊富である。

常滑焼は全体の2%で、甕のみの出土である。東播系須恵器は1%で捏ね鉢が出土している。東播系では捏ね鉢、備前焼では播鉢と壺、甕、常滑焼では甕の出土が見られる。古瀬戸は周辺の具同中山遺跡群やアゾノ遺跡に比べ坂本遺跡が量、種類ともに最も多く、他が貯蔵や煮炊の日常品であるのに対し、四耳壺や香炉等の奢侈品が見られる。

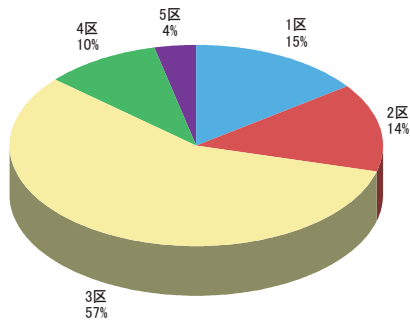
## (3) 貿易陶磁器

貿易陶磁器は全体の内3%を占め青磁、白磁、青花、青白磁が出土している。組成比率では青磁が全体の70%を占め、次いで白磁が19%、青花9%、青白磁2%の割合を示している。青磁では碗、皿、盤の他、香炉や蓋置、壺等が出土している。ほぼ龍泉窯系の製品で占められている。青磁碗ではB類、C類、D類、E類が出土しており、中でもD類碗は半数に近い。次いで、蓮弁B2類と蓮弁B4類、雷文C2類が見られる。皿は稜花と内湾する皿、腰折れの皿が見られる。白磁は皿と杯が出土しており、Ⅱ類・Ⅴ類・Ⅸ類が数点みられるが、白磁D類・E類(森田編年)<sup>3)</sup>で大半が占められている。青花では碗と皿が出土しており、皿が出土点数の約80%を占める。組成ではB類、C類、E類が出土しており、9割方B類である。碗ではB類、C類が出土している。

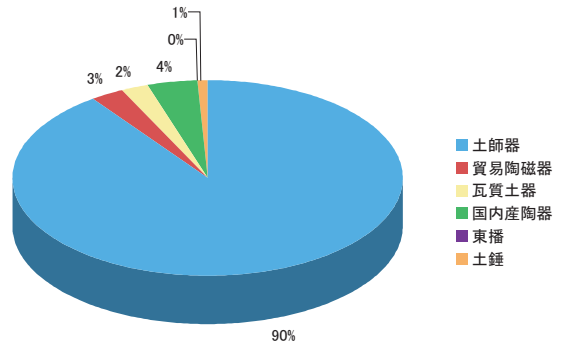
青白磁では小壺と梅瓶4点が出土している。梅瓶については、県内の出土例として、田村城館と姫野々城跡、一条氏の重臣加久見氏の居館跡と推定される加久見城館遺跡群<sup>4)</sup>で報告されているのみで、県内では、屋敷地等の拠点遺跡での出土に限られているようである。

## (4) 瓦質土器

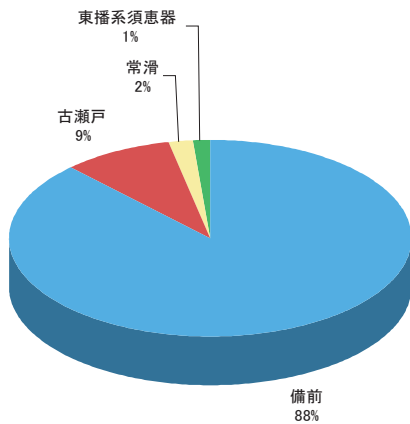
遺物総点数の約2%を占める。主に煮炊具としての鍋・羽釜の他、風炉や火鉢が出土している。瓦質土器の内訳は鍋が最も多く49%、羽釜4%、鉢3%、風炉38%、火鉢5%、茶釜1%である。鍋についてはそのほとんどは在地の土佐型鍋(61・545・879・1096・1369・1755・1756・2235)と言われるものである。羽釜は河内型のもの(1094・1095・1365～1367・1610～1612)が含まれる。鉢も数点出土している。また風炉の出土量も周辺の遺跡にくらべ非常に多い。当遺跡では13世紀代には東播系こね鉢を使用し、その後、備前焼の播鉢と少量ではあるが瓦質の播鉢を使用している。



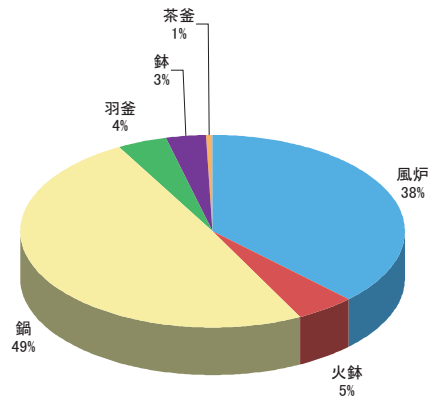
調査区別遺物量比率



出土遺物組成

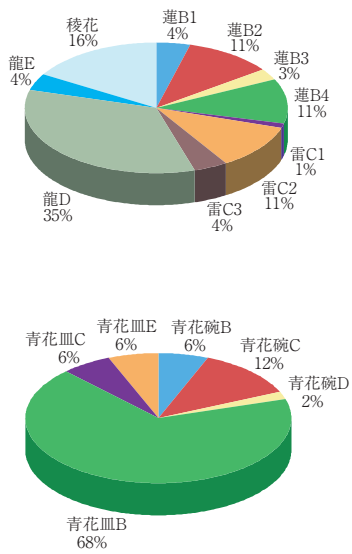


国内産陶磁器産地別比率

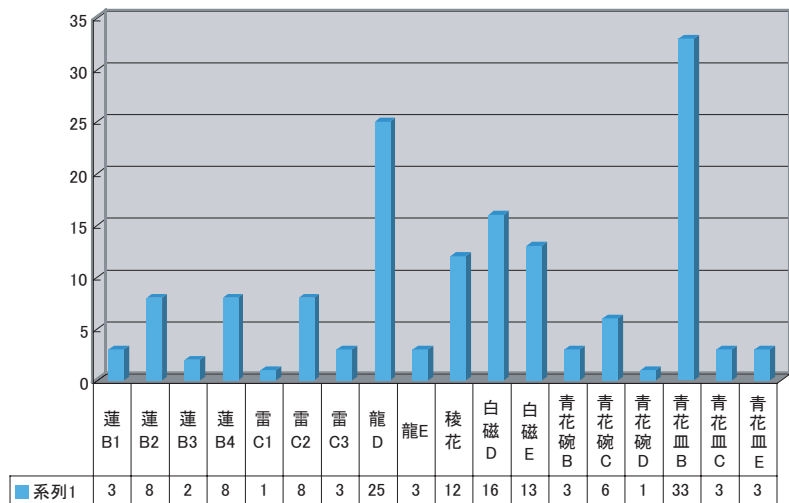


瓦質土器器種別比率

グラフIV-1 坂本遺跡出土遺物組成グラフ



貿易陶磁器組成



グラフIV-2 貿易陶磁器比率グラフ

以上出土遺物についておおまかに述べた。遺物からは13世紀後半から14世紀代、15世紀から16世紀の2時期に大きな画期が見られた。前時期は、金剛福寺の院主職を勤めた南仏上人が、正応元年(1288)に院主職を辞した後、香山寺に帰入寂したとされる時期にあたる。また、15世紀後半から16世紀は一条教房(1423～1480)が応仁の乱を避け中村に下向、その後土佐一条家として土着化していく時期と一致している。出土遺物では、瓦や青磁の蓋置・香炉、瓦質の風炉等茶道関係のものが見られる。また、青白磁の梅瓶が4点(2個体になる)出土している。青白磁の梅瓶は、貿易陶磁器の中でも特に高級品に属し、「威信財」としても考えられている。高知県内では、土佐の守護代所である田村城館、津野氏が拠点とした姫野々城館と加久見氏の居館跡と推定される加久見城館遺跡群での報告のみであるが、どれも地域の拠点となる遺跡からの出土である。これらの遺物や基壇状遺構や瓦窯、礎石建物等の遺構から考えても、寺院関連の遺跡であったことが推察できる。

## 第2節 中筋川流域の中世集落遺跡と坂本遺跡

今回発掘された坂本遺跡は足摺金剛福寺の末寺である香山寺の東側山麓に位置する遺跡で、四万十川と支流中筋川との結節地点に近接している。中筋川には香山寺を取り巻くように中世の集落遺跡が点在しており、ここ十数年調査が行われてきている。ここでは遺構・遺物から中筋川流域の中世集落遺跡の中での坂本遺跡の位置付けについて考えていきたい。

### (1) 中筋川流域の中世集落遺跡の概要と歴史的背景

遺跡の所在する四万十市は古代は幡多庄として栄えた地である。幡多荘は、摂関家九条家の管轄下にあった荘園であったが、13世紀中頃には九条家から一条家領となりさらに発展を遂げていく。『金剛福寺文書』では、中村に「船所職」(ふなどしき)が置かれていたことが記載されており、荘園の年貢が中村に集積され、後川・四万十川を下り下田から京都に運ばれたと考えられている。<sup>5)</sup> 具同村・中村・平田村・山田村な



第IV-1図 中筋川流域の中世遺跡位置図

どに荘官を配置し、さらに具同村にはそれらを統括するための奉行所をおいていたとある。また、水運の支配に力をいれており、建治元年(1275年)には金剛福寺の住僧慶心を幡多本郷の「船所職」に任じ、金剛福寺を通じて内陸水運の支配を行っていた。この「船所職」に関しては、四万十川と中筋川との合流点に近い具同村の川湊の管理職である可能性が高いと示唆されている。<sup>6)</sup> また「船所」の位置については四万十川と中筋川の結節点である坂本の可能性も示唆されている。<sup>7)</sup> いずれにしても、四万十川河口から中筋川流域は、当時内陸水運の重要な拠点であったようである。

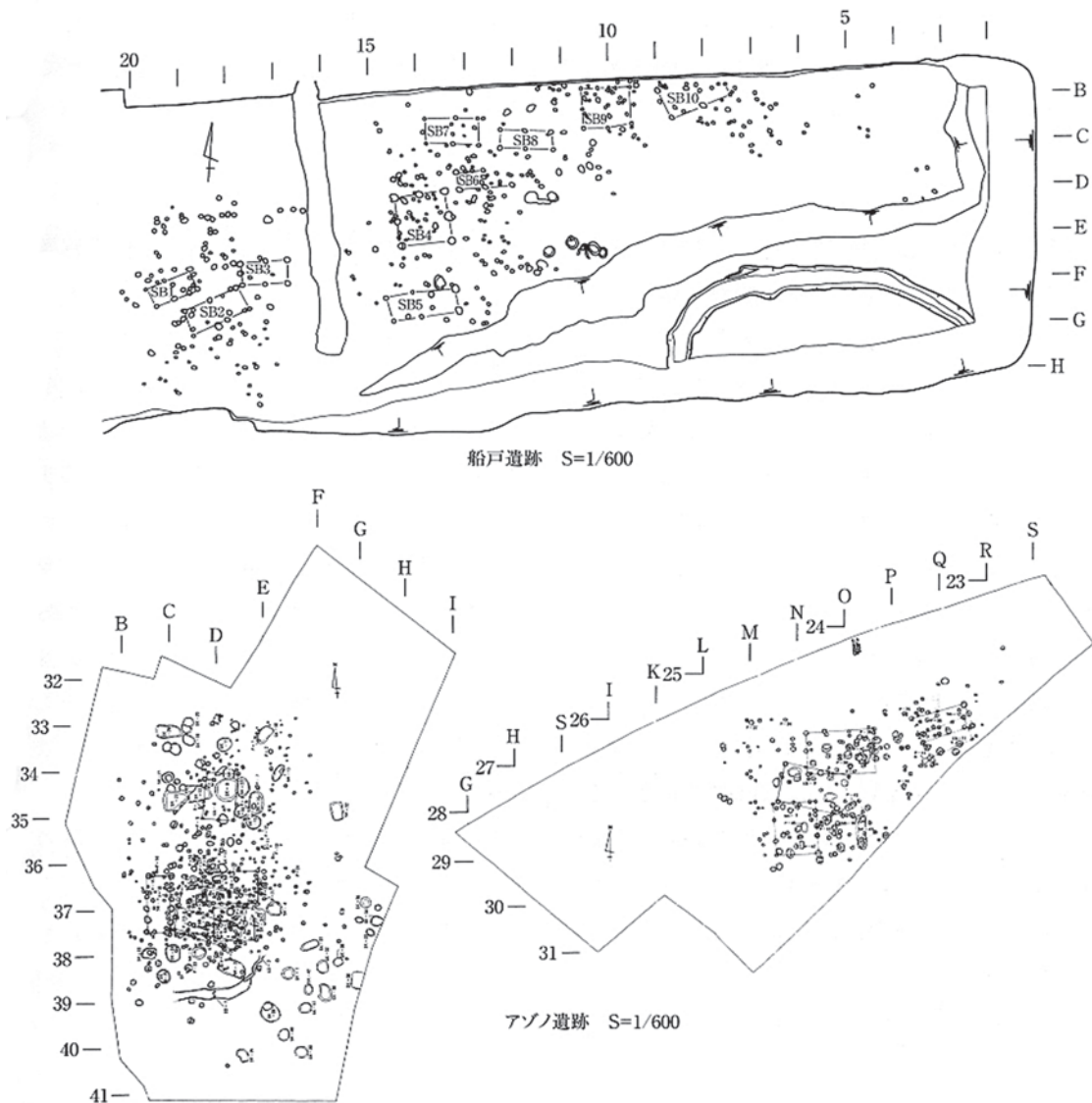
南北朝期になると状況は一変し、応仁の乱(1467年)前後は幡多の地も他地域と同様に土豪の台頭により、荘園自体の維持管理が難しくなっていたようである。これを契機に応仁2年には一条教房自ら幡多の地に下向し、現在の中村市街地に居館を構えたと考えられている。まずそれぞれの遺跡についての概略を述べる。

#### ①船戸遺跡<sup>8)</sup>

坂本遺跡の約3km上流、中筋川左岸に位置する遺跡である。中筋川が蛇行して小さな入り江状の地形をなしている。地籍図には「船戸」という字名が残る。掘立柱建物跡10棟、流路3条、柱穴群を検出し、概ね13世紀から15世紀代に機能していたと考えられる。遺物では瓦器や貿易陶磁器等の搬入品が多く、珍しいものとしては、石製の碇が出土している。「船戸」という字名からも中筋川の当時の商品流通に関わった川津としての機能をもった遺跡であったと考えられている。

②アゾノ遺跡<sup>9)</sup>

坂本遺跡の約2.2km上流、中筋川右岸、香山寺の西側山麓部に位置するアゾノ村に立地する遺跡である。『長宗我部地検帳』ではアゾノ村は森沢村に属する小村であるが、土地の所領の殆どは足摺領と記載されている。調査では、掘立柱建物跡12棟、土坑43基、配石遺構、溝、柱穴群を確認している。集落自体は13世紀後半から14世紀前半にかけ最盛期をむかえており、梁間4間(4.1m)、桁行4間(5.8m)を測る集落最大規模の建物を確認している。出土遺物では和泉型の瓦器碗(尾上編年のⅢ-3からⅣ-2)<sup>10)</sup>をはじめとする搬入品や貿易陶磁器等が多く出土している。また、調査では1498年(明応2年)に起きた地震による墳砂跡が確認されており、集落自体もこの時期を境に終焉をむかえている。規模・立地また、遺物中の土錘の量の多さからは、直接生産に携わった漁村的な性格をもった遺跡ではないかと考えられている。



第IV-2図 船戸遺跡・アゾノ遺跡遺構配置図



### ③具同中山遺跡群<sup>11)</sup>

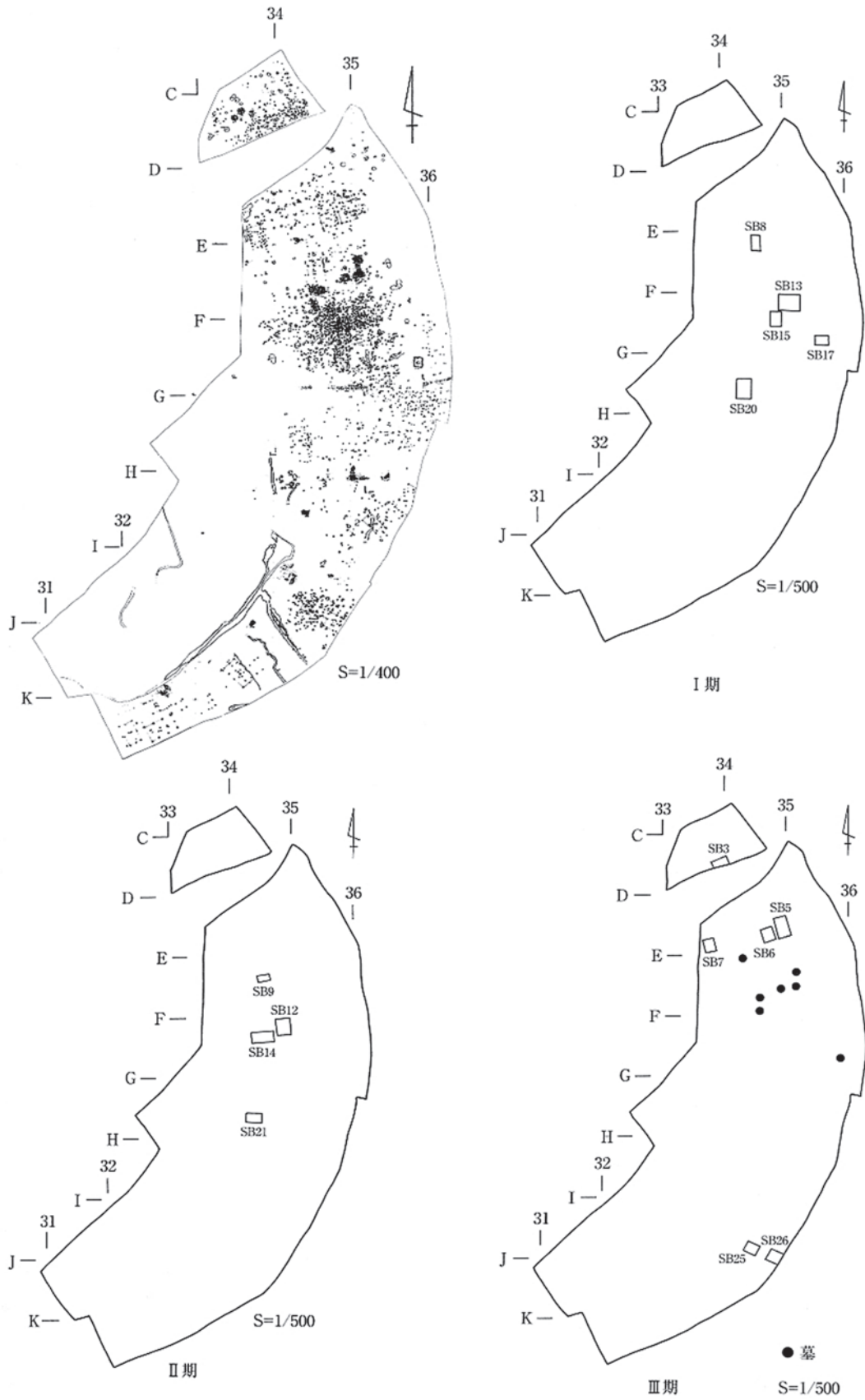
坂本遺跡から約2km上流、中筋川左岸に位置する遺跡である。数年に及ぶ調査により、古代末から中世にかけての建物跡を検出している。1989・90・91年の調査では掘立柱建物跡29棟、土坑31基、溝跡8条、集石遺構25基、火葬墓1基を確認し、瓦器、貿易陶磁器等の搬入品の出土量は県内最大量を誇る。遺跡は9世紀後半から11世紀中葉（Ⅰ期）、11世紀後半から13世紀後半（Ⅱ期）、14世紀初頭から15世紀（Ⅲ期）、16世紀以降（Ⅳ期）の4時期に大きく変遷を掴むことができ、Ⅱ期に集落が最盛期をむかえ、Ⅲ期には集落は衰退し、墓地化しているが、Ⅳ期以降また小集落が形成されていることが分かっている。<sup>12)</sup>

1997年の調査では、中筋川を挟んだ香山寺の対岸にあたる地点の調査（具同中山遺跡群Ⅳ）<sup>13)</sup>を行い掘立柱建物跡12棟、溝跡、井戸跡、土坑を検出した。建物跡のなかには梁間4間×桁行6間（総面積80㎡）の総柱建物跡を検出した。具同中山遺跡群では最大規模の建物跡で、32基の柱穴で構成されていたが、その内の17基の床面から礎板を確認した。建物は13世紀後半から14世紀前半に機能していたものと考えられる。具同中山遺跡群Ⅳではこの時期集落が最盛期を迎え、その後衰退し、16世紀末から17世紀代に再び集落が形成されていたものと考えられる。

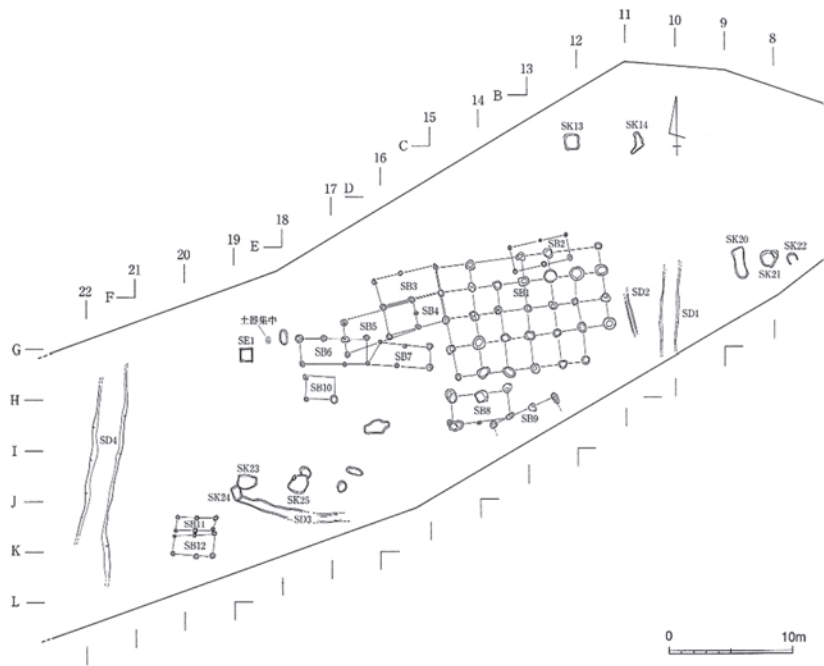
### ④風指遺跡<sup>14)</sup>

坂本遺跡の約2.5km上流の右岸、前述したアゾノ遺跡の西側に近接する古代から中世にかけての遺跡である。『長宗我部地検帳』ではアゾノ村に隣村であるカサシノ村に所在した遺跡である。古代では、9世紀中頃から10世紀初めにかけての遺構遺物が出土している。遺物の中には官衙関連遺跡や寺社跡から出土する緑釉陶器や篠窯産の鉢、黒色土器が確認されており、官制の祭祀が行われていたと考えられている。中世では、掘立柱建物跡を1棟検出している。出土遺物の時期からは14世紀から15世紀に位置づけることのできるものである。

以上、発掘調査を行った中筋川流域の中世遺跡について概略をまとめたが、これらの遺跡はほぼ同時期に存続していることが分かり、その中でも、集落の規模でいうと具同中山遺跡群が広範囲にわたりまた、集落の存続期間も長い。Ⅱ期（11世紀後半～13世紀後半）とした時期に貿易陶磁器などの製品が県下で最も多く出土しており、集落の規模も他の遺跡に比べ大きい。具同中山遺跡群の集落の最盛期を11世紀～14世紀前半を考えると、九条家から一条家に幡多庄が譲渡されて後、集落は最盛期を迎え、一条氏が下向して以後、市街地に拠点が移ると、集落も衰退している。



第IV-3图 具同中山遺跡群(1989~91)遺構變遷圖



第IV-4図 具同中山遺跡群IV (1997) 遺構配置図

## (2) 坂本遺跡の様相

では坂本遺跡の様相について考えてみる。まず、坂本遺跡のある坂本村全域は『長宗我部地検長』では金剛福寺領と記載されている。金剛福寺は九条家の頃より庇護され、一条氏に幡多荘が譲渡されてからも厚遇されている。この金剛福寺の末寺であったのが坂本村にある香山寺である。香山寺への参道の入口は現在も坂本村にあり、その参道と同じ谷沿いに坂本遺跡が存在している。発掘調査では、礎石建物跡、瓦窯、基壇状遺構などの寺院関係の遺構及び、瓦や青白磁の梅瓶や青磁の香炉などの奢侈品が出土している。遺構や遺物からも香山寺に関連した施設であったと考えられる。

遺跡が機能した時期は13世紀～14世紀、15世紀～16世紀の2時期に大きく分かれる。前者の13世紀～14世紀の時期には、対岸の具同中山遺跡群では、最大規模の総柱建物が存在し、集落自体もこの時期に最盛期を迎えている。香山寺の西山麓部にあたるアゾノ遺跡でもこの時期に最大規模の建物を有し、集落も最盛期をむかえている。遺物では、周辺の各遺跡で前時期には瓦器が大量に出土しているが、坂本遺跡では瓦器の出土が見られない。また、貿易陶磁器や搬入品等も他も遺跡に比べ優品が多い感を受ける。

香山寺の西山麓部にあたるアゾノ村に所在するアゾノ遺跡では、明応2年(1498)に発生した地震により集落が終焉しており、相当な被害であったと思われる。東側山麓に位置する坂本遺跡でも、同様な被害はあったと思われるが、15世紀後半～16世紀にかけ新たな建物を構築し、その場所にとどまっている。

古代から中世にかけての中筋川下流域に遺跡が多く存在する背景として、四万十川から支流の中筋川に遡上する水運の結節点としての場所であり、古代以来の経済基盤に支えられた流通ルートによって、中・上流域の集落の結節点としてこの地域に中世集落が発展するのではないかと考えられ

ている。<sup>15)</sup>これらの地点から約8.7km下った河口部には下田港が存在し、中筋川上流にいくと、宿毛港に至る河川交通の要所である。これらのことから、具同中山遺跡群は中筋川に入ってきた舟が最初に通る地点であり、流通の結節点として重要な役割を担っていた集落であった可能性が高いと考えられている。また、前述した大型の総柱建物跡から「荘倉」としての機能していたと考えられることや<sup>16)</sup>、県下でも最大量を誇る貿易陶磁器や搬入土器が出土していることから地域経済や物資の管理・集散機能を有する地域拠点としての性格をもつものと想定される。

また、同じく坂本遺跡は四万十川から中筋川に分岐する結節点に存在し、基壇状の遺構や瓦窯から香山寺に関連した施設と考えられる遺跡である。一条氏が住僧慶心を船所職に任じた時期は、ほぼ坂本遺跡が盛行期を迎える時期と合致してくる。そのことから考えると、金剛福寺の末寺香山寺の東山麓部に位置し、四万十川と中筋川の結節点に立地する坂本遺跡は、物資の流通、水運をつかさどる重要な役割を担っていたのではないかとも思われる。

#### 註

- 1) 前田光雄・松田直則他「具同中山遺跡群」『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』高知県教育委員会・(財)高知県埋蔵文化財センター 1992年
- 2) 註1と同じ
- 3) 森田勉「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』1982年
- 4) 「加久見城跡遺跡群」成果資料 土佐清水市教育委員会 2007年
- 5) 『長宗我部地検帳 幡多郡中』高知県立図書館
- 6) 市村高男「武家政権の盛衰と土佐国」『高知県の歴史』2001年
- 7) 東近博「土佐国幡多荘の船所について」『土佐史談235』土佐史談会2007年
- 8) 松田直則他「船戸遺跡」『中村宿毛道路関連発掘調査報告書Ⅱ』高知県教育委員会・(財)高知県埋蔵文化財センター
- 9) 出原恵三・松田直則「風指・アゾノ遺跡」『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』高知県教育委員会・(財)高知県埋蔵文化財センター
- 10) 尾上実・森島康雄・近江俊秀「瓦器椀」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 1995年
- 11) 註1と同じ
- 12) 松田直則「四万十川流域の遺跡」『中近世土器の基礎研究Ⅸ』日本中世土器基礎研究会 1996年  
古代から中世における具同中山遺跡群が機能したと思われる11世紀から16世紀末をⅠ期～Ⅳ期に区分されており、遺跡における画期を述べられている。
- 13) 浜田恵子・筒井三菜他「具同中山遺跡群Ⅳ」『県道中村下ノ加江線緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書』高知県教育委員会・(財)高知県埋蔵文化財センター 2001年
- 14) 註9と同じ
- 15) 松田直則「古代から中世における中筋川流域の発展」『土佐史談212』土佐史談会1999年
- 16) 松田直則「四万十川流域の中世河津」『中世都市研究3』新人物往来社 1996年

参考文献

『中村市史』中村市

小野正敏「15、6世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究No.2』1982年

中野晴久「赤羽・中野 生産地における編年について」『中世常滑焼をおって資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所1994年

重根弘和「中世の備前焼」『備前歴史フォーラム資料集 備前焼研究最前線Ⅱ』備前市歴史民俗資料館2005年

森田稔「中世須恵器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編1995年

上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁期研究No.2』1982年

吉成承三「四国の土製甕・羽釜・鍋－古代末から中世煮炊具の様相－」『中世土器の基礎研究21』日本中世土器研究会編2007年

池沢俊幸「土佐における広域分布品の様相」『中世西日本の流通と交通』高志書院2004年

吉成承三「土佐の城郭出土の貿易陶磁期～岡豊城跡・姫野々城跡を中心に～」『城館出土の貿易陶磁期－貿易陶磁研究集会 四国大会資料－』日本貿易陶磁研究会2000年

山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編1995年

藤澤良祐「古瀬戸」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編1995年

## 報告書抄録

ふりがな	さかもといせき							
書名	坂本遺跡							
副書名	中村宿毛道路埋蔵文化財発掘調査報告書XIV							
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第103集							
編著者名	前田光雄、筒井三菜							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL.088-864-0671							
発行年月日	2008年3月31日							
所収遺跡	所収遺跡	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
坂本遺跡	高知県 四万十市 坂本	39207	70151	32° 58' 30"	132° 55' 57"	平成17年4 月～平成18 年3月	5,323㎡	中村宿毛高 規格道路建 設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
坂本遺跡	寺院跡、 集落跡	中世		瓦窯、基壇状遺構、大 溝、石段状遺構、掘立 柱建物跡		中世土器、輸入陶磁器、 舟形木製品等		中世寺院跡

# 写真図版







1-1 空撮(1)・南東より

写真 2



2-1 空撮(2)



2-2 空撮(3)・東より



3-1 空撮(4)・西より



3-1 空撮(5)・南より

写真 4



4-1 遺跡空撮(1)・上面完掘・東より



4-2 遺跡空撮(2)・上面完掘・北より



5-1 遺跡空撮(3)・下面・西より



5-2 遺跡空撮(4)・下面完掘・北より

写真 6



6-1 1A区(1)



6-2 1A区(2)・西より



6-3 1B区2面目(1)・西より



7-1 1B区2面目(2)・西より



7-2 1B区遺物出土状況



7-3 1B区P17遺物出土状況

写真 8



8-1 2A区完掘・北より



8-2 2A区上面完掘・南西より





9-1 2A区建物跡・西より



9-2 2A区柱痕3・4



9-3 2A区柱痕4出土土器



9-4 2A区柱痕5



9-5 2A区P47

写真 10



10-1 2A区石列1・側溝・南より



10-2 2A区石列1・側溝・北より



10-3 2A区石列1・側溝・羊歯



10-4 2A区石列1・側溝・白磁



10-5 2A区石列2・石臼



11-1 2A区瓦溜り(1)・北西より



11-2 2A区瓦溜り(2)・東より



11-3 2A区漆椀

写真 12



12-1 2B区東側(1)・西より



12-2 2B区東側(2)・東より



12-3 2B区西側(1)・西より



13-1 2B区SD(1)・東より



13-2 2B区SD(2)土層



13-3 2B区P21

写真 14



14-1 3区上面完掘・南より



14-2 3区中面完掘・北より



15-1 3区斜面(1)・調査前・東より



15-2 3区斜面(2)・東より



15-3 3区斜面(3)・東より

写真 16



16-1 3A区全景・上面



16-2 3A区全景・中面





17-1 3A区上面遺構検出・南より



17-2 3A区上面完掘・南より



17-3 3A区中面完掘・北西より



18-1 瓦窯全景(1)・東より



18-2 瓦窯全景(2)・南より



19-1 1号瓦窯(1)・南より



19-2 1号瓦窯(2)・北より



19-3 1号瓦窯(3)・土層・東より



19-4 1号瓦窯(4)・遺物・東より



19-5 1号瓦窯(5)・窯壁・東より



20-1 2号瓦窯(1)・南より



20-2 2号瓦窯(2)・北より



20-3 2号瓦窯(3)・西より



20-4 2号瓦窯(4)・窯壁・西より



20-5 2号瓦窯(5)・窯壁・北より



21-1 3号瓦窯(1)・南より



21-2 3号瓦窯(2)・北より



21-3 3号瓦窯(3)・北より



21-4 3号瓦窯(4)・東より



21-5 3号瓦窯(5)・窯壁・北より



22-1 3A区石段(1)・北より



22-2 3A区石段(2)・北より



22-3 3A区石段(3)・北より



22-4 3A区石段(4)・北より



22-5 3A区石段(5)・基礎・柱穴・南東より



23-1 3A区石段(6)・北より



23-2 3A区石段(7)・北東より



23-3 3A区石段(8)・袖石・東より



23-4 3A区石段(9)・石組・袖石



23-5 3A区石段(10)・南東より



23-6 3A区石段(11)・柱穴・基礎石・南より



23-7 3A区石段(12)・柱穴P302・南より



23-8 3A区石段(13)・柱穴P301・南より

写真 24



24-1 3A区建物跡(1)・東より



24-2 3A区建物跡(2)・西より



24-3 3A区堀跡・北西より



24-4 3A区SK1・北より



24-5 3A区SK4・東より



24-6 3A区SK2・南より



24-7 3A区土器廃棄帯(1)・東より



24-8 3A区土器廃棄帯(2)・東より





25-1 3B区全景(1)・東より



25-2 3B区全景(2)



25-3 3B区礎石・北より

写真 26



26-1 3B区北側斜面・東より



26-2 3B区西側柱穴・東より



26-3 3B区瓦溜り(1)・北東より



26-4 3B区瓦溜り(2)・東より



26-5 3B区SK1(1)・東より



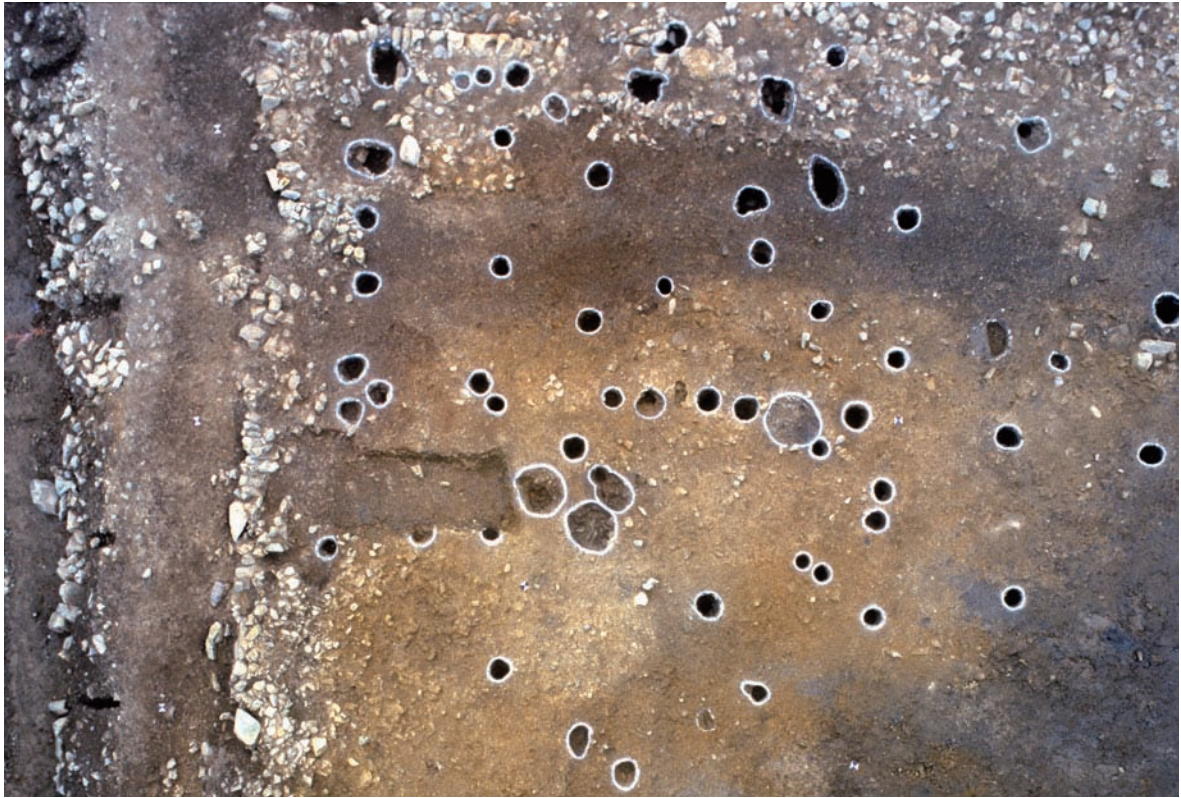
26-6 3B区SK1(2)・北より



26-7 3B区SK1(3)・東より



26-8 3B区P255



27-1 3C区全景(1)・上面完掘・西より



27-2 3C区全景(2)・上面完掘・東より



27-3 3C区全景(3)・上面完掘・北東より



27-4 3C区全景(4)・基壇・北東より



27-5 3C区全景(5)・下面完掘・東より

写真 28



28-1 3C区斜面・北東より



28-2 3C区基壇北壁・北西より



28-3 3C区基壇裏込め・西より



28-4 3C区基壇基礎・西より



28-5 3C区基壇東壁・東南より



28-6 3C区中面完掘・南西より



28-7 3C区P133



28-8 3C区P134



29-1 4区全景(1)・東より



29-2 4区全景(2)・西より



29-3 4区全景(3)・近世・東より



29-5 4区建物・東南より



写真 30



30-1 4区通路(1)東より



30-2 4区通路(2)西より



30-3 4区通路(3)東より



30-4 4区舟形木製品



30-5 4A区柱痕1、2・西より



30-6 4区柱痕3、4・西より



30-7 4区P45漆椀



30-8 4区梅瓶1711



31-1 5区全景(1)・西より



31-2 5区全景(2)・南東より



31-3 5区全景(3)・西より



31-4 5区建物跡・東より



31-5 5区・鬼瓦

写真 32



32-1 大溝SD1、2(1)・東より



32-2 大溝SD1、2(2)・東より





33-1 大溝SD1、2(3)・北より



33-2 大溝SD1、2(4)・南より

写真 34



34-1 大溝SD1石積み(1)・南より



34-2 大溝SD1石積み(2)・北より



34-3 大溝SD2・北より



35-1 大溝SD1、2合流付近・東より



35-2 大溝SD1土層・北より



35-3 大溝SD1合流付近・西より



35-4 大溝SD1遺物(1)・北より



35-5 大溝SD1遺物(2)・北より



35-6 大溝SD1遺物(3)・北より



35-7 大溝SD2遺物(1)・東より



35-8 大溝SD2遺物(2)

写真 36



5



6



12



14



18



19



29



31



36



46



63



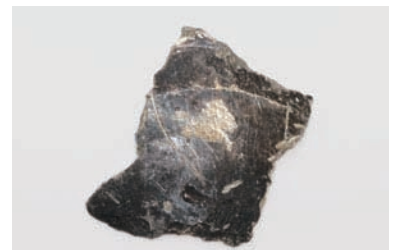
80



83



87



88



94



96



96底



97



103



105



106



108



108底



110



111



116



117



126



139



140



141



142



153



154



155

写真 38



156



160



189



190



191



198



199



202



211



213



216



219



217



220



222



223



226



230



227



227裏



231



241



243



267



271



271凹面



280



283



287



290



293

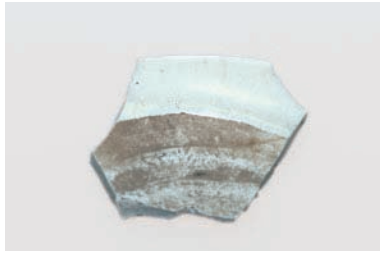


301

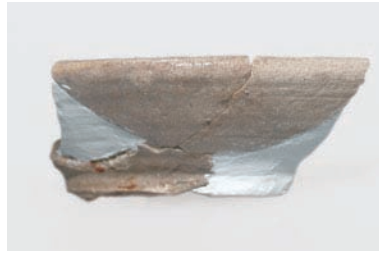


303

写真 40



308



309



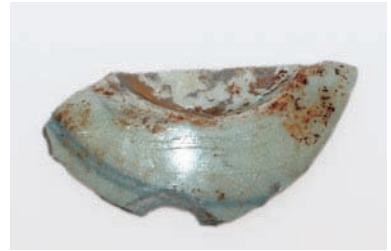
311



314



315



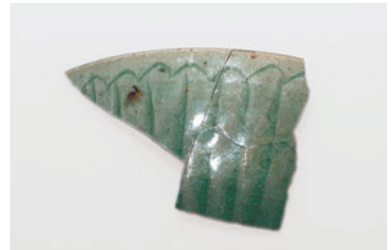
320底



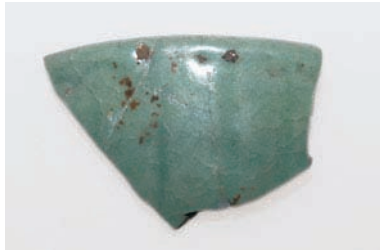
325



328



331



332



334



335



346



348



362



427



428



429





430



432



433



435



437



438



439



442



443



444



445



446



447



476



478



479



480



481

写真 42



482



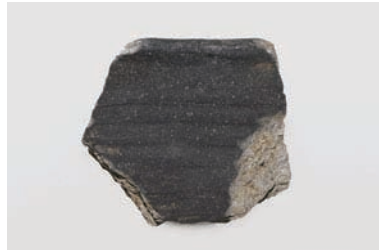
483



484



501



502



510



511



513



515



516



518



519



529



546



547



548



550



551



553



554



567



575



576



577



587



587凹面



588



588



589



589凹面



590



590凹面

写真 44



591



591凹面



617



617凹面



619



619凹面



629



629凹面



630



630凹面



631



631凹面



638



639



641



642



643



644



645



649



658



659



659内



669



678



686



687内



694



695



699

写真 46



700



710



714



715



718



719



736



737



750



755



756



769



774



777



786



787



788



791



803



809



810



816



817



823



830



837



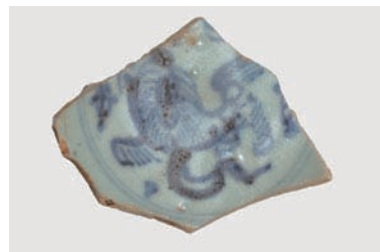
844



869



892



893内



896



897



898



906



908内



910内

写真 48



911内



912底



913



914



921



924



934



935



937



942



950



951



957



962



991



992



993



1008





1021



1022



1024



1093



1094



1098



1101



1102



1104



1124



1124



1155



1156



1156 凹面



1157



1157 凹面

写真 50



1178



1183



1186



1192



1193



1194



1197



1201



1201内



1210



1211



1212



1213



1214



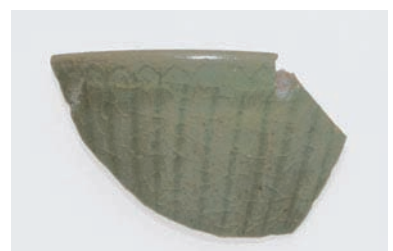
1214底



1219



1226



1231



1237



1240



1242



1262



1263



1264



1265



1268



1269



1271



1272



1283



1304



1313



1315



1360



1363

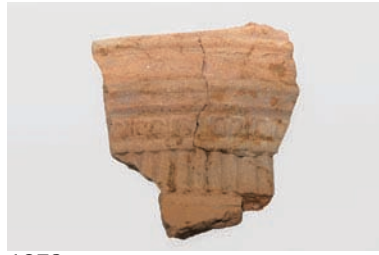


1367

写真 52



1368



1372



1377



1378



1380



1382



1389



1410



1413



1414



1415



1416



1417



1418



1420



1419



1419裏



1427



1429



1429凹面



1431



1431凹面



1450



1455



1457



1458



1465



1467



1468



1470



1471



1477

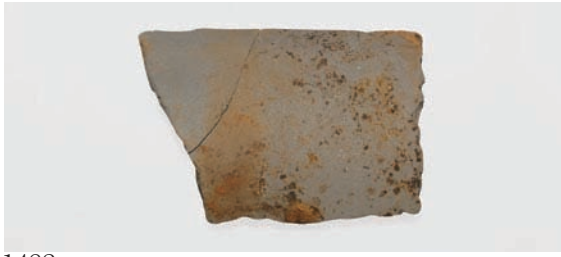


1478

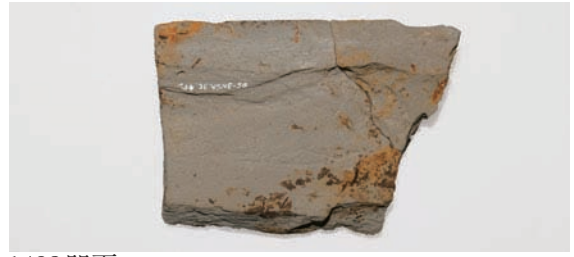


1480

写真 54



1482



1482凹面



1486底



1490



1501



1506



1507



1508



1511



1512



1513



1516



1517



1519



1521



1525



1575



1608



1611



1613



1617



1618



1620



1628



1629



1647



1654



1654凹面



1655内



1656内



1659



1660



1664



1665

写真 56



1667



1668



1670



1670底



1671



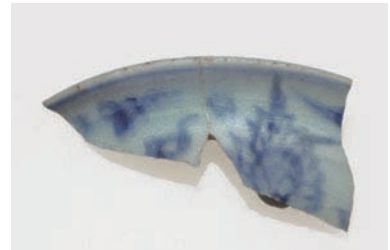
1671底



1672



1673



1674



1680



1685内



1696



1710



1711



1712



1715



1718



1719





1721



1725



1730



1745



1747



1748



1749



1754



1755



1757



1758



1763



1764



1766



1767



1769



1770



1799

写真 58



1800



1801



1802



1803



1804



1805



1806



1808



1808側



1809



1810



1810裏



1811



1818



1823内



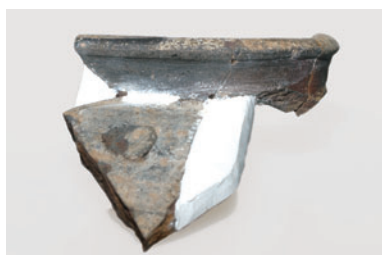
1824



1827



1861



1867



1869



1870



1893



1894



1896



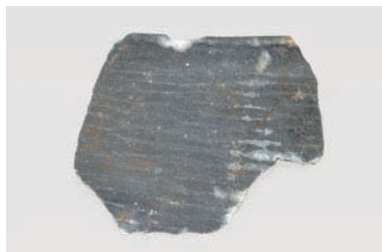
1897



1898



1900



1908



1909



1916



1958



1959



1960



1969



1972



1975

写真 60



1976



1980



1982



1989



1996



1997



2018



2024



2038



2042



2043



2044



2046



2047



2048



2055



2056



2063



2067



2070



2071



2078



2079



2084



2087



2088



2091



2101



2102



2106



2162



2164



2165



2166



2168



2169



2172



2177



2178



2179



2180



2183



2184



2186



2189



2209



2212



2216



2217



2218



2223



2227



2231



2233 内



2239



W1



W1



W2



W2



W4



W4



W5



W5

写真 64



W15



W15



W16



W16



W17



W17



W29



W29



W28



W28



W28



W28



W28



W28





W32



W32内



W34



W35



W37



W38



W40裏



W41



W42



W43



W45



W54



W55



W77



W78



W79



W80



W80裏



発掘作業参加者



整理作業参加者

# 坂 本 遺 跡

The Sakamoto Medieval Site

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第103集

編 集 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

発 行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

電話 088-864-0671

発行日 2008年3月31日

印 刷 弘文印刷株式会社

Printed in Japan

Copyright © 2008 Kochi Archaeological Research Center

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>